Japanese

Start

22

太政官編纂

東京帝國大學藏版

綱文索引

復古記

第十五冊

内外書籍株式會社發行

凡例

一本篇ハ復古記綱文ト、復古記總索引トヨリ成リ、綱文ハ、復古記、復古外記中、大形活字ニ印刷シアル全綱文ヲ輯收シタルモノナリ。

一總索引ハ、本書綱文中ノ重要事項ヲ檢出センガ爲ニ編纂セリ。從ツテ各條下ノ引用書ニマデ及バザレバ、本書ノ內容全般ニ涉リテノ索引ニアラズ。同一事項ニシテ、往々首尾連絡ヲ闕クモノアルハ、蓋シ綱文ノ記載ニ洩レタルガ爲ナリ。

一本書綱文ニハ各藩ノ事ヲ記スニ、或ハ藩名ヲ用キ、或ハ藩主ノ名ヲ用キタル所アリ。各總督府、各國公使ノ如キモ、或ハ督府、公使ノ稱ニ據リ、或ハ總督、公使タルノ人名ニ據ルナド、必ズシモ一定セズ。索引亦コレニ從ヒタレバ、檢索ノ場合ニハ、其ノ兩者ニ就キテ見ラルベシ。

一各項目ノ排列ハ、五十音順ニ據リ、發音ニ從フ。

一各項目ノ下ニ記載セル細目ハ、專ラ卷數及ビ頁數ノ順序ニ據リタレドモ、同一名辭ハコレヲ類聚シ、同一事項ハ時ノ前後ニ從ヘリ。

一索引ノ編纂ハ、文學士金原利作氏ヲ煩シタリ。

昭和六年拾月

復古記綱文

目次

復古外記綱文

伏水口戦記

東海道戦記

房總戰記

東叡山戰記

東山道戰記

北陸道戰記

奥羽戰記

白河口戰記

平潟口戰記

越後口戰記

蝦夷戰記

以上

復古記綱文

復古記綱文

巻一　慶應三丁卯十月十四日ニ起リ二十日ニ至ル

○十月

十四日、征夷大將軍正二位内大臣兼右近衞大將徳川慶喜、上表シテ、政權ヲ奉還セント請フ。

○幕府、大宮御所造營費ヲ全國ニ課シ、其上納ノ節日期限ヲ定ム。

十五日、徳川慶喜ニ詔シテ、其政權奉還ノ請ヲ允シ、命シテ、國家ノ大事、及ヒ外國ノ事項ハ、衆議ヲ盡シ、諸侯ノ稟奏、及ヒ命令等ハ、議奏傳奏之ヲ掌リ、其他更革ハ、諸侯會同ヲ待テ之ヲ議定シ、支配地、及ヒ都下取締ハ、姑ク其舊ニ仍ラシム、乃チ十萬石以上ノ諸侯ヲ召集シ、又特ニ松平慶永、大藏大輔、春嶽ト號ス○越前藩主茂昭ノ父、鍋島齊正、前肥前守、閑叟ト號ス○肥前藩主茂實ノ父、時ニ松平氏ヲ稱ス、山内豐信、前土佐守、容堂ト號ス○土佐藩主豐範ノ父、時ニ松平氏ヲ稱ス、伊達宗城、伊豫守、○宇和島藩主宗徳ノ父、島津久光、大隅守、○薩摩藩主茂久ノ生父、ヲ召ス。

十六日、是ヨリ先、加藤明實能登守○水口藩主、食封二萬五千石、ニ命シテ、泉涌寺ヲ警衞セシム、是日、明實京ニ至ル。

十七日、幕府、十五日ノ朝命ニ就テ、其二事ヲ稟問ス。

十八日、徳川慶喜、書ヲ上リ、在京諸侯及ヒ藩士ヲ召シテ、外國事務ヲ商議セント請フ。

○本願寺光澤、大坂ノ支院ヲ以テ、三條實美等三條西季知、東久世通禧、壬生基修、四條隆謌、ノ旅寓ニ充ルヲ稟ス。

○是ヨリ先、徳川慶喜、十萬石以上ノ諸侯ヲシテ京師ニ至ラシム、細川護久、池田慶徳家記是日、又一萬石以上ノ者ヲ招集ス。

十九日、幕府、上疏シテ、諸藩兵都下更番及ヒ諸口警備、供御地管轄及ヒ度支、大宮御所造營課金、驛遞法、供御地及ヒ攝家宮門跡領地ノ訟獄、刑法所司代以下ノ職務、紙幣發行ノ八條、及ヒ三條實美以下五人ノ措置ヲ稟請ス。

○幕府、久松定昭伊豫守○伊豫松山藩主、食封十五萬石、時ニ松平氏ヲ稱ス、ノ請ヲ許シ、其加判列上座ヲ罷ム。

二十日、幕府稟議ノ京都警備等八條、及ヒ外國事務三條實美以下ノ處分ヲ列藩ニ下示シ、明日ヲ期シテ、各意見ヲ上ラシム。

○正親町三條實愛、前大納言、阿野公誠宰相中將、等、連署上疏シ、三條實

美、三條西季知ノ義絶ヲ釋カント請フ。

○松平慶憲、兵部大輔〇明石藩主、食封八萬石、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代ラシメント請フ、批シテ、其少間ヲ待テ、速ニ上京セシム。

○幕府、紙幣貳百兩、百兩、五拾兩、貳拾五兩ノ四種、ヲ關以東ニ發行シ、己巳歳三月ヲ以テ限ト爲スヲ令ス。遂ニ果サス。

○是ヨリ先、英吉利國軍艦水夫ヲ長崎ニ横殺スル者アリ、本年七月ニ在リ、英國公使、幕府ト往復判論ス、是日、幕府、書ヲ公使ニ致シ、平山敬忠圖書頭〇外國總奉行、ヲ遣シテ、其事ヲ處分セシムルヲ告ク。

卷二　慶應三丁卯十月二十一日ニ起リ二十五日ニ至ル

二十一日、十萬石以下ノ諸侯ヲ召集ス。石川成德家記

○德川慶喜、三條實美等ノ措置ヲ稟ス、前田利鬯、飛驒守〇大聖寺藩主、食封十萬石、時ニ松平氏ヲ稱ス、及ヒ島津茂久、修理大夫〇薩摩藩主、食封七十七萬八百石、時ニ松平氏ヲ稱ス、德川德成、元千代〇尾張藩主、食封六十九萬九千五百石、伊達慶邦、陸奥守〇仙臺藩主、食封六十二萬五千六百石餘、時ニ松平氏ヲ稱ス、德川茂承、中納言〇紀伊藩主、食封五十五萬五千石、細川慶順、越中守〇肥後藩主、食封五十四萬石、黑田齊溥、美濃守〇筑前藩主、食封五十二萬石、時ニ松平氏ヲ稱ス、淺野茂長、安藝守〇安藝藩主、食封四十二萬六千石、時ニ松平氏ヲ稱ス、鍋島茂實、肥前守〇肥前藩主、食封三十五萬七千石、德川慶篤、中納言〇水戸藩主食封三十五萬石、池田慶德、因幡守〇因幡藩主、食封三十二萬五千石、時ニ松平氏ヲ稱ス、藤堂高猷、和泉守〇津藩主、食封三十二萬三千九百五十石、池田茂政、備前守〇備前藩主、食封三十一萬五千二百石、時ニ松平氏ヲ稱ス、蜂須賀齊裕、阿波守〇阿波藩主、食封二十五萬七千九百石、時ニ松平氏ヲ稱ス、山內豐範、土佐守〇土佐藩主、食封二十四萬二千石、有馬慶頼、中務大輔〇久留米藩主、食封二十一萬石、南部利剛、美濃守〇盛岡藩主、食封二十萬石、松平直克、大和守〇前橋藩主、食封十七萬石、酒井忠篤、左衛門尉〇莊內藩主、食封十七萬石、酒井忠惇、雅樂頭〇姫路藩主、食封十五萬石、榊原政敬、式部大輔〇高田藩主、食封十五萬石、久松定昭、小笠原忠忱、豐千代丸〇小倉藩主、食封十五萬石、酒井忠氏、若狹守〇小濱藩主、食封十萬三千五百五十八石、前田利同、淡路守〇富山藩主、食封十萬石、時ニ松平氏ヲ稱ス、宗義達、對馬守〇對馬藩主、食封十萬石、松平忠誠、下總守〇忍藩主、食封十萬石、眞田幸民、信濃守〇松代藩主、食封十萬石、奥平昌服、大膳大夫〇中津藩主、食封十萬石、戸田氏共、采女正〇大垣藩主、食封十萬石、松平慶憲ノ家臣モ亦各答議ヲ上ル。

二十二日、幕府申稟スル所ノ三事ニ批シ、八條ハ姑ク其舊ニ依リ、三條實美等ハ、大坂ニ止メ、外國ノ事ハ、其情ニ通スル數藩ト謀リ、諭シテ之ヲ紓フセシム、又之ヲ列藩ニ布告ス。

○久我通久、中納言、六條有容中納言、等、書ヲ上リ、東久世通禧ノ義絶ヲ釋カント請フ。

○德川慶勝、大納言〇尾張藩主德成ノ父、幕府親藩ノ首ニ居リ、匡輔スルコト能ハサルノ罪ヲ謝シ、其官爵ヲ貶黜セント請フ。

○市橋長義、下總守〇西大路藩主、食封一萬八千石、京ニ至ル。市橋長義參罷記

二十三日、上京ノ諸侯ニ令シ、務テ從者ヲ減省セシム。

○幕府、再ヒ外國常事ノ措置、及ヒ課金、驛法布告ノ事ヲ稟問ス。

○持明院基政、六角能通等、連署シテ、壬生基修ノ義絶ヲ釋カント請フ。

○幕府、書ヲ佛蘭西國公使ニ與ヘ、浦上村耶蘇教徒處分ノ事ヲ告ク。

二十四日、德川慶喜、上表シテ、征夷大將軍ヲ辭ス。

○甘露寺勝長（[illegible]中[illegible]）ノ義子萬長（[illegible]）ヲ堂上ニ班シ、松崎氏ヲ稱セシム。

○北條氏恭（相模守、狹山藩主、食封一萬石）ヲシテ市橋長義ト共ニ、四塚關門（京師南郊ニ有リ、）ヲ守ラシム。

二十五日、諸藩ニ申命シ、十一月ヲ期シテ京ニ至ラシム。

○初メ朝鮮國、佛蘭西、米利堅ト釁隙ヲ開ク、（去年八九月ノ間ニアリ、）幕府、佛、米公使ニ說キ、將ニ使節ヲ朝鮮ニ派遣シテ、講和ヲ謀ラシメントス、是日、朝旨ヲ奉シテ、其事ヲ行ヒ、且宗義達ニ命シテ、使事ヲ幹セシメンコトヲ請フ、義達モ亦朝鮮國往復書ヲ上リ、其事由ヲ上陳ス。

○井伊直憲、（掃部頭、彥根藩主、食封二十五萬石、）酒井忠篤、柳澤保申、（甲斐守、郡山藩主、食封十五萬千二百八十六石、[illegible]）榊原政敬、酒井忠惇、小笠原忠忱、松平賴聰、（讃岐守、高松藩主、食封十二萬石、）酒井忠氏、奥平昌服、松平忠誠、眞田幸民、戸田氏共ノ家臣、連署シテ、二十二日批下ノ疑條ヲ稟シ、且外國ノ事、姑ク幕府ニ委シテ、諸藩士ト協議セシメ、諸侯會同ヲ待テ、之ヲ決センコトヲ請フ。

○山科言知、（前大納言、）八條隆祐（前中納言、）等、連署シテ、四條隆謌ノ義絶ヲ釋カント請フ。

○加藤明實、藩ニ歸ル。（水口藩主、）

○幕府、令シテ攝津、播磨間ノ官道ヲ改ム。兵庫開港場ト爲ルヲ以テナリ。

○黑田齊溥、封內漂到ノ朝鮮人ヲ長崎ニ送致シ、之ヲ幕府ニ報ス。

○是ヨリ先、薩藝長三藩謀ヲ通シ、薩兵周防ニ來會シ、（[illegible]）將ニ藝兵ト俱ニ東上シ、計畫スル所アラントス、幕府大政奉還ノ表入リ、諸侯ノ召命皆ニ出ルニ會ヒ、三藩乃チ其圖ヲ改メ、薩兵ヲシテ先ツ京ニ入ラシメ、又島津茂久若クハ久光ヲ其藩ヨリ迎フ。

卷三 慶應三年丁卯十月二十六日ニ起リ十一月六日ニ至ル

二十六日、本多忠民（美濃守、岡崎藩主、食封六萬石、）ノ家臣、伏見藩邸等事項ノ[illegible]、及ヒ三條實美等待接ノ事ヲ幕府ニ請問ス、幕府、令シテ、[illegible]姑ク其舊ニ依ラシム。

○幕府、邦內寄寓ノ支那人、及ヒ條約未濟國人取締法ヲ設ケ、之ヲ各國公使領事ニ告ク。

二十七日、德川慶喜ノ辭表ニ批シ、姑ク其舊ニ仍リ、諸侯朝會

公議決裁ヲ待シム。

○徳川慶勝、京ニ至ル、○本人履歴書 森忠典、美作守、赤穗藩主、食封二萬石、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ入京セシメント請フ。○森忠儀家記

○幕府老中ノ江戸ニ在ル者、十萬石以下ノ諸侯ニ令シテ、其上京ノ期ヲ緩フセシム。

○幕府、江戸開市場外國人居留規則、及ヒ運送船等規則ヲ定メ、之ヲ各國公使ニ諜リ、且外人居留地域外ニ夜行スルトキハ、必ス我護衛者ヲ附スルヲ告ク。

二十八日、朽木爲綱、近江守、福知山藩主、食封三萬二千石、京ニ至ル、○朽木綱鑑家記 青山幸宜、宮之助、郡上藩主、食封四萬八千石、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代ラシメント請フ。○青山幸宜家記

二十九日、宣命使日野資宗、ヲ後月輪東陵孝明天皇、ニ遣シ、造陵功竣リ、及ヒ大政古ニ復スルヲ告ク。

○市橋長義、暫ク歸邑セント請フ、之ヲ聽ス。○十一月三日ヲ以テ途ニ上ル。

○幕府、令シテ、驛遞法、及ヒ大宮御所造營課金、姑ク其舊ニ仍ラシム。

○幕府、書ヲ各國公使ニ致シ、大政奉還ノ意ヲ陳述ス。

○幕府、書ヲ各國公使ニ致シ、新潟開港ノ期十二月七日、ヲ改テ、明年三月九日ト爲サンコトヲ報シ、且其條約書案ヲ示ス。

晦日、淺野茂勳、紀伊守○茂長ノ嗣子、毛利廣封、敬親ノ嗣子、ト、周防新湊ニ會議シ、島津茂久ノ至ルヲ待テ、倶ニ入京セントス。○藝藩入京日誌

○十一月

朔日、分部光貞、若狹守、大溝藩主、食封二萬石、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代ラシメント請フ。○分部光謙家記

二日、大給乘謨、縫殿頭、田野口藩主、後龍岡ト改稱ス、食封一萬六千石、時ニ松平氏ヲ稱シ、幕府老中、外國總裁タリ、稻葉正巳、兵部大輔、館山藩主、時ニ幕府老中格、海軍總裁タリ、京ニ至ル。○二條齊敬記

○幕府、書ヲ各國公使ニ致シ、江戸開市期限十二月七日、ヲ改テ、明年三月九日ト爲スコトヲ告ケ、且國內布告文案ヲ示ス。

三日、松平慶倫、三河守、津山藩主、食封十萬石、疾ニ罹リ、且長防ノ虞アルヲ以テ、上京ノ期ヲ緩セント請フ、是日、批シテ本月ヲ限リ會同セシム。

○徳川茂承、蜂須賀齊裕、小笠原忠忱、九鬼隆備、大隅守、綾部藩主、食封一萬九千五百石、疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ緩セント請ヒ、小笠原貞孚、幸松丸○安志藩主、食封一萬石、老臣ヲシテ代ラシメント請フ、○二條齊敬記 又戸田氏共、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ兵ヲ率テ京ニ至ラシメ、○二條齊敬記 松平慶憲ノ警衛兵モ亦京ニ至ル。○松平直致家記

○幕府、諸藩ニ令シテ、江戸郭內諸門ヲ警守ス。

四日、幕府ニ命シテ、朝鮮、佛朗西ノ和議ヲ調停セシメ、宗義達

チシテ其事ヲ幹セシム。

〇柳澤保申、京ニ至ル。〇柳澤保申家記

〇幕府、書ヲ各國公使ニ致シ、貨幣改鑄ノ事、器械備具セサルヲ以テ、期約ニ循フコト能ハサルヲ告ク。

五日、本多忠貫、伊勢守、神戸藩主、食封一萬五千石、山田奉行ノ職ニ在ルヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ入京セシメント請フ、之ヲ聽ス。

〇前田慶寧、加賀守〇加賀藩主、食封百二萬二千七百石、時ニ松平ヲ氏トス、阿部正方、主計頭〇福山藩主、食封十一萬石、疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ緩セント請フ。〇二條家記

〇幕府、再ヒ諸藩ニ令シテ、江戸外郭、及ヒ各處ヲ警守セシム。

〇徳川茂承ノ家臣、江戸ニ在ル者、[illegible]之介、竹内[illegible]為ルト云、幕府ノ親戚譜第、及ヒ諸藩士ヲ其邸ニ會シ、徳川氏ト君臣ノ義ヲ全フシ、幕府ヲ扶持センコトヲ勸喩シ、且其意見ヲ問フ。

六日、兵庫開港ノ期近キニ在ルヲ以テ、幕府、本地居留外國人ノ游步區域ヲ定ムルヲ布告ス。

巻四 慶應三年丁卯十一月八日ニ起リ十五日ニ至ル

八日、是ヨリ先、九條尚忠、入道前關白、久我建通、入道前內大臣、千種有文、入道前少將、岩倉具視、入道前中將〇具慶ノ子、富小路敬直、入道前中務大輔、罪ヲ獲テ洛外ニ居ル、是日、命シテ、各其家ニ歸ラシム。

〇幕府、英國公使將ニ横濱ヨリ兵庫ニ來ラントスルヲ以テ、其軍艦一隻先至ルヲ稟ス。

〇松平慶永、井伊直憲、京ニ至ル。〇二條家記

九日、前田利鬯ノ朔平門前警衛ヲ罷メ、松平慶憲ヲ以テ之ニ代フ。

〇幕府、前月二十二日外國事宜批紙中、所謂二三藩ハ、朝旨別ニ指定スル所アリヤト稟請ス、是日、批シテ、別ニ指定スル所ナキヲ以テ、衆議之ヲ決行セシム。

〇幕府、譜第諸侯ノ職務ニ就キ、及ヒ警衛ニ服シ、若クハ疾病幼弱ノ者ハ、皆老臣ヲシテ代リテ朝召ニ應セシメント請フ、命シテ、警衛ヲ除クノ外、各其事由ヲ上陳シテ、命ヲ請ハシム。

〇松平武聰、右近將監〇濱田藩主、食封六萬千石、[illegible]濱田藩ト稱ス、疾ヲ以テ、召命ヲ辭ス。〇二條家記

〇幕府ノ親戚譜第諸藩、陰ニ政權ヲ復セシコトヲ謀ルモノアリ、福岡孝弟、藤次〇土佐藩士、辻維嶽、將曹〇安藝藩士、等、松平慶永ニ説キ、其計謀スル所ト爲ルコト勿ラシム。

十日、是ヨリ先、幕府、毛利敬親、長門藩主、食封三十六萬九千石餘、ノ支封主、及ヒ老臣ヲ大阪ニ召スノ令、七月ニ在リ、ヲ停メ、更ニ諸侯ノ公議ヲ經、朝命ヲ以テ、之ヲ召サンコトヲ請フ、之ヲ可ス、是日、幕府、淺野茂長ヲ

シテ敬親ニ傳諭シ、後命ヲ俟シム。

○脇坂安斐、（淡路守○龍野藩主、食封五萬千八十九石、）櫻井忠興、（遠江守○尼崎藩主、食封四萬石、時ニ松平氏ヲ稱ス、）京ニ抵ル、（二條攝政記）堀直虎、（内藏頭○須坂藩主、食封一萬五十三石、）疾ヲ以テ、召命ヲ辭ス。（堀直明家記）

十一日、前田利鬯、歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス、（十四日途ニ上ル、）大給乘謨、稻葉正已、江戸ニ返ル。（二條攝政記）

十二日、國事掛近衞忠房、（左大臣、）一條實良、（右大臣、）近衞忠熈、（前關白左大臣、）鷹司輔熈、（前關白右大臣、）大炊御門家信、（内大臣、）九條道孝、（權大納言、）連署シテ、大政復古、綱紀確立ノ策問二道、太政官八省以下再興ノ議案ヲ上リ、廷議豫メ一定スル所アランヿヲ請フ、批シテ、策問二道ヲ採納ス。

○朽木爲綱、藩ニ歸ル。（朽木綱鑑家記）

十三日、有馬道純、（遠江守○丸岡藩主、食封五萬石、）疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代ラシメント請ヒ、津輕承敍、（式部少輔○黒石藩主、食封一萬石、）疾アリ、召ニ應スルコト能ハサルヲ以テ、朝旨ヲ候ス。（二條攝政記）

十四日、本多康穰、（主膳正○膳所藩主、食封六萬石、）京ニ至ル。（本多康穰家記）

○是ヨリ先、民間、符籙天ヨリ降ルト稱シ、之ヲ獲ルモノ、以テ祥瑞ト爲シ、奔走舞踏、殆ト狂スルカ如シ、參尾ノ地方ニ始リ、近畿殊ニ甚シク、覃テ山陽、南海ノ諸道ニ及フ、（時勢見聞錄）是日、京都町奉行、令シテ、其狂躁雜遝ヲ禁ス。

十五日、大政歸一綱紀確立ノ策問ヲ、德川慶喜及ヒ德川慶勝、松平慶永ニ下シ、尋テ之ヲ在京諸侯ニ下問ス。

○酒井忠篤、酒井忠惇、松平忠誠、大河内信古、（刑部大輔○參河吉田藩主、後豐橋ト改ム、食封七萬石、時ニ松平氏ヲ稱ス、）井上正直、（河内守○濱松藩主、後鶴舞ニ移封ス、食封六萬石、）本多忠民、（六人並ニ幕府溜ノ間詰格、）連署シテ、書ヲ幕府ニ呈シ、官位ヲ朝廷ニ還シ、以テ德川氏臣屬ノ義ヲ明ニセント請ヒ、安部信發、（攝津守○岡部藩主、食封二萬二百五十石、後別邑半原ニ移リ、半原藩ト稱ス、）酒井忠強、（下野守○伊勢崎藩主、食封二萬石、）板倉勝弘、（攝津守○庭瀬藩主、食封二萬石、）渡邊章綱、（丹後守○伯太藩主、食封一萬三千五百石、）加納久宜、（嘉元次郎○一宮藩主、食封一萬三千石、）酒井忠美、（鉎次郎○勝山藩主、食封一萬二千石、後加知山ト改ム、）戸田忠行、（長門守○足利藩主、食封一萬千石、）牧野忠泰、（伊勢守○三根山藩主、食封一萬千石、後峯岡ト改ム、）米津政敏、（伊勢守○長瀞藩主、食封一萬千石、後別邑大網ニ移リ、再ヒ龍崎ニ移リ、藩名ヲ改ム、）本多忠鵬、（修理○西端藩主、食封一萬五百石、）山口弘達、（勝次郎○牛久藩主、食封一萬十七石、）田沼意尊、（玄蕃頭○相良藩主、食封一萬石、後小久保ニ移封ス、）戸田氏良、（淡路守○大垣新田藩主、食封一萬石、後野村藩ト稱ス、）堀之美、（右京亮○椎谷藩主、食封一萬石、）柳生俊益、（但馬守○柳生藩主、食封一萬石、）稻葉正善、（備後守○館山藩主、食封一萬石、）有馬氏弘、（兵庫頭○吹上藩主、食封一萬石、）森川俊方、（内膳正○生實藩主、食封一萬石、）蒔田廣孝、（相模守○淺尾藩主、食封一萬石、）瀧脇信敏、（丹後守○小島藩主、食封一萬石、後櫻井ニ移封ス、時ニ松平氏ヲ稱ス、）内田正學、（主殿頭○小見川藩主、食封一萬石、）永井直哉、（信濃守○櫛羅藩主、食封一萬石、）井上正順、（宮内○高岡藩主、食封一萬石、）井上正己、（辰若丸○下妻藩主、食封一萬石○以上並ニ菊ノ間椽側詰、）モ亦連疏シテ、朝廷ノ召命ヲ辭シ、君臣ノ義ヲ失セスシテ、僭越ノ罪ヲ犯スコト勿ラント請フ。

○賊アリ、阪本直柔、（龍馬、）中岡道正、（愼太郎○並ニ土佐藩士、）ヲ刺ス。

卷五　慶應三年丁卯十一月十六日ニ起リ二十二日ニ至ル

十六日、徳川慶勝引咎ノ請ヲ慰諭シ、奉仕故ノ如クナラシム。

○大久保忠禮、加賀守○小田原藩主、食封十一萬三千百二十九石、堀田正倫、相模守○佐倉藩主、食封十一萬石、酒井忠氏、眞田幸民、戸澤正實、中務大輔○新莊藩主、食封六萬八千二百石、相馬季胤、因幡守○中村藩主、食封六萬石、松平乘秩、和泉守○西尾藩主、食封六萬石、石川成之、宗十郎○亀山藩主、食封六萬石、岡部長寛、筑前守○岸和田藩主、食封五萬三千石、松平忠禮、伊賀守○上田藩主、食封五萬三千石、内藤信民、豐前守○村上藩主、食封五萬石、有馬道純、水野忠敬、出羽守○沼津藩主、食封五萬石、後菊間ニ移封ス、西尾忠篤、隱岐守○横須賀藩主、食封三萬五千石、後花房ニ移封ス、土岐頼知、隼人正○沼田藩主、食封三萬五千石、松平親良、中務大輔○杵築藩主、食封三萬二千石、諏訪忠誠、因幡守○高島藩主、食封三萬石、鳥居忠寶、丹波守○壬生藩主、食封三萬石、松平直巳、佐渡守○廣瀬藩主、食封三萬石、稻垣長行、平右衛門○鳥羽藩主、食封三萬石、松平信庸、伊豆守○上山藩主、食封三萬石、植村家保、駿河守○高取藩主、食封二萬五千石、酒井忠良、紀伊守○出羽松山藩主、食封二萬五千石、後松嶺ト改ム、松平忠恕、大藏少輔○小幡藩主、食封二萬石、保科正益、彈正忠○飯野藩主、食封二萬石、内藤文成、金一郎○擧母藩主、食封二萬石、本多忠紀、能登守○泉藩主、食封二萬石、本多助成、豐後守○飯山藩主、食封二萬石、水野勝知、日向守○結城藩主、食封一萬八千石、堀田正頌、攝津守○佐野藩主、食封一萬六千石、内藤政養、長壽麿○湯長谷藩主、食封一萬五千石、堀田正養、豐前守○宮川藩主、食封一萬三千石、三宅康保、備後守○田原藩主、食封一萬二千石、柳澤光昭、伊勢守○黒川藩主、食封一萬石、丹羽氏中、長門守○三草藩主、食封一萬石、柳澤德忠、彰太郎○三日市藩主、食封一萬石、松平直哉、主計頭○母里藩主、食封一萬石、松平直靜、日向守○清崎藩主、食封一萬石、○以上幕府帝鑑間席ト稱スルモノ、連署シテ、書ヲ幕府ニ呈シ、朝召ヲ辭センコトヲ請ヒ、若シ採納ヲ得サレハ、直ニ奏狀ヲ議傳兩局ニ上ラントス。○遂ニ果サス。

十七日、一柳頼紹、因幡守○小松藩主、食封一萬石、疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ緩セント請フ。○二條攝政記

○幕府ノ親藩、及ヒ僚屬中、往々政權挽回ヲ議スル者アリ、尾越二藩、其事ヲ敗ランコトヲ恐レテ、陰ニ之ヲ匡正スルヲ謀ル。

○土屋寅直、采女正○土浦藩主、食封九萬五千石、土井利與、大炊頭○古河藩主、食封八萬石、戸田忠友、土佐守○宇都宮藩主、食封七萬七千八百五十石、本莊宗武、[illegible]正忠○宮津藩主、食封七萬石、時ニ松平氏ヲ稱ス、青山忠敏、左京大夫○篠山藩主、食封六萬石、秋元禮朝、但馬守○館林藩主、食封六萬石、太田資美、鋼次郎○掛川藩主、食封五萬三十七石、後芝山ニ移封ス、久世廣文、出雲守○關宿藩主、食封四萬八千石、間部詮道、下總守○鯖江藩主、食封四萬石、永井直諒、日向守○高槻藩主、食封三萬六千石、内藤頼直、若狹守○高遠藩主、食封三萬三千石、板倉勝殷、主計頭○安中藩主、食封三萬石、黒田直養、筑後守○久留里藩主、食封三萬石、板倉勝己、甲斐守○福島藩主、食封三萬石、後重原ニ移封ス、安藤信勇、理三郎○磐城平藩主、食封三萬石、大岡忠貫、主膳正○岩槻藩主、食封二萬三千石、土井利教、淡路守○刈谷藩主、食封二萬三千石、增山正修、對馬守○長島藩主、食封二萬石、阿部正恒、駿河守○佐貫藩主、食封一萬六千石、水野忠順、肥前守○鶴牧藩主、食封一萬五千石、牧野康濟、遠江守○小諸藩主、食封一萬五千石、内藤正誠、志摩守○岩村田藩主、食封一萬五千石、遠藤胤城、但馬守○三上藩主、食封一萬二千石、後吉見ト改ム、酒井忠經、左京亮○敦賀藩主、食封一萬石、後鞠山ト改ム○以上、幕府雁間詰席ト稱スルモノ、連署シテ、朝召ヲ辭センコトヲ幕府ニ請フ。

○是ヨリ先、幕府、航海術教導士官ヲ英國ヨリ雇フ、英國公使、書ヲ致シテ、其接待資給ノ事ヲ申ス、是日、復書シテ、之ヲ謝ス。

十八日、前田利谿、（丹後守○七日市藩主、食封一萬石、）本莊道美、（宮内少輔○高富藩主、食封一萬石、）疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ緩セント請フ。（前田利昭本莊道美家記）

○島津茂久、三田尻港（周防、）ニ至リ、毛利廣封ヲ見テ、前途ノ策ヲ議シ、直ニ上國ニ赴ク、廣封、淺野茂長ニ報知シ、共ニ兵ヲ出シテ、東上セシメンコトヲ約ス。

○是ヨリ先、英國公使館附屬士官サトウ、掛川驛（遠江、）ニ泊ス、人アリ其室ニ闌入シテ、將ニ之ヲ刺サントス、果サス、（本年四月二十五日ニ在リ、）幕府、逮捕擬刑シ、是日、之ヲ英國公使ニ報ス。

十九日、德川慶喜、朝綱ヲ一定スルハ、事體重大ナルヲ以テ、宜シク諸侯會同ヲ待テ、之ヲ公議スヘキヲ稟ス。

○德川慶勝、上書シテ、楠正成ニ神號ヲ贈リ、祀典ニ列シ、近古國事ニ死スル者ヲ從祀センコトヲ建議ス、乃チ命シテ、死事者ノ姓名事蹟、及ヒ營祠ノ地ヲ錄上セシム。

○織田信親、（出雲守○柏原藩主、食封二萬石、）江戸ヨリ京ニ至リ、塚原（山城乙訓郡丹波口ト稱ス、）關門ヲ守ルヲ稟ス、又山內豐福、（攝津守○高知新田、食封一萬三千石、）疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ緩セント請ヒ、（二條攝政記）南部信順、（遠江守○八戸藩主、食封二萬石、）疾アリ、赴召期シ難キヲ稟ス。（南部榮信家記）

○幕府、紙幣ヲ畿內、及ヒ旁近地方ニ發行シ、庚午歲十一月ヲ以テ限ト爲スヲ令シ、（遂ニ果サス、）又新潟ヲ開港場ト爲シ、其開港、及ヒ江戸開市ノ期（十二月七日、）ヲ改メテ、明年三月九日ト爲スヲ布告ス。

二十日、北小路俊昌（中務大丞○藏人極﨟、）ヲ堂上ニ班ス。

○戸田氏共、再ヒ疾ヲ以テ、入京スルコト能ハサルヲ謝シ、（戸田氏共家記）松平定安、（出羽守○松江藩主、食封十八萬六千石、）上京ノ期ヲ緩セント請フ。（松平定安家記）

○長崎奉行河津祐邦、薩摩藩ノ佛國人モンブラン等ヲ雇フテ、其軍事ニ參シ、又英國汽船ノ長崎港ニ在ル者ヲ購買シ、告ケスシテ其藩ニ歸ルヲ幕府ニ報ス、是日、幕府、書ヲ佛國公使ニ與ヘテ、其事由ヲ問フ。

二十一日、豐岡隨資（大藏卿、）上書シテ、舊習ヲ除キ、紀綱ヲ張リ、人才ヲ擧ケ、公議ヲ採ランコトヲ建議シ、其目二十九條ヲ陳ス。

○松平賴英、（左京大夫○西條藩主、食封三萬石、）松平義勇、（範次郎○高須藩主、食封三萬石、）疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代ラシメント請フ。（二條攝政記）

二十二日、小出英尙、（伊勢守○園部藩主、食封二萬六千七百十一石餘、）市橋長義京ニ至ル、（小出英尙、市橋長義家記）池田慶德、佐竹義堯、（右京大夫○秋田藩主、食封二十萬五千八百石、）井上正直、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。（二條攝政記）

○幕府、橫濱外國人居留地取締規則ヲ設ケ、且英國人ヲ雇ヒ、取締役トナスヲ各國公使ニ告ク。

○米國公使、書ヲ幕府ニ致シ、本國大統領、我使節ヲ朝鮮ニ遣リ、講和ヲ謀ラントスルヲ謝スルヲ陳ス。

卷六　慶應三年丁卯十一月二十三日ニ起リ十二月四日ニ至ル

二十三日、島津茂久、京ニ至ル、久光疾アルヲ以テ之ニ代ル○島津忠義家記 黒田齊溥、久松定法、内膳正○今治藩主、食封三萬五千石、時ニ松平氏ヲ稱ス、疾ヲ以テ、赴召遲緩ヲ謝ス。○黒田長知、久松定弘家記

○黒田齊溥、其管地肥前國内ノ耶蘇宗徒、長崎奉行ノ捕縛スル所ト爲ルヲ幕府ニ稟ス。

二十四日、明年正月、天皇首服ノ日ヲ卜定ス。

○左大臣近衛忠房、右大臣一條實良、上表シテ職ヲ辭ス。

二十五日、松平定安、再ヒ上京遲緩ヲ謝シ、眞田幸民、前田利同、池田徳定、相模守○因幡藩支封主、後若櫻藩ト爲ル、食封一萬五千石、時ニ松平氏ヲ稱ス、織田信成、筑前守○柳本藩主、食封一萬石、疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ延ヘ、二條攝政記、前田利同、池田徳定家記 岡部長寛、老臣ヲシテ代ラシメント請フ。○岡部長寛家記

○土佐藩士、尾、越、肥後等ノ藩士ト議シ、速ニ在京諸侯ノ會議ヲ興シ、以テ幕府政權奉還ノ實ヲ擧ケンコトヲ謀ル。

○幕府、東北諸藩ニ令シ、其士民ノ唐太島ヲ開拓シ、及ヒ其地ニ移住スルヲ許ス。

二十六日、柳澤保申歸藩ノ請ヲ允ス。○二十八日途ニ上ル。

○柳澤徳忠、幼ニシテ且疾アルヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。○柳澤徳忠家記

○榊原政敬、書ヲ幕府ニ呈シテ、朝廷ノ召命ヲ辭シ、若シ許允ヲ蒙ラスンハ、爵位ヲ奉還シ、以テ陪隷ノ列ニ就カント請フ、幕府、之ヲ卻ク。

二十七日、島津茂久既ニ京ニ入ル、淺野茂勳二十四日ヲ以テ國ヲ發シ、毛利敬親ノ支封主老臣等、二十六日ヲ以テ藩兵ト御手洗港ニ會ス、指華入京日載是日、茂長、敬親ノ報狀ヲ上リ、且召命停格ノ令、途上齟齬スルノ狀ヲ稟ス。

○遠山友祿、美濃守○苗木藩主、食封一萬二十一石、疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ緩フセンコトヲ請フ。○遠山友祿家記

二十八日、淺野茂勳、京ニ至ル、○淺野長勳家記 池田茂政、備前守○備前藩主、食封三十一萬五千二百石、時ニ松平氏ヲ稱ス、南部利剛、上杉齊憲、彈正大弼○米澤藩主、食封十八萬七千二百四十六石、伊達宗城、水野忠弘、眞次郎○山形藩主、食封五萬石、後朝日山ニ移ル、土井利恒、能登守○大野藩主、食封四萬石、九鬼隆義、長門守○三田藩主、食封三萬六千石、牧野誠成、豐前守○丹後田邊藩主、食封三萬五千石、後舞鶴ト改ム、木下利恭、備中守○足守藩主、食封二萬五千石、木下俊愿、[illegible]次郎○日出藩主、食封二萬五千石、片桐貞篤、主膳正○小泉藩主、食封一萬千百石、九鬼隆備、南部信民、美作守○七戸藩主、食封一萬千石、伊東長㒒、播磨守○岡田藩主、食封一萬三百四十三石、疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ延ヘンコトヲ請ヒ、松平武聰、南部信順、疾アリ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。○二條攝政記

○徳川慶喜、既ニ大政ヲ還ス、而其實未タ擧ラス、松平慶永、薩藩ノ大ニ幕府ヲ疑フヲ憂ヒ、慶喜ニ說キ、西郷隆盛、吉之助○薩摩藩士、等

ヲ招テ、其眞意ヲ諭サンコトヲ勸ム。

○幕府、令シテ凡ソ脇往還、明年正月以後、驛夫錢ハ六倍五分、渡船賃ハ二倍ヲ增加セシム、又江戸鉄砲洲ヲ以テ、外國人居留地ト爲シ、其居民ノ家屋ヲ外人ニ貸與スルヲ許ス。

○幕府、兵庫地方ノ民、外國貨幣ニ慣ハサルヲ以テ、姑ク我銀貨ト兌換通行セシム、因テ各國公使ニ移書シ、其改鑄耗減費二分ヲ收ム。

二十九日、北條氏恭、京ニ至リ、堀直虎、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム、榊原政敬、酒井忠氏、大河内信古、加藤泰秋、（遠江守○大洲藩主、食封六萬石、）京極朗徹、（佐渡守○丸龜藩主、食封五萬千五百十二石、）相良頼基、（遠江守○人吉藩主、食封二萬二千百石、）關長克、（伊勢守○新見藩主、食封一萬八千石、）織田長易、（攝津守○芝村藩主、食封一萬石、）一柳末德、（對馬守○小野藩主、食封一萬石、）疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ緩フセント請ヒ、九鬼隆備、再ヒ延期ヲ請ヒ、稻葉久通、（右京亮○臼杵藩主、食封五萬六十石、）松前德廣、（志摩守○松前藩主、食封三萬石、）本多忠鄰、（肥後守○山崎藩主、食封一萬石、）疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代ラシメント請フ。○二條攝政記、稻葉久通家記

晦日、左大臣近衞忠房、右大臣一條實良ノ請ヲ允シテ、其官ヲ罷ム、國事掛並ニ故ノ如シ、權大納言九條道孝ヲ以テ、左大臣兼左近衞大將左馬寮御監ト爲シ、内大臣大炊御門家信ヲ右大臣ト爲シ、隨身兵仗ヲ賜ヒ、權大納言廣幡忠禮ヲ内大臣兼右近衞大將右馬寮御監ト爲ス。

○幕府、鍋島茂實、松平定安ニ、明春京師警衞ヲ命ス。

○毛利敬親ノ老臣（毛利内匠、）等、兵八中隊ヲ引キ、船艦七隻ニ駕シ、艦頭薩藝等ノ徽章ヲ揭ケ、昨夜打出濱（攝津莵原郡、）ニ至リ、是日、遂ニ西ノ宮ニ次ス、（豫メ大洲藩打出ノ戍兵ト約ス、戍兵爲ニ導ヲ爲ス、）淺野茂勳、乃チ上書シテ、其情由ヲ陳疏ス。

○伊達慶邦、（陸奥守○仙臺藩主、食封六十二萬五千六百石、時ニ松平氏ヲ稱ス、）細川興貫、（玄蕃頭○谷田部藩主、食封一萬六千三百石、）池田政詮、（信濃守○備前新田、食封二萬五千石、後鴨方藩ト稱ス、）京極高厚、（飛驒守○豐岡藩主、食封一萬五千石、）土方雄永、（鋥千代○菰野藩主、食封一萬千石、）京極高典、（下總守○多度津藩主、食封一萬石、）疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ緩フセント請ヒ、松平慶倫、再ヒ延期ヲ請ヒ、松平頼英、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシメ、丹羽長國、（左京大夫○二本松藩主、食封十萬七百石、）堀直賀、（左京亮○村松藩主、食封三萬石、）六鄉政鑑、（兵庫頭○本莊藩主、食封二萬二十一石、）織田信學、（左近將監○天童藩主、食封二萬石、）大田原勝清、（鉎丸○大田原藩主、食封一萬千四百石、）小笠原貞孚、老臣ヲシテ代ラシメント請ヒ、青木重義、（源五郎○麻田藩主、食封一萬石、）病ヲ謝シ、佐竹義諶、（播磨守○岩崎藩主、食封二萬石、）疾ヲ以テ、會同スルコト能ハス、公事ハ宗家佐竹義堯ニ傳諭センコトヲ請ヒ、奧平昌服ノ家臣、昌服海路ニ從フヲ以テ、會同ノ期ニ後ルルヲ稟ス。○二條攝政記、小笠原貞孚、細川興貫家記

是月、幕府ニ命シ、嚴ニ紀伊藩士等ノ黨議ヲ禁遏セシム。

○井伊直憲、書ヲ傳奏ニ上リ、祖先德川氏ニ依テ家ヲ立ルヲ以テ、朝命及申牒等、仍幕府ヲ經由セント請フ、既ニシテ其書ヲ

請下ス。

○幕府、關東八國ニ令シ、酒醤等釀造、三年ノ均額ヲ錄上セシム。

○神奈川奉行、米國商社ノ請ヲ許シ、煤氣燈ヲ横濱市街ニ設ケントスルヲ幕府ニ稟ス。○遂ニ果サス。

○十二月

朔日、櫻井忠興歸邑ノ請ヲ允ス。○三日途ニ上ル。

○峰須賀齊裕、松平直克、松平忠誠、松平忠和、主殿頭、島原藩主、食封七萬石、松平忠禮、龜井茲監、隱岐守、津和野藩主、食封四萬三千石、遠山友祿、大岡忠敬、越前守、西大平藩主、食封一萬石、永井直哉、本莊道美、建部政世、三郎、林田藩主、食封一萬石、ハ、疾ヲ以テシ、上杉齊憲ハ、雪中道路通シ難キヲ以テ、上京ノ期ヲ緩セント請ヒ、德川茂承、立花鑑寛、飛驒守、柳河藩主、食封十一萬九千六百石、戸田氏共、淺野長厚、近江守、安藝支封主、食封一萬石、植村家保、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシメ、酒井忠美、山口弘達、新莊直敬、下野守、麻生藩主、食封一萬石、老臣ヲシテ代ラシメント請ヒ、溝口直正、誠之進、新發田藩主、食封十萬石、老臣ノ代赴遲緩ヲ謝シ、伊達宗孝、若狭守、伊豫吉田藩主、食封三萬石、大久保忠順、三九郎、烏山藩主、食封三萬石、病ヲ謝シ、有馬慶頼、松浦詮、肥前守、平戸藩主、食封六萬千七百石、大村純熈、丹後守、大村藩主、食封二萬七千九百七十石、島津忠寛、淡路守、佐土原藩主、食封二萬七千七十石、鍋島直彬、備中守、鹿島藩主、食封二萬石、在京ノ家臣、各道路遠隔、其主會同ノ期ニ後ルヽヲ以テ、寛假ヲ請フ。○二條攝政記、上杉茂憲家記

二日、毛利敬親老臣等ノ西宮ニ至ルヤ、會、桑二藩、攝政二條齊敬、前左大臣、國事掛朝彥親王、尹宮、ニ迫リ、西歸ノ命ヲ下サシメントス、國事掛正親町三條實愛、密ニ中山忠能、前權大納言、中御門經之、權大納言、岩倉具視、入道前中將、具慶之子、及ヒ薩、藝二藩ト謀リ、之ヲ爭フ、夜ニ至リ、遂ニ淺野茂勳ノ奏狀十一月二十九日ニ在リ、ニ批シ、大阪ニ詣テ、後命ヲ俟シム。

○毛利敬親ノ老臣等、西宮ニ在ルモノ、書ヲ薩、藝二藩ニ致シテ、其情ヲ陳ス、是日、淺野茂勳、之ヲ上ル。

○岩城隆邦、左京大夫、龜田藩主、食封二萬石、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム、○岩城隆邦家記 黑田齊溥、鍋島茂實ハ、道路遠隔ヲ以テシ、毛利高謙、伊勢守、佐伯藩主、食封二萬石、ハ病ヲ以テ、並ニ上京ノ期ヲ緩フセント請フ、○二條攝政記

○北條氏恭、市橋長義ニ代リ、四塚關門ヲ守ルヲ稟ス。

○櫻井忠興、長門藩士等ニ、其封内留次、及ヒ城下經過ヲ許ス、ノ可否ヲ幕府ニ稟ス、是日、幕府、其留次經過、妨ケナキヲ令ス。

三日、脇阪安斐、歸邑ヲ請フ、是日、之ヲ聽ス。○六日途ニ上ル。

○松平慶憲、前月二十九日、汽船九隻、日章及ヒ薩、藝、長三藩

ノ旗章ヲ揭ケテ、封内ノ近海ヲ過クルヲ幕府ニ報シ、大洲藩士ノ打出村ヲ戍ル者、長門藩老臣等ノ、來リテ其旁近ニ次スルヲ報ス。

○藤堂高邦、佐渡守○久居藩主、食封五萬三千石、京ニ至ル。○藤堂高邦家記

四日、毛利敬親老臣等東上ノ事、稍ク傳播ス、時ニ津藩兵山崎關門ヲ守ル、藩士、乃チ書ヲ上リ、老臣等兵勢ヲ張リ、關ニ抵ラハ、直チニ之ヲ掃蕩センコトヲ稟ス、又其支封久居藩兵ノ都下守衛ヲ撤シ、共ニ山崎ヲ守ランコトヲ幕府ニ請フ、幕府、特ニ宇治ノ兵ヲ分ツヲ許ス。

○池田政禮、丹波守○備前新田、食封一萬五千石、後生坂藩ト稱ス、京ニ至リ、池田政禮家記丹羽長國、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。○丹羽長國家記

卷七　慶應三年丁卯十二月五日ニ起リ八日ニ至ル

五日、中山忠能、正親町三條實愛、中御門經之等、島津茂久、淺野茂勳ト謀リ、先ツ毛利敬親等赦宥ノ命ヲ發シ、繼テ更革ノ事ニ及ハントス、時ニ國事掛近衛忠房、九條道孝、廣幡忠禮等、松平慶永ト、敬親等寬典ノ事ヲ謀ル、會、桑及ヒ津藩士、二條齊敬、朝彥親王ニ說テ、之ヲ拒ム、是日、慶永、德川慶喜ニ勸メ、會、桑諸藩ニ諭シ、敬親等ノ處置、一ニ朝裁ヲ仰カシム。

○幕府、堀直虎ヲ以テ、若年寄兼外國總奉行ト爲ス、○堀直虎家記又譜第諸藩帝鑑間、雁間、菊間席、ニ諭スニ、會同ノ命、朝廷ニ出テ、而シテ幕府之ヲ傳フ、則僭越ノ嫌アルニ非ス、宜ク速ニ西上スヘキヲ以テス。

○幕府、大阪外國人居留規則、及ヒ大阪、兵庫間運送船等規則ヲ設ケ、之ヲ各國公使ニ諜ル。

六日、近衛忠房等、攝政二條齊敬ニ逼テ、毛利敬親等赦宥ノ議ヲ決シ、直ニ之ヲ德川慶喜ニ諭サシメントス、果サス、是日、議始テ決ス、乃チ戸田忠至大和守○宇都宮藩支封主、食封一萬石、後高德藩ト稱ス、ヲシテ內旨ヲ慶喜ニ諭サシム。

○英國公使ハルリー、エス、パークス、諸藩兵ノ大阪ニ輻湊スルヲ止メンコトヲ幕府ニ請フ、幕府、其書ヲ上ル。

○伊藤祐相、左京大夫○飫肥藩主、食封五萬千八十石、疾アリ、重臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシメ、小笠原忠忱、小笠原貞正、近江守○小倉新田、食封一萬石、後千束藩ト稱ス、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代ラシメント請ヒ、織田長易、疾ヲ以テ、會同愆期ヲ謝ス。○伊東祐相、小笠原忠忱、小笠原貞正、織田長易家記

○幕府、石川成之ノ江戸郭門警衛ヲ罷メテ、西上セシム。

七日、德川慶喜、內旨ニ答ヘ、毛利敬親等赦宥ノ事、宜ク諸侯ノ公議ニ付スヘク、若シ聖斷ニ出テシメハ、固ヨリ異議ナキヲ稟

ス、乃チ在京諸侯ニ令シテ、明日悉ク朝參セシム。

○津藩士ノ稟狀ニ批シ、毛利敬親ノ老臣等、或ハ關ニ抵ラハ、懇諭シテ之ヲ留メ、以テ朝命ヲ請ハシム。

○植村家保、本多忠鄕ノ子鋭次ヲ養フテ、其嗣ト爲サンコトヲ幕府ニ請フ、是日、幕府、之ヲ許ス。

○兵庫港ヲ開テ貿易場ト爲ス、又大坂互市場ヲ開ク、兵庫碇泊ノ各國船艦、皆祝砲ヲ發ス。○指華入京日載

八日、毛利敬親父子支封主敕宥ノ事、及ヒ英國公使ノ書六日呈セシ者、ヲ參朝ノ諸侯藩士ニ下示シ、敕命ハ直ニ答議ヲ上ラシム、是夜遂ニ宸斷ヲ以テ、毛利敬親其子廣封及ヒ支封主毛利元周長門府中藩主、食封五萬石、毛利元蕃、德山藩主、食封四萬石、毛利元純清末藩主、食封一萬石、ノ官位ヲ復シテ、入京ヲ許シ、淺野茂勳ヲシテ敬親老臣等ノ西ノ宮ニ在ル者ヲ京ニ召サシメ、三條實美、三條西季知、東久世通禧、四條隆謌、壬生基修ノ官位ヲ復シテ、之ヲ召還シ、錦小路賴德甲子ノ年、長門ニ死ス、ノ官位ヲ復シ、澤宣嘉ノ義絶ヲ釋ス、○宣嘉所在詳ナラス、又九條尚忠、久我建通、千種有文、岩倉具視、富小路敬直ヲシテ、復飾セシメ、建通以下四人ノ蟄居ヲ釋シ、滋野井實在、中將、正親町公董、少將、滋野井公壽、侍從、鷲尾隆聚侍從、ノ差扣ヲ釋ス。

○毛利敬親等ノ敕命既ニ發ス、中山忠能、正親町三條實愛、中御門經之、岩倉具視等、内旨ヲ奉シテ、將ニ大ニ更革ヲ行ハントス、具視、旨ヲ島津茂久、淺野茂勳、山内豐信、德川慶勝、松平慶永ニ傳ヘテ、明早朝參シ、且兵ヲ出シテ、禁門ヲ警守セシム、是日、茂久、豫メ敕命ノ事ヲ毛利敬親ノ老臣ニ西宮ニ報シテ、急ニ北上セシム。

○是夜、中山忠能、密旨ヲ鷲尾隆聚ニ傳ヘ、潛ニ高野山ニ赴キ、十津川鄕士ヲシテ之ニ從ハシム、諸藩士モ亦行ニ從フ者アリ。

○藤堂高潔、大學頭○高猷ノ世子、京ニ至ル、苗木藩主遠山友祿、母ノ喪ヲ以テ、再ヒ上京延期ヲ請フ。○遠山友祿家記

卷八　慶應三年丁卯十二月九日

九日、昨日來百官事ヲ議リ、明ニ至テ皆退朝ス、獨國事掛議奏正親町三條實愛、長谷信篤、及ヒ德川慶勝、淺野茂勳、松平慶永留テ内ニ在リ、乃チ薩、尾、藝、越、土佐藩ノ兵ニ令シテ、内外諸門ヲ分守シ、會、桑ノ衞兵ヲ撤ス、是時、熾仁親王、有栖川宮、晃親王、常陸太守○山階宮、入道純仁親王、仁和寺宮、中山忠能、中御門經之、岩倉具視、大原重德、宰相、萬里小路博房、右大辨宰相、橋本實梁、少將○實麗ノ子、等、先入テ朝議ヲ賛ス、議ハ内旨ヲ奉シ召ニ依ル、既ニシテ、入道尊秀親王、[illegible]、正親町實德、[illegible]、正親町公董、[illegible]、橋本實麗、[illegible]、四辻公賀、[illegible]、清閑寺豐房、[illegible]、澤爲量

量、澤宣種、主水正、西園寺公望、中將、堀川康隆、穂波經度、高倉永祜、滋野井實在、滋野井公壽、園池公靜、少將、五條爲榮、少納言、山本實政、少將、富小路敬直、長谷信成、美濃權介、岩倉具綱、侍從〇具視ノ子、岩倉具定、大夫〇具視ノ第二子、具綱ノ嗣トナル、四條隆平、大夫〇隆謌ノ子、石山基正、右兵衛權佐〇基文ノ子、西洞院信愛、大夫〇信堅ノ子、西四辻公業、大夫〇公脩ノ子、萬里小路通房、右少辨〇博房ノ子、大原重朝、左馬頭〇重徳ノ子、裏松良光、中務權少輔〇恭光ノ子、中山忠愛、中將〇忠能ノ子〇昨夜忠能等ノ傳旨徴召ニ係ル、及ヒ島津茂久、山内豐信モ亦朝ス、豐信此日入京、是ニ於テ、攝政、關白、征夷大將軍、議奏、傳奏、國事掛、守護職、所司代等ノ官職、及ヒ内覽、勅問、攝籙、門流ヲ廢シ、新ニ總裁、議定、參與ノ三職ヲ置ク、嵯峨實愛手記、春嶽私記、乃チ大將軍徳川慶喜ノ請ヲ許シ、其職ヲ罷メ、攝政二條齊敬、國事掛九條道孝、大炊御門家信、朝彦親王、近衛忠熙、近衛忠房、鷹司輔熙、徳大寺公純、前右大臣、一條實良、廣幡忠禮、議奏國事掛柳原光愛、大納言、葉室長順、大納言、傳奏國事掛日野資宗、大納言、飛鳥井雅典、大納言、ヲ免シ、皆其朝參ヲ停メ、議奏加勢中院通富、中納言、倉橋泰聰、治部卿、池尻胤房、宮内卿、錦織久隆、刑部卿、交野時萬、左京大夫、ヲ罷メ、廣橋胤保、大納言、六條有容、野宮定功、中納言、久世通熙、宰相中將、ノ朝參ヲ停メ、豐岡隨資、伏原宣諭、三位、裏辻公愛、中將、ノ朝參ヲ停メテ、謹愼セシメ、守護職松平容保、肥後守〇會津藩主、食封二十八萬石、所司代松平定敬、越中守〇桑名藩主、食封十一萬石、ヲ罷メテ、歸藩セシム、晡ニ及ヒ、議ヲ小御所ニ開キ、大政施設ノ方及ヒ徳川氏處分ノ事ヲ議ス、遂ニ慶勝、慶永ヲシテ、辭官獻地ノ内旨ヲ慶喜ニ諭サシム、時ニ薩摩藩士大久保利通、一藏、岩下方平、佐次右衛門、土佐藩士後藤元燁、象二郎、神山君風、左多衛、尾張藩士田宮篤輝、如雲、丹羽賢、淳太郎、田中輔、國之輔、越前藩士中根師質、雪江、酒井忠温、十之丞、安藝藩士辻維嶽、久保田秀雄、平司、モ亦其議ニ參ス。

〇熾仁親王ヲ以テ總裁ト爲シ、二品ニ叙シ、隨身兵仗ヲ賜ヒ、純仁親王、晃親王、中山忠能、正親町三條實愛、中御門經之、徳川慶勝、松平慶永、島津茂久、淺野茂勳、山内豐信ヲ議定ト爲シ、二親王ヲ二品ニ叙シ、隨身兵仗ヲ賜ヒ、純仁親王ヲシテ復飾セシメ、大原重徳、長谷信篤、岩倉具視、橋本實梁ヲ參與ト爲ス、又茂久、慶勝、茂勳、慶永、豐信ニ命シ、其藩士參與ノ任ニ當ルモノヲ薦擧セシム、是日、太政復古ヲ宮堂上ニ諭告ス、又後宮ニ諭シテ、内行ヲ正フセシム。

〇諸藩ノ衛兵ニ命シ、警備ノ事、今後朝命ヲ奉セシム、平戸藩兵ヲシテ清所門、卽御臺所門、ヲ守リ、十津川郷兵ヲシテ蛤門ヲ守ラシム。

〇毛利敬親ノ老臣、及ヒ其支封毛ヲ京ニ召スヲ山崎戍兵ニ諭シ、又敬親父子、及ヒ三條實美等五人皆入京ヲ許スヲ沿道關門ニ諭ス、是日、敬親ノ老臣等、島津茂久ノ報ヲ得テ、山崎ニ抵ル、

守兵、朝命ナキヲ以テ納レス、頃アッテ、朝命至ル、乃チ入テ光明寺○光明寺粟生村ニアリ、ニ次ス。

○徳川慶喜ニ命シ、毛利敬親等赦宥ノ故テ以テ、部下ノ黨議ヲ生スルモノヲ誠諭セシム、又二條城中紛擾ノ狀アルヲ以テ、尾、越二藩ニ内諭シテ、之ヲ鎭撫セシム。

○伊達慶邦、細川慶順等、三十餘人ノ老臣、各英國公使書柬ノ答議ヲ上ル。

○前田慶寧、京ニ至ル。○前田慶寧家記

○戸田忠行、丹後守、○高徳藩主、食封一萬一千石、後大和ト改ム、米倉昌言、薩摩藩士ト稱シ、下野出流山村ニ嘯聚スルモノアルヲ舊幕府ニ報ス、舊幕府、忠行及ヒ秋元禮朝、鳥居忠寶ヲシテ之ヲ緝捕セシム、既ニシテ、宗義達モ亦其事ヲ報ス。○出流山村、義達ノ別邑ニ係ル。

卷九

慶應三年丁卯十二月十日ニ起リ十三日ニ至ル

十日、備前藩兵ヲシテ蛤門ヲ守リ、池田政禮ノ兵ヲシテ之ニ屬セシム。

○徳川慶勝、松平慶永、命ヲ傳ヘニ二條城ニ到ル、城中兵馬塡咽、麾下ノ士、皆甲ヲ擐シ、兵ヲ執リ、譜第諸侯ハ、兵ヲ率ヰテ城外ニ列ス、徳川慶喜、其衆變ヲ激センコトヲ恐レ、日昳ニ至テ決セス、會々朝旨二人ヲ促ス、慶喜、乃チ辭職ノ命ヲ奉シ、辭官獻地ノ事ハ、衆情鎭定ノ後ヲ待タンコトヲ請フ、夜ニ及テ、二人復命ス。

○長門藩ノ老臣毛利親信、○内匠、是夜、兵隊、○二中隊ヲ率ヰテ相國寺ノ薩營ニ入ル○諸隊入京日載、直ニ召テ、之ヲ慰勞ス。

○土方雄永、疾ヲ以テ、上京延期ヲ請フ。○土方雄志家記

○江戸市街中、劫盜横行スルヲ以テ、舊幕府、譜第諸侯ニ諭シテ、鎭緝ノ方ヲ陳セシム。

十一日、禁内守衛兵ヲ除クノ外、戎服九門内ニ入ルヲ禁ス、又長門藩兵ヲシテ九門内外ヲ巡邏シ、且ツ正親町三條實愛、橋本實梁ノ衛兵ヲ出シ、因幡藩ヲシテ長谷信篤ノ衛兵ヲ出サシム。

○榊原政敬、書ヲ上リ、徳川氏ノ世臣タルヲ以テ、命令奏請、仍ホ其手ヲ經由セント請フ、報セス。

○舊幕府ノ麾下、及ヒ譜第藩士等、更革ノ事ヲ聞キ、二條城ニ集ル者一萬人、是夜訛言アリ、薩兵來襲スト、是ニ於テ、或ハ砲門ヲ城壁ニ穿チ、或ハ迎戰ノ備ヲ爲ス、徳川慶喜、頗ル制馭ニ苦ム、適々松平慶永、城ニ在リ、其變アランコトヲ慮リ、慶喜ニ說キ、松平容保、松平定敬等ヲ率ヰテ、姑ク大坂ニ赴カシメンコトス。

十二日、參與ヲシテ假ニ舊武家傳奏ノ事ヲ掌ラシメ、一乘院里坊ヲ以テ、本衙ト爲ス。

○岩下方平、西鄕隆盛、大久保利通、丹羽賢、田中輔、辻維嶽、櫻井元憲、與四郎安藝藩士久保田秀雄、中根師質、酒井忠温、毛受洪、鹿之助越前藩士、後藤元燁、神山君風、福岡孝弟ヲ以テ、參與ト爲ス。

○加藤明實、再ヒ京ニ至ル、命シテ、内侍所ヲ守衛セシメ、津和野藩兵ヲシテ建春門ヲ守衛セシム。龜井茲監家記

○山内豐信、書ヲ上リ、更革ノ事、基本略定ル、宜ク速ニ戒備ヲ紓ヘテ、而シテ公議ヲ興スヘク、德川慶喜辭官獻地ノ事ハ、之ヲ松平慶永ニ委センコトヲ建議ス。

○細川慶順、黑田齊溥、鍋島茂實、蜂須賀齊裕、有馬慶頼、南部利剛、丹羽長國、立花鑑寛、宗義達、溝口直正ノ老臣、連署シテ、速ニ戒嚴ヲ解キ、人心ヲ安シ、且舊攝政將軍以下、宜ク公議ヲ以テ、之ヲ處スヘキヲ建議ス。

○是夜、德川慶喜、松平容保、松平定敬、板倉勝靜伊賀守、備中松山藩主、食封五萬石、後高梁ト改ム○舊幕府老中等、及ヒ部下ノ兵ヲ率ヰテ、大阪ニ赴キ、梅澤亮孫太郎○大目付、ヲシテ二條城ヲ守ラシメ、發後奏狀ヲ上ル、德川慶勝、松平慶永モ亦、其之ヲ慫慂スルヲ謝ス。

○前田慶寧、書ヲ上リ、大兵ヲ領シテ、都下ニ居ラハ、誤テ事ヲ生センコトヲ恐ルヽヲ陳シ、京ヲ發シテ國ニ赴ク、是日、久松定昭モ亦大阪ニ赴ク。久松定謨家記

○舊幕府、間部詮道ノ敦賀港守衛ヲ罷ム。

十三日、正親町公董、烏丸光德侍從ヲ以テ參與ト爲ス。

○山城國取締松平信正圖書頭、丹波龜山藩主、食封五萬石、青山忠敏、本多康穰ヲ以テ京都市中取締ト爲シ、市尹ノ事ヲ掌ラシム、是日、九門ヲ除ク外、悉ク禁内ノ守兵ヲ撤シ、更ニ薩、尾、藝、土ノ四藩士兵ヲシテ建春、建禮、清所、朔平四門ヲ守リ、岡山藩兵等ノ蛤門守衛ヲ罷メ、長門藩兵ヲシテ之ニ代ラシメ、其九門内外巡邏ヲ罷ム。

○植村家保老臣ノ請ヲ以テ、命シテ其藩兵ヲ召サシム。

○薩、尾、藝、越、土五藩ヲシテ仁和寺宮ノ衛兵ヲ出サシメ、又安藝藩ヲシテ中山忠能ノ衛兵ヲ出サシム。島津忠義、淺野長勲、山内豐範家記

○久留島通靖伊豫守○森藩主、食封一萬二千五百石、京ニ至リ、其赴召遲緩ヲ謝ス、秋月種殷長門守○高鍋藩主、食封二萬七千石、疾アリ、其子種樹右京亮、ヲシテ代リテ京ニ至ラシメント請ヒ、秋月種殷家記一柳末德、再ヒ上京遲延ヲ謝ス。一柳末德家記

○鷲尾隆聚、昨夜高野山ニ到ル、高野山出張紀略是日、僧侶ニ告諭シ、又十津川鄕ニ牒シテ、之ヲ徴集ス。

巻十　慶應三年丁卯十二月十四日ニ起リ十七日ニ至ル

十四日、大政復古ヲ列藩ニ布告シ、各人材ヲ選擧セシム、且朝廷ノ徳川氏ニ於ケル、舊ニ異ナルコト無キヲ諭ス。

○禁門解嚴、及ヒ市中取締巡邏ヲ置キ、取締ヲシテ暇ニ市尹ノ事ヲ掌ラシムルヲ都下ニ布告ス、又取締三藩ニ命シテ、防火ノ事ヲ兼シメ、大洲、平戸、津和野、水口、園部、高取ノ六藩兵ヲシテ市中ヲ巡邏セシメ、水口藩兵ノ内侍所守衛ヲ罷ム。

○戸田忠至、及ヒ溝口貞直、（出雲、）津田信弘（山三郎、肥後藩士、）並ニヲ以テ、參與ト爲ス、忠至之ヲ辭ス。

○十津川郷兵ヲシテ建春、宜秋、清所三門ヲ守衛セシム。

○是ヨリ先、戸田忠至、宮中度支ノ事ヲ管ス、是ニ至リ、舊ニ依テ之ヲ掌ラシム、時ニ府庫匱乏、度支急ヲ告ク、忠至、乃大坂ニ赴キ、徳川慶喜ニ説テ、之ヲ供給セシム。

○純仁親王、書ヲ上リ、朝堂ノ上、上下尊卑ノ禮分ヲ正フシ、新進ノ藩士、宜ク爵位ヲ賜フヘキヲ建議ス。

○戸田氏共家臣、重臣京ニアル者ナキヲ稟シ、本日ノ召命ヲ辭ス。

○鷲尾隆聚、書ヲ徳川茂承ニ遺リ、内旨ヲ奉シ、兵士ヲ糾合シテ、不虞ニ備フルヲ報ス。

○舊幕府、譜第諸藩ニ令シ、城中蓄米（所謂城詰用米、石高ニ課シテ、各藩ニ儲蓄シ、以テ江戸城ノ不虞ニ備フ、）ノ、ヲ江戸ニ運輸セシム。（此事遂ニ果サス、）

十五日、三職朝參議事ノ時限、及ヒ參與上下ノ稱ヲ定ム。

○純仁親王ヲシテ仁和寺宮ト稱シ、（初メ二品宮ト稱ス、）嘉彰ト復名セシム。（復名ハ翌日ニ在リ、）

○參與大原重德ノ請ヲ允シテ、其職ヲ罷ム。

○市中取締三藩、吏員ヲ藩ヨリ召シテ、其衛ヲ開カンコトヲ稟ス、命シテ、現員ヲ以テ、速ニ事ヲ執ラシム。

○參與後藤元燁、福岡孝弟等、上下議事所、及ヒ諸制度ノ條議ヲ上ル。

○井伊直憲、藤堂高潔、疾ヲ以テ暫ク藩ニ就カント請ヒ、松平忠恕、疾ヲ以テ、上京遲延ヲ謝ス。（松平忠恕家記）

○徳川慶喜、大將軍ヲ罷ムルヲ以テ、令シテ、其稱呼ヲ改ム。

○舊幕府、大河内正質（豐前守、）大多喜藩主、食封二萬石、時ニ松平氏ヲ稱ス、）ヲ以テ、老中格ト爲シ、永井尙志（玄蕃頭、）旗下士、）ヲ若年寄ト爲ス。（徳川慶喜家記）

十六日、凡ソ議定常參ヲ須ヒス、事アレハ之ヲ召ス。

○田宮篤輝ヲ以テ參與ト爲シ、市尹ノ事ヲ總管セシム、又牧野成憲（權六郎、）備前藩士、）ヲ徴ス。

○松平慶永等、岩倉具視ニ就キ、徳川慶喜ノ處分、朝旨ノ在ル所ヲ領シ、以テ之ヲ慶喜ニ諭サント請フ、是日、具視、奏狀ノ擬案ヲ内付ス。

○長門藩ヲシテ、仁和寺宮、及ヒ正親町公董ノ衞兵ヲ出シ、備前藩ヲシテ烏丸光德ノ衞兵ヲ出サシメ、安藝藩ノ仁和寺宮、及ヒ中山忠能ノ衞兵ヲ罷メ、山階宮ノ衞兵ヲ出サシム。毛利元德、池田章政、淺野長勳家記

○徳川慶喜、佛朗西、英吉利、伊太利、亞米利加、孛漏生、荷蘭公使ヲ大坂城ニ延見シ、政體更革ノ事ヲ說キ、各國交際ノ事、仍自ラ之ニ任スルヲ以テ、益情誼ヲ固フセンコトヲ陳ス。

○井伊直憲ノ家臣、下野別邑旁近ノ浪徒ヲ俘獲スルヲ舊幕府ニ報ス、大久保教義、出雲守○荻野山中藩主食封一萬三千石浪士其邑ヲ剽掠スルヲ以テ、一橋門守兵ヲ罷テ、其守ヲ固フセント請フ。

十七日、加藤明實ノ泉涌寺守衞ヲ罷メ、復タ内侍所ヲ衞セシム。

○徳川茂承、鷲尾隆聚、高野山ニ據ルノ狀ヲ稟ス、批シテ、其朝旨ニ出ルヲ諭ス。

○長門藩士、兒兵寡少ヲ以テ、仁和寺宮、及ヒ正親町公董ノ衞兵、後軍ノ至ルヲ竢タント請フ、乃チ中川久昭修理大夫○岡藩主、食封七萬四百四十石ヲシテ公董ノ衞兵ヲ出サシム。毛利元德、中川久昭家記

○長門藩士、竊ニ時務條議ヲ總裁熾仁親王ニ上ル、

○鷲尾隆聚、書ヲ植村家保、及ヒ五條大和代官中村某衞、甚兵ニ遣リ、内旨ヲ奉シテ、兵士ヲ糾合スルヲ報ス。高野山出張概略、植村家壺家記

○舊幕府、譜第諸藩ニ令シ、江戸私邸ノ旁近ヲ巡邏シ、以テ劫盜ニ備フ。

卷十一

慶應三年丁卯十二月十八日ニ起リ二十日ニ至ル

十八日、大政復古ヲ外國ニ報スルノ擬案、及ヒ人才ヲ擧ケ革政所ヲ設クル等ノ事ヲ議ス。

○諸侯ニ申令シテ、速ニ朝集セシム。

○市中取締三藩ニ諭シ、意見アレハ、之ヲ管掌ノ參與ニ陳シ、凶徒横行制シ難キ者ハ、巡邏諸藩ノ應援ヲ請ハシム、又都下ニ告諭シテ、民情ヲ綏撫シ、公卿諸侯ノ家臣ニ令シテ、下民ノ請托ヲ受クルコト勿ラシム。

○三岡公正八郎○越前藩士ヲ徵士參與ト爲ス。

○再ヒ島津久光ヲ召シ、又長岡護美、良之助、後右京亮○細川慶順ノ弟桂久武、右衞門○薩摩藩士、木戸孝允、準一郎○長門藩士土肥實匡、謙藏○因幡藩士小原忠寬二兵衞○大垣藩士ヲ徵ス。

○加賀、薩摩、土佐、岡四藩ノ兵ヲシテ市中ヲ巡邏セシメ、津和野六室

[illegible]シ、薩摩藩ヲシテ仁和寺宮ノ衛兵ヲ増シ、備前藩ヲシテ中山忠能ノ衛兵ヲ出サシム。島津忠義家記、池田章政家記

○松平容保、松平定敬、猶大坂ニ留リ、又兵ヲ出シテ、北上スルノ報アリ、是日、徳川慶勝、松平慶永ニ命シ、容保、定敬ヲシテ速ニ藩ニ就シム。

○井伊直憲、暇ヲ賜ヒ藩ニ歸リ、老臣ヲシテ代ラシメント請フ、許サス、諭シテ、病ヲ京師ニ養ハシム、藤堂高猷ノ老臣、其子高潔ノ爲ニ、再ヒ歸藩ヲ請フ。

○巡邏六藩、其分轄區域ヲ定メ、且其措置ノ目ヲ稟ス。

○松平慶永等、再ヒ岩倉具視ト謀リ、先ツ徳川慶喜ヲシテ入覲セシメ、以テ擬案ノ事ヲ擧行セシメントス、乃チ永井尚志（玄蕃頭、舊幕若年寄、）ヲシテ之ヲ慶喜ニ諭サシム、是日、尚志、田中輔、中根師質ト大坂ニ赴ク。

○細川興貫、疾ヲ以テ、上京遲延ヲ謝ス。細川興貫家記

○酒井忠惇、江戸ヨリ將ニ京ニ入ラントス、大津ニ至リ、徳川慶喜大坂ニ在リト聞キ、直チニ之ニ赴ク。酒井忠惇家記

○舊幕府老中稻葉正邦、（美濃守、淀藩主、食十萬二千石、）譜代諸侯ノ江戸ニ在ル者ヲ城中ニ會シ、更革ノ朝命ヲ示シテ、各意見ヲ陳セシム、又土井利教、岡部長寛等九人ヲシテ急ニ兵ヲ率テ西上セシム、其疾アルモノハ、其子若クハ重臣、之ニ代ル、旗下士勝義邦、（安房守、軍艦奉行、）書ヲ正邦ニ贈リ、其妄動ノ君ノ意ニ反スルヲ論ス。

○戸田忠行、出流山屯聚ノ浪徒ヲ殺獲ス、之ヲ舊幕府ニ報ス、

十九日、外國報告ノ議ヲ決シ、議定ニ命シテ、明日告文ニ署印セシム。

○十時維恵（[illegible]）ヲ以テ、參與ト爲ス、（[illegible]）又池田茂政、池田政詮、鍋島齊正、及ヒ小松清廉（[illegible]）ヲ召ス。

○藤堂高猷ノ老臣、復前請ヲ申ス、之ヲ許ス。

○徳川慶勝、自ラ大坂ニ赴キ、會、桑二藩ヲ措置セント請フ。

○市中取締三藩、舊東町奉行所、及ヒ附屬ノ簿書什器ヲ交付センコトヲ請フ。

○徳川慶喜、上疏シテ、近日更革ノ事、一二ノ藩幼帝ヲ挾ミ、私意ヲ逞スルニ出ルヲ論ジ、其臣戸川安愛（伊豆守、大目付、）ヲシテ齎シテ京ニ至ラシメ、又大ニ家門譜代諸藩ノ兵ヲ徴ス、是日、安愛、戸田忠至ニ因リ、奏狀ヲ岩倉具視ニ呈ス、松平慶永等、之ヲ聞キ、其大事ヲ敗ランコトヲ恐レ、安愛ニ説キ、歸テ慶喜ヲ諭サシメ、而シテ具視ニ就テ、其書ヲ請下シ、之ヲ中根師質ニ報ス、（時ニ師質、既ニ大坂ヲ去レリ、）

○毛利元蕃（淡路守、）ノ子元功、（平六郎、）及ヒ吉川經幹（監物○食邑六萬石、後ニ[illegible]、）老臣宮

荘某、主水、京ニ至ル、毛利元徳家記

二十日、參與長谷信篤ヲ以テ、議定ト爲シ、西園寺公望ヲ參與ト爲シ、五條爲榮、柳原前光、侍從○光愛ノ子、西四辻公業ヲ參與助役ト爲ス。

○熾仁親王中務卿○有栖川宮、ヲ一品ニ敍ス。

○准后慈性入道親王輪王寺宮退職後、大覺王院ト號ス、薨ス、十一月二十四日、本日ヨリ三日朝ヲ輟ム、時ニ内閣多事、議參事ヲ執ル常ノ如シ、

○池田茂政ノ召命ヲ止メ、加藤泰秋ニ代テ、西ノ宮ヲ守衛セシメ、中川久昭ノ請ヲ允シテ、京都市中巡邏ヲ罷ム。

○長門藩兵ノ請ヲ允シテ、仁和寺宮守衛ノ命ヲ止メ、有栖川宮ノ衛兵ヲ增サシメ、指華人、京日裁尾張藩兵ノ仁和寺宮守衛ヲ罷ム。徳川義宜家記

○淺野茂勳、松平慶永、上書シテ外國告文ノ異見ヲ陳シ、徳川慶勝、署印ヲ辭シ、山内豐信モ亦別ニ所見アルヲ以テ、之ヲ辭ス、是ニ於テ、姑ク其事ヲ止ム。

○池田徳澄、修理○因幡藩支封主、後鹿奴藩ト爲ル、食封二萬石、時ニ松平氏ヲ稱ス、建部政世、京ニ至ル。建部揆家記

卷十二　慶應三年丁卯十二月二十一日ニ起リ二十三日ニ至ル

二十一日、熾仁親王、伯父慈性親王、ノ喪ニ居ル、特命シテ、除服朝參セシム。

○長谷信成ヲ以テ、參與助役ト爲ス。長谷信成履歴書

○永井直諒、及ヒ高松藩兵ニ命シ、孝明天皇ノ小祥忌祭ニ、泉涌寺般舟院ヲ守衛セシム、又直諒ヲシテ京都防火ノ事ヲ掌ラシム。

○舊幕府兵、新選組及ヒ歩兵千餘人、猶伏見ニ在リ、會、桑二藩兵モ亦稍々北上ス、乃チ田宮篤輝ニ命シテ、伏見取締ヲ兼ネ、薩、藝、長、土四藩兵ヲシテ巡邏警備セシム、既ニシテ、藝、土二藩之ヲ辭ス。

○植村家保ノ請ヲ允シテ、傳法川守衛ヲ罷メ、其兵ヲ京師ニ召ス。

○池田徳澄ノ上京ヲ嘉奬シ、宗家ト協同從事セシム。

○是ヨリ先、大野藩兵嵯峨關門ヲ守ル、慶應元年ニ在リ、關門、原長防ノ爲ニ設ク、是ニ至リ、去就ヲ稟請ス、令シテ、其戍ヲ撤ス。

○徳川慶勝、松平慶永、既ニ徳川慶喜ノ奏狀ヲ請下ス、乃チ田中輔、中根師質ヲシテ、再ヒ大坂ニ赴カシム。

○徳川茂承、將ニ京ニ至ラントス、疾ヲ以テ大坂ニ留リ、荏苒日ヲ彌ル、乃チ姑ク藩ニ就テ疾ヲ養ハント請フ、是日、之ヲ許ス。

二十二日、萬機ヲ親裁シ、博ク公議ヲ採リ、舊幕府ノ善政良法ハ、舊ニ仍テ變更セサルヲ告諭シ、直言讜議シテ、忌憚スル所

勿ラシム。

○荒川良知甚作、尾張藩士、ヲ以テ、參與ト爲ス。○德川義宜家記

○德川慶勝ノ請ヲ許シ、自ラ大坂ニ赴キ、期ヲ刻シテ、其功ヲ奏セシム、慶勝、其期ヲ緩センコトヲ請フ。

○山内豐信、上書シテ、外國ノ報告ハ、列侯會議ノ後ニ付シ、姑ク德川慶喜ヲシテ還政ノ事ヲ報セシメンコトヲ建議ス。

二十三日、林某左門、尾張藩士、ヲ以テ、參與ト爲シ、參與三岡公正、及ヒ某ヲシテ、會計ノ事ヲ管督セシム。

○堀親義左衞門尉、飯田藩主、食封一萬五千石、ヲシテ般舟院ヲ守衞シ、永井直諒ニ、火元見役ヲ兼シム。

○鍋島茂實、松平定安ノ家臣、明春京都警衞ノ事ヲ稟問ス、是日、批シテ、仍ホ前命ニ從ハシム。

○京都市中取締三藩、防火ノ事、舊町奉行ノ例ニ因リ、專ラ巡視ヲ主トセンコトヲ稟請ス。

○井伊直憲、疾ヲ力メテ、京師ニ留リ、王事ニ服セント請フ。

○牧野忠訓駿河守、長岡藩主、食封七萬四千石、京ニ至ル、二十日ニアリ、是日、上書シテ、時事ヲ論シ、再ヒ政權ヲ德川氏ニ委セント請フ、省セス。

○德川慶喜、戸川安愛ノ歸報ヲ得、永井尚志ヲシテ先ツ京ニ至ラシム、尚志、松平慶永、山内豐信等ト、慶喜入覲ノ事ヲ謀ル、慶永等、公然朝命ヲ奉シテ、大坂ニ趣キ、先ツ辭官納地ノ事ヲ決シ、後ニ入覲ヲ議セントス、是日、慶永、德川慶勝ト同ク朝命ノ擬案ヲ上ル、廷議、領地返上ノ文字ヲ用ヒント欲ス、慶永等、之ヲ爭ヒ、辨論數回、明ニ至テ決セス。

○伊達宗城、京ニ至ル。○伊達宗德家記

○舊幕府老中稻葉正邦等、譜第藩士ヲ江戸城ニ召シ、德川慶喜ノ奏狀ヲ示シ、各兵ヲ率ヰテ西上セシム、是日、江戸城二ノ丸火アリ。

卷十三　慶應三年丁卯十二月二十四日ニ起リ二十六日ニ至ル

二十四日、廷議、遂ニ領地返上ノ文ヲ用フルヲ止メ、辭官納地ノ命ヲ下シ、德川慶勝、松平慶永ヲシテ、之ヲ德川慶喜ニ傳ヘシム。

○入道尊秀親王ニ命シ、日ニ朝堂ニ入テ、機務ヲ習ハシム。

○毛利敬親大膳大夫、ヲ召ス。

○小笠原長守左衞門佐、越前勝山藩主、食封二萬二千七百七十七石、ノ家臣、竹田街道守衞ハ、幕府ノ命ニ係ルヲ以テ、其撤否ヲ稟請ス、是日、命シテ、之ヲ撤シ、後命ヲ待シム。

○山内豐信、書ヲ上リ、政府ノ經費、宜ク之ヲ列藩ニ課スヘキ

ヲ建議ス。

○徳川慶勝、上表シテ、職ヲ辭ス、允サス。

○戸田氏共、復タ上京延期ヲ請フ。

○鷲尾隆聚、再ヒ書ヲ五條代官中村某ニ與ヘ、其報答遲緩ヲ責ム、某答書シテ、其由ヲ陳謝ス。

二十五日、萬機親裁、公議博採ノ諭旨ヲ、三條橋ニ掲示ス。

○毛利廣封、（長門守、）毛利元周、（左京亮、）毛利元純（讃岐守、）ヲ召ス。

○是ヨリ先、浪士相、野二國ノ間ニ出沒ス、魁首相良武振、（總三、時ニ小島四郎ト稱ス、舊幕府旗下酒井錠之丞ノ臣、）其黨百五十許人ト江戸薩摩藩邸ニ在リ、是日、舊幕府、莊内、松山（出羽、）二藩兵ニ令シテ、之ヲ捕ヘ、陸軍及ヒ前橋西尾、上ノ山等ノ藩兵ヲシテ應援セシム、邸吏拒テ納レス、遂ニ火ヲ放チテ、之ヲ挾撃シ、支封佐土原藩邸ニ及フ、殺傷捕獲百餘人、武振等遁レテ上國ニ走ル、是夜、諸郭ヲ鎖シ、令シテ餘黨ヲ捕ヘシム。

○舊幕府、若年寄秋月種樹ノ請ヲ許シテ、其職ヲ罷ム。（秋月種殷家記）

二十六日、再ヒ池田慶德、京極高厚ヲ召ス。

○九條道孝ノ邸ヲ以テ、假ニ太政官代ト爲サントス、三岡公正ヲシテ其事ヲ管セシム。

○井伊直憲ノ請ヲ嘉奬シ、四塚關門ヲ守衞セシム。

○本願寺光澤ニ諭シ、門徒ヲ倡率シテ、力ヲ王事ニ致サシム。

○初メ三輪田元綱（綱一郎、伊豫松山日尾八幡社祠官、）等六人、足利氏ノ木像ヲ梟首セシ罪ヲ以テ、各藩ニ禁錮ス（文久癸亥ノ歳ニ在リ、）是日、之ヲ宥ス。

○長門藩、文武館ヲ借リ、以テ屯營ト爲サンコトヲ請フ、之ヲ許ス。

○堀親義、大坂ニ赴キ、徳川慶喜ニ面センコトヲ請フ、許サス。

○伊達廣邦、細川慶順等、十一人ノ老臣、連署書ヲ上リ、復古ノ際、情勢ヲ察シ、緩急ヲ量リ、徳川氏ヲ處スル、務メテ其部下ヲ鎭輯センコトヲ請フ。

○毛利元功、（平六郎○元蕃ノ子、）及ヒ吉川經幹老臣宮莊某、（主水、）參朝シ、毛利敬親父子、及ヒ支封主官位復舊ノ恩ヲ謝ス。（毛利元功吉川經健家記）

○舊幕府、榊原政敬ヲシテ前田利同、南部信順、本多忠紀ト共ニ、東叡山ヲ警守セシム。（榊原政敬家記）

卷十四

慶應三年丁卯十二月二十七日ニ起リ晦日ニ至ル

二十七日、天皇建春門ニ御シ、薩、藝、長、土四藩兵ノ操練ヲ覽ル。

○參與岩倉具視ヲ以テ議定ト爲ス。（岩倉具視事蹟）

○三條實美、（前中納言、）三條西季知、（前中納言、）東久世通禧、（前少將、）四條隆謌、（前侍從、）

壬生基修前修理権大夫、筑前ヨリ至リ入朝恩ヲ謝ス、三條實美事、五家家記乃チ實美ヲ以テ議定ト爲シ、通禧ヲ參與ト爲ス。實美、通禧兩家記

○熊野三山社家ニ命シテ、撿校宮聖護院宮ノ管理ニ屬シ、且ツ其還俗ヲ許ス。

○建部政世、歸藩ノ請ヲ聽ス。建部孫家記ノ明年正月七日、藩ニ歸ル、上達ノ日ヲ詳ナラス、

○松平慶倫、書ヲ上リ、太政更始ノ際、親裁空名ニ屬シ、政令多門ニ出テ、徳川慶喜政權奉還ノ本意ヲ失ハサランコトヲ陳ス。

二十八日、伊達宗城ヲ以テ、議定トス。

○池田茂政ニ令シテ、速ニ西宮守兵ヲ出サシム。

○牧野忠訓、大坂ニ赴ク、牧野忠毅家記久松定法、内膳正○今治藩主、食封三萬五千石、時ニ松平氏ヲ稱ス、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ京ニ至ラシム。久松定弘家記

○徳川慶勝、松平慶永、大阪ニ赴キ、命ヲ徳川慶喜ニ傳フ、二十六日ニ在リ、是日、慶喜、奉命書ヲ二人ニ致シ、且政府ノ經費ハ、之ヲ全國ニ課スルニ非レハ、以テ部下ノ心ヲ鎭輯スヘカラサルヲ陳ス。

○舊幕府、保科正益、戸田氏良ヲシテ、品川驛關門ヲ守ラシム、保科正益家記又關門ヲ江戸諸口ニ置キ、出入ヲ撿シテ、印票ヲ付シ、各地ノ關守ニ令シテ、印票ナキ者ノ經過ヲ禁ス。

○松平容保ノ子喜德、若狭守、上國ノ報ヲ聞キ、書ヲ上杉齊憲ニ致シテ、其協同救援ヲ請フ、其老臣モ亦藩内士民ニ檄シ。太政更革ハ奸邪ノ矯轍ニ出ツ、其或ハ兵ヲ我ニ加フルコトアラハ、宜ク一心同力、誓テ奸邪ヲ剪滅スヘキヲ諭ス。

二十九日、市中取締三藩ニ命シ、伏見ヲ兼管セシム、三藩事務繁劇ナルヲ以テ、之ヲ別藩ニ命セムコトヲ請フ、聽サス。

○戸田氏共ノ家臣、藩士小原忠寛奉命遲緩ノ故ヲ稟謝ス。

○植村家保、病ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。植村家保家記

○佛朗西國公使レオンロッシュ、書ヲ舊幕府ニ致シ、西班牙國條約未濟國ノ商船、横濱港ニ來ルモノハ、其國船ト同視セムコトヲ請フ、是日、幕府、之ヲ許ス。

晦日、天皇服除ス、是日、祓禊ノ儀ヲ行フ。公卿補任

○百官及ヒ在京諸侯ニ令シ、明年新正ニ參賀セシム。

○本願寺光澤、書ヲ上リ、奉上ノ意ヲ陳シ、且ツ即位ノ資ヲ獻セント請ヒ、東本願寺光勝モ亦奉上他ナキヲ陳シ、興福寺ノ僧侶、米千石ヲ獻シ、且ツ王事ニ從ハント請フ、是日、光澤上言ノ意ヲ嘉奬シ、興福寺獻米ノ請ヲ許ス。

○徳川慶勝、松平慶永、大阪ヨリ至リ、徳川慶喜ニ代テ、奉命書ヲ上ル。

○永井直諒ノ家臣、本日以後消防ノ役ニ服スルヲ稟シ、且其條款ヲ申請ス。

○藤堂高邦、暫ク藩ニ就カント請フ、是日、之ヲ聽ス、（是夜途ニ上ル、）片桐貞篤、老臣ヲシテ代テ京ニ抵ラシム。（片桐貞篤家記）

○都下ノ豪商三井某等四人、金ヲ獻スル差アリ。（三井三郎助、島田八郎左衞門各千兩、小野善助、小野善右衞門二名千兩○京都府記）

○江戸藩摩藩邸襲撃ノ事漸ク傳播ス、是夜、舊幕府、及ヒ薩摩藩ニ內喩シテ、爲ニ釁隙ヲ開クコト勿ラシム。

○舊幕府、酒井忠惇ヲ以テ、加判上坐ト爲ス、（酒井忠邦家記）又岡田忠養、（安房守○舊幕府旗下士、）ヲシテ下總國布佐村陣屋ニ居リ、上總、下總、安房、常陸四國ノ事務ヲ管セシム。

是月、密旨ヲ親子內親王（靜寬院宮○前大將軍德川家茂夫人、）ニ傳ヘテ、其西上ヲ促ス。

○蜂須賀齊裕ニ命シ、老臣稻田邦植（九郎兵衞、）ノ家臣三田某、（昇馬、）內藤某、（彌兵衞、）林兼善（徹之丞、）ヲ召ス。

○松平定安、池田政詮、疾ヲ以テ、上京遲緩ヲ稟ス。（松平定安池田政保家記）

卷十五

明治元年正月元日ニ起リ三日ニ至ル

（戊辰）明治元年（慶應四年○九月八日改元、）

○正月

元日、四方拜百官朝賀ス、是日、天皇不豫、臨ムヲ果サス、且今年三節會（元日、白馬、踏歌、）ヲ停ム。

○池田政禮ニ命シ、兵ヲ出シテ、伏見ヲ巡撫セシム。

○酒井忠氏、將ニ江戸ヨリ京ニ入ラントス、德川慶喜大阪ニ在ルヲ以テ、直ニ之ニ赴クヲ稟ス。又本莊宗武、將ニ八幡山（城、）守衞ノ任ニ赴カントス、途ニシテ疾ニ罹リ、是日、復タ江戸ニ歸ル。（本莊宗武家記）

○舊幕府、大久保忠禮、水野忠敬、太田資美、本多正訥（紀伊守○田中藩主、食封四萬石、後長尾ニ移ル、）ニ令シテ、江戸薩摩藩邸逋逃者ノ駿、相間ニ赴ク者ヲ緝捕セシム。

二日、假ニ議事ヲ九條道孝ノ邸ニ開キ、（時ニ宮中神事アリ、總裁熾仁親王、喪期未タ終ラサルヲ以テ之ヲ避クルナリ、）德川慶喜ヲシテ召命ヲ各國公使ニ傳ヘシメ、及ヒ慶喜ニ內諭シ、先ツ松平容保、松平定敬ヲ罷歸シテ、後ニ入覲セシムル等ノ事ヲ議ス。

○戸田氏共、其藩士小原忠寬ヲシテ召命ニ赴カシムルヲ稟ス。

○池田德定、京極高典、京ニ至ル。（池田德定京極壽吉家記）

○是夜、德川慶喜、兵ヲ發シテ北上セシムルノ報アリ、德川慶勝、松平慶永、山內豐信、伊達宗城等、竊ニ之ヲ鎭輯センコトヲ謀ル。

三日、天皇將ニ首服ヲ加ヘントス、奉幣使（藤波教忠、河越邦弘、）ヲ伊勢神宮ニ遣シテ之ヲ告ク。

○徳大寺實則、（中納言○公純ノ子、）久我通久、壬生基修、四條隆謌、及ヒ廣澤眞臣、（兵助、○長門藩士、）井上馨、（聞多○眞臣、馨並ニ長門藩士、）小原忠寛ヲ以テ、参與ト爲シ、穂波經度、坊城俊章（侍從○俊政ノ子、）ヲ参與助役ト爲ス。

○令シテ、江戸薩摩藩邸ノ事ヲ以テ、妄ニ擾動ヲ生スルコト勿ラシム。

○参與職ヲシテ、熊野三山ノ社家ヲ管セシム。

○山内豐信、上書シテ、會、桑二藩歸國ノ前後ヲ問ハス、宜ク速ニ徳川慶喜ヲ召シテ、國是ノ基本ヲ定ムヘキヲ建議ス。

○市中取締二藩、篠山藩兵ヲ伏見ニ派遣スルヲ稟ス。

○四塚關ノ守兵、（西大路藩兵、）會、桑二藩兵經過ノ許否ヲ稟ス、命シテ之ヲ停メシム。

○阿波藩ノ老臣稻田邦植ニ命シテ、其邑（淡路洲本、）ヲ嚴守シ、且兵ヲ出シテ、西ノ宮ノ衞兵ニ應援セシメ、又家臣ノ譴責ヲ受ケシ者ヲ釋サシム。

○織田信親、加藤泰令（出雲守○新谷藩主、食封一萬石、）ヲシテ、萬里小路博房、五條爲榮ノ衞兵ヲ出サシム。（織田信親加藤泰令家記）

○細川喜延、（右京大夫○慶順ノ子、）京ニ至ル、（細川護久家記）織田信親、兵ヲ卒キテ塚原ヨリ京ニ入ル。（織田信親家記）

○中根師質、岩倉具視ニ就テ、徳川慶喜入京ノ日、参朝、任職等ノ目ヲ稟請ス。

○徳川慶喜、既ニ徳川慶勝、松平慶永ヲシテ、奉命書ヲ上ラシム、適江戸薩摩藩邸襲撃ノ報ヲ得タリ、是ニ於テ、討薩表及ヒ薩人ノ罪狀ヲ艸シ、瀧川具知（播磨守○大目付、）ヲ遣シテ之ヲ奏シ、又之ヲ諸藩ニ示シテ、大ニ其兵ヲ徵集ス、（具知、遂ニ京ニ入ルヲ果サス、退テ淀城ニ留ル、是日ニ至リ、戸田忠至ニ因テ奏狀ヲ上ル事、五日ノ條ニ見ユ、）慶喜、又兵士ヲ部署シ、會津、桑名二藩兵ヲ以テ、先鋒ト爲シ、召命ニ赴クト稱シテ、伏見、鳥羽道ニ向フ、大河内正質、（豐前守○大田喜藩主、食封一萬石、時ニ松平氏ヲ稱ス、○老中格、）鳥羽ノ兵ヲ統ヘ、竹中重固、（丹後守○陸軍奉行、）伏見ノ兵ヲ統フ、重固伏見ニ抵リ、書ヲ薩營ニ贈テ、將ニ京ニ入ラントスルヲ告ク、答書シテ朝命ヲ俟シム、鳥羽ノ守兵モ亦、其朝命ナキヲ以テ之ヲ止ム。

○阪兵、北上ノ事聞ス、午牌、俄ニ百官ヲ朝集シ、姑ク慶喜ノ入京ヲ停メ、参與四條隆謌ヲ伏見ニ遣シ、阪兵ニ命シテ退歸セシメ、（遂ニ行ヲ果サス、）又徳川慶勝、松平慶永ヲシテ之ヲ措置セシメ、薩、長、土三藩ニ令シテ、伏見ノ守ヲ嚴ニシ、安藝藩兵ヲシテ急ニ伏見ニ赴キ、阿波、彦根、平戸、大洲、大村、佐土原ノ六藩兵ヲシテ大津ニ赴カシメ、平戸、大洲ノ京都巡邏ヲ罷ム。

○日晡、阪兵、益進テ鳥羽、伏見ニ迫ル、薩、長二藩兵、邀テ之ヲ撃ツ、是ニ於テ、京師戒嚴ス、酉牌後、令シテ、神事ヲ解キ、且内

命ヲ宮中ニ傳ヘテ、密ニ乘輿ヲ遷スノ備ヲ爲ス、又徳川慶勝、松平慶永、伊達宗城ニ命シテ、禁闕ヲ守衞シ、水戸藩兵ニ泉涌寺ヲ守リ、宇和島、高鍋、高取三藩ノ兵ニ諸門ヲ守リ、池田政禮ノ兵ニ岡藩兵ト共ニ猿ガ辻ヲ守リ、井伊直憲ニ兵ヲ率ヰテ急ニ大津ニ赴キ、因幡藩兵及ヒ其支藩兵ニ伏見ニ赴キ、毛利敬親父子ノ中一人、鷲尾隆聚ニ大阪ヲ攻撃セシメ、錦旗ヲ隆聚ニ賜ヒ、因幡、備前二藩ヲシテ征討兵ヲ備ヘ、且備前藩ニ西宮ヲ嚴守シ、徳川茂承ニ官軍ヲ叫合セシム、又藤堂高猷、稻葉正邦ヲ諭シテ、方向ヲ誤ルコト勿ラシム。

○夜半、議定嘉彰親王ヲ以テ、軍事總裁ヲ兼ネ、議定伊達宗城、參與東久世通禧、烏丸光徳ニ軍事參謀ヲ兼ネシム、又參與橋本實梁、參與助役柳原前光ヲシテ大津口ノ兵ヲ督シ、參與西園寺公望ヲシテ丹波口ノ兵ヲ督セシム。

○徳川慶勝、松平慶永、調停至ラサルヲ以テ、其職ヲ解カントヲ請フ。

○本願寺光威、光澤ノ子、東本願寺光勝、門徒ヲ率ヰテ參朝シ、光勝、金千兩ヲ獻ス、光威ニ命シテ、九門内外巡邏及ヒ猿ケ辻警守ヲ爲シム、松平頼聰家臣ノ京ニ在ル者モ、亦兵ヲ以テ事ニ從ハントヲ請フ。

○是日、慶喜、書ヲ大阪在留各國公使ニ致シ、薩摩藩ト交兵ノ由ヲ陳シ、其民人ヲシテ條約ヲ確守セシメ、軍艦兵器ヲ私賣シ及ヒ未開港場ニ至ルヲ禁ス。

○昨夜、舊幕府ノ軍艦、薩艦ヲ神戸海及ヒ土佐洋ニ砲射ス、是夜幕兵、又其大阪藩邸ヲ襲ハントス、藩人、邸ヲ焚テ遁ル。

卷十六　明治元年戊辰正月四日ニ起リ六日ニ至ル

四日、軍事總裁嘉彰親王ヲ拜シテ、征討大將軍ト爲シ、議定、故ノ如シ、錦旗節刀ヲ賜ヒ、參與四條隆謌、參與助役五條爲榮ヲ以テ、錦旗奉行ト爲シ、參與及ヒ助役、並ニ故ノ如シ、薩、藝、長三藩兵ヲシテ之ニ從ハシム、參謀伊達宗城、征討ノ事、宜ク列藩ノ公議ヲ盡スヘキヲ論ス、淺野茂勳、山内豐信モ亦、其議ヲ助ク、廷議省セス、午後、大將軍出テ東寺ニ次ス、宗城從ハス、大將軍、矢守平好、對馬守、仁和寺宮諸大夫、中沼之舜、了三〇學習院儒官、高崎正風、左京〇薩摩藩士、ヲ以テ、下參謀ト爲ス。

○參與西園寺公望ヲ以テ、山陰道鎭撫總督ト爲シ、參與故ノ如シ〇西園寺公望家記 薩、長二藩兵ヲ以テ之ニ屬シ、本道ノ諸藩ニ令シテ、其指揮ヲ受ケシム、又丹波、丹後、但馬ノ諸侯ニ諭シテ、王事ヲ勤メシム。

○三職以下、徹夜事ヲ秉ル、是日、命シテ退休セシム。

○薩摩藩兵ニ命シテ、黑谷ノ會津藩邸ヲ伐シム。

○池田政禮ノ伏見巡撫ヲ罷メテ、專ラ猿ケ辻ヲ守衞シ、因幡、森、栢原三藩ヲシテ正親町三條實愛、德大寺實則、穗波經度、東久世通禧ノ衞兵ヲ出サシム。（久留島通靖細川侯家記）

○本田康穰、其邑東國ノ要衝ニ當ルヲ以テ、歸テ守備ヲ修セント請フ、之ヲ聽ス、又平戶、大洲二藩ノ請ヲ允シ、大津警備ヲ罷メ、再ヒ京師ヲ巡邏セシメ、備前藩兵ヲシテ大津ニ赴カシム。

○本願寺光澤、金三千兩ヲ獻ス、書ヲ下シテ之ヲ賞ス。

○篠山藩、伏見兵火ノ狀ヲ上報ス。

○九鬼隆備、疾アリ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。（九鬼隆寧家記）

○官軍、伏見、鳥羽ノ賊ヲ擊テ、之ヲ卻ク。（幕下日誌）

○舊幕府老中、江戶傍近ノ諸藩ニ令シテ、薩人ニ備ヘ、又諸關ノ守ヲ嚴ニセシム。

五日、參與橋本實梁ヲ以テ、東海道鎭撫總督ト爲シ、參與助役柳原前光ヲ副總督ト爲ス、（二人、參與故ノ如シ）是日、二人、山陰道鎭撫總督西園寺公望ト皆京師ヲ發ス。（嵯峨實愛手記）

○德川慶勝ニ命シテ、二條城ヲ收管シ、城中ノ殘兵ヲ大坂ニ押送セシム。

○四條隆平ヲ山崎ニ遣シ、守關ノ津藩兵ニ命シテ、官軍ニ應セシメ、多度津藩ヲシテ其衞兵ヲ出サシム。（京極壽吉家記）

○諸藩ニ令シテ、京阪見兵ノ數ヲ錄上セシム。

○九門守衞諸藩ニ命シテ、譏察ヲ嚴ニセシム。因幡藩、九門警守ノ事ヲ上申ス。

○池田慶德ニ命シ、山陰道鎭撫使ノ令ヲ奉シテ、本道不庭ノ諸藩ヲ討セシメ、安藝、長門二藩兵ノ尾道（備後）ニアルモノヲ京師ニ召ス。

○肥後藩兵ニ命シテ、大津ニ赴カシメ、池田政禮ノ猿ケ辻守衞ヲ罷メ、亦兵ヲ大津ニ出サシム、又堀親義ニ伏見取締ヲ命ス、親義、辭スルニ般舟院ノ守衞ヲ以テス、之ヲ許ス。

○秋月種殷ニ命シ、其子種樹ヲシテ速ニ上京セシメ、又、大原重德ノ衞兵ヲ出サシム。（秋月種殷家記）

○酒井忠氏ヲシテ、其京邸ヲ上ラシム。

○興正寺攝信ニ命シ、門徒ヲ率ヰテ、大津ニ抵リ、東海道鎭撫總督ニ從ハシム。

○薩、長二藩兵ノ戰功ヲ賞ス。

○東本願寺光勝、德川氏ノ猶子タリ、而シテ其家臣、慶喜ニ投スルモノアリ、其貳アルヲ疑フヤ、是日、晃親王ヲシテ往テ之ヲ糺サシム、光勝及ヒ其子光瑩、誓書ヲ上ル。

○議定伊達宗城、軍事參謀ヲ辭ス、之ヲ大將軍ニ請ハシム。

○小出英尙、其邑園部ニ城カント請フ。

○鳥羽、伏見ノ官軍、大ニ賊ヲ敗リ、進テ淀ヲ攻ム、賊兵、大橋ヲ火シ、退テ八幡ニ據ル。〔輦下日載〕

○瀧川具知ノ討薩表ヲ齎シテ鳥羽ニ至ルヤ、入ルヲ果サス、具知、退テ淀城ニ留リ、戶田忠至ニ因テ之ヲ上ル、是日、德川慶喜、書ヲ德川慶勝、松平慶永等ニ致シ、其禁闕ヲ守衞センコトヲ請ヒ、又近日ノ事情ヲ諸藩ニ陳辨ス。

○舊幕府老中、令シテ、諸船舶ノ品川港ニ入ル者ヲ撿シ、其搭客ヲ譏察ス。

六日、木梨恒準〔精一郎〇長門藩士〕ヲ以テ、東海道鎭撫總督參謀ト爲ス。

○公卿ノ涅齒點眉、古制ニ非ルヲ以テ、必シモ依遵セサルヲ令ス。

○申牌後ヨリ翌卯牌後ニ至ルマテ、九門ヲ鎖シ、出入印票ヲ以テセシメ、又越前藩兵ヲシテ、諸家〔下立賣、寺町ニ門ノ間、〕ノ賓門ヲ守ラシム。

○櫻井忠興、永井直諒ニ命シテ、城守ヲ嚴ニシ、織田信親ヲシテ、白川越〔阪本口〕ヲ警守セシム、又長、備二藩兵ヲ召スヲ以テ、忠興ニ命シテ、其封內經過、及ヒ糧食運搬等ノ便ヲ與ヘシム。

○篠山藩兵ノ伏見取締ヲ罷メ、多度津藩兵ヲ以テ、之ニ代フ。

○東本願寺光勝ニ命シテ、大津ニ至リ、官軍ノ糧食ヲ措辨シ、且ツ東國ノ門徒ヲ勸勵セシム、又興福寺ノ僧侶ニ命シ、伊賀一路東兵ノ狀ヲ諜セシム。

○加茂兩社司ニ命シ、日ニ管地ノ壯丁〔三十五人〕ヲ出シテ、薩摩藩兵ノ使役ニ充シム。

○初メ岡崎藩兵、伏見〔豐後橋〕ヲ戍ス、戰後、其之ク所ヲ知ラス、是日、藩臣ノ京ニ在ル者、別ニ兵ヲ藩ヨリ徵サント請ヒ、久松定法ノ老臣、兵備ヲ缺キ、王事ニ從フコト能ハサルヲ以テ、之ヲ定法ニ歸報セント請フ、竝ニ命シテ、兵ヲ京師ニ出サシム。

○九鬼隆備、病アルヲ以テ、先ツ兵ヲ京師ニ出シ、福岡藩臣ノ京ニ在ル者、見兵ヲ以テ守備ニ服セント請フ。

○官軍、進テ八幡ヲ攻ム、津藩ノ山崎衞兵、官軍ニ應シ、橋本〔宮津藩兵之ヲ守ル、〕ヲ横擊ス、賊兵大ニ敗ル、官軍、尾擊シテ楠葉ニ至ル、〔輦下日載、藤堂高潔家記、〕是日、征討府、其下參謀高崎正風ヲ罷メ、〔東伏見宮家記〕大山綱良〔格之助〇薩摩藩士、〕ヲ以テ、之ニ代フ。〔大山綱良履歷書〕

○是夜、綾小路俊實〔前侍從〇有長之養子、〕水口藩士等十數人ヲ率ヰテ、京師ヲ出テ、書ヲ庭田重胤〔大納言、〕ニ遣シテ、報効ノ意ヲ陳シ、代リテ上奏センコトヲ請フ、滋野井公壽モ亦出奔ス、會相樂武振等、江戶ヨリ來リ、都下ノ薩邸ニアリ、俊實等ノ擧ヲ聞キ、追テ之ニ

従フ。
○徳川慶喜、書ヲ各國公使ニ遣リ、其兵利アラス、敵軍來襲ノ勢アルヲ以テ、各其國旗ヲ保守センコトヲ陳ス、是日、舊幕府老中、大河内輝照（右京亮ノ高崎藩主、食封八萬二千石）、水野忠弘ヲシテ、品川港砲臺ノ守ヲ嚴ニセシム。
○是夜、徳川慶喜、汽船ニ駕シテ、大坂城ヲ去ル、松平容保、松平定敬、板倉勝靜、酒井忠惇等、之ニ從フ、慶喜去ルニ臨テ、東歸ノ故ヲ布告シ、翌日、諸藩兵ヲ遣歸ス、老中格大河内正質、大坂城代牧野貞直（越中守ノ笠間藩主、食封八萬石）、及ヒ大河内信古、牧野忠訓等、皆江戸ニ走ル、松平忠誠ハ紀伊ニ赴キ、久松定昭、酒井忠氏ハ藩ニ歸ル。

卷十七

明治元年戊辰正月七日ニ起リ九日ニ至ル

七日、百官諸侯ヲ會シテ、徳川慶喜ノ反狀ヲ告示シ、征討ノ令ヲ發シ、諸侯ヲシテ其去就ヲ決セシム。
○入道雄仁（聖護院宮）、尊秀二親王ニ命シテ、蓄髪セシメ、尊秀親王ノ徳川氏猶子ヲ停ム。
○因幡藩及ヒ支藩兵ノ伏見守衛ヲ罷テ、八幡、橋本ヲ警守シ、勝山（越前）藩兵ヲシテ闇嶺（大和河内ノ境ニアリ）ヲ警守シ、永井直諒ノ請ヲ許シテ、洞嶺（河内）守衛ヲ撤シテ、本城ノ守備ニ充テシム。
○薩摩、筑前、因幡、彦根四藩兵ヲシテ寺町門、下立賣門以北諸家ノ賣門ヲ守ラシム、（島津忠義以下四家家記）又筑前藩ヲシテ四條隆謌ノ衛兵ヲ出サシム。
○鷲尾隆聚ニ内諭シ、姑ク阪城攻撃ヲ止メ、先ツ大和ヲ鎭撫セシム。
○出雲藩京都警衛兵、將ニ丹波若クハ宇治ヨリ京ニ入ラントス、是日、山陰道鎭撫總督及ヒ久居藩宇治ノ守兵ニ諭シテ、其經過ヲ妨クルコト勿ラシム。
○加藤泰令、京ニ至ル。（加藤泰令家記）
○大將軍、進テ淀城ニ入ル。（東伏見宮家記）
○鷲尾隆聚、五條（大和）代官所ヲ收メ、（六日ニアリ○高野山出張概略）是日、傍近ノ諸藩ニ檄シテ、王事ニ勤メシム。
八日、雄仁親王、一品ヲ辭ス、之ヲ聽シ、舊ニ仍テ聖護院宮ト稱シ、其附弟入道信仁親王（泰宮）ヲシテ照高院宮ト稱セシム、是日、雄仁親王名ヲ嘉言ニ復ス。
○征討ノ令ヲ發スルヲ以テ、錦旗（菊章）二旒ヲ建禮門ニ樹テ、水口藩兵ヲシテ之ヲ守ラシム、翌日、又之ヲ建春、宜秋二門ニ樹テ、宇和島藩兵ニ宜秋門ヲ守リ、水口藩ニ建春門ヲ守ラシメ、新谷

藩兵ヲ以テ、建禮門ノ守兵ニ代フ。

○高松、小濱、松山（伊豫）、大垣、鳥羽、宮津、延岡七藩ノ兵、賊軍ニ從フヲ以テ、其人士ノ九門ニ出入スルヲ禁ス。

○筑前藩兵ヲシテ石藥師、淸和院二門ノ間ヲ警守シ、長門藩兵ニ蛤、下立賣二門ノ間ヲ警守セシム、長門藩、兒兵ナキヲ以テ之ヲ辭ス（○黒田長知家記、熊下日載）

○岡部長寛ノ老臣、藩兵ヲ京師ニ徵サント請フ、命シテ之ヲ徵サシム。

○松平頼聰ノ家臣京ニ在ル者、書ヲ上リ、伏見ノ事、頼聰ノ與リ知ル所ニ非サルヲ辨シ、頼聰ヲシテ上京セシメンコトヲ請フ、乃チ姑ク收邸ノ令ヲ停メ、頼聰ヲシテ自ラ其罪ヲ乞ハシム。

○德川慶勝、其隣近諸藩ノ方嚮ヲ問ハント請フ、之ヲ可ス。

○參與小原忠寛、大垣ニ赴キ、藩主戸田氏共ニ說テ、自効セシメント請フ、之ヲ聽ス。

○德川慶喜ノ東走スルヤ、其臣妻木頼矩（多宮○目付役）ヲ留テ、奏狀及坂城ヲ德川慶勝、松平慶永ニ託ス、是日、二人其奏狀ヲ上ル。

○戸田氏共ノ家臣、氏共伏見ノ變ヲ聞キ、將ニ兵ヲ出シテ京師ノ守衛ニ供セントス、守關兵ニ扼セラレ入ルコト能ハスシテ、藩ニ歸ルヲ稟シ、後命ヲ請フ。

○長門藩、彈藥缺乏スルヲ以テ、小濱藩邸貯フル所ノモノヲ借ラント請フ。

○松浦詮、永井直諒、京ニ至ル、（松浦詮、永井直諒家記）松平慶憲、病ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシムルヲ稟ス、（松平直致家記）出雲藩ノ警衛兵、京ニ至ル。（松平定安家記）

○大將軍、八幡ニ至リ、（東伏見宮家記）勅旨ヲ薩、藝、長、因、津五藩及池田德澄、池田德定ノ兵ニ傳ヘ、戰勞ヲ犒フ、又伊達宗城ノ請ヲ許シ、其軍事參謀ヲ罷ム。

九日、議定三條實美、岩倉具視ヲ以テ、副總裁ト爲シ、（並ニ議定故ノ如シ）嘉言親王、參與德大寺實則ヲ議定ト爲シ、征討大將軍嘉彰親王ヲ以テ、外國事務總裁ヲ兼ネ、實美及ヒ參與東久世通禧、岩下方平、後藤元燁ヲ以テ、外國事務取調掛ヲ兼シム、又德川慶勝、松平慶永、辭官ノ請ヲ聽サス、伊達宗城ト並ニ議定ト爲ス、是日、嘉言親王ノ園城寺長吏ヲ罷メテ、別當ト爲ス。

○大將軍嘉彰親王ニ命シ、坂城ヲ以テ牙營ト爲シ、四方ヲ指揮セシメ、德川慶勝、松平慶永ヲシテ坂城ヲ點撿シ、大將軍ヲ迎ヘシム、又東海道鎭撫總督橋本實梁ニ命シ、隣近ノ諸藩ヲ糾合シ、進テ桑名ヲ討セシム。

○高倉永祜ヲ以テ、北陸道鎭撫總督ト爲シ、四條隆平之ニ副ス、

岩倉具定ヲ東山道鎮撫總督ト爲シ、岩倉具經八千丸○具視ノ子、之ニ副ス。

○松浦詮ニ命シ、守兵ヲ閤崎ニ出サシメ、其京都巡邏ヲ免ス、又柏原藩東久世通禧ノ衛兵ヲ罷メ、郡山藩兵ヲ以テ之ニ代フ。柳澤保申織田信親家記

○舊京都守護職ニ給セシ所ノ廩米ヲ以テ、薩、長二藩ニ賜ヒ、糧食ニ充ツ、又東本願寺光勝ニ命シ、倉ヲ發シテ、米一千五百石、伏見、八幡、橋本ノ兵禍ニ罹リシ者ヲ賑恤セシム。

○徳川茂承、將ニ京師ニ覲セントス、道路紛擾ヲ虞リ、上書シテ、朝命ヲ賜ハンコトヲ請フ。

○森忠典、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。○森忠儀家記

○官軍ノ前隊長門藩兵、大坂城ヲ收ム、時ニ城中火起リ、焚燒翌日ニ至ル。

○初メ鷲尾隆聚、使ヲ紀伊藩ニ遣ハス、藩兵若出ヲ戍スルモノ、之ヲ拘留ス、是日、隆聚、書ヲ與ヘテ、其無狀ヲ數ム、又橋本戍兵、隆聚ニ復書シテ、前日ノ諭告ニ答フ。

○薩摩、長門二藩兵、○時ニ備後尾道ニ在リ、備後福山城阿部正方ノ治所、ヲ徇ヘテ、之ヲ下ス。○鷲下日載阿部正桓家記

○舊幕府老中ノ江戸ニ在ルモノ、伏見ノ戰報ヲ聞キ、諸藩ヲ戒メテ、急ニ西上ノ備ヲ爲シム。

十八卷

明治元年戊辰正月十日ニ起リ十一日ニ至ル

十日、聖護院宮ニ令シ、其修驗道ニ關スル者ハ、管領宮ト稱セシム、又知恩院宮ヲ改テ、華頂宮ト稱ス。

○徳川慶喜、松平容保、久松定昭、松平賴聰、松平定敬、板倉勝靜、大河内正質、及ヒ舊幕府屬僚永井尚志以下二十人ノ官位ヲ褫キ、容保以下六人ノ邸地ヲ沒シ、酒井忠氏、戸田氏共、本莊宗武、内藤政擧、備後守○延岡藩主、食封七萬石、稻垣長行ノ入京ヲ禁ス。

○參與正親町公董ヲ大阪ニ遣シ、大政復古ヲ外國ニ報スルノ國書ヲ東久世通禧ニ付シ、通禧ヲシテ其事ヲ掌ラシム。

○楫取素彦長門藩士、ヲ以テ、參與ト爲シ、岩倉具綱ヲ參與助役ト爲ス。

○徳川慶喜征討ノ令、所謂制札、及ヒ舊幕府領地ヲ以テ直管ト爲ス、ノ布告書所謂農商布告、ヲ三條、荒神口二橋ニ掲ケ、士民ノ賊徒ニ通スルヲ禁ス、又之ヲ諸道ニ掲示ス。

○大ニ兵ヲ列藩ニ徵シ、特ニ織田信學ヲ召ス。

○肥後、筑前、因幡、出雲、郡山、淀六藩ニ令シ、徳川慶喜征討、及ヒ慶喜以下官位褫奪、會津以下邸地沒收、酒井忠氏等入京禁

停ノ令ヲ旁近ノ諸藩、及ヒ衆庶ニ傳布セシム。

○徳川慶勝ニ命シ、舊幕府屬吏等ノ京ニ在ルモノヲ草津ニ押送シテ、之ヲ放タシム。

○因幡藩及ヒ其支藩兵ニ令シテ、東海道鎭撫總督ニ屬セシメ、其橋本警守ヲ罷メ、肥後藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、柏原藩兵ヲシテ山陰道鎭撫總督ニ屬セシメ、其白川越警守ヲ罷メ、尋テ新發田藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

○平戸藩守兵ヲ闇嶺ニ出スヲ以テ、郡山藩ノ向背ヲ稟請ス。

○滋野井公壽、綾小路俊實、兵ヲ近江松尾山ニ集ム、是日、書ヲ上リ、命シテ賊ヲ討センコトヲ請フ。

○池田慶德、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシメ、○池田輝知家記戸田氏良、疾ヲ以テ、上京遲延ヲ謝ス、○戸田氏良家記九鬼隆義、江戸ヨリ京ニ至ラントス、疾ヲ以テ、姑ク藩ニ歸ルヲ稟ス。○九鬼隆義家記

○大將軍、大坂ニ抵ル、本願寺支院ヲ以テ牙營ト爲ス。

○備前藩兵、櫻井忠興ノ向背ヲ問フ、忠興ノ老臣、奉上貳ナキノ證書ヲ致ス。○岡山藩記

○舊幕府老中ノ江戸ニ在ルモノ、討薩表及ヒ檄文ヲ諸藩ニ示シ、○酒井忠寶家記松平直克ニ命シテ、江戸ヲ警守シ、阿部正靜○棚倉藩主、美作守、食封十萬石、ニ薩摩藩ノ支邸ヲ收メシム、又立花種恭○下手渡藩主、出雲守、食封一萬石、ヲ以テ老中格會計總裁ト爲ス。○立花種恭家記

十一日、尊秀親王ニ命シテ、仍鎭西、西山ノ宗派ヲ管セシム。

○石山基正、萬里小路通房ヲ以テ、參與助役ト爲ス。

○朝集會議ノ命ヲ止メ、諸侯ニ申令シ、兵ヲ率ヰテ入覲セシム、因テ在京ノ藩臣ヲシテ各其期ヲ上申セシム。

○安藝、備前、土佐三藩ニ命シテ、福山、○備後、阿部正方ノ治所、松山、○備中、板倉勝靜ノ治所、高松、○讚岐、松平賴聰ノ治所、松山、○伊豫、久松定昭ノ治所、ヲ討シ、且ツ備中、備後、讚岐、伊豫ノ舊幕府領地ヲ收ム、因テ各菊章旗ヲ賜フ、征討府モ亦薩摩、安藝、長門、因幡、土佐、津六藩ニ命シテ、高松、松山伊豫、大垣、○美濃、戸田氏共ノ治所、姫路○播磨、酒井忠惇ノ治所、ヲ討ス、又薩、長二藩兵ヲシテ兵庫ヲ管理セシム。

○滋野井公壽、綾小路俊實、京ヲ去ルノ罪ヲ宥シ、命シテ義兵ヲ召集シ、東海道鎭撫總督ニ屬セシム、又堂上ニ告諭シテ、公壽、俊實ノ擧ニ傚フコト勿カラシム。

○加藤明實、其邑賊兵ノ走路ニ當ルヲ以テ、京市巡邏兵ヲ罷歸シテ、賊ヲ追擊セント請フ、乃チ併セテ其内侍所、建春門ノ守衞ヲ罷メ、明實ヲシテ歸藩セシメ、○明實、十二日途ニ上ル、新谷藩兵ヲシテ代

リテ内侍所及ヒ建春門ヲ守ラシム、又肥後藩ノ橋本警守ヲ罷メ、加賀藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、高取藩兵ノ京市巡邏ヲ罷メ、十津川郷兵ヲ援ケテ、大和ノ殘賊ヲ勦セシム。

○朽木爲綱、將ニ入覲セントス、其家臣京ニ在ルモノ、印票ヲ賜ヒ、以テ道路ノ障礙ニ備ヘント請フ、命シテ、山陰道鎭撫總督ノ指揮ニ從ハシム。

○池田慶德、德川慶喜ノ至親タルヲ以テ、上表シテ罪ヲ待チ、禁門守衛ハ故ノ如クナランコトヲ請フ、池田德澄モ亦同ク表ヲ上ル。

○酒井忠氏ノ父忠義、（右京大夫）兵ヲ率ヰテ召命ニ赴クヲ稟シ、且忠氏ノ爲ニ罪ヲ乞フ、戶田氏共モ亦召ニ應シテ西上スルヲ稟ス。

○牧野誠成、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ京ニ至ラシム。

○是ヨリ先、東海道鎭撫總督橋本實梁ニ命シ、舊大津（近江）代官石原某、（清一郎）信樂（近江）代官多羅尾光弼（織部助）之ヲシテ軍資ヲ供億セシム、（橋本實梁記）是日、實梁、光弼ヲシテ、舊ニ仍リテ、其地ヲ管セシム。

○山陰道鎭撫總督西園寺公望、酒井忠氏ノ大阪ヨリ逃レ歸ルヲ聞キ、之ヲ途ニ要シテ、其情ヲ問フ、是日、忠氏、謝罪書ヲ上ル、乃チ其兵器ヲ收メ、藩ニ還テ謹愼セシム。（西園寺公望家記）

○備前藩ノ老臣日置忠尙、（帶刀）兵ヲ率ヰテ西宮ニ赴ク、是日、其從兵外國人ト神戶驛ニ鬪フ。

○舊幕府老中、榊原政敬ノ東叡山守衛ヲ罷ム、（榊原家記）是日、米國公使館書記官エアルセホルトメン、書ヲ舊幕府老中ニ致シ、上國變動措置ノ方ヲ聞キ、以テ自ラ處セント請フ。

卷十九

明治元年戊辰正月十二日ニ起リ十四日ニ至ル

十二日、詔シテ、島津茂久、淺野茂長、毛利敬親、池田慶德、山内豐範ノ復古ノ勳、及ヒ征討ノ功ヲ賞シ、御劍各一口ヲ賜ヒ、又藤堂高猷ノ戰功ヲ賞シ、茂久等五人ト竝ニ金幣ヲ賜ヒ、以テ藩士ノ戰死者ヲ弔シ、德川慶勝、松平慶永、伊達宗城ノ復古ノ勳、及ヒ細川喜廷、蜂須賀齊裕、井伊直憲、松浦詮、本多康穰、加藤泰秋、龜井茲監、毛利元功、池田德澄、大村純熈、島津忠寬、小出英尙、加藤明實、池田德定、織田信親、市橋長義、池田政禮、久留島通靖、京極高典ノ運勞ヲ賞ス。

○博經親王及ヒ細川喜廷ヲ以テ議定ト爲シ、土倉正彥（修理介備前藩士）、ヲ參與ト爲シ、議定伊達宗城ヲ以テ外國掛ヲ兼シム。

○滋野井公壽、綾小路俊實ノ使者、相良武振書ヲ上リ、官軍ノ徽章ヲ賜ヒ、且東征先鋒ノ命ヲ奉センコトヲ請ヒ、又舊幕府領地ノ租稅ヲ減センコトヲ建議ス、乃チ公壽、俊實ニ命シテ、東

海道鎭撫使ノ約束ヲ受ケ、又舊幕府領地今年租稅ノ半ヲ免セシム。

○徳川茂承、本月三日ノ命ヲ領スルヲ稟シ、且大坂ノ敗兵、和歌山ニ至ルノ狀ヲ陳ス。

○市橋長義、小藩寡兵ヲ以テ、四塚ノ守衞ヲ罷メテ、他役ニ服センコトヲ請フ、朽木爲綱、山陰鎭撫使ノ令ヲ奉シテ、兵ヲ久美濱ニ出スヲ稟ス。

○内藤政擧ノ家臣、尾張、肥後二藩ニ因リ、藩兵徳川慶喜ノ爲メニ野田口ヲ守ルハ、政擧ノ與リ知ル所ニ非サルヲ陳シ、其入京ヲ許サレンコトヲ請フ。

○本田康穰、再ヒ京ニ至ル、(本多康穰家記)秋田映季、(万之助○三春藩主、食封五萬石、)織田長易、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。(三春藩記　織田長易家記)

○征討府、備前、龍野、阿波、丸龜、宇和島五藩及ヒ稻田邦植ニ令シ、高松、姬路、松山(伊豫)、征討ノ軍ニ應援セシメ、又薩摩、安藝、長門三藩兵ヲシテ大阪街市ヲ巡警セシム。

○東海道鎭撫使橋本實梁、阿波藩兵ヲシテ大津信樂舊代官所轄ノ地ヲ保管シ、且舊幕府及ヒ會津、桑名領地ノ旁近ニ在ル者ヲ撿セシム、又膳所藩ニ令シテ、賊兵ノ逃歸スル者ヲ要擊セシム。

○松平定敬ノ老臣、謝罪書ヲ尾張藩ニ致シ、其寛宥ヲ申請センコトヲ求ム。

○徳川慶喜、松平容保、松平定敬、板倉勝靜、酒井忠惇等ヲ率ヰテ、江戶城ニ還リ、東歸ノ情由及ヒ後日ノ形勢ニ因リ、再ヒ西上スルノ意ヲ列藩ニ告ク、又諸郭門ヲ鎖シ、之ヲ各國書記官ニ報ス。

○各國公使、昨日爭鬪ノ故ヲ以テ、兵ヲ出シテ神戶驛ノ兩口ヲ扼シ、兵士及ヒ佩刀者ノ往來ヲ絕シ、又諸藩船艦ノ港内ニ在ル者ヲ拘留ス。

十三日、宣命使(中院通富、三室戶陳光、)ヲ山階、(天智天皇、)後月輪、(光格天皇、)弘化、(仁孝天皇、)後月輪東(孝明天皇、)ノ四陵ニ遣シ、天皇將ニ首服ヲ加ヘントスルヲ告ク。

○假ニ九條道孝ノ第ヲ以テ、太政官代ト爲ス、明日、參與局ヲ官中ニ移ス。

○參與助役西四辻公業ヲ以テ、參與ト爲ス。

○石川成之ニ命シ、鈴鹿嶺(伊勢)及ヒ旁近ノ隘口ヲ扼シ、以テ東海道鎭撫使ノ約束ヲ受ケシム。

○酒井忠義ヲ以テ北陸道先鋒ト爲シ、戶川氏共ヲ東山道先鋒ト爲シ、功ヲ立テ自ラ贖ハシム。

○伊達宗城、藩兵ヲ以テ松山(伊豫)ヲ討シ、且大阪駐在中、其臣某

等ヲシテ參與局ニ候セシメント請フ。
○毛利敬親、書ヲ上リ、家臣木戸孝允ノ召命ヲ謝シ、其疾ニ罹ルヲ以テ、上京ノ期ヲ緩フセンコトヲ請フ。
○徳川茂承、再ヒ大阪敗兵ノ來投スル者ヲ拒絶スルヲ上申ス。
○新發田藩、兒兵寡少ヲ以テ、白川越譽守ノ命ヲ辭ス、尋テ郡山藩兵ヲ以テ、之ニ代フ。
○大村純熙、木下俊愿、京ニ至ル。(大村純熙家記 木下俊愿家記)
○征討府、錦旗奉行四條隆謌ヲ以テ、軍事參謀兼中國四國征討總督ト爲シ、錦旗奉行五條爲榮ヲ監軍ト爲シ、(參與壬生基修、代テ錦旗奉行ヲ兼ヌ、)下參謀大山綱良之ニ屬ス。(東伏見宮家記 大山綱良慶應書)
○鷲尾隆聚、高野山ヲ發シ、遂ニ進テ大阪ニ入ル、(高野山出張概略)是日、徳川茂承、使ヲ遣シ、岩出守兵ノ無狀ヲ謝ス。
○徳川慶喜、板倉勝殷ヲシテ碓冰關(上野碓冰郡)ノ守ヲ嚴ニセシム。
十四日、參與助役長谷信成ヲ以テ、參與ト爲ス。
○内旨ヲ親子内親王ニ下シ、其緩急護衛ノ命ヲ大久保忠寛(越中守)ニ傳諭セシム。(舊幕府書類、)
○安藝、長門、備前三藩ニ令シ、山陽道諸藩ノ向背ヲ問ヒ、且舊幕府ノ領地ヲ撿シ、本年租税ノ半ヲ蠲カシム。
○豐岡藩兵ヲシテ桂御所ヲ守衛セシム。

○宇和島藩ニ令シ、藩士ノ參與ト爲スヘキ者ヲ薦擧セシム。
○池田茂政、日置忠尙、神戸驛爭鬪ノ事ヲ上申ス。
○徳川茂承、老臣水野忠幹(大炊頭、食封三萬五千石、紀伊藩附家老、後新宮藩ト爲ス、)ヲ大阪ニ出シ、情由ヲ陳疏ス。
○谷衞滋(大膳亮ノ山家義生、食封一萬八十二石、)ノ老臣、兵ヲ率ヰテ京ニ至リ、衞滋入覲途ニ上ルヲ稟シ、王事ニ從ハント請フ、豐岡藩兵亦京ニ至ル。
○薩、長二藩、特賜ノ廩米ヲ辭シ、以テ兵備ニ充テント請フ。
○備前藩兵、備中松山城(板倉勝靜ノ治所、)ヲ徇ヘテ、之ヲ下ス。(板倉勝弼家記)
○徳川慶喜、太田資美、水野忠敬、田沼意尊ヲシテ駿府城ヲ警守セシム。
○舊長崎奉行河津祐邦、(伊豆守、)上國ノ報ヲ聞キ、其變アランコトヲ恐レ、援ヲ各國領事ニ請フ、是日、後事ヲ筑、肥二藩士ニ託シ、屬吏ヲ率テ、海路江戸ニ歸ル。

卷二十　明治元年戊辰正月十五日

十五日、天皇、元服ヲ加フ、詔シテ海内ニ大赦ス。
○嘉言親王ヲ二品ニ敍シ、隨身兵仗ヲ賜ヒ、尊秀親王ヲシテ、博經ト復名セシメ、三品ニ敍ス。
○大勢ヲ察シ、世變ニ隨ヒ、新ニ外國ト和親ヲ結フヲ布告ス、

○三道東征ノ師ヲ發スルヲ以テ、奥羽ノ諸藩ニ命シテ、六師ニ會セシム、又宇和島藩ヲシテ、土佐藩、松山伊豫討伐ノ兵ニ應援セシム。

○高槻藩ニ命シ、所管ノ倉廩舊幕府領地ヲ發シテ、兵禍ニ罹リシ者ヲ賑恤セシム。

○尾張藩士、竊ニ徳川慶喜ニ應センコトヲ謀ル者アリ、徳川慶勝、其狀ヲ聞シ、藩ニ歸リ之ヲ鎭定センコトヲ請フ、乃チ慶勝ニ命シテ、城守ヲ嚴ニシ、奸徒ヲ誅勦シ、且旁近ノ諸藩ヲ糾合セシメ、其子德成ヲシテ、代リテ上京セシム。

○酒井忠義、京ニ至リ、途中遷延ノ由ヲ稟シ、且忠氏ノ罪ヲ乞フ、明日、令シテ、忠氏ヲ幽シ、忠義ヲシテ立功自贖セシム。

○建部政世ヲシテ、博經親王、醍醐忠順ノ衛兵ヲ出サシム。○建部授家記

○出雲藩、警衛ノ器仗、未タ備具セサルヲ以テ、姑ク服役ノ期ヲ緩センコトヲ請フ。

○松平武聰ノ老臣、書ヲ上リ、武聰、徳川慶喜至親ノ私情ヲ去テ、將ニ大義ニ徇ハントス、因テ粮食ヲ給シ、兵器ヲ借ランコトヲ請フ。

○小原忠寛、大垣ヨリ至リ、暫ク其藩事ヲ料理センコトヲ請フ、又豫メ、討伐鎭撫ノ規律ヲ定メ、之ヲ諸道ノ軍ニ頒タンコトヲ建議ス。

○京極朗徹、京ニ至ル、京極高徳家記松平慶憲、一柳頼紹、老臣ヲシテ、代リテ京ニ在ラシム。○松平直政一柳頼明家記

○參與外國事務取調掛東久世通禧、佛國全權公使レヲン、ロッシユ、英國特派全權公使兼總領事ハルリー、エス、パークス、伊國特派全權公使コントドラ、トウール、米國辨理公使アル、ビー、ファン、ファルケンボルク、孛國代理公使エム、フォン、ブランド、蘭國公務代理總領事ドテクラフ、ファンボルス、ブロックニ、神戸港ニ會シ、大政復古ヲ報スルノ國書ヲ致シ、且神戸驛爭鬪ノ事ヲ判理ス、參與岩下方平、及ヒ寺島宗則陶藏、吉井德春幸輔○並ニ薩摩藩士、伊藤博文俊介、片野瑜十郎○並ニ長門藩士、陸奥宗光陽之助○紀伊藩士、之ニ參ス、是ニ於テ、各國公使、神戸驛ノ守兵ヲ撤シ、拘留ノ船艦ヲ解ク、乃チ薩、長二藩兵ヲシテ、神戸驛ヲ守ラシメ、阿波藩兵ノ兵庫警守ヲ罷ム。

○徳川慶喜、大久保忠禮ノ甲府城代ヲ罷メ、歸リテ函根關ヲ嚴守セシム、又書ヲ英國公使パークスニ送リ、其書記官前日ノ問ニ答ヘ、條約履行ノ事ニ至リテハ、固ヨリ變替ナキヲ告ク。

十六日、親王ヲ三公ノ上ニ班ス。

○宮、堂上及ヒ諸官人ニ諭シ、舊習ヲ洗除シ、志操ヲ磨勵シ、以テ實用ニ適セシム。

○九條道孝、大炊御門家信、近衞忠熙、近衞忠房、鷹司輔熙、德大寺公純、一條實良、廣幡忠禮、日野資宗、柳原光愛、廣橋胤保、飛鳥井雅典、葉室長順、六條有容、野宮定功、久世通熙、豐岡隨資、伏原宣諭、裏辻公愛ノ朝參ヲ許ス。

○內旨ヲ佐竹義堯ニ下シ、奥羽諸藩ヲ糾合シ、以テ東征ノ師ニ應援セシメ、其召命ヲ止ム。

○戸田氏共、京ニ至リ罪ヲ乞ヒ、且伏見從役者ノ處分ヲ稟ス、明日、令シテ、從役者ヲ幽シ、氏共ヲシテ立功自贖セシム。

○郡山藩、既ニ守兵ヲ闇嶺ニ置ク、且其封內ニ屬スルヲ以テ、平戸藩兵ト相策應スルノ命ヲ得ント請フ、之ヲ聽ス。

○藤堂高邦、各處守衞ノ命ヲ奉シ、且其封桑名ト相近キヲ以テ兵ヲ京師ニ出スコト能ハサルヲ稟ス。

○九鬼隆備、京ニ至ル、（九鬼隆備家記）渡邊章綱、織田信成、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。（渡邊章綱織田信成家記）

○外國事務總裁嘉彰親王、書ヲ各國公使ニ與ヘ、交際ノ事、悉ク舊幕府締結ノ條約ヲ遵守スルヲ諭シ、且其本官ト爲リ、三條實美、東久世通禧、伊達宗城、之ニ副タルヲ告ク。

○佛、英等六國公使、書ヲ東久世通禧ニ致シ、神戸爭鬪處分ノ目ヲ陳論ス。

○備前藩兵、播磨姫路城（酒井忠惇ノ治所）ヲ徇ヘテ、之ヲ下ス。（酒井忠邦家記）

○上杉齊憲、德川慶喜ノ奏狀（丁卯十二月十九日上リシモノ）ヲ得テ、將ニ西上セントシ、福島ニ到ル、是日、慶喜敗歸ノ報ヲ聞キ、直ニ引キ還ル。

十七日、職制ヲ定メ、神祇、內國、外國、海陸軍、會計、刑法、制度ノ七科ヲ置キ、議定之ヲ分督シ、參與之ヲ分掌ス、乃チ議定中山忠能ヲ以テ、神祇事務總督ヲ兼ネ、議定正親町三條實愛、德大寺實則、松平慶永、山內豐信ニ內國事務總督ヲ兼ネ、參與辻維嶽、大久保利通、田宮篤輝ニ內國事務掛ヲ兼ネ、議定副總裁三條實美、議定晃親王、伊達宗城、參與東久世通禧ニ外國事務總督ヲ兼ネ、參與後藤元燁、岩下方平ニ外國事務掛ヲ兼ネ、議定副總裁岩倉具視、議定嘉彰親王、島津忠義（初名茂久）ニ海陸軍務總督ヲ兼ネ、參與廣澤眞臣、西鄕隆盛ニ海陸軍務掛ヲ兼ネ、議定副總裁岩倉具視、議定中御門經之、淺野茂勳、參與西四辻公業

ニ會計事務總督ヲ兼ネ、參與三岡公正、小原忠寛ニ會計事務掛ヲ兼ネ、議定長谷信篤、細川喜延ニ刑法事務總督ヲ兼ネ、參與十時維恵、津田信弘ニ刑法事務掛ヲ兼ネ、參與萬里小路博房ニ制度事務總督ヲ兼ネ、參與三岡公正、福岡孝弟、田中輔ニ制度事務掛ヲ兼シム、又織仁親王、白川資訓（王侍從）ヲ以テ、神祇事務總督ト爲ス、（二人議定ニ非ス、又六人部是愛、樹下茂國、谷森種松ヲ事務掛ト爲ス、亦參與ニ非ス、並ニ特選ナリ、）

○蜂須賀茂韶（淡路守）ヲシテ、其父齊裕（本月六日卒ス、）ノ遺封ヲ襲カシム。（蜂須賀家記）

○鷲尾隆聚、兵ヲ率ヰテ大阪ヨリ至ル、（十六日ニアリ、）是日、隆聚召見シテ、之ヲ慰勞シ、（高野山出張概略）明日、隆聚、及ヒ十津川郷士ニ金穀ヲ賜フ。

○市橋長義ニ命シテ、日ニ朝堂ニ參セシム。

○伊達慶邦ニ命シ、獨力ヲ以テ會津ヲ討セシム、尋テ錦旗二旒ヲ賜フ。

○柳澤保申ニ命シテ、泉涌寺、及ヒ洞嶺ヲ警守シ、且石山基正ノ衛兵ヲ出サシム。

○小出英尙、築城ノ請ヲ聽ス。

○興福寺僧侶ニ命シ、假ニ春日社領、及ヒ舊奈良奉行ノ事務ヲ管セシム。

○井伊直憲、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ桑名征討ノ役ニ從ハシメ、且四塚ノ守衛ヲ罷メント請フ、之ヲ聽ス。

○分部光貞、其疾ヲ謝シ、且兵ヲ京師ニ出スヲ稟ス、光貞、又雲母坂（叡山ノ麓ニ在リ、）警守ノ命ヲ得ント請ヒ、平戸藩、長崎茂木口ノ戍兵ヲ撤セント請フ、皆之ヲ聽ス。

○京極高富、（主膳正○峯山藩主、食封一萬千百四十四石餘、）疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム、是日、命シテ、速ニ兵ヲ京師ニ出サシム。

○櫻井忠興、兵ヲ京師ニ出サントス、本城守備ノ前命アルヲ以テ、其進止ヲ請フ、令シテ之ヲ止ム。

○池田茂政、兵ヲ發シテ、旁近譜第諸藩ノ向背ヲ問フヲ稟ス。

○松平頼聰、興正寺攝信ニ因テ、謝罪書ヲ上ル。

○東海道鎭撫總督橋本實梁、大津代官石原某ヲシテ、舊ニ仍テ其地ヲ管セシム。

○徳川慶喜、戸田光則（丹波守、）松本藩主、食封六萬石、時ニ松平氏ヲ稱ス、）ヲシテ、碓冰關ヲ警守セシム、尋テ又、之ヲ大河内輝照ニ命ス。

巻二十二　明治元年戊辰正月十八日

十八日、議定正親町三條實愛ヲ大阪ニ遣シ、征討大將軍ノ印ヲ嘉彰親王ニ授ケ、且大將軍及ヒ將士ヲ犒フ。

○織田信親ノ請ヲ聽シ、塚原ノ守衛ヲ罷ム。

○山内豐信、書ヲ上リ、征討ノ命令一途ニ出テンコトヲ請フ。

○海陸軍務總督島津忠義、表ヲ上リ、其職及ヒ家臣西郷隆盛ノ參與ヲ辭ス。

○是ヨリ先、肥後藩ニ命シテ、延岡藩兵抗敵ノ狀ヲ責問セシム、是日、肥後藩其供狀ヲ上ル。

○本多忠貫、鷲尾隆聚、其別邑ヲ收メシノ狀ヲ具シ、奉土他ナキノ意ヲ陳ス。

○石川成之、森俊滋、對馬守○三田尻藩主、食封一萬五千石、京ニ至リ、石川成之參謀記、森俊滋家記岩城隆邦、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム、岩城隆彰家記片桐貞篤、兵ヲ京師ニ出シ、仙石久利、讃岐守○出石藩主、食封三萬石、京極高厚、山陰道鎭撫使ノ令ヲ以テ、兵ヲ生野但馬、ニ出スヲ稟ス。

○外國事務總督東久世通禧、書ヲ各國公使ニ贈リ、事務掛若下方平及ヒ伊藤博文等ヲシテ、權ニ兵庫奉行ノ事ヲ管理セシムルヲ告ク。

○是ヨリ先、舊長崎奉行河津祐邦官守ヲ棄テ去ル、時ニ土佐藩士佐々木高行、三四郎、薩摩藩士松方正義助左衛門、等、本地ニ在リ、變ヲ聞キ、馳セテ奉行邸ニ抵リ、僚吏ヲ諭シ、衆庶ヲ安撫シ、肥、筑以下十三藩士ト謀リ、會議所ヲ置キ、權ニ内外ノ事務ヲ管理シ、急ニ狀ヲ京師ニ奏ス、是日、又之ヲ各國領事ニ告ク。

○初メ舊幕府、水戸降人田丸稻之右衛門ノ黨、事ハ元治元年ニアリ、ヲ忍、壬生等十九藩[illegible]ラス、ニ幽ス、是ニ至リ、其罪ヲ赦シ、諸藩ニ令シテ、之ヲ江戸ニ致サシム。

○舊幕府麾下士勝義邦、官軍三道東下スルヲ聞キ、書ヲ沿道ノ諸侯ニ致シテ、其首鼠兩端ヲ持スルヲ責メ、若シ兵ヲ率ヰテ東下スルコトアラハ、直ニ軍門ニ進テ、是非曲直ヲ問ハントスルヲ陳ス。

卷二十三

明治元年戊辰正月十九日ニ起リ二十日ニ至ル

十九日、是ヨリ先、假ニ學習院ヲ以テ金穀出納所ト爲ス、是日、更ニ會計事務裁判所ヲ置ク。

○參與廣澤眞臣、中根師質、神山君風ヲ以テ内國事務掛ヲ兼シメ、眞臣ノ海陸軍務掛ヲ罷ム。

○池田慶德引咎ノ請ヲ慰藉シ、命シテ入覲セシム。

○徳川慶篤ノ奸邪ヲ任用シ、宗家ヲ匡輔スルコト能ハサルヲ責メ、命シテ鈴木重棟、石見、市川弘美三左衛門、等ヲ罰シ、藩屛ノ職ヲ盡サシム、又其泉涌寺守衛ヲ罷ム。

○都下ノ居民、賊徒ノ兵仗器具ヲ藏スルモノハ、悉ク之ヲ市中

取締所ニ納メシム。

○備前藩ノ老臣日置忠尙ヲ召ス。

○永井直諒、其所管舊幕府領地ノ措置ヲ稟ス、命シテ、其舊ニ依リ、且昨年負欠ノ數ヲ錄上セシム。

○九鬼隆義ニ命シ、舊ニ仍テ、神崎川津堤ヲ警守セシム、又稻田邦植ノ家臣三田某等、書ヲ上リ、邦植ノ西ノ宮守衛ヲ罷メ、專ラ高松ノ應援ニ從ハンコトヲ請フ、（征討應援ハ四條隆謌ノ命ニ係ル、）之ヲ聽ス。

○毛利敬親、及ヒ廣封、阪城討伐ノ命ヲ拜シ、不日ニシテ軍ヲ發スルヲ稟ス。

○稻葉久通、織田長易、兵ヲ京師ニ出ス、長易又鷲尾隆聚ノ令ヲ以テ、守兵ヲ慈恩寺村（大和伊賀越街道ニアリ、）ニ置クヲ稟ス。

○是ヨリ先、金穀出納所、三井某（三郎助、）等三人、（島田八郎左衛門、小野善助、並ニ京都ノ商、）ニ諭シ、金穀ヲ豫備シテ、不時ノ需ニ供セシム、是日、某等、金壹萬圓ヲ献ス。

○脇坂安斐、谷衛滋、永井直哉、京ニ至ル。（脇坂安斐、谷衛滋、永井直哉家記）

○長門藩兵、松平慶倫ノ向背ヲ問フ、是日、慶倫ノ老臣、連署シテ、大義滅親、奉上貳ナキノ誓書ヲ致ス。（松平慶倫家記、蟄下日載）

○德川慶喜、諸藩ノ老臣ヲ江戶城ニ召シ、三日以後ノ事體、及ヒ其心情ヲ陳シ、諸藩ニ屬シテ、之ヲ救解セシム、松平容保、松平定敬、慶喜ヲ勸メテ再擧ヲ謀ラシム、慶喜從ハス。

二十日、伊達宗城、後藤元燁、大坂ヨリ至リ、（兵庫ニアリ、）各國公使神戶ノ事ヲ論セシ書ヲ上ル、廷議遂ニ其言ニ從フ、是日、東久世通禧ニ命シ、之ヲ各國公使ニ報セシム、又之ヲ池田茂政ニ諭ス。

○戶田忠至ヲ以テ、參與、兼會計事務掛ト爲シ、參與楫取素彥ヲ以テ、制度寮事務掛ヲ兼シム。

○參與酒井忠溫ヲ罷メ、北陸道鎭撫使ニ隨ハシム、小原忠寛大垣ニ赴キ、官軍ノ糧食ヲ措辨セント請フ、之ヲ聽ス。

○是ヨリ先、竹澤邦光（寛三郎、淡路郷士、）ヲ美濃ニ遣ハス、是ニ至リ、郡上藩ニ令シ、邦光ト謀リ、旁近ノ舊幕府領地、及ヒ士民ノ向背ヲ按撿シ以テ鎭撫使ヲ迎ヘシム。

○加藤明實、封內既ニ定ルヲ以テ、再ヒ京ニ至ル、乃チ復タ內侍所、及ヒ建春門ヲ守ラシメ、新谷藩ノ守衛ヲ罷ム。

○綾部藩ニ令シ、舊ニ仍リテ、塚原口ヲ守衛セシム、平戶藩、征討府ノ令ヲ以テ、闇嶺ノ守兵ヲ奈良ニ移スヲ稟ス。

○熾仁親王、牛車ノ永宣旨ヲ辭ス。

○松平慶倫、書ヲ上リ、備前藩兵來討ノ聞エアルヲ稟訴シ、其奉命ノ狀ヲ得ンコトヲ請フ。

○本多忠鄰、京ニ至ル、（本多忠明家記、）大河內信古、病ヲ謝シ、遠山友祿、

族アリ、且裏ニ居ルヲ以テ、之ニ老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム、秋元禮朝ノ家臣、河内ノ別邑ニ在ル者、役夫ヲ發シテ、事ニ從ハント請フ。

○北陸道鎮撫總督高倉永祜、副總督四條隆平、京師ヲ發ス、酒井忠義兵、先鋒タリ、淺野茂長兵、之ニ屬ス。(北陸道先鋒記)

○中國、四國征討總督四條隆謌、明石城ニ至ル。(松平直致家記)

○德川慶勝ノ藩ニ赴クヤ、清洲驛(尾張)ニ駐リ、成瀬正肥(隼人正、食邑萬五千石、尾張藩附家老、後犬山藩ト爲ル、)等ト謀リ、誅奸ノ策ヲ定メ、是日、藩城ニ入ル、諸臣皆上謁ス、乃チ黨首渡邊某(新左衛門)、榊原某(勘解由)、石川某(内藏允)ヲ拘シテ、自殺セシム、尋テ其黨塚田某(愛四郎)以下十一人、亦自殺ヲ命ス、其餘禁錮退隱、各差アリ、是ニ於テ藩論始テ定ル。

○松平賴聰、征討ノ令下ルト聞キ、罪臣二人(小夫兵庫、小河又右衛門)ノ首級ヲ征討府ニ獻シ、(使臣四條隆謌ノ營所ニ詣ルハ二十四日ニ在リ、)城ヲ出テ、佛寺(淨願寺、)ニ屛居ス、是日、土佐藩兵、高松城ヲ徇ヘテ、之ヲ下ス。(松平賴聰家記)

○初メ花山院家理(前左中將、家威ノ父)罪アリ、河内ニ屛居ス、客臘、西海道鎮撫ノ内旨ヲ受クルト稱シ、浪徒ヲ率ヰテ、周防室積港ニ至ル、其黨ノ赤馬關(長門)ニ在ル者、肥後天草、豐前四日市ヲ鹵掠シ、遂ニ馬城峯(豐前ニ在リ、)ニ據リ、旁近ノ諸藩ニ移檄シテ、家理ノ義兵ヲ擧クルヲ報ス、是日、長門藩、吏ヲ室積ニ遣リ、家理ヲ拘留ス、長崎會議所モ亦、兵隊ヲ天草ニ遣リ、之ヲ鎮ス。

巻二十四

明治元年戊辰正月二十一日ニ起リ二十四日ニ至ル

二十一日、議事條規、及ヒ朝參放衙時限、休暇日ヲ定ム。

○鎮臺ヲ大和ニ置キ、參與久我通久ヲ以テ之ヲ督ス、十津川兵之ニ屬ス、又東園基敬(中將)ヲ參與ト爲ス。

○池田慶德、支族池田喜通([illegible]、時ニ松平兵[illegible]、[illegible]、後[illegible]ト爲ル、)ノ爲ニ上請スル所アリ、喜通ニ命シテ入覲セシム、又小笠原貞寧、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシメ、且兵士入京ノ命ヲ請フ、是日、命シテ、兵ヲ京師ニ出サシム。

○加藤明實、大河内信古、東海道鎮撫總督橋本實梁ノ令ヲ以テ、兵ヲ桑名ニ出スヲ稟ス、建部政世、征討府ノ令ニ因リ、姫路征討ニ應援スルヲ以テ、在京ノ兵ヲ撤回セント請フ、之ヲ聽ス。

○毛利敬親、及ヒ廣封、上表シテ、復官ノ恩ヲ謝シ、藩内兵餉ノ餘ヲ承クルヲ以テ、入覲遲緩スルヲ稟ス、又其占有スル所ノ、豐前石見ノ地(事ハ慶應二年ニアリ、)ヲ上ラント請フ。

○松平武聰、德川慶喜ノ至親タルヲ以テ、書ヲ上リ、屛居シテ罪ヲ待ツヲ稟シ、且老臣ヲシテ、代リテ京ニ至ラシム。

○東山道鎭撫總督岩倉具定、副總督岩倉具經、京師ヲ發ス、大垣藩兵先鋒タリ、尾張、土佐二藩兵、及ヒ山科多田鄉兵、之ニ屬ス。（東山道總督府日記）

○外國事務總督東久世通禧、佛、英、伊、孛、蘭、米六國公使ニ移書シ、其國人ノ兵器船艦ヲ德川慶喜、及ヒ其臣屬ニ、販賣貸與スルヲ禁ス。

二十二日、鎭臺ヲ大阪、及ヒ兵庫ニ置キ、醍醐忠順（大納言）ヲ以テ、參與、兼内國外國事務掛ト爲シ、外國事務總督伊達宗城ト共ニ、大阪鎭臺ヲ督シ、外國事務總督東久世通禧ノ軍事參謀ヲ罷メ、兵庫鎭臺ヲ督セシム、忠順、外國事務掛ヲ辭ス。

○大宮御所經營課金、二月ヲ限リ之ヲ出サシム。

○松平直克ヲ召ス。

○郡山藩ヲシテ植松雅言、西洞院信愛、愛宕通旭、東園基愛、五辻安仲ノ衞兵（各二人）ヲ出サシム。（嶋澤保中家記）

○德川茂承、書ヲ上リ、大阪ノ敗兵ヲ討セス、上京遲緩ノ情由ヲ陳謝シ、更ニ入京ノ命ヲ請ヒ、且藩兵ヲ以テ、東征ノ先鋒ト爲サンコトヲ請フ、是日、並ニ之ヲ聽ス。

○松平定安、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシメ、且出雲旁近地方、撿查ノ命ヲ得ンコトヲ請フ。

○松平慶倫、再ヒ書ヲ上リ、備前藩兵、朝命ヲ齎シ來リテ、一藩ノ向背ヲ問ヒ、且其東上ヲ止ムルヲ以テ、發途ノ期ヲ愆ルヲ稟シ、入覲ノ朝命ヲ得ント請フ。

○竹澤邦光、美濃笠松（舊代官所）ヲ收メ、其狀ヲ上ル。

○澤宣嘉、（前主水正）長門ヨリ至ル。

○備前藩兵、津山城（美作）ニ至リ、其向背ヲ問フ、城主松平慶倫、及ヒ老臣等、奉命他ナキノ證書ヲ呈ス。（松平康倫家記）

○米國公使館書記官アルセ、ホルトメン、書ヲ德川慶喜ニ致シ、討薩表（三日ニ見ユ）ヲ得テ、之ヲ本國政府ニ報セント請フ、是日、之ヲ贈ル。

二十三日、議定嘉言親王ヲ以テ、内國事務總督ヲ兼ネ、博經親王ニ會計事務總督ヲ兼ネシメ、寺島宗則、町田久成（民部）、五代友厚（才助○並ニ薩摩藩士）ヲ參與、兼外國事務掛ト爲シ、宗則ヲ兵庫ニ、久成ヲ長崎ニ派遣シ、木村貞通（得太郎○肥後藩士）ヲ參與、刑法事務掛ト爲ス。

○比年來、人ヲ道路ニ暗殺スル者多キヲ以テ、令シテ之ヲ嚴禁ス。

○參與、會計事務掛三岡公正、紙幣製造ノ議ヲ上ル、是日、之ヲ可シ、公正ヲシテ其事ヲ掌ラシム。

○池田慶德ノ請ヲ允シ、山陰道公文布達ノ事ヲ專掌セシメ、松

平定安ノ分管ヲ罷ム。
○本願寺光澤、近畿ノ門徒ヲ募化セント請フ、之ヲ聽ス。
○東本願寺光勝、（時ニ近江ニアリ、）書ヲ上リ、滋野井公壽、其門徒兵及ヒ糧食ヲ徴求セシノ狀ヲ稟ス、令シテ、專ラ東海、北陸二道官軍ノ糧食ヲ措辦セシム。
○池田茂政、疾ヲ以テ、其弟政實（備中鴨方藩主、）ヲシテ、松山征討ノ事ヲ督セシメシヲ稟シ、且備中、美作諸藩以下歸順ノ狀、及ヒ松山（備中、）藩ノ老臣熊田矩芳（恰、）自刄ノ事ヲ奏ス。
○織田信成、鷲尾隆聚ノ令ヲ以テ、兵ヲ慈恩寺村ニ出スヲ稟ス。
○伊東長誶、京ニ至ル、（伊東長誶家記、）松平忠和、三浦弘次、（備後守、美作勝山藩主、食封二萬三千石、）五島盛德、（飛驒守、福江藩主、食封一萬二千六百石、）疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム、（松平忠和、三浦顯次、五島盛德家記、）
○東海道鎭撫總督橋本實梁、四日市（伊勢、）ニ至ル、（昨日ニアリ、）松平定敎、（萬之助、定敬ノ養子、時ニ年甫テ十二、）及ヒ其老臣松平某（帶刀、）等、總督府ニ詣リ、罪ヲ謝シ降ヲ乞フ、實梁、之ヲ納レテ法泉寺ニ幽シ、龜山（伊勢、）藩兵ヲシテ之ヲ監守セシム、（東海道戰記、）
○山陰道鎭撫總督西園寺公望、宮津城ニ至ル、（二十二日ニアリ、）其老臣沼野某（半太夫、）等、奉命他無キノ證書ヲ呈ス、（時ニ城主本莊宗武、父宗秀、共ニ江戶ニ在リ、西園寺公望家記、）

○德川慶喜、大給乘謨ノ請ヲ許シテ、其陸軍總裁ヲ罷ム、（[illegible]シ、○大給恒家記、）
二十四日、成瀨正肥、（尾張犬山、三萬五千石、）竹腰正舊、（[illegible]三萬石、○並ニ尾張藩附家老、）安藤直裕、（飛驒守、紀伊田邊、三萬八千石、）水野忠幹、（紀伊新宮、三萬五千石、○並ニ紀伊藩附家老、）中山信徵、（備中守、常陸松岡、二萬五千石、○水戶藩附家老、）ヲ藩屛ニ列ス。
○參與土倉正彥ヲ以テ、軍務掛ヲ兼シム。
○特旨ヲ以テ、島津忠義、毛利敬親ニ金各二萬兩、德川德成、淺野茂長、松平茂昭、山內豐範、伊達宗德ニ各一萬五千兩ヲ賜フ。
○綾小路俊實ニ命シテ、大原氏ニ復歸シ、重德ノ嗣タラシム。
○宇和島藩ノ宜秋門、及ヒ御旗守衞ヲ罷メ、阿波藩ヲ以テ之ニ代フ。
○郡山藩ニ令シ、東園基敬ノ衞兵ヲ出サシム、（[illegible]家記、）
○是ヨリ先、清水谷公考、（侍從、）金ヲ叡山ニ募ル、是日、召シテ之ヲ責メ、其罪ヲ問ハス。
○島津忠義、英國ノ醫生ヲ京ニ召シ、兵士ノ瘡痍ヲ治セント請フ、之ヲ聽ス。
○織田長易、京ニ至ル、（織田長易家記、）
○中國、四國追討總督四條隆謌、姬路城ヲ檢シ、備前藩ニ命シテ之ヲ監守セシム。

○浪徒ノ馬城峯ニ據ルヤ、長門藩兵、（小倉ニ在ル者、）擊テ之ヲ平ケ、旁近ノ諸藩ニ移檄シテ、其逋逃者ヲ逮捕セシム。

○德川慶喜、再ヒ榊原政敬ヲシテ、東叡山ヲ警守セシム。（○榊原政敬家記）

卷二十五

明治元年戊辰正月二十五日ニ起リ二十六日ニ至ル

二十五日、澤宣嘉ヲ以テ、參與兼九州鎭撫總督、外國事務總督ト爲シ、（澤宣嘉履歴書）木戶孝允ヲ總裁局顧問ト爲シ、鷲尾隆聚、及ヒ伊藤博文、林通顯（玖十郎○宇和島藩士）ヲ參與ト爲シ、博文ヲ以テ、外國事務掛ヲ兼ネ、兵庫ニ駐在シ、通顯ニ海陸軍務掛ヲ兼シム。

○苞苴、私謁ノ禁ヲ嚴ニス。

○黑田齊溥、鍋島茂實ニ命シ、舊ニ依リテ、長崎ヲ警守セシム。

○上杉齊憲、南部利剛、佐竹義堯ニ命シ、伊達慶邦ニ應援シテ、會津ヲ討セシム。

○分部光貞ノ請ヲ聽シ、在京ノ兵ヲ撤シテ、專ラ叡山旁近ヲ警守シ、小泉藩兵ニ八幡山ノ間道ヲ警守セシム、又因幡藩ニ長谷信篤ノ衛兵ヲ出サシム。（○池田慶知家記）

○參與大久保利通、遷都ノ議ヲ上ル。

○是ヨリ先、本多忠貫、（舊山田奉行、）伊勢太廟及ヒ三別宮遷宮ノ經費ヲ稟請ス、是ニ至リ、再ヒ其例規ヲ陳シ、且三別宮ノ費ヲ獻センコトヲ請フ。

○德川德成、柳生俊益、京ニ至ル、（德川義宜、柳生俊郎家記）黑田齊溥、疾ヲ以テ、其子慶贊（下野守、）ヲシテ入覲セシメントスルヲ稟ス。

○德川慶喜、江戶ノ諸郭門ヲ開キ、之ヲ各國書記官ニ報ス。

○佛、英、伊、孛、蘭、米六國公使、其國人ニ局外中立ヲ布告ス。

二十六日、大村純熈ニ命シ、九州鎭撫總督ト謀リ、長崎ヲ警守セシム。

○是ヨリ先、高松實村、（左衛門權佐○保實ノ子、）私ニ京師ヲ去リ、（本月十七日ニアリ、）兵ヲ甲、信ノ間ニ募リ、舊幕府ノ領地ヲ收メ、諸藩ノ向背ヲ問フ、父保實、其逋走ヲ稟ス、是日、保實ニ命シテ、之ヲ召還ス、（高松保實家記）

○木下利恭、京ニ至ル、（木下利恭家記）青山忠敏、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム、（青山忠敏家記）織田長易、大和鎭臺ヲ置クヲ以テ、其事ニ從ハンコトヲ請フ。

○德川慶喜ノ江戶ニ歸ルヤ、譜第諸藩及ヒ其臣僚、或ハ防守ノ說ヲ持シ、或ハ恭順ノ事ヲ說キ、議論紛作統歸スル所ナシ、前橋藩、竊ニ同志者ト議シ、慶喜ヲシテ謝罪セシメ、以テ社稷ヲ存センコトヲ謀ル、岩倉具視之ヲ聞キ、意ヲ松平慶永ニ授ケ、松平直克等ヲ勸勵シテ、其實ヲ擧ケシム、慶永及ヒ中根師質、乃チ書ヲ直克ト其老臣某トニ致シ、謝罪ノ事ヲ陳論ス。

○長門藩、征討總督ノ令ヲ以テ、山陽ノ兵ニ轉シテ、松山征討ノ先鋒タルヲ稟ス。

○北陸道鎭撫總督高倉永祜、小濱ニ抵ル、城主酒井忠氏ノ老臣、奉命他ナキノ證書ヲ呈ス。酒井忠藏家記

○島津久光、使ヲ遣リ、檄ヲ西海道諸藩ニ傳ヘテ、其方向ヲ問フ。

○德川慶喜、公議所ヲ置キ、其下ニ令シテ各所見ヲ陳シ、家政ヲ匡救セシム。

卷二十六

明治元年戊辰正月二十七日ニ起リ二十九日ニ至ル

二十七日、太政官代ヲ二條城ニ移ス。

○參與大久保利通ヲ以テ、總裁局顧問ト爲ス。

○大坂鎭臺ヲ改テ裁判所ト爲シ、醍醐忠順ヲ以テ、總督ト爲シ、伊達宗城之ニ副ス、忠順參與內國事務掛、宗城議定外國事務總督故ノ如シ。又宗城ニ命シ、其臣二人ヲ選テ、忠順ニ從ヒ、且其衞兵ヲ出サシム、又岸和田藩ニ命シ、大坂市中ヲ巡警セシム。

○大ニ東征ヲ議スルヲ以テ、大將軍嘉彰親王ヲ召還ス、又滋野井公壽ヲ召ス。

○東海、東山、北陸三道鎭撫使、及ヒ淺野茂長、池田茂政、池田慶德、龜井茲監、山內豐範、伊達宗德遠江守○宇和島藩主、食封十萬石ニ命シ、舊幕府領地ノ東海、東山、北陸、山陽、山陰、南海ニ在ル者ヲ捨シテ、其人民ヲ安撫シ、圖籍ヲ上ラシム。

○諸藩ノ九門警衞及ヒ征討兵ヲシテ、菊章ノ旗幕ヲ用ヒシム、又諸侯ノ松平氏ヲ冒稱スル者ハ、其本氏ニ復セシム。

○池田茂政ニ令シ、其沒收セシ所ノ舊幕府貢米ヲ大坂ニ輸送セシム。

○松平慶倫ノ請ヲ聽シ、命シテ、入覲セシメ、又之ヲ池田茂政ニ諭ス。

○是ヨリ先、舊幕府、細川慶順ヲシテ豐後ノ四郡速見、大分、直入、國東、ヲ管シ、且日田、天草ヲ守衞セシム、是日、慶順其去就措置ヲ稟ス、令シテ、姑ク其舊ニ仍ラシム。

○毛利敬親、其子廣封ヲシテ兵ヲ率井テ、命ヲ闕下ニ待シムルヲ稟ス、又上書シテ、諸藩ノ方向ヲ一ニシ、復古ノ基本ヲ立テ、而シテ後、德川氏ヲ處置センコトヲ建議ス。

○德川慶喜、書ヲ松平慶永、山內豐信等ニ致シ、其素志ヲ陳シテ、解救ヲ請フ、是日、慶永、其書ヲ上ル。

○池田茂政、松平武聰ノ家臣尾關某金八郎、等、大坂ヨリ敗歸シ、其封內金岡港ニ抵ルヲ以テ、之ヲ拘留スルヲ稟ス。

○出雲藩兵、京ニ至ル、〔松平定安家記〕伊東長裕、兵ヲ姫路ニ出スヲ稟ス。

○東山道鎭撫總督岩倉具定、近江三上〔遠藤胤城ノ治所〕ヲ收メ、加藤明實ヲシテ其地ヲ保管セシム。〔東山道總督府達留〕

○中國四國征討總督四條隆謌、大坂ニ歸ル。〔諸道記、綱略〕

○土佐藩兵、伊豫松山城〔久松定昭ノ治所〕ヲ徇ヘテ、之ヲ下ス。〔久松定謨家記〕

二十八日、百官ヲ會シテ、大ニ東征ヲ議ス、議遂ニ決ス。

○參與井上馨ヲ以テ、外國事務掛ト爲シ、九州鎭撫使ニ屬セシム。

○毛利敬親ニ命シ、姑ク豐石古有ノ地ヲ管セシム。

○大將軍嘉彰親王、大坂ヨリ凱旋シ、錦旗節刀ヲ上リ、其狀ヲ奏ス、四條隆謌、五條爲榮等從フ。

○松平定安、其管地隱岐國租税貢納ノ方ヲ稟請ス、是日、令シテ、金ハ會計裁判所ニ納レ、穀ハ大坂ニ輸セシム。

○池田茂政、米五千苞ヲ獻セント請フ、之ヲ聽ス。

○山名義濟〔主水助、交代寄合ノ後、藩屏ニ列シ、付屬諸侯ト稱ス〕ノ請ヲ聽シ、命シテ、入覲セシム。

○長門藩、時々兵ヲ二條河東ニ操シ、且新選組ノ兵器、東本願寺ニ在ル者ヲ得ンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○伊達宗城、大坂ノ舊奉行邸、及ヒ桑名邸ヲ假ランコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○松平武聰、再ヒ書ヲ上リ、其臣隸伏見ノ事ニ與ルヲ以テ、屏居シテ罪ヲ待ツヲ稟シ、且其情由ヲ陳疏ス。

○酒井忠義、疾未タ痊エサルヲ以テ、再ヒ從軍遲延ヲ稟ス。

○酒井忠惇ノ老臣書ヲ上リ、忠惇ノ父忠績ヲシテ上京セシメ、且藩兵ヲ出シ以テ謝罪ノ實効ヲ表センコトヲ請フ。

○柳澤保申、再ヒ京ニ至ル。〔柳澤保申家記〕

○東海道鎭撫總督橋本實梁、桑名城ヲ收メ、尾張、津二藩ニ命シテ之ヲ管セシム。〔東海道先鋒記、徳川義宜家記〕

二十九日、吉井徳春ヲ以テ參與兼海陸軍務掛ト爲ス。

○福知山、出石、龍野三藩ニ命シテ、假ニ舊幕府領地ノ其封内傍近ニ在ルモノヲ管セシム、尋テ福知山、出石二藩ヲ罷ム。

○肥後、筑前、島原三藩ニ令シテ、花山院家理ノ餘黨ヲ追捕セシム。

○會計事務總督中御門經之、淺野茂勳、京坂ノ豪商ヲ召シ、度支ノ事ニ服セシムルヲ諭シ、且紙幣準備金三萬兩ヲ課ス。

○東海、東山二道鎭撫使ニ令シ、横濱居留ノ外國人ト釁隙ヲ開クコト勿ラシム。

○池田茂政、再ヒ松山降伏ノ狀及ヒ其藩情ヲ陳シ、且措置ノ目ヲ稟請ス。

○是ヨリ先、島津忠義、兵ヲ日田、長崎地方ニ出シテ、之ヲ鎮撫ス、是日、其兵ヲ撤スルヲ稟ス、青山忠敏モ亦山陰道鎮撫使所屬ノ兵ヲ罷ムルヲ稟ス。

○徳川慶喜、再ヒ書ヲ淺野茂勳、松平慶永等ニ致シ、退隱ノ意ヲ陳シテ、救解ヲ請フ、是日、慶永、其書ヲ上ル。

○松平定安、京ニ至リ、大村純熈、京ヲ辭シテ長崎ニ赴ク、本莊道美、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシメ、三宅康保疾ヲ以テ、上京ノ期ヲ延ヘント請フ。（松平定安以下各家家記）

○初メ徳川慶勝、使ヲ勢、濃、參、遠、駿、信、野七國ニ遣シ、諸藩以下ノ向背ヲ問ヒ、其老臣ヲシテ名古屋ニ來會セシム、吉田、岡崎二藩、首トシテ之ニ應シ、倶ニ其事ヲ助ク、是日、松平乘秩ノ老臣連署シテ勤王ノ誓書ヲ致ス。

○徳川慶喜、榊原政敬ヲ以テ、甲府城代ト爲ス。

是月、酒井忠經、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。（酒井忠經家記）

卷二十七

明治元年戊辰二月朔日ニ起リ三日ニ至ル

○二月

朔日、大和鎮臺ヲ廢シ、久我通久ヲ以テ大和鎮撫總督兼内國事務掛ト爲シ、（參與ノ職ニ準ス）管理撫御ノ方ヲ授ケ、總裁局顧問木戸孝允ヲ以テ外國事務掛ヲ兼シメ、大坂ニ派遣ス。

○再ヒ松平慶倫ヲ京師ニ召ス。

○渡邊章綱、和泉海岸警守（舊幕府ノ命ニ依ル）ノ撤否ヲ稟ス、是日、令シテ之ヲ撤ス。

○寶曆年間、舊幕府、天文方ヲ江戸ニ置キ、曆法授時ノ事ヲ管ス、是日、土御門晴雄、（陰陽頭）上書シテ、之ヲ京師ニ復セント請フ、之ヲ聽ス。

○佐竹義堯ノ老臣京師ニ在ルモノ、書ヲ上リ、本藩ノ地勢節候等ヲ陳シテ、討會應援ノ事ヲ申稟ス、是日、令シテ再命ヲ俟タシム。

○日置忠尙、再ヒ神戸爭鬪ノ事ヲ上陳ス。

○池田慶德、支族ノ江戸ニ在ルモノヲシテ、力ヲ王事ニ効サシメント請フ。

○關長克、兵ヲ出シテ、備中巡撫ノ備前藩兵ニ屬セシムルヲ稟ス。

○丹羽氏中、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシムルヲ稟ス。（辨事局記）

○東山道鎮撫總督岩倉具定、大垣（美濃）ニ抵ル。（東山道總督日記）

○是ヨリ先、池田慶德、使ヲ出雲ニ遣シ、松平定安ノ向背ヲ問フ、定安既ニ入覲ノ途ニ就クニ會ス、留守ノ老臣等、奉命貳ナキノ證書ヲ呈ス、山陰道鎭撫總督西園寺公望、鳥取城ニ抵ルニ及ヒ、慶德再ヒ使ヲ遣シ、兵ヲ率キテ之ヲ訊問ス、是日、定安ノ子直應齊彩麿、及ヒ老臣等、書ヲ呈シテ他ナキヲ矢フ。○松平定安池田藩知家記

○小笠原長國、佐渡守○唐津藩主、食封六萬石老臣ヲ長崎會議所ニ遣リ、其子長行壹岐守○舊幕府老中罪ヲ犯スヲ以テ、之ヲ廢シ、立功自贖センコトヲ請フ。

○德川慶喜、阿部正靜ヲ陸奥白河ニ移封シ、仍棚倉城ヲ管セシム。

○松平慶永、慶喜ロニ恭順ヲ稱スト雖トモ、曾テ反責ノ意ナキヲ以テ、書ヲ致シテ、其形迹ノ叛逆ニ渉ルモノヲ數ヘ、速ニ謝罪ノ實ヲ表シテ、朝命ヲ待タンコトヲ勸ム。

○太田資美、慶喜ノ令ヲ以テ、駿府城ヲ守リ、疾ヲ稱シテ、朝召ヲ辭ス、慶喜謝罪ノ狀ヲ聞クニ及ヒテ、形迹ノ嫌アランコトヲ恐レ、是日、從兵ヲ留メテ、其邑ニ歸ル。

二日、近衞忠房ヲ以テ神祇事務總督ト爲シ、鷹司輔熙ヲ制度寮事務總督ト爲シ、小松清廉ヲ總裁局顧問ト爲シ、顧問參與大久保利通ノ顧問ヲ罷ム。

○兵庫鎭臺ヲ改メテ、裁判所ト爲シ、東久世通禧ヲ以テ總督ト爲ス、又長崎裁判所ヲ置キ、九州鎭撫總督澤宣嘉ヲ以テ裁判所總督ヲ兼シム。二人參與外國事務總督並ニ故ノ如シ、

○池田茂政及ヒ日置忠尚ニ命シ、外人ト神戸驛ニ爭鬪セシ隊長ヲ兵庫ニ押送シテ自刄セシメ、五日間ヲ期ス、且忠尚ニ謹愼ヲ命ス。

○備前藩兵ノ西ノ宮警守ヲ罷メ、久留米藩兵ヲ以テ之ニ代フ、又郡山藩ノ西洞院信愛ノ衞兵ヲ罷メ、愛宕通旭ノ衞兵ト爲ス、柳澤保申家記尋テ備前藩兵ヲ京師ニ徵ス。

○大村純熙ニ申命シ、長崎警守ノ事ハ、裁判所總督ノ指揮ヲ受ケシム。

○橋本關門警守ノ加賀藩兵、外國人經過措置ノ事ヲ稟請ス。

○三浦弘次、藩兵ヲ發シテ、美作駐在ノ備前藩兵ニ屬スルヲ稟ス。

○鍋島茂實、其父齊正ニ代リテ京ニ至ル。鍋島直大家記

○松平喜德、書ヲ上杉齊憲ニ致シ、其父容保ヲ救解センコトヲ請フ。

三日、天皇、太政官代ニ臨ミ、三職以下群臣ヲ會シテ、親征及ヒ大總督ヲ置クヲ議ス、議既ニ決ス、乃チ列藩ニ詔シテ、軍備ヲ爲サシム、日晡、東駕宮ニ歸ル。

○職制ヲ更定シ、七科ヲ改メテ、總裁局、及ヒ神祇、內國、外國、軍防、會計、刑法、制度ノ七局ト爲シ、總裁局ニ總裁、輔弼、顧

間、辨事、史官、筆生、官掌ヲ置キ、七局ニ督、輔、判事、書記、筆生、局掌ヲ置ク。(局判事アリ、書記闕ク)

○議定中山忠能、正親町三條實愛ヲ以テ輔弼ヲ兼ネ、參與萬里小路博房ニ制度事務局輔ヲ兼シム。

卷二十八 上 明治元年戊辰二月三日

三日、諸藩ニ令シ、元治甲子以後諸國ノ警守、去年十二月來宿衞徴發ノ兵額、及ヒ在藩ノ見兵等ヲ録上セシム。

卷二十八 中

卷二十八 下

○阿波藩ニ令シテ、岩屋(淡路津名郡ニアリ、○蜂須賀家記)砲臺ノ警守ヲ嚴ニシム。

○安部信發疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ京ニ至ラシム、(内國事務局書)堀田正養ノ家臣書ヲ上リ、正養入覲ノ遲延ヲ謝ス。

○徳川慶喜、黑田直養ノ新橋(谷下)警守ヲ罷メ、前田利同ニ代リテ、上野山内ヲ守ラシム。(○黑田直養家記)

卷二十九 明治元年戊辰二月四日ニ起リ五日ニ至ル

四日、大原重德ニ命シテ、内宮ノ事ヲ管シ、戸田忠至ニ宮中度支ノ事ヲ管セシム。

○臼杵、三日月二藩ニ命シテ、二條城ノ獨門ヲ警守シ、大溝藩ニ二條城二條口ノ消防ヲ掌ラシメ、([illegible]大溝藩記)林田藩ノ醍醐忠順ノ衞兵ヲ罷ム、(建部政家記)又紀伊藩ニ令シテ、苫ガ島(淡路津名郡紀伊海峽ニアリ)砲臺ノ守備ヲ嚴ニセシム。

○本多忠貫ノ請ヲ允シ、伊勢太廟ヲ守衞シ、及ヒ其屬地ヲ管スル、皆故ノ如クナラシム。

○加藤明實、遠藤胤城ノ封地ヲ管スルヲ以テ、東海道ノ先鋒ヲ辭スルヲ稟ス。

○久松勝吉、宗家久松定昭ノタメニ哀ヲ乞ヒ、定昭及ヒ其家臣ノ謝罪書ヲ上ル。

○細川喜延、其支族細川利永(若狹守○肥後藩支封、後高瀬藩ト稱ス、食邑三萬五千石)ヲ京師ニ召スヲ稟ス。

○京極高厚京ニ抵ル、三浦弘次、高木正坦、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ京ニ抵ラシム。(○京極高厚家記、内國事務局書)

○長崎會議所、徳川慶喜以下ノ罪狀ヲ管下ニ布告シ、其徒ヲ潛匿スルヲ禁ス。

○徳川慶喜、自ラ老ヲ告ケ、支族徳川茂承ヲ以テ嗣ト爲サント欲シ、奏狀ヲ松平慶永ニ託ス。慶永、其自反ノ意ナキヲ以テ、之

ヲ却ケ、老臣本多義(修理)等ヲ江戸ニ遣シテ、名義ヲ指陳セシム、
又書ヲ大久保忠寛ニ致シテ、其意ヲ申ス。
○慶喜、老中格大給乘謨ヲ罷ム。(大給恒家記)
○酒井忠篤、所管ノ砲兵(莊士大砲組ト號スルモノ、)ヲ錄シテ、家臣ト爲サンコトヲ慶喜ニ請フ、之ヲ聽ス。
五日、郡山、高槻、高取、芝村、狹山、丹南、岸和田、伯太、尼崎、三田十藩ニ命シテ、假ニ畿內諸國舊代官ノ支配地ヲ管セシム、又更革ノ際、民心危疑、貨幣流通ノ便ヲ欠クヲ以テ、十藩ヲシテ之ヲ諭安シ、且強盜剽掠ヲ監防セシム、尋テ丹南藩ヲ罷ム。
○毛利敬親、老臣吉川經幹ノ八幡討賊ノ功ヲ賞ス。
○松平慶永、身議定職ニ在リ、且輦下ノ警守ニ服スルヲ以テ、北陸道ノ先鋒兵ヲ用スコト勿ラント請フ、之ヲ聽ス。
○木下俊愿、浪徒本藩ノ近疆ニ嘯聚スルヲ以テ、歸邑ヲ乞フ、是日、之ヲ聽ス。(明日途ニ上ル。)
○土井利教ノ家臣哀請スル所アルヲ以テ、利教召命ニ應セサルノ罪ヲ貸シ、命シテ、速ニ入覲セシム。
○久留島通靖、書ヲ上リ、日田代官窪田某(治部右衞門)、ノ奔竄スルヲ以テ、假ニ兵ヲ出シテ、其地ヲ鎭撫スルヲ稟シ其區處ヲ請フ。
○加藤泰秋、京ニ至ル、稻葉正邦、松前德廣、並ニ疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ京ニ至ラシム。(加藤泰秋、稻葉正邦家記 內國事務局叢書)
○東山道鎭撫總督岩倉具定、加納、高富二藩、區所ノ狀ヲ奏ス。
○山陰道鎭撫使西園寺公望、鳥取ニ至ル。(池田慶德家記)
○德川慶喜、老中格會計總裁立花種恭ヲ罷ム。(立花種恭家記)
○舊神奈川奉行、各國公使局外中立ヲ布告スルヲ慶喜ニ報シ、又其文中御門陛下ト大君トノ間ニ戰鬪起ルノ語アルヲ以テ、之ヲ改刪セシメント請フ。

卷三十　明治元年戊辰二月六日

六日、東海、東山、北陸三道鎭撫使ヲ改テ、先鋒總督兼鎭撫使ト爲シ、薩摩、長門以下二十二藩ノ兵ヲ以テ之ニ屬ス、又薩摩以下七藩ニ令シテ、艦船ヲ出サシム。
○參與神山君風、十時維惠ヲ以テ辨事ヲ兼シメ、參與毛受洪ヲ罷ム。(總裁局史官ニ轉ス、)
○飫肥藩ヲシテ二條城柵門ヲ警守セシメ、(伊東祐歸家記)、津藩兵ノ山崎關警守ヲ罷メ、綾部藩兵ヲ以テ之ニ代フ。
○細川慶順ニ命シテ、內藤政擧ヲ京師ニ召シ、其家臣ノ野田口ヲ守リシモノヲシテ屏居セシム。
○鍋島茂實、失火警急ノ際、朝參等ノ事件ヲ稟問ス。

○池田茂政、明日ヲ以テ、日置忠尚ノ隊長瀧正信（善三郎、）ヲ兵庫ニ押送スルヲ稟ス、又松山（伊豫、）藩士鹿田某（務、）等ヲ拘留スルノ狀ヲ聞ス。

○久松勝吉ノ家臣、藩兵京ニ至ルヲ稟シ、間部詮道ノ家臣、兵ヲ出シテ王事ニ服センコトヲ請フ。

○龜井茲監、牧野誠成、朽木爲綱、關長克京ニ至ル、（龜井茲監以下四家家記、）大岡忠敬、疾ヲ以テ老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。（大岡忠敬家記）

○佐竹義堯、老臣ヲ京師ニ遣シ、六師應援ノ命ヲ拜シ、且使者ヲ奥羽ノ諸藩ニ發シテ朝旨ヲ歷說ス。

○太田資美家臣、駿府ノ守兵ヲ撤センコトヲ徳川慶喜ニ請フ、是日、之ヲ許ス。

卷三十一　明治元年戊辰二月七日

七日、東山道先鋒總督岩倉具定、北陸道總督高倉永祜、副總督四條隆平、參與助役東海道副總督柳原前光ヲ以テ參與ト爲シ、（四人總督故ノ如シ、）松尾相永、（但馬○非藏人、）松尾相保（伯耆○非藏人、）ヲ參與兼辨事ト爲シ、參與土倉正彥ニ刑法局判事ヲ兼シム。

○吉田、（三河、）龜山、（伊勢、）高須、西大路四藩ニ令シテ、東海、東山二道、官軍ノ餽餉輜重ヲ管セシム、又二道ノ諸藩ヲシテ供張傳遞ノ事ヲ掌ラシム。

○薩摩、肥後以下二十七藩ニ令シテ、東海、東山、山陽、山陰、南海、西海諸道、舊代官ノ支配地ヲ管セシメ、安藝、備前以下四藩ノ檢査ヲ罷ム、又大垣、龍野以下十八藩ニ令シテ、舊幕府ノ預地及ヒ松平容保、松平定敬ノ職田等ノ廩稅版圖ヲ檢シテ、之ヲ錄上セシム。

○松平賴升、（大學頭○守山藩主、食封二萬石、）其老臣ヲシテ京ニ抵ラシメ、討會ノ先鋒タランコトヲ請フ、是日、之ヲ聽ス、尋テ命シテ、仙臺藩ニ應援セシム。

○植村家保、封内既ニ鎭靜ニ就キ、藩兵入京スルヲ以テ、前ニ仍リ、市中巡邏ノ役ニ服センコトヲ稟ス、之ヲ可ス。

○議定島津忠義、細川護久、（初名喜延、）淺野茂勳、松平慶永、山内豐信及ヒ毛利廣封、連署疏ヲ上リ、宇内ノ大勢ヲ察シ、外交ノ規模ヲ宏ニシ、各國公使ヲシテ入朝セシメンコトヲ建議ス。

○毛利廣封、京ニ至ル。（轂下日載）

○大和鎭撫總督久我通久、奈良ニ至ル、興福寺僧侶、假管ノ事務ヲ交付シ、且舊奈良奉行小俣景德（伊勢守、）等ノ誓書ヲ上ル。

○伊達慶邦ノ召命ヲ受ルヤ、藩老石川邦光（大和、）等、頗ル薩、土等ノ擧ヲ疑ヒ、慶邦ノ西上ヲ沮ム、慶邦、乃チ老臣三好清房（監物、）ヲ

シテ兵ヲ率ヰテ京ニ至ラシム、清房、途上鳥羽港、伏見ノ變ヲ聞キ、書ヲ同僚ニ遣リ、其正義ヲ勗メシム、是日清房京ニ至ル。

卷三十二　明治戊辰二月八日ニ起リ九日ニ至ル

八日、加賀、薩摩以下二十四藩ニ命シテ、諸藩政令傳達ノ事ヲ管セシム。所謂傳頭、

○戸田氏共、藩兵ノ嚮ニ罪ヲ獲シモノヲ行伍ニ編シ、功ヲ立テ自ラ贖ハシメント請フ、是日、之ヲ聽ス、又氏共ヲシテ高須、西大路二藩ト共ニ本道ノ糧餉ヲ掌ラシム。

○因幡藩、兵ヲ東山道ニ出シ、輦下ノ守兵ニ乏シキヲ以テ、東海道ノ兵ヲ罷歸セント請フ、之ヲ聽ス。

○龜山伊勢藩、東海道先鋒總督ノ令ヲ以テ、鳥羽藩ノ老臣ヲ京師ニ護送スルヲ稟ス。

○吉井信謹、鎮丸ハ吉井藩主、食封一萬石、時ニ松平氏ヲ稱ス、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ京ニ至ラシム。○吉井信謹家記

○徳川慶喜、酒井忠篤ヲシテ出羽村山郡七萬四千餘石、ヲ管セシム。

○榊原政敬、書ヲ徳川慶喜ニ致シ、其擧措失宜ヲ論シ、反省恭順、謹テ罪ヲ待タンコトヲ勸ム。

九日、天皇親征、本月下旬ヲ期シ、坊城俊政右大辨宰相、ヲ以テ行幸奉行ト爲シ、參與小原忠寛ヲシテ供張ノ事ヲ經理セシム。

○總裁熾仁親王ヲ拜シテ、東征大總督ト爲シ、總裁故ノ如シ、參與正親町公董、西四辻公業、廣澤眞臣ヲ以テ參謀ト爲シ、河鰭實文、大夫、穗波經度ヲ錦旗奉行ト爲シ、澤爲量ヲ奧羽鎭撫總督ト爲シ、醍醐忠敬少將、之ニ副ス、並ニ本月十五日ヲ以テ啓行セシム、又議定嘉言親王ヲ海軍總督ト爲シ、議定故ノ如シ、庭田重胤ヲ參謀ト爲ス。

○諸藩禁門警衛兵ノ菊章旗幕ヲ用フルヲ止メ、其出征兵ハ官之ニ章旗ヲ頒賜ス。

○大政變更ノ際、不逞ノ徒、名ヲ勤王ニ託シテ、良民ヲ害虐シ、下情或ハ上達セサランコトヲ慮リ、諸藩ニ令シテ、之ヲ撿察シ、且衆庶ノ直ニ之ヲ太政官ニ赴愬スルヲ許ス、又諸道ノ傳遞ハ、必印票ヲ照シテ、後供給セシム。

○土佐藩ノ東海道先鋒兵ヲ改テ、東山道先鋒ト爲ス、松平慶永再ヒ其子茂昭ノ北陸道先鋒ヲ辭ス、是日、之ヲ聽ス。

○九鬼隆備、再ヒ山崎關門守衛ノ命ヲ辭ス、乃チ松平定安ヲ以テ之ニ代フ、又山名義濟ヲシテ生野但馬朝來郡、ヲ警守セシム。

○備前藩ニ令シテ、松山備中、藩士及ヒ松平武聰ノ臣、伏見ノ擧ニ與リシモノヲ監守セシム。

○鍋島茂實、北陸道從軍ノ事項ヲ條問ス。

○柳澤保申、藩事ヲ以テ假歸ヲ請フ、之ヲ聽ス。

○備前藩、讃岐諸島（直島、小豆島等、）ノ警守ヲ土佐藩ニ交付スルヲ稟ス。

○片桐貞篤、京ニ至リ、（片桐貞篤家記、）丹羽氏中、疾ヲ以テ老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。（雜事局記）

○松平忠誠、紀伊ヨリ海ニ航シテ、吉田（參河、）ニ至リ、老臣ヲシテ西上セシメ、征討府ノ召命ヲ奉セスシテ、東歸スルノ故ヲ陳ス、其父忠國（下總、正）モ亦使ヲ京師ニ遣シ、疾ヲ以テ入覲スル能ハサルヲ申謝ス。

○外國事務總督伊達宗城、書ヲ英米等六國公使ニ贈リ、神戶ノ暴擧ヲ謝シ、日置忠尙、瀧正信ノ處決ヲ報ス、是日、正信兵庫永福寺ニ自盡ス、內外官吏之ニ涖ム。

卷三十二　明治元年戊辰二月十日

十日、奉幣使（正親町實德、）ヲ畝傍陵ニ遣シ、天皇元服ヲ加ヘシヲ告ケ、且其遲延ヲ謝ス。

○列藩貢士ノ制ヲ定メ、五十日ヲ限リ、京師ニ貢セシム、後藩主ノ議定若クハ參與タルモノハ、必シモ貢進セサルヲ令ス。

○京坂ノ富商ニ諭シテ、親征ノ經費（十萬兩、）ヲ供給セシム。

○徳川慶勝、書ヲ上リ、成瀨正肥久ク藩政ニ任シ、士民之ニ頼リ、且藩士徳成幼弱ナルヲ以テ、舊ニ依リテ、藩事ヲ兼理セシメント請フ、是日、之ヲ聽ス。

○四國征討ノ役、因幡藩兵調發期ヲ失ヘ、老臣ノ京ニ在ルモノ、上書シテ罪ヲ乞フ、是日、批シテ其罪ヲ問ハス。

○市橋長義、軍行供張ノ命ヲ奉スルヲ以テ、四塚守兵ノ撤否及ヒ其歸藩ノ可否ヲ稟請ス、乃チ四塚ノ警守ヲ罷ム。

○平戶藩ノ請ヲ可シテ、奈良ノ守兵ヲ撤セシム。

○大岡忠敬ノ家臣、邑中人少キヲ以テ、軍行供張ノ任ニ勝ヘサランコトヲ陳ス、命シテ之ヲ助メシム、岩村、加納二藩、供張分管ノ地ヲ更換セント請フ、之ヲ聽ス。

○遠藤胤城ノ家臣、京師ニ在ルモノ、東山道總督胤城ノ封邑ヲ收ムルヲ聞キ、書ヲ上リ、哀ヲ乞フ、是日、批シテ胤城ノ歸順自效ヲ待テ之ヲ申請セシム。

○秋月種殷、疾ヲ謝シ、其子種樹ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。（秋月種殷家記）

○小笠原長國、書ヲ徳川氏ニ致シ、長行ノ疾ヲ稱シ、其職ヲ退カシメ、且ツ將ニ嫡ヲ易ヘントスルノ意ヲ以テス、徳川氏乃チ長行ノ退身ヲ許ス。（小笠原長國家記）

卷三十四

明治元年戊辰二月十一日ニ起リ十三日ニ至ル

十一日、諸藩ヲ分チテ、大中小三等ト爲ス、又凡ソ徴士ハ、舊藩ト關渉ナキヲ諭告ス。

○諸藩ニ令シ、藩士ノ開成所（舊幕府ノ洋學校、江戸ニアリ）教官ニ任スル者ノ姓名ヲ錄上セシム。

○北陸道諸藩ニ令シテ、官軍供億ノ備ヲ爲サシム。

○是ヨリ先、東山道總督岩倉具定、書ヲ上リ、諸藩ヲシテ舊幕府ノ領地ヲ管セシムルノ事ヲ論ス、是日、其參謀北島秀朝（仙太郎、水戸藩士）等、又尾張藩勤王誘導ノ事ヲ稟議ス。

○本莊宗武ノ老臣、朽木爲綱ニ因リテ、書ヲ上リ、宗武ノ庶弟某ヲシテ先鋒ノ軍ニ從ハシメ、前罪ヲ贖ハンコトヲ請フ。

○毛利高謙、京ニ至ル。○毛利高謙家記

十二日、廣澤眞臣ノ大總督府參謀ヲ罷メ、尋テ參與西鄉隆盛、林通顯ヲ以テ之ニ代フ。

○草津驛（近江栗太郡）ノ運貨重量撿査所、舊ニ仍リテ之ヲ存シ、膳所藩ヲシテ其事ヲ管セシム。

○松平慶憲疾ヲ謝シ、嗣子直致（薰次郎）ヲ江戸ヨリ召シテ、己ニ代ラシメンコトヲ請フ。

○加藤泰令、藩事ヲ以テ假歸ヲ請フ、之ヲ聽ス。十四日、途ニ上ル。

○一柳末德、播磨地方鎭撫ノ狀ヲ上ル。

○東征大總督熾仁親王、軍令及ヒ廟算書ヲ諸道總督ニ頒ツ。

○德川慶喜、江戸城ヲ德川慶頼（中納言、時ニ田安ト稱ス）、松平齊民（越後守、確堂ト號ス、津山藩主慶倫ノ父）ニ託シ、退テ東叡山大慈院ニ入リ、入道公現親王（輪王寺宮）ヲ見テ罪ヲ京師ニ謝センコトヲ請フ。

十三日、郡山藩ノ洞ケ嶺、白川越守兵ヲ罷メ、更ニ吏ヲ白川越ニ置キ、行旅ヲ譏察セシム。

○毛利敬親ニ命シ、花山院家理ヲ京師ニ護送セシム。

○制度局、御艦及ヒ軍艦旗ノ徽章ヲ定メンコトヲ請フ。

○淺野茂長、備中以西平定ノ狀ヲ上ル。

○德川慶喜、松平慶永ニ因リテ、書ヲ上リ、屛居シテ罪ヲ待ツヲ陳シ、又書ヲ慶永ニ致シ、鎭撫使ノ東下ヲ止メンコトヲ請フ、松平直克及ヒ大久保忠寛モ亦慶永ニ復書シ、慶喜謝罪ノ意ヲ陳ス。

○德川茂承、書ヲ上リ、德川慶喜ノ嗣タルヲ辭セシコトヲ陳ス。

○松平慶倫、京ニ至ル、德川慶喜ノ支族タルヲ以テ、上書シテ罪ヲ待ツ。

○蒔田廣孝、松平親貴、（但馬守○杵築藩主、親良ノ子、）仙石政固、（鋭雄○出石藩主、久利ノ子、）京ニ至ル、岩城隆邦、久松勝行、（大蔵少輔○多古藩主、食封一萬二千石、）疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム、（蒔田廣孝、松平親貴、久松勝慈家記、雜事局記、内國事務局叢書、）織田信成、西上途中疾ニ罹リ、姑ク封邑ニ歸ルヲ稟ス。

卷三十五

明治元年戊辰二月十四日ニ起リ十五日ニ至ル

十四日、松平直己、松平直哉、宗家ニ屬シテ、王事ニ服セント請フ、之ヲ聽ス。

○長門藩、松山討伐ノ際、獲シ所ノ汽船ヲ以テ、運輸ノ用ニ充ント請フ、之ヲ聽ス。

○諏訪忠誠、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。

○大阪裁判所總督醍醐忠順、副總督伊達宗城、兵庫裁判所總督東久世通禧、各國公使ニ大阪ニ會シ、新ニ外國事務局ヲ置キ、交際ノ事ヲ管スルヲ諭シ、且天皇近日將ニ公使ヲ召見セントスルヲ告ク、外國事務局官吏及ヒ諸藩ノ老臣等、之ニ參ス。

○徳川氏、若年寄京極高富ヲ罷ム、（京極高陳家記、）大岡忠敬、歸邑ヲ徳川氏ニ請フ、之ヲ聽ス。

十五日、外國公使朝見ノ議ヲ決シ、島津忠義等ノ奏議ヲ公卿諸侯ニ示シ、其議ヲ採納スルヲ諭ス。

○秋月種樹ヲ以テ參與ト爲シ、青山貞（小三郎○遠江守、濱松藩主、）ヲ參與兼内國事務局判事ト爲ス。

○東征大總督熾仁親王陛辭シ、出師表ヲ上ル、詔シテ、閫外ノ權ヲ委シ、節刀一口、錦旗二旒ヲ賜フ、是ニ於テ、大師啓行ス。

○松平賴聰ノ入京ヲ許シ、功ヲ立テ自ラ贖ハシム、因テ其封地ヲ復シ、土佐藩ニ令シテ、其守兵ヲ撤ス。

○是ヨリ先、土佐藩兵ノ松山城ニ入ルヤ、藩主松平定昭、佛寺ニ屏居シテ罪ヲ俟ツ、其家臣土佐藩ニ因リ、上書哀請ス、定昭罪重キヲ以テ聽サス、是日、土佐藩ニ命シテ、其城邑ヲ管守セシム。

○六鄕政鑑、六師應援ノ命ヲ拜スルヲ以テ、兵ヲ京師ニ出サ、ルヲ稟シ、且菊章旌旗ヲ賜ハンコトヲ請フ、聽サス。

○松平慶永、書ヲ上リ、徳川慶喜既ニ其罪ヲ謝ス、宜ク大總督ノ行ヲ止メ、速ニ諸路ノ師ヲ班スヘキヲ建議ス。

○毛利元周、毛利元蕃、毛利元純、疾ヲ以テ、老臣ヲシテ京ニ至ラシメ、官位復舊ノ恩ヲ謝ス、元周、又老臣ヲシテ兵ヲ率ヰテ京ニ至ラシメント請ヒ、元純、藩事ヲ以テ入覲ノ期ヲ緩クセント請フ、又增山正修、内藤正誠、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ京ニ至ラシム。（内國事務局叢書）

○北陸道先鋒總督高倉永祜、福井越前ニ抵ル、北陸道先鋒記

○佛蘭西測量船、堺和泉港内ニ至リ、舟人岸ニ上リテ散歩ス、土佐藩ノ守兵、土佐藩兵警守ノ事、征討府ノ令ニ係ル、月日及ヒ達書皆原記ヲ佚ス、別ニ考ル所ナシ、之ト爭闘シ、十餘人ヲ殺傷ス。

○酒井忠篤、江戸ヲ辭シテ藩ニ歸ル。

卷三十六　明治元年戊辰二月十六日ニ起リ十九日ニ至ル

十六日、議定松平慶永、參與後藤元燁等ニ命シテ、各國公使朝見ノ事ヲ掌ラシム。

○南部利剛ニ命シ、伊達慶邦討會ノ師ニ應援セシメ、丹羽長國ニ命シ、其所管白川城陸奥ヲ仙臺藩ニ交付セシム。

○延暦寺ノ僧徒、書ヲ上リ、舊ニ仍リ、日吉社ノ社寺ヲ管センコトヲ請フ。

○山陰道鎭撫使西園寺公望、宮津藩ノ入京ヲ許ス、是日、其老臣謝狀ヲ上ル。

○榊原政敬、阿部正恒、大給乘謨疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム、內國事務局叢書、榊原政敬、大給恒家記立花鑑寛モ亦老臣ヲシテ、兵ヲ率キテ京ニ至ラシム。

○土井利教、東海道先鋒總督橋本實梁ノ召ニ赴クヲ以テ、入覲遲延スルヲ陳ス。

○東山道先鋒總督岩倉具定、近江宮川堀田正養ノ治所、ヲ收ム、尋テ之ヲ復ス。東山道總督府諸達留、堀田正養家記

○長崎裁判所總督澤宣嘉、舊代官高木某作右衛門、等以下諸小吏ヲ采錄シテ、各職役ニ服セシム。

○松平容保、謝狀ヲ松平慶永ニ託シ、咎ヲ引キ、自ラ責メ、退隱屏居シ、以テ德川慶喜ノ罪ヲ宥センコトヲ請フ、是日、江戸ヲ去リテ會津ニ歸ル。

十七日、奉幣使武者小路公香、ヲ春日社ニ遣ス、且國亂ニ因テ、祭期遷延スルヲ告ク。

○萬國ノ通誼ニ循ヒ、外國公使ヲ召見スルヲ布告ス、三職モ亦副書シテ、天下ノ大勢宇內ノ公法ヲ示諭ス。

○各國公使ノ客館ヲ定メ、加賀以下六藩兵ニ命シテ、之ヲ警護ス。

○山內豐信父子ニ命シ、大阪ニ赴テ、堺浦爭闘ノ事ヲ處分セシム、翌日、豐信、疾ヲ以テ老臣ヲ差遣スルヲ稟ス。

○久留島通靖、封邑旁近民情動搖スルヲ以テ、歸邑ヲ請フ、之ヲ聽ス。二十二日途ニ上ル。

○黑田長知、初名慶贊、京ニ至ル、久世廣文、大久保教義、有馬氏弘、內

田正擧、井上正已、田沼意尊、[illegible]屬信敏、林忠崇、（昌之助、請西藩主、食封一萬石、）疾ヲ以テ入覲遲延スルヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシメ、板倉勝弘、疾ヲ以テ入覲遲延スルヲ謝ス、（内國事務局叢書、黒田長知以下各家家記、）津輕承昭（越中守、弘前藩主、食封十萬石、）ノ老臣、承昭ニ代リテ京ニ在リシモノ、藩ニ還リ、兵制ヲ修シ、征討ノ軍ニ從ハント請フ、之ヲ聽ス。

十八日、是ヨリ先、德川氏ノ兵艦、紀伊海ニ入ルノ報アリ、乃チ紀伊、阿波、津ノ三藩ニ令シテ、之ヲ探偵ス、是日、紀伊藩、大阪裁判所總督ニ報スル所ノ書ヲ上ル。

○淺野茂勳、書ヲ上リ、河邊川以西ノ地ヲ經理スル姑ク舊ニ仍ランコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○石川成之、鈴鹿山守衞及ヒ輜重運輸ノ命アルヲ以テ、姑ク藩ニ歸リ、諸務ヲ整理センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。（二十三日、途ニ上ル。）

○池田慶德、再ヒ上表シテ、辭官退隱ヲ請フ、是日、之ヲ聽ス、既ニシテ、又前命ヲ止メテ、復職セシム。

○小笠原長國、前日長崎會議所ニ哀請セシノ意ヲ申シテ、允裁ヲ得ンコトヲ乞フ、聽サス。

○蜂須賀茂韶、京ニ至ル（内國事務局叢書、）遠山友祿、再ヒ疾ヲ以テ、入覲遲延スルヲ稟謝ス。

○九州鎭撫總督澤宣嘉、部内諸藩ニ令シテ、其向背ヲ問フ。

十九日、拜任ノ宣旨ニ總裁朱印ヲ鈐スヘキノ制ヲ定ム、是日、議定松平慶永ヲ以テ内國事務局輔ニ兼ネ、參與白川資訓ニ神祇事務局輔ヲ兼ネ、參與東園基敬ニ辨事ヲ兼ネシメ、林和靖間詰、大原重德及ヒ正親町實德、中院通富、三條西季知ヲ以テ參與ト爲シ、實德以下三人ヲ林和靖間詰ト爲ス。

○京都裁判所ヲ置キ、參與制度事務局輔萬里小路博房ヲ以テ、議定兼裁判所總督ト爲ス。

○王師出征、驛遞供億ノ衆キヲ以テ、從征諸軍ニ令シ、往來必ス印票ヲ用ヒシム。

○堺浦爭鬪ノ事アリシヲ以テ、外國事務局ニ令シテ、外交ノ聖旨ヲ各國公使ニ傳諭セシム。

○池田茂政、上書シテ、致仕ヲ請フ、是日、之ヲ聽ス。

○德川慶喜、王師ノ來討ヲ聞キ、城ヲ出テ、東叡山ニ屏居シ、復松平慶永ニ因テ、書ヲ上リ、咎ヲ引キ罪ヲ待チ、六師ノ進伐ヲ止メント請フ、是日、慶永、其書ヲ奏シ、且上疏シテ、親征ノ擧ヲ止メ、討伐ノ軍ヲ班シ、公平ノ法ヲ以テ、之ヲ處セシコトヲ建議ス、又慶喜及ヒ松平容保ノ臣屬、慶永ニ因テ哀訴ス。（其書、慶永遂ニ奏スルヲ果サス。）

○丹羽長國、（時ニ江戸ニ在リ、）書ヲ上リ、六師應援ノ命アルヲ以テ、病ヲ

力メテ藩ニ歸リ、兵備ヲ整ヘテ、命ヲ待ンﾄスルヲ稟シ、且兵ヲ京師ニ出シ、守衞ニ充テンﾄ請フ。

○松平定敬、書ヲ入道公現親王ニ呈シ、德川慶喜ノ爲ニ救解ヲ請フ。

卷三十七

明治元年戊辰二月二十日ニ起リ二十一日ニ至ル

二十日、議定德大寺實則ヲ以テ內國事務局督ヲ兼ネ、參與秋月種樹權輔ヲ兼ネ、參與辻維嶽、廣澤眞臣、大久保利通、中根師質判事ヲ兼ネ、議定晃親王外國事務局督ヲ兼ネ、議定伊達宗城、參與東久世通禧輔ヲ兼ネ、參與岩下方平、町田久成、伊藤博文、五代友厚、寺島宗則、井上馨判事ヲ兼ネ、議定嘉彰親王軍防事務局督ヲ兼ネ、參與烏丸光德權輔ヲ兼ネ、參與津田信弘、吉井德春判事ヲ兼ネ、參與鷲尾隆聚、壬生基修、四條隆謌親兵掛ヲ兼ネ、議定中御門經之會計事務局督ヲ兼ネ、議定淺野茂勳輔ヲ兼ネ、參與長谷信成權補ヲ兼ネ、參與戶田忠至、三岡公正、小原忠寬判事ヲ兼ネ、議定細川護久刑法事務局輔ヲ兼ネ、參與溝口貞直、土倉正彥、木村貞通判事ヲ兼ネ、參與福岡孝弟制度事務局判事ヲ兼ネ、參與後藤元燁ヲ總裁局顧問ト爲シ（參與故ノ如シ）、顧問木戶孝允ヲ參與ト爲シ、（顧問故ノ如シ）元燁、孝允ヲシテ參與顧問小松淸廉ト共ニ外國事務掛ヲ兼シム、又幟仁親王ヲ以テ議定兼神祇事務局督ト爲シ、吉田良義（侍從）ヲ參與兼輔ト爲シ、龜井玆監ヲ參與兼判事ト爲シ、岩倉具綱ヲ參與兼內國事務局權輔ト爲シ、中川元績（對馬○非藏人）ヲ參與兼判事ト爲シ、五辻安仲ヲ參與兼權判事ト爲シ、井關盛良（齋右衞門○宇和島藩士）ヲ參與兼外國事務局判事ト爲シ、吉田良榮（遠江○非藏人）、土肥某（典膳○備前藩士）ヲ參與兼軍防事務局判事ト爲シ、平松時厚、（甲斐權介○時言ノ子）萬里小路通房、愛宕通旭ヲ參與兼親兵掛ト爲シ、鴨脚光長（加賀○非藏人）ヲ參與兼會計事務局判事ト爲シ、參與助役石山基正ヲ參與兼權判事ト爲シ、近衞忠房ヲ議定兼刑法事務局督ト爲シ、五條爲榮（少納言）ヲ參與兼權輔ト爲シ、鷹司輔煕ヲ議定兼制度事務局督ト爲シ、堤哲長（右京大夫）、ヲ參與兼權輔ト爲シ、松室重進（豐後○非藏人）ヲ參與兼判事ト爲シ、坊城俊章（侍從○俊政ノ子）ヲ參與兼辨事加勢ト爲ス。

○島津忠義、淺野茂勳、松平慶永、加藤泰秋、池田德澄、池田政詮ニ命シテ、親征扈蹕先隊ト爲シ、細川護久、毛利廣封、鍋島茂實、松浦詮、松平信正、龜井玆監、織田信親、市橋長義、森俊滋ヲ後隊ト爲シ、加藤明實、小出英尙ヲシテ內侍所ヲ守衞セシム、又大坂行在所及ヒ太政官代ノ地ヲ定メ、諸藩扈蹕ノ兵員ヲ限定ス。

○畢竟可銀ノ價位ヲ定メ、我貨幣ト同ク通行セシム。

○初テ太政官日誌ヲ刊刻ス、刊刻書肆村上書記、後之ヲ裁判所鎭撫使及ヒ諸藩ニ頒ツ。

○前田慶寧闕下事アルニ際シ、其形迹疑フヘキヲ以テ、之ヲ責問ス、慶寧ノ老臣、上書シテ其情狀ヲ陳疏ス、是日、書ヲ下シテ前罪ヲ宥シ、將來ヲ戒飭ス。

○是ヨリ先、議定內國事務總督山內豐信、病ヲ謝シテ其職ヲ辭ス、未タ報セス、適其家臣堺港爭鬪ノ事アリ、是日、再ヒ書ヲ上リ、罪ヲ引キ、見職ヲ解カンコトヲ請フ。

○是ヨリ先、毛利敬親、表ヲ上リ、木戶孝允、廣澤眞臣、楫取素彥ノ職ヲ罷メンコトヲ請フ、是日、素彥ヲ罷ム。

○市橋長義、兵員寡少ヲ以テ、東山道督餉ノ役ヲ免センコトヲ請フ、聽サス。

○毛利元功、英國龍動ニ遊學センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○吉井信謹ノ家臣、書ヲ上リ、信謹ノ家系ヲ叙シ、藩小力微ナルヲ以テ徵發ノ期ヲ緩クセンコトヲ請フ。

○靑木重義、京ニ至ル、辨事局記、酒井忠强、稻葉正善ハ疾ヲ以テシ、山口弘達ハ幼齡ヲ以テ、並ニ老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。內國事務局叢書 山口弘達家記

○東海道ノ先鋒兵、名護屋ニ會ス、是日、總督橋本實梁、名護屋ヲ發ス、東海道先鋒記、東山道ノ兵モ亦大垣ニ會ス、總督岩倉具定、明日將ニ大垣ヲ發セントス、因テ書ヲ京師ニ呈シテ、本道ノ事情ヲ告ケ、且戶田氏共幼齡先鋒ノ任ニ勝エサルヲ以テ、獨其兵ヲ徵發シ、氏共ヲ京師ニ召サント請フ。

二十一日、親征ノ期近キヲ以テ、輦下ノ守備ヲ戒ム、乃チ薩摩以下十四藩ニ令シテ、九門及ヒ大津、山崎ノ守ヲ嚴ニシ、加賀以下四藩ニ京師及ヒ傍近ノ地ヲ警守セシメ、龜山丹波藩ノ市中取締ヲ罷メ、多度津藩ヲ以テ之ニ代ヘ、大洲以下三藩ノ市中巡邏ヲ罷メ、大聖寺、富山二藩ヲ以テ之ニ代フ、又岸和田藩ノ堺港警守ヲ罷メテ、藩備ヲ嚴ニセシメ、府中長門藩ヲ以テ之ニ代ヘ、有馬慶賴、松平慶倫、立花鑑寬、阿部正方ヲ召シテ、攝海ヲ守衛セシム、尋テ府中藩ヲ罷ム。

○德川慶喜ノ謝罪表ヲ卻ケ、松平慶永ニ諭シテ、罪ヲ大總督ニ乞ハシム。

○織田長易、大和國監撫ノ命ヲ受クルヲ以テ、歸藩セント請フ、之ヲ聽ス。二十六日途ニ上ル。

○德川茂承、京ニ至ル、小笠原貞孚老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム、土方雄永、病ヲ以テ上京遲延ヲ謝ス。內國事務局叢書

○大總督熾仁親王、名護屋ニ抵ル。東征記略

○土岐頼知、封内擾動ヲ以テ、歸邑ヲ徳川氏ニ乞フ、之ヲ聽ス。二十六日途ニ上ル、○土岐頼知家記

卷三十八

明治元年戊辰二月二十二日ニ起リ二十四日ニ至ル

二十二日、鍋島茂實ヲ以テ議定兼外國事務局權輔ト爲シ、平田鐵胤大角ノ久保田藩士、ヲ參與兼神祇事務局判事ト爲ス。

○戸田忠至ニ命シ、舊ニ仍リテ、山陵修補ノ事ヲ管セシム。

○大澤基壽、右京大夫、京極高福丹後守○二人並ニ高家衆、ヲ朝臣ト爲ス。○高家、朝臣ト爲ルノ始、後之ヲ略ス、人名ハ三月誓約ノ條下ニ合記ス、

○關長克、蒔田廣孝、備中國監撫ノ命ヲ受ケシヲ以テ、歸邑ヲ請フ、之ヲ許ス。○長克ハ二十四日、廣孝ハ二十五日途ニ上ル。

○龜井茲監、其家臣大國隆正、仲、福羽美靜文三郎、ヲ薦擧ス。

○是ヨリ先、佛國公使レヲンロッシュ、書ヲ外國事務總督伊達宗城ニ致シ、堺港爭鬪ノ處分ヲ要求ス、英伊以下各國公使モ亦書ヲ致シテ、速ニ其求ニ應センコトヲ陳ス、廷議其言ニ從フ、是日、外國事務局輔東久世通禧、伊達宗城、各國公使ニ復書シ、明日ヲ以テ犯罪者ヲ刑スルヲ告ク。

○前田齊泰中納言○加賀藩主慶寧ノ父、京ニ至ル。○前田慶寧家記

○徳川氏、老中職稻葉正邦ヲ罷ム。○稻葉正邦家記

二十三日、金銀舊貨、姑ク新貨ト並ヒ行ハシム。

○池田茂政、其臣神戸爭鬪ノ故ナ以テ、書ヲ上リ、屏居シテ命ヲ待ツ、旨アリ之ヲ問ハス。

○前田慶寧ノ老臣、書ヲ上リ、親征先鋒タランコトヲ請フ、既ニシテ、慶寧又北陸道先鋒ト爲リ、且親征ノ軍資ヲ獻センコトヲ乞フ、皆聽サス、令シテ親兵編制ノ費用ヲ上ラシム。

○毛利元周、義弟元懋宗五郎、ヲ以テ嗣ト爲サンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○松平直已、松平直哉京ニ至ル。○松平直已、松平直哉家記

○土佐藩士箕浦元章、猪之吉、西村氏同左平次、以下二十人ノ佛人ヲ妄殺セシ罪ヲ正シ、死ヲ堺港妙國寺ニ賜フ、内外撿吏之ニ莅ム、剳腹十一人ニ至ル。佛國公使、遽ニ書ヲ以テ、九人ノ死ヲ止メンコトヲ請フ、乃チ之ヲ本藩ニ付シテ、流ニ處ス。

二十四日、始テ理匭ヲ京師ニ置キ、言路ヲ洞開ス。

○諸家ニ令シテ、其卑隷ノ祭賽演劇等ノ地ニ至リ、横暴ノ行ヲ爲スヲ禁ス。

○是ヨリ先、松平頼位主税頭○宍戸藩主、食封壹萬石、ヲ舊幕府ニ獲テ、鯖江藩ニ屏居ス、是日、其罪ヲ釋シ、職位ヲ復ス。

○小濱藩保管ノ舊水戸藩士武田金次郎、以下ヲ釋シテ、本藩ニ復

歸セシメ、命シテ先キ德川齊昭前大納言、水戸藩主、慶篤ノ父、尊王ノ遺志ヲ繼キ、且藩内ノ奸黨ヲ勦除セシム。

○酒井忠義ノ請ヲ聽シ、大阪ノ藩邸ヲ還付ス。

○蜂須賀茂韶、書ヲ上リ、閫外ノ事ヲ以テ、專ラ大總督ニ委シ、親征ノ擧ヲ止メンコトヲ建議ス、報セス。

○朽木爲綱、其家臣山陰道鎭撫使西園寺公望ノ譴責ヲ受ケシヲ以テ、屏居シテ命ヲ待ツヲ稟ス。

○本莊宗秀、前伯耆守、宮津藩主、宗武ノ父、京ニ至ル。

○是ヨリ先、上杉齊憲將ニ京ニ朝セントス、福島信濃ニ抵リ、伏見ノ變ヲ聞ク、乃チ國ニ還リ、老臣ヲシテ兵ヲ率ヰテ京ニ至ラシム。

○安部信發、井上正順疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。書事局記

卷三十九

明治元年戊辰二月二十五日ニ起リ二十七日ニ至ル

二十五日、是ヨリ先、攝津、播磨二國ノ土民擾亂ス、是日、明石、龍野二藩ニ命シテ、之ヲ鎭輯セシム。二藩兵ヲ出スニ及ヒテ、賊已ニ平ク。

○福山藩、其松山伊豫征討ノ兵ヲ撤セントト請フ、之ヲ聽ス。

○片桐貞篤、藩事ヲ以テ歸邑ヲ請フ、之ヲ聽ス。二十七日達ス上

○德川慶勝、德川茂承、松平茂昭書ヲ上リ、德川慶喜旣ニ其罪ニ服セシヲ以テ、東征ノ師ヲ止メンコトヲ請フ、批シテ大總督ニ請ハシム。

○內國事務局、北陸道先鋒總督高倉永祜、四條隆平ニ移書シテ、其職掌ヲ諭示ス。

○土井利教、京ニ至ル、土井利教家記、牧野康濟、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。內國事務局記

○戸田忠行、是ヨリ先、旁近ノ諸藩ニ移書シ、與倶ニ王師ヲ迎ヘ、德川氏ヲシテ不義ニ陷ラサラシメ、以テ朝廷ノ恩赦ヲ請ハンコトヲ勸ム、是日、江戸ヲ辭シテ、時ニ陸軍奉行タリ、封邑ニ歸ル。

二十六日、再ヒ親征ノ期ヲ布告シ、且衆庶ヲ諭シテ、各其業ニ安シ、危懼ヲ懷クコト勿ラシム。

○九條道孝ヲ以テ奧羽鎭撫總督ト爲シ、總督澤爲量ヲ副總督ト爲シ、副督醍醐忠敬ヲ參謀ト爲シ、期ヲ刻シテ、進征セシム。

○佛、英、蘭三國公使入京ノ期ヲ布告シ、更ニ加賀、薩摩以下諸藩ニ命シテ、其旅館及ヒ道路ヲ警守セシム。

○諸侯ニ令シテ、立烏帽子、更附狩衣等ヲ服スルヲ許ス。

○松平慶永ノ勤勞ヲ賞シ、直衣ヲ服スルヲ許ス。

○丹羽氏中及ヒ其家臣、勤王誓書ヲ上ル。

○織田信學、病ヲ謝シ、其子信敏富久之助ヲシテ入覲シ、水野勝知モ亦老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。織田信敏水野勝知家記

○伊達慶邦、疏ヲシテ、討會ノ不可ヲ陳シ、先ツ其曲直ヲ正サンコトヲ建議シ、又使ヲ奥羽諸藩ニ發シテ、之ヲ告ク、是日、老臣大條道德孫三郎、疏ヲ齎シテ京師ニ抵ル、既ニシテ、上杉齊憲モ亦使臣ヲ遣シ、上書シテ之ヲ論ス、皆上ルヲ果サス。

二十七日、神祇事務局督幟仁親王ヲ罷メ、參與兼神祇事務局輔白川資訓ヲ以テ議定兼神祇事務局督ト爲シ、參與兼神祇事務局判事龜井茲監ヲ議定兼神祇事務局輔ト爲ス。

○軍防事務局判事吉井德春ニ命シ、權判事大村永敏益次郎○長門藩士、ト共ニ軍制ヲ議定セシム。

○鷲尾隆聚ノ部兵ヲ以テ親兵ト爲ス。

○長門藩兵ノ兵庫警守ヲ罷ム。

○龜井茲監、服役多端、兵員給セサルヲ以テ、猿カ辻ノ守衛ヲ免セント請ヒ、小笠原貞孚、藩力疲弊スルヲ以テ、在京ノ兵ヲ罷メンコトヲ請フ、是日、皆之ヲ聽ス。

○一柳頼紹、疾ヲ謝シ、其子頼明定次郎ヲ以テ嫡嗣ト爲シ、且代リテ入覲セシメント請フ、之ヲ聽ス、明日、頼明京ニ至ル。

○土方雄永、京ニ至ル土方雄志家記、尋テ書ヲ上リ、王事ニ服センコトヲ請フ。大久保忠禮、老臣ヲシテ代テ京ニ至ラシム。

○大總督府、書ヲ内國、軍防二局ニ致シ、東國ノ諸侯以下入覲シテ請求スル所アラハ、宜ク其本府ヲ經由スルヤ否ヤヲ廉問スヘキヲ報ス。

卷四十

明治元年戊辰二月二十八日ニ起リ二十九日ニ至ル

○二十八日、天皇便殿ニ御シテ、在京ノ諸侯ヲ召見シ、同心協力、益國事ヲ勉メンコトヲ詔諭シ、宴ヲ別殿ニ賜フ、又島津忠義父子、毛利廣封父子ノ勳勞ヲ賞シテ、各物ヲ賜フ。

○凡ソ上申稟請ノ書、之ヲ辨事局ニ進啓セシム。

○外國公使將ニ入京セントスルヲ以テ、神祇事務局督白川資訓、輔吉田良義ニ命シテ、道饗祭ヲ禁門外ニ修ス、又公使朝參ノ期ヲ警護諸藩ニ布告ス。

○松平武聰ノ德川慶喜ノ連累ヲ問ハス、其入京ヲ許シ、功ヲ立テ、伏見擧動ノ罪ヲ謝セシム、適武聰疾アリ、途ニ上ルコト能ハス、尋テ兵ヲ出シテ軍役ニ供センコトヲ請フ。

○相馬季胤、官軍應援ノ命ヲ奉シテ、江戸ヨリ藩ニ歸ルヲ以テ老臣ヲ京師ニ遣シ、姑ク入覲ノ期ヲ緩センコトヲ請フ、之ヲ聽

ス。
○是ヨリ先、牧野貞利（備後守、城代）大阪ヨリ江戸ニ歸ル、是日、老臣ヲ遣シテ、書ヲ上リ、藩士ノ不協ヲ慮リテ、東歸セシヲ陳シ、入覲遲延スルヲ謝ス、批シテ、藩論一定ノ後、上京シテ命ヲ俟シム。
○是ヨリ先、姫路ノ老臣、兵隊及ヒ船隻ヲ出シテ、東征ノ用ニ供センコトヲ請フ、是日、批シテ後命ヲ俟タシム。
○有馬道純ノ家臣、書ヲ上リ、道純江戸ヲ發シテ西上シ、途中北陸道總督府ノ召命アルニ會フ、京師已ニ近キヲ以テ、先ツ入覲センコトヲ請ハンルヲ稟ス、後二日、道純京ニ至ル。
○有馬慶頼、京ニ至ル、（辨事局記）戸澤正實、立花種恭、津輕承敍、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。（戸澤正實、立花種恭、津輕承敍家記）
二十九日、薩、藝、長三藩ニ命シ、外國公使朝參ノ際、建春、日華、月華ノ三門ヲ守衞セシム。
○永井尚服（肥前守、加納藩主、食封三萬二千石）ノ家臣、尚服ノ別邑、大阪行幸ノ蹕路ニ係ルヲ以テ、奉迎ノ條款ヲ稟請ス。
○本多忠鄰、疾ヲ以テ歸藩ヲ請フ、是日、之ヲ聽ス。（明日途ニ上ル。）
○岡部長寛、江戸ヨリ西上シ、途中疾ニ罹レルヲ以テ、姑ク封邑ニ就カンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。
○井伊直憲ノ家臣、柳瀨關門廢置ノ事ヲ稟請ス。

○森忠典、疾ヲ謝シ、嗣子忠儀ヲシテ入覲セシメ、前田利鬯モ亦老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。（森忠典、前田利鬯家記）
○稻葉正邦、將ニ江戸ヨリ入覲セントス、德川慶喜、謝罪狀ヲ託シテ之ヲ奏セシム。淺野氏祐（美作守、若年寄）等、之ヲ松平慶永ニ報道ス、是日、慶永、書ヲ正邦ニ遺リ、之ヲ大總督ニ上ラシム、正邦遂ニ上ルヲ果サス。

巻四十一　明治元年戊辰二月晦日

晦日、佛國全權公使レオンロッシュ及ヒ艦將二人、蘭國公務代理總領事ド、デ、グラフファンポルスブロック及ヒ書記官、朝參ス、天皇之ヲ紫宸殿ニ延見シ、益交際ヲ厚クシ、之ヲ久遠ニ要スルノ旨ヲ勅諭ス、公使等恩命ヲ奉シテ退ク、是日、英國公使モ亦將ニ朝セントス、途中刺客アリ、其從衞ヲ衝突ス、遂ニ朝スルヲ果サス。
○外國事務局督晃親王以下ヲ英國公使ノ客館ニ遣シテ、之ヲ慰問シ、且書ヲ遺リテ之ヲ謝ス、又諸藩ニ令シテ、犯人ヲ搜索シ、警護ヲ嚴ニス、尋テ護衞ノ隊長ヲ按問シテ、之ヲ譴罰ス。
○大原俊實ヲ以テ海軍先鋒ト爲ス。
○井伊直憲、疾ヲ以テ、大阪行幸ニ扈從スルコト能ハス、因テ

老臣ヲシテ、兵ヲ率ヰテ沿路ヲ警護セシメント請フ。

○有馬氏弘、疾ヲ謝シ、在京ノ老臣ヲシテ代リテ事ニ從ハシメント請フ。

○鍋島齊正、青山忠敏、長岡護美良之助○肥後藩主韶邦ノ弟京ニ至ル、鍋島直大家記辨事局記黑田直養、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。辨事局叢書

是月、參與櫻井元憲ヲ罷ム。櫻井元憲事蹟

○制度事務局權判事井上長秋、石見○薩摩藩士議ヲ上リ、衣服ノ制ヲ定メント請フ。

○毛利廣封、書ヲ上リ、癸丑以來外交論ノ沿革得失ヲ陳シ、一定ノ國是ヲ守リ、萬國ト並立センコトヲ請フ。

○土佐藩士石田忠郷英吉等、書ヲ上リ、鹽飽、小豆二島並ニ讃岐ニ屬ス、鎭撫ノ狀ヲ陳シ、朝命ヲ得テ之ヲ管守シ、且伊豆、佐渡ノ諸島ヲ安輯センコトヲ請フ。

○本多忠鵬、病ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシメ、本田忠鵬家記、前田利同モ亦老臣ヲシテ兵ヲ率ヰテ京ニ至ラシム、

卷四十二　明治元年戊辰三月一日ニ起リ三日ニ至ル

○三月

朔日、鍋島齊正ヲ以テ議定ト爲シ、史官毛受洪及ヒ長岡護美ヲ參與ト爲シ、參與田中輔、坊城俊章及ヒ洪ヲ以テ辨事ヲ兼シメ、參與荒川良知ヲ罷ム、尋テ齊正、護美ニ軍防事務局輔ヲ兼シム。

○暗殺ノ禁ヲ申ヌ。

○加藤明實、區蹕中錦旗ノ守衛ヲ罷メント請フ、是日、伊東長裕ヲ以テ之ニ代ヘ、赤穗藩ノ姬路守兵ヲ罷ム、柳澤保申、大阪ニ赴キテ安治川口ノ守兵ヲ督セント請ヒ、池田政禮、疾ヲ以テ歸藩セント請フ、並ニ之ヲ聽ス。政禮明日途ニ上ル。

○興福寺學侶、書ヲ行幸奉行坊城俊政ニ上リ、使役ニ供センコトヲ請フ、是日、命シテ御服櫃ヲ護衞セシム。

○軍防事務局督嘉彰親王、昨日ノ變、親兵ニ出テシヲ以テ、書ヲ上リ罪ヲ乞フ。

○池田茂政、播磨、美作、備中諸藩以下歸順ノ狀ヲ奏ス。

○鍋島直彬京ニ至ル、板倉勝己、疾ヲ以テ老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。鍋島直彬板倉勝達家記

○東山道先鋒總督岩倉具定、下諏訪驛信濃、ニ抵ル。東山道總督府日記

二日、車駕啓行ノ期ヲ延フルヲ布告ス。

○參與久保田秀雄ヲ罷ム。

○英國公使明日參朝スルヲ以テ、薩摩、紀伊以下諸藩ニ命シ

テ禁門及ヒ道路ヲ警守セシム。

○立花種恭、藩兵ヲ以テ宗家ノ隊伍ニ附シ、征役ニ從ハントヲ請フ、之ヲ聽ス。

○九鬼隆義、疾ニ罹リ、入覲スルコト能ハサルヲ以テ、米ヲ獻シテ、軍資ニ供セントヲ請フ、之ヲ聽ス。

○松平定安、失火ノ際、參朝等ノ事宜ヲ稟請ス。

○奥羽鎭撫總督九條道孝、副總督澤爲量、京師ヲ發ス、仙臺、薩摩、筑前、長門四藩兵之ニ屬シ、天童藩之カ前導タリ、紀伊、安藝、筑前、出雲四藩ヲシテ汽船ヲ出サシム。

○大久保忠禮、堀田正倫等、四十二人、連署上疏シテ徳川慶喜ノ爲ニ哀ヲ請フ、批シテ之ヲ大總督ニ上ラシム、忠禮等遂ニ上ルヲ果サス。

○藤堂高潔、京ニ至ル。(藤堂高潔家記)

○北陸道先鋒總督高倉永祜、金澤(加賀)ニ抵ル。(北陸道先鋒記)

○是ヨリ先、徳川慶喜大師東下スルヲ聞キ、其臣隷ヲ戒飭シテ罪戾ヲ犯スコト勿ラシム、是日又之ヲ申諭ス。

三日、上巳、外國公使朝見スルヲ以テ、參賀ヲ停ム。

○英國公使スル、ハルリー、エス、パークス、及ヒ書記官朝參ス、勅諭奏對、略前儀ノ如シ、又前日途上ノ變ヲ宣慰ス、是日、佛、蘭二國公使モ亦禁內ニ參同ス。

○一柳頼明、其父頼紹勤王ノ素志ヲ陳シテ、親征ニ從ハントヲ請フ、又水野勝知ノ老臣、勝知ノ召命ヲ罷メ、藩ニ赴キ、(時ニ勝知江戸ニ在リ、)王事ニ服セシメントヲ請フ、批シテ其歸藩ヲ許シ、後命ヲ俟シム。

○佛、英、蘭三國公使、將ニ京師ヲ辭セントス、加賀以下諸藩ニ命シテ之ヲ護送セシム。

○板倉勝殷、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。(板倉重家記)

卷四十三　明治元年戊辰三月四日ニ起リ五日ニ至ル

四日、蜂須賀茂韶ヲ以テ議定兼刑法事務局輔ト爲シ、荒尾成章駿河(因幡藩士)ヲ參與兼刑法事務局判事ト爲シ、神祇事務局判事平田鐵胤ヲ內國事務局判事ト爲シ、參與田宮篤輝ヲ以テ內國事務局判事ヲ兼ネ、外國事務局判事寺島宗則ニ制度事務判事ヲ兼シム。

○久留米藩ニ命シテ、神戸ヲ警守セシム、尋テ柳河、大洲二藩ヲシテ神戸、西宮ヲ守衛セシメ、久留米藩ヲ罷ム。

○是ヨリ先、藤堂高邦ヲ召ス、是日、京ニ至ル、命シテ宇治關門ヲ警守セシム。

○京極高典ノ請ヲ許シテ、市中取締ヲ罷メ、松平義勇ヲ以テ之ニ代フ。

○池田茂政、淺野茂勳、各書ヲ上リ、舊松山ノ封地及ヒ河邊川以西ノ地ヲ管スルコト、並ニ其舊ニ仍ラント請フ、之ヲ聽ス。

○永井直諒、永井直哉、谷衛滋、公事或ハ疾ヲ以テシ、並ニ歸藩ヲ乞フ、是日、皆之ヲ聽ス。直諒ハ七日途ニ上リ、直哉、衛滋ハ六日。

○伊達宗德、松山平定ニ就キシヲ以テ、其兵ヲ班ヘスヲ稟ス。

○土屋寅直、松平賴縄、播磨守○常陸府中藩主、食封二萬石、後石岡ト改稱ス、阿部正恒、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ京ニ至ラシム。內國事務局叢書阿部正恒家記

○英國公使ヲ襲擊セシ兇徒、三枝眞洞、蓊○大和人、朱雀貞固操○山城人、ヲ梟首ニ處シ、其黨二人ヲ流ス、尋テ外交ノ朝旨ヲ海內ニ告諭シ、橫逆ヲ外人ニ加フルコト勿ラシム。

○佛、英、蘭三國公使京師ヲ辭ス、加賀、薩摩以下諸藩之ヲ衛送ス。

○牧野貞利、黑田直養、德川氏ニ請ヒ、江戸ヨリ其藩ニ歸ル。牧野貞寧、黑田直養家記

五日、是ヨリ先、丸龜、大洲以下十四藩ニ命シテ、吏人ノ民政ニ通セシモノヲ選擧セシム、是ニ至リ、之ヲ諸道ニ分遣シ、所在ノ郡邑新ニ官地ニ屬セシモノヲ巡按シ、府庫ヲ撿シ、民瘼ヲ恤ス。

○蜂須賀茂韶、親征ノ扈蹕タランコトヲ請フ、從衛既ニ具ルヲ以テ、姑ク京師ヲ留守セシム。

○毛利元周ノ退老ノ請ヲ聽シ、養子元懋ヲシテ其封ヲ襲カシム。

○脇坂安斐、藩事ヲ以テ歸封ヲ請ヒ、堀直賀、封疆會津ニ隣スルヲ以テ、先ツ歸リテ民心ヲ鎭輯シ、後ニ入覲セント請フ、並ニ之ヲ聽ス。直賀、時ニ江戸ニ在リ、安斐七日途ニ上ル。

○板倉勝尙、嚮ニ朝會ノ命ヲ奉シ、又奥羽應援ノ令アリシヲ以テ、書ヲ上リ、入覲歸藩ノ決ヲ稟ス。時ニ江戸ニ在リ、是日、批シテ入朝セシム、勝尙遂ニ朝スルヲ果サス。

○小笠原長國、大坂ニ抵リ、書ヲ裁判所總督醍醐忠順ニ上リ、屛居シテ罪ヲ待ツ、又之ヲ朝廷ニ稟ス、是日、批シテ京ニ入リ後命ヲ俟シム。

○稻垣長行ノ老臣京ニ在ルモノ、龜山藩ニ因リテ書ヲ上リ、其主ノ爲ニ哀ヲ乞フ、是日、批シテ長行ヲシテ歸順ノ實ヲ擧ケ、後命ヲ俟シム。

○松平賴英、本多助成、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。賴英ハ兵士一小隊ヲ附ス○松平賴英家記、內國事務局叢書

○大總督熾仁親王駿府城ニ入ル。先鋒總督橋本實梁、副總督柳原前光來會ス。東征紀略

卷四十四　明治元年戊辰三月六日ニ起リ八日ニ至ル

○六日、九州鎭撫總督澤宣嘉ニ命シテ、西海道ヲ統轄セシム、因テ薩摩、肥後以下ノ諸藩ニ令シ、舊代官地撿査等ノ事、之ヲ總督ニ申セシム。

○是ヨリ先、高松保實ニ命シテ、其子實村ヲ召還ス、是日、保實ニ付シテ之ヲ幽ス。

○山内豐範、大坂ニ在リ、病ヲ以テ藩ニ歸ラント請フ、之ヲ聽ス。

○大總督熾仁親王、三道ノ先鋒總督ニ令シ、本月十五日ヲ期シテ江戸城ヲ進撃セシム。東征總督記

○東山道先鋒、賊隊長近藤勇、ヲ勝沼驛甲斐山梨郡、ニ撃チテ、之ヲ破ル。東征總督記

○田安慶頼、中納言、德川氏三卿ノ一、後藩屛ニ列シテ德川氏ヲ稱ス、書ヲ東海道先鋒總督橋本實梁ニ上リ、勤王ノ素志ヲ陳シ、且德川慶喜ノ爲ニ哀ヲ乞フ、是日、命シテ慶喜謝罪ノ實ヲ擧ケ、且緩急ノ際、親子内親王ヲ護衞セシム。

○德川氏ノ家臣、淺野氏祐、川勝廣運、備後守、官軍東下ヲ以テ、書

ヲ佛國公使ニ致シ、横須賀製鐵所造營ノ工ヲ停ム。

七日、大津裁判所ヲ置キ、議定長谷信篤ヲ以テ總督ト爲ス。議定職ノ如シ。

○諸藩ニ令シテ、士庶ノ逋逃ヲ禁シ、言路ヲ洞開シ、民情ヲ疏通セシム。

○堀親義ノ退老ノ請ヲ聽シ、養子親廣三之丞、ヲシテ其封ヲ襲カシム、又酒井忠惇ノ入京ヲ止メ、其官位ヲ褫ク。

○鍋島茂實、支族直彬ヲシテ、代リテ長崎鎭衞ヲ按行セシメント請フ、之ヲ聽ス。直彬、九日途ニ上ル。

○議定島津忠義、俸金ヲ辭ス、聽サス。

○山内豐範、別子銅山伊豫宇摩郡ニ在リ、ノ事狀ヲ陳シテ、之ヲ管理セント請フ、聽サス。

○柳生俊益、歸藩ヲ請ヒ、京極朗徹、養父高朗長門守、ノ疾アルヲ以テ、歸藩ノ次鄕ニ在リ、江戸京師ニ詣ラスシテ、直ニ藩ニ就カシメント請フ、並ニ之ヲ聽ス。俊益十日途ニ上ル。

○細川興貫、森川俊方、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム、細川興貫森川俊方家記又丹羽長國、支族一柳國敬四郎、ヲシテ代覲セシメント請フ、遂ニ果サス。

○勝山藩美作、美作警備ノ兵ヲ撤還セシヲ稟ス。

○石川總管、德川氏ニ請ヒ、江戸ヨリ其藩ニ歸ル。石川總管家記

八日、橋本實麗ヲ以テ參與ト爲ス。

○市中取締三藩膳所、篠山、高須、ヲ以テ京都裁判所ニ屬ス。

○是ヨリ先、典藥少允高階經由安藝守、等、書ヲ上リ、醫學ヲ興復シ歐洲ノ方技ヲ兼用センコトヲ請フ、是日、令シテ歐方ノ所長ヲ采用ス。

○是ヨリ先、松平賴聰京ニ詣リ、屏居罪ヲ待チ、上書シテ、軍資金ヲ獻セント請フ、是日、之ヲ聽ス。

○生駒親敬大内蔵交代寄合（）後藩屏ニ列シ、矢島藩ト稱ス、ノ請ヲ聽シ、命シテ奥羽鎭撫使ニ屬セシム。

○東本願寺光勝、募化ノ金穀ヲ獻ス、因テ書ヲ賜ヒテ之ヲ賞ス。

○是ヨリ先、遠藤胤城、加藤明實ニ因リテ哀ヲ乞フ、是日、其家臣書ヲ上リ、胤城、東山道總督ニ就テ罪ヲ謝スルヲ以テ、入覲遲延スルヲ稟ス。

○青山幸宜、京ニ至ル、青山幸宜家記 秋元禮朝、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。辨事局記

○松平定敬、德川氏ニ告ケテ、江戸ヲ去リ、其別邑柏崎越後刈羽郡、ニ赴ク。

○親子内親王、將ニ大總督ニ哀請スル所アラントス、因テ田安慶賴ヲシテ其臣隷ヲ撫輯セシム。

九日、天皇、太政官代ニ臨ミ、三職ヲ召シテ、高野保建少將、清水谷公考建議ノ蝦夷開拓ノ可否ヲ諮詢ス、群議其利ヲ陳ス、是日、又宴ヲ百官ニ賜ヒ、其勤勞ヲ賞ス。

○毛利廣封ヲ以テ議定ト爲シ、議定鍋島齊正ノ軍防事務局輔ヲ罷メ、制度事務局輔ヲ兼シム。

○薩摩藩ニ命シテ、鷲尾隆聚ノ邸ヲ守衛セシム、之ヲ辭ス、建部政世モ亦華頂宮ノ警衛ヲ罷メント請フ、之ヲ聽ス。

○是ヨリ先、戸田氏共ヲ召ス、是日、京ニ至ル。

○松平賴升、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。松平喜徳家記

卷四十五　明治元年戊辰三月十日ニ起リ十一日ニ至ル

十日、浪士ノ私ニ貴紳ニ託シテ、其附屬兵ト稱スルヲ禁ス。

○是ヨリ先、奥平昌服ヲ召シテ、大阪ヲ守衛セシム、時ニ昌服疾ニ罹ル、而シテ其子昌邁美作守、大阪ニ在リ、是日、書ヲ上リ、自ラ其父ニ代ラント請フ、之ヲ聽ス。

○秋月藩ニ命シテ、二條城ノ栅門ヲ守衛セシム黒田長徳家記

○徳川慶喜、其臣梅澤亮ヲ遣シ、東山道總督岩倉具定ニ因リ

テ、哀請書ヲ上ル、具定之ヲ納レ、後命ヲ俟シム、是日、慶喜之ヲ其臣僚ニ告ク。

十一日、神武天皇祭、使(愛宕通旭)ヲ畝傍陵ニ遣シテ、幣帛ヲ奉ス。

○在京ノ諸侯ニ令シテ、官位任叙ノ年月日ヲ錄上セシム。

○藤堂高邦、宇治ニ赴キ、自ラ關門ノ守衛ヲ撿セント請フ、之ヲ聽ス。

○戸澤正實、六師應援ノ命ヲ奉スルヲ以テ、江戸ヨリ藩ニ就キ、兵備ヲ修理セント請フ、是日、之ヲ聽ス。

○榊原政敬、奥平昌邁、並ニ書ヲ上リ、徳川慶喜ノ爲ニ哀ヲ乞フ、批シテ、之ヲ大總督ニ上ラシム。

○海軍先鋒大原俊實、京師ヲ發ス、乃チ薩摩、肥前、久留米三藩ニ命シテ、汽船及ヒ兵隊ヲ出サシム、尋テ肥後、阿波二藩兵ヲシテ陸路之ニ屬セシム。

○中川久昭、毛利高謙、京ニ至ル。(中川久昭 毛利高謙家記)

○松平慶永ノ臣江戸ニ在ルモノ、六師東下物情洶々ノ狀ヲ報ス、慶永其變亂ヲ生センコトヲ恐レ、書ヲ岩倉具視ニ致シテ、姑ク東征ノ師ヲ駐メ、謝狀ヲ採錄セント請フ、是日、又中根師質ヲ遣シテ、其意ヲ申ス。

巻四十六

(明治元年戊辰三月十二日ニ起リ十三日ニ至ル)

十二日、毛利敬親ノ請ヲ聽シ、其老臣吉川經幹ヲ以テ支封ト爲シ、藩屏ニ列ス。

○松平頼升、再ヒ討會ノ先鋒タラント請フ、之ヲ聽ス。

○議定山内豐信、疾ヲ大阪ニ養ハント請フ、之ヲ聽ス。

○黒田長溥、老臣ヲシテ長崎ヲ按行セシメ、其地異狀ナキヲ稟ス。

○松平忠和ノ老臣、藩兵京ニ至ルヲ稟シ、使役ニ供セント請フ。

○本多忠直、(平八郎○忠民ノ子)酒井忠經京ニ至ル、本多忠紀、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。(○辨事局記、本多忠直 酒井忠經家記)

○是ヨリ先、徳川慶喜、入道公現親王ニ就テ、罪ヲ朝廷ニ謝センコトヲ請フ、親王乃チ駿府ニ詣リ、大總督熾仁親王ニ謁シ、書ヲ上リ哀ヲ乞フ、是日、大總督、公現親王ニ諭シ、慶喜ヲシテ謝罪ノ實ヲ表セシム。

○徳川慶喜、復其臣隷ヲ懇諭シ、輕擧妄動シテ、罪戾ヲ犯スコト勿ラシム。

十三日、副島種臣(二郎○肥前藩士)ヲ以テ參與兼制度事務局判事ト爲シ、

議定細川護久ノ刑法事務局輔ヲ罷ム。

○薩摩、安藝、長門三藩ノ大阪市街取締ヲ改メテ巡邏ト爲シ、高島藩兵ヲシテ二條城ノ柵門ヲ警守セシム。

○祠官ノ公卿ニ因リテ執奏シ、及ヒ其配下タルヲ停メ、之ヲ神祇官ニ屬ス、又別當社僧ノ類、悉ク蓄髪セシム。

○久留島通靖、其治下要害ヲ闕クヲ以テ、保防ヲ築キテ不虞ニ備ヘント請フ、之ヲ聽ス、其家臣、又窮民救恤ノ事ヲ稟ス、批シテ之ヲ長崎裁判所ニ請ハシム。

○備前藩、金岡港拘留ノ松平武聰ノ家臣ノ處分ヲ請フ、是日、批シテ之ヲ武聰ニ還付セシム。

○一柳末徳、京ニ至ル。〇一柳末徳家記

○小笠原忠恍、年幼ナルヲ以テ、老臣ヲシテ兵ヲ率キテ京ニ至ラシム。

○親子内親王、手書ヲ東海道先鋒總督橋本實梁、東山道總督岩倉具定ニ致シ、暫ク其進軍ヲ止メント請フ、報至ルニ及ヒテ、内親王、再ヒ其臣隷ヲ戒諭ス、是日具定板橋驛ニ抵ル。

卷四十七　明治元年戊辰三月十四日

十四日、天皇紫宸殿ニ御シ、公卿諸侯ヲ率キテ、天神地祇ヲ祭リ、國是五章ヲ約定ス、曰、廣ク會議ヲ興シ、萬機公論ニ決ス、曰、上下心ヲ一ニシ、盛ニ經綸ヲ行フ、曰、官武一途、億兆其志ヲ遂ケ、人心ヲシテ倦マサラシム、曰、舊染ノ陋習ヲ破リ、天地ノ公道ニ基ク、曰、智識ヲ世界ニ求メ、大ニ皇基ヲ振起ス、又詔シテ、洪業ヲ紹述シ、蒼生ヲ安撫セントスルヲ告諭シ、各私見ヲ去テ、公議ニ遵ハシム。

○新發田藩兵ヲシテ華頂宮ヲ護衛セシム。〇溝口直正家記

○初メ英國公使兇徒ノ横虐ニ遭ヒシヤ、法律ヲ設ケテ、將來ヲ禁戒セント請フ、因テ禁令ヲ草シテ之ヲ示ス、是ニ至リ、公使其公布ヲ促ス、乃チ明日ヲ以テ之ヲ要地ニ掲示スルヲ報ス。

○阿部正靜、白川ニ復封センコトヲ請フ、報セス。

○細川利永、本莊道美、京ニ至ル。〇辨事局記 細川利永家記

○是ヨリ先、徳川慶喜ノ臣山岡高歩、鐵太郎、大總督府ノ參謀西郷隆盛ニ就キテ、其主ノ爲ニ哀ヲ乞フ、勝義邦モ亦書ヲ隆盛ニ致シテ、其意ヲ陳ス、大總督、乃チ實効ノ目ヲ指示シテ、之ヲ遣ル、是日、義邦及ヒ高歩等、隆盛ノ營ニ抵リ、指示ノ目ニ就キテ、其情願ヲ陳請ス、隆盛、乃チ東海、東山二道ノ先鋒總督ニ牒シテ、假ニ明日ノ進軍ヲ止ム。

卷四十八

明治元年戊辰三月十五日ニ起リ十八日ニ至ル

十五日、車駕發京ノ期、及ヒ海軍ヲ大阪海ニ閲スルヲ布告シ、且親征ノ旨趣ヲ申諭ス、乃チ加賀、薩摩以下ノ諸藩ニ令シテ、輦下及ヒ沿道ノ守備ヲ嚴ニセシム。

○禁令五條ヲ定メテ、之ヲ海內ニ頒チ、舊幕府ノ掲榜ヲ撤ス。

○內國事務局權判事長谷川景隆（仁右衛門）肥後藩士、ヲ以テ參與兼內國事務局判事ト爲シ、議定伊達宗城ノ大阪裁判所副總督ヲ罷ム。

○池田茂政ノ請ヲ聽シ、支族政詮ヲシテ其後ヲ承ケ、政詮ノ子政保鑛次郎ニ父ノ封ヲ襲カシム。

○阿波、土佐二藩ノ近江取締ヲ罷メ、其地ヲ巡警セシム、二藩並ニ之ヲ辭ス。

○牧野誠成、書ヲ上リ、其治所田邊京師ノ北門タルヲ以テ、歸藩シテ守備ヲ修メント請フ、之ヲ聽ス。○明日達ニ上ル。

○青山幸宜、東山道總督ノ譴責ヲ蒙リシヲ以テ、上書哀ヲ乞フ、是日、批シテ京師ニ屛居シ、後命ヲ俟シム。

○韮山代官江川英武、太郎左衛門、書ヲ上リ、其家系及ヒ管地私田ノ沿革ヲ陳シテ命ヲ請フ、是日、批シテ舊ニ仍ラシム。

○井上正直、久松勝吉、相良頼基、板倉勝弘、京ニ至ル。井上正直久松定弘

相良頼基板倉勝弘家記鳥居忠寶、小笠原貞正、病ヲ謝シ、並ニ老臣ヲシテ京ニ至ラシム。貞正ハ兵隊之ニ附ス、○鳥居忠文、小笠原貞幹家記

○北陸道先鋒總督高倉永祜、高田越後、ニ抵ル。北陸道戰記

十六日、是ヨリ先、東山道總督岩倉具定、永井尚服ノ入覲ヲ止ム、既ニシテ、尚服旨ヲ得テ京ニ至ル、是日、上書シテ、起居ヲ候セント請フ。

○渡邊章綱、高木正坦、主水正、○丹南藩主、食封壹萬石、京ニ至ル。○渡邊章綱家記內國事務局書類

○是ヨリ先、田安慶頼、書ヲ堀親義及ヒ上野、信濃ノ諸藩主ニ遺リ、援軍ノ事ヲ東山道總督ニ請ハシム、時ニ親義京師ニ在リ、乃チ岩倉具視ニ哀訴ス、具視、之ヲ大總督ニ上ラシム、是日、親義ノ使者駿府ニ至ル。

○德川氏ノ臣僚、江戶城ヲ避テ、田安慶頼ノ第ニ徙ル。

十七日、長崎裁判所參謀大隈重信八太郎、○肥前藩士、ヲ以テ參與兼外國事務局判事ト爲シ、橫濱ニ駐在セシム。

○在京諸侯五節參賀等ノ條規ヲ定ム。

○內國事務局、其民政掛ヲ舊西奉行所ニ徙シ、民政役所ト稱ス。

○藤堂高潔ニ命シテ、親征ニ扈從セシム、黑田長知、池田章政、初名政詮、相良頼基、扈從ヲ請フ、頼基ノ請ヲ聽サス、既ニシテ、長知

疾ミテ従フコト能ハス。

○府中藩ニ命シテ、蛤門ヲ守衛セシム。

○植村家保、松平直靜、將ニ江戸ヨリ入覲セントス、途中疾ニ罹レルヲ以テ、姑ク藩ニ歸リテ疾ヲ養ハント請フ、並ニ之ヲ聽ス、家保、其子家壼劉八郎ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。

○松平慶倫、書ヲ上リ、徳川慶喜ノ爲ニ哀ヲ乞フ、聽サス。

○大河内信古、稻葉久通、安部信發、京ニ至ル。大河内信古、稻葉久通家記、内國事務局叢書

○大總督熾仁親王、書ヲ英國公使ニ遺リ、其東征ヲ告ク。

十八日、詔シテ、准后藤原氏ヲ尊ヒテ、皇太后ト曰ヒ、大宮ト稱ス。

○朝貴ノ名稱ヲ冒シテ、金銀ヲ貸與スルヲ禁ス。

○是ヨリ先、徳川徳成ニ命シテ、親征ニ扈從セシム、徳成幼齡ニシテ、騎ニ堪エサルヲ以テ、先ツ大阪ニ赴カント請フ、松平慶永モ亦疾ヲ以テ、扈蹕ヲ辭ス、是日、並ニ之ヲ聽ス。

○毛利元純、入覲ノ次大阪ニ至ル、適行幸ノ期ニ際スルヲ以テ、本地ニ逗留スルヲ稟ス。

○稻垣太清、京ニ至ル、稻垣太清家記、南部信順、疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ、京ニ至ラシム。南部榮信家記

卷四十九

明治元年戊辰三月十九日ニ起リ二十日ニ至ル

十九日、中山忠愛ヲ以テ參與ト爲ス。

○横濱裁判所ヲ置キ、兵庫裁判所總督東久世通禧ヲ以テ總督ト爲シ、外國事務局權輔鍋島直大初名茂實、ヲ副總督ト爲ス、二人參與、外國事務局輔並ニ故ノ如シ、尋テ外國事務局判事井關盛艮、寺島宗則等ヲシテ横濱ニ駐在セシム。

○加賀、久留米二藩ニ命シテ、今出川門、橋本關門ノ警衛ヲ交換セシメ、三日月藩ノ嵯峨口守衛ヲ罷メ、岡藩ヲ以テ之ニ代フ、又紀伊、久留米以下六藩ニ東征應援ノ兵備ヲ爲サシム。

○東山道先鋒ノ勝沼驛戰捷ヲ賞ス。

○森忠典、織田信學ノ退老ノ請ヲ聽シ、忠典ノ子忠儀、信學ノ子信敏ヲシテ、並ニ封ヲ襲カシム。

○松平定安、疾ヲ謝シ、支族直哉ヲシテ山碕關門ヲ守ラシメント請ヒ、永井直諒、其藩城行在ニ近キヲ以テ、留リテ公事ヲ措置セント請フ、並ニ之ヲ聽ス。

○大田原勝清、藩地傍近賊徒横行ノ狀ヲ奏シ、朝命ヲ得テ之ヲ鎭輯セント請フ、是日、之ヲ聽ス。

○是ヨリ先、東山道先鋒總督岩倉具定、秋元禮朝、内藤頼直ニ

謹愼ヲ命ス、是日、禮朝、賴直ノ老臣京ニ在ルモノ、並ニ書ヲ上リ、其罪ヲ釋シテ入覲セシメンコトヲ請フ、聽サス。

○成瀨正肥、戸田氏良、京ニ至リ、京極高富、疾ヲ謝シ、嗣子高陳近右、ヲシテ代リテ入覲セシム、島津忠寛、大阪ニ至ル。成瀨正肥以下各家家記

二十日、天皇親ラ軍神ヲ紫宸殿ニ祭ル。

○再ヒ徳川慶喜ノ罪狀ヲ布告シ、私ニ文書ヲ通スルヲ禁ス。

○大總督熾仁親王、參謀西郷隆盛ヲ遣シテ、徳川慶喜處分ノ目ヲ稟ス、乃チ旨ヲ授ケテ、歸報セシム。

○島津忠義、封土十萬石ヲ獻シテ、軍政ヲ宏張セシト請フ、是日、優詔シテ聽サス。

○戸田忠友、西上シテ大津驛ニ至リ、入覲遲緩ノ罪ヲ陳謝ス、其支族忠至モ亦爲ニ哀ヲ乞フ、是日、批シテ後命ヲ竢タシメ、且其父忠恕越前守、時ニ江戸ニ在リ、ヲ召ス、會東山道總督岩倉具定モ亦忠恕ニ命シテ、藩境ヲ鎭輯セシム。

○内藤信民、江戸ヨリ歸藩セシノ狀ヲ陳シ、王事ヲ勤メント請フ。

○松平親良、小笠原長守、京ニ至ル。内國事務局叢書小笠原長守家記

卷五十

明治元年戊辰三月二十一日ニ起リ二十二日ニ至ル

二十一日、車駕京師ヲ發ス、副總裁三條實美、輔弼中山忠能、議定細川護久、淺野茂勳、及ヒ毛利廣封、池田章政等之ニ從フ、副總裁岩倉具視、輔弼正親町三條實愛、議定島津忠義、蜂須賀茂韶、及ヒ前田齊泰等、京師ヲ留守ス、是日、車駕八幡ニ次シ、逆徒平定ヲ石清水社ニ祈ル。

○太田資美、松平直致、京ニ至ル。直致ハ父慶憲ニ代ル、内國事務局叢書、松平直致家記

二十二日、車駕守口驛ニ次ス。

○是ヨリ先、松平武聰封ヲ失ヒテ、美作ノ別邑ニ在リ、困弊殊ニ甚シ、是日、池田章政、池田慶德ニ命シテ、之ヲ扶持セシム。

○京極高典、歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。二十六日途ニ上ル。

○丹羽氏中、大岡忠敬、京ニ至ル。丹羽氏中家記内國事務局叢書

○是ヨリ先、兵庫裁判所總督東久世通禧ニ命シテ、姫路ノ事ヲ兼知セシメ、備前藩ノ管守ヲ罷ム、是日、通禧、姫路ヲ巡按シ、薩摩藩ノ軍監中村某謙吾、ヲシテ牙城ヲ監守セシメ、諸藩ノ守兵ヲ撤ス。

二十三日、車駕大坂ニ至ル、本願寺ヲ以テ行在ト爲ス。

○成瀨正肥ヲ以テ、參與兼會計事務局權判事ト爲ス。

○中ネテ大赦ノ節目ヲ判諭シ、且嘉永癸丑以來、邦憲ニ觸レ、刑辟ニ陷リ、其情忠憤ニ出テシモノハ、子孫ヲ收錄シ、其幽閉

若クハ落魄セルモノハ、恩貸ノ典ヲ擧行セシム。

○西條藩ニ命シテ、二條城ノ柵門ヲ守衛セシメ、高取藩ノ市中巡邏ヲ罷ム、松平賴英、植村家壺家記、又久留米藩ノ堺浦警守、中津藩ノ大坂警守ヲ罷メ、並ニ其兵ヲ京師ニ召シ、筑前藩ヲ以テ久留米藩ニ代フ。

○宗義達ニ命シテ、朝鮮國通交事務ヲ掌リ、且太政復古ヲ報セシム。

○稻葉正邦、大津驛ニ至リ、入京ノ可否ヲ稟請ス、批シテ其ノ入京ヲ許シ、屛居シテ後命ヲ竢シム。

○議定熾仁親王、海軍總督嘉言親王、大阪ニ赴ク。

○是ヨリ先、奧羽鎭撫總督九條道孝、松島陸奧宮城郡、ニ抵ル、伊達慶邦迎謁ス、命シテ速ニ兵ヲ會津ニ出サシム、是日、道孝仙臺ニ入ル。

○海軍先鋒大原俊實横濱ニ抵ル。海軍先鋒日誌大原重實事蹟

卷五十一　明治元年戊辰三月二十四日

二十四日、議定、參與及ヒ親王、公卿、諸侯、行在ニ朝ス、天皇、延見シテ之ヲ慰勞ス、是日、海軍親閱ノ日ヲ定ム。

○參與顧問小松清廉、後藤元燁ヲ以テ、外國事務局判事ヲ兼ネシム。

○銅錢ノ價位ヲ定ム。

○諸藩ニ令シテ、在京ノ兵員ヲ錄上セシム。

○久留米藩ノ桂宮守衛、新發田藩ノ華頂宮守衛ヲ罷メ、今治藩ヲ以テ新發田藩ニ代フ。有馬賴咸、溝口直正、久松定弘家記

○伊達宗城、支族宗孝ノ江戶ニ在リ、病ヲ謝シテ入覲遲延シ、其心情疑フヘキヲ以テ、宗德ヲシテ假ニ其封邑ヲ營セシメント請フ、之ヲ聽ス。

○立花種恭、封內騷擾スルヲ以テ、江戶ヨリ藩ニ就クヲ稟シ、入覲遲延ヲ謝ス、批シテ鎭定ノ後速ニ入覲セシム、奧平昌邁、大坂ニ赴キテ起居ヲ候シ、且援軍ノ事ヲ措辨セント請フ、之ヲ聽ス。二十八日途ニ上ル。

○大河內信古、京邸失火ヲ申シテ罪ヲ乞フ、命シテ謹愼セシム。

○秋月種殷ノ家臣、書ヲ上リ、藩兵ノ東上セシヲ以テ、東征ニ從ハシメント請フ、批シテ後命ヲ俟シム、是日、又繼至ノ兵ヲ錄上ス。

○鳥居忠寶、疾ヲ謝シ、其弟忠文右近、ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。鳥居忠文家記

卷五十二　明治元年戊辰三月二十五日

○二十五日、東國ノ形勢ニ隨ヒ、大師將ニ東征セントス、因テ令シテ、諸軍ヲ勗メシム。

○參與烏丸光德、後藤元燁、木村貞通ヲ以テ軍監ト爲シ、主人、參與故ノ知シ、島津忠寬、毛利元純ヲ扈蹕ニ加フ。

○伊達慶邦、上杉齊憲ニ申命シテ、速ニ討會ノ功ヲ奏セシム。

○膳所、篠山、高槻、龜山丹波、ノ四藩ニ命シテ、京師防火ノ事ヲ掌ラシム。

○副總裁岩倉具視、議定、參與ヲ會シテ、再ヒ蝦夷開拓ノ事宜三條ヲ策問ス。

○是ヨリ先、石川成之、假ヲ乞ヒテ藩ニ歸リ、兵制ヲ釐革ス、未タ其功ヲ畢ヘス、是日、書ヲ上リ、入覲ノ期ヲ延ヘント請フ、眞田幸民、江戸ヨリ西上ノ途次藩ニ歸ル、軍事倥偬ナルニ會シ、入覲遲延スルヲ稟ス、並ニ之ヲ聽ス。

○大給近說、左衞門尉ノ府内藩主、食封二萬千二百石、京ニ至ル、其舊幕府ノ要路ニ在リシヲ以テ、屏居シテ後命ヲ竢シム、近說、又中川久昭ニ因リテ、罪ヲ謝ス。

○是ヨリ先、酒井忠惇ノ老臣、忠惇ノ父忠績ヲ江戸ヨリ召サント請フ、之ヲ聽ス、忠績疾アルニ會シ、孫忠邦直之ノ男、後忠惇ノ養子ト爲ル、ヲシテ代リテ西上セシム、忠邦大津驛ニ至リ、小濱藩ニ因リテ、忠績ノ哀請書ヲ上ル、之ヲ却ク、本地警守ノ阿波藩モ亦忠邦留宿ノ狀ヲ申ス、是日、阿波藩ニ令シ、忠邦ヲシテ姬路ニ歸リ、後命ヲ俟タシム。

○長門藩老毛利親信ノ禁闕守衞ノ功ヲ賞シテ、物ヲ賜フ。

○本多康穰、大津裁判所總督長谷信篤ノ命ヲ以テ、巡邏兵ヲ大津驛ニ出セシヲ稟ス。

○土井利恒、稻葉正善、京ニ至ル。○土井利恒稻葉正善家記

○是ヨリ先、水野勝知江戸ニ在リ、紀伊藩士某等ト竊ニ德川氏ヲ扶持センコトヲ謀ル、老臣等、之ヲ諫メテ歸藩ヲ勸ム、聽カス、又彰義隊ト通ス、是ニ於テ、老臣等相謀リ、將ニ勝知ヲ廢シテ、義叔父勝寬聟之助、ヲ立テントス、是日、勝知、彰義隊ヲ率ヰ、藩城ヲ襲ヒテ之ヲ取ル。

卷五十三　明治元年戊辰三月二十六日ニ起リ二十七日ニ至ル

二十六日、車駕天保山海口ニアリ、ニ幸シテ、海軍ヲ閱ス。

○松平賴英京ニ至ル。○松平賴英家記

二十七日、擧母藩、熱田驛尾張愛智郡、官軍津渡ノ事ヲ稟ス、命シテ之

ヲ措辨セシム。

○松平賴聰ノ家臣、書ヲ上リ、行在傍近ノ地ヲ守衛セント請フ、警守既ニ備ルヲ以テ、命シテ其兵ヲ還サシム。

○是ヨリ先、德川慶勝旨ヲ奉シテ、東海、東山二道ノ諸藩ヲ勸諭シ、王事ヲ勸メシム、是日、慶勝、書ヲ上リ、其事大抵緒ニ就キ、且二道總督在ルアルヲ以テ、其局ヲ收メ、爾後勤王ヲ請フモノハ、直ニ之ヲ太政官ニ申セシムルヲ稟ス。

○山陰道鎭撫總督西園寺公望、京師ニ歸ル。

卷五十四　明治元年戊辰三月二十八日

二十八日、神佛ヲ混同シ、佛語ヲ以テ神號ト爲シ、佛像ヲ神體ト爲スノ類、一切之ヲ禁ス。

○諸標記等ニ禁裏ノ字ヲ冒シ、及ヒ菊章ヲ濫用スルヲ禁ス。

○學舍制ノ草案ヲ七局ニ下シ、其意見ヲ問フ。

○在京ノ諸侯ニ令シテ、鹵簿ノ數ヲ錄上セシム。

○是ヨリ先、大給乘謨、京ニ至リ、（二十日ニ在リ、）起居ヲ候ス、是日、其嘗テ舊幕府ノ要路ニ在リシヲ以テ、更命シテ、屛居罪ヲ待タシム。

○水野忠弘、江戸ニ在リ、幼ニシテ且疾ニ罹リ、未入覲セサルヲ以テ、別墅ニ退居シ、病間ヲ俟チテ、將ニ藩ニ赴カントス、因テ上書シテ、其意ヲ陳ス、是日、批シテ疾愈ユルノ後、先入覲セシム。

○内田正學、浮浪徒ノ警アルヲ以テ、江戸ヨリ藩ニ赴キ、入覲遲延スルヲ謝ス、批シテ先鋒總督ニ就キ、歸順ノ實ヲ表シ、後上京シテ命ヲ請ハシム。

○牧野康濟、京ニ至ル。（牧野康民家記）

○松平忠和ノ家臣、長崎警守ノ事ヲ裁判所總督ニ稟ス、令シテ、其舊ニ仍ラシム。

○上杉齊憲、伊達慶邦、使ヲ會津ニ遣シ、松平容保ニ勸ルニ降服ノ事ヲ以テス、尋テ仙臺、米澤、二本松三藩ノ使者、會津ニ會シ、前議ヲ申ヌ。

卷五十五　明治元年戊辰三月二十九日ニ起リ晦日ニ至ル

二十九日、坊城俊政ヲ以テ參與ト爲シ、林和靖間詰ヲ兼シメ、大坂裁判所總督醍醐忠順ニ兵庫裁判所ノ事ヲ兼知セシム。

○舊制、宮、堂上等ノ采地ハ助役ヲ課セス、是日、令シテ全國ノ定制ニ從ハシム。

○各局及ヒ諸裁判所ニ令シテ、上廳放衙ノ時限ヲ嚴ニシ、各局

官吏ノ地方ニ賦役セシ者ハ、其路程歸京等ヲ具申セシム。

○松平直克、京ニ至リ書ヲ上リテ、起居ヲ候セント請フ、聽サス、屏居シテ後命ヲ俟タシム、堀田正倫モ亦京ニ至リ、大總督ノ譴ヲ蒙リシヲ以テ、屏居シテ罪ヲ待ツ。

○稻垣長行、龜山藩ニ因リテ、書ヲ上リ哀ヲ乞フ、是日、其入京ヲ許シテ、謝罪ノ實ヲ擧ケシム。

○大關増勤、（黒羽藩主、黒羽藩士若干ノ兵ヲ率ヰ、時ニ藩兵若干ヲ以テ、東々藩ヲ襲ハス、）其封境暴徒横行ノ狀ヲ申シ、朝命ヲ得テ、之ヲ鎭撫セント請フ、批シテ東山道總督ニ具申セシム。

○山内豐範ニ命シテ、佛國償金三分ノ一ヲ納レシム、豐範書ヲ上リ、慶裕ノ窮乏ニ陳シ、官之カ措置ヲ爲サンコトヲ請フ、聽サス、豐範、乃チ金二千兩ヲ納レ、其期ヲ緩クセント請フ。

○土井利恒、其所管北與東ノ隔闊、成功ヲ期シ難キヲ以テ、其地ヲ還納セント請フ。

○相良頼基、其所管米良（肥後米良）、椎葉山（日向椎葉）ノ措置ヲ稟請ス。

○石川總管、水戸藩紛擾ノ故ヲ以テ、江戸ヨリ藩ニ付キシヲ稟ス。

○安藤信明、京ニ至ル。（平藩主、官家記）

○一橋茂榮（大書院、曾テ兵ニ備ヘ一、徳慶主ニ屬シテ、曾テ兵ヲ出ス、）及ヒ德川慶喜ノ臣河津祐邦、（若年寄）等、朝倉某（幕府十郎、目付）等、大總督府ニ詣リ、慶喜ノ爲ニ哀ヲ乞フ、親子内親王モ亦書ヲ先鋒總督橋本實梁ニ致シテ、茂榮哀請ノ事ヲ託ス、是日、大總督、茂榮等ニ諭シ、東歸シテ恩命ヲ俟タシム。

晦日、親征中節朔ノ參賀ヲ停ム。

○庶民ノ搢紳家ニ請託シテ、臣隷ト冒稱スルヲ禁ス。

○是ヨリ先、酒井忠篤ヲ召ス、未タ至ラス、是日、再命シテ速ニ入覲セシム。

○鷲尾隆聚ノ高野山ニ在リシヤ、一山ノ僧徒各其力ヲ致シ、興山寺殊ニ功勞アリ、是日、興山寺ヲ以テ寺務總職ト爲シ、又衆徒ヲ褒獎ス。

○京極朗徹、疾ニ罹レルヲ以テ、藩ニ就キ、姪高徳（久之助）ヲシテ己ニ代リ、闕下ニ候セシメント請ヒ、本多忠直、藩事ヲ以テ假ヲ請フ、是日、並ニ之ヲ聽ス。（寅直ノ書、四月四日達ニ上ル、忠直ハ五日、）

○土屋寅直ノ老臣、京ニ在ルモノ、書ヲ上リ、寅直疾未タ愈エス、嗣子擧直（寅之七）、德川慶喜ノ弟タルヲ以テ、其代覲ヲ憚リ、一藩勤王ノ素志暢達スル所ナキヲ陳シ、暫ク歸藩シテ、其力ヲ効ス所アランコトヲ請フ、是日、之ヲ聽シ、擧直ヲシテ大總督ノ指揮ヲ受ケシム。

○議定松平慶永、領曆ノ制ヲ定メ、度量衡ヲ釐定センコトヲ建

議ス。

○是月、假ニ官員ノ月給金ヲ定ム、

○土井利教、藩事ヲ以テ歸封ヲ請フ、之ヲ聽ス。（四月四日途ニ上ル。）

○是ヨリ先、舊長崎奉行河津祐邦、書ヲ清國江南道ノ道臺ニ遺リ、我航客ノ路引照驗ノ事ヲ謀ル、是ニ至リ、道臺應寶時ノ復書至ル。

卷五十六　明治元年戊辰四月一日ニ起リ二日ニ至ル

○四月

朔日、宿驛役所ヲ京師ニ置キ、諸道驛遞ノ事ヲ掌ラシム、又傳驛罷弊シテ、供億ニ堪エサルヲ以テ、一周年ヲ限リ、夫馬ノ雇錢ヲ增加ス。

○渡邊章綱、其封邑大阪ニ隣レルヲ以テ、行在所ノ事役ニ服セント請フ、是日、批シテ之ヲ行在所軍防局ニ請ハシム。

○酒井忠義ノ臣、江戸ニ在ルモノ、書ヲ東海道先鋒總督ニ上リ、徳川慶喜ノ爲ニ哀ヲ乞フ、時ニ忠義、譴ヲ獲テ京師ニ屏居ス、因テ奏シテ、其失體ヲ陳謝ス、是日、批シテ將來ヲ戒飭ス。

○日吉神社ノ社司、樹下茂國（石見守、時ニ神祇事務局權判事タリ、）生源寺希璵（陸奥守、）等、神佛區別ノ令アリシヲ以テ、肆ニ祠壇ノ佛像梵具ヲ焚毀ス、延暦寺之ヲ天台座主（法非、宮、）ニ訴フ、尋テ令シテ、祠官ノ暴擧ヲ爲スヲ禁シ、奏請ノ後其事ニ從ハシム。

○岩城隆邦、京ニ至ル。（岩城隆彰家記）

二日、皇太后、女御、及ヒ淑子内親王、（桂宮、）中院通富ヲ遣シテ、起居ヲ候シ、議定晃親王、參與堤哲長等モ亦前後大阪ニ赴ク。

○參與松平時厚ヲ以テ辨事ヲ兼シメ、參與大久保利通ニ命シテ、假ニ顧問ノ事ヲ行ハシム、又參與橋本實麗ニ内宮ノ事ヲ管セシメ、大原重徳ヲ罷ム。

○横濱裁判所總督東久世通禧、副總督鍋島直大ヲ以テ、假ニ江戸開市ノ事ヲ兼知セシム、直大之ヲ辭ス、聽サス。

○江戸ノ情勢ニ因リ、太政官代ヲ大阪ニ移ス議アリ、總裁局乃チ使ヲ大總督府ニ遣シ、成功遲速ノ心算ヲ問フ。

○再ヒ伊達慶邦ヲ諭シ、旁近ノ諸藩ヲ糾合シテ、速ニ討會ノ功ヲ奏セシム、因リテ其子宗敦（左京大夫、）ニ假ヲ賜ヒ、藩ニ就カシム。

○安藤直裕、一柳頼明、歸藩ヲ請フ、並ニ之ヲ聽ス。（直裕ハ本日途ニ上ル、頼明ハ九日）

○淺野茂勳、藩兵大阪ニ至ルヲ奏シ、東征ニ從ハシメント請フ、命シテ之ヲ京師ニ留メシム。

○本願寺光澤、書ヲ上リ、軍艦ヲ購買シテ之ヲ獻セント請フ、是日、批シテ其資ヲ移シテ、大津、伏見等設關築砦ノ要ニ供セ

シム。

○岡崎藩、隣境ノ民贋造ノ米券ヲ典シテ、金ヲ其管民ニ借リシヲ申シ、其處分ヲ稟請ス。

○議定博經親王、書ヲ上リ、大學校創建ノ事ニ參セント請フ。

○議定兼内國事務局輔松平慶永、書ヲ議定兼内國事務局督徳大寺實則ニ遣リ、其兼職ヲ解カンコトヲ請フ。

○松平忠禮、西尾忠篤、京ニ至ル。（松平忠禮西尾忠篤家記）

卷五十七

明治元年戊辰四月三日ニ起リ六日ニ至ル

三日、江戸城下物價騰貴、庶民其生ヲ聊ンセサルヲ以テ、仙臺藩ニ命シ、米斛ヲ豫備シテ、大總督ノ需用ニ供セシム。

○安部信發、其治所ヲ參河ノ別邑半原（八名郡）ニ移サント請ヒ、細川慶順、支族利永ヲシテ其邑ニ就キ、家事ヲ整理セシメント請フ、是日、並ニ之ヲ聽シ、利永ニ命シテ、事畢リシ後、再ヒ入覲セシム。（利永七日途ニ上ル。）

○是ヨリ先、保科正益、西上シテ草津驛ニ至リ、關吏ノ止ル所ト爲ル、因テ書ヲ上リ、入京ヲ請フ、其松平容保ノ支族ニシテ、宗家ヲ匡救セス、且命ヲ大總督ニ請ハサリシヲ以テ、許サス、既ニシテ、在京ノ老臣、分疏シテ哀ヲ乞フ、是日、其入京ヲ許シ、屏居シテ後命ヲ俟タシム。

○是ヨリ先、大總督熾仁親王、先鋒總督橋本實梁、副總督柳原前光ニ命シテ、江戸ニ赴カシム、是日、實梁、田安慶頼ノ老臣ヲ召シ、明日ヲ以テ江戸城ニ入リ、勅旨ヲ使フルヲ告ク。

○薩摩藩、英商ニ託シテ、軍艦（春日）ヲ清國上海ニ修繕セントス、因リテ英國ノ旗章ヲ假用センコトヲ長崎裁判所ニ請フ、之ヲ聽ス。

四日、傳驛ニ令シ、公卿諸侯吏人等ノ陪隷、横暴ヲ爲スモノアレハ、直ニ之ヲ所在ノ官廳ニ訴ヘシム、隱庇シテ告ケサルモノハ、其罪ニ坐ス。

○是ヨリ、先筑前藩士、黨ヲ分チテ相閱ク、是日、藩主黒田長溥ニ命シテ、正邪ヲ判シ、人心ヲ一ニシ、以テ王事ニ勸メシム。

○内藤政擧、京ニ至ル、命シテ、屏居セシム。

○瀧脇信敏、京ニ至ル、三浦顯次、（玄蕃頭ノ勝山藩主顯次ノ子）柳澤光邦、（伊織ノ黒川藩主光邦ノ子）並ニ其父ニ代リテ入覲シ、前田利鬯モ亦老臣ヲシテ京ニ至ラシム、宗義達、大坂ニ至ル。（瀧脇信敏以下各家家記）

○東海道先鋒總督橋本實梁、副總督柳原前光、江戸城ニ入リ、勅旨ヲ田安慶頼ニ傳ヘ、徳川慶喜ノ死一等ヲ減シ、命スルニ左事ヲ以テシ、七日ヲ期シテ之ヲ舉行セシム、曰慶喜水戸城ニ屏

居ス、曰江戸城ヲ獻ス、曰軍艦銃砲ヲ獻ス、曰臣屬ヲ郭外ニ屏居ク、曰臣僚ノ與謀者ヲ處分ス、慶賴謹ミテ命ヲ奉シ、之ヲ慶喜ニ傳ヘテ、奉答セント請フ。

○北陸道先鋒總督高倉永祜、江戸ニ抵ル。北陸道先鋒記

五日、是ヨリ先、德川氏ノ臣黑川大華嘉兵衛、目付役○等、微行シテ京師ニ入リ、書ヲ薩摩、尾張等ノ諸藩ニ投シ、又津藩ニ赴キ、其主ノ爲ニ救解ヲ乞フ、津藩、大華ヲ留メテ、其書ヲ上ル、是ニ至リ、旨ヲ請フ、批シテ、之ヲ監護シ、後命ヲ俟タシム、既ニシテ之ヲ釋ス。

○島津久光ノ檄ヲ西海道諸藩ニ傳フルヤ、諸藩皆勤王貳ナキヲ陳ス、是日、島津忠義、其狀ヲ奏シ、諸藩ノ答書ヲ上ル。

○松平乘秩、間部詮道、增山正修、井伊直安、右京亮○與板藩主、食封二萬石、京ニ至ル。松平乘承以下各家家記

○長崎裁判所、各國領事ト議定シ、支那人ノ各國人ニ隷スルモノ、我ニ對シテ法ヲ犯サハ、國律ヲ以テ之ヲ處斷ス。

六日、天皇、諸藩兵ノ操練ヲ大坂城ニ覽ル。

○稻葉正善、起居ヲ候セント請フ、其父正巳舊幕府ノ要路ニ在リシヲ以テ、聽サス、後命ヲ俟タシム。

○秋田映季、四隣騷擾スルヲ以テ、其藩兵ノ江戸ニ在ルモノヲ還シ、封境ヲ守備セント請フ、之ヲ聽ス。

○土井利與、京ニ至ル。土井利與家記

○伊達慶邦、使ヲ大總督府ニ遣シ、上書シテ討會ノ不可ヲ陳ス、報セス。

卷五十八　第一　明治元年戊辰四月七日

七日、諸侯以下ニ令シ、其封邑及ヒ舊幕府預地ノ地籍租額ヲ錄上セシム。

卷五十八　第二

○諸侯ニ令シテ、其家眷及ヒ臣隷ノ江戸ニ住スルモノヲ封地ニ移ス、因リテ其已移未移等ヲ具申セシム。

卷五十八　第三

卷五十八　第四

○是ヨリ先、西大路藩、假ニ川越藩ノ別邑近江ニ在ルモノヲ管ス、是ニ至リ、邑民窮困ノ狀ヲ申シ、其租ヲ減セント請フ、是日、批シテ之ヲ大津裁判所ニ請ハシム。

○是ヨリ先、松平忠和、大阪ニ至ル、其德川慶喜ノ昆弟タルヲ

以テ、屏居シテ罪ヲ待ツテ哀ス、批シテ其連坐ヲ免シ、入京セシム、是日、忠和京ニ至ル。

○是ヨリ先、小笠原忠忱亂ヲ避ケテ、熊本ニ在リ、是日、本藩ニ歸ルヲ申ス。

○伊東祐相病ヲ謝シ、其子祐歸(祐麿)ヲシテ代覲セシム。(辨事局叢書 伊東祐歸家記)

○田安慶頼、書ヲ東海道先鋒總督橋本實梁ニ上リ、德川慶喜勅旨ヲ奉スルヲ稟ス、是日、慶喜、其臣小野廣胖、(内膳○勘定奉行並)瀧川具知以下ヲ罰ス。

卷五十九 明治元年戊辰四月八日ニ起リ十一日ニ至ル

八日、十津川郷士ノ建春門、宜秋門、清所門等ノ警守ヲ罷メ、人吉、吉川、(伊豫)西尾三藩ヲ以テ之ニ代ヘ、本願寺ノ猿カ辻警守ヲ罷ム、又紀伊、盛岡以下六藩ニ命シ、加賀、薩摩、阿波三藩ト謀リ、嚴ニ京師ヲ守衞セシム。

○牧野康濟、封内領轄及ヒ碓氷關警守ノ事ヲ以テ、歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。(十一日之ニ止ル)

○大總督熾仁親王、駿府城ヲ發シ、蒲原驛ニ次ス。

九日、參與酒井忠温ヲ罷ム。

○松平親良ノ退老ノ請ヲ聽シ、其子親貴ヲシテ封ヲ襲カシメ、假ヲ賜フ。

○青山忠敏、藩事ヲ以テ假ヲ請フ、之ヲ聽ス。(十三日之ニ止ル)

○是ヨリ先、薩摩藩兵、播磨ヲ巡撫シ、棚倉藩別邑ノ倉廩ヲ封ス、是ニ至リ、藩士阿部正靜ノ家臣、上書シテ其情狀ヲ陳シ、拆封還付センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○親子内親王、江戸城ヲ出テ、清水第ニ移ル。

○是ヨリ先、板倉勝靜、其子勝全ト江戸ヲ去リ、日光山ニ入ル、是日、東山道ノ軍ニ降ル、之ヲ宇都宮藩ニ幽ス。

十日、銅會所ヲ大阪ニ置キ、民庶ノ私ニ之ヲ販賣スルヲ禁ス。

○軍防事務局督、加賀、阿波以下十三藩ノ兵ヲ、洛東聖護院村ニ閲ス、又在京諸侯ニ令シ、日ヲ刻シテ、其兵ヲ簡練セシム。

○小笠原貞孚、大坂ニ至ル。(小笠原貞孚家記)

○東海道先鋒總督橋本實梁、東征ノ旨趣ヲ江戸ノ士民ニ諭シ、疑懼ヲ懷クコトナク、各其業ニ安ンセシム。

十一日、天皇東本願寺掛所ニ臨ミ、群臣ヲ召見シ、參與田中輔等ニ命シテ、經子ヲ講セシメ、又親兵ノ武技ヲ演スルヲ覽ル。

○東海道先鋒總督橋本實梁、江戸城ヲ收メ、尾張藩ヲシテ之ヲ守リ、肥後藩ニ歩兵ヲ統管セシム。

○是ヨリ先、德川氏ノ海陸軍士、書ヲ東海道先鋒總督橋本實梁

ニ上リ、田安家達〔亀之助〕ヲシテ假ニ江戸城ヲ管シ、軍艦銃器ハ充川ノ數ヲ存シテ、其餘ヲ獻セント請フ、聽サス、是日、橋本實梁、將ニ軍艦ヲ收メントス、榎本武揚〔和泉守〇徳川兵海軍副總裁〕、風濤ニ託シテ、之ヲ辭シ、夜ニ及ヒ、船艦ヲ率ヰテ、館山港〔安房安房郡〕ニ走ル、大鳥純彰〔圭介〇歩兵奉行〕、福田道直〔八郎右衛門〇撒兵頭〕等モ亦其部兵ヲ率ヰテ一ニ總ニ走ル。

〇徳川慶喜、江戸ヲ去リテ、水戸ニ赴ク。

卷六十　第一　明治元年戊辰四月十二日ニ起リ十三日ニ至ル

十二日、箱館裁判所ヲ置キ、軍防事務局督嘉彰親王ヲ以テ總督ト爲シ、清水谷公考、土井利恒ヲ副總督ト爲シ、蝦夷開拓ノ事ヲ兼知セシム、親王之ヲ辭ス、乃チ原官ニ復ス、又秋田以下五藩ニ命シテ、本地ヲ警守シ、松前藩ニ錢穀及ヒ諸事ヲ措辨セシム。

〇列藩ニ令シ、大政更張ノ朝旨ヲ奉シテ、舊習ヲ釐革シ、人才ヲ撰擢セシム、若シ優游不斷ニシテ、其績ヲ奏セサルモノハ、巡察使ヲ遣シテ、之ヲ撿按スルヲ告諭ス。

〇郡山藩ノ安治川口警守ヲ罷ム。

〇織田信成、病ヲ謝シ、弟信及〔修理〕ヲシテ代覲セシメント請フ、之ヲ聽ス、是日、信及京ニ至ル。

〇是ヨリ先、池田章政入リテ宗家ヲ承ケ、子政保其後ヲ嗣ク、是日、政保書ヲ上リ、父祖ノ喪服ヲ請問ス。

〇長門藩、米斛ヲ獻シテ、軍資ニ充テント請フ、又其封スル所ノ難波村〔攝津西成郡〕倉廩ノ粟ヲ、大阪裁判所ニ交付セシヲ申ス。

〇南部利剛、老臣ヲ京師ニ遣シ、會津討伐應援ノ命ヲ奉スルヲ以テ、兵ヲ京師ニ出スコト能ハサルヲ謝シ、幷セテ起居ヲ候ス。

〇細川行眞、大阪ニ至ル。〔細川行眞家記〕

〇奥羽鎭撫總督九條道孝、副總督澤爲量、仙臺ヲ發シテ、岩沼驛ニ次ス。

十三日、在京ノ諸侯、既ニ誓約ニ就キテ官守ナキモノハ、歸藩シテ、其政治ヲ釐革シ、且兵備ヲ嚴ニシ、以テ後命ヲ俟タシム。

〇龍野、赤穗以下六藩ニ命シテ、舊旗下士方向未定者ノ采地ヲ假管セシム、尋テ之ヲ罷ム。

〇延暦寺ノ僧徒ニ諭シテ、日吉神社ノ祭事ニ關ルコト勿ラシム。

〇是ヨリ先、出雲藩、隱岐島民驕傲狃恩ノ狀ヲ申シ、嚴法ヲ設ケテ、之ヲ制馭セント請フ、既ニシテ島民其置ク所ノ吏ヲ追

フ、是日、本藩ニ命シテ、便宜處分セシム。

○織田信敏、藩兵ヲ莊內ニ出スヲ以テ、歸リテ其事ヲ督セント請フ、之ヲ聽ス。

巻六十 第二

○諸侯ニ令シテ、襲封敍任等ノ閱歷ヲ錄上セシム。

巻六十 第三

巻六十 第四

巻六十一 明治元年戊辰四月十四日ニ起リ十六日ニ至ル

十四日、參與兼橫濱裁判所總督東久世通禧ヲ以テ議定ト爲ス、總督故ノ如シ。

○松平容保官軍ニ抗シ、其勢益猖獗ナルノ報アリ、是ニ於テ、薩摩、長門及ヒ加賀、安藝以下ノ十二藩ニ令シ、兵ヲ奧羽越後ニ出シテ、應援ヲ爲サシメ、又加賀藩ヲシテ北陸道ノ供億ヲ措辨セシム。

○扈蹕ノ諸侯ニ令シテ、其兵ヲ舊陸軍所ニ練閱セシム、副總裁三條實美以下莅ミテ之ヲ觀ル。

○中川久昭、封內出ス所ノ銅ヲ以テ、錢貨ヲ鑄造センコトヲ請フ。

○竹腰正舊、京ニ至ル。竹腰事記

○是ヨリ先、山陰道鎭撫總督西園寺公望、因幡藩ニ命シ、假ニ大山寺ノ僧徒ヲ管セシム、是日、之ヲ申命ス。

○是ヨリ先、奧羽鎭撫總督九條道孝、副總督澤爲量ニ命シ、往キテ莊內藩ヲ討セシメ、秋田、新莊等ノ諸藩兵ヲ以テ先鋒ト爲ス、是日、爲量若沼ヲ發ス。○奧羽鎭撫使日記

十五日、扈蹕ノ公卿諸侯ヲ召シ、親征ノ旨ヲ申諭シテ、戒令ヲ頒ツ。

○學習院ヲ改メテ、大學寮代ト爲ス。

○薩摩藩ノ淸所門警守及大阪市街巡邏ヲ罷ム。

○大垣藩兵、東山道ノ軍ニ從ヒテ功アリ、乃チ藩主戶田氏共ノ罪ヲ宥シ、其隊長、伏見ノ役ニ與リシモノヲ、永禁錮ニ處ス、松平賴聰モ亦老臣ヲ刑シ、軍資金ヲ獻セシヲ以テ、其謹愼ヲ釋シ、官位ヲ復ス。

○松井康英、堀之美、京ニ至リ起居ヲ候セント請フ、其嘗テ舊幕府ノ要路ニ在リシヲ以テ、屛居シテ後命ヲ俟タシム、既ニシテ、之美此事ナキヲ陳ス、乃チ之ヲ釋ス。

○米澤藩、討會ノ命ヲ奉スルヲ以テ、在京ノ兵ヲ罷歸スルヲ申ス。

○大總督熾仁親王、江戸ニ入リ、增上寺ニ次ス。東征紀略

十六日、日講筵ヲ行在所ニ開ク、又扈蹕ノ諸藩ニ令シ、日ヲ刻シテ、番次ニ其兵ヲ練閲セシム。

○森川俊方、京ニ至ル。森川俊方家記

卷六十二　明治元年戊辰四月十七日ニ起リ十八日ニ至ル

十七日、車駕座摩神社ニ詣ス、遂ニ東本願寺掛所ニ臨ミ、神祇事務局判事福羽美静文三郎○津和野藩士ニ命シテ、古事記ヲ講セシム。

○宮、堂上ノ子弟ヲ度シテ、僧ト爲スヲ禁ス。

○政令傳達ノ條規ヲ定ム。

○小笠原貞正、藩兵寡少ナルヲ以テ、宗藩ニ隷シテ使役ニ服セント請フ、之ヲ聽ス。

○有馬氏弘、藩事ヲ以テ入覲遲延スルヲ申ス。

○松前德廣、病ヲ謝シ、弟隆廣敦千代ヲシテ代覲セシム。辨事局記

○大總督府參謀、書ヲ副總裁及ヒ軍防局ニ遣リ、時宜ヲ條陳ス。

○是ヨリ先、朝議將ニ貨幣ヲ更鑄セントス、因リテ大總督府ニ牒シ、江戸ノ金銀座ヲ收メテ、其鑄造ヲ停メ、會計事務局權判事池邊永益藤左衛門○柳河藩士ヲ遣シテ、其事ヲ措辨セシム、是日、大總督府、鑄造場ヲ收ム、尋テ督府、軍費不貲ヲ以テ、奏シテ通貨ヲ增鑄ス。

○是ヨリ先、東海道先鋒總督府參謀、書ヲ田安慶頼ノ老臣ニ遣リテ、軍士哀訴ノ二事、大ニ朝旨ニ背クヲ論シ、大久保忠寛、勝義邦等ヲ諭シテ、速ニ軍艦ヲ納レシム、總督橋本實梁、又慶頼ニ命シ、二人ヲシテ逃走ノ船艦ヲ追跡セシム、是日、義邦軍艦ヲ率ヰテ、品川海ニ還ル。

○是ヨリ先、官軍結城城ヲ復ス、是ニ至リ、賊復タ結城ニ迫ル、官軍之ヲ小山驛下總國寒川郡ニ邀ヘ撃チテ利アラス、結城援絶ユ、水野勝進攝津守○結城藩主勝知ノ祖父其子勝寛皆遁ル。

十八日、笠松美濃裁判所ヲ置キ、參與大原重德ヲ以テ總督ト爲シ、參與故ノ如シ、參與林某ヲ内國事務局權判事ト爲シ、笠松ニ駐在セシム、又參與木村貞通ノ軍監ヲ罷ム。

○議定兼外國事務局輔東久世通禧ニ命シテ、英吉利、佛蘭西、孛漏生、伊太里、魯西亞、荷蘭陀六國ニ使セシム。

○水戸藩、奸徒鈴木重棟、朝比奈泰尙、市川弘美等逃走シ、重棟、泰尙入京ノ聞エアルヲ申ス、是日、令シテ嚴ニ之ヲ搜索セシム、既ニシテ藩主德川慶篤、書ヲ上リ、正邪ヲ陟罰シ、藩事略整理ニ就クヲ奏ス。

○高知藩士長岡恂、貞吉、書ヲ上リ、海軍ヲ振興セント請フ。
○三宅康保、京ニ至ル、本多忠民、疾ヲ謝シ入京ノ期ヲ緩クセント請フ。○辨事局記 本多忠民家記
○東海道先鋒總督橋本實梁、檄ヲ武、總、房、常ノ諸藩ニ傳ヘテ、大鳥純彰、福田道直ヲ討ス。○東海道先鋒記

卷六十三

明治元年戊辰四月十九日ニ起リ二十一日ニ至ル

十九日、賀茂祭、幣使ヲ發セス、祠官ヲシテ之ヲ修セシム。
○新潟、府中但馬ニ裁判所ヲ置キ、北陸道先鋒兼鎭撫副總督四條隆平ヲ以テ新潟裁判所總督兼鎭撫副總督ト爲シ、山陰道鎭撫總督西園寺公望ヲ府中裁判所總督ト爲ス、又北陸道先鋒總督高倉永祜ヲ北陸道鎭撫總督兼會津征討總督ト爲ス。
○參與福岡孝弟、副島種臣ニ命シテ、顧問局ニ參セシム。
○都下市街ノ間ニ銃ヲ發チ、若クハ禽鳥ヲ彈射スルヲ禁ス。
○久松勝吉、松下勝央左金吾○舊旗下士、ノ第四子定純藏人、ヲ養ヒテ嗣ト爲サント請フ、之ヲ聽ス。
○是ヨリ先、古河藩書ヲ上リ、大阪城門ノ衛兵ヲ出セシ事由ヲ陳シテ、朝命ヲ得ンコトヲ請フ、是日、薩、長二藩ノ守衛ヲ罷メ、古河藩ヲ以テ之ニ代フ、又府中藩ノ天保山警守ヲ罷ム。

○本莊宗秀及ヒ其子宗武ノ形迹觀望ニ渉ルモノアルヲ以テ、書ヲ下シテ之ヲ責問ス、宗秀上疏シテ罪ヲ謝シ、且宗武ヲ廢シテ、再ヒ家ヲ承カント請フ、聽サス。
○是ヨリ先、奥羽鎭撫總督、仙臺藩ヲ促シテ、會津ヲ討セシム、仙臺兵逗撓シテ進マス、是日、參謀醍醐忠敬、出テ戰ヲ督ス、官軍利アラス。○仙臺藩記
○賊兵、宇都宮ヲ陷ル、藩士戸田忠友ノ父忠恕館林ニ奔リ、板倉勝靜父子復タ賊ニ陷ル、既ニシテ官軍宇都宮ヲ復ス。
二十日、車駕住吉神社ニ幸ス。
○副總裁岩倉具視、留守ノ諸官ト議シ、德川氏ノ處分粗定ルヲ以テ、辨事神山君風ヲ行在所ニ遣シテ、還幸ヲ奏請ス。
○松平定安、藤堂高邦、歸藩ヲ請フ、二人並ニ警守ノ事ニ服スルヲ以テ、聽サス。
○横濱裁判所總督東久世通禧、横濱ニ至ル、是日、奉行所及ヒ横須賀製鐵所ヲ收ム、尋テ横濱裁判所ヲ神奈川裁判所ト改ム。
二十一日、勅シテ、贈正三位左近衛權中將楠正成ノ祠宇ヲ湊川攝津八部郡ニ營シ、其子正行以下ヲ配祀セシム。
○前田利鬯、京ニ至リ、立花鑑寛、大阪ニ至ル。○前田利鬯家記 辨事局記
○大總督熾仁親王、江戸城ニ入ル。

○大總督府、石川利政河内守、佐久間信義鐇五郎○二人並ニ舊町奉行、ニ命シテ、假ニ江戸府下ノ事ヲ管理セシム。

○賊兵、下館、下妻二藩ヲ劫掠ス、藩士石川總管、井上正巳皆遁ル。

卷六十四　明治元年戊辰四月二十二日

二十二日、長崎裁判所總督澤宣嘉、管民天主教ヲ奉スルノ狀ヲ奏シテ、其處分ヲ稟請ス、是日、親王三職以下及ヒ公卿諸侯ヲ御前ニ召シ、處分ノ議案ヲ付シ、各意見ヲ上ラシム。

○大阪裁判所ニ令シテ、孝子、節婦、高年、篤志者ヲ錄上セシム、尋テ七十歳以上ニ粟ヲ賜フ、差アリ。

○加賀藩ノ都下京極街以西ノ警守ヲ罷メ、島原、横須賀二藩ヲ以テ之ニ代フ、又彦根藩ノ桂宮舊址及ヒ中山忠能、藤波教忠神祇大副二家後門ノ警守ヲ罷ム。

○福山藩ニ令シテ、大阪天保山ノ砲臺ヲ警守セシム、因リテ其西宮ノ守衞ヲ罷メ、尼崎藩ヲ以テ之ニ代フ。

○松平武聰ノ家臣、書ヲ上リ、澀谷越ヲ警守センコトヲ請フ。

○平戸藩、英國軍艦ノ來リテ封内ノ沿海ヲ測量セシヲ申ス。

○大岡忠貫、江戸ヨリ西上シ、途中疾ニ罹リテ封邑ニ就ク、因リテ老臣ヲ遣シテ、其狀ヲ申ス。

○是ヨリ先、東山道鎭撫總督、堀田正養ニ謹愼ヲ命ス、既ニシテ之ヲ釋ス。是日、正養京ニ至ル。

○伊東祐歸、京ニ至ル。伊東祐歸家記

卷六十五　上　明治元年戊辰四月二十三日

二十三日、横井時存平四郎○肥後藩士、ヲ以テ參與ト爲ス、尋テ制度事務局判事ヲ兼シム。

○扈蹕ノ諸侯ニ令シ、其臣隷ノ擅ニ砲銃ヲ發ツヲ禁ス。

○是ヨリ先、舊旗下士相繼キ西上シテ京師ニ在リ、是日、令シテ其封戸家系等ヲ錄上セシム。

卷六十五　下

卷六十六　上　明治元年戊辰四月二十四日ニ起リ二十五日ニ至ル

二十四日、八幡宮ニ菩薩號ヲ冒スルヲ停メ、八幡大神ト稱ス。

○佐渡裁判所ヲ置キ、滋野井公壽ヲ以テ總督ト爲ス、府中藩兵之ニ屬ス。

○大總督府ニ令シテ、舊幕府ノ圖籍ヲ收ム。

○土屋擧直、其父寅直ニ代リテ、京ニ至ル。

○東山道總督岩倉具定、江戸ニ入ル。（東山道總督府日記）

二十五日、勅シテ徳川慶喜ノ處分、及ヒ其繼嗣、秩祿ノ議ヲ、親王、三職、公卿、諸侯、貢士ニ下ス、議定熾仁親王、蜂須賀茂韶以下、各意見ヲ上陳ス、既ニシテ大總督熾仁親王モ亦使ヲ遣シテ、速ニ徳川氏ノ處分ヲ定メンコトヲ請ヒ、幷セテ諸道總督ノ意見書ヲ上ル。

卷六十六　中

卷六十六　下

○内國事務局權判事小河一敏（彌右衛門、岡藩士、）ヲ以テ、參與兼内國事務局判事ト爲ス。

○新見、淺尾二藩ノ備中公邑ノ管理ヲ罷メ、安藝、備前二藩ヲ以テ之ニ代ヘ、朽木之綱（主計助、舊交代寄合、）ノ山中關門（近江滋賀郡、山城ノ境ニアリ、）守衛ヲ罷メ、忍藩ヲ以テ之ニ代フ。

○稻葉正邦、松井康英、大給乘謨、永井尚服、大給近説ノ、舊幕府ノ要路ニ居テ、匡救道ヲ失スルヲ譴メ、其狀ヲ具申セシム、正邦等、各上疏シテ罪ヲ謝ス。

○酒井忠美、書ヲ上リ、蝦夷開拓ノ事ニ服スル、其舊ニ仍ランコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○大津裁判所、水口藩ノ遠藤胤城ノ舊封ヲ管理スルヲ罷ム。

○是ヨリ先、横濱留在ノ米國人ウェンリート、我國民ヲ傭ヒ、之ヲ英船ニ搭シテ、將ニ布哇島ニ送ラントス、文票ヲ裁判所ニ乞フ、布哇ハ條約未濟國ナルヲ以テ、許サス、往復數回、議未タ諧ハス、是日、英船遂ニ横濱ヲ去ル。

卷六十七　明治元年戊辰四月二十六日ニ起リ二十八日ニ至ル

二十六日、辨事坊城俊章ヲ以テ、外國事務局權輔ト爲ス。

○小笠原貞孚、京ニ至ル。（辨事局記）

二十七日、軍防事務局權判事大村永敏ヲ以テ判事ト爲シ、東下シテ大總督ヲ輔ケシム。

○秋田藩ニ命シテ、會津ヲ討セシム。

○是ヨリ先、大關增裕（肥後守、黒羽藩主、食封一萬八千石、）病アリ、養子增勤ヲシテ家ヲ承ケシメント謂フ、之ヲ聽ス、增裕尋テ卒ス、是日、增勤ヲシテ其遺封ヲ襲カシム。

○越後人吉田某（省之進、）等、會津兵猖獗ノ狀ヲ報ス、因リテ其功ヲ賞シ、金ヲ賜ヒ、且北陸道官軍ノ嚮導タラシム。

○水野勝知ノ老臣京ニ在ルモノ、結城ノ變ヲ聞キ、歸藩シテ事實ヲ檢シ、勝知果シテ大義ヲ誤ラハ、其義叔父勝寛ヲシテ入覲

王事ニ服シ、因リテ家ヲ承ケシメンコトヲ請フ、聽サス。

○是ヨリ先、仙臺、盛岡二藩ニ令シテ、馬各百頭ヲ貢セシム、是ニ至リ、二藩並ニ書ヲ上リ、貢馬ノ例及ヒ產馬ノ狀ヲ陳シ、年ニ十數頭ヲ貢シ、漸ヲ以テ其數ヲ完クセント請フ。

二十八日、會津兵及ヒ舊幕府逋逃ノ徒、越後、信濃ヲ侵掠ス、因リテ德川慶勝ニ命シ、松代、大垣以下、三十四藩ト與ニ之ヲ討シ、參與成瀨正肥、田宮篤輝ヲ罷メ、往キテ慶勝ヲ輔ケシム、又京畿警衞ノ諸藩ニ令シテ、守備ヲ嚴ニス。

○小泉藩ノ八幡警守ヲ罷メ、對馬藩ヲ以テ之ニ代フ。

○戶田忠友譴ヲ獲テ大津驛ニ在リ、宇都宮ノ警報至ルニ會フ、乃チ忠友ヲシテ、姑ク歸藩セシメ。其父忠恕ニ命シテ、藩政ニ參シ、賊兵ヲ勦蕩セシム。

○是ヨリ先、朝鮮人隱岐島ニ漂到ス、出雲藩、前例ヲ陳シテ、其措置ヲ稟ス、是日、批シテ舊貫ニ仍リ、之ヲ護送セシム。

○本願寺光勝、稟准ヲ經テ、北陸道ノ門徒ヲ募化シ、軍糧ヲ助ケントス、加賀藩、藩情ヲ陳シ、其封內ニ入ルヲ停メント請フ、是日、光勝ニ諭シテ、加賀、能登、越中ニ入ルコト勿カラシム。

○堀直登、（恭之進○須坂藩主直虎ノ子、時ニ直虎卒シテ、未タ封ヲ襲カス、）隣境騷擾スルヲ以テ、上京ノ期ヲ延ヘント請フ、之ヲ聽ス。

○毛利元懋、其父疾ニ罹リ、入覲スルコト能ハサルヲ以テ、老臣ヲ遣シテ、襲封ノ恩ヲ謝ス。

○遠山友祿、松平直靜、京ニ至ル。（藩事局記 松平直靜家記）

○大總督府、田安慶頼ニ令シテ、德川氏ニ軍艦四隻ヲ賜ヒ、其餘ハ悉ク之ヲ收ム。

○是ヨリ先、筑前、肥前二藩、長碕警守ノ事ヲ裁判所ニ建議ス、是日、二藩ニ令シテ、再ヒ其方略ヲ詳陳セシム。

卷六十八　明治元年戊辰四月二十九日

二十九日、參河裁判所ヲ置キ、參與平松時厚ヲ以テ總督ト爲ス、尋テ吉田藩ニ命シテ之ヲ輔ケシム、時厚廳ヲ吉田ニ開キ、令ヲ下シテ衆庶ヲ撫按ス。

○參與戶田忠至ヲ以テ、京都裁判所副總督ヲ兼シム。

○尾張藩ノ太政官代警守ヲ罷メ、丸岡、岡田二藩ヲ以テ之ニ代フ、又高須藩ノ市中取締、岡、秋月二藩ノ二條城柵門ノ守衞ヲ罷メ、足守藩ニ命シテ、市街ヲ巡警セシム、尋テ岡田藩ヲ罷メ、飫肥藩ヲ以テ之ニ代ヘ、其二條城柵門ノ警守ヲ罷ム。

○池田慶德、上書シテ復職ノ恩ヲ謝シ、疾ヲ以テ速ニ上京スルコト能ハサルヲ陳ス、是日、批シテ、疾ヲ力メテ入覲セシム、既

ニシテ慶徳再ヒ書ヲ上リ、前書ヲ申ス、之ヲ聴ス。

○本荘宗武、京ニ至リ、屏居シテ命ヲ俟ツ、其父宗秀モ亦其入覲遅緩ノ状ヲ陳シテ、哀ヲ乞フ、乃チ二人ニ命シテ、誓書ヲ上ラシム。

○是ヨリ先、竹腰正美、（兵部少輔、今尾藩主正舊ノ父）譴ヲ舊幕府ニ獲テ屏居ス、是日、更ニ蟄居ヲ命ス。

○安部信發、治所ヲ半原ニ移スヲ以テ、歸藩シテ其事ヲ整理セント請フ、是日、之ヲ聴シ、事畢リテ後、再覲シテ誓約ニ就カシム。

○春日神社別當大乘院隆芳、一乘院應昭以下復飾ノ請ヲ聴シテ、假ニ新神司ト稱シ、舊ニ仍リテ社務ニ服セシム、尋テ隆芳、應昭等ヲシテ氏ヲ稱セシム。

○大阪裁判所、其管下ニ令シ、庶民ニシテ幕府ノ准許ヲ得、氏ヲ稱シ刀ヲ佩フルモノハ、其事由ヲ錄上セシム、是日、内國事務局、諸道裁判所及ヒ總督府ニ牒シ、大阪裁判所ニ倣ヒテ、其事ヲ撿覈シ、與奪其宜キニ從ハシム。

○議定松平慶永、書ヲ上リ、官制ヲ更革シ、人材ヲ遴選センコトヲ請フ。

○久世廣文、西覲セントシテ江戸ニ抵ル、適藩境騒擾ノ報アリ、乃チ上書シテ其状ヲ陳シ、入覲遅延スルヲ謝ス。

○久松勝行、井上正順、京ニ至リ、黒田長徳（甲斐守、秋月藩主、食封五萬石）大阪ニ至ル。（○久松勝行、井上正順、黒田長徳家記）

○是ヨリ先、邦人ノ長崎葡萄牙領事館ニ雇役スル者、罪ヲ犯ス、裁判所、領事ニ告ゲテ、本犯ヲ勾喚シ、留ムルコト數日、各國領事、連署シテ之ヲ訴フ、裁判所參謀町田久成等、復書辨斥ス。

○大島純彰等、日光山ヲ去リ、東照宮ノ神主ヲ奉シテ、會津ニ入ル。

是月、凡ソ商賈ノ其業ヲ專占スルモノ、暫ク舊貫ニ仍ラシメ、其姦猾ノ行ヲ爲スヲ禁ス。

○姫路藩ノ京邸ヲ收ム。

○參與松尾相永、上表シテ職ヲ辭ス。

卷六十九

明治元年戊辰閏四月朔日ニ起リ三日ニ至ル

○閏四月

朔日、英吉利特派全權公使ハルリー、エス、パークス、行在所ニ朝シテ、國書ヲ上ル、副水師提督ヘンリーケップル等モ亦謁ヲ賜フ。

○久松定昭ノ臣、土佐藩ニ因リテ書ヲ上リ、其主ノ妻孥及ヒ藩

士ヲ、江戸ヨリ迎ヘンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。
○山内豐範、窮乏スルヲ以テ、封内ノ物産ヲ抵シ、金ヲ外人ニ借ラント欲ス、因リテ官ノ保劵ヲ得ンコトヲ請フ。
○細川興貫、京ニ至ル。細川興貫家記
二日、西尾藩ノ清所門警守ヲ罷メ、菰野藩ヲ以テ之ニ代ヘ、安藝、臼杵、高島、西條四藩ノ二條城柵門ノ警守ヲ罷ム、松平乘秩以下各家家記又飯山藩ノ般舟院守衛ヲ罷メ、鯖江藩ヲ以テ之ニ代フ。
○戸田氏共、大河内信古、松平乘秩、松平忠禮、太田資美、戸田氏良、西尾忠篤、三宅康保、大岡忠敬、遠山友祿、瀧脇信敏、信濃出兵ノ命アリシヲ以テ、歸藩ヲ請フ、並ニ之ヲ聽ス、本多忠鵬、田沼意尊ハ入覲ノ途中、是命ヲ聞キ、歸藩シテ、其事ヲ督スルヲ申ス。
○土岐頼知、酒井忠美、京ニ至ル。土岐頼知酒井忠美家記
○大總督府、江戸鎭撫ノ事ヲ以テ、田安慶頼、大久保忠寛、勝義邦ニ委シ、又其勤勞ヲ褒慰シ、益其力ヲ効サシム。
○神奈川裁判所、管下ニ令シテ、阿片烟販賣ヲ申禁ス。
三日、平戸藩ニ命シテ、安治川口ヲ警守セシメ、柳河藩ノ神戸警守ヲ罷ム、尋テ阿波藩ヲ以テ柳河藩ニ代ヘ、其兵庫守衛ヲ罷ム。
○吉川經幹、疾ヲ謝シ、其子經健芳之助ヲ遣シテ行在ニ候シ、藩屛ニ列スルノ恩ヲ謝ス、因リテ命シテ扈蹕ニ加フ。
○龜山藩、追放律前例ニ仍ルノ可否ヲ稟ス、批シテ舊ニ仍ラシム。
○是ヨリ先、津藩書ヲ上リ、桑名ノ臣隷、屛居艱苦ノ狀ヲ陳シテ、寛貸ノ命ヲ請フ、是日、尾張、津二藩ニ令シ、其用事者及ヒ伏見ノ擧ニ與リシモノヲ除クノ外、悉ク家ニ歸ルヲ許シ、且其窮乏者ヲ賑恤セシム。
○請西藩主林忠崇、下總ノ賊ニ應シ、其治所ヲ去リテ、四隣ヲ脅略ス。

卷七十

明治元年戊辰閏四月四日ニ起リ五日ニ至ル

四日、扈蹕ノ公卿諸侯ヲ召シ、徳川慶喜其罪ニ服スルヲ以テ、駕ヲ京師ニ回シ、成功ヲ列聖ノ陵ニ告ケ、二條城ニ移御シテ、萬機ヲ親裁シ、且時ニ大阪ニ臨幸シテ、内外ノ事ヲ統理スルヲ勅諭ス、又東北未タ平定セサルヲ以テ、公卿諸侯ヲ戒メテ、益兵備ヲ嚴ニス。
○大木喬任民平○肥前藩士、ヲ以テ參與ト爲シ、外國事務局判事ヲ兼シム。

○第三ノ掲榜ヲ更定ス。

○別當社僧ニ命シ、蓄髪シテ其稱ヲ更メシム、故アリテ命ニ從フコト能ハサルモノハ、其職ヲ解ク、尋テ葬祭並ニ神式ニ從ハシム。

○大河内輝照、京ニ至ル。（大河内家記）

○勝義邦、書ヲ大總督府ニ上リ、德川慶喜ヲシテ江戸ニ歸住セシメ、以テ士民ヲ鎭輯セント請フ、尋テ屢上書シテ其事宜ヲ陳ス。

○莊内兵、天童ヲ陷ル、藩主織田信敏ノ父信學、仙臺ニ奔ル。

五日、車駕大阪城ニ幸シ、諸藩兵ノ操練ヲ覽ル。

○府中裁判所總督西園寺公望ヲ以テ、東山道第二軍總督ト爲シ、軍防事務局輔長岡護美ヲ副總督ト爲シ、阿波、柳河二藩兵ニ命シテ之ニ從ハシム、又池田章政ヲ議定兼江戸鎭臺輔ト爲シ、兵ヲ引テ任ニ赴カシム。

○箱館裁判所副總督清水谷公考ヲ以テ總督ト爲シ、蝦夷全島ヲ管セシメ、内國事務局權判事井上長秋ヲ參與兼内國事務局判事ト爲ス、又橋本實陳（大夫、實麗ノ第二子、實梁ノ嗣トナル、）ヲ參與ト爲シ、辨事ヲ兼シム。

○稻葉正邦ノ謹愼ヲ釋シ、衆心ヲ一ニシテ、王事ニ服セシム。

○酒井忠篤、水野勝知ノ官位ヲ褫キ、家臣ノ入京ヲ禁ス。

○議定刑法事務局輔細川護久、藩ニ就キテ、父韶邦ヲ輔ケ、兵制ヲ更革セント請ヒ、松平直克、封境騷擾スルヲ以テ、亦歸藩ヲ請フ、並ニ之ヲ聽ス、因リテ直克ニ命シテ、上總兩野地方ヲ鎭輯ス、直克書ヲ上リ、叛亂ノ由ル所ヲ陳シ、勦ヲ止メテ撫ヲ用ヒ、速ニ德川氏ノ封土ヲ定メンコトヲ請フ（護久ハ七日之ヲ上リ、直克ハ十日、）

○小笠原長國、其子長行ノ所在ヲ失スルヲ奏シ、兵ヲ出シテ自ラ効サント請フ、乃チ東山道第二軍ニ屬セシム、尋テ長行ノ官位ヲ褫キ、長國ニ命シテ之ヲ索捕ス。

○神奈川裁判所、書ヲ各國領事ニ遣リ、外商ノ兵仗ヲ私販スルヲ禁ス、既ニシテ、夜ニ乘シ、竊ニ銃器ヲ埠頭ニ搬運スルモノアリ、因リテ再ヒ牒シテ、之ヲ戒飭セシム。

卷七十一

明治元年戊辰閏四月六日ニ起リ七日ニ至ル

六日、勅シテ、豐國社ノ祀典ヲ復シ、新ニ祠宇ヲ大坂ニ營セシム。

○大阪裁判所ニ命シ、還幸後益勵精シテ衆庶ヲ安撫シ、且病院ヲ創設セシム、又軍防局ニ命シテ、攝海ノ警備ヲ嚴ニス。

○參與木戸孝允ヲ長崎ニ遣シテ、天主教徒ヲ處分ス、尋テ豫メ

加賀薩摩以下ノ三十四藩ニ命シテ、之ヲ保管セシム、孝允、長崎ニ抵リ、裁判所總督澤宣嘉ト謀リ、先其魁首百餘人ヲ逮捕シ、之ヲ長門、福山、津和野三藩ニ分付ス。

○議定兼會計事務局輔淺野茂勳、疾ヲ以テ扈蹕ヲ辭シ、且藩ニ就キテ、政治ヲ釐革セント請フ、之ヲ聽ス。十八日遂ニ上ル。

○堀田正倫譴ヲ大總督ニ獲テ、京師ニ在リ、封境騷擾スルヲ聞キ、赦ヲ獲テ藩ニ歸リ、之ヲ鎭撫セント請フ、批シテ、督府ノ處分ヲ俟タシム。

○宗義達上書シテ、朝鮮國交際ノ事例ヲ陳シ、宿弊ヲ更革セント請フ。

○大總督府、金十五萬兩ヲ田安慶頼ニ下付シ、德川氏ノ家族臣隸ヲ賑救ス。

七日、車駕大阪ヲ發シ、淀城ニ次ス、鹵簿兵衛出征ノ時ノ如シ。

○議定兼海軍總督嘉言親王、大阪ヨリ至ル、乃チ其兼職ヲ罷ム。

○制度事務局ニ令シテ、山陵御穢ノ事ヲ議セシム。

○黑田長溥、疾ヲ謝シ、子長知ヲシテ家ヲ承カシメント請フ、是日、優奬シテ允サス。

○岡部長寛、金ヲ獻センコトヲ請フ、嘉奬シテ後命ヲ俟タシム。

○東山道ノ官軍、近藤昌宜勇、時ニ大久保大和ト稱ス、舊幕府新選組ノ長タリ、ヲ捕ヘテ之ヲ斬リ、首ヲ京師ニ傳フ、是日、三條磧ニ梟ス。

○田安慶頼、書ヲ大總督府ニ上リ、關東地方修堤均水等ノ前例ヲ陳シテ、其措置ヲ稟請ス、批シテ舊貫ニ仍ラシム。

巻七十二

明治元年戊辰閏四月八日ニ起リ十一日ニ至ル

八日、車駕京師ニ凱旋ス、是日解嚴。

○是ヨリ先、賊兵越後ニ抵ル、溝口直正ハ之ヲ拒ミ、榊原政敬ハ其行ヲ遏メス、是日、直正ヲ賞シ、政敬ヲ譲メテ、其老臣ヲ京師ニ召ス。

○津山藩ノ大阪警衛ヲ罷メ、神戸港ヲ守ラシム。

九日、天皇、軍神ヲ紫宸殿ニ祭ル、三職、公卿、諸侯以下皆侍ス、儀畢リ宴ヲ群臣ニ賜フ。

○久留米藩ニ令シテ、木津川口ヲ警守セシム。

○内田正學、藩事ヲ以テ上京遲延スルヲ申ス。

○米澤藩貢士遠山某、名闕、書ヲ上リ、奥人頑梗ニシテ化シ難キノ狀ヲ陳シ、姑ク討會ノ師ヲ班シテ、其士民ヲ開諭セント請フ、報セス。

十日、副總裁三條實美ヲ以テ關東監察使ヲ兼ネ、東下シテ德川氏ヲ處分シ、且士民ヲ撫輯セシム、參與萬里小路通房、松尾相保等之ニ從フ。

○郡山藩ヲシテ京師防火ノ事ヲ掌ラシム。

○議定毛利廣封、藩事ヲ以テ假ヲ請フ、是日、勅シテ之ヲ聽シ、其積年勤王ノ勞ヲ褒シ、緩急命ニ趨カシム、又其父敬親ヲ召ス。

○是ヨリ先、東山道總督岩倉具定、永井尚服ノ謹愼ヲ釋ス、尚服使ヲ京師ニ遣シテ、恩ヲ謝シ、起居ヲ候セント請フ、聽サス、是ニ至リ、其罪ヲ釋シ、士心ヲ一ニシテ王事ニ服セシム。

○宗義達、黑田長德、永井直介、京ニ至ル。〇行政官記

十一日、議定幟仁親王、大阪ヨリ至ル。〇有栖川宮家記

○東海道先鋒副總督柳原前光、大多喜城ヲ收メ、城主大河内正質ヲ佐倉藩ニ幽シ、吉田藩ニ命シテ、其城地臣隷ヲ監守セシム。

卷七十三 上

明治元年戊辰閏四月十二日ニ起リ十四日ニ至ル

十二日、參與五辻安仲ヲ以テ、假ニ辨事ヲ兼シム。

○筑前藩ニ令シテ、汽船ヲ北海道ニ差シ、軍需ヲ運輸セシム。

○興正寺攝信ノ大津守衛ヲ罷ム。

○岩城隆邦、莊內征討應援ノ命ヲ奉スルヲ以テ、歸リテ兵事ヲ督セント請ヒ、渡邊章綱、歸藩シテ所管ノ公邑ヲ撿シ、且政治ヲ更革セント請フ、並ニ之ヲ聽ス。〇隆邦十六日上ル章奏八十五冊

○德川慶篤、其支族松平賴位內亂ノ餘ヲ承ケ、藩事忽劇且四隣騷擾スルヲ以テ、爲ニ入覲ノ期ヲ緩クセント請フ、之ヲ聽ス、內藤正誠モ亦藩事ヲ以テ上京遲延スルヲ稟ス。

○水野忠弘及ヒ其父忠精、京ニ至ル。〇水野忠弘家記

○是ヨリ先、邦家親王伏見宮使ヲ遣シテ、入道公現親王ニ上京ヲ勸ム、江戸士民等之ヲ聽キ、交上書シテ、其行ヲ止ム、是日、公現親王、入覲遲延ノ狀ヲ大總督府ニ申ス。

十三日、宮、堂上、諸侯從僕ノ制ヲ定ム、又三職、九門內馬ニ騎シ、及ヒ急劇ノ際、略服ヲ服スルヲ許ス、尋テ、令シテ節朔參賀ヲ除クノ外、三職及ヒ公卿諸侯以下、概シテ略服ヲ用フルヲ得シム。

○橫須賀藩ノ市中巡邏ヲ罷ム。

○長崎裁判所總督澤宣嘉ニ命シテ、西海道ノ公邑ヲ統轄セシメ、薩摩、肥後以下諸藩ノ管理ヲ罷ム。

○德川氏ノ臣隷往々亡命嘯聚スル者アリ、大總督府、田安慶賴

ニ申諭シテ、之ヲ鎭輯セシム。

十四日、新舊金銀貨及ヒ銅鐵錢ノ價位ヲ定ム。

○諸侯ノ車駕ニ扈シテ大阪ニ役シ、若クハ在京五旬ヲ踰ユルモノハ、假ヲ賜ヒテ藩ニ就キ、政治ヲ更革シ、兵備ヲ完修セシム。

卷七十三 下

○植村家保ノ致仕ノ請ヲ聽シ、養子家壺ヲシテ其封ヲ襲カシム、家壺尋テ藩ニ就ク。

○櫛羅藩、管下ノ僧侶ヲ募リテ隊伍ニ編シ、食肉娶妻、其意ニ隨ハシメント請フ、之ヲ聽ス。

○平戶藩、入港外舶接待ノ事項ヲ稟請ス。

○大總督府、諸藩ニ令シテ、江戶ノ第邸及ヒ留住者ノ口數ヲ錄上セシム。

卷七十四 明治元年戊辰閏四月十五日ニ起リ十七日ニ至ル

十五日、伏見宮以下親王宣下及ヒ賜姓ノ制ヲ定ム、又入道昌仁〔祀邦宮〕、信仁二親王ヲシテ復飾セシム、昌仁名ヲ守脩ニ復シ、信仁ハ智成ニ復ス。

○官人ノ、宮、堂上ニ隷屬スルヲ禁ス、緣由アリテ分離スルコトヲ得サルモノハ、其官籍ヲ削ル。

○松平武聰ノ老臣、因幡、備前二藩ニ就キ、武聰久ク疾ニ罹リ、藩事一ニ老臣ニ委シ、往歲藩城守ヲ失ヒ、及ヒ本年伏見ノ事、皆其知ル所ニ非サルヲ陳シ、駢死シテ自ラ贖ハント請フ、二藩其狀ヲ申ス、是日、令シテ班頭尾關當遵〔隼人〕ニ死ヲ賜ヒ、隊長一人ヲ禁錮ニ處シ、其餘ヲ問ハス、尋テ武聰ノ謹愼ヲ釋ス。

○松平定安、藤堂高邦、久松定法、稻垣太清、高木正坦、藩事ヲ以テ歸封セント請フ、並ニ之ヲ聽ス。

○青山忠敏、京ニ至ル、諏訪忠誠、病ヲ謝シ、養子忠禮〔次郎〕ヲシテ代リテ京ニ至ラシム。〔諸侯參謁錄 諏訪忠禮家記〕

○大總督府、田安慶賴ニ命シテ、舊幕府ノ罪囚ヲ撿問セシメ、其輕キモノハ之ヲ放赦ス。

十六日、青山幸宜、藩事ヲ以テ歸封セント請フ、之ヲ聽ス。

十七日、從征ノ親王三職、公卿、諸侯以下ヲ召シ、其勤勞ヲ慰シテ、宴ヲ賜ヒ物ヲ賞ス、尋テ留守ノ親王三職以下ヲ賞賚スル、本日ノ如シ。

○參與內國事務判事小原忠寬ニ命シテ、假皇居及ヒ太政官經營ノ事ヲ管セシム。

○桑名藩ノ老臣、吉田藩ニ就キ、松平定敬母子索居ノ情ヲ陳シ、定敬ヲ迎歸シテ屏居セシメンコトヲ請フ、是日、尾張、津二藩ニ命シテ、之ヲ桑名ニ保管セシム、尋テ定敬及ヒ老臣ニ旨ヲ諭シ、危懼ヲ懷クコト勿クシテ、後命ヲ俟タシム。

○小笠原長守、伊東長𧩊、歸藩シテ政治ヲ更革センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○議定龜井茲監、封内衰頽ノ佛寺ヲ廢合シ、釋侶ノ還俗ヲ許シ、及ヒ喪祭ノ儀、神佛ヲ并用センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○細川韶邦、其老臣長岡某帶刀ノ畿内采地ノ緣由ヲ陳シ、更メテ朝命ヲ以テ之ヲ賜ハンコトヲ請フ、是日、批シテ暫ク其舊ニ仍ラシム。

巻七十五　第一　明治元年戊辰閏四月十八日ニ起リ十九日ニ至ル

十八日、出雲藩ノ山崎關門警守ヲ罷メ、淀藩ヲ以テ之ニ代ヘ、筑前藩ノ堺港警守、筑後藩ノ木津川口警守ヲ罷メ、出雲、中津二藩ヲ以テ之ニ代フ。

○大河内輝照、久松勝行、封邑警備ノ事ヲ以テ歸藩ヲ請フ、並ニ之ヲ聽ス、稻葉久通、在京ノ期滿ルヲ以テ、藩ニ歸ルヲ稟ス。

十九日、大原重朝ヲ以テ參與ト爲シ、辨事ヲ兼シム。

○列藩ニ勅シテ、陸軍ヲ編制シ、定員六分ノ一ヲ徵シテ、禁闕及ヒ畿内ノ守衞ニ充ツ、尋テ萬石以下モ亦其賦ヲ課ス。

○新ニ紙幣ヲ製シ、以テ國用ニ資ケ、且之ヲ列藩以下ニ貸與シテ、產業ヲ興サシムルヲ布告ス。

○宮、堂上、諸侯以下、采地ヲ有スルモノニ命シテ、舊幕府付與スル所ノ判物ヲ上ラシム。

巻七十五　第二

巻七十五　第三

巻七十五　第四

巻七十五　第五

巻七十五　第六

巻七十五　第七

巻七十五　第八

巻七十五　第九

○東北ノ賊徒、浮言ヲ造作シ、人心ヲ誑惑シ、諸侯或ハ觀望ヲ懷クモノアリ、是日、令シテ之ヲ戒諭ス。

○上杉齊憲ニ申命シ、官軍ニ應援シテ、速ニ會津ヲ戡定セシム、又佐竹義堯ヲシテ兵ヲ前メテ會津莊內ヲ撃チ、戶澤正實、水野忠弘、松平信庸ニ封疆ヲ保守セシム。

○長門藩ニ命シテ、舊幕府、米利堅國ニ購買セシ所ノ裝鐵艦ヲ交收セシム。

○是ヨリ先、京極高富、立花種恭、京ニ至ル、並ニ屏居シテ命ヲ俟タシム、是日、書ヲ下シテ、高富、種恭及ヒ稻葉正善ノ父正巳、舊幕府ノ要路ニ居リ、匡救ノ道ヲ失スルヲ譴メ、其狀ヲ具申セシム、高富等、各上疏シテ罪ヲ謝ス。

○織田信成、其弟信及ヲ養ヒテ、嗣ト爲サント請フ、之ヲ聽ス、尋テ、信及ヲシテ信成ノ封ヲ襲カシム。

○議定鍋島直正、歸藩シテ、長碕ノ警備ヲ督シ、且政治ヲ更革セント請フ、之ヲ聽ス、尋テ、暫ク其行ヲ止ム。

○松浦詮、其支族脩（左近將監○平戸支封主、食封一萬石）ノ士臣寡少ニシテ、遽ニ貢士及ヒ京師ノ衞兵ヲ出ス能ハサルヲ陳シ、歸藩ノ後、本支相謀リ、以テ王事ニ服セント請フ、之ヲ聽ス。

○立花鑑寛ヲ大坂ヨリ召ス、是日、京ニ至ル。

○柳澤保申、北條氏恭、京ヲ辭ス。（行政官記）

○是ヨリ先、北陸道總督高倉永祜、舊佐渡奉行鈴木重嶺（兵庫頭）ヲ召ス、是日、重嶺江戸ノ行營ニ詣リ、誓書及ヒ版籍簿冊ヲ上ル。

卷七十五　第十

○是ヨリ先、伊達慶邦、上杉齊憲、鎭撫總督九條道孝ニ謁シ、松平容保伏罪ノ狀ヲ陳シテ、寛宥ヲ請フ、其老臣モ亦盛岡、二本松以下十一藩ノ老臣ト連署申請ス、道孝、其書ヲ却ケ、速ニ進勦セシム、是日、慶邦、齊憲、再ヒ書ヲ上リ、降ヲ討シ、服ヲ伐ツノ非ヲ陳ヘ、且農時ニ際スルヲ以テ諸藩兵ヲ解キ、將ニ之ヲ朝ニ請ハントスルヲ申ス、道孝其制スヘカラサルヲ知リ、假ニ之ヲ聽ス、是夜、仙臺藩士等、參謀世良砥德（脩藏○長門藩士）ヲ福島驛ニ戕シ、翌日、會津兵、白河城ヲ陷ル。

卷七十六　明治元年戊辰閏四月二十日

二十日、副總裁岩倉具視、輔弼中山忠能ヲ罷メ、日ニ御前ニ候セシム。

○近習、内々、外樣ノ三番所ニ令シテ、混同輪直セシメ、其齡三十ニ滿タサルモノハ、番直ヲ免シテ學ニ就カシム、又北面士ヲシテ、非藏人ニ伍シテ交直セシム。

○加納久宜、封邑傍近兇徒横暴ノ狀ヲ申ス、因リテ海内ニ申令シテ、順逆ヲ錯ルコト勿ラシム。

○僧徒繼承ノ條規ヲ定メ、且其宗派寺號等ヲ錄上セシム。

○柳澤光昭ノ致仕ノ請ヲ聽シ、養子光邦ヲシテ、其封ヲ襲カシム。

○織田信親、京ヲ辭ス。（織田信親家記）

○是ヨリ先、徳川慶勝、兵ヲ率ヰテ美濃ニ抵リ、參謀成瀬正肥、田宮篤輝等ヲ遣シテ、信濃ヲ鎭撫ス、是日、篤輝、書ヲ上リ事宜ヲ條陳ス。

卷七十七 上　明治元年戊辰閏四月二十一日

二十一日、天皇正寢ニ御シ、日ニ朝堂ニ臨ミテ政ヲ聽キ、且文武ノ業ヲ講スルヲ布告ス、因リテ條規ヲ設ケテ、侍臣ヲ戒飭ス。

○官制ヲ更定ス、乃チ議政、行政、神祇、會計、軍務、外國、刑法ノ七官ヲ置キ、立法、行法、司法ノ三權ヲ分掌ス、議政官上局ニ議定、參與、史官、下局ニ議長、議員ヲ置キ、行政官ニ輔相、辨事、史官、五官ニ正、副知事、正、權判事ヲ置ク、官等一等ヨリ九等ニ至ル、凡テ九階、又地方ヲ分チテ府、藩、縣ト爲シ、府、縣ニ知事、判事ヲ置キ、藩ハ其舊ニ仍ル、是日、神宮上卿、加茂社傳奏、藏人所、林和靖間詰等ノ諸職ヲ廢ス。

○三條實美、岩倉具視、中山忠能、正親町三條實愛、徳大寺實則、中御門經之、松平慶永、蜂須賀茂韶、鍋島直正ヲ以テ議定ト爲シ、實美、具視、輔相ヲ兼ネ、實美監察使故ノ如シ、小松清廉、大久保利通、木戸孝允、後藤元燁、廣澤眞臣、副島種臣、横井時存、三岡公正、福岡孝弟ヲ參與ト爲ス、鷹司輔熙ヲ神祇官知事ト爲シ、龜井茲監之ニ副ス、萬里小路博房ヲ會計官知事ト爲シ、嘉彰親王ヲ軍務官知事ト爲シ、長岡護美之ニ副ス、伊達宗城ヲ外國官知事ト爲ス。

○佐渡裁判所總督滋野井公壽ヲ更メテ、佐渡鎭撫使ト爲シ、笠松裁判所總督大原重德ヲ罷ム。

○皇居ヲ二條城ニ營スルヲ以テ、假ニ太政官代ヲ禁中ニ移ス。

○申令シテ、阿片煙ヲ禁ス。

○稻葉正邦、藩事ヲ以テ歸封ヲ請ヒ、永井直哉、藩治未タ整ハサルヲ以テ、入京延期ヲ請フ、並ニ之ヲ聽ス。

卷七十七 下

○海外渡航ノ符券ヲ改ム、是日、神奈川裁判所總督東久世通禧、之ヲ各國公使ニ牒報ス。

○仙臺、米澤以下諸藩ノ老臣、白石ニ會盟シ、鎭撫總督九條道孝ヲ要シテ、仙臺ニ入リ、遂ニ會議所ヲ置キテ、合從ノ事ヲ謀ル、尋テ又莊內征討ノ兵ヲ解キ、書ヲ朝ニ上リ、松平容保、酒井忠篤ノ罪ヲ許サンコトヲ請フ、之ヲ却ク。

卷七十八　明治元年戊辰閏四月二十二日ニ起リ二十四日ニ至ル

二十二日、參與戸田忠至ノ山陵修繕內務管掌ノ勞ヲ賞シテ、位一級ヲ進ム。

○徵士ニ位階ヲ授ク。

○板倉勝靜ノ老臣、備前藩ニ就キ、勝靜父子流離困頓ノ狀ヲ陳シテ、寛宥ヲ得ンコトヲ請フ、備前藩、其書ヲ上申ス、是日、批シテ勝靜父子ノ處分、大總督府ニ委スルヲ以テ、後命ヲ俟タシム。

○是ヨリ先、土井利與、軍資ヲ東海道總督府ニ給貸ス、是日、書ヲ朝ニ上リ、之ヲ獻セント請フ。

二十三日、天皇將ニ山階陵、後月輪東陵ニ謁セントス、果サス。

○頃日醜徒京師ニ潛匿スルノ聞エアリ、因リテ刑法官ニ令シテ、督察ノ法ヲ設ケシム。

○津山藩ニ令シテ、舊幕府預地ノ簿籍ヲ上ラシム。

○舊駿府代官田上菜、寛蔵、相模地方騷擾ノ狀ヲ申ス。

○高木正坦、京ヲ辭ス。○高木正善家記

○肥前藩、米國船ヲ橫濱ニ傭ヒ、將ニ兵ヲ陸奥ニ遣ラントス、軍艦指揮官、局外中立ニ背クヲ以テ、背セス、裁判所總督東久世通禧、各國公使ニ牒シ、德川慶喜伏罪ヲ以テ、中立ヲ止メンコトヲ諭ス、公使等、宣達書及ヒ奉命書ヲ得テ商議セント請フ、乃チ之ヲ示ス、彼遂ニ報セス。

二十四日、箱館裁判所ヲ改テ府ト爲ス、總督清水谷公考ヲ以テ知事ト爲シ、副總督土井利恒ヲ罷ム、既ニシテ利恒假ヲ乞ヒテ藩ニ歸ル、是日、四條隆謌ヲ三等陸軍將ニ爲ス。

○宮、大臣ノ喝道及ヒ宮、公卿ノ藩士ヲ雇ヒテ衞兵ト爲スヲ止メ、三等官以上車寄ヨリ昇降シ、九門內馬ニ騎スルヲ許ス。

○阿部正恒、米倉昌言ノ家臣、其主上京遲延ノ狀ヲ申ス。

○輔相兼關東監察使三條實美等、江戸ニ抵ル。

卷七十九　明治元年戊辰閏四月二十五日

二十五日、京都裁判所ヲ改メテ府ト爲シ、大津、笠松二裁判所ヲ縣ト爲シ、日田豐後、富岡肥後、富高日向、ノ三縣ヲ置ク、大津裁判所總督長谷信篤ヲ以テ京都府知事ト爲シ、辻維岳ヲ大津縣知事ト爲シ、田內盛德源助○越前藩士、ヲ笠松縣知事ト爲シ、松方正義ヲ日田縣知事ト爲シ、長崎裁判所判事佐々木高行ヲ富岡縣知事ト爲シ、木村貞通ヲ富高縣知事ト爲ス、盛德之ヲ辭ス。

○商法司ヲ會計官ニ置ク。○職務進退録

○諸藩ニ令シテ、所有ノ艦船ヲ錄上セシム。

○肥前藩ニ令シ、兵艦ヲ遣シテ、越後、佐渡ヲ鎭轄セシム。

○是ヨリ先、天童藩、莊内兵ノ侵略スル所ト爲ル、是日、其拒戰ノ勞ヲ賞シ、且金ヲ賜ヒテ之ヲ賑ス。

○是ヨリ先、備前藩、土井利與ノ別邑美作ニ在ルモノヲ假管ス、是ニ至リ、利與書ヲ上リ、勤王ノ實蹟ヲ陳シテ、其地ヲ還付センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○奥羽鎭撫府參謀醍醐忠敬、仙臺ニ歸ル。

卷八十

明治元年戊辰閏四月二十六日ニ起リ二十九日ニ至ル

二十六日、是ヨリ先、加納久宜西上シテ大津驛ニ抵リ、入京ヲ乞フ、令シテ、命ヲ大總督ニ請ハシム、久宜乃チ老臣ヲ督府ニ遣シ、其情ヲ陳疏シテ允ヲ得、是日、京ニ入ル。

○各國公使、書ヲ横濱裁判所總督ニ遣リ、我兵士ノ横濱ニ入ルヲ禁シ、且佩刀者ヲ戒メテ、横暴ヲ爲スコト勿ラシメンコトヲ請フ。

二十七日、政體書ヲ頒布ス。

○申請書上啓ノ時限ヲ定ム。

○宮、公卿ノ諸門ヲ出入スルニ、衞士ノ下座跪拜スルヲ停ム。

○田安慶賴、徳川氏臣隷ノ籍牒ヲ大總督府ニ錄上ス。

○一橋茂榮、書ヲ大總督府ニ上リ、徳川氏ノ臣隷迫切ノ情ヲ陳シ、速ニ徳川氏ヲ處分シ、以テ之ヲ安轄センコトヲ請フ。

二十八日、久美濱縣ヲ置キ、伊王野坦（[illegible]因幡藩士）ヲ以テ知事ト爲ス。

○書籍ヲ私刊スルヲ申禁ス、尋テ犯スモノハ、其刻版製本ヲ沒ス。

○本多康穰、青山忠敏、間部詮道、安藤信勇、増山正修、小笠原貞孚、藩事ヲ以テ歸封ヲ請ヒ、前田利同、隣境騷擾スルヲ以テ、入覲ノ期ヲ延ヘント請フ、並ニ之ヲ聽ス。

二十九日、特旨、田安家達ヲ以テ宗家徳川氏ノ後ヲ承カシム。

○貢士ニ兵制、理財、東征ノ三事ヲ策問ス。

○飫肥藩ノ二條城唐門ノ守衞、及ヒ紀伊、盛岡以下九藩ノ市街警守ヲ罷ム。

○小笠原長國ニ令シテ、封内出ス所ノ石炭ヲ兵庫ニ輸送セシム、既ニシテ、長國、別ニ五百萬斤ヲ獻センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○紀伊、龍野二藩ニ令シテ、所有ノ汽船ヲ兵庫ニ出サシム。

○森川俊方、封境騷擾スルヲ以テ歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。

卷八十一　明治元年戊辰五月朔日ニ起リ三日ニ至ル

○五月

朔日、大總督府、蠶種紙生絲改所ヲ江戸ニ置キ、印税ヲ收ム。

○大總督府、田安慶頼ノ市街巡警ヲ罷ム。

○大總督府、東海道先鋒副總督柳原前光ヲ遣シテ、甲斐ヲ鎭撫ス。[illegible]

○東山道ノ官軍、白川城ヲ復ス。伊地知正治日記

○莊内征討總督澤爲量、新莊ヲ去リテ、秋田ニ赴ク。

二日、大阪裁判所ヲ改テ府ト爲シ、總督醍醐忠順ヲ以テ知事ト爲ス。

○徵士溝口貞直ヲ罷メ、其勤勞ヲ賞シテ物ヲ賜フ。

○肥後藩ノ寺町門、備前藩ノ清和院門警守ヲ罷メ、徵兵ヲ以テ之ニ代フ。

○延暦寺ノ僧侶、書ヲ大津裁判所ニ上リ、貧病二院ヲ建設センコトヲ請フ、是日、又之ヲ朝ニ請フ。

○田安慶頼、徳川家達ノ幼沖ナルヲ以テ、松平齊民ヲシテ之ヲ輔ケシメンコトヲ大總督府ニ請フ、之ヲ聽ス。

三日、故參與士時維恵、毛受洪、土倉正彦、荒尾成章、土肥某、中根師質ノ勤勞ヲ賞シ、物ヲ賜フ。

○小濱藩、放銃操練ヲ京邸ニ行ハント請フ、聽サス。

○土井利與、在京期滿チ、且封境騷擾スルヲ以テ、將ニ藩ニ歸ラントス、因リテ途次大阪城門ノ守衛、及ヒ河内ノ別邑ヲ撿セント請フ、之ヲ聽ス、是日、假ヲ賜フ、丹羽長國ノ臣、在京ノ兵ヲ罷歸セント請フ、報セス。

○大總督府參謀正親町公董、京師ニ至ル。

○大總督府、徳川氏ノ臣隷ノ歸順セシモノヲ朝臣ニ列ス、因リテ東海道先鋒總督橋本實梁等ニ命シテ、其姓名ヲ錄上セシム。

○大總督府、神奈川裁判所副總督鍋島直大ニ命シテ、下總、下野ノ間ヲ鎭撫セシム。

○諸藩ニ命シテ、京畿守衛、及ヒ出征ノ兵額ヲ錄上セシム。

卷八十二　明治元年戊辰五月四日ニ起リ八日ニ至ル

四日、長崎裁判所ヲ改メテ、長崎府ト爲シ、總督澤宣嘉ヲ以テ知事ト爲シ、大和鎭撫總督久我通久ヲ罷ム。

○外國官ノ權限ヲ定ム。

○是ヨリ先、島津久光ヲ京師ニ召ス、是日、其命ヲ申ヌ。

○本莊宗秀、其藩城京師ノ北門ニ當リ、樞要ノ地タルヲ陳シ、

歸藩シテ力ヲ警備ニ竭サンコトヲ請フ、是日、批シテ後命ヲ俟タシム。

○中川久昭、藩事ヲ以テ假ヲ請フ、之ヲ聽ス。

○大總督熾仁親王ニ命シ、入道公現親王ヲ諭シテ上京セシム、是日、大總督、親王ヲ召ス。親王疾ヲ以テ辭ス、乃チ參謀西四辻公業ヲ遣シ、就キテ諭サシム、親王、辭シテ見ス。

五日、眞田幸民ノ討賊及ヒ出兵ノ勞ヲ賞ン、書ヲ下シテ之ヲ奬勵ス。

○安藤直裕、京ニ至ル。安藤直行家記

六日、東山道第二軍總督西園寺公望ヲ以テ三等陸軍將ト爲シ、越後ニ赴カシム。

○忍藩ノ山中關門警守ヲ罷メ、丸岡藩ヲ以テ之ニ代フ。

○奧平昌服、土屋寅直、三浦弘次ノ退老ノ請ヲ聽シ、昌服ノ養子昌邁、寅直ノ養子擧直、弘次ノ子顯次ヲシテ、並ニ封ヲ襲カシム。

○堀田正倫、大總督ノ赦命ヲ上申ス、是日、其罪ヲ釋ス。

○議定松平慶永、國用ヲ全國ニ課スルノ議ヲ上ル。

○細川行眞、京ヲ辭ス。細川行眞家記

○大總督府、德川家達ニ令シ、江戸市街ノ舊幕府掲榜ヲ撤セシム。

七日、松尾祭ヲ修ス。

○西鄕隆盛ヲ以テ參與ト爲ス、大總督府參謀故ノ如シ。

○軍務官ヲ陸軍局舊守護職邸、ニ移ス、又諸藩ニ令シ、上申請願ノ軍事ニ係ルモノハ、之ヲ軍務官ニ出サシム。

○肥後藩ニ令シテ、速ニ東征ノ兵ヲ出サシム。

○高松藩ニ令シテ、猿カ辻ヲ守衞セシム。

○神祇官副知事龜井玆監、假ヲ賜ヒテ藩ニ就キ、政務ヲ整理セント請フ、之ヲ聽ス、因リテ命シテ、出雲大社ノ舊典ヲ捻セシム。

○榊原政敬、封内騷擾ノ狀ヲ陳シテ、老臣赴召ノ期ヲ緩クセント請フ、之ヲ聽ス、既ニシテ政敬兵ヲ出シテ功アリ、是日、其罪ヲ釋シテ前命ヲ停ム。

○是ヨリ先、關宿藩主久世廣文、將ニ西覲セントシテ江戸ニ至ル、適封境騷擾スルヲ聞キ、書ヲ東海道鎭撫總督府ニ上リ、歸藩シテ之ヲ鎭輯セント請フ、之ヲ聽ス、時ニ藩士正奸二黨アリ。廣文年猶幼弱ニシテ、制馭スルコト能ハス、奸黨遂ニ廣文ヲ要シテ、彰義隊ニ投ス、是日、鎭撫府書ヲ下シテ、廣文ノ其職ヲ失スルヲ譴メ、藩士ニ令シ、屛居シテ後命ヲ俟タシム。

八日、石清水臨時祭ヲ修ス。

○國帑空乏、度支急ヲ告クルヲ以テ、海内ニ諭シ、金穀ヲ出シテ軍資ヲ助ケシム。

○長門、岩國二藩ニ令シ、兵ヲ出シテ東山道先鋒ニ應援セシム。

○在京ノ高家交代寄合及ヒ寄合ニ令シテ、其名稱ノ起原ヲ上陳セシム。

巻八十三　明治元年戊辰五月九日ニ起リ十日ニ至ル

九日、丁銀、豆板銀ノ通行ヲ停メ、新貨ヲ鑄造シテ之ヲ交換スルヲ布告ス、尋テ令シテ、先之ヲ官ニ納メシメ、其紙幣ニ換ヘント請フ者ハ之ヲ許ス。

○府藩縣ノ印章ヲ定ム、又祠官僧侶ヲ地方官ニ屬ス、神宮及ヒ大社、勅祭社ハ、此限ニアラス。

○紀伊藩、逋賊ヲ藏匿スルノ聞エアリ、乃チ大阪府判事長谷川景隆、軍務官判事櫻井直養（慎平〇長門藩士、）ヲ以テ監察使ト爲シ、之ヲ按問セシム、景隆等、歸リテ其實ナキヲ奏ス、既ニシテ本藩、戰艦ヲ納レ、若クハ軍資ヲ獻セント請フ、令シテ姑ク戰艦ヲ納レ、且士心ヲ一ニシ、以テ勤王ノ實ヲ表セシム。

○酒井忠氏及ヒ忠義ノ罪ヲ釋シ、士心ヲ一ニシテ王事ニ服セシメ、隊長ノ伏見ノ役ニ與リシモノヲ永禁錮ニ處シ、隊兵ノ器仗ヲ沒ス。

○舊幕府與力以下歸順セシ者ノ姓名祿秩ヲ錄上セシム。

○松平直致、京ヲ辭ス。（松平直致家記）

十日、租税司ヲ會計官ニ置ク。（職務進退錄）

○辨事烏丸光德及ヒ壬生基修ヲ以テ三等陸軍將ト爲ス、又參與小松清廉及ヒ光德ヲシテ、江戸ニ赴カシム。

○勅シテ、豐國山ノ祠廟ヲ復興ス、又嘉永癸丑以降死事ノ士、及ヒ春來戰死ノ者ヲ京都靈山ニ祀リ、以テ節義ヲ奬勵ス。

○膳所、笹山二藩ノ市中取締ヲ罷ム。

○松平武聰ニ美作ノ地二萬七千八百餘石ヲ賜フ、尋テ鶴田藩ト稱ス。

○内藤政擧、稻垣長行ノ罪ヲ釋シ、士心ヲ一ニシテ王事ニ服セシメ、長行ニ軍資金ヲ課シ、其隊長伏見ノ役ニ與リシモノヲ永禁錮ニ處シ、隊兵ノ器仗ヲ沒ス。

○宗義達ニ令シ、朝鮮國交際ノ事ハ、大阪駐在ノ外國官ニ稟請セシム。

○阿部正方、淺野茂長ノ姪淺野某（元次郎）ヲ養ヒテ嗣ト爲サント請

ノ、之ヲ聽ス、幾モ無クシテ正方卒ス、乃チ某ヲシテ其封ヲ襲カシム。

○櫻井忠興、永井尙服、竹腰正舊、藩事ヲ以テ歸封ヲ請フ、尙服、正舊ハ之ヲ聽シ、忠興ハ之ヲ留ム。

○一橋茂榮、書ヲ大總督府ニ上リ、德川氏ノ臣隷危懼不安ノ情ヲ陳シ、速ニ德川家達ノ封土ヲ定メ、且慶喜ヲ江戶ニ召還シ、以テ衆心ヲ鎭輯センコトヲ請ヒ、又其弟松平容保、松平定敬ノ爲ニ哀ヲ乞フ。

卷八十四

明治元年戊辰五月十一日ニ起リ十四日ニ至ル

十一日、德川德成、歸藩ヲ請フ、聽サス。

○英國軍艦、平戶海峽測量ノ功ヲ竣リ、圖ヲ長崎府ニ贈リ、更ニ筑前、豐前ノ沿海ヲ測ラントスルヲ告ク。

十二日、江戶府ヲ置キ、木村重任三郎○久留米藩士、等ヲ以テ判事ト爲ス。

○議定蜂須賀茂韶、軍務官副知事長岡護美、及ヒ立花鑑寬ヲ江戶ニ遣シ、大總督ト謀リテ、民心ヲ鎭輯セシム、適茂韶、歸藩シテ政治ヲ更革セント請フ、因リテ一タヒ藩ニ歸リテ東下スルヲ許ス。

○筑前藩、其兵ヲ陸奧ニ出セシヲ以テ、二階町ノ守衛ヲ罷メント請フ、之ヲ聽ス。

十三日、三等陸軍將四條隆謌ヲ以テ甲府鎭撫使ト爲シ、彥根、飫肥、大洲ノ三藩ニ令シテ府城ヲ守リ、延岡藩ニ應援兵ヲ出サシム。尋テ隆謌ヲ駿府鎭撫使ニ改ム。

○匿名書ヲ理匭ニ投シ、太政官日誌文字ノ謬誤ヲ指摘スルモノアリ、是日令シテ、凡意見ヲ陳スルモノ、忌諱スル所ナク、其氏名ヲ署セシム。

○龜田藩ニ命シテ、京都市中ヲ巡警セシム。

○松井康英、大給乘謨、大給近說ノ謹愼ヲ釋シ、士心ヲ一ニシテ王事ニ服セシム、又康英、乘謨ノ封境騷擾スルヲ以テ、歸藩ヲ命ス、尋テ故アリ之ヲ留ム。

○是ヨリ先、久松定昭ノ父勝成隱岐守、土佐藩ニ因リテ書ヲ上リ、勤王ノ實ヲ効シテ、定昭ノ罪ヲ償ハンコトヲ請フ、是日、定昭ニ蟄居ヲ命シテ、勝成ノ職ヲ復シ、軍資金十五萬兩ヲ獻セシメ、土佐藩ノ守兵ヲ撤ス。

○是ヨリ先、東山道總督岩倉具定、水野忠敬ニ命シテ、甲府城ヲ守ラシム、是ニ至リ、藩士賊ニ通スルノ聞エアリ、因リテ其老臣ヲ京師ニ召ス。

○土岐賴知、藩事ヲ以テ歸封ヲ請フ、之ヲ聽ス、尋テ故アリ之

ヲ留ム。

十四日、丸岡藩ノ二條城門ノ警守ヲ罷ム。有馬道純家記

○津、郡山、岡、島原、杵築、人吉六藩ニ命シテ、駿府城ヲ警守セシメ、郡山藩ノ泉涌寺守衛、人吉藩ノ建春門守衛、及ヒ久居藩ノ宇治守衛ヲ罷ム。

○小笠原長國、京極高富、稻葉正巳、及ヒ高富ノ子高陳、正巳ノ子正善ノ罪ヲ釋シ、士心ヲ一ニシテ王事ニ服セシム。

○須坂藩老臣、其主堀直虎諫死ノ狀ヲ陳シ、弟直登ヲシテ其後ヲ承カシメント請フ、是日、直登ニ命シテ遺封ヲ襲カシム。

○蒔田廣孝、藩事ヲ以テ上京ノ期ヲ緩クセント請フ、之ヲ聽ス。

卷八十五　第一　明治元年戊辰五月十五日

十五日、太政官、官司、府藩縣印ノ寸法、及ヒ宣旨鈐印ノ制ヲ定メ、三等官以上ハ勅授、五等官以上ハ奏授、六等官以下ハ判授。

卷八十五　第二

○新製ノ紙幣ヲ發行ス。

○朝貴ノ名稱ヲ冒シテ、金銀ヲ貸與スルヲ禁スルヤ、負債者、往々口ニ藉キテ舊債ヲ償ハサルモノアリ、是日令シテ、其約ヲ愆ルコト勿ラシム。

○立花種恭ノ罪ヲ釋シ、士心ヲ一ニシテ王事ニ服セシメ、其封疆騷擾スルヲ以テ、歸藩ヲ命ス、適本宗立花鑑寛東下ノ命アリ、種恭乃チ之ニ隨屬セント請フ、之ヲ聽ス。

○新宮藩ノ徵兵ヲ卻ク。

○舊高家交代寄合、及ヒ旗下士歸順者ノ家祿ヲ復ス。

卷八十五　第三

卷八十五　第四

卷八十五　第五

卷八十五　第六

卷八十五　第七

○出雲藩、隱岐島民ノ驕傲ナルヲ以テ、兵力ヲ藉リテ之ヲ鎭壓セントス、事聞ス、是日令シテ、其教化ヲ施サスシテ、威武ヲ用フルヲ責メ、刑法官判事土肥實匡ヲ以テ監察使ト爲シ、往キテ之ヲ按問セシム、既ニシテ本藩其情狀ヲ上陳ス。

卷八十五　第八

○十津川鄕士、吉野郡大和ノ銅鑛ヲ開鑿セント請フ。

○彰義隊ノ横暴日ニ益甚ク、官兵ヲ途ニ殺スニ至ル、是ニ於テ大總督府、諸軍ニ令シテ之ヲ討ス、賊徒大ニ敗ル、輪王寺執當覺王院義寬等、入道公現親王ヲ要シテ逃匿セシム、親王遂ニ會津ニ入ル。

○是ヨリ先、米澤藩、使ヲ越後ニ遣シ、諸藩ヲ要シテ連衡ノ事ヲ謀ル、新發田、村上以下五藩ノ老臣、連署シテ北陸道總督髙倉永祜ニ上書シ、松平容保ノ罪ヲ釋サンコトヲ請フ、是日、米澤藩ノ老臣越後ニ在ルモノモ、亦書ヲ參謀ニ致シ、討會ノ軍ヲ止メントヲ請フ、既ニシテ總督府、新發田以下諸藩ノ老臣ヲ召ス、至ラス。

○長崎府、書ヲ各國領事ニ遣リ、阿片煙ヲ本港ニ輸送スルヲ禁ス。

卷八十六 明治元年戊辰五月十六日ニ起リ十七日ニ至ル

十六日、大垣藩ニ令シ、其兵ノ越後ニ在ルモノヲ以テ、東山道先鋒ニ應援セシム、既ニシテ北陸道總督府、見兵寡少ナルヲ以テ、朝ニ請ヒテ暫ク之ヲ止ム。

○大總督府、德川家達ニ令シテ、暫ク其隊兵ヲ解カシム。

十七日、倉敷縣(備中)ヲ置キ、內海利貞(多次郎○舊旗下士)ヲ以テ知事ト爲ス、

尋テ安藝、備前、土佐三藩ニ令シ、其假管ノ地ヲ交付セシム。

○軍務官副知事長岡護美ニ命シテ、東行中議定ノ事ヲ攝行セシム。

○國家多事、費用不貲ヲ以テ、令シテ、度支ヲ節減セシム。

○私ニ關門邏所ヲ置クヲ禁ス。

○在京ノ舊高家旗下士ニ令シテ、幕府付與スル所ノ朱印ヲ上ラシム。

○松平忠和、病ヲ以テ歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。

○甲斐淺間神社社務中村某(上總)、宮下某(南太大)等、連署シテ書ヲ上リ、鎭臺ヲ甲府ニ置ンコトヲ請フ、大總督府既ニ鎭撫使ヲ差遣スルヲ以テ、之ヲ批下ス、又御嶽山神主內藤某(讃岐)、甲斐ノ風土人情ヲ上陳ス。

卷八十七 明治元年戊辰五月十八日

十八日、阿波藩ノ宜秋門及ヒ神戸ノ警守ヲ罷ム。

○是ヨリ先、板倉勝靜父子、宇都宮ノ亂ニ死スルノ聞エアリ、備前藩、其臣子悲痛激切ノ情ヲ陳シテ、板倉氏ノ後ヲ立テンコトヲ請フ、是日、書ヲ下シテ、其臣隷ヲ慰諭シ、後命ヲ待タシム。

○奥羽鎭撫總督九條道孝ノ仙臺ニ在ルヤ、伊達慶邦、其護衞ヲ嚴ニシ、外人ト相見ルヲ許サス、莊内征討應援參謀前山長定、（清一郎、肥前藩士、）仙臺ニ抵リ、慶邦ニ說キ、道孝ヲ奉シテ奥羽ヲ巡撫セントス、聽カス、長定乃チ詭說スルニ京ニ歸ルヲ以テス、慶邦之ヲ諾ス、是日、道孝等、仙臺ヲ發シテ盛岡ニ赴ク。

○神奈川裁判所總督東久世通禧、書ヲ各國公使ニ遺リ、新潟地方未タ鎭定ニ就カサルヲ諭シテ、開港ノ期ヲ延ヘ、且外人ノ密ニ其地ニ赴クヲ禁ス。

卷八十八　明治元年戊辰五月十九日

十九日、鎭臺ヲ江戶ニ置キ、社寺市政民政三裁判所ヲ設ケ、大總督熾仁親王ヲシテ之ヲ管セシメ、東海道總督橋本實梁、海軍先鋒大原俊實ヲ以テ鎭臺補ト爲シ、大總督府參謀西四辻公業ニ鎭臺補ヲ兼シム、又東山道總督岩倉具定ヲ奥羽征討白川口總督ト爲シ、岩倉具經仍之ニ副シ、北陸道總督高倉永祜ヲ越後口總督ト爲シ、東海道副總督柳原前光、錦旗奉行穗波經度ヲ大總督參謀ト爲ス、前光甲府駐在故ノ如シ、是ニ於テ、諸道及ヒ海軍先鋒皆罷ム。

○奈良縣ヲ置キ、春日仲襄（讃岐守、久我建通家士、）ヲ以テ知事ト爲ス、又長谷部恕連（甚平、越前藩士、）ヲ笠松縣知事ト爲ス。

○江戶鎭臺輔池田章政ヲ以テ刑法官副知事ト爲ス。

○舊高家、旗下士ノ京ニ在ル者ニ命シテ、兵員ヲ錄上セシム。

○松平賴聰、歸藩シテ政治ヲ更革セント請フ、之ヲ聽ス、既ニシテ、江戶ノ警報至ルヲ以テ之ヲ留ム、後再ヒ請フ、聽サス、京ニ在リテ藩事ヲ處理セシム。

○山內豐範、其支封山內豐福ノ疾ニ罹リテ、入覲遲延スルヲ謝ス。

○仙臺藩ニ令シテ、藩士三好淸房ヲ京師ニ召ス、老臣等藩情ノ暴露センコトヲ恐レテ、命ヲ傳ヘス、後其罪ヲ羅織シテ之ヲ逮セントス、淸房自殺ス。

卷八十九　明治元年戊辰五月二十日ニ起リ二十一日ニ至ル

二十日、大阪府判事岩下方平ヲ以テ參與ト爲ス。

○島津忠義及ヒ島津忠寬ニ命シ、兵ヲ引テ江戶ニ赴キ、大總督ト謀リテ、賊氛ヲ掃蕩セシム、因リテ忠義ヲシテ東行中議定ノ事ヲ行ハシム。

○黑川長溥、藤堂高猷、有馬慶賴、細川護久ヲ京師ニ召ス、高猷、護久病ヲ以テ辭ス、乃チ高猷ノ子高潔ヲシテ代覲セシム。

○酒井忠惇ノ罪ヲ判シテ、蟄居ヲ命シ、養子忠邦ヲシテ其封ヲ襲キ、軍資金拾五萬兩ヲ獻セシム、卽薩摩藩ノ守兵ヲ撤ス。

○丹南藩ニ命シテ、京都市街ヲ巡警セシム。

○外國官知事伊達宗城、上表シテ職ヲ辭ス、聽サス。

○是ヨリ先、北陸道總督高倉永祜、小濱藩ニ命シテ、其支封勝山藩ノ別邑越前ニ在ル者ヲ假管セシム、是ニ至リ之ヲ復ス。

○肥前藩ニ命シ、其老臣鍋島茂昌ヲシテ手兵ヲ率ヰテ東下セシム。

○神奈川裁判所總督東久世通禧、書ヲ各國公使ニ遣リ、江戸ノ賊徒ヲ掃蕩セシヲ報ス。

二十一日、江戸ノ警報至ル、乃チ其事ヲ宣布シ、在京ノ諸侯ニ令シ、兵備ヲ整ヘテ後命ヲ俟チ、警守諸藩ヲシテ譏察ヲ嚴ニセシム、又三等陸軍將烏丸光德、大總督府參謀正親町公董以下ノ東行ヲ促シ、肥後、阿波二藩ヲシテ速ニ大阪ノ兵ヲ發セシム。

○各國公使、書ヲ神奈川裁判所總督ニ遣リ、邏所ヲ横濱ニ設ケントヲ請フ。

卷九十 上　明治元年戊辰五月二十二日

二十二日、諸國大水アリ、是日、刑法官知事大原重德ニ命シテ、笠松縣ヲ巡視セシム、尋テ會計官ノ吏員ヲ近畿ノ府縣ニ派遣シ、其尤甚シキ者ハ、本年ノ田租ヲ免ス、秋ニ至リ、再ヒ水アリ。

卷九十 中

卷九十 下

○松平茂昭ニ命シ、兵ヲ率ヰテ越後ニ赴カシム、茂昭病ヲ謝シテ、行期ヲ緩クセント請フ、批シテ其狀ヲ具申セシム。

○彦根藩、徵發數次ニシテ、兵卒給セサルヲ以テ、石藥師門ノ警守ヲ罷メント請フ、是日、之ヲ聽シ、徵兵ヲ以テ之ニ代フ、又高松藩ニ命シテ、四塚關門ヲ守リ、大聖寺藩ニ蹴上ヲ守ラシメ、加賀、大聖寺二藩ノ市中巡警ヲ罷ム。

○堀田正養、在京期滿チテ歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス、適江戸ノ警報至ル、是日、命シテ之ヲ留ム、細川興貫モ亦歸藩ヲ請フ、聽サス。

○神奈川裁判所總督東久世通禧、書ヲ大總督ニ遣リ、精兵ヲ發シテ、横濱ヲ守ラシメント請フ。

卷九十一　明治元年戊辰五月二十三日ニ起リ二十五日ニ至ル

二十三日、兵庫裁判所ヲ廢シテ、兵庫縣ヲ置キ、大阪府判事伊藤博文ヲ以テ知事ト爲ス、又大阪府知事醍醐忠順ヲ罷メ、參與小松清廉、後藤元燁ニ命シテ、府事ヲ管理シ、參與大久保利通ヲシテ江戸ニ駐在セシム。

○舊生野代官所（但馬朝來郡）ノ管地ヲ久美濱縣ニ屬シ、其銀坑ヲ會計官ニ屬ス。

○本莊宗武及ヒ宗秀ノ罪ヲ釋シ、士心ヲ一ニシテ王事ニ服セシメ、伏見ノ役ニ與リシ隊兵ノ器仗ヲ沒ス、又其藩城京師ノ北門ニ當ルヲ以テ、守備ヲ嚴ニセシム。

○丹羽長國、一柳某（信次郎○舊旗下士）ノ弟四郎ヲ養ヒテ嗣ト爲サント請フ、之ヲ聽ス、報未タ達セスシテ、四郎卒ス、

○井上正順、織田信及、在京ノ期滿チテ、歸藩ヲ請フ、江戸ノ警報アルヲ以テ、並ニ聽サス。

○前田利豁、京ニ至ル（前田利昭家記）

○箱館府判事松浦弘（武四郎○伊勢人）、東海諸州ノ阻程ヲ患ヒ、別路ヲ設ケテ、郵信ニ便セシコトヲ請フ。

二十四日、輔相三條實美ノ監察使ヲ罷メテ、關八州鎭將ヲ兼ネ、三等陸軍將烏丸光徳ヲ以テ江戸府知事ト爲シ、鎭臺輔大原俊實、大總督府參謀西四辻公業ニ、關八州監察使ヲ兼ネシム、公業之ヲ辭ス、又軍務官判事大木喬任、權辨事坂田莠（高鍋藩士）ニ議政官下局議長ノ事務ヲ兼攝セシム。

○神奈川裁判所總督東久世通禧ニ命シテ、歐洲六國ノ外、更ニ米利堅國ニ使セシム、又瑞典、那耳回國條約交換ノ事務ヲ委任ス。

○徳川家達ヲ駿河ニ封シ、遠江、陸奥ノ地ヲ併セテ、七十萬石ヲ賜フ、尋テ參河ヲ以テ陸奥ニ代フ、又一橋茂榮、田安慶頼ヲ藩屏ニ列シ、徳川氏臣隷ノ官位ヲ停ム。

○萬石以下ノ采地ヲ府縣ニ隷ス。

○諏訪忠誠ノ退老ノ請ヲ聽シ、養子忠禮ヲシテ封ヲ襲カシム。

○小倉藩英彦山ノ僧徒ト相善カラス、是日、諭シテ其舊ニ復セシム。

○前田齊泰、歸藩シテ政治ヲ更革シ、其子慶寧ヲシテ入覲セシメント請フ、江戸ノ警報アルヲ以テ、聽サス。

○松平慶倫、奥平昌邁、伊東祐歸、三浦顯次、京ヲ辭ス（○松平慶倫奥平昌邁以下各家記）

二十五日、贈正三位楠正成ヲ加茂川東操練場ニ祭ル。

○會計官判事小原忠寛、病ヲ以テ職ヲ辭ス、是日、之ヲ罷ム、尋テ其勤勞ヲ賞シテ、物ヲ賜フ。

○秋月種樹ニ命シ、兵ヲ率ヰテ江戸ニ赴カシム、種樹疾ヲ以テ辭シ、老臣ヲシテ代リ往カシメント請フ、之ヲ聽ス。

○是ヨリ先、東山道總督岩倉具定、安藤信勇ノ別邑美濃ニ在ルモノヲ收メ、尾張藩ヲシテ之ヲ管セシム、是ニ至リ、信勇勤王ノ實蹟アルヲ以テ、尾張藩ニ命シテ、之ヲ還付ス。

○水野忠弘、細川興貫等、上直ス、命シテ、其騎馬ヲ試ミ、物ヲ賜フ。

○是ヨリ先、土岐頼知、松平頼英歸藩ノ請ヲ聽ス、既ニシテ、江戸ノ警報アリ、是日、命シテ之ヲ留ム。

○舊高家、交代寄合以下ノ歸順セシ者ヲ朝臣ニ列シ、其祿ヲ復ス。

卷九十二 上　明治元年戊辰五月二十七日

二十七日、鎮將三條實美、手詔ヲ親子内親王ニ傳ヘ、徳川氏處分既畢ルヲ告ケ、其去住ヲ問フ、内親王恩命ヲ謝シ、暫ク西上ノ期ヲ緩クセント請フ。

○舊制ノ通貨二種ヲ增鑄ス。

○釀酒ノ條例ヲ申定シ、鑑札税ヲ課ス。

○加賀藩ノ大宮御所、桂宮、今出川門警守ヲ罷メ、徵兵ヲ以テ之ニ代フ。

○林忠崇ノ封土ヲ沒シ、其臣隷ノ入京ヲ禁ス、是ヨリ先、忠崇ノ家臣京ニ在ルモノ、忠崇ノ賊ニ應スルヲ聞キ、其弟忠弘藩邸ヲシテ入京セシメ、王事ニ服セント請フ、是ニ至リ、其書ヲ郤ケ、忠弘以下ヲシテ屏居シテ後命ヲ俟タシム。

○水野忠弘、封邑警虞アルヲ以テ、父忠精ヲシテ歸藩セシメント請フ、聽サス、老臣ヲシテ守備ヲ嚴ニセシム。

○一橋茂榮、田安慶頼等、書ヲ大總督府ニ上リ、舊旗下士ヲ朝臣ニ列シ、其采地ヲ復センコトヲ請フ、是日、令シテ其姓名階級ヲ錄上セシム。

卷九十二 下

卷九十三　明治元年戊辰五月二十八日

二十八日、高家、交代寄合以下ノ舊稱ヲ廢シ、中大夫、下大夫、上士ヲ置ク。

○諸藩ニ公務人ヲ置キ、貢士ヲ以テ之ニ充ツ、又貢士ノ對策ヲ定メテ、一月三次トナス。

○加賀藩ニ紙幣拾萬兩ヲ付シ、金貨ニ交換セシメ、以テ越後ノ軍資ニ充ツ、尋テ前藩主前田齊泰ニ假ヲ賜ヒ、歸リテ其事ヲ措辦セシム、又長門藩ニ令シテ、兵ヲ越後ニ出サシム。

○盛岡藩ニ命シテ、陸奧諸藩政令傳達ノ事ヲ管セシム。

○京極高富ノ退老ノ請ヲ聽シ、養子高陳ヲシテ封ヲ襲カシム。

○伊達慶邦、上杉齊憲、奧羽諸藩ヲ聯合シ、討會ヲ沮ムノ報至ル、乃チ慶邦、齊憲ノ京邸ヲ沒シ、其臣隸ノ入京ヲ禁ス、又奧羽、越ノ列藩ニ諭シテ、順逆ヲ誤ルコト勿ラシム、尋テ慶邦ノ封地近江ニ在ルモノヲ收ム。

○櫻井忠興、攝海警備ノ事アルヲ以テ、再ヒ歸藩ヲ請フ、聽サス。

卷九十四

明治元年戊辰五月二十九日ニ起リ晦日ニ至ル

○二十九日、新潟裁判所ヲ廢シテ、越後府ヲ置キ、安井顯比和介○加賀藩士、小笠原長清彌右衛門○長門藩士、等ヲ以テ權判事ト爲ス。

○遠藤胤城、勤王ノ實蹟アルヲ以テ、其封土ヲ復ス。

○酒井忠氏、病ヲ以テ上京謝恩ノ期遲延スルヲ稟ス、又喜連川縄氏、左馬頭○喜連川藩士、老臣ヲ京師ニ遣シテ、王事ニ服センコトヲ請フ、批シテ、後命ヲ待シム。

○毛利元蕃、京ニ至ル。諸侯參罷錄

○一橋茂榮、田安慶頼及ヒ東叡山ノ僧侶等、書ヲ大總督府ニ上リ、入道公現親王ノ爲メニ恩宥ヲ請フ。

晦日、祇園社ヲ改メテ、八阪神社ト稱ス。

○毛利敬親、京ニ至ル、是日、使ヲ遣シテ之ヲ賞勞ス。

○議定鍋島直正、病ヲ以テ再ヒ假ヲ請フ、之ヲ聽ス、尋テ病ヲ問ヒ、物ヲ賜フ。

○大給乘謨、藩名ヲ龍岡ト改メント請フ、之ヲ聽ス。

○蜂須賀茂韶、度支窮乏ノ狀ヲ陳シ、貨幣ヲ鑄テ之ヲ封内ニ行ヒ、以テ東下ノ用ヲ補ハント請フ、許サス。

○是ヨリ先、北陸道總督高倉永祜、舊新潟奉行白石千別下總守ヲ行營ニ召ス、時ニ千別疾アリ、僚友田中光儀廉太郎、代リ至ル、永祜命シテ、其舊管地ノ簿書ヲ齎シ、入京シテ之ヲ上ラシム、光儀、徳川慶喜ニ告テ命ヲ奉セント請フ、之ヲ聽ス、既ニシテ、千別職ヲ罷メ、光儀再ヒ新潟ニ至ル、會津以下ノ逋逃者、交來リテ脅迫ス、是日、光儀、本廳ノ事務ヲ米澤藩ニ交付シ、書ヲ官軍ニ遺リテ其狀ヲ報ス。

是月、驛傳ノ制ヲ釐正ス。

○土佐藩ニ命シテ、討會ノ兵ヲ越後ニ出サシム。又軍艦ヲ購シ、仍本藩ヲシテ之ヲ管セシム。

○參河裁判所總督平松時厚、旁近諸藩及ヒ舊旗下士ノ情狀ヲ陳シテ、速ニ之ヲ處分セント請フ。

卷九十五　明治元年戊辰六月朔日ニ起リ二日ニ至ル

○六月

朔日、松平武聰、其臣江戶ニ在ル者、賊ニ黨スルノ聞エアルヲ申ス、是日、命シテ其事ヲ案撿セシム、旣ニシテ武聰其狀ヲ詳陳シ、屛居シテ罪ヲ待ツ。

二日、高山縣ヲ置キ、梅村準（速水〇水戶藩士）ヲ以テ知事ト爲シ、參河裁判所總督平松時厚ヲ參河、遠江鎭撫使ト爲ス、又坊城俊章ヲ三等陸軍將ト爲ス。

○毛利敬親延見ス、手詔シテ、多年勤王ノ勳績ヲ賞シ、且軍國ノ大議ニ參セシム。

○德川慶勝、甲斐、信濃地方鎭定ノ狀ヲ奏シ、諸藩ノ兵ヲ撤シテ、藩城ニ還ル、是日、書ヲ下シテ其勤勞ヲ賞ス。

○刑法官副知事池田章政、暫ク假ヲ賜ヒテ、藩政ヲ更革セント請フ、之ヲ聽ス、黑田長德、在京ノ期滿ルヲ以テ、歸藩ヲ請フ、聽サス。

○是ヨリ先、岸和田藩ノ老臣岡部正路（夢一）、罪アリ、藩主岡部長寬、之ヲ罰ス、其黨相馬廣（[illegible]〇米藩士）、狀ヲ詳ニシ之ヲ官ニ訴フ、是日、刑法官權判事間島冬道（萬次郞〇尾張藩士）ヲ遣シテ、正路等ヲ拘シ、久留米、出雲二藩ニ命シテ、之ヲ監護セシム、久留米藩、守兵ナキヲ以テ辭ス、乃チ小濱、園部二藩ヲ以テ之ニ代フ。

○大總督熾仁親王、諸道ノ戰死者ヲ江戶城中ニ祭ル。

卷九十六　明治元年戊辰六月三日ニ起リ六日ニ至ル

三日、山內豐信ヲ以テ議定ト爲シ、倉敷縣知事內海利貞ヲ罷ム。

○是ヨリ先、林忠崇箱根ヲ侵ス、小田原藩ノ守兵叛テ之ニ應ス、事聞ス、是日、藩主大久保忠禮ノ官位ヲ褫キ、封土ヲ沒シ、其臣隸ノ入京ヲ禁ス。

○秋田映季、奧羽ノ諸藩連衡、本藩孤立ノ狀ヲ陳シテ、救援ヲ乞フ、是日、令シテ之ヲ奬勵シ、官軍ノ至ルヲ待タシム。

○板倉勝弘、其臣江戶ニ在ルモノ、東叡山ノ賊ニ投シ、且兵使ヲ借スノ狀ヲ申ス、是日、命シテ其事ヲ撿案セシム、旣ニシテ、勝弘再ヒ其狀ヲ陳シ、屛居シテ罪ヲ待ツ。

四日、外國官知事伊達宗城ヲシテ假ニ議定ノ事ヲ兼シム、又眞岡縣（下野）ヲ置キ、鍋島貞幹（道太郞〇肥前藩士）ヲ以テ知事ト爲ス。

○諸藩ニ令シテ、京師駐在ノ兵ヲ解キ、藩內ノ兵備ヲ修メシム。

○堀田正倫、永井直介、酒井忠經、歸藩ヲ請フ、並ニ聽サス。

○是ヨリ先、毛利元敏、假ニ治所ヲ勝山ニ移ス、是ニ至リ、其情狀ヲ陳シテ、暫ク舊ニ仍ラント請フ、之ヲ聽ス。

○大總督ノ彰義隊ヲ討スルヤ、久世廣文佐倉ニ奔ル、其老臣等之ヲ本藩ニ迎ヘ、書ヲ總野鎭撫鍋島直大ニ上リテ、其罪ヲ陳謝ス、是日、直大其狀ヲ大總督府ニ稟ス。

○是ヨリ先、舊幕府金ヲ江戸ノ商賈ニ課ス、是日、鎭臺府、錄シテ公債ト爲シ、漸ヲ以テ之ヲ償還スルヲ令ス。

五日、江戸府知事烏丸光徳ヲ以テ鎭臺輔ト爲シ、鎭臺輔橋本實梁、大原俊實、西四辻公業ヲ罷ム。

○島津忠義、島津忠寛、及ヒ高鍋藩兵、將ニ東發セントス、二人ヲ召シ、詔シテ、之ヲ勗メシメ、物ヲ賜ヒ、又建禮門ニ御シテ、其軍容ヲ觀ル、會大總督府參謀西郷隆盛、西上シテ聞奏スル所アリ、乃チ其行ヲ止メ、忠義ノ兵ヲ奥羽ニ差遣ス。

○尾張、篠山、膳所三藩士ノ市政管理ノ勞ヲ賞シテ、金帛ヲ賜フ。

○大給近說、歸藩ヲ請フ、聽サス。

六日、是ヨリ先、永平寺、總持寺、長ヲ爭ヒテ相訴フ、是ニ至リ、永平寺本宗タルヲ以テ、總持寺輪番住持ノ制ヲ廢シ、碩徳ヲ選ミテ、住持ト爲シ、永平寺ニ昇住セシメ、永平寺ニ命シテ、宗規ヲ更正セシム。

○酒井忠邦、京ニ至ル。酒井忠邦家記

卷九十七　明治元年戊辰六月七日ニ起リ十日ニ至ル

七日、軍務官判事大木喬任ノ議長ヲ罷ム。

○奥羽追討白河口總督岩倉具定、副總督岩倉具經ヲ罷メ、鷲尾隆聚ヲ以テ奥羽追討總督ト爲ス、尋テ隆聚ヲ改メテ大總督府參謀ト爲シ、白河口ニ赴カシメ、參謀正親町公董ヲ奥羽追討總督ト爲ス。參謀故ノ如シ。

○北陸道鎭撫副總督四條隆平、其部民ノ兵禍ニ罹リシ者ニ、紙幣ヲ貸付セント請フ、又本年田租ノ半ヲ免セシヲ申ス。

○大赦ノ令、未タ東國ニ行ハレス、是日、大總督之ヲ申令ス。

○鎭臺府、徳川家達ニ令シテ、舊幕府ノ文書記錄ヲ上ラシム。

八日、傳驛ノ條規ヲ更正ス。

○島津忠義ニ命シ、藩ニ還リ兵ヲ調シテ、海路ヨリ江戸ニ赴キ、大總督熾仁親王、鎭將三條實美ト謀リ、奥羽ノ賊ヲ掃蕩セシム。

○戸田忠友ノ父忠恕、病篤キヲ以テ入覲遲延スルヲ謝ス、是

日、忠友ノ罪ヲ譴メテ、退老ヲ命シ、忠恕ノ尊王ノ志ヲ賞シ、同宗戸田光則ノ子ヲ撰ミテ、嗣ト爲サシム、既ニシテ養子ノ命ヲ停メ、忠友ヲシテ其職ヲ復セシム。

○成瀨正肥、信濃ヨリ藩城ニ還ル。

九日、參河裁判所ヲ廢シ、參河縣ヲ置キ、長岡恂ヲ知事ト爲ス。

○吉川經幹ヲ城主格ト爲ス。

○令シテ、嚴ニ暗殺者ヲ緝捕セシム。

十日、六官及ヒ在京ノ諸侯貢士ニ、衣服ノ制ヲ策問ス。

○凡外舶ニ搭駕スルモノハ、其地方廳ノ印票ヲ帶ヒシム。

○吉川經健、父ノ病ヲ以テシ、毛利元純、封内洪水アルヲ以テシ、並ニ歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。

○津輕承昭、在京ノ家臣ヲシテ書ヲ上リ、其藩狀ヲ陳セシム。

卷九十八　明治元年戊辰六月十二日

十二日、參河、遠江鎭撫使平松時厚ヲ罷ム。

○筑前藩ニ命シテ、大阪ヲ警守セシメ、且藩主黑田長溥ノ入覲ヲ促ス。

○棚倉、二本松、中村、磐城平、三春ノ五藩、官軍ニ抗スルノ聞アリ、是日、棚倉藩ノ京邸ヲ沒シ、藩士ノ入京ヲ禁シ、二本松以下四藩士ノ京ニ在ル者ヲシテ邸内ニ屛居セシム、適磐城平藩主安藤信勇、京師ヨリ還リテ尾張ヲ過ク、參河鎭撫府、尾張藩ヲシテ之ヲ拘留セシム、信勇尾張藩ニ就キ、勤王ノ素志ヲ陳シ、美濃ノ別邑ニ屛居シテ、罪ヲ待ンコトヲ請フ、之ヲ聽シ、藩内抗命ノ徒ヲ處分シ、實效ヲ立テシム。

○久松勝成ノ老臣、京ニ在ルモノ、庫帑ノ窮乏ヲ陳シテ、獻金ノ期ヲ緩クセント請フ、是日、批シテ獻金ヲ止メ、後命ヲ待タシム、勝成之ヲ聞キ、其情狀ヲ具申シテ、前命ニ復センコトヲ請フ、乃チ之ヲ聽シ、老臣ヲ禁錮ニ處ス。

○新製ノ紙幣ヲ彥根藩ニ貸付ス。

○是ヨリ先、對馬藩、朝鮮國貿易ノ狀ヲ陳シテ、官銅ヲ買ヒ、且貿易資金ヲ借ランコトヲ請フ、聽サス、是日、又其通交事宜ヲ上陳ス。

卷九十九　明治元年戊辰六月十三日

十三日、軍費不貲ヲ以テ、五等官以上ノ俸金ヲ減殺ス。

○諸藩ニ令シテ、京、阪駐在及ヒ近畿關門警守ノ兵員ヲ錄上セシム。

○越後ノ賊勢鴟張スルヲ以テ、松平茂昭ノ行ヲ促シ、時ニ茂昭

病未タ愈エス、老臣ヲシテ代リテ兵ヲ督セシム、其父議定慶永、藩ニ歸リテ親ク朝旨ヲ諭サント請フ、聽サス。

○伊達宗孝、京ニ至リ、其宗家宗城ニ就キ、貳心ナキヲ陳シテ、入覲ノ遲延ヲ謝ス、宗城尋テ書ヲ上リ、本藩假管スル所ノ封邑ヲ宗孝ニ還付センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

卷百 上中下 明治元年戊辰六月十四日ニ起リ十八日ニ至ル

十四日、軍務官知事嘉彰親王ヲ以テ會津征討越後口總督ト爲シ、知事故ノ如シ、三等陸軍將西園寺公望、壬生基修ヲ參謀ト爲ス、二人軍將故ノ如シ、又岩國藩ニ令シテ、兵ヲ越後ニ出サシメ、薩摩、越前二藩ニ軍需ヲ運輸セシム。

○因幡藩ノ中立賣警守ヲ罷メ、臼杵藩ヲ以テ之ニ代フ。

○近畿ノ公邑ヲ府縣ニ隸シ、舊代官ノ假管ヲ罷ム。

○在藩ノ諸侯ニ令シ、盛夏隆冬、老臣ヲ遣シテ起居ヲ候スルヲ止ム。

○酒井忠邦ノ祖父忠績、家系ヲ陳シテ、德川氏ニ隸屬センコトヲ請フ、是日、忠邦ニ命シ、忠績ヲ諭シテ、再ヒ其情實ヲ具申セシム。

○櫻井忠興、本莊宗秀、歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。

十五日、八阪臨時祭ヲ修ス。

○辨事秋月種樹ヲ以テ侍讀ヲ兼シム。

○開港地ノ府縣ニ令シテ、外國事務ヲ兼管セシム。

○德川慶篤、書ヲ上リ、楠社創建ノ令アルヲ以テ、父祖ノ遺志ヲ繼キ、之ヲ營センコトヲ請フ、是日、批シテ其圖樣ヲ具申シ、後命ヲ待タシム。

十六日、甲斐鎭撫使柳原前光、管内本年田租ノ三分ヲ減ス、因リテ令シテ、逋租ノ罪ヲ犯スコト勿カラシム。

十七日、神奈川裁判所ヲ改メテ、神奈川府ト爲シ、總督東久世通禧ヲ以テ知事ト爲シ、副總督鍋島直大ヲ外國官副知事ト爲シ、府事ヲ兼シム、又岩鼻縣上野ヲ置キ、大音厚龍龍太郎○彦根藩士、ヲシテ縣事ヲ管理セシム。

○宮、大臣、門跡ノ上申書、往々其體ヲ失スルモノアリ、是日、令シテ舊習ニ仍リ、不遜ニ渉ルコト勿ラシム。

○大垣藩兵ノ戰勞ヲ賞シ、且其洪水アルヲ以テ、藩主戶田氏共ニ内帑金壹萬五千兩ヲ賜フ。

○是ヨリ先、秋月藩士、黨ヲ分チテ相鬩ク、是日、藩主黑田長德ニ命シ、歸藩シテ正邪ヲ判シ人心ヲ一ニセシム。

○柳澤光邦、歸藩ヲ請フ、聽サス。

十八日、土佐藩兵ノ戰勞ヲ賞シテ、藩主山内豐範ニ内帑金五千兩ヲ賜フ、又安藝藩ニ令シテ、兵ヲ越後ニ出サシム。
○諸藩ニ令シテ、戎服ノ徽章ヲ録上セシム。
○戸田光則、金ヲ獻シテ、度支ニ供センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。
○岡部長寛、病ヲ謝シ、其子長職（鄭次郎）ヲシテ代勤セシメンコトヲ請フ、批シテ後命ヲ待シム。
○青山幸宜、其臣江戸ニ在ルモノ、逃走セシノ狀ヲ申ス。
○宗義達、朝鮮國ノ米國人ヲ永宗ニ襲撃セシ狀ヲ奏ス。

卷百一

明治元年戊辰六月十九日ニ起リ二十日ニ至ル

十九日、參與木戸孝允、軍務官判事大木喬任ヲ江戸ニ遣シ、大總督熾仁親王、輔相三條實美ト、車駕東幸等ノ事ヲ議セシム。
○越後ノ賊勢鴟張スルヲ以テ、長門、岩國二藩ニ申命シテ、海路ヨリ直ニ赴援セシメ、筑前、加賀二藩ニ汽船ヲ出サシム、因リテ、筑前藩主黑田長溥入覲ノ期ヲ緩クス。
○佐竹義堯、津輕承昭、南部利剛賊中ニ孤立スルノ聞アリ、是日、之ヲ奬勵シ、官軍ノ至ルヲ待チテ、共ニ進剿セシム。
○長崎府判事井上馨ニ命シテ、長崎製鐵場ノ事務ヲ管理セシム。
○本邦、朝鮮漂民送致ノ條規ヲ更定ス。
○天童藩在京ノ老臣、藩主織田信敏進退維谷ノ狀ヲ陳シテ、救濟ヲ請フ、因リテ、軍費金ヲ賜フ、故アリテ寢ム、既ニシテ、老臣又書ヲ上リ、本藩、米澤藩ノ迫ル所ト爲リ、姑ク賊ニ黨スルヲ申ス。
○保科正益、罪ヲ京師ニ待チ、老臣ヲ遣シテ、勤王ノ志ヲ大總督ニ陳ス、是ニ至リ、其赦命アリシヲ上申ス、乃チ其謹愼ヲ釋ス。
○諏訪忠禮、歸藩ヲ請フ、聽サス。
○鎭臺府、山田政則（一太夫、忍藩士）ヲ以テ知縣事ト爲シ、武藏、下總ノ數郡ヲ管セシム。
二十日、嘉彰親王、守修親王、嘉言親王、智成親王、博經親王復飾セシヲ以テ、更ニ仁和寺、梶井、聖護院、照高院、知恩院、五門跡ヲ置キ、寺務ヲ統理セシメ、假ニ寺領ヲ以テ親王ノ家祿ニ充ツ。
○萬機親裁、公議博採ノ告諭、及ヒ徳川慶喜征討ノ二榜ヲ撤ス。
○山崎治祇（主稅助、備中成羽）、山名義濟（但馬村岡）、池田喜通（播磨福本、並ニ中大夫）ヲ藩屏ニ列ス。
○辨事局ノ印文ヲ改ム。

○兵學校ヲ軍務官ニ設ケ、堂上及ヒ非藏人等ノ入學ヲ許ス、尋テ五條爲榮ヲ以テ兵學校奉行助役ト爲ス。
○私ニ金銀貨幣價位ノ差等ヲ立ルヲ禁ス。
○火戲ノ大ナル者ヲ禁ス。
○永井直介、再ヒ歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。
○鎭臺府、松村長爲（忠四郎○舊旗下士）ヲ以テ知縣事ト爲シ、武藏ノ數郡ヲ管セシム。
○鎭臺府令シテ、書籍ヲ私刊スルヲ禁ス。

卷百二 上下　明治元年戊辰六月二十二日

二十二日、堺縣（和泉）ヲ置キ、大阪府判事小河一敏ヲ以テ知事ト爲ス、尋テ、岸和田、伯太二藩ニ命シテ、其假管ノ地ヲ本縣ニ交付セシム。
○府縣ニ勅シテ、天災兵害ニ罹リシ者ヲ賑恤セシメ、便宜事ヲ行フヲ許ス。
○會津征討越後口總督嘉彰親王、陛辭ス、天皇便殿ニ延見シ、錦旗節刀ヲ賜ヒ、且其軍容ヲ觀ル、親兵、徵兵及ヒ小濱、明石以下八藩兵、之ニ從フ、既ニシテ明石藩、藩情ヲ陳シテ、增兵ノ命ヲ辭ス、乃チ軍資金三萬兩ヲ課ス。
○北越ノ賊徒、神佛區別ノ令アルニ乘シ、朝意廢佛ニ在リト宣言シ、以テ愚民ヲ煽惑ス、是日、本願寺光澤等ニ命シ、門徒ヲ諭シテ、之ヲ安撫ス。
○徳川茂承ニ令シテ、紀伊國ノ版圖ヲ錄上セシム。
○松平武聰、關門ヲ澁谷ニ設ケ、大津口ノ邏兵ヲ移シテ、之ヲ守ラント請フ、之ヲ聽ス。
○稻垣長行、堀田正養、井上正順、歸藩ヲ請フ、竝ニ之ヲ聽ス。
○水野忠弘、本藩士米澤藩ノ逼ル所ト爲リ、兵ヲ越後ニ出スノ聞アルヲ申ス、又秋田藩在京ノ老臣、本藩ノ近狀ヲ陳シ援兵ヲ請フ。
○徳川家達、書ヲ鎭將府ニ上リ、其臣隸ノ存錄シ難キモノハ、皆士籍ヲ除キ、農商ニ歸シ、若クハ浪人ト稱シ、以テ生計ヲ爲サシメント請フ、是日、其農商ニ歸スルヲ聽ス、家達、又之ヲ蝦夷ニ移シテ、開拓ノ業ニ服セシメント請フ、聽サス。
○西班牙國公使、橫濱ニ至リ、和親貿易ヲ請フ。

卷百三 上中下　明治元年戊辰六月二十三日ニ起リ二十九日ニ至ル

二十三日、松平直靜、歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。
二十四日、駿府鎭撫使四條隆謌ヲ以テ大總督府參謀ト爲ス。
○土屋擧直、歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。

○官軍棚倉城ヲ攻メテ、之ヲ拔ク。（鷲尾隆聚奥羽追討日記）
二十五日、出雲藩ノ堺警守ヲ罷ム、尋テ之ヲ復ス。
○島原藩ニ令シテ、汽船ヲ兵庫ニ出サシム。
○酒井忠強退老ノ請ヲ聽シ、弟忠彰（綱三）ヲシテ其封ヲ襲カシム。
○織田信及、再ヒ歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。
○松平定敬ノ老臣、定敬越後ニ在ルヲ聞キ、尾張、津二藩ニ因リテ、書ヲ上リ、朝旨ヲ諭シ、定敬ヲシテ歸順セシメント請フ、聽サス。
○三浦顯次、臣隷賊ニ黨セシ狀ヲ申シ、屏居シテ罪ヲ待ツ、是日差扣ヲ命ス、本多正訥、亦臣隷黨賊ノ狀ヲ申ス。
二十六日、勅使ヲ神宮及ヒ熱田宮ニ遣シ、大政復古ヲ告ケ、且東北平定ヲ祈ル。
○秋元志朝（刑部大輔、禮朝ノ父）、京ニ至ル。（秋元興朝家記）
○鎭臺府、醫學校ヲ江戸ニ置ク。
二十七日、平松時厚ヲ遣シテ、東征ノ諸軍ヲ犒ヒ、且令シテ、庶民ヲ虐使スルコト勿ラシム。
○越後口總督高倉永祜ヲ罷ム。
○石川成之、松平賴英、大給乘謨、歸藩ヲ請フ、並ニ之ヲ聽ス。
○鎭臺府、粥川光明（小十郎、三上藩士）ヲ以テ知縣事ト爲シ、下總、常陸ノ數郡ヲ管セシム。
二十八日、笠松縣知事長谷部恕連ヲ罷メ、判事林某（在門）ヲ以テ之ニ代へ、三河縣知事長岡恂ヲ罷ム。
○松平定安、軍資ヲ獻セント請フ、批シテ之ヲ借ル。
○是ヨリ先、高野山ノ學侶、書ヲ上リ、學侶、行人二派ノ資格ヲ陳シテ、興山寺ノ寺務總職ヲ罷メンコトヲ請フ、爾後二派相訴ヘテ止マス、是日、令シテ、後命ヲ俟タシム。
二十九日、議定伊達宗城、官ヲ解キテ仙臺ニ赴キ、伊達慶邦ヲ諭シテ、歸順セシメント請フ、命シテ、官ヲ帶ヒテ東下セシム。
既ニシテ、其子宗德ヲ以テ之ニ代フ。
○島原藩、宇佐神宮管理ノ舊例ヲ陳シテ、命ヲ請フ、批シテ、之ヲ長崎府ニ屬ス。
○酒井忠氏、其父忠祿（初名忠義）、及ヒ保科正益、其臣賊ニ黨セシ狀ヲ陳シテ、罪ヲ待ツ、是日、忠氏父子ニ屏居ヲ命ス、正益ハ首謀者ヲ誅セシテ以テ、舍テ問ハス。
○酒井忠經、封內警備ノ事ヲ以テ、再ヒ歸藩ヲ請フ、批シテ、暫ク之ヲ留ム。
○鎭臺府、江川尙武ニ命シ、舊ニ仍リテ、韮山縣ヲ管セシム。
○鎭臺府、昌平學校ヲ興復ス。

○官軍、湯長谷城ヲ復ス。（正親町公董陣中日記）

○是月、岩倉具經ノ籍ヲ分チテ、堂上ニ班ス。

○諸藩ニ令シ、公事ヲ除クノ外、馬ニ騎シテ巷街ヲ疾驅スルヲ禁ス。

○本莊宗武、小笠原長國、毛利元蕃、安藤直裕、細川興貫、連署シテ書ヲ上リ、諸侯朝覲ノ制ヲ定メンコトヲ請フ。

○水戸藩ニ令シテ、速ニ奸黨剿除士民鎭輯ノ功ヲ奏セシム。

○佛國人コニエヲ雇ヒテ、鑛山ノ事ニ服セシム。

卷百四　明治元年戊辰七月朔日ニ起リ二日ニ至ル

○七月

朔日、日蝕、參賀ヲ停ム。

○奧羽鎭撫總督九條道孝、參謀醍醐忠敬、久保田ニ抵ル、副總督澤爲量モ亦野代ヨリ來會ス、適伊達慶邦ノ使者久保田ニ入リ、藩主佐竹義堯ニ迫リテ、二督及ヒ薩、長ノ兵ヲ逐ハシメントス、義堯其使ヲ斬リ、先鋒ヲ請フ、是ニ於テ、道孝、諸軍ニ令シ、進ミテ莊内ヲ討セシム。

二日、穗波經度、橋本實梁、西四辻公業、岩倉具經前後江戸ヨリ至ル、是日、勅シテ其勤勞ヲ賞ス。

○土佐藩、國力ノ疲弊ヲ陳シテ、軍資ヲ借ンコトヲ請フ、乃チ金五千兩ヲ給ス。

○五島盛德、書ヲ上リ、支族五島盛明（鉄之丞、中大夫）ノ采地ヲ併セ、換ルニ廩米ヲ以テシ、力ヲ一ニシテ兵備ヲ嚴ニセント請フ、之ヲ聽ス。

○内藤政擧、歸藩ヲ請フ、聽サス。

○建部政世、再ヒ京ニ至ル。（建部揆家記）

○鎭臺府、柴山典（文平○筑後藩士）ヲ以テ上總、安房監察兼知縣事ト爲ス。

○入道公現親王、會津ヲ去リテ仙臺ニ赴キ、伊達慶邦、上杉齊憲ニ令シ、諸藩ヲ督シテ、薩摩藩兵ヲ撃タシム、諸藩乃チ相謀リ、親王ヲ推シテ軍事總督ト爲シ、公議府ヲ白石ニ設ク、板倉勝靜、小笠原長行等モ亦來會ス、諸藩又書ヲ各國公使ニ遣リ、聯合ノ事ヲ告ク。

卷百五 上 下　明治元年戊辰七月三日

三日、軍務官支局ヲ敦賀（越前）ニ置ク。

○諸藩ニ令シテ、諸道出征ノ兵數ヲ錄上セシム。

○大總督府參謀四條隆謌ヲ以テ仙臺追討總督ト爲シ、參謀（故ノ如シ）、奧羽追討總督正親町公董ヲ罷ム。

○宗義達ニ命シ、歸藩シテ、朝鮮國交際ノ事ヲ措辦セシム。

○堀田正倫、歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。

○大河内信古、其家臣江戸ニ在ルモノ、東叡山ノ賊ニ黨セシ狀ヲ申ス。

巻百六

明治元年戊辰七月四日ニ起リ八日ニ至ル

四日、岩松俊純當次郎、中大夫、ヲ以テ越後府知事ト爲ス。

○諸藩ニ令シテ、其所有ノ艦船ヲ大坂、兵庫ノ二港ニ致サシメ、以テ征討ノ用ニ充ツ。

○松平義勇ノ美濃公邑ノ管理ヲ罷メ、之ヲ笠松縣ニ交付セシム。

○申ネテ公信ノ無賃遞送ヲ禁ス、尋テ賃錢制限ヲ定ム。

○松井康英、細川興貫、歸藩ヲ請フ、玆ニ之ヲ聽ス。

○中川久昭、再ヒ京ニ至ル。中川久成家記

○輔相三條實美、旨ヲ傳ヘテ、大總督熾仁親王ヲ慰問シ、且其扈從者ヲ減セシム。

五日、久松勝成、京ニ至ル。久松定謨家記

六日、度會府伊勢、ヲ置キ、橋本實梁ヲ以テ知事ト爲シ、鳥羽藩ニ命シテ衞兵ヲ出サシム、尋テ本多忠貫ノ山田奉行ヲ罷メ、多羅尾光剛彌之助、舊幕府代官、所管ノ公邑ヲ本府ニ屬シ、藤堂高邦ヲシテ神宮ヲ警守セシム。

○佐渡鎭撫使滋野井公壽ヲ罷ム。

○養老ノ典ヲ行ヒ、齡百歲以上ノ者ハ、每歲三人口俸ヲ給ヒ、八十八歲以上ハ、二人口俸、因リテ、府縣及ヒ諸藩以下ニ令シテ、之ヲ施行セシム。

○寺院ノ願請申稟ヲ府藩縣ニ屬ス、其官位等事朝廷ニ關スルモノハ、之ヲ執奏若クハ辨事局ニ致サシム。

○薩摩、長門以下十一藩ノ老臣ヲ召シ、其藩士ヲ輔翼シ、士氣ヲ振作セシヲ賞シテ、物ヲ賜ヒ、且之ヲ奬勵ス。

○加納久宜、歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。

○龜山藩伊勢、徵發數次藩力疲弊ノ狀ヲ陳シテ、歸休ヲ請フ、之ヲ聽ス。

○中大夫、下大夫、上士ニ假ヲ賜ヒ、各歸邑シテ力ヲ兵備ニ竭シ、年少ノ者ハ、留リテ陸軍局ニ入リ、修學セシム。

○五島盛德、京ニ至ル。五島盛德家記

七日、驛遞司令シテ諸道傳舍ノ宿弊ヲ洗除セシム。

八日、大總督府參謀西四辻公業、穗波經度ヲ罷ム。

○京都府ニ捕亡司ヲ置キ、管内逮捕ノ事ヲ掌ラシム。因リテ其條規ヲ定ム。

○水野忠幹ニ命シテ、再ヒ入京セシム、又本莊宗武、土岐賴知、

酒井忠美、京極高陳、歸藩ヲ請フ、賴知、高陳ハ之ヲ聽シ、宗武、忠美ハ之ヲ留ム。

巻百七　上

（明治元年戊辰七月九日ニ起リ十日ニ至ル）

九日、大總督府參謀鷲尾隆聚ヲ以テ、復タ奥羽追討白川口總督ト爲ス。

○土御門晴雄、造曆及ヒ頒布ノ事宜ヲ稟請ス、是日、之ヲ聽シ、費額ヲ錄上セシム。尋テ每月金三百兩ヲ給シテ、其費ニ充ツ。

○是ヨリ先、岡藩、在京兒兵寡少ヲ以テ、駿府城警守ノ期ヲ緩フシ、藩兵ノ至ルヲ俟タンコトヲ請フ、數旬ヲ經テ、藩兵僅ニ至ル、是日、軍務官、其遲緩ヲ譲メテ、之ヲ罷歸シ、更ニ令シテ、軍資金五萬兩ヲ課ス。

十日、各地戰死者（三百七十四人）ヲ加茂川東操練場ニ祭ルコト二日。

○中大夫、下大夫、上士ノ傳遞制限ヲ定ム。

○京都府下ノ高年者ニ金ヲ賜フ。

○是ヨリ先、山内豐福病ヲ謝シ、從弟山内豐誠（蕃）ヲ養ヒテ、嗣ト爲サント請フ、之ヲ聽ス、既ニシテ、豐福已ニ死スルノ聞エアリ、撫問シテ、其情ヲ獲タリ、是日、申命シテ、襲封ノ事ヲ奏請セシム。

○井上正直、天龍川（遠江）暴漲、堤防崩壞ノ狀ヲ具シ、且治河ノ例規ヲ陳シテ、之ヲ修築センコトヲ請フ、是日、正直ニ命シテ、工事ヲ董セシム。

巻百七　下

○大給近說、池田喜通、疾ヲ以テ歸藩ヲ請フ、之ヲ聽ス。

○鎭臺府、桑山效（圭助〇舊旗下士）、ヲ以テ知縣事ト爲シ、武藏四郡、下總一郡ヲ管セシム。

○靜岡藩士ノ横暴ナル者、朝臣ニ列セシ者ヲ侮慢脅迫シ、歸順ヲ障防スルモノアリ、是日、鎭臺府、德川家達ニ令シテ、之ヲ戒飭セシム。

○德川家達、書ヲ鎭臺府ニ上リ、奥羽騷擾水戸警虞アルヲ以テ、慶喜ヲ駿河ニ移置センコトヲ請フ、是日、之ヲ聽ス。

○大總督府、水野勝知及ヒ其臣高橋某（剃藏）ノ罪狀ヲ條擧シテ、詰問ス、二人答辨書ヲ上ル。

○甲府鎭撫使柳原前光、舊幕府千人同心（武藏八王子驛ニ住スル者）、ノ歸順セシ者五十餘人ヲ以テ、府兵ト爲シ、護境隊ト稱ス、又濱松藩ニ府下ノ取締ヲ命ス。

○越後口總督嘉彰親王、越後ニ入リ、高田ニ次ス。（〇東伏見宮家記 北征日誌）

卷百八　明治元年戊辰七月十二日ニ起リ十三日ニ至ル

十二日、軍務官判事大木喬任ヲ以テ參與ト爲シ、參與後藤元燁ニ大坂府知事ヲ兼シム。

○兵庫縣下攝津有馬八部二郡ノ地ヲ大坂府ニ屬シ、朽木爲綱、小出英尙管理スル所ノ丹波公邑ヲ久美濱縣ニ屬ス。

○是ヨリ先、笠間藩ノ別邑陸奥磐城郡神谷ニアルモノ、賊ノ攻略スル所ト爲ル、藩士牧野貞利、兵ヲ發シテ進剿スルノ狀ヲ稟ス、是日、令シテ函ニ其功ヲ奏セシム、明日、貞利ノ兵、賊ヲ逐ヒテ、其邑ヲ復ス。

○郡山藩ニ令シ、吏ヲ其別邑海津近江高島郡ニ置キ、越後軍須ノ傳遞ヲ監督セシム。

十三日、諸藩ニ令シ、郡邑ノ公私所屬ヲ明ニシ、其石高ヲ錄上セシム。

○北越未タ平定セサルヲ以テ、酒井忠祿ノ罪ヲ假貸シ、藩ニ歸リテ、北海ノ警備ヲ嚴ニシ、又其臣隷ノ賊ニ黨セシモノヲ處分セシム。

○沼津藩主水野忠敬、小島藩主瀧脇信敏ヲ上總ニ、田中藩主本多正訥ヲ安房ニ移封ス、尋テ三年間金穀ヲ給スル各差アリ。

○平野長裕、内藏頭、和田寄合、本堂親久大膳亮、常陸志筑寄合中大夫ヲ藩屏ニ列ス。

○田安慶頼、嚮ニ藩屏ニ列セシヲ以テ、其攝、泉、播ノ舊領ヲ復ス。

○酒井忠邦、再ヒ祖父忠績ノ情ヲ陳シ、父忠惇ト共ニ、德川氏ニ隷屬セシメンコトヲ請フ。

○大總督府、安藤信勇ニ命シ、急ニ其從兵ヲ發シテ、藩地ニ赴カシム、時ニ信勇美濃ノ別邑ニ在リ、是夜、官軍磐城平城ヲ攻メテ、之ヲ拔ク、信勇ノ祖父信正遁レ走ル。

○是ヨリ先、牧野貞利ノ臣、賊ニ黨スル者アリ、貞利、書ヲ東山道總督府ニ上リ、出兵ノ期ヲ緩フシテ、反臣ヲ處分センコトヲ請フ、是ニ至リ、貞利、首謀者ヲ刑シテ、大總督府ニ具狀ス。

卷百九　明治元年戊辰七月十四日ニ起リ十六日ニ至ル

十四日、因幡、小倉、佐土原三藩ニ令シ、兵ヲ出羽ニ出サシム、又飫肥藩ノ請ヲ允シ、甲府警守ノ兵ヲ轉シテ、越後ニ赴カシム。

○藤堂高猷ニ命シテ、藩士ノ地方ノ事務ニ通スル者ヲ選擧セシム。

○稻垣長行、弟長敬鉄次郎ヲ養ヒテ、嗣ト爲サント請フ、之ヲ聽ス。

○毛利元懲、入京シテ、父元周ノ官位復舊致仕及ヒ襲封ノ恩ヲ謝ス。

○莊内兵、新莊城ヲ陷ル、城主戸澤正實院内ニ走ル。

十五日、大阪ヲ以テ開港場ト爲ス。

○有馬慶頼、再ヒ京ニ至ル。○辨事局叢書有馬頼咸家記

○大總督府、宮、堂上ノ臣屬ニ令シ、東西往來ノ際、主威ヲ藉リ、驛傳ヲ凌轢スルコト勿ラシム。

○長崎府知事澤宣嘉、書ヲ各國領事ニ遣リ、其國人ノ我紙幣ヲ有スル者ハ、物品ヲ購買スルニ止リ、金銀貨ニ兌換スルヲ得サラシム。

○越後口總督嘉彰親王、柏崎ニ抵ル。○北征日誌

十六日、奥羽鎭撫總督九條道孝等深ク賊中ニ入リ、艱苦日久ヲ以テ、書ヲ下シテ、之ヲ奬勵シ、且援軍ヲ發スルヲ告ク、又佐竹義堯、南部利剛、津輕承昭ヲ督促シテ官軍ニ應援シ、莊内ヲ屠リ、亟ニ戡定ノ功ヲ奏セシム。

○内藤文成、京ニ至ル。○辨事局叢書内藤文成家記

卷百十　明治元年戊辰七月十七日

十七日、詔シテ、江戸ヲ以テ東京ト爲シ、鎭臺及ヒ關八州鎭將ヲ廢シテ、更ニ鎭將府ヲ置キ、駿河以東十三國ヲ管理ス、輔相三條實美ヲ以テ鎭將ヲ兼ネシメ、大總督ハ專ラ軍務ヲ掌ル、又江戸府ヲ改メテ、東京府ト稱シ、烏丸光徳ヲ知事ト爲ス、尋テ十三國ノ社寺ヲ府藩縣ニ屬シ、社寺裁判所ヲ廢ス。

○是ヨリ先、肥前藩ニ申命シ、其老臣鍋島茂昌ヲシテ越後ニ赴カシム、是日、茂昌手兵ヲ率キテ至ル、召見シテ、物ヲ賜ヒ、更メテ出羽ニ赴キ、鎭撫總督ヲ輔ケシム。

○官吏病苦、五旬ニ滿ル者ハ、職ヲ辭セシム、若シ仍療養ヲ許ス者、又五旬ヲ過レハ、前ニ準ス。

○土佐藩管理スル所ノ讃岐那珂郡ノ地ヲ倉敷縣ニ屬ス。

○井伊直安、治城賊衝ニ當リ、對戰累月ノ狀ヲ陳シ、歸藩シテ軍ヲ督セント請フ、優奬シテ之ヲ遣ル。

○徳川徳成、書ヲ上リ、楠社ヲ輦下ニ營シ、且其功ヲ督セント請フ、批シテ、其建設所及ヒ祠宇大小ヲ陳セシム。

○外國商船密ニ奥羽越地方ニ赴キ、賊ト貿易スルモノアリ、是日、神奈川府知事東久世通禧、書ヲ各國公使ニ致シ、嚴ニ其國人ニ令シテ、不開港地ニ至ルコト勿ラシム。

○伊達宗徳、京ニ至ル。○伊達宗徳家記

○大總督府、外國官副知事鍋島直大ノ下總、上野、下野ノ鎭撫

ヲ罷ム。

巻百十一　明治元年戊辰七月十八日

十八日、小原正東（舊市ノ士佐藩士、）ヲ以テ倉敷縣知事ト爲ス。

○亂後飢饉ノ虞アルヲ以テ、地方官ヲ戒メテ、之カ備ヲ爲サシム。

○刑法官ヲ閑院宮ノ第ニ移ス。

○軍務官副知事長岡護美、書ヲ上リ、菊池氏及ヒ加藤清正ノ勳功ヲ表彰センコトヲ請フ、是日、細川韶邦ニ命シテ、祀典ヲ擧行セシム。

○議定松平慶永、上表シテ、其職ヲ罷メンコトヲ請フ、是日、優獎シテ允サス。

○池田章政、再ヒ京ニ至ル。（池田章政家記）

○本多正訥、書ヲ大總督府ニ上リ、軍糧ヲ献シ、督府ノ衛兵ヲ留メ、身安房ニ赴キ、逋逃ヲ鎭定センコトヲ請フ、之ヲ聽シ、其糧ヲ受ケス、以テ移封ノ用ニ充テシム。

○越後口總督嘉彰親王、理鬩ヲ軍門ニ置キ、庶民ノ訴狀ヲ受ク。

巻百十二　明治元年戊辰七月十九日ニ起リ二十五日ニ至ル

十九日、石清水神社ノ放生會ヲ改メテ、中秋祭ト稱ス。

○大總督府、駿府城旁近警守ノ諸兵ヲ罷メ、徳川家達ニ令シテ、藩兵ヲ配置セシム。

○神奈川府知事東久世通禧、各國公使ニ移牒シテ、外舶ノ内地米穀輸送ヲ禁止スルコトアレハ、期ニ先ツ二月、之ヲ令スルヲ約ス。

二十日、水筑龍（小祖、佐伯藩士、）ヲ以テ參河縣知事ト爲ス。

○出兵諸藩ニ令シ、事ヲ以テ戰地ヨリ至ル者アレハ、直ニ軍務官ニ候セシム。

○諏訪忠禮、歸藩ヲ請ヒ、保科正益、攝津ノ別邑ニ赴カント請フ、並ニ之ヲ聽ス。

○安藝藩、書ヲ上リ、英國人「ムラクモール」（時ニ神戸ニ在リ、）ヲ雇ヒテ、藩兵ヲ訓練セント請フ、之ヲ聽ス。

○内藤政養ノ老臣京ニ在ル者、書ヲ上リテ、藩兵賊ニ黨スル間エアルヲ陳シ、屏居シテ罪ヲ待ツ、是日、批シテ後命ヲ俟タシム。

○是ヨリ先、大總督府、病院ヲ横濱ニ設ケ、兵士ノ創痍ヲ療ス、是日、之ヲ東京（下谷津藩邸）ニ移ス。

二十二日、外國官副知事鍋島直大ニ命シテ、伊斯波尼亞國條約交換ノ事ヲ掌ラシム。

○關八州監察使大原俊實ヲ罷ム。

○北越賊勢猖獗ナルヲ以テ、薩摩、佐土原二藩ニ更命シテ、兵ヲ越後ニ出サシム。

○新莊直敬、小藩寡兵、且封疆警守忽ニス可ラサルヲ以テ、兵費ヲ納メテ、徵兵ニ代ヘンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○前田利嗣、(多慶若、)其父慶寧ニ代リテ、京ニ至ル。(前田慶寧家記)

二十三日、護良親王ヲ加茂川東ノ操練場ニ祭ル。

○久我通久ヲ以テ東北遊擊軍將ト爲シ、議定ノ事ヲ兼知シ、奧羽鎭撫總督九條道孝等ト倶ニ、賊徒ヲ戡定セシム、又參與副島種臣ニ命シテ、軍將ヲ輔翼セシム。

○辨事秋月種樹ヲ以テ議政官下局議長ヲ兼シメ、鍋島直紀ヲ甲府城代ト爲ス。

○伊達宗孝、本多助成ノ退老ノ請ヲ聽シ、宗孝ノ養子宗敬(銘之助、)助成ノ養子助寵(乙次郎、)ヲシテ、並ニ其封ヲ襲カシム、又宗敬年少ナルヲ以テ、宗家伊達宗德ニ謀リテ、藩事ヲ處理セシム。

○酒井忠邦ノ老臣高須懍(隼人、)等三人ヲ召シ、命シテ忠邦ヲ佐ケテ、藩政ヲ釐革シ藩士ノ順逆ヲ誤リシ者ヲ審糺處斷セシム。

○農商ノ宮堂上ニ賓緣シ、用達若クハ館入ト稱シテ、提燈等ニ標章ヲ付スルヲ嚴禁ス。

○備前藩主池田章政、其支封池田政保ノ治所ヲ鴨方ト稱シ、政禮ハ舊ニ仍リ、備前新田ト稱セントト請フ、之ヲ聽ス。

○九鬼隆義、京ニ至ル。(九鬼隆義家記)

○大總督府、東京府下ニ申令シテ、武家ノ宅地ヲ市人ニ貸與スルヲ禁ス。

二十四日、奈良縣知事春日仲襄ヲ罷ム。

○遠藤胤城ノ家臣、復タ書ヲ上リ、胤城東京警守ノ事ニ服シ、入覲遲延スルヲ申ス。

○下大夫岡田善長、(鑿之助、)支族ノ秩祿及ヒ新墾地ヲ合セ、一萬石ニ滿ツルヲ以テ、藩屏ニ列センコトヲ請フ。

二十五日、大坂銅會所ヲ改メテ、鑛山局ト稱ス。

○一橋茂榮新ニ藩屏ニ列セシヲ以テ、其攝、泉、播、及ヒ備中ノ舊領ヲ復ス。

○池田喜通ノ退老ノ請ヲ聽シ、其子喜延ヲシテ封ヲ襲カシム。

○尾張藩、其徵兵入京セシヲ以テ、建禮門ノ守兵ヲ罷メンント請フ、之ヲ聽シ、徵兵ヲ以テ之ニ代フ。

○稻垣太清米千苞ヲ獻シ、以テ軍糧ニ充ンコトヲ請フ、之ヲ聽

ス。

○是ヨリ先、久世廣文ノ父廣周（大和守）、罪ヲ幕府ニ獲テ、陸奥（信夫郡八千石）、及ヒ和泉（泉郡四千石餘）ノ別邑ヲ削ラル、部民哀訴シ、交地ノ事ヲ果サス、是ニ至リ、廣文ノ家臣書ヲ上リ、和泉ノ地ヲ假管シ、兵ヲ置キテ、京師ノ緩急ニ備ヘント請フ、廣文譴中ニ在ルヲ以テ、之ヲ却ク。

○北越官軍、兵ヲ分チ、海路新潟ニ入ル、溝口直正、老臣ヲ遣シテ、官軍ヲ迎フ、乃チ命シテ嚮導ト爲ス、是日、賊兵長岡城ヲ襲フテ、之ヲ陷ル。

○神奈川府知事東久世通禧、書ヲ英佛二公使ニ遣リテ、舊幕府雇フ所ノ海陸軍教師ヲ罷歸ス。

巻百十三

明治元年戊辰七月二十六日ニ起リ二十九日ニ至ル

二十六日、市橋長義、支族市橋長賢（傳七郎下大夫）ノ子長道（信一郎）ヲ養ヒテ、嗣ト爲サント請フ、之ヲ聽ス。

○白川口官軍、進テ三春ニ薄ル、秋田映季城ヲ致シ、罪ヲ謝ス、命シテ、兵ヲ出シテ自効セシム、明日、松平頼升（山城守）、亦歸順ス。

○是ヨリ先、舊幕府、横濱及ヒ横須賀ノ製鐵所ヲ抵シテ、洋銀五十萬弗ヲ佛國ピケーニ借ル、是ニ至リ、銀ヲ英國オリーンタール銀舖ニ借リテ、之ヲ償還ス。

二十七日、柏崎縣ヲ置キ、北陸道鎭撫副總督四條隆平ヲ以テ知事ト爲シ、四辻公賀ヲ越後府知事ト爲ス。

○小倉藩ノ大坂市街巡邏ヲ罷ム。

○織田長易、畝傍山陵修補ノ工事ヲ助ケンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○尾張藩、書ヲ上リ、松平定敬ノ臣隷伏見ノ役ニ與リシ者ノ爲ニ寛典ヲ請フ。

二十八日、會計官知事萬里小路博房ヲ以テ、山陵總管ヲ兼シメ、權辨事戸田忠至及ヒ秋元志朝ヲ副官ト爲ス。（忠至權辨事故ノ如シ。）

○酒井忠美、再ヒ書ヲ上リ、歸藩シテ、封疆警守及ヒ蝦夷開拓ノ事ヲ處理セント請フ、之ヲ聽シ、開拓ハ箱館府知事ト協議セシム。

○莊内兵、矢島ヲ襲フ、生駒親敬久保田ニ走ル。

二十九日、奈良縣ヲ改メテ、奈良府ト爲シ、園池公靜ヲ以テ知事ト爲ス。

○高木正坦、支族高木守庸（伊勢守下大夫）ノ子、正善（留五郎）ヲ養ヒテ嗣ト爲サント請フ、之ヲ聽ス。

○永井直介、封邑水患ヲ以テ入京遲延ヲ申シ、小笠原貞正、再

ヒ病ヲ謝シテ、老臣ヲシテ代覲セシム。

○前越後口總督從三位高倉永祜、高田ノ營ニ薨ス、尋テ詔シテ參議正三位ヲ贈リ、祭粢二百石(永世)ヲ賜フ。

○白川口官軍、二本松城ヲ攻ム、丹羽長國、米澤ニ走ル、老臣丹羽富穀、(一學)城ヲ火キテ自盡ス、板倉勝尙モ亦福島城ヲ棄テ、米澤ニ逃ル。

○越後ノ官軍、長岡城ヲ復シ、又新潟ヲ定ム、是ヨリ先、荷蘭人スネル、奧越ノ賊ニ通シ、兵器彈藥ヲ資給ス、是ニ至リ、窮困シテ哀ヲ乞フ、之ヲ放ツ。

是月、晃親王、各宗本山ノ寺祿、及ヒ鴻臚館復興ノ事ヲ建議ス。

○土佐藩、書ヲ長崎府ニ上リ、艦船銃砲ヲ外人ニ購買スル舊例ヲ陳シ、急需ノ際、一々稟請セス、且國産ヲ以テ價直ニ抵テンコトヲ請フ、批シテ、必ス官准ヲ經シム。

卷百十四　明治元年戊辰八月朔日ニ起リ四日ニ至ル

○八月

朔日、將ニ議事ノ制ヲ更定セントス、因リテ月次ノ對策ヲ罷ム。

○東北遊擊軍將久我通久、京ヲ發ス、安藝、因幡、小倉、佐土原四藩兵之ニ屬ス。

○溝口直正、柏崎ニ詣リ、總督嘉彰親王ニ謁シ、藩情ヲ陳シ王事ニ勤メンコトヲ請フ、之ヲ聽ス、直正又請ヒテ營中ニ直ス。

二日、伊那縣(信濃)ヲ置キ、北小路俊昌ヲ以テ知事ト爲ス、尋テ尾張藩ノ本地假管ヲ罷ム。

○大總督、參謀正親町公董ヲ罷メ、兵學校御用掛穗波經度ヲ以テ之ニ代フ、又萬里小路通房ヲ御旗監ト爲シ、錦旗奉行河鰭實文ヲ罷ム。

○兵學校ヲ開ク。

○有馬慶頼、其家臣ノ朝命ヲ怠リ、事機ヲ愆リシヲ陳謝シテ、罪ヲ待ツ、是日、令シテ其罪ヲ問ハス、其家臣ヲ罰セシム。

○鎭將府、申ネテ徳川家達ニ令シ、舊旗下士ノ朝臣ニ列セント欲スル者ハ、本人ヲシテ直ニ之ヲ申請セシム、尋テ申請ノ期限ヲ定ム。

三日、伊達慶邦其子宗敦及ヒ上杉齊憲ノ官位ヲ褫キ、之ヲ討ス、是日、又伊達宗徳ノ東下ヲ止ム。

○長門、越前二藩ニ命シテ、彈藥ヲ越後ニ輸送セシム。

○南部利剛ノ老臣、京ニ在ル者、歸藩シテ、朝旨ヲ開諭シ、報効スル所アラント請フ、之ヲ聽ス。

○大總督府、肥後藩ニ命シテ、下總、常陸ヲ鎭撫セシム。

四日、詔シテ、奥羽ノ士民ニ諭シ、大義ヲ辨シテ自新セシム、是日、東京行幸ノ事ヲ布告ス。

○生母督典侍中山慶子ヲ從二位ニ敍シ、二位局ト稱シ、大典侍ノ上ニ班セシメ、其父從一位中山忠能ヲ以テ大臣ニ准ス。

○德川慶勝ノ積年翼贊ノ功及ヒ討賊ノ勞ヲ賞シ、其子德成ニ假ヲ賜ヒ、父子協力、益兵備ヲ整ヘ、以テ藩屏ノ標準タラシム、又成瀨正肥ノ勞ヲ褒ス。

○府藩縣ニ申令シテ、志士ノ脫籍流寓スル者ヲ復歸セシム。

○伊達宗城父子、宗家征討ノ令出ルヲ以テ、書ヲ上リテ罪ヲ待ツ、批シテ問ハス。

○木下利恭、書ヲ上リ、陸奥ノ別邑ヲ換移センコトヲ請フ。

○越後ノ官軍、村松城ヲ攻ム、城主堀直賀先遁ル、(遂ニ米澤ニ走ル、)殘賊城ヲ火キテ、會津ニ走ル、翌日直賀ノ義叔父直弘、(貞次郎、)軍門ニ詣リ、罪ヲ待ツ、督府、乃チ直弘ニ謹愼ヲ命ス。

○鎭將府、令シテ、苞苴私謁ヲ申禁ス。

○鎭將府、肥後藩ニ命シテ、下總、武藏ノ數郡ヲ管セシム、尋テ佐々布直武(貞之丞、肥後藩士、)ヲ以テ知縣事ト爲ス。

卷百十五

(明治元年戊辰八月五日ニ起リ六日ニ至ル)

五日、北野臨時祭ヲ修ス。

○將ニ府藩縣ノ政令ヲ一ニセントス、因リテ京都府新設ノ職制及ヒ坊市區畫保伍ノ法ヲ頒示シ、其土地民俗ニ酌量シテ、意見ヲ上陳セシム。

○諸侯中大夫以下ノ繼嗣襲祿、分チテ勅裁、官裁ト爲ス。

○德川家達、新封ノ地供需不便ヲ以テ、舊幕府儲藏ノ金穀ヲ下付センコトヲ請フ、聽サス、特ニ米三萬苞、金二萬兩ヲ賜フ。

○是ヨリ先、松平慶倫ノ家臣植原某、(六郎左衛門、)幕府ノ命ヲ受ケテ、銃砲ヲ鑄造ス、伏見ノ變起ルニ及ヒ、慶倫其工場ヲ鎖シテ、以聞ス、命シテ砲數ヲ錄申セシム、是ニ至リ、之ヲ上ル、乃チ本藩ニ藏置セシム。

○本多忠貫、京ニ至ル。(本多忠貫家譜)

六日、牧野忠泰、越後督府ノ軍門ニ降ル、督府、之ニ謹愼ヲ命ス。

○相馬季胤、仙臺追討總督ノ軍門ニ降ル、督府、季胤父子ニ謹愼ヲ命シ、藩兵ヲシテ征討嚮導ヲ爲シ、以テ罪ヲ贖ハシム、又僧慈隆(靜廬庵、)勤王ノ志ヲ褒シ、本藩士民ノ教養ニ參セシム。

○荘内兵、本荘及ヒ龜田ニ逼ル、六郷政鑑城ヲ火キテ、秋田ニ走リ、岩城隆邦ハ賊ニ降ル。

巻百十六

明治元年戊辰八月七日ニ起リ十日ニ至ル

七日、五官ニ令シテ、凡政令事體重大ナルモノハ、行政官之ヲ宣布ス、尋テ諸官衙ノ公文書式ヲ定ム。

○租法姑ク舊貫ニ仍リ、其改正ヲ要スルモノハ稟請セシメ、其貢納條目ヲ定ム、又府縣ノ吏員各一二人ヲ京師ニ置キ、公務ヲ措辨セシム。

○榊原政敬ノ戰勞ヲ褒ス。

○北越ノ賊未タ平定セサルヲ以テ、長門、因幡、備前、津四藩ニ令シ、藩兵一大隊ヲ豫備シテ、不時ノ徴發ニ應セシム。

○秋田映季ノ謹愼ヲ釋シ、其城邑ヲ復シ、之ヲ東京ニ召ス、又在京家臣ノ屛居ヲ釋ス。

○戸田氏共、藩兵征戰數月、且管内水患ノ餘ヲ受ケ、軍費支ヘサルヲ陳シ、其封地一萬石ヲ納レテ、紙幣十萬兩ヲ借ランコトヲ請フ、之ヲ聽ス、尋テ特ニ五萬兩ヲ賜ヒ、卽ニ下付セシ五萬兩ハ、改メテ石高貸與ノ例ニ遵フ。

○奥羽追討白川口總督鷲尾隆聚、平潟口總督四條隆謌、令ヲ下シテ、兵燹ニ罹ル者ハ、本年ノ田租ヲ免シ、官軍ノ使役ニ供シ、若クハ賊ノ劫掠ニ遇フ者ハ、其半ヲ蠲ク。

八日、秋元禮朝ノ別邑出羽（村山郡）ニアルモノ、賊ニ襲撃セラレ、郡宰以下二十餘人虜ト爲ル、是日之ヲ申ス。

○鎭將府、武藏ノ知縣事松村長爲ヲ罷メ、古賀定雄（一平〇肥前藩士）ヲ以テ之ニ代フ、又民政裁判所ヲ改メテ、會計局ト稱ス。

○德川家達、書ヲ各國公使ニ致シ、新ニ茅土ヲ賜ヒ、諸侯ニ班シ、外國ノ事ハ其關スル所ニ非サルヲ告ク。

九日、天皇賀茂社ニ詣ス。

○杵築藩兵ヲシテ甲府ヲ警守セシム。

○奥羽追討白川口總督鷲尾隆聚ヲ罷メ、大總督府參謀正親町公董ヲ以テ之ニ代ヘ、御旗監萬里小路通房ニ參謀ヲ兼シム。

○是ヨリ先、戸田光則、入覲ヲ請フ、之ヲ聽ス、是日、京ニ至ル、稻垣長行、疾ヲ謝シ、其子長敬ヲシテ代覲セシム。

○德川家達封ニ就ク。

十日、刑法官副知事池田章政ニ命シテ、議定ノ事ヲ兼攝シ、有馬慶頼ニ軍務官副知事ノ事ヲ攝行セシム、章政之ヲ辭ス、聽サス。

○鎭將三條實美ヲ召ス、又島津忠義ニ申命シテ、京師ニ至ラシ

ム。

○神奈川府知事東久世通禧ニ命シテ、西班牙國條約交換ノ事ヲ掌ラシメ、外國官副知事鍋島直大ノ交換管掌ヲ罷ム。

○津藩ノ下立賣門警守ヲ罷メ、徵兵ヲ以テ之ニ代フ。

○前田利鬯、前田利嗣、歸藩ヲ請フ、並ニ之ヲ聽ス。

卷百十七二 明治元年戊辰八月十一日ニ起リ十五日ニ至ル

十一日、二品嘉言親王薨ス、政務繁劇ヲ以テ朝ヲ輟メス。

○越後口總督嘉彰親王、新潟ニ赴ントス、是日、柏崎ヲ發ス、溝口直正嚮導タリ。

○越後ノ官軍、村上城ヲ攻ム、是ヨリ先、内藤信民殞歿シ、七月十六日ニアツ、其父信思譜名ト異ス、外ニ在リ、臣隷分レテ二ト爲ル、是ニ至リ、一黨ハ城ヲ火キテ、莊内ニ走リ、一黨ハ降ル、尋テ信思、書ヲ總督府ニ上リ、罪ヲ待ツ、命シテ、東京ニ至リ、謹愼セシム。

○仙臺、莊内ノ兵、久保田ニ迫ル、盛岡モ亦兵ヲ出シテ東北ヲ攻ム、是ニ於テ、總督九條道孝、其參謀醍醐忠敬、前山長定ヲ弘前ニ遣シ、津輕承昭ヲ督シテ、敢ニ盛岡ヲ討セシム。

十二日、神祇官副知事龜井茲監、判事福羽美靜ニ命シテ、卽位ノ新儀ヲ考定セシム、翌日、辨事勘解由小路資生、及ヒ正親町實徳ニ御用掛ヲ命ス。

○大垣藩兵ノ戰功ヲ賞シテ、藩士二人ノ永禁錮ヲ釋シ、其銃砲ヲ還付ス。

○九鬼隆義、金ヲ獻シテ、軍費ニ充ンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○是ヨリ先、水野忠弘、其父忠精ト俱ニ駕ニ先チテ、東京ニ赴キ、公事ニ服センコトヲ請フ、是ニ至リテ、前請ヲ申ス、之ヲ聽ス、忠弘、又封地賊中ニ介マリ、供給途絶シ、上下窮困スルノ狀ヲ陳シ、別邑近江ニアリ、附近ノ地一萬石ヲ假管シ、以テ其急ヲ救ハンコトヲ請フ。

○石川總管、藩事ヲ以テ入覲遲延スルヲ申ス。

○秋月種殷、京ニ至ル。秋月家記

○鎭將府、一橋茂榮、田安慶賴ノ新ニ藩屛ニ列シ、兵備充實セサルヲ以テ、命シテ、宗家ノ舊臣ヲ收養セシム。

十三日、崇德天皇ノ神靈ヲ京師ニ迎ヘントス、因リテ松平賴聰ニ御用掛ヲ命ス。

○東幸沿道ノ十一藩ニ紙幣ヲ貸與ス。

○米價騰貴ヲ以テ、本年釀酒定額三分ノ二ヲ減セシム。

○山口弘達、再ヒ其老臣ヲ遣シテ、代覲セシム。

○大總督府、仙臺追討總督四條隆謌ヲ改メテ、奧羽追討平潟口

總督ト爲シ、白川、平潟兩道ノ諸軍ヲシテ、並進テ會津ヲ討セシム、又奥羽ノ士民ニ申諭シ、方嚮ヲ誤ルコト勿ラシム。

○鎭將府、親王、大臣以下ノ東京城門出入及ヒ玄關昇降等ノ規則ヲ定ム。

十四日、英國軍艦水夫ヲ暗殺セシ者、未タ捕ニ就カス、英人頗土佐藩ヲ疑フ、是ニ於テ、外國官判事大隈重信ヲ長崎ニ遣シ、山内豐範ニ命シテ、藩士一人ヲ重信ニ隨行セシム。

○龜井茲監、淺野茂長ノ次子茲命（峯礎）ヲ養ヒテ、嗣ト爲サント請ヒ、稻垣長行、病ヲ以テ致仕セント請フ、並ニ之ヲ聽シ、長行ノ養子長敬ヲシテ其封ヲ襲カシム。

十五日、中秋祭ヲ修ス。

○本莊宗武、內藤政擧、小笠原長國、酒井忠經ニ假ヲ賜ヒ、歸藩シテ、家政ヲ更革シ、兵備ヲ嚴整セシム。

○安藤直裕、成瀨正肥、書ヲ上リ、新ニ藩屏ニ列セシヲ以テ、判物ヲ下付センコトヲ請フ。

○水野忠幹、再ヒ京ニ至ル。（行政官記）

○鎭將府、種痘所ヲ東京ニ設ク。

巻百十八

明治元年戊辰八月十六日ニ起リ十九日ニ至ル

十六日、朝彦親王異圖アリ、是日、親王及ヒ仁孝天皇ノ養子ヲ停メ、官位ヲ褫キ、之ヲ安藝藩ニ幽ス。

○阿部正桓、京ニ至ル。（行政官記）

○德川家達ノ老臣、書ヲ鎭將府ニ上リ、家達幼弱ナルヲ以テ、松平齊民ヲシテ代リテ入朝、恩ヲ謝セシメンコトヲ請フ、之ヲ許ス。

十七日、卽位日ヲ定メ、海內ニ布告ス。

○富高、天草二縣ヲ廢シ、富高管地ヲ日田縣ニ、天草管地ヲ長崎府ニ屬ス、是日、筑前、肥前二藩ノ長崎戍衞ヲ罷メ、府兵ヲ以テ之ニ代フ、又長崎府知事澤宣嘉ニ令シ、舊習ヲ除キ、冗官ヲ汰シ、務メテ庶務ヲ簡ニセシム。

○酒井忠邦、柳澤光邦ノ請ニ批シ、歸藩シテ家政ヲ更革シ、兵備ヲ嚴整セシム、光邦、再ヒ封邑路梗スルヲ陳シテ、暫ク東京ニ留ランコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○長門藩ニ令シ、其雇フ所ノ米國醫師ベタルヲ、兵庫ニ致サシム。

○是ヨリ先、德川慶篤疾アリ、庶子篤敬（鐵千代）猶幼ナリ、因リテ弟德川昭武ヲシテ後ヲ承カシメ、篤敬ヲ其嗣ト爲サンコトヲ請フ、是日、批シテ昭武ノ佛國ヨリ至ルヲ待タシム。

十九日、勅使中院通富、三條西公允（少將）ヲ讚岐白峯山陵ニ遣シ

テ、崇徳天皇ノ神靈ヲ迎フ。
〇大河内正質ノ罪ヲ釋シ、其城邑ヲ復ス。
〇筑前藩ノ伏見警守ヲ罷ノ(メ歟)、津山藩ヲ以テ之ニ代フ。
〇松井康英、戸田光則ノ弟康敬(錦之進)ヲ養ヒテ嗣ト爲サント請フ、之ヲ聽ス。
〇參與副島種臣、出羽ヨリ還リ、戰狀ヲ奏ス、又佐竹義堯、家臣ヲシテ京ニ詣ラシメ、官軍苦戰ノ狀ヲ陳シテ、援軍ヲ乞フ。
〇池田慶徳、京ニ至ル。(池田韶知家記)
〇是ヨリ先、榎本武揚、徳川氏ノ諸艦ヲ督シテ、品川海ニ在リ、密ニ蝦夷地ニ據リテ、徳川氏ノ業ヲ復センコトヲ圖リ、伊達慶邦、松平容保等ト謀ヲ通ス、是ニ至リ、艦船八隻ヲ奪ヒテ、陸奥海ニ走ル。

巻百十九

明治元年戊辰八月二十日ニ起リ二十二日ニ至ル

二十日、笠松縣知事林某(左門)ヲ罷メ、長谷部恕連ヲ以テ之ニ代フ。
〇諸藩ノ公務人ヲ改メテ、公議人ト稱ス、又公用人ヲ置キ、從前留守居ノ事ヲ掌ラシム、尋テ公議人ノ姓名ヲ錄上セシム。
〇辨事五辻安仲、權辨事戸田忠至ヲ遣シテ、東幸ノ驛道ヲ檢セシム、因リテ事宜數條ヲ府藩縣ニ告示ス。

〇外國官副知事鍋島直大、東京ヨリ至ル、是日、召見シテ、其勞ヲ慰シ、物ヲ賜フ。
〇特旨、二條齊敬ノ朝參ヲ許ス。
〇花山院家理ノ京ニ歸ルヤ、復浮浪ノ徒ヲ延キ、行爲顛狂暴ナリ、是日、之ヲ篠山藩ニ幽ス。
〇外國醫師ヲ遣シテ、官軍ノ創痍者ヲ療ス。
〇備前、高松二藩ニ令シテ、兵ヲ東京ニ出サシメ、高松藩ノ四塚關門及ヒ猿ヵ辻警守ヲ罷メ、出雲、秋月二藩ヲ以テ之ニ代フ。
〇加賀藩ニ命シテ、米穀ヲ箱館ニ輸送セシム、米穀乏キヲ以テ之ヲ辭ス。
〇永井尚服、封内厚見郡下奈良村水閘修膳ノ事例ヲ陳シ、公費支辨ヲ請フ、之ヲ聽シ、笠松縣ニ申議セシム。
二十一日、奉幣使ヲ伊勢神宮ニ遣シ、將ニ卽位ノ禮ヲ行ハントスルヲ告ク、明日、畝傍、山階、後月輪、弘化、後月輪東ノ五陵ニ差遣ス。
〇中村藩兵戰功アルヲ以テ、藩士相馬季胤父子ノ謹愼ヲ釋ス。
〇東京府知事烏丸光徳、管民ニ告示シテ、直言ヲ進メ、材能ヲ擧ケシム。

二十二日、議定中御門經之ヲ以テ、會計官知事ヲ兼シム。

○駿河以東十三國諸侯ニ令シ、車駕東幸ヲ以テ東京ニ入覲セシム。

○諸藩ニ申令シテ、私ニ外國人ヲ雇フヲ禁ス。

○松平頼聰ニ命シ、歸藩シテ、家政ヲ更革シ、兵備ヲ嚴整セシム。

○舊旗下歸順者ノ祿制ヲ定ム、又東京郭内外諸侯以下第宅ノ制ヲ設ク。

○岸和田藩ノ大坂市巡邏ヲ罷ム。

○日田縣知事松方正義、中大夫以下采地交渉ノ事項ヲ陳シ、租税ハ地方廳之ヲ管シ、領主ニ廩米ヲ給センコトヲ稟議ス、批シテ、租税ノ事ハ舊貫ニ仍リ、地方廳ハ其政令ヲ掌ラシム。

○大總督府、諸藩兵ニ申令シテ、無禮ヲ外人ニ加フルコト勿ラシム。

○越後口總督嘉彰親王新發田ニ抵ル。

巻百二十 上

明治元年戊辰八月二十三日ニ起リ二十四日ニ至ル

二十三日、即位ノ大禮古典ニ基キ、大旌等ノ制ヲ改メ、九等官ヲ以テ、舊參役ト竝立セシメ、中世以降用フル所ノ唐制禮服ヲ廢スルヲ布告ス、又宮、堂上及ヒ在京諸侯、徵士、雇士、中下大夫、上士ヲシテ大禮ニ參セシム、因リテ其條規ヲ告示ス。

○兵制ヲ一定セントスルヲ以テ、府縣ノ私ニ兵士ヲ徵募スルヲ止ム。

○肥前藩ニ命シテ、長崎府下浦上村ノ天主教徒ヲ監シ、大村藩ニ封内ノ浸染ヲ防カシム、是ヨリ先、本願寺以下七寺、異宗徒ヲ誨諭センコトヲ請フ、是命アルヲ以テ、聽サス。

○田沼意尊、入覲ヲ請フ、之ヲ聽ス。

○總持寺、再ヒ書ヲ上リテ、本寺並立及ヒ輪番住持ノ制ヲ復センコトヲ請フ。

巻百二十 下

○白川、平潟兩道ノ官軍、連戰賊ヲ破リ、是日、若松城ヲ圍ム、大總督軍監牧野茂敬（群馬初メ小笠原唯八ト稱ス○土佐藩士）之ニ死ス、尋テ越後官軍モ亦來リ會ス。

○神奈川府、書ヲ荷蘭領事ニ致シテ、其國人スネルノ兵器ヲ賊ニ販賣セシヲ責メ、其罪ヲ糺サシム、公使ボルスブロック、之ヲ訊ス、スネル、分疏シテ服セス、事遂ニ寢ム。

二十四日、三浦顯次ノ差扣ヲ釋ス。

○豐岡藩ノ桂宮警守ヲ罷メ、仍其兵ヲ京師ニ駐セシム。
○松平頼聰、書ヲ上リテ、白峯山陵修繕ノ工事ヲ助ケンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。
○加藤泰令、在京藩兵ヲ以テ、常ニ車駕從衞ニ充テンコトヲ請フ、聽サス。
○盛岡藩、歐人ヲ雇ヒテ、封內開鑛ノ事ニ服セシメンコトヲ請フ、批シテ、後命ヲ俟タシム。
○是ヨリ先、板倉勝靜ノ老臣、備前藩ニ就キテ、家臣數人ヲ奥羽ニ遣シ、勝靜父子ヲ追跡セシコトヲ請フ、是日、之ヲ聽シ、備前藩士ヲシテ之ニ監セシム、命未タ達セス、老臣等、又先主板倉勝職（主膳正）ノ從弟前彌（禁）二郎ヲシテ、家ヲ承カシメンコトヲ請フ。
○井伊直憲、京ニ至ル。（井伊直憲家記）
○越後口總督嘉彰親王、令シテ兵燹若クハ水患ニ罹リシ者ハ、本年ノ田租ヲ蠲ク。

卷百二十一

明治元年戊辰八月二十五日ニ起リ二十六日ニ至ル

○八月二十五日、丸岡藩ニ命シテ、鞍馬口ヲ警守セシメ、其山中關門警守ヲ罷メ、朽木之綱ヲ以テ之ニ代フ。
○朽木爲綱、本莊宗武ノ弟綱鑑（十太夫）ヲ養ヒテ、嗣ト爲サンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。
○津山藩、書ヲ上リ、美作公邑藩縣ニ分隸シ、政令多岐、民心疑懼ノ狀ヲ陳シ、廷臣ヲ遣シテ、之ヲ總理セシコトヲ請フ。
○牧野康濟、封內宗門改ノ例規ヲ稟ス、批シテ暫ク其舊ニ仍ラシム。
○鎭將府、書ヲ德川家達ノ老臣及ヒ田安慶頼、松平齊民ニ下シテ、逋賊鎭靖ノ方略ヲ責問ス、老臣等、其力及ハサルヲ陳謝ス、又管內諸藩ニ令シ、逋賊ノ陸ニ上ルモノヲ緝捕セシメ、逋逃ノ事ヲ各國公使ニ牒知ス。
○鎭將府、神奈川四方十里ノ地ヲ神奈川府ニ隸ス。
○大總督府、舊幕府ノ海軍所（築地ニアリ）ヲ收ム。
○本多正訥、東京ニ至ル。（長尾藩記）
二十六日、議定正親町三條實愛、德大寺實則ニ勅シテ、東幸中輔相候所ニ入リ、庶務ヲ理セシム。
○聖誕日ヲ以テ天長節ト稱シ、酺ヲ群臣ニ賜ヒ、行刑ヲ停ムルヲ布告ス。
○因幡藩兵ノ數次徵發及ヒ戰勞ヲ賞シテ、藩主池田慶德ニ內帑金二千兩ヲ賜フ、又松平茂昭ニ令シテ、藩兵ヲ越後ニ出サシム。

○紀伊藩ニ令シテ、軍資金十五萬兩ヲ獻セシム、又藩士三浦安休太郎、井田某政一郎、川端某文四郎〇九月五日歿病ス、ヲ京師ニ押送セシム、後禁錮ニ處ス。

○中院通富、三條西公允、讃岐ニ抵ル、是日、白峰山陵ヲ祭リ、神靈ヲ奉シテ東還ス。

○東北遊擊軍將久我通久、越後柏崎ニ抵ル。東北遊擊軍將府日誌

○榎本武揚ノ品川海ヲ脱スルヤ、洋中颶ニ遭フ、是日、屬船一隻美賀保號、下總銚子浦海上郡、ニ漂到ス、其餘仙臺海ニ入ルモノ、前後七隻、各地逋逃ノ諸兵モ亦多ク仙臺ニ集ル、武揚乃チ伊達慶邦、板倉勝靜等ト會シテ、二本松ヲ擊チ、若松城ノ圍ヲ解カンコトヲ圖ル。

巻百二十二　明治元年戊辰八月二十七日

二十七日、天皇位ニ紫宸殿ニ即ク、時ニ年十七。

○越後督府、牧野忠泰ノ謹愼ヲ釋ス。

○板倉勝殷、書ヲ鎭將府ニ上リテ、疾ヲ謝シ、子勝敬百助、ヲシテ京師ニ朝セシメンコトヲ請フ、未タ許サス、會東幸ノ令アリ、因リテ東京ニ代覲セシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

巻百二十三　上　明治元年戊辰八月二十八日ニ起リ晦日ニ至ル

二十八日、車駕東幸ノ期ヲ布告ス、又諸條規ヲ沿道府藩縣ニ申令ス。

○毛利敬親、島津忠義ニ勅シ、東幸中京師ニ在リテ、機務ニ參預セシム。

○議定山内豊信、刑法官副知事兼議定心得池田章政、參與木戸孝允、小松清廉ニ東幸扈蹕ヲ命シ、豊信、清廉ハ駕ニ先チテ東京ニ至リ、孝允ハ事畢リテ西還セシム、又山内豊範、加藤泰秋ヲ前驅ト爲シ、池田慶德、池田政禮ヲ後驅ト爲シ、長門以下四藩兵ヲ從衛ト爲ス、豊範、慶德、政禮、疾ヲ以テ之ヲ辭ス、乃チ池田德澄及ヒ山内豊積兵之助〇豊範ノ義叔父、ニ命シ、代リテ其事ニ服セシム、是日、扈蹕ノ公卿諸侯及ヒ各官ニ令シ、其臣隷僚屬ヲ戒飭シテ、傳驛ヲ疾苦スルコト勿ラシム。

○參與副島種臣、再ヒ出羽ニ赴ク、命シテ事ヲ畢ヘテ、亟ニ西還セシム。

巻百二十三　中

○豊前、豊後、筑後ノ公邑ヲ長崎府日田縣ニ分屬シ、肥後、筑

後、柳河二藩ノ管理ヲ罷ム、又日田縣ニ命シ、假ニ佐伯、人吉二藩所管、豐後、日向公邑ノ租稅ヲ管セシム。

○筑後藩ノ橋本關門、大坂運上所、安治川新番所及ヒ川口警守ヲ罷メ、丸龜、郡山二藩ヲ以テ之ニ代フ。

○德川家達ニ令シテ、假ニ支族淸水氏ノ采邑十一萬三千五百石餘、ヲ管セシム。

○松平定安、藩兵ヲシテ征討ノ軍ニ從ハシメンコトヲ請フ、批シテ、後命ヲ俟タシム。

○戸田氏良、藩兵ヲ陸奧ニ轉進セシヲ稟ス。

○太田資美、京ニ至ル。○太田資美家記

○大關增勤、書ヲ鎭將府ニ上リテ、藩兵出征及ヒ封疆有虞ノ狀ヲ陳シ、入覲ノ期ヲ緩フセンコトヲ請フ、批シテ、老臣ヲシテ代覲セシム。

二十九日、天皇、山階陵、後月輪東陵ニ謁ス。

○毛利敬親、島津忠義、鍋島直大ニ命シテ、東幸中京師ヲ警守シ、黑田長溥ニ大坂ヲ警守セシム。

○神祇官副知事龜井茲監ノ卽位新儀考定ノ勞ヲ賞シテ、御衣ヲ賜ヒ、判事福羽美靜等賞賜差アリ。

○贋貨濫行スルヲ以テ、府藩縣ニ令シテ、嚴ニ之ヲ撿索セシム。

○榎本武揚等逃走ノ報、京師ニ達ス、是日、之ヲ諸道ニ布告ス、明日三等陸軍將坊城俊章ヲ以テ、攝泉防禦總督ト爲シ、因幡、松山二藩ニ警守ヲ命ス。

卷百二十三 下

○水野忠順ノ謹愼ヲ釋ス。

○松井康英勤王ノ實蹟アルヲ以テ、其別邑ヲ復ス。

○日田縣ニ令シテ、每歲米二萬石ヲ長崎府ニ輸送セシム。

○安藝藩ノ大坂市街巡邏ヲ罷ム。

○水野忠幹、東幸扈從ヲ請ヒ、仙石政固、近畿守衞ノ任アリ、扈從ヲ請ヲ得サルヲ以テ、別ニ從事スル所アラント請フ、聽サス、井伊直憲、安藤直裕、土井利教モ亦前後書ヲ上リテ、扈從ヲ請フ、並ニ聽サス。

○大總督府、關門ヲ上野三國嶺ニ設ケ、高崎藩ニ命シテ之ヲ守ラシム。

○鎭將府、戸田忠行ノ請ヲ聽シテ、足利學校復興ノ事ヲ管セシム、是日、忠行、學田及ヒ住僧ノ事歷ヲ申稟ス。

○東北遊擊軍將久我通久、新潟ニ抵ル。○東北遊擊軍將府日誌

晦日、車駕、加茂川東操練場ニ幸シ、東幸扈從諸隊ノ練兵ヲ覽ル。

○晃親王復飾セシヲ以テ、更ニ勸修寺門跡ヲ置キ、假ニ寺領ヲ分チテ、親王ノ家祿ニ充ツ。

○加賀藩徵兵ノ大宮御所、桂御所及ヒ今出川門警守ヲ罷メ、紀伊藩徵兵ヲ以テ之ニ代フ。

○是月、總督以下兵士ニ至ルノ軍功ヲ分チテ、各上中下三等ト爲ス、因リテ總督、列藩參謀、軍監、長官等ニ命シ、其等級ヲ撿覈シテ錄上セシム。

○城門某（司馬太○伊豫人）、宇陀某（太郎○大和人）、上書シテ、淡路廢帝ノ神靈ヲ京師ニ奉還シ、謚號ヲ上ランコトヲ建議ス。

巻百二十四　（明治元年戊辰九月朔日ニ起リ二日ニ至ル）

○九月

朔日、本莊宗武、金二萬兩ヲ獻シ、東幸ノ費ニ充ツ、其藩力疾弊ヲ以テ、楮幣二萬兩ヲ賜フ。

○小出英尙、攝海警アルヲ聞キ、在京ノ兵ヲ以テ緩急ノ用ニ供センコトヲ請フ。

○逋賊下總銚子浦ニ漂到ノ報至ル、是日、大總督府、軍監林友幸（半七○長門藩士）ヲ遣リテ、處理セシム、斥候隊及ヒ佐倉、志筑二藩兵之ニ屬シ、高崎藩士嚮導タリ、適逋賊五十許人、土浦藩ニ効順シ、餘黨各處ニ出沒ス、因リテ房、總、常、野諸藩ニ令シテ、嚴ニ之ヲ緝捕セシム、既ニシテ逋賊五十許人、駿河藩ニ就キテ自首ス。

二日、佐渡縣ヲ置キ、長崎府判事兼外國官判事井上馨ヲ以テ知事ト爲ス。

○岸和田藩士岡部正路、相馬肇等ノ罪ヲ判シ、正路、肇ヲ流ニ處ス、其餘黜罰差アリ。

○五島盛德、松前隆廣、竝ニ歸藩シテ、警備ヲ修メンコトヲ請フ。

○一橋茂榮、將ニ入覲シテ藩屛ノ恩ヲ謝セントス、是日、鎭將府ニ候シテ、假ヲ乞フ、柳澤德忠ノ弟信恒（銅次郎）モ亦兄ニ代リテ、入覲センコトヲ請フ、東幸近ニ在ルヲ以テ、竝ニ批シテ、其行ヲ停ム。

○入道公現親王、白石ヲ去リテ、再ヒ仙臺ニ赴ク。

巻百二十五　（明治元年戊辰九月三日ニ起リ四日ニ至ル）

三日、外國官副知事鍋島直大、辨事阿野公誠ヲ以テ參與ト爲

シ、參與小松清廉ニ外國官副知事ヲ兼シム、又甲府城代鍋島直紀ヲ罷ム。
○越後三島、古志、蒲原、岩船ノ四郡ヲ越後府ニ隷ス。
○久松勝成ニ京都、大坂ノ邸ヲ還付ス。
○鳥居忠文ニ命シテ、東京ニ赴カシメ、酒井忠氏ニ敦賀港ノ守備ヲ嚴ニセシム。
○東幸ノ令出ルヲ以テ、太田資美、歸藩シテ、驛道ノ事ヲ督シ、聖駕ヲ奉迎シテ、後扈從センコトヲ請ヒ、田沼意尊、黑田直養、本多忠鵬竝ニ未タ入覲セサルヲ以テ、進止ヲ取ル、是日、批シテ、資美ノ請ヲ聽サス、意尊、忠鵬ハ亟ニ入覲シ、直養ハ東京ニ詣ラシム。
○米國商船（ゼンタイ號）、紀伊尾鷲浦（牟婁郡）ニ毀損ス、船長等、紀伊藩ニ就キテ、横濱ニ送致センコトヲ請フ、本藩、狀ヲ具シテ之ヲ稟ス、是日、批シテ、大坂ノ外務局ニ送ラシム。
○米國商船（キングヒリップ號）、水夫ハールマスコ、醉酗シテ、兵庫港衞兵青木缶（阿波藩士）ヲ傷ツケ、又兵庫縣廨舍ニ闖入ス、知事伊藤博文、之ヲ捕ヘ、米國領事ニ移書シテ、其罪ヲ糺サシム。
○池田政禮、京ニ至ル。
四日、公卿諸侯及ヒ徵士等ノ、家眷ヲ携帶シテ、任所ニ赴クヲ許ス。
○酒戸醸額、百石ニ滿タサル者ハ、其額ヲ增シ、千石ニ過クル者ハ、戸ヲ分ツヲ許ス。
○加藤泰秋、京ニ至ル。（[illegible]）
○鎭將府、赤松成允（孫太郎、松代藩士）ヲ以テ府中知縣事ト爲シ、成澤公直（勘右衛門、松代藩士）ヲ市川知縣事ト爲シ、石田廣和（[illegible]、松代藩士）ヲ石和知縣事ト爲シ、甲斐諸郡ヲ分管セシム。
○上杉齊憲、罪ヲ謝シ降ヲ乞フ、是日、越後口總督嘉彰親王、命シテ實効ヲ立テシム、尋テ齊憲ノ子茂憲（式部）、督府ニ新發田ニ謁シ、征討先鋒ヲ請フ、之ヲ聽ス。

卷百二十六 明治元年戊辰九月五日

五日、東幸ノ期近キニアルヲ以テ、宮門及ヒ諸闕門警衞規則ヲ定メ、徵兵及ヒ長門、越前以下二十藩ニ申令シテ、九門七口等ノ警守ヲ嚴ニセシメ、津和野、園部以下六藩ニ九門内巡邏ヲ命シ、唐津、長島以下六藩ノ市中巡邏ヲ罷メ、仍兵ヲ留メテ緩急ニ備ヘシム、尋テ紀伊、松山（伊豫）以下二十三藩兵ヲ以テ七口應援ト爲ス。
○府藩縣ニ申令シテ、管民ノ稱氏、佩刀及ヒ免役、給俸者ヲ錄

上セシム。
○岡部長寛ノ家政不肅ヲ譴メ、差扣ヲ命ス。
○松井康英ノ近江別邑ヲ復セシヲ以テ、是日、市橋長義ノ假管ヲ罷メ、康英ニ還付セシム、既ニシテ、管民復舊ヲ喜ハス、强訴日ヲ延ク、乃チ長義ニ申命シ、懇諭事ヲ果サシム、尋テ藩士ノ陰ニ民心ヲ煽動セシモノヲ罰シ、强訴首罪ハ、康英ニ付シテ、寛ニ處セシム。
○松平忠敬、書ヲ鎭將府ニ上リテ、疾ヲ謝シ、重臣ヲシテ東京ニ代覲セシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。
○東京府、申令シテ、墮胎藥販賣ヲ嚴禁ス。

卷百二十七

明治元年戊辰九月六日ニ起リ七日ニ至ル

六日、崇德天皇神靈京ニ至ル、今出川ノ新宮ニ奉祀シ、仍白峯宮ト稱ス。
○逋逃嘯聚ノ風、尙未タ已マス、是日、大總督府令シテ、犯ス者ハ士卒ヲ問ハス、嚴科ニ處セシム。
○攝泉防禦總督坊城俊章、攝津ニ抵リ、一心寺東成郡ニ陣ス、是日、紀伊、岸和田、尼崎三藩ニ令シテ、守備ヲ嚴ニセシム。
七日、福山、宇和島、大野、吉田四藩ニ命シテ、兵ヲ箱館ニ出サシメ、長門、出雲、小倉、蓮池、德山五藩ハ秋田ニ出サシム、乃チ奥羽鎭撫總督九條道孝、東北遊擊軍將久我通久ニ命シテ、箱館總督及ヒ參謀軍監ヲ選任セシム、又安藝、阿波、筑後三藩兵ヲ東京ニ發遣ス、尋テ蓮池藩ヲ罷メ、肥前藩ヲ以テ之ニ代ヘ、福山、宇和島、大野、吉田四藩ヲ更メテ、弘前應援ト爲シ、阿波藩ノ出兵ヲ罷ム。
○長門、小倉二藩兵徵發數次、藩力疲弊スルヲ以テ、金各一萬兩ヲ賜ヒ、明日又因幡藩ニ二萬兩ヲ賜フ。
○福山藩ノ天保山警守、吉田藩ノ唐御門警守ヲ罷メ、徵兵及ヒ姬路藩ヲ以テ之ニ代フ。
○佐竹義堯祖先ノ遺志ヲ承述シ、勤王大義ヲ唱ヘ、旁近諸藩ヲ鼓舞セシヲ賞シテ、御衣一襲御劍一口ヲ賜フ。
○小倉藩、書ヲ上リテ、英彥山ヲ管センコトヲ請ヒ、其舊例ヲ錄上ス。
○對馬藩、再ヒ朝鮮國貿易ノ情狀ヲ陳シ、官銅ヲ買ヒ、且貿易資金ヲ借ランコトヲ請フ。
○鎭將府、諸藩ニ令シ、外國船ヲ雇用シテ、東京ニ遣シ、若クハ未開港場ニ入ル者ハ、之ヲ神奈川府ニ申稟セシム。

巻百二十八 明治元年戊辰九月八日ニ起リ九日ニ至ル

八日、詔シテ明治ト改元シ、一世一元ノ制ヲ定ム、因リテ本日以前ノ罪犯、大逆故殺及ヒ犯情赦シ難キ者ヲ除クノ外、凡テ一等ヲ減ス。

○神奈川府知事東久世通禧ヲ以テ外國官副知事ト爲シ、仍神奈川府知事ヲ兼シメ、越後府知事四辻公賀ヲ三等陸軍將ト爲シ、柏崎縣知事四條隆平ヲ越後府知事ト爲ス。

○岡部長職、酒井忠氏、酒井忠祿、板倉勝弘ノ差扣ヲ釋シ、三枝眞洞、朱雀貞固ノ黨、川上鎮石邦之助○武藏人、等三人ノ流刑ヲ赦シ、岡部正路、相馬肇ヲ永禁錮ニ改ム、其餘赦宥減等各差アリ、又高松實村ノ差扣ヲ釋ス。

○一等官以下ノ提燈章標ヲ定ム。

○藤堂高猷、稻垣長敬ニ命シテ、封內沿海ノ守ヲ嚴ニセシメ、高猷ノ召命ヲ罷ム、高猷、在京藩兵ヲ轉シテ、沿海守備ニ充テンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○三浦顯次、前日宥罪ノ恩ヲ謝シ、藩兵ヲ出シテ、報効スル所アランコトヲ請フ、是日、命シテ一小隊ヲ京ニ徵ス。

○丹羽長國ノ老臣、京ニ在ル者、稻葉正邦ニ就キ、本藩ノ情勢ヲ陳シ、歸邑シテ効順ヲ謀ランコトヲ請フ、正邦爲ニ具狀奏聞ス、批シテ聽サス。

九日、議政官史官、議ヲ上リテ、奏狀、詔制、審斷ノ三牒ヲ設ケ、及ヒ政記ヲ編輯センコトヲ請フ、之ヲ採納シ、行政官モ亦本議ニ準傚セシム。

○立花鑑寛、京ニ至ル。○立花鑑寛家記

巻百二十九 第一 明治元年戊辰九月十日ニ起リ十一日ニ至ル

十日、諸藩ニ令シテ、從軍死傷者ノ姓名ヲ錄上セシム。

巻百二十九 第二

巻百二十九 第四

○桑名東幸ノ驛路ニ當ルヲ以テ、德川德成、藤堂高猷ニ申命シテ、其守備ヲ嚴ニセシム、又松平定敎ノ臣隸ニ米一萬苞ヲ賑給ス。

○松前隆廣、書ヲ上リテ、亡父崇廣ノ官位ヲ復セシコトヲ請フ。

○下局議長秋月種樹、議事曠廢日久シキヲ以テ、議員ノ申議ヲ陳シテ、命ヲ請ヒ、且議事院開設及ヒ議長議員東幸扈從等ノ意

見ヲ上ル。

○小出英尚、京ニ至ル。（小出英尚家記）

○舊旗下ノ士、復祿ト稱シテ、舊釆邑ノ金穀ヲ詐取スル者アリ、是日、鎭將府、令シテ之ヲ禁ス、因リテ復祿者ノ姓名ヲ地方官ニ頒示ス。

○大總督府、水野勝知ヲ鶴牧藩ニ保管シ、津藩ノ保管ヲ罷ム。

○太田資美ノ臣隷東叡山ノ賊ニ黨シテ、逃匿スルモノアリ、資美、鎭將府ニ就キ、藩ニ付シテ之ヲ處分センコトヲ請フ、尋テ緝捕シテ前請ヲ申ヌ、批シテ、謹愼シテ命ヲ待タシム。

○丹羽長國、白川口總督ノ軍門ニ降ル、明日、督府、長國ニ謹愼ヲ命シ、藩兵ヲシテ歸順ノ實効ヲ立テシム。

十一日、神嘗祭奉幣使ヲ太神宮ニ發遣シ、且奥羽平定ヲ祈ル。

○久我通城（維麿、建通ノ第四子）ヲ以テ柏崎縣知事ト爲ス。

○島津忠義、書ヲ上リテ、入覲遲延ノ事由ヲ稟謝シ、岡部長寛、其子長職ヲシテ代覲セシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○戸田氏共、書ヲ上リ、小原忠寛ノ爲ニ病ヲ謝シ、且病間藩事ニ參セシムルヲ稟ス。

卷百三十　明治元年戊辰九月十二日ニ起リ十三日ニ至ル

十二日、神祇官知事鷹司輔熙ヲ以テ議定ト爲シ、近衞忠房ヲ神祇官知事ト爲ス。

○三等陸軍將坊城俊章ノ攝泉防禦總督ヲ罷ム。

○驛遞規則ヲ定メ、府藩縣ニ申令シテ、宿弊ヲ釐革セシム、又東幸沿道諸藩ニ令シテ、綏撫ノ大旨ヲ體シ、務メテ遞傳艱滯ノ患ナカラシム。

○肥後、筑前、肥前、筑後、柳河、中津六藩ニ命シテ、米（六萬二千石）ヲ東京ニ輸送セシメ、以テ東幸賑恤ノ用ニ充ツ。

○太宰府社司ヲ神祇官ニ隷ス。

○毛利元蕃ノ請ヲ聽シ、歸藩シテ、家政ヲ更革シ、兵備ヲ嚴整セシム。

○脇坂安斐、書ヲ上リテ、美作ノ別邑ヲ換易センコトヲ請フ、聽サス。

○木下利恭、木下俊愿、書ヲ上リテ、豐國社造營ノ役ニ任センコトヲ請フ、是日、批シテ其圖ヲ製シ、之ヲ神祇官ニ申稟セシム。

○田沼意尊、京ニ至ル。（田沼意尊家記）

十三日、外國官副知事兼神奈川府知事東久世通禧ニ命シテ、議定ノ事ヲ攝行セシム、又大總督參謀鷲尾隆聚ヲ罷ム。

○久我通城ヲ堂上ニ班ス。

○因幡藩ニ申令シテ、兵一大隊ヲ大阪ニ出サシム、尋テ之ヲ陸奥及ヒ東京ニ分遣ス、本藩書ヲ上リ、東京ノ出兵ヲ罷メンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○松平慶倫、金五千兩ヲ獻シテ、東幸ノ費ニ充テンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○竹腰正舊、其父正美ノ蟄居ヲ釋サレンコトヲ請フ。

○讃岐金刀比羅宮社司琴陵宥常、舊例ヲ陳シテ、社格陞進及ヒ大宮司補任ヲ請フ、是日、勅裁神社ト爲シ、補任ハ後命ヲ待タシム。

○岡部長職、京ニ至ル。岡部長職家記

○村上藩士、書ヲ越後督府ニ上リ、本藩犯順ノ情狀ヲ陳シ、内藤信思ヲシテ再ヒ家ヲ承ケシメンコトヲ請フ。

巻百三十一

明治元年戊辰九月十四日ニ起リ十五日ニ至ル

十四日、毛布ヲ出征兵士ニ賜フ。

○外國官知事伊達宗城ノ勤勞ヲ賞シ、直衣ヲ服スルヲ許ス。

○徴兵ニ申命シテ、皇宮及ヒ大宮御所以下ノ守衞ヲ嚴ニセシム、尋テ前田利嗣、島津忠寛ニ大宮御所、女御御所ヲ警守シ、池田慶德ニ桂宮ヲ警守シ、幟仁親王ヲシテ緩急ノ際、桂宮ニ候セシメ、中川久昭ニ御臺所口向ノ監守ヲ嚴ニセシム、又諸屯兵ヲ戒ム。

○龍野、赤穗二藩ノ播磨郡邑ノ假管ヲ罷メ、之ヲ兵庫縣ニ屬ス。

○男山八幡宮社司ノ八幡警守ヲ罷メ、柏原藩ヲ以テ之ニ代フ。

○内藤正誠、京ニ至ル。

十五日、有馬頼慶初名慶頼、ヲ以テ假ニ軍務官副知事ト爲ス。

○關長克、疾ヲ以テ入覲遲緩ヲ謝シ、兵ヲ出シテ報效スル所アランコトヲ請フ、聽サス、尋テ其請ヲ申ヌ、優旨シテ聽サス。

○鎭將府、大河内輝照、新莊直敬、及ヒ關宿藩ノ逋賊ヲ追捕セサルヲ譴メ、輝照ニ謹愼ヲ命ス。

○越後口總督嘉彰親王、參謀以下ヲ率ヰ、津川口氣多宮村陸奥河沼郡、若松城ヲ距ルコト四里許、ニ至リ、諸軍ヲ勞ス、諸軍大ニ振フ、既ニシテ總督、新發田ニ還ル。

○伊達慶邦、平潟口總督ノ軍門ニ降ル、督府令シテ、罪ヲ自館ニ待タシム、尋テ其城邑ヲ收ム、慶邦及ヒ子宗敦退テ寺院ニ屛居ス、德川逋寇ノ徒五百餘人、仙臺老臣ニ就テ降ヲ乞フ、是日、板倉勝尙モ亦白川口總督ノ軍門ニ降ル。

○朝鮮國商船三隻、肥前五島玉之浦、石見遠田浦、ニ漂到ス、長門、福江二藩吏ヲ遣シテ之ヲ救恤シ、長崎府ニ送致ス。

巻百三十二　明治元年戊辰九月十六日ニ起リ十七日ニ至ル

十六日、山内豐福ノ養子豐誠ヲシテ其遺封ヲ襲カシム。

○英彦山社司ヲ神祇官ニ隷ス。

○尼崎藩書ヲ上リ、石高貸與ノ紙幣ヲ以テ管内海岸ニ埠頭ヲ築造シ、以テ船舶ノ出入ヲ便ニシ、兼テ警備ノ用ニ充テンコトヲ請フ、是日、之ヲ聽ス。

○越後口總督府、上杉茂憲ヲ以テ莊内征討先鋒ト爲ス。

十七日、東幸ノ期近キニ在ルヲ以テ、警守及ヒ扈蹕ノ公卿諸侯ヲ小御所ニ召見シ、勅シテ、之ヲ戒飭シ、酒饌ヲ賜フ、明日ニ至リテ終ル。

○神祇官ヲ舊學習院ニ移ス。

○中山信徴、水戸藩管内ノ警備ニ服シテ、征討ノ軍ニ從フコトヲ得サルヲ以テ、石炭三萬苞ヲ獻シ、以テ軍用ニ充テンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○松平頼縄、書ヲ鎭將府ニ上リテ疾ヲ謝シ、其子頼策（雅樂頭）ヲシテ代覲セシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○松平信庸、白川口總督ノ軍門ニ降ル、督府乃チ信庸ニ謹愼ヲ命シ、藩兵ヲ以テ莊内征討先鋒ト爲ス、是日、山形藩留守ノ老臣水野某（三郎右衛門）等モ亦降ル。

○徴兵青木孟、島本某（嘉吉）ヲ譴責シテ、其職ヲ罷メ、阿波藩ニ付ス、孟尋テ創ニ因リテ死ス、兵庫縣知事伊藤博文、復米國公使ニ移書シテ、ハールマスコノ處刑及ヒ報償ヲ促ス。

巻百三十三　上　明治元年戊辰九月十八日ニ起リ十九日ニ至ル

十八日、外國官副知事兼神奈川府知事東久世通禧ヲ以テ議定ト爲ス、之ヲ辭ス、乃チ舊官ニ復ス。

○會計官ノ吏員闕乏ヲ以テ、京都府ニ命シ、本官ト協議シテ、其ノ事務ヲ兼掌セシム、尋テ會計官ヲ府廳ニ移ス。

○毛利敬親ノ勳勞ヲ賞シテ、左近衛權中將ヲ兼シメ、從三位ニ叙シ、其歸藩ノ請ヲ聽シ、御袴ヲ賜フ、池田慶徳ノ疾ヲ扶ケ入覲セシヲ褒シ、太政ヲ翼賛セシム、是日、敬親ノ子廣封再ヒ京ニ至ル。

○大澤基壽（中大夫○遠江堀江）ヲ藩屏ニ列ス。

○伊地知貞馨（壯之丞○薩摩藩士）ニ軍艦購買御用掛ヲ命シ、大坂貨幣司ニ參セシム。

○僧侶、神佛混同ノ禁ニ乘シテ、往々復飾ヲ請フ者アリ、是日、令シテ、妄ニ蓄髮スルヲ禁ス。

○將サニ大學ヲ恢張セントス。先ツ皇學所ヲ九條道孝ノ第ニ、寺ニ、[illegible]ノ第ニ設ク漢學所ノ梶井宮ノ第ニ設ケ、宮、堂上以下諸官人ニ諭シテ入學セシム、是日、漢學所ヲ開ク。

○伊豆毛倉野賀茂村ノ鑛山ヲ開カントス、韮山管理江川英武ニ命シテ、鑛山司ト協議セシム。

○尾張藩書ヲ上リ、熱田神宮領地ノ租稅、修繕、及ヒ神宮以下黜陟刑罰等、從前管理ノ例ヲ陳シテ命ヲ請フ、批シテ、黜陟刑罰等、重事ハ稟請シ、其餘ハ、大宮司ト協議シテ之ヲ處理セシム。

○本多忠貫、田沼意齊、藩事及ヒ封邑東幸ノ道路ニ係ルヲ以テ歸藩ヲ請フ、聽サス。

○渡忠秋新太郎○三條實美家臣、後鳥羽、土御門、順德三帝、南朝諸帝ノ神靈還京、及ヒ南北正閏ノ議ヲ上ル。

○市橋長道、京ニ至ル。○市橋長義家記

榎本武揚奪フ所ノ軍艦二隻、咸臨、蟠龍、下田港ニ漂到シ、遂ニ清水港ニ入ル、大總督府、富士、飛龍、武藏三艦ヲ遣シテ之ヲ追捕セシム、是日、三艦擊テ其一隻咸臨ヲ獲、其人ヲ捕斬ス、其上陸セシ者ハ、駿河藩ニ禁錮ス、一隻ハ先ツ遁ル。

○阿部正靜、織田信敏、白川口總督ノ軍門ニ降ル、正靜ノ高祖父正備養浩ト號ス、モ亦書ヲ上リ罪ヲ待ツ、督府並ニ謹愼ヲ命シ、天童藩兵ヲ以テ莊内征討先鋒ト爲ス、是日、堀直賀モ亦平潟口總督ノ軍門ニ降ル。○直賀時ニ米澤ニ在リ。

○彥根藩ニ命シ、薩摩、長門、肥前三藩ト倶ニ洛内外ヲ警守セシメ、又之ヲ三藩ニ申命ス。

○毛利廣封ニ勅シテ、東幸中、議定候所ニ入リ、機務ニ參預セシム。

○高野山ノ學侶、行人、非事吏ノ稱ヲ廢シテ、金剛峯寺ノ舊號ヲ復シ、青巖寺ヲ金剛峯寺ト改メ、一山寺務總職ト爲シ、興山寺ノ寺務總職ヲ罷ム、興山寺總代等上書シテ、其舊ニ復センコトヲ請フ、省セス。

○本多忠鵬、京ニ至ル。○本多忠鵬家記

○是ヨリ先、鎌倉五山ノ僧徒等、宮、公卿ノ名ヲ冒稱シテ、金ヲ伊豆、相模等ノ民ニ貸シ、督責頗ル嚴急ナリ、本年兵燹水害ノ餘ヲ承ケ、民ノ困弊殊ニ甚キヲ以テ、是日、鎭將府、地方官ニ令シテ、僧徒ヲ戒飭シ、姑ク其督責ヲ禁ス。

卷百三十四 上

明治元年戊辰九月二十日ニ起リ二十一日ニ至ル

二十日、車駕京師ヲ發シ、東京ニ幸ス、輔相岩倉具視、議定中山忠能、外國官知事伊達宗城、刑法官副知事池田章政、參與木戸孝允、大木喬任及ヒ加藤泰秋、池田德澄、山内豐積等從フ、長門、土佐、備前、大洲ノ兵隊前後ヲ護シ、公卿、諸侯皆騎ス、議定山内豐信、參與小松清廉ハ先チテ發ス、因リテ使ヲ遣シテ、沿道式内社ニ奉幣シ、又養老、旌賞、賑恤ノ典ヲ擧行ス、是日、大津ニ抵ル。

○東幸中、東京ニ於テ、外國事務ヲ處分スルヲ布告ス。

○岡部長寛、疾ヲ以テ致仕センコトヲ請フ。

○是ヨリ先、内藤信思、越後路梗スルヲ以テ岩村田ニ滯在シ、書ヲ鎭將府ニ上リ、從兵ヲ出シテ報効スル所アランコトヲ請フ、是日、鎭將府、命シテ歸藩セシム、山口弘達モ亦書ヲ上リテ入覲ヲ請フ、之ヲ聽ス。

二十一日、車駕大津驛ヲ發ス、本多康穰郊迎ス、外國官知事兼議定心得伊達宗城、路傍ノ禾莖ヲ摘採シ、和歌ヲ副ヘテ御覽ニ供ス、是日、石部驛ニ抵ル。

○東幸中、毎月十五日、辨官一員ヲ遣シテ起居ヲ候シ、宮、公卿、諸侯及ヒ五等官以上、毎旬一次表ヲ上リ安ヲ候セシム。

卷百三十四 下

○越後府ヲ改メテ、再ヒ新潟府ト爲シ、神奈川府ヲ改メテ縣ト爲シ、神奈川府知事寺島宗則ヲ以テ神奈川縣知事ト爲ス。

○濱松藩主井上正直、掛川藩主太田資美、横須賀藩主西尾忠篤、相良藩主田沼意尊ヲ上總、安房ニ移封シ、阿部正靜、大河内信古、青山忠敏、松平乘秩、增山正修、内藤文成、大久保教義ノ遠江、伊豆、駿河ノ管地ヲ收メ、他邑ヲ以テ之ニ換フ、尋テ正直、資美、忠篤、意尊ニ、三年間、金穀ヲ給スルコト各差アリ。

○在京公議人毎藩一人、東京ニ赴カシム、因テ令シテ、議事ノ流弊ヲ矯メ、藩論ヲ一定シ、公議ヲ振興セシム、既ニシテ公議人在京ノ者、悉ク東下セシム。

○池田章政書ヲ上リテ、和氣清麿、楠正行、兒島高德ヲ其管内ニ合祀センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○九鬼隆義、疾ヲ以テ歸藩ヲ請フ、之ヲ聽シ、疾愈ユルヲ待チテ再ヒ入覲セシム。

○鎭將府、大河内信古ニ命シ、舊ニ仍リテ今切關門ヲ警守シ、且其傍近公邑ヲ管理セシム。

○是ヨリ先、關宿藩士ノ賊ニ黨シ逃走セシ者、本藩ニ就キテ自首ス、是日、大總督府、本藩ニ令シテ、罪一等ヲ減シ、其家ニ謹愼セシム。

○土井利敎、書ヲ大總督府ニ上リ、別邑ノ陸奥ニアルモノ賊徒ノ占據スル所ト爲ルヲ陳シ、藩兵ヲ出シテ征討ノ軍ニ從ハンコトヲ請フ、聽サス。

卷百三十五　明治元年戊辰九月二十二日

二十二日、車駕石部驛ヲ發シ、土山驛ニ抵ル、使ヲ妙感寺[甲賀郡三雲村ニアリ]ニ遣シテ、正二位權中納言萬里小路藤房ノ墓ヲ祭リ、金幣ヲ賜フ、又府藩縣ニ令シテ、沿道掲榜ヲ撤去スルヲ停ム、是日、天長節ヲ以テ、輔宴ヲ供奉諸臣ニ賜フ。

京師天長節、祝酒ヲ百官ニ賜ヒ、又各國領事ニ賜フ、是日祝砲ノ儀ヲ行フ、諸港碇泊ノ各國軍艦モ亦祝砲ヲ行フ。

○是ヨリ先、入道公現親王、仙臺仙岳院ニ在リ、其執當職龍王院堯忍、覺王院義親ノ事ヲ誤ルヲ以テ、職ヲ免シテ謹愼セシム、是ニ至リ、親王、平潟口總督四條隆謌ニ因リテ、書ヲ上リ罪ヲ謝ス、督府乃チ津藩ニ命シテ、親王ノ居館ヲ守衛セシム。

○諸路ノ官軍、若松城ヲ圍ムコト三旬、城中力竭ク、松平容保、其臣手代木勝任、[直右衛門]秋月胤永[悌次郎]等ヲ遣シ、米澤藩兵ニ因テ降ヲ乞フ、之ヲ聽ス、是日、容保及ヒ其子喜德、城ヲ致シテ軍門ニ降ル、乃チ容保父子ヲ城外妙國寺ニ幽シ、臣隷[四千四百八十餘人]、及ヒ諸藩逋逃兵[四百六十餘人]ヲ猪苗代鹽川ニ禁錮ス。

卷百三十六　明治元年戊辰九月二十三日

二十三日、車駕土山驛ヲ發シ、關驛ニ抵ル、石川成之郊迎ス。

○納税ニ紙幣ヲ用ヒシム。

○大久保忠禮ノ罪ヲ數メテ、永蟄居ヲ命シ、更ニ特恩ヲ以テ、其家ヲ存錄シ、舊封ノ地七萬五千石ヲ賜ヒ、繼嗣ヲ奏請セシム、尋テ大總督府、首謀臣渡邊某[了叟]ヲ本藩ニ交付シテ之ヲ處分セシム、本藩乃チ某ヲ刑ス。

○吉井某[四郎○土佐藩士]、父讐ヲ復センコトヲ請フ、許サス、是日、其讐二人[小泉彥藏、山田龍兵衛、並ニ小田原藩士]ヲ斬ニ處シ、某ヲシテ劊手ニ代ラシム。

○足利聰氏、書ヲ鎭將府ニ上リテ疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代覲セシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○是ヨリ先、戸澤正實、六郷政鑑及ヒ生駒親敬等、亂ヲ秋田ニ避ク、其邑民賊兵ノ爲ニ焚燒セラル、奥羽鎭撫總督九條道孝之ヲ賑恤ス、是日、賊既ニ平クヲ以テ、正實等ニ命シ、歸邑シテ人

民ヲ安撫セシム。

〇官軍莊内ニ進ム、酒井忠篤、米澤藩兵ニ因リテ降ル、督府乃チ忠篤ヲ城外善龍寺ニ幽ス、忠篤ノ支族酒井忠良、及ヒ舊幕府逋賊ノ莊内及ヒ坂田ニ在ル者モ亦降ル、既ニシテ督府、忠篤ヲ新發田ニ召ス。

巻百三十七　明治元年戊辰九月二十四日

二十四日、車駕關驛ヲ發シ、四日市驛ニ抵ル、途次神宮ヲ遙拜ス、初メ車駕過ル所、民皆其業ヲ停ム、是日、沿道府藩縣ニ令シテ、營業常ノ如クナラシム。

〇溝口直正書ヲ上リ、藩内窮困ノ狀ヲ陳シテ、金十五萬兩ヲ借ンコトヲ請フ、聽サス、再ヒ請フ、井伊直安モ亦金穀ヲ借ンコトヲ請フ、尋テ直正ニ十萬兩、直安ニ二萬兩ヲ賜フ。

〇南部利剛、其老臣三戸與忠（式部）ヲ遣シ、謝罪書ヲ奧羽鎭撫總督府ニ上リテ降ヲ乞フ、督府、其反正ノ實ナキヲ責メテ之ヲ却ク、明日、與忠、利剛ノ子利恭（彦太郎）ヲシテ罪ヲ軍門ニ待タシメ、首謀臣楢山隆吉（佐渡）ヲ監送セントヲ請フ、督府乃チ謝罪書ヲ納メ、隆吉及ヒ江幡通高（五郎）ヲ本營ニ護送セシム。

〇本多忠紀、内藤政養及ヒ安藤信勇ノ祖父信正（鶴翁）、平潟口總督ノ軍門ニ降ル、（時ニ三人、皆仙臺ニアリ、）督府、三人ニ謹愼ヲ命ス。

巻百三十八　明治元年戊辰九月二十五日ニ起リ二十六日ニ至ル

二十五日、車駕四日市驛ヲ發シ、桑名驛ニ抵ル、徳川徳成、藤堂高猷ニ命シテ、松平定敎臣隷ノ姓名ヲ錄上セシム。

〇軍務官ノ裁判所御用掛二局ヲ廢ス。

〇松平頼聰ノ白峯山陵守衞及ヒ神靈還京ノ事ニ服セシヲ賞シテ、狩衣一領ヲ賜フ。

〇長崎府、管内社寺判物、寺院住職、神官、僧侶ノ進退等ヲ稟シテ命ヲ請フ、批シテ、判物ハ之ヲ送進シ、寺院住職ハ、本山ノ申請ヲ待チテ允可シ、神官進退ハ、勅祭大社ヲ除クノ外、府廳之ヲ管セシム。

〇堀之美書ヲ上リ、闔藩疲弊ノ狀ヲ陳シテ、金二萬兩ヲ借ンコトヲ請フ、聽サス。

〇長門藩、花山院家理ノ黨兒島長年（備後、澤爲量家臣）以下七人ノ供狀ヲ具申シ、本藩之カ處分ヲナサンコトヲ請フ、是日、之ヲ聽ス、本藩乃チ其徒ノ本貫ニ交付ス。

二十六日、車駕桑名驛ヲ發シ、熱田驛ニ抵ル、徳川慶勝、徳川徳成奉迎ス。

○白峯宮祭典ヲ追行ス。
○水野忠敬、東京ニ至ル。參謀錄

巻百三十九　上　明治元年戊辰九月二十七日ニ起リ二十九日ニ至ル

二十七日、天皇熱田神宮ニ詣シ、蹕ヲ熱田驛傍字一新田濱ニ停メテ、農事ヲ覽ル、輔相岩倉具視、稻ヲ取リテ御覽ニ供シ、德川慶勝、德川德成、和歌ヲ上ル、慶勝ニ勅シテ、經國治民ノ要ヲ奏セシメ、又其積勳ヲ賞シテ、御衣ヲ賜フ、是日、鳴海驛ニ抵ル。
○英國工技師ヲ薩摩、紀伊以下六藩ニ派シ、燈明臺築造ノ地ヲ撿定セシム、因リテ其事ヲ六藩ニ令ス。
○神祇官副知事龜井茲監書ヲ上リテ、在藩ノ期ヲ延ンコトヲ請フ、是日、之ヲ聽ス、稻垣長敬、歸藩ヲ請フ、聽サス。
○東國新紙幣通行ニ慣レサルヲ以テ、鎭將府、府藩縣ニ令シテ、部民ニ諭告セシム。
○鳥居忠文東京ニ至リ、大關增勤ノ老臣、代リテ東京ニ至ル。
○岩城隆邦、奧羽鎭撫總督府ノ軍門ニ降ル、時ニ隆邦莊內ニ在リ、尋テ東北遊擊軍將府、隆邦ニ命シ、本藩ニ謹愼セシム。
○奧羽鎭撫總督九條道孝、久保田ヲ發シ、横手ニ陣ス。
○外國官副知事東久世通禧等、瑞典那耳回國全權公使「ト、デ、ガラフ、フアンボルス、ブロツク」ト神奈川ニ會シテ、假條約書ヲ交換ス。

巻百三十九　中

二十八日、車駕鳴海驛ヲ發シ、岡崎驛ニ抵ル、松平乘秩ノ子乘承在藩門侍、奉迎ス。
○白川口總督正親町公董、若松ニ入リ、越後口總督府參謀西園寺公望ト俱ニ城中ヲ撿ス、既ニシテ二本松ニ還ル。
○外國官副知事東久世通禧等、西班牙國特派全權公使「ガルシヤ、デ、ケウエド」ト神奈川ニ會シテ、假條約書ヲ交換ス。

巻百三十九　下

○東京開市ノ期近キニアルヲ以テ、外國官副知事東久世通禧、輸出入收稅方法ヲ外國公使ニ付シテ討議セシム、通禧又各國公使ニ横濱ニ會シテ、居留規則ノ條款ヲ審議ス。
二十九日、車駕岡崎驛ヲ發シ、吉田驛ニ抵ル。
○伊達宗德、阿部正桓ノ請ヲ聽シテ、歸藩セシム。
○相馬季胤歸順ノ功効ヲ賞シ、特旨ヲ以テ、其城邑ヲ復ス。
○酒井忠氏、書ヲ上リテ疾ヲ謝シ、重臣ヲシテ代覲セシメンコ

トヲ請フ、聽サス、疾愈ルヲ待チテ亟ニ入覲セシム。
○大總督府、銃獵ヲ申禁ス。
○大總督府、奥羽諸藩主ノ東京護送、藩地謹愼ノ區處ヲ定メテ、白川、平潟兩道ノ總督ニ令ス。
○德川家達、書ヲ鎭將府ニ上リ、其身幼弱ナルヲ以テ、松平齊民ヲシテ代覲セシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。
○水戸藩逋賊市川弘美、朝比奈泰尙等、德川氏逋賊及ヒ會津、長岡等ノ殘兵ト倶ニ水戸城ヲ襲フ、藩兵逆ヘ擊ツ、利アラス、是日、賊遂ニ弘道館ニ入ル。
是月、立花種恭ノ請ヲ聽シ、其舊邑三池ニ移封ス。
○鎭將府、鐵砲洲居留地外ノ土地家屋ヲ外人ニ貸與スルヲ申禁ス。
○長崎府、淸商ニ申令シテ、阿片煙販賣ヲ嚴禁シ、犯ス者ハ、官沒シテ、罰金ヲ追科ス。
○細川韶邦、軍務官副知事長岡護美ニ就キテ、天下疲弊ノ狀ヲ陳シ、綏撫ヲ急ニシ、奥羽臣民ノ罪ヲ寬宥センコトヲ請フ、護美、書ヲ上リテ其意ヲ申ス、護美又東京府事務ノ要ヲ建言ス。

巻百四十　上

明治元年戊辰十月朔日ニ起リ四日ニ至ル

○十月

朔日、車駕吉田驛ヲ發シ、荒井驛ニ抵ル、是日、德川德成、藤堂高猷ニ命シ、松平定敎及ヒ重臣以下（伏見ノ事ニ與ラサリシ者、）ノ家ニ歸ルヲ許シ、其監守ヲ解ク。
○大總督府、薩摩、長門以下五藩兵ニ令シテ、東京ニ凱還セシム。
二日、車駕荒井驛ヲ發シ、濱松驛ニ抵ル、井上正直ノ天龍川堤防修築ノ勞ヲ慰ス。
○大久保忠禮ノ支族忠良（岩丸○荻野山中藩主教義ノ子、）ニ命シテ、其先祀ヲ承カシム、尋テ大總督府、忠良ニ命シテ、箱根關門ヲ警守セシメ、安永弘行ノ小田原領及ヒ箱根關門監督ヲ罷メ、唐津藩兵ヲ撤ス。
○毛利高謙、瓦ヲ獻シテ豐國社造營ノ用ニ充テンコトヲ請フ、之ヲ聽ス、高謙又書ヲ上リ假管地ノ舊封ニ屬セシ事情ヲ陳シ、其他ヲ復還センコトヲ請フ、聽サス。
○保科正益（時ニ攝津ノ別邑ニアリ、）書ヲ上リ、東京入覲ヲ請フ、之ヲ聽ス。
○土岐頼知東京ニ至ル。○土岐頼知家記
○水戸ノ警報至ル、大總督府、安藝、備前二藩兵ヲ以テ應援ト爲シ、土浦、笠間二藩兵ヲ罷歸シテ封疆ヲ嚴守セシメ、又其參謀萬里小路通房ヲ遣シテ賊ヲ討ス、是日水戸、藩兵賊ヲ擊チテ

之ヲ走ス、賊下總ニ逃レ、高崎藩兵ニ降ルモノ百十人、既ニシテ藩兵追擊シテ、朝比奈泰尚ヲ殪ス、市川弘美等再ヒ逃ル。

卷百四十 下

三日、車駕濱松驛ヲ發シ、掛川驛ニ抵ル。

○假傳馬所ヲ京都ニ置キ、其使役ノ制限ヲ定ム。

○刑法官ヲ舊賀陽宮邸ニ移ス。

○東北遊擊軍將久我通久、莊內ニ抵ル。

○板倉勝敬、石川總管、東京ニ至ル。○板倉種、石川總管家記

○南部利剛既ニ降ヲ乞、其守境ノ兵猶官軍ニ抗ス、是日、奧羽鎭撫總督府、其老臣ヲ召シテ、之ヲ詰責ス。

○林忠崇、仙臺老臣ニ就キテ、平潟口總督ノ軍門ニ降ル、督府乃チ忠崇ニ謹愼ヲ命シ、仙臺老臣ヲシテ監守セシム。

四日、車駕掛川驛ヲ發シ、藤枝驛ニ抵ル。

○府藩縣ノ紙幣還納條規ヲ定ム。

○吉川經幹、疾ヲ以テ致仕センコトヲ請フ、尋テ之ヲ聽ス。

○大河內輝照ノ謹愼ヲ釋ス。

○水戶擾亂ヲ以テ、土屋擧直、松平賴繩、松平賴位、新莊直敬、前後書ヲ鎭將府ニ上リテ、入覲ノ進止ヲ候ス、批シテ鎭靖ヲ俟チテ入覲セシム、是日、土岐賴知モ亦書ヲ上リ、從兵ヲシテ王事ニ服セシメンコトヲ請フ。

○大久保教義、東京ニ至ル。○大久保教義家記

○東京府、部民ニ令シ、稟請ノ事ヲ以テ、他官吏ニ資緣囑託スルヲ嚴禁ス。

○車駕入京ノ日近キニ在ルヲ以テ、外國官副知事東久世通禧、各國公使ニ移書シテ、外國人ノ大磯、東京ノ間ヲ遊步スルヲ停ム。

卷四十一 明治元年戊辰十月五日ニ起リ七日ニ至ル

五日、車駕藤枝驛ヲ發シ、江尻驛ニ抵ル、是日、水戶ノ警報行在ニ至ル、乃チ長門藩兵ノ從衛ヲ罷メテ、亟ニ東京ニ赴カシメ、肥前藩兵ヲ以テ之ニ代フ、又太田資美朝旨ヲ遵奉シ、養老ノ典ヲ管內ニ行ヒ、且東幸供設ノ周到ナルヲ襃ス。

○土佐藩北征兵士ノ軍資ニ乏キヲ以テ、特ニ金五千兩ヲ賜フ。

○松浦脩、書ヲ上リテ疾ヲ謝シ、其子近豐太郎ヲシテ代覲セシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○建部政世、書ヲ上リ、歸藩シテ藩政ヲ釐革センコトヲ請フ。

○鎭將府、一橋茂榮、田安慶賴ニ命シテ、假ニ清水氏ノ臣隸各三百人

ヲ管セシム。
○柳河藩ニ命シテ、二本松及ヒ棚倉地方ヲ鎭撫セシム、尋テ之ヲ罷ム。
○高崎藩士ノ逃走セシ者、本藩ニ就キテ自首ス、本藩、大總督府ニ具申シテ裁ヲ乞フ、是日、批シテ、藩地ニ謹愼セシム。
○米倉昌言、久松勝行、戸田忠行、山口弘達、東京ニ至ル、中山信徴ノ老臣モ亦主ニ代リテ東京ニ至ル。○米倉昌言以下各家家記
○田村邦榮、平潟口總督ノ軍門ニ降ル、時ニ邦榮仙臺ニアリ、督府命シテ、本藩ニ謹愼セシム。
六日、車駕江尻驛ヲ發シ、吉原驛ニ抵ル。
○小川弘淵新助○土佐藩士、ヲ以テ參河縣判事ト爲ス。
○間部詮道ノ祖父詮勝前下總守、松堂ト號ス、時ニ東京ニ在リ、蹤跡疑フヘキヲ以テ、本藩ニ謹愼セシメ、吉田藩ニ令シテ、之ヲ護送ス、既ニシテ會津人山内某熊之助、ヲ詮勝邸内ニ捕ヘ、詮勝ノ近臣二人ニ謹愼ヲ命ス、詮道書ヲ上リ罪ヲ待ツ、批シテ問ハス。
○黒田直養、大岡忠貫、東京ニ至ル。○黒田直養大岡忠貫家記
○平潟口總督四條隆謌、仙臺城ニ入ル、明日、仙臺老臣ノ本城守衛ヲ罷ム。
○牧野忠訓、越後口總督ノ軍門ニ降ル。○忠訓時ニ米澤ニ在リ、

七日、車駕吉原驛ヲ發シ、三島驛ニ抵ル、是日、德川家達ノ管內供帳警備ノ周到ナルヲ褒シ、江川英武ノ大義ヲ辨シテ速ニ歸順シ、及ヒ松下重光加兵衞○下大夫、ノ戰勞ヲ賞シテ、二人ニ物ヲ賜フ、又英武ニ命シテ、其系譜ヲ上ラシム。
○府縣ニ令シテ、紙幣通行ヲ障礙スル者ヲ捜捕セシム、又諸藩ニ令シテ普ク紙幣ヲ管內ニ行ハシム。
○久留島通靖入覲セント欲シ、書ヲ上リテ旨ヲ候シ、且ツ藩兵ヲ出シテ事ニ服セシメンコトヲ請フ、批シテ、藩ニ在リテ勉勵シ、後命ヲ待チテ入覲セシメ、出兵ヲ聽サス。
○特旨ヲ以テ、阿部正恒ノ謹愼ヲ釋シ、其城邑ヲ復ス。
○車駕東幸ノ期迫ルヲ以テ、鎭將府、百官ヲ戒飭ス、明日、宮、公卿諸侯ニ令シテ、其臣隷ヲ戒飭セシム。
○森川俊方、東京ニ至ル。○森川俊方家記

卷四十二　明治元年戊辰十月八日ニ起リ九日ニ至ル

八日、車駕三島驛ヲ發シ、小田原驛ニ抵ル。
○松前隆廣、再ヒ書ヲ上リテ、歸藩及ヒ伏見口應援ノ兵ヲ罷ンコトヲ請フ、是日、應援ヲ罷メ、緩急ノ際、參朝シテ指揮ヲ俟タシメ、其歸藩ヲ聽サス。

○仙石政固書ヲ上リテ、藩城ヲ毀撤センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○鎮將府、鳥井忠寶ニ命シテ、舊弊ヲ洗除シ、人才ヲ擢用シ、以テ藩屏ノ職ヲ竭サシム、因リテ其弟忠文ニ假ヲ賜ヒ、歸邑シテ忠寶ヲ輔翼セシム。

○鎮將府、辨事、判事、史官ニ命シテ、出征諸藩戰功賞格ノ意見ヲ上ラシム。

○松平直克、井上正巳、東京ニ至ル。〔諸侯參覲錄、松平直方、井上正巳家記〕

九日、車駕小田原驛ヲ發シ、大磯驛ニ抵ル、是日、供奉隊兵ノ射的及ヒ漁獵ヲ覽ル。

○御諱惠、統、睦ニ字缺畫ノ制ヲ定ム。

○出征諸藩ニ令シ、小藩ノ其宗藩若クハ大藩ニ隷屬セシ者ハ、其功勞ヲ精覈シ隱沒ノ憾ナカラシム。

○小笠原長國書ヲ上リ、肥前上松浦郡、公邑ノ舊封ニ屬セシ事情ヲ陳シ、其他ヲ復還センコトヲ請フ、聽サス。

○小濱藩、別當、社僧復職延期ノ事ヲ稟シテ命ヲ請フ、批シテ禁令ヲ遵奉セシメ、延期ヲ聽サス。

○増山正修、藩城修築ノ舊例ヲ陳シテ命ヲ請フ、批シテ圖樣ヲ附シテ申稟セシム。

○本多忠貫、再ヒ歸藩ヲ請フ、聽サス。

○細川詔邦、京都ニ至リ、大河内輝照、東京ニ至ル。〔細川詔邦、大河内輝照家記〕

○鎮將府、管下諸侯ヲシテ襲封及ヒ敍任ノ年月日ヲ錄上セシム、又中下大夫、上士ヲシテ東京ニ入覲セシム。

○大總督府、上野、下野諸藩ニ令シ、藩兵ノ若松ニ在ル者ヲ罷歸シテ、其封疆ヲ警守セシメ、以テ殘賊ニ備フ。

○戸澤正實、佐竹義理、書ヲ鎮將府ニ上リ、藩兵出征ノ故ヲ以テ入覲スルコト能ハス、家臣東京ニ在ル者ヲシテ代ラシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス、德川慶篤モ亦疾病及藩内騷擾ヲ以テ之ヲ請フ。

○越後口總督府、上杉齊憲ニ命シテ、東京ニ至ラシム、尋テ大總督府、齊憲及ヒ其子茂憲ヲ召ス。

○南部利剛ノ子利恭及ヒ其支族南部信民、謝罪書ヲ奥羽鎮撫總督府ニ上リ、首謀臣楢山隆吉ヲ致シ、仙臺征討先鋒ヲ請フ、督府、利剛ノ反覆ヲ責メテ、復タ之ヲ卻ケ、且箱館戍兵ノ暴擧ヲ詰ル、明日、利恭再ヒ書ヲ上リ、軍資若干ヲ納レテ先鋒ニ代ヘ、父子城外ニ謹愼シテ朝裁ヲ待タンコトヲ請フ、督府乃チ之ヲ納レ、金七萬兩ヲ上リ、以テ後命ヲ俟タシム、既ニシテ、督府命シテ、利剛父子及ヒ楢山隆吉、江帾通高、佐々木政純〔直作〕ヲ東

京ニ押送シ、其獻金ヲ止ム。

卷百四十三　明治元年戊辰十月十日

○十日、車駕大磯驛ヲ發シ、藤澤驛ニ抵ル。

○神宮供御ノ制ヲ改定セントス、因リテ假ニ米一萬石ヲ度會府ニ付シ、一歳本年九月ヨリ來年九月ニ至ル、ノ資用ニ充ツ。

○府縣ニ令シテ、非常警衛ヲ除クノ外、私ニ諸藩兵ヲ指揮スルヲ禁ス。

○諸侯ノ多ク騶從ヲ率ユルヲ申禁シ、諸兵隊及ヒ衆庶ヲ戒メテ、敬禮ヲ貴者ニ失フコト勿ラシム。

○古金銀ヲ藏スル者ハ、之ヲ金銀兩局及ヒ商法會所ニ納レテ、通貨ニ兌換セシム。

○松平直克、黒田直養、大岡忠貫、保科正益、阿部正恒、水野忠順、遠藤胤城、酒井忠美、稻葉正善、井上正順ノ安房、上總、下總、上野ノ別邑ヲ收メ、他邑ヲ以テ之ニ易フ。

○越後口總督府、溝口直正、堀直弘、井伊直安、牧野忠泰、柳澤德忠、堀之美ニ命シテ、東京ニ至ラシム、又平潟口總督府、安藤信正、本多忠紀、內藤政養ニ命シ、東京ニ至リ謹愼シテ朝裁ヲ待タシム。

○官軍盛岡ニ入リ、城中ヲ撿シ兵器ヲ收ム、乃チ令ヲ傳ヘテ、秋田、弘前二藩兵ヲ撤シ、秋田藩ヲシテ盛岡ノ兵器ヲ管シ、其士民ヲ鎭セシム、是日、東北遊撃軍將久我通久、舊盛岡藩士目時政明隆之進、等ヲ南部利恭ニ付シ、命シテ厚ク任用セシム。

○是ヨリ先、奧羽鎭撫總督府、其參謀醍醐忠敬等ヲ弘前ヨリ召還ス、是日、忠敬秋田ニ至ル。

卷百四十四　明治元年戊辰十月十一日ニ起リ十二日ニ至ル

十一日、車駕藤澤驛ヲ發シ、神奈川驛ニ抵ル、是日、英、佛二國兵隊等、神奈川驛傍芝生村、ニ拜シ、各國艦船、祝砲ノ儀ヲ行フ。

○太田資美家臣ノ東京ニ在ル者、書ヲ鎭將府ニ上リ、資美京師ニ在ルヲ以テ、入覲ノ進止ヲ取ル、批シテ東京ニ入覲セシム。

○奧羽平定ニ就クヲ以テ、奧羽鎭撫總督府ニ令シテ、征討諸軍ヲ班ス、是日、總督九條道孝、副總督澤爲量等、横手ヲ發ス。

十二日、車駕神奈川驛ヲ發シ、品川驛ニ抵ル。

○織田信及書ヲ上リテ、山邊道上崇神天皇、倭山邊道上景行天皇、ノ二陵ヲ修補シ、及ヒ山邊道上陵ハ、雨後其修繕ノ事ヲ專任センコトヲ請フ、批シテ二陵修補ヲ聽シ、其專任ヲ聽サス。

○平潟口總督四條隆謌、命ヲ入道公現親王ニ傳ヘテ、東京ニ至

ラシメ、津藩兵之ヲ護ス、是日、仙臺ヲ發ス、是ヨリ先、賊奪フ所ノ東照宮神主、會津ヨリ仙臺ニ抵ル、親王、總督府ニ請ヒテ、日光山ニ奉遷ス、別當大樂院、神主ヲ奉シテ護兵ノ後ニ隨フ。

○是ヨリ先、鎭將府、越後口總督府ニ牒シテ、假ニ會津ノ民政及ヒ鎭撫等ノ事ヲ管理セシム、是日、鎭將府、會津降人ノ處分ヲ定メ、士族兵隊官吏ニ謹愼ヲ命シ、其事ニ與カル者ハ朝裁ヲ俟タシメ、其餘ハ悉ク放免ス、並ニ口俸ヲ給シ、婦女之ヲ准ス、其創者ハ、官軍病院ニ入ルヲ許ス、大總督府モ亦軍務官判事中根貞和（等次郎ノ高田藩士）ヲ遣シテ降人ヲ監シ、備前藩ヲシテ會津ヲ鎭セシム。

○平潟口總督府、相馬季胤ニ命シテ、東京ニ至リ復封ノ恩ヲ謝セシム、尋テ季胤金一萬兩ヲ獻シテ、軍費ニ充テンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○伊達慶邦ノ降ルヤ、榎本武揚等、仍ホ仙臺海口ニ在リ、平潟口總督府、仙臺老臣ニ命シテ、武揚ヲ招降セシム、從ハス、松平定敬、板倉勝靜、其子勝全、小笠原長行、及ヒ大鳥純彰以下諸敗兵會津ヨリ來リ、仙臺兵隊歸順ヲ背ンセサル者二百五十人ト、武揚等ノ艦ニ投ス、是日、武揚等、書ヲ總督府ニ上リ、船艦九隻ヲ率ヰテ、蝦夷地ニ走ル。

卷百四十五 上 明治元年戊辰十月十三日ニ起リ十四日ニ至ル

十三日、車駕東京ニ至ル、大總督熾仁親王、鎭將三條實美、東京府知事烏丸光德等、品川ニ奉迎シ、三等官以上及ヒ諸侯ハ、馬下門外ニ奉迎ス、是日、江戶城ヲ以テ東幸ノ皇居ト爲シ、改メテ東京城ト稱ス。

○勅シテ薩摩、安藝二藩兵ノ征討軍勞ヲ慰シ、酒肴ヲ賜フ、又使ヲ病院ニ遣シテ、兵士ノ創痍者ヲ慰問ス。

○東幸ノ沿道橋梁毀壞セシモノハ、府藩縣ニ令シテ、其修造方法及ヒ費用ヲ錄申セシム。

○凡ソ上申書ハ、其主旨ヲ摘錄シテ、封紙ニ貼付セシム。

○京都諸藩邸中、望火樓ノ警報ハ、板ヲ擊タシム。

○大關增勤、東京ニ至ル。（大關增勤家記）

○越後口總督嘉彰親王、戰死者ヲ新發田城ニ祭ル。

○越後口總督府、牧野忠訓ニ命シテ、東京ニ至リ謹愼シテ命ヲ待チ、忠訓ノ父忠恭（前備前守、雪堂ト號ス）、及ヒ臣隷ハ、藩地ニ謹愼シテ朝裁ヲ待タシム、尋テ至ル、忠訓ヲ笠間藩邸ニ幽ス。

○白川口總督府、丹羽長國、阿部正靜及ヒ其高祖父正備ニ命シテ、東京ニ至リ謹愼シテ命ヲ待タシメ、大村、佐土原二藩兵之

ヲ監送ス。

十四日、三等官以上ヲ御前ニ召シ、酒饌ヲ賜ヒ、恩賜差アリ、諸侯及ヒ四等官以下諸兵隊ハ、明日ヨリ十六日ニ至ル、又東京府民ニ酒ヲ賜フ。

○酒井忠篤、新發田ニ至リ、書ヲ總督府ニ上リテ、謝罪ノ効績ヲ奏センコトヲ請フ、是日、督府命シテ、東京ニ至リ謹愼シテ命ヲ待タシメ、其支族酒井忠良モ亦之ノ如シ、尋テ至ル、忠篤ヲ小濱藩邸ニ幽ス。

卷百四十五　下

○平潟口總督府、命ヲ傳ヘテ、林忠崇及ヒ徳川舊臣等降伏謝罪者四百餘人ノ死一等ヲ減シ、東京ニ押送シ、歩卒七百餘人ハ放免ス、又覺王院義觀、龍王院堯忍ヲ東京ニ押送ス、尋テ皆至ル、忠崇ヲ唐津藩ニ幽シ、其餘ハ各藩ニ付シテ謹愼セシム。

卷百四十六　上

明治元年戊辰十月十五日ニ起リ十九日ニ至ル

十五日、奥羽越平定ニ就クヲ以テ、越後口總督府、諸軍ヲ慰勞シ、令シテ其兵ヲ班ス、參謀西園寺公望等ヲ留メテ、警備兵ヲ督セシム、是日、總督嘉彰親王、新發田ヲ發ス。

十六日、出征諸藩ニ令シ、藩兵撤還ヲ命セシ者、兵隊ハ直ニ歸藩シ、其總括若クハ隊長ヲシテ東京ニ至ラシム、尋テ更令シテ、一ニ諸道總督ノ命令ニ從ハシム。

○東北遊撃軍將府、織田信敏ニ命シテ、東京ニ至リ謹愼シテ命ヲ待タシム。

十七日、天皇始テ朝堂ニ臨ミ、萬機ヲ親裁ス、乃チ百官ニ詔シテ、輔導啓沃、直言シテ忌憚スルコト勿ラシム、又詔シテ、祭政惟一ノ大典ニ基キ、氷川神社武藏大宮驛ニアリ、ヲ以テ武藏鎭守勅祭社ト爲ス。

○復タ外國官副知事東久世通禧ヲ以テ議定ト爲シ、佐渡縣知事井上馨ヲ罷ム。長崎府判事ニ復ス。

○内藤頼直ノ請ヲ聽シ、歸藩シテ家政ヲ更革シ、兵備ヲ嚴整セシメ、其大原口應援ヲ罷ム。

○水野忠幹書ヲ上リ、石高貸與ノ紙幣ヲ以テ、大和大臺ケ原ヲ墾闢センコトヲ請フ。

○兵庫縣知事伊藤博文、兵制更革及ヒ凱旋兵士統馭ノ議ヲ上ル。

十八日、鎭將府ヲ廢ス、三條實美輔相故ノ如シ、明日、舊鎭將府附屬ノ輩及ヒ各學校ヲ行政官ニ、病院ヲ東京府ニ屬シ、駿河以

東十三國ノ社寺ヲ府藩縣ニ分屬ス、又五官出張所ヲ設ク。
○入道公現親王ヲ伏見宮ニ幽ス。
○大總督府、參謀伊地知正治ノ戰勞ヲ慰シ、其參謀ヲ罷ム。
日蓮宗ノ三十番神ノ稱ヲ廢ス。

卷百四十六　下

○中山信徵書ヲ上リ、管内石炭採堀及ヒ販賣ノ事ヲ申請ス、之ヲ聽ス。
○白川口總督府、令シテ、征討諸軍ヲ班シ、三春、守山、福島三藩ヲシテ其封内ヲ警守セシム、是日、總督正親町公董、福島ヲ發ス。
十九日、小御所講筵ノ日（毎月三次）ヲ定メ、在京諸侯ノ陪聽ヲ許ス。
○外國官知事兼議定心得伊達宗城ヲ以テ議定ト爲シ、外國官知事ヲ兼シメ、刑法官副知事池田章政、軍務官副知事長岡護美ノ議定心得ヲ罷メ、章政、護美及ヒ議定蜂須賀茂韶、東久世通禧、參與大久保利通等ヲシテ東京ニ駐在セシム。
○久松勝行、疾病ヲ以テ歸藩療養センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。
○白川口總督府、長門、肥前、大垣三藩兵ニ命シテ、松平容保父子及ヒ其老臣内藤某（介右衛門）等四人、舊幕臣及ヒ諸藩降兵四百六十人ヲ東京ニ監送セシム、尋テ至ル、乃チ容保ヲ因幡藩ニ、喜德及ヒ内藤某ヲ筑後藩ニ幽ス、降兵ハ、各藩ニ交付シテ謹愼セシム。
○是ヨリ先、堀直賀ノ義叔父直弘及ヒ其臣隷書ヲ上リ、直賀奸臣ニ詿誤セラレシ情狀ヲ申シテ哀ヲ乞フ、是日、越後口總督府、直賀ヲ直弘ニ付シテ謹愼セシム。
○東北遊擊軍將府、松平信庸ニ命シ、東京ニ至リ謹愼シテ命ヲ待タシム。
○南部利剛、其家臣ヲ遣シ、書ヲ箱館府知事清水谷公考ニ上リテ、前日戍兵暴擧ノ罪ヲ謝ス、利剛支族南部信民モ亦書ヲ上リテ之ヲ謝ス。

卷百四十七　明治元年戊辰十月二十日

二十日、東幸綏撫ノ意ヲ諭告シ、養老旌賞賑恤ノ典ヲ全國ニ擧行セシム。
○安藤信正、本多忠紀、内藤政養、東京ニ至ル、乃チ信正ヲ藩邸ニ、忠紀ヲ岡崎藩邸ニ、政養ヲ延岡藩邸ニ幽ス、安藤信勇書ヲ上リ、信正ノ爲ニ哀ヲ乞フ。
○人吉藩、東征應援ノ爲メ其兵ヲ發ス、大坂ニ至リテ賊徒平定

スト聞キ、書ヲ上リテ旨ヲ候ス、慰諭シテ罷歸ス。
○黑田長溥、京都ニ至リ、松平賴策、東京ニ至ル。
○内藤信思、書ヲ越後口總督府ニ上リ、功ヲ立テ罪ヲ償ハンコトヲ請フ、（信思仍ホ岩村田ニ在リ）、是日、督府、信思ニ命シ、東京ニ至リ謹愼シテ命ヲ待タシム、又其老臣脇田某（藏人）以下十六人ヲ禁錮ス。
○榎本武揚等、蝦夷鷲木村（箱館ノ北十三里許）ニ入ル、箱館府知事淸水谷公考、（府廳ハ五稜郭ニ在リ）府兵及ヒ弘前、松前、福山（備後）、大野四藩兵ニ令シテ之ヲ擊タシメ、又各藩兵ヲシテ箱館港等ヲ守ラシム、既ニシテ官軍賊ヲ峠下、七重、大野等ニ擊ツ、利アラス、賊進ミテ五稜郭ニ迫ル。

卷百四十八 上

（明治元年戊辰十月二十一日ニ起リ二十五日ニ至ル）

二十一日、是ヨリ先、盛岡新ニ降リ、榎本武揚ノ徒、未タ捕ニ就カス、奥羽鎭撫總督府、秋田、弘前二藩ニ令シ、盛岡警急アレハ亟ニ應援シ、私怨ヲ挾ムコト勿ラシム、是ニ至リ、二藩ニ申令シテ、嚴ニ封内海岸ヲ警守シ、賊艦ニ備ヘシメ、又南部老臣ニ命シ、賊ヲ討チテ謝罪ノ實効ヲ奏セシム。

二十二日、東海、東山、北陸三道ノ諸藩ニ令シテ、官軍ニ供億セシ金穀ノ數ヲ錄上セシム、尋テ大夫士以下モ亦之ニ準ス。

二十三日、東征大總督熾仁親王上表シテ、賊徒平定ヲ奏シ、其任ヲ解カンコトヲ請フ。
○東北平定ニ就クヲ以テ、親王三職及ヒ在京諸侯ヲ召シテ、酒饌ヲ賜フ。
○私ニ錢價ヲ高低スルヲ禁ス。
○諸侯ニ申令シテ、襲封叙任及ヒ年齡等ヲ錄上セシム。
○入道准后鷹司政通（輔熙ノ父）薨ス、（十六日ニアリ）是日、其積勞ヲ追賞シテ金五百兩ヲ賜フ。
○大河内正質ノ官位ヲ復ス。
○越後ノ府藩縣ニ令シテ、留戍官軍及ヒ病院療養者ニ金穀ヲ供億セシム。
○津和野藩、其兵ヲ發シテ奥羽征討ノ軍ニ從ハシメントス、大坂ニ至リ、賊徒定平スト聞キ、書ヲ上リテ其事ヲ申ス、是日、慰諭シテ罷歸ス。
○久世廣文ノ老臣、再ヒ書ヲ上リテ、廣文ヲ寛宥センコトヲ請ヒ、又廣文ノ弟二人ヲシテ朝覲セシメンコトヲ請フ、之ヲ却ク。
○保科正益、東京ニ至ル。（飯野藩記）
○平潟口總督府、伊達慶邦父子ニ命シテ、東京ニ至リ謹愼シテ

朝裁ヲ待タシメ、筑後藩兵之ヲ監送ス、白川口總督府モ亦、板倉勝尙ニ命シテ、東京ニ至リ謹愼シテ命ヲ待タシム。

二十四日、軍務官判事大村永敏ヲ以テ、軍務官副知事ト爲ス。

○軍務官ニ命シテ、海陸軍制ヲ確定セシム、尋テ海軍局ヲ東京築地ニ置ク。

○參與副島種臣ニ命シテ、東京ニ赴カシム。

○水野忠弘、再ヒ書ヲ上リテ、窮困ノ情狀ヲ陳シ、賑濟ヲ請フ、是日、米二千苞ヲ賜フ。

二十五日、講筵ヲ小御所ニ開ク、在京諸侯之ニ陪ス。

○勅シテ、薩摩、長門以下十八藩及ヒ十津川兵隊ノ征討軍勞ヲ慰ス。

○切支丹宗徒ノ撿査、姑ク舊制ニ從ハシム。

○大總督府ノ會計事務ヲ會計官ニ屬ス、又病院（東京府所管）ヲ軍務官ニ屬ス。

○箱館ノ官軍、連戰利アラス、是日、知事淸水谷公考、諸藩兵ヲ率ヰテ靑森ニ走ル、賊五稜郭及ヒ箱館ニ分據ス、既ニシテ賊海陸兵ヲ發シテ、福山城ヲ攻ム、時ニ城主松前德廣、館ノ新砦（江差ノ西北五里許）ニアリ、留守老臣蠣崎某（民部）、城兵ヲ督シテ防戰ス、克タス、城陷ル、賊進ミテ新砦及ヒ江差ニ迫ル、德廣、家臣七十餘人ヲ率ヰテ津輕ニ走ル、箱館地方、悉ク賊ニ陷ル。

卷百四十八　下

卷百四十九　上　明治元年戊辰十月二十六日ニ起リ二十七日ニ至ル

二十六日、細川韶邦ヲ東京ニ召ス。

○丹羽長國、東京ニ至ル、之ヲ前橋藩邸ニ幽ス。

○長門藩鐵艦交收ノ事、阻格シテ未タ果サス、廷議亟ニ之ヲ得テ以テ脫艦追討ノ用ニ充テントス、是日、外國官知事伊達宗城、書ヲ各國公使ニ致シ、奧羽越平定ヲ報シ、更ニ米國公使ニ說キ、鐵艦ヲ交付セシム、公使肯セス、既ニシテ宗城、各國公使ニ牒シ、局外中立ヲ止メシム、亦報セス、輔相岩倉具視、橫濱ニ抵リ、各國公使ニ面諭シテ之ヲ促シ、又書ヲ致シ、其意ヲ申ス、公使乃チ其國民ニ中立解停ヲ布告シ、以テ之ヲ報ス。（中立解停ハ十二月二十八日、軍艦交收ハ明年正月ニアリ。）

二十七日、車駕氷川神社ニ詣セントス、是日、東京ヲ發シ、浦和驛ニ抵ル、養老旌賞及ヒ賑恤ヲ沿路各驛ニ行フ。

卷百四十九　下

○開成所ヲ復興シ、一等譯官箕作麟祥（貞一郎〇補遺下上）ニ學校取調御用

掛ヲ命ス、尋テ議定山內豐信ヲ以テ知學事ヲ兼シメ、內田正雄（恒次郎○舊旗下士、）ヲ開成所頭取ト爲ス。

○竹腰正舊ヲシテ其領地一萬石ヲ徳川徳成ニ還付セシム、成瀬正肥ハ、徳成ノ請ヲ以テ、姑ク其舊ニ仍ル。

○中下大夫、上士ヲシテ東京ニ居住セシム。

○出征諸藩ニ令シテ、征戰顛末ヲ錄上セシム。

○東京府下盜多キヲ以テ、東京府ニ令シ、軍務官ト協議シテ、嚴ニ之ヲ緝捕セシム、又舊旗下士及ヒ浮浪徒ヲ處置セシム。

○徳川徳成、徳川茂承、其老臣ノ官位ヲ辭ス、之ヲ聽ス。

○毛利元敏、歸藩シテ家政ヲ整理シ、邑民ヲ撫育センコトヲ請フ、毛利慶親、副書シテ申請ス、是日、之ヲ聽シ、事ヲ畢ヘテ亟ニ入覲セシム。

○山內豐範、木材ヲ獻シテ、楠社及ヒ豐國社造營ノ用ニ充テンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○因幡藩、管內發行ノ銀札ヲ改メテ錢札ト爲サンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○箱館ノ警報東京ニ達ス、乃チ津、備前、筑後三藩兵ヲ箱館ニ、長門及ヒ津藩兵ノ仙臺ニ在ルモノヲ青森、秋田ニ發遣シ、秋田、八戶二藩ヲシテ糧餉ヲ辦給セシム、又徳川家達ニ命シテ、賊ヲ討セシメ、海軍參謀山田顯義（市之允○長門藩士、時ニ青森ニアリ、）ヲ青森口陸軍參謀ト爲シ、青森駐在ノ軍ヲ督セシム、尋テ箱館府知事淸水谷公考ヲ以テ青森口總督ト爲ス。（知事故ノ如シ、）

○中山信徵、東京ニ至ル。（諸侯參謁）

○去歲七月、筑前藩士金子某（才吉、）狂シテ英國軍艦水夫二人ヲ長崎ニ殺シテ自盡ス、藩老野村某（東馬、）匿シテ聞セス、是ニ至リ、村澤某（右八郎、）以下七人、（並ニ筑前藩士、）長崎府ニ自首ス、既ニシテ藩主黑田長溥ヲ譴メテ、差扣ヲ命シ、被殺人ノ妻子養育資ヲ出サシメ、藩士池內某（清太郎、）及ヒ村澤某等七人ヲ禁錮ス、其餘懲罰差アリ。（野村某ハ曩ニ他罪ヲ以テ死ニ處ス。）

○秋田藩汽船高尾號、將ニ兵庫ニ航セントシ箱館港ニ至ル、賊之ヲ奪ヒ、船長等ヲ幽ス、賊又書ヲ奧羽越列藩ニ遣リテ、救援ヲ乞フ。

卷百五十　上　明治元年戊辰十月二十八日

二十八日、天皇、氷川神社ニ詣ス。（明日還京。）

○東征大總督熾仁親王ノ請ヲ聽シテ、其任ヲ解ク、親王乃チ錦旗節刀ヲ奉還ス、手詔シテ、其成功ヲ賞ス、會津征討越後口總督嘉彰親王凱旋ス、熾仁親王ノ例ノ如シ、又奧羽鎭撫總督九條

道孝、副總督澤爲量、東北遊擊軍將久我通久、白川口總督正親町公董、平潟口總督四條隆謌、及ヒ大總督府參謀穗波經度、萬里小路通房、西鄕隆盛、軍務官判事大村永敏、越後督府參謀壬生基修、吉井德春等、賞慰差アリ。

〇藩治職制ヲ定メ、各藩ヲシテ執政、參政、公議人及ヒ家知事ヲ置キ、議事ノ方法ヲ設ケシム。

卷百五十 下

〇治河使ヲ置キ、會計官權判事岡本義方（後二郎、土佐藩士）ヲ以テ之ヲ兼シメ、議定兼會計官、知事中御門經之、參與兼大坂府知事後藤元燁ニ治河掛ヲ命ス、尋テ經之ニ命シテ、其事務ヲ統管セシム、又水利ノ要ヲ布告ス。

〇甲斐府ヲ置キ、滋野井公壽ヲ以テ知事ト爲シ、甲斐鎭撫使柳原前光ヲ罷メ、府中、市川、石和ノ三縣ヲ廢ス、又新潟府知事四條隆平ヲ罷メ、越後總督府參謀西園寺公望ヲ以テ知事ト爲ス。

〇徵士三等官以上ハ、位階有無ヲ問ハス、拜任前後ヲ以テ其班ヲ序ス。

〇是ヨリ先、開成所ノ理化學講場ヲ大坂ニ移ス、（七月ニアリ、）是ニ至リ、舍密局ヲ置キ、平田某（[illegible]藩士、）ニ御用掛ヲ命ス。

〇軍資金貢獻ニ、宗家支族合一シテ、之ヲ納ムルヲ停ム。

〇公議人ヲシテ、奥羽越降人處分ノ意見ヲ上ラシム。

〇諸藩ニ申令シテ、在京兵員ヲ錄上セシム。

〇阿部正靜及ヒ其高祖父正備、東京ニ至ル、之ヲ福山藩邸ニ幽ス。

〇越後口總督府、岩城隆邦ニ命シテ、東京ニ至リ謹愼セシム。

附錄 上

奥羽越諸藩罰典

明治元年十二月七日、詔シテ、奥羽越諸藩主ノ罪ヲ斷シ、松平容保、其子喜德、及ヒ林忠崇ノ死一等ヲ減シ、並ニ永預ニ處シ、伊達慶邦、南部利剛、酒井忠篤、丹羽長國、阿部正靜、牧野忠訓ノ封土ヲ沒シ、並ニ謹愼ヲ命シ、上杉齊憲ノ封土四萬ヲ削リ、退老ヲ命シ、其子茂憲ヲシテ家ヲ承カシメ、久世廣文ノ封土五千石、松平信庸、田村邦榮各二千石、酒井忠良二千五百石、板倉勝尙、本多忠紀、織田信敏、岩城隆邦各二千石、內藤政養、水野勝知、南部信民各千石ヲ削リ、勝尙ノ封ヲ移シ、並ニ退老ヲ命シテ、繼嗣ヲ奏請セシメ、安藤信男ノ封ヲ移シテ、謹愼ヲ命シ、其祖父信正ヲ永蟄居ニ處シ、堀直賀ニ退老ヲ命シ、其義叔父直

弘ヲシテ封ヲ襲カシメ、伊達宗敦、內藤信思、水野忠弘、忠弘ノ
父忠精ニ謹愼ヲ命シ、信思ヲシテ繼嗣ヲ奏請セシム、更ニ特恩
ヲ以テ、慶邦、利剛、忠篤、長國、正靜、忠訓ノ家ヲ存錄シ、繼嗣
ヲ奏請セシメ、慶邦ノ子宗基（龜三郎、）ニ二十八萬石、利剛ノ子利恭
ニ十三萬石、忠篤ノ弟忠寶（德之助、）ニ十二萬石、長國ノ養子長裕（賴丸、）
ニ五萬石、正靜ノ叔父正功（基之介、）ニ六萬石、忠訓ノ弟忠毅（銳橘、）ニ二
萬四千石ヲ賜ヒ、並ニ其先祀ヲ承カシメ、廣文ノ弟廣業（順吉、）信
庸ノ弟信安（豐熊、）邦榮ノ養子崇顯（鎮丸、）忠良ノ子忠匡（信三郎、）勝尙ノ養
子勝達（敎之助、）忠紀ノ養子忠仲（兵庫助、）信敏ノ弟壽重丸、隆邦ノ養子
隆彰（龜五郎、）政養ノ養子政憲（英之助、）勝知ノ養子勝寬、信民ノ養子信
方（雄磨、）信思ノ養子信美（三郎、）ヲシテ其家ヲ繼カシム、又諸藩首謀
臣ノ罪ヲ斷シ、會津老臣萱野長修（權兵衞、）仙臺老臣但木成行（土佐、）坂
時秀（英力、）盛岡老臣楢山隆吉（佐渡、）山形老臣水野元宣（三郎右衞門、）村上老
臣鳥居某（三十郎、）關宿老臣小島某（新兵衞、）村松老臣堀某（右衞門三郎、）齋藤某、
（久七、）結城老臣水野某（又兵衞、）茂野某（喜內、）ヲ斬ニ處シ、其既ニ死スル者
ハ、斬ニ擬シテ其後ヲ絕チ、（會津田中土佐、神保內藏助、米澤色部長門、莊內石原倉右衞門、棚倉阿部內膳、二本松丹羽一學、丹羽新十郞、長岡河井繼之助、山本帶刀、結城水野甚四郞ノ十人、）其從三人（會津手代木直右衞門、秋月悌次郞、二本松丹羽丹波、）ヲ永預ニ處ス。

伏水口戰記

第一（自明治元年正月三日 至同 四日）

明治元年、戊辰正月三日、内大臣徳川慶喜、大坂城ニ據リ、表ヲ草シテ、薩摩藩ノ罪ヲ聲シ、兵ヲ發シテ、北上セシメ、將ニ繼キ進ントス、又諸藩ニ移檄シ兵ヲ徴ス、是日、慶喜ノ入京ヲ停メ、徳川慶勝、（大納言、尾張藩主徳成ノ父、）松平慶永（大藏大輔、越前藩主茂昭ノ父、）ニ命シテ、坂兵ヲ退歸セシム。

○薩、長、土三藩ニ命シテ、伏見ノ守備ヲ嚴ニシ、安藝藩兵ヲシテ之ニ赴カシム。

○竹中重固、（丹後守、歩兵奉行、）阪兵ヲ率テ伏見ニ至リ、書ヲ薩摩藩營ニ致シ、將ニ京ニ入ラントス、薩藩答書シテ、朝命ヲ俟シム、既ニシテ、鳥羽ノ戰起ル、坂兵之ヲ聞テ齊シク進ム、宮軍邀戰ヒ、晡ヨリ曉ニ至ル、遂ニ大ニ之ヲ破ル。

○瀧川具知、（播磨守、大目付、）慶喜ノ表ヲ齎シ、別軍ト倶ニ鳥羽ニ至ル、薩摩藩守兵、朝命ナキヲ以テ、入ルヲ許サス、少頃アリテ、大擧來迫ル、邀擊テ大ニ之ヲ破リ、其營ヲ焚ク、夜半復來ル、之ヲ擊卻ク。

○是夜、議定嘉彰親王（仁和寺宮、）ヲ以テ、軍事總裁ト爲シ、議定伊達宗城、（伊豫守、宇和島藩主宗徳ノ父、）參與東久世通禧（少將、）烏丸光徳（侍從、）ニ參謀ト爲ス。

○毛利敬親、（大膳大夫、長門藩主、）鷲尾隆聚（侍從、時ニ高野山ニ屯ス、）ニ命シテ、大坂城ヲ伐タシメ、隆聚ニ錦旗ヲ賜ヒ、因幡藩兵及ヒ支藩兵ニ伏水ニ赴カシメ、徳川茂承、（中納言、紀伊藩主、）ヲシテ宮軍ヲ糾合セシム、又因幡、備前二藩ヲシテ征討兵ヲ備ヘ、且備前藩ニ西宮ヲ戍守シ、稻田邦植（九郎兵衛、阿波藩老臣、）ニ應援ヲ爲サシム。

○參與橋本實梁、（少將、實麗ノ子、）參與助役柳原前光（侍從、光愛ノ子、）ヲシテ大津口ノ兵ヲ督シ、參與西園寺公望（中將、）ニ丹波口ノ兵ヲ督セシム、（西園寺公望家記）又井伊直憲（掃部頭、彦根藩主、）ヲシテ兵ヲ率ヰテ大津ニ赴カシム。（井伊直憲家記）

○是夜、慶喜兵ヲ發シテ、大坂ノ薩摩藩邸ヲ攻ム、薩人邸ヲ焚テ遁ル。

四日、軍事總裁嘉彰親王ヲ拜シテ、征討大將軍ト爲シ、錦旗節刀ヲ賜ヒ、參與四條隆謌、（前侍從、）參與助役五條爲榮（少納言、）ヲ以テ、錦

旗奉行ト爲シ、薩、長、藝三藩兵ヲシテ之ニ從ハシム、是日、大將軍出テ東寺ニ次ス、大將軍、矢守平好對馬守○仁和寺宮諸大夫、中沼之舜了三、○學習院儒官、高崎正風左京○薩摩藩士、ヲ以テ、下參謀ト爲ス、乃チ令ヲ下シテ、諸軍ヲ警戒ス。

○伏見口官軍、賊ヲ京橋、中書島ニ擊テ、之ヲ走ラス。

○早旦、賊兵鳥羽口ニ來逼ル、官軍、左右翼ヲ縱テ之ヲ破ル、賊退テ砲墩ニ據守ス、官軍薄戰、殺傷相當ル、大將軍牙ヲ東寺ニ建テ、後軍來リ會ス、遂ニ環攻シテ、其數墩ヲ拔ク、夜ニ及テ軍ヲ收ム。

第二 自明治元年正月五日 至同九日

正月五日、賊兵、淀、鳥羽ノ二路ヲ扼ス、味爽、伏水ノ官軍先發シ淀堤ニ向フ、賊伏ヲ設テ逆戰フ、其勢甚鋭シ、官軍力戰遂ニ之ヲ破ル、賊淀城ヲ望テ潰走ス。

○黎明、鳥羽口ノ官軍、亦進ンテ賊巢ヲ衝ントス、賊兵、各所ニ分拒ス、官軍奮擊、悉ク之ヲ敗リ、勢ニ乘シテ鼓行ス、時ニ淀堤ノ賊モ亦走ル、兩軍相合シ、淀ノ北岸ニ臨ミ、巨礮ヲ發シテ、市街ヲ焚ク、賊城ニ據ラント欲ス、城兵拒テ納レス、賊狼狽城南大橋ヲ火キテ、八幡ニ走ル。

○大將軍、牙ヲ淀ノ北岸ニ進ム、賊已ニ退走ス、乃チ東寺ニ回ル。

○是夜、薩、長二藩兵ノ戰功ヲ賞ス、又四條隆平大夫、ヲ山崎ニ遣シ、守關ノ津藩兵ニ命シテ、官軍ニ應セシム。

六日、櫻井忠興遠江守○尼崎藩主、永井直諒日向守○高槻藩主、ニ命シテ、城守ヲ嚴ニセシム、又長、備二藩兵ヲ召スヲ以テ、忠興ニ命シテ、其封内經過及ヒ運糧等ノ便ヲ與ヘシム。

○早旦、官軍八幡ヲ拔キ、進テ橋本ヲ攻ム、津藩ノ山崎守兵之ニ應シ、河ヲ夾テ、賊ヲ橫擊ス、賊驚潰遠ク遁ル、官軍追テ葛葉ニ至ル、是日、征討府、其下參謀高崎正風ヲ罷メ、大山綱良格之助○薩摩藩士、ヲ以テ之ニ代フ。○東伏見宮家記 大山綱良履歷書

○是夜、德川慶喜、瀛船ニ駕シ、大坂城ヲ去ル、松平容保肥後守○會津藩主、松平定敬越中守○桑名藩主、板倉勝靜伊賀守○備中松山藩主、酒井忠惇雅樂頭○姬路藩主、等、之ニ從フ、慶喜去ルニ臨テ、奏狀及ヒ坂城ヲ尾、越二藩ニ托ス、又東歸ノ故ヲ諸藩ニ布告シ、明日、諸藩兵ヲ罷歸ス。

七日、德川慶喜ノ罪ヲ聲シ、征討ノ號令ヲ頒布シ、諸侯ヲシテ去就ヲ決セシム。

○因幡藩及ヒ支藩兵ノ伏見守衛ヲ罷テ、八幡、橋本ヲ警守シ、勝山越前、藩兵ヲシテ闇嶺大和、河内ノ境ニアリ、ヲ警守シ、永井直諒ノ請ヲ許

シテ、洞嵜(河内)ノ守衛ヲ撤シテ、本城ヲ嚴守セシム。
○鷲尾隆聚ニ内諭シ、姑ク坂城攻撃ヲ止メ、先大和ヲ鎮撫セシム、隆聚、既ニ五條(大和)代官所ヲ收メ、(六日ニ在リ、)是日、紀伊、河内、和泉ノ諸藩ニ檄シテ、王事ニ勤メシム。
○大將軍、進テ淀城ニ入ル。
八日、高松、小濱、松山、大垣、鳥羽、宮津、延岡七藩ノ兵、賊ニ與スルヲ以テ、其人士ノ九門ニ出入スルヲ禁ス。
○大將軍、八幡ニ至リ、(東伏見宮家記、)勅旨ヲ薩、藝、長、因、津五藩及ヒ池田德澄、(備前ノ國老、藩支封主、)池田德定ノ兵ニ傳ヘテ、之ヲ犒勞ス、又伊達宗城ノ請ヲ許シ、其軍事參謀ヲ罷ム。
九日、征討大將軍嘉彰親王ヲ以テ外國事務總裁ヲ兼ネ、牙營ヲ坂城ニ置テ、四方ヲ指揮セシメ、德川慶勝、松平慶永ヲシテ坂城ヲ點檢シ、大將軍ヲ迎ヘシム、是日、大將軍、淀城ヲ發シテ、牧方ニ至ル。
○東本願寺光勝ニ命シ、伏見、八幡、橋本ノ兵禍ニ罹リシ者ニ賑救ス。
○早旦、官軍先鋒、(長門藩兵、)大坂城ニ入ル、會々城中火起リ、焚燒翌日ニ至ル。
○鷲尾隆聚、嚮ニ使ヲ紀伊藩ニ遣ハスヤ、藩兵橋本ヲ守ルモノ、之ヲ拘ス、是ニ於テ、隆聚、書ヲ移シテ、其無禮ヲ責メ、且其向背ヲ問フ、是日、隆聚ノ兵、賊ヲ紀伊見峠ニ撃テ、之ヲ走ラス。
○薩、長二藩兵、出テ尾道(備後)ニ屯ス、伏水ノ報ヲ聞クニ及テ、海陸並進ミ、福山城(阿部正方治所、)ニ向フ、長藩兵先ツ至リ、書ヲ致シテ、其向背ヲ問ヒ、且之ヲ圍ム、阿部正方ノ老臣、連署貳ナキヲ證ス、乃チ圍ヲ解ク、薩藩兵踵テ鞆港(備後)ニ至ル、往復長藩ノ如シ、亦軍ヲ收ム。

第三 自明治元年正月十日 至同 二十日

正月十日、因幡藩及ヒ支藩兵ノ橋本警守ヲ罷メ、(池田慶知、池田德定家記、)肥後藩兵ヲ以テ之ニ代フ。
○大將軍、大坂ニ至ル、本願寺支院ヲ以テ牙營ト爲ス。
○征討府、郡山藩兵ニ令シテ、大坂港口ヲ守ラシム、又松平忠誠(下總守、忍藩主、)○本莊宗武(彈正忠、宮津藩主、)ヲ召ス、忠誠遂ニ至ラス。
○備前藩兵、櫻井忠興ノ向背ヲ問フ、忠興ノ老臣、奉命貳ナキノ證書ヲ致ス。
○鷲尾隆聚、兵ヲ率ヒ、五條ニ至ル、郡山藩、使ヲ遣シ、戮力勤王セントヲ乞フ、令シテ、兵ヲ出サシム。

十一日、藝、備、土三藩ニ命シテ、福山（備後○阿部正方ノ治所）、松山（備中○板倉勝靜ノ治所）、高松（讃岐○松平頼聰ノ治所）、松山（伊豫○久松定昭ノ治所）ヲ討シ、且備中、備後、讃岐、伊豫ノ舊幕府ノ領地ヲ收ム、因テ各菊章旗ヲ賜フ、征討府モ亦薩、藝、長、因、土、津六藩ニ令シテ、高松、松山（伊豫）、大垣（美濃○戸田氏共ノ治所）、姫路（播磨○酒井忠惇ノ治所）ヲ討ス、又薩、長二藩兵ヲシテ兵庫ヲ警守セシム。

○肥後藩兵ノ橋本警守ヲ罷メ、加賀藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、高取藩兵ノ京都巡邏ヲ罷メ、十津川郷兵ト倶ニ大和ノ殘賊ヲ剿セシム。

十二日、詔シテ、島津茂久（修理大夫○薩摩藩主）、毛利敬親（大膳大夫○長門藩主）等二十八人、復古征討ノ勳勞ヲ賞ス、各差アリ。

○徳川茂承、本月三日ノ命ヲ領スルヲ稟シ、且大坂ノ敗兵和歌山ニ至ルノ狀ヲ陳ス。

○征討府、備前、龍野、阿波、丸龜、宇和島五藩、及稻田邦植ニ令シ、高松、姫路、松山（伊豫）征討ノ軍ニ應援セシム、又薩、藝、長三藩兵ヲシテ大坂市中ヲ巡警セシム。

十三日、伊達宗城、藩兵ヲ以テ松山（伊豫）ヲ討セント請フ。

○征討府、錦旗奉行四條隆謌ヲ以テ軍事參謀兼中國、四國征討總督ト爲シ、錦旗奉行五條爲榮ヲ監軍ト爲シ、參與壬生基修（前修理權大夫）ヲシテ代テ錦旗奉行ヲ兼ネシメ、平松時厚（甲斐權介）ヲ軍事參謀加勢ト爲シ、下參謀大山綱良ヲシテ隆謌ニ從行セシム、是日、明石藩城ヲ以テ總督ノ牙營トシ、沼田藩士ヲシテ供億ノ事ヲ掌ラシム。

十四日、安藝、長門、備前三藩ニ命シ、山陽道諸藩ノ向背ヲ問ヒ、且舊幕府ノ領地ヲ檢シ、今年租稅ノ半ヲ蠲カシム。

○備前藩兵、備中松山城ヲ徇ヘテ、之ヲ下ス。

○鷲尾隆聚、大坂ニ至リ、征討府ニ謁ス、明日軍ヲ京師ニ旋ス。

十五日、宇和島藩ニ命シ、土佐藩、松山（伊豫）征伐ノ兵ニ應援セシム。

○征討大將軍、堺浦ヲ巡視シ、夜ニ及テ還ル。

十六日、征討府、其參謀烏丸光徳ヲ遣リテ、大和ヲ鎭撫セシム、又津藩兵ノ中國追討ヲ罷ム。

○總督府、諸藩兵ニ令シ、十八日ヲ以テ明石城ニ會セシム。

○備前藩兵、姫路城ヲ徇ヘテ、之ヲ下ス。

十七日、征討大將軍嘉彰親王ノ外國事務總裁ヲ罷メ、海陸軍務總督ヲ兼ネシム。

○池田茂政、書ヲ上リ、旁近徳川譜第諸藩ノ方向ヲ問ハント請フ。

○松平頼聰（高松藩主）、興正寺攝信ニ因テ謝罪書ヲ上ル。

十八日、議定正親町三條實愛、（前大納言）大坂ニ詣リ、征討大將軍ノ印ヲ嘉彰親王ニ授ケ、且勅旨ヲ傳ヘ、大將軍及ヒ將士ヲ犒フ。

○中國、四國追討總督四條隆謌、大坂ヲ發ス、薩摩、土佐、長門、安藝四藩兵、之ニ從フ。

○長門藩兵、書ヲ津山藩ニ致シテ、其向背ヲ問フ、翌日、津山ノ老臣連署シテ、大義滅親、承順貳ナキヲ答フ。

十九日、稻田邦植ノ請ヲ聽シ、西ノ宮守衞ヲ罷メ、高松討伐ノ應援タラシム。

○總督四條隆謌、西宮ヲ發シテ、兵庫ニ抵ル、（諸道記櫻略）是日、土佐藩兵、丸龜ニ抵リ、高松ヲ討ス、丸龜、多度津二藩亦兵ヲ發シテ之ニ會ス、稻田邦植モ亦兵ヲ遣シテ、高松ノ諸口ヲ扼シ、以テ宗藩兵ノ至ルヲ待ツ。

二十日、征討府、備前藩ノ西宮守兵ニ令シ、旁近地方ヲ鎭撫セシム。

○大久保忠禮（加賀守○小田原藩主）、家臣ノ大坂ニ在ルモノ、米ヲ征討府ニ獻センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○總督四條隆謌、明石城ニ至ル、松平慶憲、藩兵ヲ出シテ、征討ノ軍ニ從ハンゴトヲ請フ。

○土佐藩兵、高松城下ニ抵リ、書ヲ松平頼聰ニ致シ、征討ノ命ヲ傳フ、是ヨリ先キ、頼聰其罪臣二人ヲ誅シ、首級ヲ征討府ニ獻シ、城ヲ出テ罪ヲ待ツ、是ニ於テ、藩士郊迎シテ哀ヲ乞フ、乃チ其城邑ヲ收ム。

第四　自明治元年正月二十一日 至同　二月十五日

正月二十一日、征討府、大坂舊幕府與力同心ノ徒ヲシテ薩、藝、長三藩ニ屬シ、兵役ニ服セシム。

○總督四條隆謌、姫路既ニ降伏スルヲ以テ、龍野藩ノ應援兵ヲ罷メ、阿波、宇和島、丸龜三藩、及稻田邦植ノ應援兵ヲシテ封内ニ駐シ、後命ヲ待シメ、長門藩兵ノ山陽ニ在ルモノヲ遣リテ、伊豫松山征討ノ先鋒ト爲ス、又軍ヲ姫路ニ進メントスルヲ以テ、明石藩兵ヲ以テ護衞ト爲ス、是日、松平慶憲及ヒ其家臣、書ヲ上リ勤王貳ナキヲ陳ス。

○土佐藩隊長深尾成質、高松城ヲ居守シ、餘兵皆丸龜ニ還ル。

二十二日、東久世通禧ノ軍事參謀ヲ罷メ、兵庫鎭臺ヲ督セシム。（議定實愛手記）

○備前藩兵、津山藩ノ向背ヲ問フ、藩主松平慶倫、（三河守○津山藩主）及老臣、書ヲ致シテ、奉命他ナキヲ答フ。

○松山（備中）兵、大坂ヨリ脫歸シ、玉島港ニ至ル、備前藩兵之ヲ討

ス、老臣熊田矩芳（恰）自及シテ、罪ヲ謝シ、衆ニ代ランコトヲ乞フ。二十三日、遠藤胤城（但馬守○近江三上藩主、舊幕府奏者番タリ、）ノ家臣、書ヲ征討府ニ上リ、封内見兵ヲ以テ王事ニ從ハント請フ。

○總督四條隆謌、姬路ニ抵リ、諭告シテ、士民ヲ安撫ス。

二十四日、總督、姬路城ヲ撿シ、更メテ備前藩ヲシテ之ヲ管セシメ、其質ヲ還付ス、又廩ヲ發シテ、市民ヲ賑恤ス。

○酒井忠惇ノ父忠績（雅樂頭、）及老臣、書ヲ督府ニ上リ、寛典ヲ請ヒ、又備前藩ニ依リテ、解救ヲ請フ。

二十五日、征討府、大村純熈（丹後守○肥前大村藩主、）ニ命シテ、長崎ヲ警守シ、松平親良（中務大輔○豐後杵築藩主、）ニ御許山（豐前、）嘯聚ノ浪徒ヲ討セシム。

○督府、姬路ノ降ヲ受ケ、藩士ノ田野ニ散處スルモノヲシテ家ニ還ラシム、又福山藩ニ令シ、兵ヲ出シテ松山（伊豫、）征討ノ應援ヲ爲シ、龍野藩ニ室津（播磨、）ヲ警守セシム。

○松平頼聰使臣、罪臣ノ首級ヲ齎シ、總督ノ軍門ニ詣リ、謝罪書ヲ上ル、（昨日ニ在リ、）是日、督府其降ヲ容シ、朝命ヲ待シム。

二十六日、大將軍、天保山ノ砲臺ヲ巡視シ、晡ニ及テ還ル。

○總督、姬路ヲ發シテ室津ニ抵リ、海路軍ヲ班ス、備前、明石二藩兵之ニ隨フ。

○淺野茂長、兵ヲ發シテ、備中河邊川以西諸藩ノ向背ヲ問フ、

是日、福山ニ抵ル、阿部正方、老臣ヲ遣リテ、之ヲ城中ニ迎ヘ、書ヲ修テ、承順他ナキヲ陳ス。

二十七日、東征ノ大議アルヲ以テ、大將軍嘉彰親王ヲ召還ス。

○是ヨリ先、備前藩兵、松平武聰（右近將監○舊濱田藩主封ヲ失ヒ、美作ノ別邑ニ寓ス、）家臣ノ大坂ヨリ敗歸スル者ヲ金岡港（備前、）ニ拘執ス、是日、茂政、狀ヲ征討府ニ上ル。

○總督四條隆謌、大坂ニ凱旋ス。

○土佐藩兵、將ニ松山ヲ討セントス、先使ヲ遣ハシテ朝命ヲ傳フ、松平定昭、其父勝成（隱岐守、）ト城ヲ出テ、寺院ニ屛居シ、恭順貳ナキヲ稟謝ス、（二十四日ニ在リ、）是日、進テ其城ヲ收ム、定昭及家臣、書ヲ致シテ哀ヲ乞フ。

二十八日、大將軍嘉彰親王、大坂ヨリ凱旋シ、錦旗節刀ヲ上リ、其狀ヲ奏ス、四條隆謌、五條爲榮等從フ。

○酒井忠惇老臣、書ヲ上リ、兵ヲ出シテ、征討ノ軍ニ從ハンコトヲ請フ。

是月、征討府、土佐藩兵ニ命シテ、堺港（和泉、）ヲ警守セシム。（山內豐範家記）

○加藤泰秋（遠江守○大洲藩主、）使ヲ督府ニ遣シ、大洲城ヲ以テ、松山征討ノ牙營ト爲ンコトヲ請フ。

二月朔日、是ヨリ先、長門藩兵、督府ノ令ヲ奉シ、松山ヲ討ス、

時ニ松平定昭寺院ニ屏居シ、土佐藩ニ依テ罪ヲ待ツ、是ニ於テ、城中ヲ捡シ、是日定昭等ヲ寺院ニ見ル、定昭乃家臣ト書ヲ致シテ、承順貳ナキヲ申明シ、救解ヲ乞フ。

七日、福山藩兵、三津濱ニ抵ル。

十五日、松平頼聰ノ罪ヲ宥シ、其城邑ヲ復シテ、之ヲ京ニ召シ、松平定昭ノ城邑ヲ收メ、更メテ土佐藩ヲシテ之ヲ管セシメ、定昭及ヒ家臣ニ謹愼ヲ命ス、是ニ於テ、山陽、南海二道全ク定ル。

東海道戰記

第一　自明治元年正月五日 至同　廿六日

明治元年（戊辰、）正月五日、參與橋本實梁（少將○實麗ノ子、）ヲ以テ、東海道鎭撫總督ト爲シ、參與助役柳原前光（侍從○光愛ノ子、）ヲ副總督ト爲ス、（二人參與、故ノ如シ、）是日、二人、肥後藩兵ヲ率ヰテ、京師ヲ發シ、大津驛ニ抵ル。

○是ヨリ先、備前、阿波、彥根、大村、佐土原、五藩ニ命シテ、大津驛ヲ警守セシム、是日、備前新田藩兵ヲ遣シテ、宗藩兵ト共ニ本驛ヲ嚴守セシム、又興正寺攝信ニ命シ、門徒ヲ率ヰテ大津ニ至リ、總督橋本實梁ニ從ハシム。

六日、木梨恒準（精一郎、長門藩主、）ヲ以テ、東海道鎭撫總督ノ參謀ト爲ス。

七日、參謀木梨恒準、大津驛ニ至ル。（○柳原前光輙誌）

九日、德川慶喜東走スルヲ以テ、總督橋本實梁、副總督柳原前光ニ令シテ、隣近ノ諸藩ヲ糾合シ、進テ桑名ヲ討セシメ、海江田信義（武次、薩摩藩士、）ヲ以テ桑名征討參謀ト爲ス。

十日、因幡藩及ヒ其支藩兵ヲ大津驛ニ遣シテ、總督橋本實梁ニ屬セシム。

○督府、備前、阿波、彥根、膳所、大村、佐土原、六藩ノ重臣ヲ召シテ、桑名征討ノ命ヲ傳ヘ、其軍略ヲ諮詢ス、又六藩ニ令シテ其兵員ヲ錄申セシム。

○參謀海江田信義、大津驛ニ至ル。（○柳原前光輙誌）

十一日、督府、伏見ノ敗賊伊賀越（伊賀、）地方ヲ過キテ東歸スルノ聞アルヲ以テ、膳所、水口二藩ニ令シテ、之ヲ要擊セシム。

○是ヨリ先、總督橋本實梁ニ命シ、舊大津代官石原某（清一郎、）舊信樂（近江、）代官多羅尾光弼（織之助、）ヲシテ軍資ヲ供億セシム、是日、督府二人ニ命シ、阿波藩兵ト共ニ、其舊管地ヲ管理セシム、又阿波藩兵ニ命シテ、舊幕府及ヒ會津、桑名領地ノ大津旁近ニ在ル者ヲ檢セシム。

十二日、土佐藩兵ヲ大津驛ニ發シ、督府ニ就キテ琵琶湖渡口警守ノ事ニ服センコトヲ請フ、是日、命シテ之ヲ警守セシム、又其請ヲ聽シ、金穀ヲ貸付ス。

○加藤明實（能登守、水口藩主、）ノ封邑、賊兵ノ走路ニ當ルヲ以テ、藩兵ノ京師ニ在ル者ヲ罷歸シ、總督橋本實梁ノ節度ヲ奉シテ、之ヲ追討

セシム、[illegible]、是日、明實ノ家臣、書ヲ督府ニ上リテ其狀ヲ申ス。
○是ヨリ先、井伊直憲（掃部頭、彦根藩主、）ニ命シ、兵ヲ率ヰテ大津驛ニ赴カシメ、是日、直憲督府ニ詣テ起居ヲ候ス。
○因幡藩及ヒ其支藩兵、大津驛ニ至ル。（柳原前光報告）
十三日、石川成之（宗十郎、龜山藩主。）ニ命シ、鈴鹿嶺（伊勢）、及ヒ旁近ノ隘口ヲ扼シ、以テ總督橋本實梁ノ約束ヲ受シム、明日、督府モ亦成之ニ命シテ、鈴鹿嶺ヲ嚴守セシム。
○桑名征討ノ令下ルヲ以テ、督府、尾張、津、吉田、龜山、岡崎、水口六藩ノ老臣ヲ召ス、又多羅尾光弼ニ命シテ輜重ヲ掌ラシム。
十四日、督府、水口藩ヲ以テ、桑名征討先鋒ト爲ス。
○興正寺攝信、門徒ヲ率ヰテ大津驛ニ至ル。
十五日、是ヨリ先、滋野井公壽（侍從○實在ノ子、）綾小路俊實（前侍從○有長ノ養子、）私ニ京師ヲ去リ、兵ヲ近江松尾山ニ集メ、書ヲ上リ、命ヲ奉シテ賊ヲ討センコトヲ請フ、乃チ二人京ヲ去ルノ罪ヲ宥シ、命シテ義兵ヲ招集シ、總督橋本實梁ニ屬セシム、是日、二人書ヲ督府ニ致シテ、永井尚志（玄蕃、舊幕府若年寄、）等ノ處分ヲ咨稟ス、督府批シテ之ニ答フ。
十六日　督府、將サニ十八日ヲ以テ、軍ヲ桑名ニ進メントス、因テ阿波藩兵ニ命シテ、大津驛ヲ警守セシメ、膳所藩ヲ以テ、討桑先鋒ノ嚮導ト爲ス、是日、二督、因幡、備前以下六藩兵ヲ園城寺ニ閱ス。
十七日、督府、龜山藩ヲ以テ、討桑先鋒ノ嚮導ト爲ス、又軍令ヲ肥後、因幡以下諸藩兵ニ頒ツ、是夜、肥後以下六藩ノ老臣ヲ召集シテ、軍事ヲ議ス。
十八日、督府、備前、彦根、膳所、大村、佐土原、水口六藩兵ヲ以テ先鋒ト爲シ、肥後藩兵ヲ中軍ト爲シ、因幡藩兵ヲ後軍ト爲シ、次ヲ以テ進テ桑名ニ赴カシム、龜山藩兵之カ嚮導タリ、是日、二督大津驛ヲ發シ、草津驛ニ抵ル、興正寺攝信ハ留リテ大津ヲ守ル。
○津藩老臣、召ニ應シテ督府ニ詣ル、乃チ命シテ藩兵ヲ桑名ニ出サシム。
○彦根藩後軍、（二百五十人、）四日市驛ニ至リ、前軍ニ合ス、（井伊直憲家記）
十九日、二督、水口驛ニ抵ル、加藤明實來候ス。
○吉田藩老臣、召ニ應シテ督府ニ詣リ、勤王ノ意ヲ陳シ、公事ニ服センコトヲ請フ、乃チ命シテ藩兵ヲ桑名ニ出シ、且封内沿海ノ地ヲ警備セシム。
二十日、二督、坂下驛ニ抵ル。

二十一日、二督、石藥師驛ニ抵ル、是日、先鋒兵進テ四日市驛ニ至ル。

二十二日、二督、四日市驛ニ抵ル。

○桑名ノ老臣酒井某（孫八郎）等、龜山藩ニ因リテ、闔藩伏罪ノ狀ヲ陳シ、寛典ニ處センコトヲ請フ、是日、督府、松平定敬（越中、舊桑名藩主）ノ義弟定教（萬之助）ニ命シ、老臣等ト共ニ牙營ニ詣リテ、其罪ヲ謝セシム。

二十三日、二督、四日市驛ニ次シ、參謀木梨恒準ヲシテ先鋒兵ヲ督シ、進テ桑名ニ赴カシム、是日、松平定教及ヒ其老臣松平某（帶刀）等、督府ニ詣テ罪ヲ謝シ、降ヲ乞フ、乃チ命シテ其城地ヲ致シ、寺院ニ屏居シテ後命ヲ俟タシメ、膳所藩兵ニ之ヲ監守セシメ、其臣隸亦寺院ニ屏居セシム、又其臣隸ノ伏見ノ事ニ與カリシ者ヲ捕ヘ、因幡藩兵ニ付シテ之ヲ監セシム。

二十四日、土方雄永（鑾千代、菰野藩主）家臣ヲ督府ニ遣シテ、公事ニ服センコトヲ請フ。

二十五日、賊徒征討ノ令下ルヲ以テ、督府、長島、西尾、刈屋、擧母、田野口、田原、西大平七藩及ヒ菅沼某（左近將監）、松平某（與次郎、並ニ舊旗下士）ノ老臣ヲ召ス。

二十六日、滋野井公壽、其徒百八十許人ト共ニ、四日市驛ニ至ル、督府其徒ノ軍令ヲ犯ス者數人ヲ捕ヘテ之ヲ誅ス。

○吉田藩兵、四日市驛ニ至ル、督府命シテ濱川ヲ警守セシム、又舊幕府兵、駿河地方ニ屯集スルノ聞アルヲ以テ、本藩ニ命シテ、其狀ヲ偵察セシム。

○阿部正方（主計頭、福山藩主）、書ヲ督府ニ上リテ、勤王貳ナキヲ陳ス、長島藩老臣、亦召ニ應シテ督府ニ詣リ、闔藩奉上他ナキヲ陳シ、又藩兵ヲ發シテ公事ニ服セシメンコトヲ請フ。（時ニ藩主增山正同江戶ニ在リ。）

第二　自明治元年正月二十七日 至同 二月八日

正月二十七日、總督橋本實梁ニ命シ、舊幕府領地ノ東海道ニ在ル者ヲ檢シテ、其人民ヲ安撫シ、圖籍ヲ上ラシム、又大ニ東征ノ事ヲ議スルヲ以テ、滋野井公壽、大原俊實（初綾小路氏ヲ冒ス）ヲ召還ス。

○督府、將サニ明日ヲ以テ軍ヲ桑名ニ進メントス、因テ菰野藩ニ命シテ、四日市驛ヲ警守シ、膳所藩ニ大津驛ヲ巡警セシム、又濱松、横須賀、掛川、相良四藩ノ老臣ヲ召ス。

二十八日、參謀木梨恒準、先鋒兵ヲ督シテ桑名ニ入リ、桑名城ヲ攻ム、津藩兵來會ス、是日、二督、桑名ニ抵リ、城中ヲ檢シ、尾張、津二藩ニ命シテ、本城及ヒ松平定敬ノ臣隸ヲ監守シ、尾張藩ニ本地ノ民政ヲ管セシム。

○督府、岡崎藩ニ命シ、藩兵ヲ豫備シテ不時ノ徵發ニ供セシム。

○刈屋、擧母二藩ノ老臣、召ニ應シテ督府ニ詣リ、書ヲ上リテ藩兵ヲ出シ、公事ニ服セシメンコトヲ請フ、並ニ令シテ後命ヲ俟タシム。

二十九日、總督橋本實梁、副總督柳原前光ニ令シテ、横濱居留ノ外國人ト、釁隙ヲ開クコト勿ラシム。

○大原俊實、四日市驛ニ至ル、尋テ京師ニ歸ル（柳原前光ニ謁）

二月朔日、督府、吉田藩ニ命シテ、荒井關ヲ改築シ、賊兵ノ西上ヲ防遏セシム。

○是ヨリ先、稻垣長行（平右衞門、鳥羽藩主）、徳川慶喜ニ黨スルヲ以テ、其入京ヲ止ム、是ニ至リ其臣隷龜山藩ニ因リテ、書ヲ督府ニ上リ、恩宥ヲ乞フ（時ニ長行江戸ニ在リ）、乃チ龜山藩ニ命シテ、長行ノ老臣ヲ京師ニ護送セシム。

○是ヨリ先、東山道鎭撫總督、遠藤胤城（但馬守、三上藩主）ノ封地ヲ收メ、水口藩ヲシテ之ヲ管セシム、是ニ至リ水口藩、書ヲ督府ニ上リテ其狀ヲ申シ、藩兵ノ桑名ニ在ル者ヲ移シテ、其事ニ服セシメントヲ請フ、督府、乃チ藩兵ヲ罷メテ之ヲ遣ル、又龜山藩兵ヲ罷歸シテ、其封疆ヲ嚴守セシム。

○西大路藩及ヒ松平某（與次郎）ノ老臣、召ニ應シテ督府ニ詣リ、上書シテ奉上他ナキヲ陳シ、公事ニ服センコトヲ請フ。

二日、督府、田中藩ノ老臣ヲ召ス。

三日、督府、沼津、小島、二藩及ヒ近藤用虎（兵庫助）、榊原照求（越中守、並ニ交代寄合）、ノ老臣ヲ召ス、又舊中泉（遠江）、代官大竹某（庫三郎）、舊府中（駿河）、代官田上某（寬藏）、舊韮山（伊豆）、代官江川英武（太郎左衞門）ニ命シ、管内地圖及ヒ戸籍等ヲ齎シテ牙營ニ詣ラシム。

○田野口、田原二藩ノ老臣、召ニ應シテ督府ニ詣リ、書ヲ上リテ、闔藩奉上他ナキヲ陳ス。

四日、二督、肥後、因幡、以下六藩兵ノ銃技ヲ桑名城中ニ觀ル。

○督府、小田原藩ノ老臣ヲ召ス。

五日、濱松、西尾二藩ノ老臣、召ニ應シテ督府ニ詣リ、書ヲ上リテ、闔藩勤王貳ナキヲ陳ス。

六日、車駕將ニ親征セントスルヲ以テ、東海道鎭撫總督橋本實梁ヲ改テ東海道先鋒總督兼鎭撫使ト爲シ、副總督柳原前光ヲ先鋒副總督兼鎭撫使ト爲シ、薩摩、尾張、以下十二藩兵ヲ以テ之ニ屬ス。

○桑名平定ニ就クヲ以テ、書ヲ參謀木梨恒準、海江田信義ニ下

シテ、其成功ヲ賞ス。

○遠江諸社ノ祠官等、軍資金ヲ献センコトヲ先鋒總督ニ請フ、之ヲ停ム。

七日、吉田、龜山、二藩ニ令シテ、東海道官軍ノ餽餉輜重ヲ管シ水口、長島以下十一藩ニ供帳傳遞ノ事ヲ掌ラシム。

○大澤基壽（右京大夫、高家、）ノ家臣、書ヲ先鋒總督ニ上リ、金穀ヲ献シ、公事ニ服センコトヲ請フ、總督其志ヲ嘉ミシ、命シテ今切地方ヲ警守シ、且舞坂驛旁近傳遞ノ事ヲ掌ラシム、大伴明神（參河、）ノ祠官加藤千秋（監物、）モ亦奉上ノ意ヲ陳シテ、從軍ヲ請フ、乃チ命シテ關東ノ形狀ヲ偵察セシム。

○掛川、横須賀二藩ノ老臣、召ニ應シテ督府ニ詣リ、勤王證書ヲ上ル。

八日、彥根藩、東山道先鋒ノ命ヲ拜スルヲ以テ、先鋒總督ニ就キテ、藩兵ノ桑名ニ在ル者ヲ罷歸センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

第三　自明治元年二月九日　至同　十六日

二月九日、總裁熾仁親王（有栖川帥宮、）ヲ拜シテ、東征大總督ト爲シ、（總裁故ノ如シ、）參與正親町公董（中將、）、西四辻公業（大夫、）、廣澤眞臣（兵助、長門藩徵士、）ヲ參謀ト爲シ、（並ニ參與故ノ如シ、）河鰭實文（大夫、）、穗波經度（大夫、）ヲ錦旗奉行ト爲シ、津和野藩兵ヲシテ錦旗ヲ衞セシム、又議定嘉言親王（聖護院宮、）ヲ海軍總督ト爲シ、（議定故ノ如シ、）庭田重胤（大納言、）ヲ參謀ト爲ス。

○土佐藩ノ東海道先鋒ヲ改メテ、東山道先鋒ト爲ス。

○先鋒總督橋本實梁、近藤用虎ニ命シ、舊ニ仍リテ、氣賀關門ヲ嚴守セシム。

十日、先鋒總督桑名ニ在リ、將ニ十三日ヲ以テ軍ヲ名古屋ニ進メントス、因リテ備前藩兵ニ令シテ先ツ發セシメ、薩摩、紀伊、肥後、長門、土佐五藩兵ヲシテ之ニ繼カシム。

○是ヨリ先、德川氏、本多正訥（紀伊守、田中藩主、）ヲ以テ、駿府城代ト爲ス、是日、先鋒總督、正訥ニ命シテ、其舊ニ仍ラシム。

○先鋒總督、尾張、因幡、備前、津、大村、佐土原六藩兵ノ銃技ヲ桑名城中ニ觀ル。

十一日、大村、佐土原二藩兵、原討桑ノ命ヲ奉シ、東征ノ軍ニ列セス、先鋒總督、其兵ノ練熟セルヲ以テ、大總督府ニ請フ所アリ、是日、令シテ名古屋ニ赴キ、後命ヲ待タシム。

十二日、廣澤眞臣ノ大總督府參謀ヲ罷メ、尋テ參與西郷隆盛、（吉之助、薩摩藩士、）林通顯（玖十郎、宇和島藩士、）ヲ以テ之ニ代フ。

○大總督、軍令及ヒ廟算書ヲ、諸道ノ總督ニ頒ツ。

○是ヨリ先、尾張藩、桑名ノ事ヲ管理ス、是日、先鋒總督、尾張

藩ニ命シテ、本地農商ノ祖先功徳ニ因リ、鋼租及ヒ稱姓佩刀等ノ業ヲ得ル者ハ、悉ク其舊慣ニ仍ラシム。

○徳川慶喜、江戸城ヲ田安慶頼、（中納言、家達ノ父、徳川氏三卿ノ一、）松平齊民（越後守、確堂ト號ス、津山藩主、慶喜ノ叔、）ニ託シテ、東叡山大慈院ニ屏居シ、罪ヲ待ツ、又入道公現親王（輪王寺宮、）ニ就キテ、罪ヲ京師ニ謝センコトヲ請フ。

十三日、水野忠敬ニ命シテ、島田ヨリ駿府ニ至ル餽餉傳遞ノ事ヲ措辦セシム。

○先鋒總督、桑名ヲ發シ名古屋ニ次ス、是日、膳所藩兵ヲ罷歸ス。

○本堂親久、（内膳、交代寄合、後志筑藩ト稱ス、）書ヲ先鋒總督ニ上リ、勤王ノ意ヲ陳ス、總督、乃チ親久ニ命シテ、東國ノ形勢ヲ視察セシム、是日、田沼意尊（玄蕃頭、相良藩主、）家臣又勤王證書ヲ上ル。

十四日、水野忠敬、（出羽守、沼津藩主、）松平乘秩（和泉守、西尾藩主、）及ヒ榊原照求家臣、各勤王證書ヲ先鋒總督ニ上ル。

十五日、東征大總督有栖川熾仁親王陛辭シ、出師ノ表ヲ上ル、勅シテ、閫外ノ權ヲ委シ、節刀一口、錦旗二旒ヲ賜フ、午牌、大總督官秋門ヨリ出ツ、諸隊次ヲ按シテ啓行シ、大津驛ニ抵ル。

○大總督、軍令及ヒ陣中規則ヲ諸隊ニ頒ツ。

○是ヨリ先、先鋒總督、吉田藩兵ヲシテ大總督府及ヒ本軍ニ分屬シ、餽餉ヲ掌ラシム、是日、本藩、其事準備ニ就クヲ申シ、且措辦ノ條款ヲ稟請ス。

十六日、先鋒總督、大村、佐土原二藩兵ヲ以テ先鋒トナシ、諸藩兵ヲシテ順次宮驛ヲ發シ、駿府ニ會セシム、又水野忠敬、本多忠民（美濃守、岡崎藩主、）ニ令シ、本多正訥ヲ助ケテ、駿府城ヲ守ラシム。

○是ヨリ先、勅シテ熱田神社（尾州宮驛、）ニ詣スル者、胡服及ヒ兵器ヲ携ルヲ禁ス、是日、先鋒總督、本社ニ令シテ、之ヲ申禁ス。

○安部信發、（攝津守、岡部藩主、）森川俊方、（内膳正、生實藩主、）疾ヲ以テ老臣ヲシテ代リテ上京セシム、使臣等、先鋒總督ニ名古屋ニ謁シテ、勤王ノ意ヲ陳ス、總督乃チ二藩ニ命シ、管内沿道軍須ノ備ヲ爲サシム、是日、使臣等、奉命書ヲ上ル。

○舊中泉代官大竹某、（庄三郎、）舊府中代官田上某、（寛藏、）名古屋ニ至リ、勤王證書ヲ先鋒總督ニ上ル。

第四　自明治元年二月十七日　至同　廿五日

二月十七日、軍防局、官軍ノ標章及ヒ本局ノ印鑑ヲ、大總督府ニ交付ス、因リテ、督府又其印鑑ヲ送致ス。

○奥羽鎭撫總督、書ヲ大總督府ニ致シ、松平容保、酒井忠篤ノ處分ヲ稟問ス、是日、大總督府、答書シテ、容保ハ罪死ニ當ル、

忠篤ハ宜シク松山、高松ニ准擬スヘキヲ報ス。

○是ヨリ先、土井利教（淡路守、刈谷藩主）ノ家臣、倉田某（珪太郎）等、（十八人）重臣多米某（新左衛門）、津田某（新十郎）ヲ斬リ、尾張藩ニ就テ自首シ、其蘊蔽ノ狀ヲ訴フ、尾張藩、之ヲ先鋒總督ニ稟ス、是日、總督、利教等ヲ推糺シテ、其實ヲ獲、倉田某等ノ罪ヲ免ス、明日、利教、勤王證書ヲ上ル、總督、乃チ利教ニ命シテ、京ニ赴カシム。

十八日、先鋒總督、將ニ廿日ヲ以テ名古屋ヲ發セントス、乃チ津藩ニ令シテ、肥後藩ニ代リ、中軍ヲ護衛セシム、又駿府以東沿道ノ諸藩、及ヒ舊代官等ニ令シテ、驛遞軍糧ノ事ヲ掌ラシム。

○米倉昌言（丹後守、金澤藩主）、勤王證書ヲ先鋒總督ニ上ル、石川總範（將監、舊旗下士）等モ亦尾張藩ニ就キテ、王事ニ勤メンコトヲ請フ、是日、尾張藩、其書ヲ上ル。

十九日、先鋒總督、尾張、水口二藩ヲシテ、因幡藩ニ代リテ、桑名罪臣ヲ保管セシメ、其脫走焚死者ノ臟腑ヲ曝ス。

二十一日、令シテ、徳川慶喜ノ謝罪狀、大總督府ヲ經由シテ之ヲ上ラシム。

○大總督府申ネテ軍令ヲ諸軍ニ頒ツ。

○入道公現親王、將ニ西上シテ、慶喜ノ爲メニ罪ヲ謝セントス、岡崎以下十四藩ヲシテ衞兵ヲ出サシム、是日、大總督、名古屋ニ抵ル、先鋒總督ニ令シテ、其衞兵ヲ止メシム。

○舊韮山代官江川英武、藤川驛ニ詣リテ、管內地圖及戶籍ヲ、先鋒總督ニ上リ、且家世ヲ歷陳シ、勤王ノ意ヲ表ス、督府其兵ヲ徵ス、英武辭ス。

廿二日、西尾忠篤、兵ヲ出シテ餽餉傳遞ノ事ニ服スルヲ、先鋒總督ニ稟ス。

二十四日、先鋒總督、舊甲府勤番支配佐藤某（駿河守）、舊町奉行若菜某（三男三郎）ニ令シテ、權ニ甲府城ヲ守リ、以テ城代ノ至ルヲ待タシム。

○松平正孝（筑後守、舊旗下士）等十三人、（近藤力之助、秋元一學、高木義太郎、米津小大夫、服部中、堀順三郎、松平弘之助、皆川鍵之丞、阿部美濃守、竹本淡路守、加賀爪甚十郎、近藤隼人、並ニ舊旗下士）濱松藩ニ就キテ、勤王證書ヲ先鋒總督ニ上ル。

二十五日、大總督、吉田ニ次ス。

○是ヨリ先、先鋒總督、吉田藩ニ令シ、徳川氏、駿、遠間ニ儲蓄スル所ノ錢穀ヲ以テ、驛遞軍糧ノ用ニ充テシム、是日、本藩、其現額ヲ開申ス。

○先鋒總督、太田資美（總次郎、掛川藩主）ニ命シテ、假橋ヲ大井川ニ架セシム、是日、資美、兵簿ヲ上リテ、進軍ノ命ヲ請ヒ、且沼津、岡崎二

藩ト倶ニ駿府城ヲ警等セント請フ。

第五

自明治元年二月二十六日
至同　晦日

二月二十六日、先鋒總督、本多正訥ニ命シテ、假橋ヲ阿部川ニ架セシム、又黒岩直方(冶部助、土州藩士、)ヲ甲府ニ差遣シ、其動靜ヲ視察シ、兼テ府庫ノ金穀ヲ查點セシム。

○駿河神官、富士某(亦八郎、)等、勤王ノ素志ヲ表シ、名簿ヲ先鋒總督ニ上ル、遠江神官櫻井某(駿河、)等、鹽梅(二十五石、)ヲ獻シ、軍須ニ充テント請フ。

二十七日、親征ノ期ヲ布告ス。

○大總督府、書ヲ內國、軍防二局ニ致シ、東國諸藩及ヒ舊麾下士等、入京シテ請求スル所アラハ、宜シク其本府ヲ經由スルヤ否ヲ廉問センコトヲ請ヒ、又西鄉隆盛行營ニ在ラス、軍務繁劇ナルヲ以テ、參謀一人ヲ遴選シテ、其闕ヲ補ハンコトヲ請フ、

是日、大總督、荒井驛ニ抵ル。

○是ヨリ先、東山道先鋒總督、安藤信勇(理三郎、奥州岩城平藩主、)ノ封地ノ美濃ニ在ルモノヲ收ム、是日、信勇ノ老臣、大總督府ニ詣リ、勤王誓書ヲ上リ、秋月種事(覺三郎、高鍋藩士、)モ亦誓書ヲ上ル。

○入道公現親王ノ江戸ヲ發スルヤ、法印亮榮(自證院、)ヲシテ書(親王哀訴狀及慶喜謝罪書、)ヲ齎ラシ、先ツ發セシム、是日、亮榮、先鋒總督ニ金谷ニ謁シ、其情ヲ陳ス、總督之ヲ大總督ニ稟セシム。

○官軍前鋒、大總督ノ旨ヲ傳ヘテ、公現親王ノ西上ヲ停メ、且諸藩ノ從兵ヲ罷メ歸ラシム。

二十八日、大總督府、吉田藩ニ命シテ、荒井關ノ譏察ヲ嚴ニセシム。

○大總督、濱松ニ抵ル、是日、公現親王使僧亮榮、軍門ニ詣リテ書ヲ上ル、參謀正親町公董、亮榮ヲ引見シ、慶喜書辭恭順ノ實ナキヲ責メテ、之ヲ遣ル。

○松平乘秩、江戸ヨリ濱松ニ至ル、適〻病アリ、重臣ヲシテ代リテ大總督ヲ候セシメ、勤王他ナキヲ申疏ス、督府、其歸藩ヲ聽ス。

○是ヨリ先、酒井忠良(紀伊守、出羽松山藩主、)老臣ヲシテ代リテ上京シ、慶喜ノ爲ニ乞ハシム、吉田驛ニ至リ、大總督ノ東下スルニ會ス、乃チ齎ラス所ノ書ヲ督府ニ上ル、督府、批シテ奥羽鎭撫總督ニ稟セシム、是日、老臣、復濱松驛ニ詣リ、其書ヲ上ル、督府之ヲ却ク。

○先鋒總督、府中ニ次ス、是日、水野忠敬ヲ以テ、甲府城代ト爲ス。

○是ヨリ先、先鋒總督、大久保忠禮（加賀守、小田原藩主、）ノ向背ヲ問フ、忠禮、勤王證書ヲ上ル、是日、總督、忠禮ニ命シ、舊ニ仍リテ、箱根關門ヲ嚴守セシム。

○公現親王、使ヲ官軍前鋒ニ遣ハシ、其西上哀訴ノ意ヲ陳シ、進軍ノ期ヲ緩クセンコトヲ請フ。

二十九日、大總督府、濱松藩ニ命シテ、近藤用虎ト倶ニ氣賀關門ヲ守ラシメ、吉田藩ノ管守ヲ罷ム。

晦日、大原俊實ヲ以テ海軍先鋒ト爲ス。

○大總督府、書ヲ軍防局ニ致シテ、親征啓行ノ令ヲ奉シ、兼ネテ其進軍ノ期ヲ報ス。

○是ヨリ先、戸田忠友（土佐守、宇都宮藩主、）舊幕府ノ職ヲ辭シ、將ニ京師ニ入朝シ、且ツ慶喜ノタメニ哀ヲ乞ハントス、是日、掛川驛ニ至リ、勤王證書ヲ大總督府ニ上ル、督府、其入京ヲ聽ス。

○先鋒總督、太田資美ニ命シテ、兵ヲ甲府ニ遣リ、水野忠敬ヲ助ケシム。

○是月、一色直記（丹後守、）大河内某（伊勢守、舊旗下士、）竝ニ尾張藩ニ由リテ、勤王證書ヲ大總督府ニ上ル。

第六　自明治元年三月朔日 至同　九日

三月朔日、大井川暴張ス、大總督、軍ヲ掛川ニ駐ム。

○大總督府、太田資美ニ令シテ、入京セシム。

○先鋒總督、薩摩、長門、大村、佐土原ノ四藩兵ニ令シ、軍ヲ大磯、藤澤兩驛間ニ進メシム。

二日、大總督府、驛道疾弊スルヲ以テ、官軍饋餉ノ費額ヲ增加シテ、之ヲ軍防、會計二局、及ヒ東山道先鋒總督ニ報ス、又片桐貞明（鉄三郎、舊旗下士、）ノ誓書ヲ內國、辨事兩局ニ送致ス。

○大總督府、津野某（甲太、）永田某（良一郎、尾張藩士、）竝ニ四宮某（逸作、）太田某（嶽太郎、）竝ニ筑前藩士、河田某（清之丞、因幡藩士、）ヲ以テ使番ト爲ス。

○是ヨリ先、先鋒總督、水野忠敬ノ島田、駿府間、餽養傳遞ノ措辨ヲ改メ、蒲原、三島ノ間ニ服事セシム、是ニ至リ、本多正訥ニ令シテ、島田、駿府間ノ餽餉傳遞ヲ掌ラシム。

○會計事務局、書ヲ先鋒總督ニ移シテ、古金銀通用ノ事ヲ沿道諸藩ニ令セシム、是日、總督、之ヲ布告ス。

三日、大總督、島田彈ニ抵ル、是日、前軍、大總督ノ旨ヲ公現親王ニ傳ヘテ、之ヲ駿府ニ召ス。

○近藤某（登之助、舊旗下士、）勤王證書ヲ大總督府ニ上ル。

○是ヨリ先、東山道總督、眞田幸民（信濃守、松代藩主、）ヲ以テ甲府城代ト爲ス、是日、先鋒總督、東山道總督ニ移書シテ、水野忠敬ヲ甲府城

代ト爲スヲ報シ、幸民ヲ改テ應援ト爲シ、本地ヲ警守セシメンコトヲ請フ、又佐藤某、若栄某ノ甲府取締ヲ罷ム。

○田安慶頼、書ヲ先鋒總督ニ上リテ、勤王ノ意ヲ陳シ、且朝命ヲ得テ、宗家ヲ匡輔センコトヲ請ヒ、兼テ慶喜ノ爲メニ哀ヲ乞フ。

四日、先鋒總督、將ニ糧ヲ沼津ニ輸セントス、淸水港賈人等、其費ヲ仰カスシテ、之ヲ運輸センコトヲ請フ。

五日、大總督、駿府城ニ入ル、先鋒二督來リ候ス。

六日、大總督、本道及ヒ東山道先鋒總督ニ令シ、十五日ヲ期シテ、江戸城ヲ進討セシム。

○是ヨリ先、松井康英（周防守、川越藩主、）將ニ京ニ赴カントス、藤枝驛ニ至リ、使ヲ遣シテ、大總督府ヲ候ス、督府、其西上ノ遲緩ヲ責メ、誓書ヲ上ラシム、是日、再令シテ、名古屋ニ至リ、後命ヲ待シム。

○大總督府、書ヲ軍防局ニ致シテ、江戸進軍ノ期ヲ報シ、海軍ノ東下參謀ノ遴選ヲ申請シ、併テ松井康英ノ入京ヲ遏ムルヲ告ク。

○先鋒總督、田安慶頼ニ命シテ、德川慶喜謝罪ノ實ヲ擧ケ、且緩急、親子内親王ヲ護衛セシム。

○東山道先鋒總督、使ヲ大總督府及先鋒總督ニ遣ハシ、賊ヲ勝沼ニ討スルヲ報ス、先鋒總督、乃チ甲府城代水野忠敬ニ命シテ、急ニ其任ニ就キ、太田資美ニ兵ヲ出サシム、又參謀海江田信義ヲシテ、濱松藩兵ヲ率ヰテ、之ニ赴カシム。

七日、辨事局、書ヲ大總督府ニ致シ、親征ノ延期ヲ報ス。

○入道公現親王、駿府ニ詣リ、大總督ニ謁シ、書ヲ上リテ、慶喜ノ爲ニ罪ヲ謝シ、寛典ヲ乞フ。

八日、公現親王、復僧亮榮等ヲ大總督府ニ遣ハシテ、先鋒總督ノ進軍ヲ緩フセンコトヲ請フ、聽サス、甲府出兵ノ狀ヲ詰責シテ、之ヲ遣ル。

○安部信發、將ニ京ニ赴カントス、是日、駿府ニ至リ、勤王誓書ヲ大總督府ニ上ル。

○大久保教義（中務少輔、荻野山中藩主、）京極高陳（右近、峯山藩主、高富子、）及ヒ朽木綱美（和泉守、福）（旗下士、）勤王證書ヲ大總督府ニ上ル、尋テ五井忠庸（弘之助、）等、二十餘人（並ニ舊旗下士、）モ亦證書ヲ上ル。

○先鋒總督、紀伊藩ニ令シテ、軍ヲ沼津ニ進メシム。

九日、一橋茂榮（大納言、）將ニ大總督府ニ詣リ、慶喜ノ爲メニ罪ヲ謝セントス、督府、先鋒總督ニ令シ、茂榮ヲシテ命ヲ小田原ニ待タシム。

○徳川慶喜ノ臣山岡高歩、（鐵太郎、）駿府ニ詣リ、參謀西郷隆盛ニ就キテ、慶喜ノ爲メニ哀ヲ乞フ、勝義邦（安房守、）モ亦書ヲ隆盛ニ致シテ、其情ヲ陳ス、大總督乃チ謝罪ノ目七條ヲ指示シテ、之ヲ遣ル。

○安藤信勇、將ニ京ニ赴カントス、是日、駿府ニ詣リ、大總督ヲ候ス、小出英尙家臣モ亦、其支族小出有常ノ入京ヲ申請ス、督府之ヲ聽ス。

○先鋒總督、駿府ヲ發ス。

第七　明治元年三月十日　同　十七日

三月十日、大總督府、軍防局及諸道先鋒總督ニ移牒シテ、慶喜謝罪ノ狀ヲ報ス。

○大總督府、岡崎藩ニ令シ、傍近ノ地ニ哨兵ヲ置ク。

○先鋒總督、安場保和（一平、肥後藩士、）吉村叙翰（長兵衞、津藩士、）ヲ以テ參謀加勢ト爲ス、是日、總督沼津驛ニ抵ル。

○杉浦正尹、（越前守、舊旗下士、）勤王證書ヲ先鋒總督ニ上リ、且軍糧ヲ獻セント請フ、尋テ久世廣崇（三四郎、）內藤信重（駒次郎、並ニ舊旗下士、）モ之ヲ請フ。

十一日、大關增裕、（肥後守、黑羽藩主、）書ヲ大總督府ニ上リ、疾ヲ以テ入京ヲ辭シ、其子增勤（泰次郎、）ヲシテ、代リテ奧羽鎮撫使ニ屬セシメント請フ、之ヲ聽ス。

○是ヨリ先、稻葉正邦、（美濃守、淀藩主、）江戸ニ在リ、召ニ應シテ將ニ京ニ入ラントシ、三島驛ニ至ル、大總督府、其兵仗ヲ備ヘ、又徳川慶喜ノ哀請書ヲ齎シ、其形跡疑フヘキヲ以テ、前鋒ニ令シテ之ヲ停メシム、正邦乃チ從兵ヲ還ヘシ、慶喜ノ書ヲ燒キ、是日、誓書ヲ督府ニ上ル、督府、乃チ其西上ヲ許ス。

○先鋒總督、參謀木梨恒準ヲ横濱ニ遣シテ、港內警守等ノ事ヲ外國公使ニ告ケ、又東行シテ江戸進入ノ前隊ヲ督セシム。

○先鋒總督、紀伊藩ニ令シテ、富士川以東三島驛ニ至ルノ間、哨兵ヲ布置シ、且富士川漕運ノ貨物ヲ撿セシム、是日、松平某、（筑前守、舊旗下士、）尾張藩ニ由リテ、勤王證書ヲ總督ニ上ル。

十二日、大總督、再ヒ公現親王ヲ引見シ、諭シテ速ニ東歸シ、慶喜ヲシテ謝罪ノ實ヲ表セシム。

○舊幕府若年寄大給近說、（左衞門尉、府內藩主、）慶喜ニ請ヒテ其職ヲ辭シ、西上シテ駿府ニ至リ、大總督府ヲ候ス、是日、勤王誓書ヲ上ル。

○先鋒總督、軍中ニ令シテ、妄リニ發銃スルヲ禁ス。

十三日、曩ニ入道公現親王ノ箱根ヲ過ルヤ、軍人侮慢無禮ノ行ヲ爲ス者アリ、親王之ヲ大總督府ニ訴フ、是日、親王東歸ス、督府、諸軍ニ令シテ之ヲ戒飭ス。

○先鋒總督、米倉昌言ニ命シテ、假ニ横濱ノ取締ヲ爲サシム。

○落合道義、（源一郎、薩藩下士、）書ヲ大總督府ニ上リ、王事ニ服センコトヲ請フ、尋テ又軍糧ヲ獻セント請フ、酒井忠篤（采女、舊幕下士、）等及ヒ農某等亦軍糧ヲ獻センコトヲ先鋒總督ニ請フ、竝ニ令シテ後命ヲ待シム。

○先鋒總督、軍中ニ令シ、關門經過ノ際、嚴ニ制規ヲ遵守セシム、又前隊ヲシテ大磯、程谷ノ間毎驛ニ分屯シ、以テ救應ニ便シ、小田原藩ニ命シテ、肥後藩ニ代リ、臺場村ヲ守ラシム。

○親子内親王、（靜寛院宮、）手書ヲ東海道先鋒總督ニ贈リ、德川氏臣隷恩貸ノ事ヲ請フ。

○水野忠徵、甲府ニ至ル。

十四日、大總督府、江戸進討ノ期ヲ申諭シ、麾下ノ諸軍ヲ戒飭ス。

○是ヨリ先、德川慶喜ノ臣山岡高步、大總督府ノ旨ヲ承ケテ還ル、是日、勝義邦、參謀西鄕隆盛ノ營（江戸高輪ニ在リ、）ニ就キテ、慶喜謝罪ノ條款ヲ陳シ、且申請スル所アリ、隆盛、乃チ東海、東山二道ノ先鋒總督ニ牒シ、假ニ明日ノ進軍ヲ止メ、其書ヲ携ヘテ駿府ニ還ル。

十五日、先鋒參謀木梨恒準、横濱ヨリ本營ニ還ル。

○堀田正倫、（相模守、佐倉藩主、）稻葉正邦、水野忠寛（忠敬父、）等、先鋒總督ヲ沼津ニ候シ、正倫、勤王證書ヲ上ル、正邦モ亦、前日大總督ニ上ル所ノ證書ヲ呈ス、

十六日、軍防局、書ヲ大總督府及ヒ先鋒總督ニ致シ、親征啓行ノ期ヲ報ス。

○參謀西鄕隆盛、德川慶喜ノ謝罪條款ヲ大總督ニ歸報ス。

○津山藩、書ヲ先鋒總督ニ上リ、藩士松平慶倫ノ父齊民、江戸ヨリ西上セントスルヲ以テ、本道ニ就カンコトヲ請フ、總督之ヲ聽シ、先鋒諸隊及ヒ關門守兵ニ告知ス。

十七日、大總督府、三道先鋒總督ニ令シテ、江城進擊ノ期ヲ延ヘ、西鄕隆盛ヲ京師ニ遣リ、慶喜處分ノ事ヲ稟セシム。

○大總督、書ヲ英國公使ニ贈リテ、東征ノ旨趣、及ヒ米倉昌言ヲシテ、假リニ本地ノ裁判警守ヲ掌ラシムルヲ報シ、兼テ之ヲ各國公使ニ告知セシム。

○是ヨリ先、大總督府、先鋒總督ニ牒シテ、伊豆地方措置ノ事ヲ問フ、是日、總督、江川英武ヲ以テ其事ニ任セシムルヲ報シ、且英武歸順及ヒ地圖戸籍簿ヲ京師ニ上ラシムル等ノ事ヲ稟ス。

○大總督府參謀補助寺島直方（秀之助、長門藩士、）京師ヨリ、駿府本營ニ至

ル。

○永田直知、（勝左衛門、舊旗下士、）書ヲ先鋒總督ニ上リ、王事ニ服センコトヲ請フ、又蒔田廣生（留十郎、）等十人、（竝ニ舊旗下士、）軍糧ヲ獻セント請ヒ、或ハ勤王證書ヲ上ル。

第八

自明治元年三月十八日
至同二十四日

三月十八日、是ヨリ先、大總督府、松平直克（大和守、前橋藩主、）前ノ名古屋ヲ經テ、督府ヲ候セス、堀田正倫江尻驛ニ詣ル、亦其心事疑フヘキモノアルヲ以テ、竝ニ之ヲ責問ス、是日、更命シテ、二人ノ入京ヲ許シ、正倫ヲシテ屏居セシム、又榊原照求等ノ久能山守衛（舊幕府ノ令ニ係ル、）ヲ罷メテ、其瀨海ノ地ヲ警守セシム。

○先鋒總督、前鋒諸隊ニ令シテ、大磯、高縄ノ間ニ分屯シ、緩急ノ際、首尾相應セシム。

○井上正直、勤王證書ヲ先鋒總督ニ上ル。

○海軍先鋒大原俊實、攝海ヲ發ス、薩摩、肥前、久留米三藩兵艦之ニ屬ス。

十九日、是ヨリ先、諸藩ニ令シテ、德川慶喜ノ爲メニ哀ヲ乞フモノハ、大總督府ヲ經由セシム、而シテ乞フモノ猶已マス、是日、副總裁、書ヲ大總督ニ致シ、慶喜罪狀ヲ擧テ、諸藩ニ申令センコトヲ謀ル。（頭註、本條、廿二日ニ繫スヘキモノ、但、是ヨリヲ「是ニ於テ」ニ改ム。）

○先鋒副督柳原前光、甲府ニ赴ク。

○一橋茂榮（大納言、）及ヒ德川氏家臣等、小田原ニ詣リ、慶喜ノ爲ニ哀ヲ先鋒總督ニ乞フ、總督、令シテ之ヲ大總督府ニ乞ハシム。

○本堂親久、復タ書ヲ先鋒總督ニ上リ、藩屏ニ列シ、以テ王事ニ服センコトヲ請フ、總督乃チ書ヲ副シ、之ヲ內國局ニ申ス。

二十日、是ヨリ先、貨幣改鑄ノ議アルヲ以テ、會計局委員ヲ江戶ニ差遣シ、大總督府ニ牒シテ、座方ノ鑄造ヲ停メ、器械ヲ交付セシム、是日、督府、復書シテ、目下敵地事遽ニ辨シ難シ、平定ノ後ヲ待チテ處辨センコトヲ陳ス。

○先鋒總督、諸隊ニ令シテ、其兵員ヲ錄上セシム。

廿一日、車駕親征、京師ヲ發ス。

○大總督府、西尾忠篤（隱岐守、横須賀藩主、）ニ命シテ、麾下ノ衛兵ヲ出サシム、因リテ其餽餉驛遞ノ措辨ヲ罷メ、近藤某（登之助、）等ヲ以テ之ニ代フ。

二十二日、大總督府、濱松藩士伏谷昭良（如水、）ヲシテ、駿府ノ市政ヲ掌ラシム。

○先鋒總督、關門警守ノ規程ヲ申令ス。

二十三日、奥平昌邁、（美作守、中津藩主、）老臣ヲ遣シ、書ヲ大總督府ニ上リ、

慶喜ノ爲ニ哀ヲ乞フ。

○先鋒總督、龜山藩兵ニ令シ、肥後藩兵ニ代リテ、大磯驛ニ陣シ、肥後藩兵ニ平塚以東ニ屯衞セシム。

○先鋒副督、甲府ニ入ル、城代水野忠敬來リ候ス、副督書ヲ付シテ、士民鎭輯ノ意ヲ諭示ス。

○大久保敎義、封内鎭輯及ヒ驛遞饋餉ヲ掌ルヲ以テ、未タ入京セス、是日、書ヲ先鋒總督ニ上リ、上京ノ可否ヲ稟請ス、督府、其本道ニ從事スルヲ以テ、批シテ西上ヲ止ム。

○小田原藩、箱根關譏察ノ條款ヲ先鋒總督ニ稟請ス。

○是ヨリ先、先鋒總督、松平齊民ノ本路京ニ入ルヲ聽ス、(十六日ニアリ、)是日、齊民、老臣ヲ督府ニ遣ハシ、疾ヲ以テ上京遲延スルヲ謝ス。

○本多忠民、其子忠直、(平八郎、)及ヒ石川正敬、(又四郎、)勤王證書ヲ先鋒總督ニ上ル、尋テ堀直意等(牧野土佐守、長蟲八左衞門、服部中、諏訪甲斐守、竝ニ舊旗下士、)五人モ又之ヲ上ル。

○南部利剛、(美濃守、盛岡藩主、)老臣楢山某(佐渡、)等、京ニ赴キ、兵器ヲ齎スヲ以テ、先鋒總督ニ就キテ、其允可ヲ請フ、又松前德廣(志摩守、館藩主、)ノ弟隆廣、(其子代、)京ニ入ラントシ、矢橋某(子之太郎、舊旗下士、)其邑(江州栗太郡蜂屋村、)ニ還ラントシ、竝ニ通行ノ劵ヲ請フ。

○大原俊實、兵艦ヲ率ヰ横濱港ニ入ル。

二十四日、大總督府、先鋒總督ニ牒シテ、横濱ノ事情ヲ報シ、營ヲ鎌倉ニ移サシム、又通關印票ヲ交付ス、總督乃チ諸關ノ衞兵ニ令シテ、譏察ノ方ヲ申定ス。

○先鋒總督、將ニ明日ヲ以テ軍ヲ鎌倉ニ進メントス、因リテ紀伊藩兵ヲ留メテ、沼津及ヒ其旁近ヲ警守シ、吉田、沼津二藩ヲシテ、之カ應援タラシム。

○三島祠官矢田部某等、書ヲ先鋒總督ニ上リ、嚮導兵タランコトヲ請フ、之ヲ聽ルス。

第九

自明治元年三月廿五日
至同　晦日

三月二十五日、參謀西鄕隆盛、德川慶喜處分條款ノ批可ヲ得テ、京師ヨリ至ル、大總督、乃チ先鋒總督ニ命シ、江戸ニ赴キ、勅旨ヲ傳エシム、又海軍先鋒大原俊實ニ復書シテ、進討ノ延期ヲ報シ、横濱港内ヲ鎭輯セシム。

○是ヨリ先、大總督府、英國公使ノ來謁ヲ許ス、是日、筑前藩兵ヲシテ淸水港ヲ守ラシメ、本港人民ニ諭シテ、動搖スルコト勿ラシム、又江川英武ニ熱海ヲ警守セシム、既ニシテ公使來ルヲ果サス。

○東山道總督岩倉具定、書ヲ大總督ニ上リ、進討ヲ請フ、尋テ中軍諸隊長モ亦進軍ヲ乞フ。

○是ヨリ先、大總督府、松井康英ヲシテ名古屋ニ詣リ、命ヲ竢タシム、尋テ其舊幕府ノ要路ニ在リシヲ以テ、之ヲ責問ス、是日、康英書ヲ上リ、其罪ヲ謝ス。

○先鋒副督、甲府城ヲ撿シ、水野忠敬ニ命シテ、假ニ番士以下ノ俸給ヲ定メ、且其施政ノ條款ニ批答ス、又肥後藩兵ヲシテ本地ヲ警守セシム。

二十六日、大總督府、東山道先鋒總督ニ移牒シ、徳川慶喜ノ處分ヲ報シ、且松井康英、松平忠誠、反正恭順ノ實ヲ推褒セシム、是日、忠誠書ヲ督府ニ上リ、徳川氏ノ爲メニ寛典ヲ乞フ。

○海軍先鋒大原俊實、島義勇（團右衛門、肥前藩士）ヲシテ勝義邦ニ說キ、軍艦ヲ納レテ歸順セシム、義邦之ヲ辭ス。

二十七日、一橋茂榮及ヒ徳川慶喜ノ臣河津祐邦（若年寄）等、大總督府ニ詣リ、慶喜ノ爲ニ哀ヲ乞フ、親子内親王亦書ヲ先鋒總督橋本實梁ニ致シテ、茂榮哀請ノ事ヲ託ス。

○是ヨリ先、戸川達敏（主馬助、舊旗下士）、其支族某（右近）ト海路京ニ赴ク、是日、家臣、先鋒總督ニ就キテ其事由ヲ陳シ、且通關ノ劵ヲ請フ。

二十八日、大總督、諸軍ヲ犒勞ス。

○先鋒總督、鎌倉ニ抵ル、是日、龜山藩ニ令シテ、平塚驛ニ屯セシメ、肥後藩兵ヲ罷メテ、專ラ藤澤驛及ヒ四ツ谷ヲ分守セシム、又二藩ニ命シテ、傍近ノ地ニ哨兵ヲ置ク。

○海軍先鋒大原俊實、進テ品川ニ次ス。（大原重實履歷、海軍先鋒日誌）

○宗義達（對馬守、對馬藩主）、鍋島直彬（備中守、鹿島藩主）等家臣及ヒ久永章正（相模守、舊旗下士）等、勤王證書ヲ先鋒總督ニ上ル、尋テ水野貞尙（岡之介、舊旗下士）等及ヒ武藏總社祠宮モ亦書ヲ上リ、王事ニ服センコトヲ請フ。

二十九日、大總督、一橋茂榮等ニ喩シ、東歸シテ命ヲ竢タシム。

○先鋒總督、部下ニ令シ、明日ヲ以テ軍ヲ進ム、又小田原藩及ヒ藤澤守兵ニ、關門譏察ノ條款ヲ申令ス。

晦日、先鋒總督、程谷ニ抵ル、諸藩兵ニ令シテ、次ヲ逐テ進行セシメ、紀伊藩兵ニ專ラ沼津ヲ警守シ、吉田藩兵ノ應援ヲ罷メテ東進ノ軍ニ屬セシム、又太政官日誌（六編）ヲ鎌倉莊嚴院ニ下付シ、之ヲ諸社寺ニ傳達セシム。

○是月、一橋茂榮家臣等、勤王證書ヲ大總督府ニ上ル、又酒井忠氏ノ家臣江戸ニ在ル者、書ヲ先鋒總督ニ上リ、徳川慶喜ノ爲ニ哀ヲ乞フ。

第十　自明治元年四月朔日 至同 三日

四月朔日、大總督、東山道先鋒總督、以下梁田（下野、）勝沼二役ノ戰捷ヲ賞ス。

○日野資訓（大學、舊高家、）以下十人、（船越景範、日向小傳太、内藤駒次郎、安藤左京、落合鑛太郎、杉浦林之進、堀順三郎、曾我主水、戸田忠篤、）勤王證書ヲ大總督府ニ上ル、又大河内某（孫三郎、舊旗下士、）勤王證書ヲ先鋒總督ニ上ル。

○先鋒總督進テ池上本門寺ニ次シ、尾張、肥後、備前、龜山（伊勢、）四藩兵ヲ轉進シ、江戸屯兵ノ地及其向フ所ヲ申稟セシメテ、之ヲ定ム。

○先鋒總督、米倉昌言ニ命シ、兵ヲ横濱ニ抵リ、舊神奈川奉行水野良之（若狹守、）ニ代ラシム、尋テ令シテ其期ヲ延フ。

二日、大總督、筑前、吉田（三河、）以下六藩兵ノ操練ヲ、駿府城中ニ觀ル。

○大總督、松井康英ノ嫌疑ヲ解キ、入京ヲ許ス。

○先鋒副總督柳原前光、甲斐ヨリ至リ本門寺ノ營ニ會ス、總督乃チ江戸城ニ入ルノ期ヲ議定ス。

○舊代官松村長爲（忠四郎、）以下六人、（大竹左馬太郎、安藤傳藏、佐々井半十郎、小川達太郎、小笠原甫三郎、）前後勤王證書ヲ先鋒總督ニ上ル、總督竝ニ命シテ、東進諸兵ノ餽餉驛遞ヲ辦セシム。

三日、大總督、駿府城代本多正訥ニ命シ、保々某（七郎兵衛、舊幕歩兵頭取、）ヲ保管セシム、既ニシテ之ヲ宥ス、是日、吉田藩、清水港（駿河、）儲備ノ粮米ヲ正訥ニ交付ス。

○總裁局、書ヲ大總督府ニ致シ、江戸物價騰貴、細民饑餓スル者アルヲ以テ、仙臺藩ニ命シ、米斛ヲ豫備シ、督府救恤ノ用ニ供セシムルヲ報ス、既ニシテ督府命シテ米五萬苞ヲ江戸ニ轉漕セシム、仙臺藩之ヲ辭ス。

○是ヨリ先、丹羽長國（左京大夫、二本松藩主、）疾アリ、疎族一柳國敬（四郎、舊旗下士、）ヲシテ代覲セシメンコトヲ京師ニ請ヒ、聽サレ、將ニ入京セントス、先發ノ臣品川驛ニ抵リ、先鋒兵ノ遏ムル所ト爲ル、其臣京ニ在ルモノ、大總督府ニ詣リテ之ヲ申ス、督府、長國ノ貳アルヲ疑フ、是日、先鋒總督ニ移書シ、國敬ノ至ルヲ俟テ之ヲ許サシム。（國敬、時ニ二本松ニ在リ。）

○先鋒二督、大總督ノ命ヲ奉シ、明日、輕裝江戸城ニ入ルヲ諸軍ニ告ケ、其衛兵ヲ停ム、又之テ東山、北陸二道總督及田安慶頼ニ告ク、是日、徳川慶喜モ亦之ヲ其家臣ニ告ケ、敬禮ヲ失フコト勿ラシメ、且其操練ヲ停ム。

○土屋寅直、（采女正、土浦藩主、）其子擧直、（余七麿、）連署シテ勤王誓書ヲ先鋒總督ニ上リ、寅直疾アリ、擧直ヲシテ代覲セシメンコトヲ請フ、又本多忠鵬、（修理、西端藩主、）勤王證書ヲ上ル。

第十一 自明治元年四月四日 至同 六日

四月四日、先鋒二督、輕裝江戸城ニ入リ、勅旨五條ヲ田安慶頼ニ傳ヘ、十一日ヲ期シテ擧行セシム、一日、慶喜ノ死ヲ減シ、水戸ニ屏居ス、二日、江戸城ヲ獻ス、三日、軍艦銃砲ヲ獻ス、四日、城内居住ノ臣ヲ屏ク、五日、與謀ノ臣ヲ罰ス、慶頼謹テ命ヲ奉シ、慶喜ニ傳ヘテ奉答センコトヲ請フ、二督乃之ヲ大總督及東山、北陸二道總督ニ報ス。

○先鋒總督、安部信發ニ命シ、川崎驛ヲ嚴守セシム、因リテ肥後藩ノ藤澤驛警守ヲ罷ム、尋テ津藩ニ命シ、信發ト倶ニ川崎驛ヲ守ラシム。

○北陸道先鋒總督高倉永祜、副總督四條隆平、江戸ニ入リ、東本願寺ニ次ス。○北征紀事

五日、先鋒總督、勅旨及演達書ヲ諸軍ニ示シ、仍警戒セシム、是日、徳川慶喜モ亦之ヲ其臣隷ニ示シ、謹テ違フ勿ラシム。

六日、軍防局、大總督府ニ復書シ、紀伊、久留米以下六藩兵ニ、第二應援ヲ命スルヲ報ス。

○先鋒總督、賊諜ヲ捕ヘシヲ大總督府ニ報ス、參謀西郷隆盛モ亦江戸ノ形勢ヲ報シテ、督府ノ進軍ヲ促ス、明日、總督、賊ノ口

供ヲ示シテ、諸軍ヲ戒飭シ、餘黨ヲ逮捕セシム。

○東山道總督、會、桑等ノ賊、宇都宮城ヲ襲ハントスルヲ、大總督府ニ報ス、是日、督府、答書シテ今後ノ動靜ヲ報セシム。

○是ヨリ先、伊達慶邦中將、仙臺藩主、書ヲ京師ニ上リ、五不可ヲ陳シテ東征ノ師ヲ弭メ、慶喜以下ノ處分公議ニ出ンコトヲ請ントス、果サス、是日、其書ヲ大總督府ニ上ル、督府之ヲ卻ク。

○松平忠誠下總守、忍藩主、疾アリ、家臣、書ヲ大總督府ニ上リ、其入京遲延ヲ謝シ、且東山道ノ軍ニ服事スルヲ以テ、入京ノ進止ヲ稟請ス、督府乃チ命ヲ東山道總督ニ傳ヘ、忠誠ノ嫌疑ヲ解キ、入京ヲ許シ、仍王事ニ勤メシム。

○先鋒總督、癸丑以後、死事者ノ後嗣存錄、及禁裏ノ字、竝ニ菊章濫用ノ禁等、布告四通ヲ沿道ノ各藩、及舊代官ニ傳達ス。

○大久保教義、書ヲ先鋒總督ニ上リ、東征諸兵ノ餽餉傳遞ノ事ニ服スルヲ以テ、兩荻野中荻野、下荻野、以下四村ノ助役ヲ辭ス、是日、之ヲ聽ス。

第十二 自明治元年四月七日 至同 十日

四月七日、大總督、明日ヲ以テ軍ヲ進メントスルヲ諸軍ニ告ケ、且岡崎藩ニ命シテ、警守ヲ嚴ニセシム、又餽餉ノ費額ヲ申

令ス。
○江戸ノ形勢ニ因リ、太政官代ヲ大阪ニ移サントスルヲ以テ、總裁局、書ヲ大總督府ニ致シ、鎭定遲速ノ心算ヲ問フ、是日、督府、復書シテ、本月ヲ出テス鎭定スヘキヲ答フ。
○會計事務局判事小原忠寬、（仁兵衛、大垣藩士、）參謀林通顯ニ復書シ、金穀ヲ轉漕スルヲ報ス。
○北陸道先鋒總督、北越鎭撫ノ梗概ヲ大總督府ニ條陳ス、又江戸ニ入ルノ狀、及部下ノ寡兵ヲ報シテ、新發田藩兵ヲ假ランコトヲ乞フ。
○先鋒二督、書ヲ海軍先鋒ニ致シ、德川氏軍艦收領ノ事ヲ管セシム。
○先鋒總督、松村長爲以下六人ニ命シ、假ニ舊管ノ地ヲ管シ、且賊ニ備ヘシム。
○田安慶頼、書ヲ先鋒總督ニ呈シ、慶喜勅旨ヲ奉シ、十日水戸ニ赴クヲ申ス、是夜、慶喜、其臣小野廣胖、（内膳、舊幕府勘定奉行並、）瀧川具知（播磨守、舊大目付、）以下十人ヲ罰ス、尋テ戸川安愛、（伊豆守、）松平信敏（大隅守並ニ大目付、）以下十一人ノ職ヲ解ク。
○井上正順、（宮内、高岡藩主、）書ヲ先鋒總督ニ上リ、王事服從並ニ召命ニ應シ、上京センコトヲ請フ、之ヲ聽ス、又青山幸宜（峯之助、郡上藩主、）ノ家臣、勤王證書ヲ上ル。
八日、大總督、蒲原驛ニ次シ、進軍ヲ先鋒總督ニ報ス。
○先鋒總督、沼津驛屯在ノ紀伊藩兵ニ令シ、大總督ノ駿府進發ニ先ツ一日、進テ江戸ニ入ラシム、因リテ沼津藩兵ニ命シ、守備ヲ嚴ニセシム。
○久松勝行（大藏少輔、多古藩主、）書ヲ先鋒總督ニ上リ、王事ニ服センコトヲ請フ、又井上某（志摩守、舊旗下士、）ノ家臣、勤王證書ヲ上ル。
九日、大總督沼津驛ニ次ス、是日、第二應援新發田藩兵至ル、總督乃チ其後衞ヲ命ス。
○內田正學、（主殿頭、小見川藩主、）書ヲ大總督府ニ上リ、勤王ノ意ヲ陳シ、原田某（熊太郎、舊旗下士、）勤王證書ヲ上ル、又松平忠誠家臣、勤王貳ナキヲ先鋒總督ニ申シ、土井利與（大炊頭、古河藩主、）ノ家臣勤王證書ヲ上ル。
○德川氏ノ海陸軍士等、書ヲ大久保忠寬、（越中守、舊會計總裁、）勝義邦ニ託シ、先鋒總督ニ上リ、假ニ江戸城ヲ田安家達（龜之助、）ニ管セシメ、軍艦銃器ハ德川繼嗣及封邑ノ定マルヲ待テ、須用ノ餘ヲ獻センコトヲ請フ、省セス、因テ二人參謀ト城地、軍艦等進獻ノ事宜ヲ商議ス、明日、議乃チ決ス。
○先鋒總督、僧某、備前藩營ニ投スル所ノ密疏ヲ諸軍ニ示ス。
○是ヨリ先、松平頼胤、（玄蕃頭、高松藩主、頼聰ノ父、）其子頼聰（讃岐守、）ノ朝譴ニ觸レシ

ヲ以テ、自責シテ江戸ノ邸ニ屏居ス、是日、書ヲ先鋒總督ニ上リ、頼聰ノ宥命ヲ謝シ、歸藩シテ仍謹愼センコトヲ請フ。

○北陸道先鋒總督高倉永祜、副總督四條隆平、營ヲ六郷邸ニ移ス。北征紀事

○親子内親王、江戸城ヲ出テ、清水ノ邸ニ移ル。

十日、大總督、箱根驛ニ次ス。

○先鋒總督、明日江戸城ヲ收メントスルヲ諸軍ニ告ク、又德川氏歩兵等、逋逃ノ報アルヲ以テ、明日、城下ニ整列シテ、不虞ニ備ヘシム。

○先鋒總督、東征ノ旨趣ヲ田安慶頼ニ傳ヘ、江戸ノ士民ニ布告シ、各其堵ニ安セシメ、且其來訴ヲ許ス。

○田安慶頼、慶喜、水戸ニ赴クノ期一日ヲ延フルヲ、先鋒總督ニ申ス、總督乃チ之ヲ大總督府ニ報シ、且德川麾下及軍艦ノ擧動ヲ報ス。

○久世廣文、隱岐守、關宿藩主、勤王證書ヲ先鋒ニ上ル、又内田正學等ノ家臣、勤王二ナキヲ申シ、或ハ王事ニ服センコトヲ請フ。

○鎌倉建長寺、干梅ヲ先鋒總督ニ獻ス、是日、總督謝書ヲ與フ。

第十三　明治元年四月十一日

四月十一日、大總督、小田原驛ニ次シ、諸軍ヲ戒メ、不虞ニ備ヘシム。

○東山道先鋒總督岩倉具定、大夫具視ノ第二子、副總督岩倉具經八千麿、具視ノ第三子、連署シテ江戸鎭撫、竝ニ會津討伐ノ意見ヲ、大總督府ニ建議ス。

○土屋擧直、父寅直ニ代リテ入京セントシ、小田原驛ニ抵リ、大總督ノ進軍ニ會ス、因リテ上書シテ進止ヲ請フ、督府、其慶喜ノ骨肉ナルヲ以テ之ヲ詰ル、擧直大義滅親ノ意ヲ陳ス、督府乃チ入京ヲ許ス。

○先鋒總督、江戸城竝ニ銃砲ヲ收メ、尾張藩ヲシテ假ニ城ヲ守リ、肥後藩ニ歩兵ヲ管セシム。

○菅谷某、主税介、勤王證書ヲ先鋒總督ニ上リ、安藤某傳九郎、竝ニ旗下士、等王事ニ服センコトヲ請フ。

○海軍先鋒軍艦ヲ收メントス、榎本武揚、和泉守、舊幕府海軍副總裁、風濤ニ託シテ之ヲ辭シ、書ヲ上リ、士心ヲ鎭壓スルト稱シ、是夜、船艦ヲ率ヰテ館山安房、ニ走ル、歩兵等亦昨夜ヨリ相率ヰテ營ヲ逸ス、其市川下總、ニ走ルモノ、大鳥純彰圭介、舊幕府歩兵奉行、ヲ推シテ魁首ト爲シ、其木更津上總、ニ走ルモノ、福田道直八郎右衞門、撒兵頭、ヲ魁ト爲ス。

○德川慶喜水戸ニ赴ク。

第十四　自明治元年四月十二日 至同十四日

四月十二日、大總督、藤澤驛ニ次シ、諸軍ニ令シテ輿轎ヲ停ム。

○先鋒總督、津藩兵ノ川崎驛警守ヲ罷メ、東進シテ牙營ヲ守ラシメ、安部信發ヲシテ仍木驛ヲ嚴守セシム、鎌倉屯在ノ尾張、備前二藩兵ニ令シ、並ニ進テ其本隊ニ合セシム。

○水野忠弘（眞次郎、山形藩主、）酒井忠美（鉎次郎、勝山藩主、後加知山ニ移封ス、）並ニ忠美ノ家臣、勤王證書ヲ先鋒總督ニ上ル、又米津政敏（伊勢守、長瀞藩主、後大網ニ移封ス、）六師應援ノ命ヲ奉スルヲ以テ、入京ノ可否ヲ稟請ス。

○水野勝知（日向守、結城藩主、）ノ臣、書ヲ先鋒總督ニ上リ、在封ノ臣、廢立ヲ謀ルモノアリ、勝知之ヲ掃蕩ス、既ニシテ勝知、東山道官軍ノ討スル所ト爲リ、上總ノ分邑ニ走ル、事奸臣ノ誣愬ニ出ルヲ申シ、爲メニ審判ヲ請フ。

十三日、大總督、川崎驛ニ次シ、明日ヲ以テ江戸ニ入ントス、是夜、先鋒參謀海江田信義、書ヲ參謀林通顯ニ致シ、歩兵ノ騷擾ヲ報シテ、駐軍ヲ請フ。

○先鋒二督、江戸城ヲ撿シ、久留米藩邸ニ次ス。

○田安慶賴、軍艦進獻ノ期ヲ緩フセンコトヲ、海軍先鋒ニ請フ、先鋒總督乃チ慶賴ヲ責讓シ、自ラ逋艦ヲ追ハシム、參謀モ亦總督ノ命ヲ奉シ、書ヲ慶賴ノ老臣ニ遣リ、海軍士等ノ哀請、朝旨ニ背クヲ論シ、大久保忠寬、勝義邦以下ニ申諭シ、亟ニ軍艦ヲ獻セシム。

○本莊宗武（彈正忠、宮津藩主、）海路入京セントシ達セス、横濱港ニ在リ、將ニ江戸ノ邸ニ還ントス、是日、書ヲ先鋒總督ニ上リ、緣海守兵ニ告知センコトヲ請フ。

○秋田映季（萬之助、三春藩主、）江戸ニ在ル兵ヲ還シ、封境ノ守備ヲ修メ、奥羽鎭撫使ニ屬センコトヲ京師ニ請ヒ、聽サル、是日、之ヲ先鋒總督ニ申ス。

十四日、大總督、池上本門寺ニ次ス、海軍先鋒大原俊實來リ候ス。

○東山道先鋒總督、書ヲ大總督府ニ致シ、流山（上總、）結城（下總、）二驛ノ戰狀、並ニ賊魁近藤昌宜（勇、舊幕府新選組長、時ニ大久保大和ト稱ス、）ヲ捕獲セシヲ報ス。

○板倉勝尙（甲斐守、福島藩主、後勝巳ニ改メ、重原ニ移封ス、）ノ家臣入京セントシ、川崎驛ニ抵リ、通關ノ劵ヲ大總督府ニ乞フ、酒井忠美モ亦、之ヲ先鋒總督ニ乞フ、是日、總督並ニ之ヲ與フ。

○肥後藩管スル所ノ歩兵動搖スルヲ以テ、先鋒總督更命シテ、薩摩、肥後以下六藩ニ分屬ス、而シテ肥後藩所屬ノ者暴戾ナリ、總督乃チ部下、並ニ東山、北陸二道先鋒兵ノ部署ヲ定メテ

不虞ニ備ヘ、是日、將ニ之ヲ撃ントス、步兵輒チ順ニ歸ス、尋テ總督、又更メテ薩摩、紀伊以下五藩ニ分管ヲ命ス。

○先鋒總督、三軒茶屋（武藏）警守ノ尾張藩兵ニ令シ、進テ其本隊ニ合セシム。

○先鋒總督稻垣長行、（平右衞門、鳥羽藩主）入京宥免ノ令ヲ、先鋒諸藩ニ傳達ス。

○久世廣文、書ヲ先鋒總督ニ上リ、封邑逋賊ノ虞アルヲ以テ、上京ノ期ヲ緩フシ、歸藩シテ之ニ備ヘンコトヲ請フ、是日、總督之ヲ聽シ、命シテ士民ヲ鎭輯シ、守備ヲ嚴ニセシム、因リテ古藩ニ令シ、緩急互ニ應援ヲ爲サシム。

○安部信發、治所ヲ半原（三河）ニ徙サンコトヲ京師ニ請ヒ、聽サル是日、之ヲ先鋒總督ニ申ス。

第十五　上　（自明治元年四月十五日 至同 十七日）

四月十五日、大總督江戸ニ入リ、增上寺ニ次ス、先鋒二督、使ヲ遣シテ之ヲ品川驛ニ迎ヘ、且來リ候ス、又井上正順、重臣ヲ遣シ起居ヲ候ス。

○明日、大總督江戸城ニ入ントス、先鋒總督、乃チ部下及ヒ東山、北陸二道ノ兵ヲ部署シテ、諸門ヲ警守セシメ、舊代官佐々井某（半三郎）ヲシテ、大總督府諸軍ノ饋餉ヲ辨セシム、又入城ノ延期ヲ諸軍ニ告ク、明日、德川慶喜モ亦督府ノ入城ヲ告知シ其臣隸ヲ戒飭ス。

○軍防局、書ヲ先鋒總督ニ復シ、諸布告ヲ傳達スル、各藩ハ辨事局之ヲ傳ヘ、社寺ハ總督部下ノ諸藩ヲシテ傳ヘシムルヲ答フ。

○津輕承昭、（越中守、弘前藩主）宗義達等ノ家臣、並ニ勤王證書ヲ先鋒總督ニ上ル。

○幸手不動院、書ヲ先鋒總督ニ上リ、傍近盜多キヲ以テ、兵器ヲ備ヘ、自ラ衞ンコトヲ請フ、是日、之ヲ聽ス。

十六日、大總督、東海、東山、北陸三道ノ先鋒總督、並ニ海軍先鋒及ヒ參謀ヲ召集シ、軍事ヲ議ス。

十七日、大總督府、金銀兩座ヲ收メ、新田藩兵ヲシテ之ヲ守ラシム、既ニシテ督府、軍費不貲ヲ以テ、奏請シテ通貨ヲ鑄造ス。

第十五　下　（自明治元年四月十七日 至同 十九日）

○大總督府、書ヲ京師ニ遣リ、昨日議スル所ノ欵條、及ヒ軍事繁劇ヲ以テ、參謀補助寺島直方ヲ參謀ト爲シ、木村重任（三郎、久留米藩士）ヲ參謀補助ト爲ス等ノ事ヲ報ス。

○軍防局、軍行轎ヲ停ムルノ令、及ヒ從征兵士ノ饋餉費額ヲ申

シ、大總督府ニ致ス、是日、督府、之ヲ麾下ノ諸兵、竝ニ三道ノ總督ニ傳達ス、先鋒總督即チ之ヲ諸軍ニ傳ヘ、又宮堂上以下、諸道來往ノ際、不正ノ所爲ヲ告ケシムル等ノ布告五通、太政官日誌（七八編）、ヲ沿道ノ各藩、及ヒ舊代官ニ轉達ス。

○奥羽鎭撫總督九條道孝（左大臣）、使ヲ大總督ニ遣シ、莊内藩城守ノ備ヘヲ爲スヲ報シ、軍艦ノ應援ヲ乞フ、軍防局、又書ヲ總督ニ致シ、久留米、小倉二藩ノ東征應援ヲ罷メ、奥羽ニ赴援セシメントス、督府竝ニ赴援セシメ難キヲ答フ。

○徳島藩老臣稻田邦植（九郎兵衛）、ノ兵（隊長佐和紀、拜村吉左衛門、兵士百五十人）、至ル、大總督府乃チ命シテ牙營ヲ守ラシム。（稻田邦植從軍事蹟）

○横濱裁判所總督東久世通禧（左近衛權中將）横濱港ニ至ルヲ、大總督府ニ報ス。

○賊徒、江戸以東ノ諸州郡ニ嘯聚スルヲ以テ、先鋒總督參謀加勢安場保和ヲ以テ、監軍ト爲シ、津、大村二藩兵ヲ率ヰ、往キテ之ヲ鎭撫セシム、因テ房總諸藩ニ令シ、兵ヲ發シテ之ニ應援セシム、又檄ヲ武、房、總、常諸藩、及ヒ舊代官ニ傳ヘテ、兇徒ヲ緝捕セシム。

○先鋒總督、江戸外郭諸門ノ譏察ヲ弛ム。

○先鋒總督、田安慶賴ヲシテ、命ヲ大久保忠寛、勝義邦ニ傳ヘ、

逋艦追跡、竝ニ進獻ノ事ヲ委ス、尋テ二隻、品川海ニ還ル、義邦乃チ其一隻ニ搭シ、往テ之ヲ諭ス、是日、船艦盡ク品川海ニ至ル。

○加藤明實（能登守、水口藩主）、支族加藤某（鶴吉郎、舊旗下士）、等ノ爲メニ、書ヲ大總督府、竝ニ先鋒總督ニ上リ、王事ニ服センコトヲ請フ、大岡忠貫（主膳正、岩槻藩主）、モ亦、書ヲ先鋒總督ニ上リ、勤王貳無キヲ陳シ、且山道ノ軍ニ屬シ、巡捕ノ事ニ服スルヲ申ス、又戸田某（銀次郎、舊旗下士）、ノ家臣勤王證書ヲ上ル。

十八日、先鋒總督、尾張藩兵ニ命シ、東山道ノ兵ニ代リ、半藏、田安、清水、喰違四門ヲ守ラシメ、且其三門（半藏、清水、喰違）ヲ鎖サシム。

○太田資美、京ニ在リ、官爵ヲ拜受ス、乃チ家臣ヲ遣シ、恩ヲ先鋒總督ニ謝ス、又大給近說、大總督府ニ上ル所ノ勤王誓詞ヲ上ル。

○新莊直敬（下野守、麻生藩主）、京師ノ批可ヲ得、將ニ入京セントス、是日、江戸ニ抵リ、書ヲ先鋒總督ニ上リ、勤王貳ナキヲ申ス、尋テ封邑警備ノ命ヲ奉ス、因リテ歸藩センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

十九日先鋒二督、大總督ノ命ヲ田安慶賴ニ傳ヘ、軍艦四隻ヲ獻セシメ、其餘ヲ徳川氏ニ賜フ、尋テ之ヲ收ム。

第十六　自明治元年四月十九日 至同 廿二日

四月十九日、徳川慶篤、(權中納言、水戸藩主、)書ヲ先鋒總督ニ上リ、慶喜監護措置ノ命ヲ請フ、是日、總督、大總督府ノ命ヲ傳ヘ、慶喜ニ臣隷二十人以下ヲ付シ、餘ハ別ニ謹愼セシム、又慶篤、守兵ヲ封境ニ置キ、譏察ヲ嚴ニスルヲ申ス、之ヲ聽ス。

二十日、大總督、手書ヲ三道ノ先鋒總督竝ニ海軍先鋒ニ遣リ、明日江戸城ニ入ルヲ報シ、且麾下ノ諸兵ニ告知ス、先鋒總督復タ之ヲ部下、竝ニ田安慶頼ニ傳フ、慶喜モ亦之ヲ其臣隷ニ告ク、是日、本多忠貫、(河内守、神戸藩主、)重臣ヲ大總督府ニ遣シ起居ヲ候ス。

○北陸道先鋒總督、書ヲ大總督府ニ遣リ、再ヒ新發田藩兵ヲ假ランコトヲ乞フ。

○横濱裁判所總督東久世通禧、書ヲ大總督府ニ致シ、神奈川奉行所竝ニ横須賀製鐵所等ヲ收ムルヲ報シ、且事宜ヲ條陳ス。

○先鋒總督、再ヒ津藩兵ニ命シ東進セシム、因リテ其虎門警守ヲ罷メ、龜山藩ヲ以テ之ニ代フ、又大村藩ノ山下門警守ヲ罷メ、尾張藩ヲ以テ之ニ代ヘ、且之ヲ鎖サシム。

○土屋擧直、賊ヲ其邑ニ撃チシ状、及ヒ兵ヲ下總ノ別邑ニ遣リ警守ニ充ルヲ、先鋒總督ニ申ス、尋テ賊ヲ撃チシ状ヲ大總督府ニ申ス。

○酒井忠惇(雅樂頭、姫路藩主、)ノ家臣、書ヲ先鋒總督ニ上リ、其主ノ家脊、及ヒ臣隷ヲ藩地ニ遣リ、謹愼セシメンコトヲ請ヒ、且通路ノ印票ヲ乞フ、又吉田某、(宗平、)百瀬某(章蔵、竝ニ舊代官手附、)竝ニ勤王證書ヲ上ル。

二十一日、大總督、江戸城ニ入ル、是日、復タ三道ノ先鋒總督、竝ニ參謀ヲ會シ、軍事ヲ議ス。

○先鋒總督、大總督ノ命ヲ田安慶頼ニ傳ヘ、舊町奉行石川利政、(河内守、)佐久間信義(鐇五郎、)ヲ以テ、假ニ市中取締ト爲ス、是日、米倉昌言ノ横濱取締ヲ罷ム。

二十二日、大總督、三道ノ先鋒總督、竝ニ參謀、及ヒ諸藩ノ隊長ヲ召シテ、之ヲ慰勞シ、且成功ヲ勗メシム、又庶民安撫討賊部署ノ意見ヲ問フ。

○松平正親、(太郎、舊幕府陸軍奉行、)往テ下野ノ賊ヲ鎭撫センコトヲ、大總督府ニ請フ、之ヲ聽ス、是日、先鋒總督、書ヲ軍監安場保和、(時ニ出テ下野ニ在リ、)及ヒ東山、北陸二道ノ總督ニ致シテ、出征ノ諸兵ニ告ケシム、正親竊ニ金ヲ齎シ、賊魁大鳥純彰ニ遺ル。

○是ヨリ先、淺野茂長(安藝守、安藝藩主、)朝命ヲ奉シテ、福山ノ藩論ヲ質ス、藩主阿部正方(主計頭、)朝旨遵奉他ナキヲ陳ス、是日、正方ノ家臣、其書ヲ先鋒總督ニ上ル。

○牧野貞利(越中守、笠間藩主、)疾アリ、其子貞寧(金丸、)ヲシテ代覲セシメントス、適傍國賊警アリ、山道督府ノ徵發ニ應スルヲ以テ、書ヲ先鋒總督ニ上リ、鎭定ノ後入京セシメンコトヲ請フ、是日、之ヲ聽ス。

○先鋒總督井上正巳(辰若丸、下妻藩主、)ノ方向ヲ質ス、是日、家臣代リテ書ヲ上リ、勤王ノ意ヲ申ス、又長谷川某(岩太郎、舊旗下士、)勤王證書ヲ上ル。

○馬込某(勘解由、道中傳馬役、)宮邊某(五郎三郎、江戸傳馬役、)等、舊驛遞措辦ノ法ヲ先鋒總督ニ申シ、且無賃傳遞ヲ辨センコトヲ請フ。

第十七 自明治元年四月廿三日 至同 廿六日

四月二十三日、大總督府、海軍先鋒大原俊實ニ令シ、部下ノ諸兵ヲ發シテ、深川ヲ警守セシム、俊實乃チ薩摩、肥後、肥前、阿波、筑後五藩兵ヲ分テ之ヲ遣ル、督府又筑前藩兵ニ命シテ、兩國回向院ニ屯戍セシメ、吉川藩兵ヲシテ、坂下門ヲ警守セシム。

○大總督府、薩摩、紀伊以下十藩ニ令シテ、兵員ヲ錄上セシム。

○先鋒總督監軍安場保和ニ牒シテ、東山道總督明日ヲ以テ江戸ヲ發シ、宇都宮ニ赴クヲ報シ、保和及ヒ津、大村二藩兵ヲシテ、其節度ニ從ハシム。(時ニ保和二藩兵ヲ督シテ下野ニ在リ。)

○賊徒、信濃地方ヲ劫掠スルノ聞アルヲ以テ、先鋒總督、尾張藩兵ヲ遣シテ、中野(信濃、)關門ヲ嚴守シ、松代藩兵ト倶ニ賊徒ヲ輯捕セシム、又中津藩兵ノ三島驛警守ヲ罷メ、命シテ速ニ甲府ニ轉進セシメ、松下重光(嘉兵衞、寄合、)ヲシテ代リテ三島驛ヲ守ラシム、

○先鋒總督、田安慶頼ニ命シテ、德川氏臣隷ノ姓名祿秩ヲ錄上セシム。

○内藤信民(紀伊守、村上藩主、)ノ老臣江戸ニ在ル者、書ヲ先鋒總督ニ上リ、信民封疆會津ニ隣接シ、邑民騷擾スルヲ以テ、姑ク入覲ノ期ヲ緩クセンコトヲ請フ。

○是ヨリ先、賊兵下館藩ヲ劫掠ス、藩主石川總管(若狭守、)笠間ニ遁ル、是日、老臣ノ江戸ニ在ル者、書ヲ先鋒總督ニ上リテ、其狀ヲ申シ、速ニ軍ヲ進メテ賊徒ヲ鎭定センコトヲ請フ、尋テ總管水戸ニ投シ、書ヲ上リテ姑ク水戸ニ留寓センコトヲ請フ。

○伊東祐將(左京大夫、飫肥藩主、)ノ臣隷江戸ニ在ル者、書ヲ先鋒總督ニ上リテ、祐將勤王貳ナキノ意ヲ陳ス。

○浪士太田滿頼、(盛衞允、)中川信義(要、)以下數人連署シテ、書ヲ先鋒總督ニ上リ、官軍ニ加ヘンコトヲ請フ。

二十四日、是ヨリ先、松平容保王師ニ抗スルヲ以テ、北陸道先鋒總督高倉永祜ヲ以テ、北陸道鎭撫總督兼會津征討總督ト爲

シ、先鋒兼鎭撫副總督四條隆平ヲ新潟裁判所總督兼鎭撫副總督ト爲シ、越後ニ赴カシム、(本月十九日ニアリ、)是日、軍防局、書ヲ大總督府ニ致シテ之ヲ報ス。

○大總督府、眞田幸民ニ令シ、傍近ノ諸藩兵ヲ糾合シテ、速ニ信濃地方ノ賊徒ヲ掃蕩セシム、因テ大隊旗一旒ヲ賜フ。

○大總督府、小倉藩兵ノ品川驛ニ在ル者ニ令シテ、江戸ニ至ラシメ、新發田藩兵ノ和田倉門警守ヲ罷メ、更ニ坂下、四谷、市ケ谷三門ヲ守ラシメ、薩摩藩兵ヲシテ和田倉門ヲ守ラシム、又通門印鑑ヲ改ム。

○諸藩、往々稟准ヲ經スシテ、兵使ヲ外國人ニ購買セントスル者アルヲ以テ、横濱裁判所、書ヲ大總督府ニ致シテ、嗣後兵使ヲ購買セントスル者ハ、必ス太政官、若クハ督府ノ允准ヲ受ケシメント請フ。

○是ヨリ先、牧野貞利、東山道總督府ノ命ヲ奉シテ、兵ヲ下野ニ出シ、賊兵ト小山驛ニ戰ヒ利アラス、兵ヲ封境ニ收ム、賊將ニ進テ笠間城ニ迫ラントス、貞利援ヲ水戸藩ニ乞フ、水戸藩亦封疆有虞ノ故ヲ以テ之ヲ辭ス、貞利乃チ書ヲ大總督府ニ上リテ、其狀ヲ申シ、速ニ軍ヲ進メテ、賊徒ヲ鎭壓センコトヲ請フ、既ニシテ姦臣隙ニ投シ、陰ニ賊兵ニ内應センコトヲ謀ル、事發覺ス、貞利乃チ其黨數人ヲ捕ヘテ之ヲ幽シ、其狀ヲ先鋒總督ニ申シ、餘黨未タ捕ニ就カサルヲ以テ、姑ク徴發ヲ緩クセンコトヲ請フ。

○田安慶頼、大總督ニ謁シ、起居ヲ候ス、(東山紀略)

○先鋒總督、津藩兵ノ牙營警守ヲ罷ム。

○井上正巳將ニ京師ニ朝セントス、適賊徒封疆ニ出沒シ、邑民騷擾スルヲ以テ、書ヲ先鋒總督ニ上リテ、其狀ヲ申シ、入覲ノ期ヲ緩フセンコトヲ請フ、之ヲ聽シ、命シテ其狀ヲ京師ニ奏上セシム。

○京極朗徹、(佐渡守、丸龜藩主、)岩城隆邦、(左京大夫、龜田藩主、)森忠儀(越後守、赤穗藩主、)ノ臣隷江戸ニ在ル者、書ヲ先鋒總督ニ上リテ、勤王貳ナキヲ陳ス、馬場某(大助、舊幕下士、)以下十一人(舊幕下士菅沼左近將監、小堀權十郎、木下辰太郎、齋藤左京、安部鬪次郎、柴田善五郎、池田保之助、戸川主馬介、有馬阿波守、井上志摩守、)モ亦勤王證書ヲ上ル。

○東山道總督岩倉具定、副總督岩倉具經、江戸ニ入リ因幡藩邸ニ次ス。(東山道總督府日記)

二十五日、是ヨリ先、酒井忠篤ヲ京師ニ召ス、至ラス、既ニシテ松平容保ニ黨スルノ聞アリ、内國事務局、乃チ書ヲ大總督府ニ致シテ、忠篤ノ向背ヲ問フ。

○大總督府、新發田藩兵ノ金座、及ヒ坂下門警守ヲ罷メ、

小倉藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、吉田藩兵ノ坂下門警守ヲ罷メ、更ニ裏門ヲ守ラシム、又部下ニ令シテ嚴ニ其鹵掠ヲ戒ム。

○先鋒總督牙營ヲ彦根藩邸(櫻田門外)ニ移シ、肥後藩兵ニ命シテ之ヲ警守セシム。

○是ヨリ先、賊兵飯山藩ヲ劫掠ス、松代藩書ヲ甲府城代水野忠敬ニ上リテ、隷兵ノ甲府ニ在ル者ヲ班シ、之ヲ討セント請フ、忠敬乃チ其兵ヲ罷遣ス、既ニシテ甲府守ニ乏シキヲ以テ、忠敬書ヲ先鋒總督ニ致シテ、援兵ヲ乞フ、是日、總督令シテ既ニ中津藩兵ヲ發遣セシヲ以テ、其到ルヲ待チテ守備ヲ修メシム。

○松下重光、書ヲ先鋒總督ニ上リテ、伊豆地方ニ市農兵ヲ編制シ、以テ警急ニ備ント請フ。

○上總人板倉某(清左衛門)、宇佐美某(久左衛門)、連署シテ、書ヲ先鋒總督ニ上リ、米百苞ヲ獻シテ、軍資ニ充ント請フ。

二十六日、大總督府、參謀林通顯ヲ京都ニ遣シテ、速ニ德川氏ノ處分ヲ定メンコトヲ請ヒ、並セテ諸道總督及ヒ參謀ノ意見書ヲ上ル。

○大總督府、書ヲ土屋擧直ニ下シテ、前日勦賊ノ功ヲ賞シ、仍ホ兵ヲ整ヘテ、下野ノ官軍ニ應援セシム。

○東山道參謀、書ヲ大總督府參謀ニ致シテ、宇都宮ノ敗賊、日光山ニ竄匿セシヲ以テ、將ニ軍ヲ進メテ之ヲ討セントスルヲ報ス。

○是ヨリ先、保科正益(彈正忠、飯野藩主)西上シテ草津驛ニ至リ、書ヲ朝ニ上リテ入京ヲ請フ、其松平容保ノ支族ニシテ、宗家ヲ匡救セス、且大總督府ニ請ハサリシヲ以テ、許サス、既ニシテ在京ノ老臣、分疏シテ哀ヲ乞フ、因テ其入京ヲ許シ、謹愼シテ後命ヲ待タシム、是ニ至リ、老臣東下シ、書ヲ大總督府ニ上リ、正益命ヲ請ハスシテ西上セシ罪ヲ謝シ、其謹愼ヲ釋サンコトヲ請フ。

○先鋒總督、諸藩兵ノ袖章ヲ改ム。

○是ヨリ先、賊兵(誠忠隊)流山驛(下總)ニ嘯聚シ、將ニ進テ千住驛ニ逼ラントス、先鋒總督乃チ備前、佐土原二藩、及ヒ稻田邦植ノ兵ヲ遣シテ、之ヲ鎭壓セシム、田安慶頼モ亦使ヲ遣シテ之ヲ招諭ス、既ニシテ賊兵三百七十五人、松戸、千住二驛ニ至リ、兵器ヲ致シテ降ヲ乞フ、是日、慶頼ニ付シテ之ヲ監守セシム。

第十八

自明治元年四月廿七日
至同　閏四月二日

四月二十七日、軍防事務局權判事大村永敏(益次郎、長門藩士)ヲ以テ、判事ト爲シ、東下シテ大總督ヲ輔ケシム、又大總督府ニ令シ、德川氏旗下士ノ歸順、本月十一日以降ニ在ル者ハ、悉ク其上京ヲ遏

メシメ、且諸道ノ官軍ヲ統一シテ、兵機ヲ失フコト勿ラシム。

○大總督府、井上勝（務藩、筑前藩士）ヲ以テ使番ト爲ス。

二十八日、大總督府、重ネテ參謀西郷隆盛ヲ京師ニ遣シテ、德川氏ノ處分ヲ奏請セシム。

○大總督府、東海、東山、北陸三道ノ總督ニ牒シテ、諸布告、江戸地方ハ嗣後督府之ヲ發スルヲ告ク、又江戸城諸門警戍條規ヲ更定シ、三道總督、及ヒ部下諸藩兵ニ頒ツ。

○大總督府、阿波藩兵ニ命シテ、中川關門ヲ警守セシム。

○東山道總督岩倉具定、副總督岩倉具經、江戸ヲ發シ忍ニ赴ク、因テ書ヲ大總督府ニ致シテ、啓行ノ事ヲ報ス。

○一橋茂榮、大總督ニ謁シ、起居ヲ候ス。（東征記略）

○是ヨリ先、賊兵（靖共隊、）南本所妙源寺ニ屯集シ傍近ヲ剽掠ス、筑前藩兵ノ回向院ニ屯スル者、兵ヲ分テ之ニ向フ、賊兵五十餘人、兵器ヲ致シテ降ヲ乞フ、是日、大總督府、田安慶頼ニ付シテ之ヲ監守セシメ、筑前藩兵ニ令シテ、賊兵掠取スル所ノ金穀ヲ、本主ニ還付セシム。

○是ヨリ先、賊兵、下妻藩ヲ刧掠ス、藩主井上正巳守ヲ棄テ遁ル、賊去ルニ及テ、其邑ニ歸ル、是日、老臣ノ江戸ニ在ル者、書ヲ先鋒總督ニ上リテ、其狀ヲ申シ、速ニ軍ヲ進メテ賊徒ヲ討センコトヲ請フ。

○關宿、栗橋地方土民騷擾スルヲ以テ、海軍先鋒大原俊實、北陸道鎭撫副總督四條隆平ニ移牒シテ、援兵ヲ乞フ、隆平乃チ兵ヲ發シテ、之ニ赴カシム。

二十九日、大總督府、紀伊藩兵ニ命シテ、金銀座ヲ警守セシム、又諸兵金穀支給ノ例規ヲ定ム。

○大總督府、重ネテ書ヲ奧羽鎭撫總督府ニ致シテ、急ニ軍艦ヲ發遣スルコト能ハサルヲ報シ、且北征官軍既ニ京師ヲ發セシヲ以テ、機ニ乘シテ、速ニ合擊ヲ圖ラシム。

○吉田藩、書ヲ大總督府ニ上リテ、今切關門譏察ノ條款ヲ稟請ス。

○先鋒總督、備前藩兵ノ鍛冶橋、數寄屋橋二門警守ヲ罷メ、命シテ市川驛（下總）ニ赴カシメ、吉田藩兵ヲシテ、代リテ二門ヲ守ラシム、又牛込、小石川二門ヲ開キ、吉田藩兵ヲシテ之ヲ守ラシム、既ニシテ備前藩兵ノ市川進軍ヲ止ム。

○備前藩、書ヲ先鋒總督ニ上リテ、其管スル所ノ歩兵、窮乏ノ狀ヲ陳シ、俸金ヲ給與センコトヲ請フ、是日、總督、薩摩、紀伊以下五藩ニ令シテ、所管歩兵ノ人員ヲ錄上セシメ、之ニ俸金ヲ給ス。

○内田正學將ニ京師ニ朝セントス、適兇徒管内ヲ刧掠シ、邑民騷擾スルヲ以テ、書ヲ先鋒總督ニ上リテ、其狀ヲ申シ、姑ク入覲ノ期ヲ緩フセンコトヲ請フ、之ヲ聽シ、命シテ其狀ヲ京師ニ奏上セシム。
○稻葉正善(前備後守、山藩主)ノ臣隷、及ヒ水野某(大部、舊旗下士)勤王證書ヲ先鋒總督ニ上ル。
○德川氏ノ臣隷、相踵テ總、野ノ間ニ逃走ス、德川氏之ヲ制スルコト能ハス、是日、嚴ニ其下ニ令シテ、私ニ水戸ニ赴キ、慶喜ヲ存問スルコト勿ラシム。
是月、大久保某(兵庫、舊旗下士)等二人、(酒井滿之丞、取ヶ甲斐守、並ニ舊旗下士)勤王證書ヲ大總督府ニ上ル。
○德川茂承(中納言、和歌山藩主)ノ臣隷、江戸ニ在ル者、書ヲ大總督府參謀ニ上リテ、德川慶喜ヲ寬典ニ處シ、江戸ノ人心ヲ鎭輯センコトヲ請フ。
○亡賴ノ徒、仁和寺宮ノ家臣ト詐稱シ、相模厚木驛傍近ヲ徘徊シ、名ヲ軍資徵募ニ托シテ、金錢ヲ欺取スル者アリ、驛長與右衞門等、書ヲ先鋒總督ニ上リテ、其狀ヲ訴フ。
閏四月朔日、大總督府、佐藤金義(繁七郎、尾張藩士)ヲ以テ、使番ト爲ス。
○筑前、津和野二藩兵、錦章及ヒ印鑑ヲ遺失スル者アリ、大總督府其罪ヲ譴メ、本藩ニ付シテ、之ヲ處分セシム。
○先鋒總督、薩摩藩兵(一小隊)ヲ宇都宮ニ發遣ス。
○是ヨリ先、德川氏精鋭隊兵二人、酒ニ酗シテ、無禮ヲ官軍ニ加ヘ、因テ逮捕スル所ト爲ル、是ニ至リ、隊長關口某(與兵衞)等、書ヲ先鋒總督ニ上リ、二人ヲ本隊ニ付シテ、處分セシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。
二日、大總督府、江戸鎭輯ノ事ヲ以テ、田安慶賴、大久保忠寬、勝義邦ニ委シ、又其勤勞ヲ褒慰シ、益其力ヲ效サシム。
○大總督、將ニ明日ヲ以テ江戸城中ヲ巡覽セントス、因テ麾下諸藩ニ令シテ、衞兵ヲ出サシム、既ニシテ故アリ、其期ヲ延フ。
○諸藩兵、往々錦章ヲ遺失スル者アルヲ以テ、大總督府令シテ之ヲ戒飭シ、嗣後遺失スル者ハ、嚴科ニ處ス。
○加藤某(寧次郎、舊旗下士)等二人、(加藤右近、舊旗下士)勤王證書ヲ先鋒總督ニ上ル。

第十九 自明治元年閏四月三日 至同 四日

閏四月三日、是ヨリ先、福田道直ノ徒、木更津、八幡二驛ニ分據シ、勢頗ル猖獗ナリ、大總督府、備前藩兵ノ千住驛ニ在ル者ヲ遣シテ、八幡ノ賊ヲ招諭セシム、從ハス、既ニシテ木更津ノ賊、移テ船橋驛ニ屯シ、八幡ノ賊亦去テ之ト合シ、兵ヲ中山村ニ分

チ、賊勢益鴟張ス、督府乃チ筑前、津、佐土原三藩、及ヒ稻田邦植ノ兵ヲ八幡ニ遣シテ、賊兵ヲ申諭セシメ、田安慶頼ニ命シテ、其兵器ヲ收メシム、賊遂ニ命ニ從ハス、是ニ於テ官軍、兵ヲ分テ、市川、八幡、行德、鎌ケ谷等ヲ扼シ、將ニ賊巢ヲ進擊セントス、是日、昧爽、賊先八幡ニ來リ襲フ、官軍利アラス、退テ眞間山ヲ保ス、賊又進テ市川ニ逼ル、官軍邀ヘ擊テ之ヲ郤ク、既ニシテ鎌ケ谷ノ官軍、進テ賊兵ヲ金杉村ニ擊チ、北ヲ追テ船橋ニ至リ、大ニ驛中ニ戰フ、適、薩摩、筑前二藩兵、警ヲ聞テ江戸ヨリ來リ援ケ、合擊シテ之ヲ破ル、賊大和田驛ヲ望テ遁逃ス、報、督府ニ到ル、先鋒副總督柳原前光、往テ之ヲ鎭セント請フ、督府乃チ前光ニ命シテ、房、總地方ヲ鎭撫セシム、先鋒總督モ亦監軍安場保和、及ヒ大村藩兵ヲ下總ヨリ召還シ、渡邊清（清左衞門、大村藩士）ヲ以テ軍監ト爲シ、並ニ前光ニ屬セシメ、長門藩兵ヲ行德ニ差遣シ、備前藩兵ノ數寄屋橋、鍛冶橋警守ヲ罷メ、命シテ八幡ニ赴援セシメ、龜山藩兵ヲシテ、數寄屋橋、鍛冶橋ヲ守ラシム、督府又船橋ノ諸軍ニ令シ、賊若シ歸順ノ實ヲ表セハ、其進擊ヲ止メテ、速ニ之ヲ本府ニ報セシム。

○奥羽鎭撫總督府、書ヲ大總督府ニ致シテ、會津、莊内、賊勢鴟張ノ狀ヲ報シ、宇都宮ノ官軍ヲシテ、速ニ白河口ニ來援セシメンコトヲ請フ。

○有馬氏弘、（兵庫頭、吹上藩主、）江戸ニ至リ、書ヲ大總督府ニ上リテ、起居ヲ候セント請フ。

○先鋒總督府、從軍諸藩ニ令シテ、其兵員ヲ錄上セシム、又官軍ノ袖章ヲ定メ、之ヲ諸軍ニ頒ツ。

○請西藩主林忠崇（昌之助、）房總ノ賊（遊擊隊、）ニ應シ、其治所ヲ去リテ富津ヲ脅略ス、明日、前橋藩、書ヲ先鋒總督府ニ上リテ、富津脅略ノ狀ヲ申ス、忠崇ノ臣隷江戸ニ在ル者モ亦、忠崇賊兵ノ脅迫スル所ト爲リ、遂ニ守ヲ失フノ狀ヲ申ス。

四日、勝義邦、田安慶頼ニ因テ、書ヲ大總督府ニ上リ、德川慶喜ヲシテ江戸ニ歸住セシメ、以テ士民ヲ鎭輯センコトヲ請フ、尋テ屢上書シテ其事宜ヲ陳ス。

○先鋒副總督柳原前光、出テ千住驛ニ次ス、濱松藩兵之ニ屬ス、是日、先鋒總督府、薩摩藩兵ニ命シテ、行德驛ニ赴援セシム。

第二十　自明治元年閏四月五日 至同九日

閏四月五日、軍防事務局、書ヲ大總督府、及ヒ先鋒總督府ニ致シテ、車駕還幸、本月七日ヲ以テ、行在所ヲ發スルヲ告ク。

○是ヨリ先、堀田正倫讒ヲ大總督府ニ獲テ、京師ニ在リ是ニ至リ、封境騷擾スルヲ聞キ、書ヲ朝ニ上リ、赦ヲ獲テ藩ニ歸リ、之ヲ鎭靜セント請フ、批シテ督府ノ處分ヲ保タシム、是日、内國事務局、書ヲ督府ニ致シテ其事ヲ告ク。

○宇都宮地方鎭定ニ就クヲ以テ、大總督府令シテ、東山道二總督ヲ召還シ、途次館林、關宿地方ヲ巡撫シ、且兵ヲ留メテ白河口、及ヒ日光口ヲ扼守セシム、尋テ二督書ヲ致シテ、姑ク忍ニ留リ、以テ傍近ヲ鎭撫セント請フ、督府更令シテ、其兵ヲ分チ、一ヲ宇都宮ニ留メ、以テ日光口ニ備ヘ、其一ヲ率ヰテ、速ニ江戸ニ凱歸セシム。

○府下物情騷擾スルヲ以テ、大總督府、北陸道總督府ニ牒シテ、部下ヲ戒嚴シ、不虞ニ備ヘシム。

○房、總地方騷擾スルヲ以テ、海軍先鋒大原俊實、書ヲ大總督府ニ致シ、軍艦ヲ發シテ、大多喜城ニ據リ、以テ傍近ヲ鎭撫セント請フ、督府令シテ後命ヲ待タシム。

○大總督府、官軍ノ標章ヲ定メ、之ヲ諸軍ニ頒ツ。

○船橋ノ敗賊、木更津地方ニ逃走ス、薩摩、佐土原二藩兵直ニ進テ之ニ向フ、先鋒總督府、乃チ薩摩、長門、津、備前四藩兵ノ船橋、市川、行德等ニ在ル者ニ令シテ、速ニ木更津ヲ進擊セシメ、津藩兵ノ關宿ニ在ル者ヲシテ、其地ヲ鎭撫セシム、又大多喜處分ノ令ヲ副總督ニ傳ヘ、藩主大河内正質ヲ忍藩ニ幽シ、副總督ヲシテ假ニ其城邑ヲ管セシム、是日、薩摩藩兵ヲ宇都宮ヨリ召還ス。

六日、大總督府、岩上某、角右衛門、中村某藤助、二人並ニ吉田藩士、ヲ以テ會計掛ト爲ス。

○大總督府、諸道ノ隊長ヲ牙營ニ會シテ、軍事ヲ議ス、又麾下ニ令シ、警急ノ際、號鼓ヲ打ツヲ以テ、速ニ牙營ニ參集セシム。

○大總督府、筑後、新發田二藩兵ニ命シテ、金銀座ヲ警守セシメ、筑前藩ノ行德驛ニ在ル者ニ令シテ、哨兵ヲ其地ニ留メ、餘ハ悉ク兩國ニ撤還セシム、又越後、高田地方鎭定スルノ聞アルヲ以テ、令ヲ先鋒總督府ニ傳ヘテ、尾張藩兵ノ信濃ニ在ル者ヲ召還ス。

○大總督府、金十五萬兩ヲ田安慶頼ニ下付シテ、德川氏ノ家屬臣隸ヲ賑救ス。

○先鋒總督府、長門藩兵ノ日比谷門警守ヲ罷メ、紀伊藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

七日、大總督府、海軍先鋒大原俊實ニ令シテ、軍艦ヲ房、總近海ニ發遣シ、且再ヒ兵ヲ發シテ、深川ヲ警守セシム、俊實書ヲ致

シテ、深川警守ヲ辭シ、親カラ諸艦ヲ率ヰテ、房、總ニ赴カント請フ、是日、俊實移テ高輪ニ陣ス。

○横濱裁判所、書ヲ大總督府ニ致シテ、本港ノ守兵ヲ增サンコトヲ請ヒ、且舊幕府、米利堅國ヨリ購買スル所ノ甲鐵艦交收ノ事ヲ謀ル、督府部下兵寡キヲ以テ、之ヲ辭シ、鐵艦交收ハ姑ク之ヲ止メシム。

○田安慶頼、書ヲ大總督府ニ上リ、關東地方修堤均水等ノ前例ヲ陳シテ、其措置ヲ稟請ス、批シテ舊貫ニ仍ラシム、慶頼乃チ德川氏胥吏ヲ遣シテ其事ヲ管セシム、既ニシテ東山道總督府、書ヲ督府ニ致シ、上野地方修堤均水等ノ事ヲ以テ、館林藩ニ委任セシヲ報ス、因テ慶頼ノ管理ヲ罷ム。

○是ヨリ先、井上正巳、書ヲ先鋒總督府ニ上リテ入覲ヲ請フ、令シテ之ヲ停メ、其封疆ヲ鎭撫セシム、是ニ至リ正巳、更ニ書ヲ大總督府ニ上リ、重臣ヲシテ代覲シ、且大總督ノ起居ヲ候セシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○中山信徵、書ヲ大總督府ニ上リ、水戶藩警守ノ朝命ヲ拜シ、事務匆劇ナルヲ以テ、姑ク徵發ヲ緩クセンコトヲ請フ。

○先鋒總督府、久留里、佐貫二藩ニ令シテ、房、總ノ官軍ニ應援セシメ、前橋藩ヲシテ、富津ノ兵ヲ發シ、二藩ト相救應セシム。

○保科正益ノ家臣、書ヲ先鋒總督府ニ上リ、正益命ヲ大總督府ニ請ハスシテ、西上セシ情狀ヲ陳謝シ、其罪ヲ寬宥センコトヲ請ヒ、併セテ勤王證書ヲ上ル。

○戸田某（主水、旗下士）、舊ノ家臣、勤王證書ヲ先鋒總督府ニ上ル。

八日、大總督府、海軍先鋒大原俊實ニ令シテ、城中ニ移陣セシム、是日、俊實、書ヲ督府ニ致シテ、德川氏臣隸陰ニ不軌ヲ圖ルノ聞アルヲ報ス。

○林忠崇、遊擊隊ト勝山（酒井忠美ノ治所）、館山（稲葉正善ノ治所）二藩ヲ劫掠ス、勝山藩其狀ヲ先鋒總督府ニ申シ、軍ヲ進メテ之ヲ討セント請フ、尋テ忠崇等、海ニ航シテ相模ニ走ル。

九日、房、總ノ殘賊、豆、相地方ニ逃走シ、箱根、鎌倉等ヲ侵略セントスルノ聞アルヲ以テ、大總督府、小田原、沼津、田中、金澤四藩、及ヒ江川英武、肥前藩兵ノ横濱ニ屯スル者等ニ令シテ、速ニ之ヲ剿除セシム。

○大總督府、肥前、小倉二藩兵ヲ發シテ、莊內征討ノ官軍ニ應援セシム、因テ小倉藩兵ノ金座、及ヒ坂下門警守ヲ罷ム。

○德川慶篤、其支族松平頼位（主稅頭、宍戸藩主）ノ爲ニ、書ヲ大總督府ニ上リ、頼位藩政多端、且封邑傍近騷擾スルヲ以テ、姑ク入覲ノ朝ヲ緩クセント請フ、之ヲ聽ス。

○先鋒總督府、久世廣文ヲ召ス、（時ニ廣文江戸ニ在リ、）廣文疾ヲ謝シテ至ラス、尋テ其支族久世某（斧三郎、舊關宿藩士、）ヲ藩ヲシテ、廣文ニ代リ召ニ應セシム。

○先鋒總督府、吉田藩兵ヲ大多喜ニ發遣ス。

○井上正巳、勤王證書ヲ先鋒總督府ニ上ル。

第二十一 自明治元年閏四月十日 至同十一日

閏四月十日、大總督、東海、北陸兩道先鋒總督以下ヲ、牙營ニ會シテ軍事ヲ議ス。

○大總督府、諸藩ニ令シテ、江戸ノ第邸及ヒ留住者ノ口數ヲ錄上セシム。

○大總督府、新發田藩兵ノ四谷、市ヶ谷二門警守ヲ罷メ、更ニ馬場先、坂下二門及ヒ本丸、西丸ノ間ヲ守ラシメ、阿波藩兵ヲシテ、四谷、市ヶ谷二門ヲ守ラシム。

○大總督府、從軍諸藩ニ令シテ、諸門及ヒ牙營ノ守兵ヲ除クノ外、日ニ銃技ヲ簡練セシム。

○米津政敏（伊勢守、長瀞藩主、）江戸ニ至リ、勤王證書ヲ大總督府及ヒ先鋒總督府ニ上ル。

○神奈川裁判所總督東久世通禧、北陸道鎭撫總督兼會津征討總督高倉永祜、海軍先鋒大原俊實等、前後書ヲ大總督府ニ上リテ、軍國事宜ヲ陳ス。

○織田某、（主水、舊幕下士、）勤王證書ヲ先鋒總督府ニ上ル、和田某（重一郎、舊幕下士、）モ亦書ヲ上リテ、公事ニ服センコトヲ請フ。

十一日、大總督府、金壹萬兩ヲ田安慶賴ニ下付シテ、親子內親王以下ノ資用ニ充ツ。

○稻垣太清、（若狹守、山上藩主、）丹羽氏中、（長門守、三草藩主、）及ヒ大草某、（三吉、寄合、）等、勤王證書ヲ先鋒總督府ニ上ル。

第二十二 自明治元年閏四月十二日 至同十八日

閏四月十二日、大總督府、尾張藩兵ニ命シテ、市ヶ谷、四谷、喰違三門ヲ警守セシメ、筑前藩兵ニ永代橋ヨリ筋違門ニ至ル諸處ヲ、新發田藩兵ニ土橋及ヒ芝口ヲ守シラム、尾張藩、各處ノ警守ニ服シ、兵隊給セサルヲ以テ之ヲ辭ス、尋テ筑前藩兵ニ更令シテ、兩國橋及ヒ淺草門ヲ守ラシム。

○是ヨリ先、邦家親王、（伏見宮、）使ヲ遣シテ、入道公現親王ニ上京ヲ勸ム、江戸ノ士民等之ヲ聞キ、交上書シテ其行ヲ止ム、是日、公現親王、入覲遲緩ノ狀ヲ大總督府ニ申ス。

○田安慶賴書ヲ大總督府ニ上リ、日光地方未タ鎭定ニ就カサ

ルヲ以テ、岩田道徳（綾部正、旗下士）ヲ日光奉行ト爲シ、往テ之ヲ鎭セシムルヲ申ス。

○先鋒總督府、舊甲府勤番支配佐藝某（駿河守）ニ命シテ、其采邑ニ謹愼セシム。

○房總地方略鎭定ニ就クヲ以テ、薩摩、長門以下六藩兵前後江戸ニ凱還ス。

○十三日、大總督府、英國醫師ヲ雇ヒテ兵士ノ創痍ヲ療ス、尋テ病院ヲ横濱ニ設ケ、使番佐藤金義ヲ遣シテ、其事務ヲ總管セシム。

○徳川氏ノ臣隷、往々亡命嘯聚スル者アルヲ以テ、大總督府、田安慶賴ニ申諭シテ、之ヲ鎭輯セシム。

○先鋒總督府、横須賀藩兵ノ矢來門警守ヲ罷メ、更ニ鹽留橋、濱殿ノ間ヲ守ラシム。

○米津政敏、書ヲ先鋒總督府ニ上リ、疾アリテ入覲スルコト能ハサルヲ陳謝シ、府下ニ在リテ王事ニ從センコトヲ請フ、聽サス、政敏更ニ歸藩ヲ乞フ、之ヲ聽ス。

○丹羽長國（左京大夫、二本松藩主）ノ臣隷江戸ニ在ル者、書ヲ先鋒總督府ニ上リテ、長國以下勤王貳ナキヲ陳シ、王事ニ服センコトヲ請フ。

○三上藩（遠藤胤城ノ治所）、書ヲ先鋒總督府ニ上リテ、兇徒安房ノ管地（安房郡北條村）ヲ劫掠スルノ狀ヲ申ス。

十五日、兇徒府下ニ出沒シ、良民ヲ殘害スルヲ以テ、大總督府麾下及ヒ東海、北陸、兩道先鋒諸藩兵ヲ分テ、各處ヲ巡警セシム、又津和野藩及ヒ稻田邦植ノ兵ニ命シテ、城中ヲ警守セシメ、紀伊藩兵ニ喰違ヲ、筑前藩兵ニ大手及ヒ新橋（御厩）ヲ守ラシム、先鋒總督府モ亦尾張藩兵ノ城中、及ヒ大手、竹橋二門警守ヲ罷メ、更ニ市ケ谷、四谷二門ヲ守ラシメ、紀伊藩兵ヲシテ牛込、小石川二門ヲ守ラシメ、薩摩藩兵ヲ以テ水道橋、牛込間ノ應援ト爲ス。

○大總督府、田安慶賴ニ命シテ、舊幕府ノ罪囚ヲ撿問セシメ、其輕キモノハ之ヲ放赦ス。

○田安慶賴、書ヲ大總督府ニ上リテ、舊幕府雇フ所ノ英國海軍教師ノ措置ヲ稟請ス、是日、督府、神奈川裁判所ニ牒シテ、教師ヲ罷歸セシム。

○是ヨリ先加納久宜（嘉元次郎、一宮藩主）、西上シテ、大津驛ニ至リ、書ヲ朝ニ上リテ、入京ヲ請フ、令シテ、命ヲ大總督府ニ請ハシム、是ニ至リ久宜、老臣ヲ督府ニ遣シテ、其情ヲ陳疏シ、入京ヲ請フ、之ヲ聽ス。

○是ヨリ先、關宿藩士、黨ヲ分チテ相鬩キ、藩内騷擾ス、是ニ至リ、藩主久世廣文ノ支族久世廣道、（下野守、寄合、）先鋒總督府ニ就テ、宗家ノ爲ニ之ヲ鎭輯セント請フ、之ヲ聽ス。

○賊兵八王寺驛ニ屯據シ、將ニ進テ甲府ニ薄ラントス、甲府城代水野忠敬、中津、沼津、掛川三藩兵ヲ白野、勝治二驛（並ニ甲斐、）ニ出シテ之ニ備ヘ、松代藩ニ令シテ援兵ヲ召ス、因テ書ヲ先鋒總督府ニ上リテ其狀ヲ申ス。

十六日、大總督府、諸門警守ノ諸藩ニ令シテ、守兵ノ定員ヲ錄上セシム、又阿波藩兵ニ命シテ、水道橋及ヒ陸軍所ヲ守ラシム。

○奧羽鎭撫總督府、書ヲ大總督府ニ致シ、仙臺藩士江戸ニ赴キ、督府ニ就キテ、松平容保ノ爲ニ寬宥ヲ請ハントスル者アルヲ以テ、藩士若シ江戸ニ至ラハ、本藩ノ罪狀三事（一曰、天童藩援ヲ乞フ應セス、二曰、私ニ奧羽諸藩ノ老臣ヲ白石ニ會ス、三曰、私ニ會津征討ノ兵ヲ解ク、）ヲ詰問シテ、速ニ本藩ニ遣歸セント請フ。

○先鋒總督府、舊幕府代官佐々井某（半十郎、）松村長爲等ニ令シ、姑ク舊ニ仍リテ、關東八州巡警ノ事ヲ管セシム。

○本多忠貫（河内守、神戸藩主、）ノ臣隷江戸ニ在ル者、書ヲ先鋒總督府ニ上リテ、忠貫王事ニ勤勞スルノ狀ヲ申ス。

十七日、軍防事務局、書ヲ大總督府及ヒ先鋒總督府ニ致シテ、車駕、本月八日ヲ以テ、京師ニ還リシヲ報ス。

○海軍先鋒大原俊實、京ニ歸リ奏上スル所アラントス、是日、江戸ヲ發シ横濱ニ抵ル、大總督府仍チ海軍先鋒諸藩兵ヲ以テ、直ニ麾下ニ隷ス。

○北海道鎭撫總督高倉永祜、新潟裁判所總督兼鎭撫副總督四條隆平、將ニ江戸ヲ發シテ任所ニ赴カントス、因テ書ヲ大總督府ニ致シテ、隨從藩兵ヲ定メンコトヲ請フ、總督乃チ小濱、新發田二藩兵ヲ以テ之ニ屬ス、尋テ新發田藩兵ヲ止ム。

○新潟開港ノ期、三月九日ニ在リ、果サス、各國公使、神奈川裁判所ニ就キ、五月十二日ヲ以テ開港ノ期ト爲サンコトヲ請フ、裁判所乃チ書ヲ大總督府ニ致シテ、其事ヲ咨稟ス、總督答書シテ、大政官ニ申稟セシム。

○大總督府、諸軍ニ令シテ、江戸城濠ニ漁スルヲ禁ス。

○大總督府、江川英武ニ令シテ、舊幕府下付セシ所ノ銃器ヲ品川ニ運輸セシム。

○是ヨリ先、林忠崇等小田原藩ニ游說ス、小田原藩應セス、忠崇等乃チ去テ、伊豆ニ赴キ、轉シテ駿河ニ入ル、小田原、沼津二藩乃チ兵ヲ封疆ニ出シテ之ニ備フ、是日、小田原藩、書ヲ大總

督府ニ上リテ其狀ヲ申ス、明日、沼津藩モ亦其狀ヲ先鋒總督府ニ申ス。

○是ヨリ先、朝廷、小島等三十五藩ニ令シテ、信越ノ賊ヲ討セシム、是ニ至リ、小島藩、書ヲ先鋒總督府ニ上リ、島田、駿府間傳遞ノ措辦及ヒ駿府警守ヲ罷メ、一ニ討賊ノ事ニ服セント請フ、之ヲ聽ス。

十八日、神奈川裁判所、書ヲ大總督府ニ致シテ、舊幕府、外國醫師ニ贈與セシ藥價、報酬等ノ舊例ヲ報ス。

○丹羽長國、書ヲ大總督府ニ上リテ、奥羽鎭撫總督府ノ命ヲ奉シ、王事ニ勤勞スルノ狀ヲ陳シ、入覲遲緩ヲ謝ス、批シテ藩地ノ鎭定ヲ待チテ入覲セシム。

○紀伊藩兵、書ヲ先鋒總督府ニ上リテ、其保管スル所ノ歩兵逋逃セシヲ申ス。

第二十三　自明治元年閏四月十九日 至同 廿三日

閏四月十九日、大總督府前山長定清一郎、肥前藩士、ヲ以テ庄內征討應援參謀ト爲シ、肥前、小倉二藩兵ヲ率キテ之ニ赴カシム、因テ書ヲ奥羽鎭撫總督府ニ致シテ之ヲ告ク。

○大督總府、堀田正倫勤王ノ實蹟アルヲ以テ、其謹愼ヲ釋ス。

○日光奉行岩田通德、兵ヲ從ヘテ日光山ニ入ラントス、東山道總督府乃チ大總督府ニ牒シテ其兵ヲ撤シ、且通德ヲシテ官軍ト協議シ、事ヲ處セシメント請フ。

○先鋒總督府、長門藩兵ノ德川氏歩兵保管ヲ罷メ、備前藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

○會津兵白河城ヲ陷ル伊地知正治日記

二十日、先鋒總督府、紀伊藩兵ノ幸橋門及ヒ新橋警守ヲ罷メ、龜山藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、龜山藩兵ノ數寄屋橋、鍛冶橋二門警守ヲ罷メ、紀伊藩兵ヲ以テ之ニ代フ、又薩摩藩兵ニ命シテ、庄內ニ赴援セシム。

○浮浪ノ徒、相模藤澤驛ニ屯據スルヲ以テ、大總督府、岡山新田藩兵ヲ遣シテ、之ヲ緝捕セシム。

○先鋒總督府、房總服役ノ諸藩ニ令シテ、其戰死傷者ヲ錄上セシム。

○先鋒總督府、飯田町作事方、彈藥方ノ銃器ヲ收ム。

二十一日、大總督府、參謀正親町公董ヲ京師ニ遣ス、先鋒總督府參謀木梨恒準等之ニ從フ。

○神奈川裁判所副總督鍋島直大、書ヲ大總督府ニ致シテ、横濱歩兵逋逃ノ狀ヲ申ス。

○是ヨリ先、大總督府及ヒ先鋒總督府、數、先鋒副總督柳原前光ヲ促シテ其師ヲ班サシム、是日、前光江戸ニ凱歸シ、大總督ニ謁シテ、房總鎭撫ノ情狀ヲ上申ス。

○大總督府、小濱藩兵ノ千住驛、柳島、神田橋、筋違門、昌平橋等警守ヲ罷メ、新發田藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、田安慶頼ノ金座警守ヲ罷ム、明日、新發田藩兵ノ千住、柳島警守ヲ罷メ、更ニ和泉橋ヲ守ラシム。

○是ヨリ先、田安慶頼使ヲ遣シテ林忠崇等ヲ招諭シ、罪ヲ甲斐黑駒驛ニ待タシム、甲府城代水野忠敬、賊情圖リ難キヲ以テ、中津、沼津、掛川三藩兵ヲ石和驛ニ出シテ之ニ備ヘ、且高遠、高島二藩ニ檄シテ援兵ヲ召ス、因テ書ヲ大總督府ニ上リテ、其狀ヲ申ス、書未タ達セス、是日、督府、慶頼ニ命シテ忠崇等ヲ招諭セシメ、忠敬ニ令シテ兵備ヲ嚴整シ、賊如シ甲府ニ向ハヽ、速ニ之ヲ誅夷セシメ、沼津藩ヲシテ更ニ兵ヲ甲府ニ出サシム、慶頼、乃チ使ヲ遣シテ忠崇ヲ申諭ス、尋テ督府、沼津藩ニ命シテ、忠崇等ヲ保管セシム。

○房總ノ殘賊相模ニ逃走スルヤ、沼津藩兵ヲ各處ニ發シテ之ヲ招諭ス、是日、大總督府、書ヲ下シテ之ヲ褒賞ス。

○是ヨリ先、田安慶頼、使ヲ遣シテ、德川氏逋竄ノ徒、八王寺驛ニ屯スル者ヲ招諭シ、罪ヲ中野村ニ待タシム、是日、大總督府、其兵器ヲ收メ、各其家ニ歸往シ、屛居シテ後命ヲ待タシム。

○東山道總督岩倉具定、副總督岩倉具經、江戸ニ凱歸シ、因幡藩邸ニ次ス。〇東山道總督府日記

二十三日、大總督府、澤某〔四兵衛、筑後藩士、〕ヲ以テ使番ト爲ス。

○大總督府、書ヲ奥羽鎭撫總督府ニ致シテ、江戸地方鎭定ニ就クヲ報シ、且松平容保、若シ眞ニ罪ニ伏セハ、宜シク其城邑及ヒ兵器ヲ收メ、容保父子ヲシテ城外ニ謹愼シ、以テ朝裁ヲ待タシムヘキヲ告ク。

○是ヨリ先、關宿藩士正奸二黨アリ、藩主久世廣文、年猶幼弱ニシテ制馭スルコト能ハス、奸黨遂ニ廣文ヲ擁シテ逃匿ス、是ニ至リ老臣杉山某〔對軒〕等廣文ノ江戸藩邸ニ潛匿スルヲ偵知シ、往テ之ヲ拔ントス、奸黨之ヲ支ヘテ爭鬪シ、互ニ死傷アリ、先鋒總督府乃チ監軍安場保和ヲ遣シテ之ヲ鎭セシメ、某等ヲシテ彥根藩邸ニ謹愼シ、以テ後命ヲ待タシム、尋テ之ヲ筑前藩邸ニ移置シ、肥後藩ヲシテ之ヲ保管セシム、廣文遂ニ彰義隊ニ投ス。

○是ヨリ先、結城藩主水野勝知、其治所ヲ脫スルヲ以テ、東山道總督府、勝知ノ祖父勝進〔前藩主〕ニ命シテ藩内ヲ鎭撫セシム、是

ニ至リ勝進、書ヲ先鋒總督府ニ上リ、本藩兵亂ノ餘ヲ承ケ、銃器給セサルヲ以テ、之ヲ貸與センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○是ヨリ先、海軍先鋒大原俊實、肥前藩軍艦ヲ勝山海ニ遣シテ、勝山藩ノ賊ヲ納ル、ヲ詰責ス、是日、本藩、書ヲ先鋒總督府ニ上リテ、賊徒脅迫ノ情實ヲ申シ、併セテ其無狀ノ罪ヲ陳謝ス。

○眞田幸民、書ヲ先鋒總督府ニ上リテ、甲府城代ノ命ヲ奉シ、兵ヲ甲府ニ出セシヲ申ス。

第二十四　自明治元年閏四月二十四日 至同二十九日

閏四月二十四日、是ヨリ先、議定三條實美（大納言）ヲ以テ關東監察使ヲ兼ネ、東下シテ德川氏ヲ處分シ、且士民ヲ鎭輯セシム、參與萬里小路通房（右少辨）、松尾相永（但馬、非藏人）、及ヒ筑前藩兵（百二十三人）等之ニ從フ、是日、實美等江戸ニ抵ル、大總督府、先鋒總督府、薩摩、筑前、長門三藩兵ヲ品川驛ニ出シテ之ヲ迎フ、實美乃チ江戸城ニ入リ、大總督ト與ニ諸道總督及ヒ參謀等ヲ會シテ軍事ヲ議ス。

○大總督府、海軍先鋒大原俊實ニ牒シテ監察使東下ヲ告ケ、姑ク歸京ノ期ヲ緩クシ、以テ後命ヲ待タシム、（時ニ俊實横濱ニ在リ、）尋テ之ヲ召還ス。

○大總督府、安藝藩兵ヲ宇都宮ニ遣シテ、東山道ノ官軍ニ應援セシム、尋テ之ヲ止ム。

○大總督府、兇徒ノ捕ニ就キシ者ヲ舊會津藩邸ニ幽シ、薩摩、尾張以下諸藩兵ヲシテ、更番之ヲ監守セシム。

○保科正益ノ家臣、重ネテ書ヲ大總督府ニ上リ、正益ノ謹愼ヲ釋サンコトヲ請フ、是日、督府其謹愼ヲ釋ス。

○松平忠和（主殿頭、島原藩主）ノ臣隷江戸ニ在ル者、書ヲ先鋒總督府ニ上リテ、勤王貳ナキヲ申ス。

二十五日、大總督府總裁局史官新田義雄（三郎、郡山藩士、時ニ監察使ニ屬シテ江戸ニ在リ、）ヲ以テ軍監ヲ兼シム。

○大總督府、書ヲ軍防事務局ニ致シテ、請西藩主林忠崇其治所ヲ去リ、官軍ニ抗スルノ狀ヲ報シ、速ニ之ヲ處分センコトヲ請フ。

○横濱歩兵ノ逋逃セシ者十一人、小田原藩ニ就キテ降ヲ乞フ、是日、小田原藩、書ヲ大總督府ニ上リテ其處分ヲ稟請ス、批シテ其兵器ヲ收メ、各其家ニ復歸シ、屛居シテ命ヲ待タシム。

○是ヨリ先、朝廷、德川慶勝（大納言、尾張藩主、）ニ命シテ、松代、大垣以下三十四藩ト與ニ信越ノ賊ヲ討セシム、慶勝乃チ其參謀成瀨正肥、（隼人正、犬山藩主、）田宮篤輝（如雲、）等ヲ遣シテ信濃ヲ鎭ス、是日、正肥、篤輝、書

ヲ大總督府ニ上リテ、甲、信鎮撫ノ事ニ服スルヲ申シ、且賊徒相、房、總、野ノ間ニ潜匿スルヲ以テ、速ニ傍近諸藩ニ令シテ之ヲ剿除セシメンコトヲ請フ、尋テ再ヒ上書シテ、甲府鎮撫ノ事宜ヲ陳ス。

○大總督府參謀西郷隆盛、京師ヨリ至リ反命ス。東征紀略

○先鋒總督府、薩摩、長門以下六藩兵、房、總服役ノ勞ヲ慰賞シ、且金ヲ其死傷者ニ頒ツ、是日、令シテ津藩兵ノ勝山ニ戍スル者ヲ召還ス。

○田安慶頼、使ヲ遣シテ徳川氏逋竄ノ徒、房、總地方ニ屯スル者撒兵隊五百四十二人ヲ招諭シ、江戸ニ歸リ屏居シテ罪ヲ待タシム、因テ書ヲ先鋒總督府ニ上リテ其狀ヲ申ス。

○北陸道鎮撫總督兼會津征討總督高倉永祜、新潟裁判所總督兼鎮撫副總督四條隆平、江戸ヲ發シ越後ニ赴ク、小濱藩兵之ニ屬ス。○高倉永祜事蹟、北征紀事、酒井忠氏家記

二十六日、監察使、大總督府及ビ先鋒總督府ニ牒シテ、各藩ノ戰狀及ヒ其有功者死傷者ヲ錄上セシム。

○先鋒總督府、監軍安場保和ヲ遣シテ甲斐ヲ巡察セシム、肥後藩兵之ニ屬ス、因テ甲府城代水野忠敬ニ令シ、保和ト協議シテ臨機ノ處分ヲ行ハシメ、中津、掛川二藩兵ヲシテ其指揮ヲ奉セシム、又津、備前、濱松三藩兵ヲ遣シテ、甲斐和泉村ノ火藥ヲ收ム。

○牧野貞利、書ヲ先鋒總督府ニ上リ、疾アリテ入覲スルコト能ハサルヲ以テ、子貞寧金丸、ヲシテ代覲セシムルヲ申ス、尋テ貞寧江戸ニ至ル。

二十七日、大總督府、東山道總督岩倉具定、副總督岩倉具經ニ令シテ、牙營ヲ城中ニ移サシム。

○是ヨリ先、内國事務局、大總督府ニ牒シテ、舊幕府ノ圖籍ヲ收メシム、是日、督府、田安慶頼ニ令シテ之ヲ上ラシム。

○一橋茂榮、書ヲ大總督府ニ上リテ、徳川氏ノ臣隷迫切ノ情狀ヲ陳シ、速ニ徳川氏ヲ處分シ、以テ之ヲ鎮輯センコトヲ請フ。

○是ヨリ先、朝廷、本堂親久ノ勤王ノ請ヲ聽シ、命ヲ大總督ニ請ハシム、是日、親久書ヲ督府ニ上リテ其請ヲ申ス。

○先鋒總督府、部下諸藩ニ令シテ、兵士ノ病歿セシ者ヲ錄上セシム。

○諸藩中、紀伊藩兵ノ徳川氏諸隊ニ通謀スルヲ疑フモノアルヲ以テ、紀伊藩書ヲ先鋒總督府ニ上リテ、其他ナキヲ分疏シ、兵ヲ戰地ニ出シ、以テ勤王ノ實ヲ表セント請フ、是日、督府、藩兵ヲ宇都宮ニ發遣シ、東山道ノ諸軍ニ令シテ、力ヲ王事ニ竭サ

シム。

○初メ舊幕府、長瀞藩ノ封地武藏ニ在ル者ヲ收メ、安房、下總ノ地ヲ以テ之ニ代フ、而シテ遂ニ其地ヲ交付スルヲ果サス、是ニ至リ本藩書ヲ先鋒總督府ニ上リ、闔藩疲弊ノ情狀ヲ陳シテ救恤ヲ乞ヒ、併セテ庄內兵長瀞ニ迫リ、藩主米津政敏ノ父政明（保壽ト號ス、）ヲ要奪セシヲ申ス。

二十八日、大總督府、書ヲ下シテ監軍渡邊清、相良長發及ヒ薩摩、筑前以下七藩兵、房、總服役ノ功ヲ賞ス。

○大總督府、諸藩兵ヲ戒飭シテ、府下ノ警守ヲ申嚴ス、又諸藩ニ令シテ、銃器ノ現數ヲ錄上セシム。

○田安慶頼、書ヲ大總督府ニ上リ、兵ヲ增上寺ニ置キテ、盜賊ニ備フルヲ申ス。

○是ヨリ先、先鋒副總督水野忠順（肥前守、鶴牧藩主、）ノ罪ヲ數メテ謹愼ヲ命ス、是日、水野忠敬書ヲ先鋒總督府ニ上リ、忠順ノ爲ニ哀ヲ乞フ。

○賊徒駿、甲地方ニ出沒スルヲ以テ、參河裁判所總督平松時厚、（甲斐權介、）刈谷、擧母二藩ニ令シテ、兵（各一小隊、）ヲ駿府ニ發シ、岡崎、田中二藩兵ト與ニ嚴ニ之ヲ守ラシメ、傍近諸藩ヲシテ兵ヲ要地ニ置キ、以テ賊徒ヲ緝捕セシム。

二十九日、特旨、田安家達ヲ以テ、宗家德川氏ノ後ヲ承カシム。

○大總督府、東山道總督府參謀河田景與（左久馬、因幡藩士、）ヲ以テ下參謀補助ト爲シ、土方久元、（太一郎、）清岡公張（岱作、久元、公張並ニ土佐藩士、）ヲ軍監補助ト爲シ、參謀林通顯ヲ罷ム。

○大總督府、肥後藩兵ノ市ケ谷喰違應援ヲ罷メ、因幡藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、備前藩兵ヲ以テ淺草筋違傍近ノ應援ト爲シ、紀伊藩兵ノ赤坂門警守ヲ罷ム、又筑前藩兵ノ城內ニ在ル者ヲ、城外舊老中邸ニ移ス。

○大總督府、醫師前田某（杏齋、薩摩藩醫、）ヲ遣シテ、諸道服役諸藩兵ノ創痍者ヲ療ス。

○濱松藩、書ヲ先鋒總督府ニ上リ、本藩海道ノ要衝ニ當ルヲ以テ、緩急傍近舊旗下勤王ノ徒ヲ糾合シテ、守備ヲ督セント請フ、之ヲ聽ス。

○是ヨリ先、先鋒副總督、德川氏降兵ノ上總若山村（夷隅郡、寄合阿部邦之助ノ采邑、）ニ屏居スル者（城砲兵、）ニ令シテ、江戶ニ歸リ、各其家ニ謹愼セシム、是ニ至リ降兵七十九人江戶ニ至ル、田安慶頼乃チ書ヲ先鋒總督府ニ上リテ、其狀ヲ申ス。

○是月、大河內某、（伊勢守、）大島某（鐵太郎、二人並ニ舊旗下士、）勤王證書ヲ先鋒總督府ニ上ル。

第二十五　自明治元年五月朔日 至同五日

五月朔日、大總督、議事所ヲ牙營ニ設ケ、日々參謀以下各藩隊長等ヲ會シテ、軍事ヲ議ス。

○大總督府、先鋒副總督柳原前光ニ命シ、往テ甲斐ヲ鎭撫セシメ、先鋒總督府參謀加勢伏谷惇ヲ以テ參謀助役ト爲シ、村田某（卯一郎、長門藩士、）ヲ參謀加勢ト爲シ、竝ニ前光ニ屬セシメ、磯邊包義（甕之進、筑後藩士、）ヲ使番ト爲ス、是日、前光江戶ヲ發ス、濱松藩兵之ニ屬ス。

○大總督府、糺問局ヲ置キ、奧村某（連三郎、福田邦輔朝臣、）ヲ以テ糺問方頭取ト爲ス、又蠶種紙生絲改所ヲ江戶ニ置キ、印稅ヲ收ム。

○大總督府、田安慶賴ノ市街巡警ヲ罷ム。

○是ヨリ先、大總督府、龜山藩兵ニ命シ、有事ノ日、吉田藩兵ト與ニ餽餉ノ事ヲ掌ラシム、是日、之ヲ罷ム。

○先鋒總督府、尾張藩兵ノ淸水門警守ヲ罷メ、命シテ田安門ヲ嚴守セシム。

○一宮藩、書ヲ先鋒總督府ニ上リ、兇徒管內ニ出沒スルヲ以テ、兵ヲ四境ニ出シテ、之ヲ緝捕セント請フ、因テ命シテ之ヲ鎭轄セシム。

○東山道ノ官軍、白河城ヲ復ス。（伊地知正治日記）

二日、大總督府參謀萬里小路通房、錦旗奉行穗波經度ヲ東海、東山兩道總督府ニ遣シ、㔟旨ヲ傳ヘテ、房、總、野服役諸藩兵ノ戰功ヲ慰賞ス。

○田安慶賴、書ヲ大總督府ニ上リ、德川家達幼沖ナルヲ以テ、松平齊民ヲシテ之ヲ輔ケシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス、尋テ慶賴、齊民ノ親子內親王警守ヲ罷メ、吉井信發（左兵衛督、吉井藩主信謹ノ父、時ニ江戶ニ在リ、）ヲシテ之ニ代ラシメント請フ。

○初メ德川慶喜ノ大阪ヨリ東還スルヤ、其老中板倉勝靜、大河內正質、若年寄竹中重固ニ命シ、屛居シテ命ヲ待タシム、是日、田安慶賴、其狀ヲ大總督府ニ申シ、併セテ去冬以降、諸侯ノ職ヲ京坂ニ奉セシ者ヲ錄上ス。

○是ヨリ先、先鋒副總督、吉田藩ニ命シテ大多喜ノ城邑ヲ保管セシム、是ニ至リ吉田藩、書ヲ先鋒總督府ニ上リ、大多喜ノ管地、參河ニ在ル者ヲ併セテ之ヲ管セント請フ、之ヲ聽ス。

○先鋒副總督八王寺驛ニ抵ル、是日、舊幕府千人同心（八王寺驛ニ住スル者、）ニ命シテ、假ニ本驛傍近ヲ警守セシム。

三日、是ヨリ先、議政官、大總督府ニ牒シ、入道公現親王ヲ諭シテ上京セシム、是日、大總督、親王ヲ召ス、親王疾ヲ以テ辭ス、明日、更ニ參謀西四辻公業、下參謀寺島直方等ヲ遣シ、就キテ

諭セシム、親王辭シテ見ス、尋テ其執當覺王院義觀ヲ召ス、亦疾ヲ謝シテ至ラス。

○大總督府、神奈川裁判所副總督鍋島直大ニ命シテ、上野、下野ヲ鎭撫セシム、因テ兩野諸藩ニ令シテ、其節度ヲ奉シ、力ヲ鎭撫ニ竭サシム、尋テ直大書ヲ上リ、各國公使ト商議ノ事アルヲ申シ、其命ヲ辭ス、批シテ總督東久世通禧ヲシテ其事ニ任セシメ、直大ハ則速ニ兩野ニ赴カシム、既ニシテ其兩野鎭撫ヲ更メテ、下總、下野ヲ鎭セシム。

○大總督府、岡山新田藩兵ノ城中警守ヲ罷メ、更ニ坂下門ヲ守ラシメ、水戸藩兵ニ城中ヲ、宇和島藩兵ニ清水門ヲ守ラシメ、赤心隊ノ坂下門警守ヲ罷メ、更ニ馬場先門ヲ守ラシム、又筑前藩兵ヲ遣シテ神奈川裁判所總督東久世通禧ヲ警守セシメ、紀伊藩兵ヲシテ横濱ヲ守ラシム。

○大總督府、德川家達ニ命シテ、汽船二隻ヲ水戸藩ニ貸與セシム。

○大總督府、青山火藥庫ノ彈藥ヲ收ム。

四日、是ヨリ先、大總督、房、總、野服役諸藩兵ノ軍容ヲ觀ントス、雨ヲ以テ果サス、是日、之ヲ行ヒ、其軍ヲ犒勞ス。

○是ヨリ先、須坂藩老臣、書ヲ朝ニ上リテ、其主堀直虎、（内藏頭、舊幕府若年寄、）死ヲ以テ德川慶喜ヲ諫メシ情狀ヲ申シ、其弟直登（奉之進、）ヲシテ遺封ヲ襲カシメント請フ、内國事務局乃チ大總督府ニ牒シテ、直虎諫死ノ事實ヲ檢覈セシム、是日、督府復書シテ、其事虛構ニアラサルヲ以テ、特ニ之ヲ旌賞シ、速ニ其請ノ如クセンコトヲ請フ。

○大總督府、新發田藩兵ノ筋違門、和泉橋、昌平橋警守ヲ罷メ、津藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

○大總督府、從軍諸藩ニ令シテ、馬匹ノ現數ヲ錄上セシム。

○先鋒總督府、紀伊藩保管スル所ノ德川氏歩兵ノ請ヲ聽シ、官軍ニ加フ。

○保科正益、書ヲ先鋒總督府ニ上リテ、德川氏逋竄ノ徒、（撒兵隊、）再ヒ木更津驛ニ嘯聚スルノ聞アルヲ申ス。

○是ヨリ先、成瀨正肥、田宮篤輝、尾張藩兵ヲ督シテ信濃ニ在リ、林忠崇等ノ甲斐ニ入ルヤ、甲府城代水野忠敬、急ヲ正肥等ニ報シ、援ヲ乞フ、是日、正肥、篤輝、尾張、加納、高須、岩村、飯（山カ）田五藩兵ヲ率ヰテ甲府ニ抵ル。

五日、大總督府、府内警戒條規ヲ定メ、之ヲ諸軍ニ頒ツ。

○大總督府、薩摩、肥後以下九藩兵ニ命シテ、更番城中ニ宿衞セシム。

○大總督府、肥前藩兵ヲ今市驛（下野）ニ發遣シ、土佐藩兵ニ代リテ之ヲ嚴守セシム。
○松下重光、書ヲ大總督府ニ上リ、傍近ノ舊旗下士ヲ糾合シテ、駿、豆沿海ノ警備ヲ修メント請フ、之ヲ聽ス。
○先鋒總督府、中津藩兵ニ命シテ、小田原藩兵ト倶ニ箱根關門ヲ嚴守セシメ、小田原藩ヲシテ其糧餉ヲ辨給セシム、又川崎驛關門ヲ廢シ、牛原藩兵ノ本驛警守ヲ罷ム。
○先鋒副總督、勝沼驛（甲斐）ニ抵ル、是日、甲府城代水野忠敬及ヒ松代、中津、掛川三藩兵ニ令シ、明日ヲ以テ甲府ニ入リ、政務ヲ處理スルヲ告ク。
○酒井忠績（姫路藩主、忠惇ノ父、閑亭ト號ス、時ニ江戸ニ在リ）、書ヲ大總督ニ上リテ、德川氏ニ隷屬セント請フ。

第二十六　自明治元年五月六日　至同　九日

五月六日、是ヨリ先、朝廷松平直克（大和守、前橋藩主）ニ命シテ、總、野地方ヲ鎭撫セシム、直克乃チ江戸ニ至リ、書ヲ大總督府ニ上リテ、其事ヲ申ス、是日、督府、更ニ直克ニ命シテ、上野ヲ鎭セシム、因テ上野諸藩ニ令シ、直克ト協議シテ、力ヲ鎭撫ニ竭サシム、尋テ直克、江戸ヲ辭シ、藩ニ歸ル。

○大總督府、林通顯ヲ以テ、復タ參謀ト爲シ、島義勇（團右衛門、肥前藩士）、中井正勝（五左衛門、因州藩士）、三雲種方（爲一郎、土佐藩士）、佐和田勇（[illegible]之助、大村藩士）ヲ軍監ト爲シ、義勇ヲ下總、下野ニ、正勝、種方ヲ伊豆、相摸ニ、勇ヲ沼津ニ差遣ス、又大久保忠禮、江川英武ノ、林忠崇等ヲ其管内ニ納ルヽノ罪ヲ假シ、正勝、種方ノ節度ヲ奉シテ、報效ヲ圖ラシム。
○阿波藩後軍江戸ニ至ル、大總督府之ヲ中軍ニ屬シ、命シテ講武場及ヒ水道橋ヲ警守セシメ、因幡藩兵ノ東山道總督府部下ニ屬スル者ヲシテ、和田倉、山下、銀座及ヒ龍ノ口歩兵屯所ヲ守ラシム、又兇徒府下ニ出沒スルヲ以テ、關門ヲ和泉橋、昌平橋以下十橋ニ設ケ、行旅ヲ譏察ス。
○大總督府、申ネテ從軍諸藩ニ令シテ、戰死傷者及ヒ病歿者ヲ錄上セシム。
○大總督府、德川家達ニ令シテ、江戸市中ノ舊幕府掲榜ヲ撤セシム。
○大總督府、德川昭武（民部大輔、水戸藩主慶篤ノ弟、清水氏ノ後ヲ襲ク、時ニ佛蘭西國ニ在リ）ニ令シテ、速ニ歸朝セシム。
○英國人、虎ノ門ヲ過ク、守兵西村某（八右衛門、龜山藩兵）、拒テ通セス、英人之ヲ神奈川裁判所ニ訴フ、是日、大總督府、某ノ罪ヲ責メ、龜山藩ニ付シテ之ヲ處分セシム。

〇徳川氏逋竄ノ徒五十人、撒兵隊、水戸藩ニ就テ降ヲ乞フ、是日、水戸藩、書ヲ先鋒總督府ニ上リテ、其狀ヲ申ス、乃チ本藩ニ付シテ之ヲ保管セシム。

〇先鋒副總督、甲府ニ抵リ、一蓮寺ヲ以テ牙營ト爲ス、成瀬正肥、田宮篤輝等來候ス。

七日、大總督府、書ヲ會計局ニ致シテ、米壹萬五千苞ヲ輸送センコトヲ請フ。

〇大總督府、先鋒副總督ニ令シテ、有事ノ日、岡崎藩兵ノ江尻驛ニ屯スル者、及ビ駿府城代本多正訥ノ從兵ヲ指揮セシム、又參謀林通顯ヲ甲府ニ差遣ス。

〇是ヨリ先、大總督府、外國人ノ諸門ヲ往來スルヲ許ス、是日、之ヲ諸門ノ守兵ニ申令ス。

〇監察使、書ヲ白河口、日光口ノ諸軍ニ下シテ、之ヲ奬勵シ、速ニ戡定ノ功ヲ奏セシム。

〇關宿藩老臣、書ヲ先鋒總督府ニ上リテ、藩士久世廣文、奸臣ノ擁スル所ト爲リ、江戸ニ逃匿スルノ狀ヲ陳シ、歸藩ノ命ヲ得ンコトヲ請フ、是日、督府、書ヲ下シテ、廣文ノ其職ヲ失スルヲ譴メ、藩士ニ令シ、屏居シテ後命ヲ待タシム、又藩士ノ筑前藩邸ニ屏居スル者、杉山某對軒、ヲ除クノ外、悉ク之ヲ藩地ニ移ス、尋テ老臣等書ヲ上リテ、廣文ヲ寛宥センコトヲ請フ。

〇駿府城、海道ノ要衝ニ當リ、且城代以下向背圖リ難キヲ以テ、先鋒副總督參河裁判所總督平松時厚ニ移牒シテ、本城ノ守備ヲ都督セシム、又松代、中津以下七藩兵ヲ分テ、甲府及ビ鰍澤、勝沼、川浦等諸處ヲ警守セシム。

八日、大總督府、逋逃脱籍者ノ處分ヲ諸藩ニ令ス。

〇薩摩、尾張、肥前三藩、書ヲ大總督府ニ上リテ、藩兵、彰義隊ノ殺傷スル所ト爲リシ狀ヲ申ス。

〇先鋒總督府、津藩兵ニ命シテ、小石川、牛込二門ヲ警守セシム。

〇江川英武、書ヲ先鋒總督府ニ上リテ、兇徒、武藏ノ管地多摩郡田無村、ニ嘯聚スルノ狀ヲ申ス。

〇甲府城代水野忠敬、甲府駐在諸藩ノ兵員ヲ、先鋒副總督ニ上申ス。

九日、大總督府、川村某長吉、吉田藩士、ヲ以テ使番ト爲ス。

〇是ヨリ先、東山道總督府、舊日光奉行新庄直温右近將監、組頭清水某三郎右衛門ニ命シテ、日光ニ謹愼セシム、田安慶賴乃チ書ヲ大總督府ニ上リ、直温等ヲシテ江戸ニ至リ、屏居シテ命ヲ待タシメント請フ、既ニシテ山道督府、直温等ヲ江戸ニ押送ス、是日、大

總督府、督府ニ牒シテ、直温等ヲ本府ニ交付セシム、尋テ之ヲ宥シ、徳川家達ニ交付ス。
○安藝藩第二軍品川ニ至ル、大總督府命シテ、泉岳寺ニ屯セシム、尋テ之ヲ郭内ニ移ス、又津藩兵ノ高輪ニ屯スル者ニ令シテ、郭内ニ移陣セシム。
○大總督府、棚倉藩ノ兵器ノ、江戸藩邸ニ在ル者ヲ收ム。
○黄山代官江川英武、舊幕府毎歳代官所ニ下付セシ費額ヲ、先鋒總督府ニ録申ス。

第二十七 自明治元年五月十一日 至同 十六日

五月十一日、大總督府、紀伊藩兵ノ小石川、牛込二門警守ヲ罷メ、新發田藩兵ヲ以テ之ニ代フ。
○大總督府、徳川家達ニ令シテ、増上寺ノ守兵ヲ撤セシム。
○一橋茂榮、書ヲ大總督府ニ上リ、徳川氏ノ臣隷危懼不安ノ情ヲ陳シ、速ニ徳川家達ノ封土ヲ定メ、且慶喜ヲ江戸ニ召還シ、以テ衆心ヲ鎭輯センコトヲ請ヒ、又其弟松平容保、松平定敬ノ爲ニ哀ヲ乞フ。
○監察使大音厚龍、(龍太郎、彦根藩士、)柴山典(文平、筑後藩士、)ヲ以テ軍監ト爲シ、上野ヲ巡察セシム、因テ之ヲ前橋、高崎以下九藩ニ布告ス。

○先鋒總督府、肥後藩兵ノ櫻田門警守ヲ罷メ、龜山藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、龜山藩兵ノ、虎ノ門、新シ橋警守ヲ罷メ、肥後藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、津藩兵ノ小石川、牛込二門警守ヲ罷ム。
○安部信發、書ヲ先鋒總督府ニ上リ、家令ノ封邑岡部ニ在ル者ヲ、參河ノ管地半原(八名郡)ニ移サンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。
○甲府地方略鎭定ニ就クヲ以テ、先鋒副總督令シテ、成瀬正肥、田宮篤輝、及ヒ尾張、加納以下五藩兵ヲ信濃ニ班シ、正肥ノ兵(四十人)ヲ留メテ、本地ヲ警守セシム。
十一日、江戸府ヲ置キ、大總督參謀助補(補助カ)木村重任、下參謀補助河田景與、軍監補助土方久元、満岡公張等ヲ以テ判事ト爲ス。
○大總督府、使番太田廣經、四宮正成ヲ以テ、使番取締ト爲ス。
○大總督府、諸門ノ守兵ニ令シ、時ニ使番ヲ派遣シテ、屯所ヲ巡檢セシムルヲ告ク。
○大總督府、紀伊藩兵ノ龍ノ口歩兵保管ヲ罷メ、因幡藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、肥後藩兵ノ城中ニ在ル者ヲ竹橋ニ移ス。
○先鋒副總督、小田原藩ニ令シテ、援兵ヲ甲府ニ出サシム、尋テ之ヲ止ム。
○十二日、大總督府、今井某(良之允、[illegible]藩士、)四ヲ以テ使番ト爲ス。
○大總督府、新發田藩兵ノ城中ニ在ル者ヲ、福島藩邸ニ移ス。

○松本藩、書ヲ大總督府ニ上リ、信越ノ賊徒追討ノ朝命ヲ拜セシヲ以テ、藩兵ノ下野ニ在ル者ヲ罷歸セント請フ、之ヲ聽ス。

○先鋒總督府、備前藩保管スル所ノ歩兵、歸邑ノ請ヲ聽シ、路費ヲ給シテ之ヲ遣ル。

○江川英武、書ヲ先鋒總督府ニ上リテ、御藏島漂流人救助、及ヒ藤澤驛橋梁架設ノ費金支出ノ方ヲ稟請ス。

○伊豆權現別當般若院、箱根權現別當金剛王院、並ニ書ヲ先鋒總督府ニ上リテ、社領及ヒ免役等、悉ク其舊ニ仍ランコトヲ請フ。

○豆相軍監、小田原、荻野山中二藩ニ令シテ、兵員及ヒ銃器ヲ錄上セシム。

十三日、大總督府、吹上藩兵ニ命シテ、山下門ヲ警守セシメ、報國隊ニ金座ヲ守ラシム、又薩摩、尾張以下十七藩兵ヲ分チ、豫メ警急ニ備ヘ、一命ノ下直ニ大下馬ニ參集セシム。

○先鋒總督府、中津藩兵ノ箱根關門警守ヲ罷メ、小田原藩ニ令シ、豆相軍監ト協議シテ、嚴ニ之ヲ守ラシム、軍監乃チ關門警守規則ヲ定メテ、之ヲ本藩ニ令ス。

十四日、大總督府大西某道郎、津藩士ヲ以テ使番ト爲ス。

○大總督府、安藝藩兵ニ命シテ、築地及ヒ芝口傍近ヲ警守セシム。

○先鋒總督府、肥後藩兵ノ海軍先鋒ニ隸スル者ヲ以テ、本府ニ隸ス。

○津藩、書ヲ先鋒總督府ニ上リテ、藩兵ノ關宿ニ戍スル者ヲ、撤還セント請フ。

○關東地方未タ鎭定ニ就カサルヲ以テ、先鋒副總督、駿府城代本多正訥ヲ戒メテ、其守備ヲ嚴ニセシム。

○是ヨリ先、先鋒副總督、舊甲府勤番ニ諭シ、徳川氏ヲ存錄セシヲ以テ、速ニ其去就ヲ決セシム、是日、其歸順者百三十八人ヲ朝臣ニ列シ、護衞隊ト稱シ、甲府城代ニ隸シ、本地ヲ警守セシメ、其徳川氏ニ隸從センコトヲ請フ者、二百七十八人ハ之ヲ聽ス、又其形跡疑フヘキ者十八人ヲ捕ヘ、沼津藩及ヒ甲府町奉行ニ付シテ、之ヲ保管セシム。

十五日、彰義隊ノ橫暴日ニ益甚ク、官軍ヲ途ニ殺スニ至ル、是ニ於テ、大總督府、諸軍ニ令シテ之ヲ討ス、賊徒大ニ敗ル、輪王寺執當龍王院堯忍等、入道公現親王ヲ要シテ逃匿ス、親王遂ニ會津ニ奔ル。東征紀略、東征總督記、東海道先鋒記

○先鋒總督府、尾張藩兵ニ命シテ、牙營ヲ警守セシム。

○先鋒副總督、甲府駐在諸藩兵ニ令シ、警急ノ際、號砲ヲ三發

スルヲ以テ、直ニ牙營ニ參集セシム。
○豆相軍監、荻野山中藩ニ命シテ、豆相二州ノ形狀ヲ偵察セシム。
十六日、大總督府、德川家達ニ命シテ、暫ク其隊兵ヲ解カシム。
○先鋒副總督、松代藩ニ命シテ、更ニ兵一小隊ヲ甲府ニ出サシム。

第二十八 自明治元年五月十七日 至同 二十日

五月十七日、大總督府、松平忠敬、堀田正倫、德川慶篤、松平直克、戶田忠友ニ命シテ、武藏、安房、上總、下總、常陸、上野、下野諸藩政令傳達ノ事ヲ管セシム。
○大總督府、書ヲ薩摩、長門、大垣、忍四藩兵ニ下シテ、白河城回復ノ功ヲ賞ス。
○大總督府、安藝藩兵ノ忍ニ在ル者ヲ甲府ニ遣シ、先鋒副總督ニ屬シテ、東叡山ノ殘賊ヲ誅夷セシム。
○先鋒副總督、小島藩ニ命シテ、援兵一小隊ヲ甲府ニ出サシム。
○豆相軍監中井正勝、三雲種方、小田原、荻野山中二藩ニ命シテ、兇徒如シ其管內ニ入ラハ、速ニ之ヲ捕斬セシム、又軍監派遣ノ意ヲ豆、相二州人民ニ諭告シ、各其堵ニ安セシム。
○舊眞岡下野代官山内某源七郎等、陰ニ野奥ノ賊ニ通スルヲ以テ、總野軍監島義勇、肥前、土佐二藩兵ヲ遣シ、某等ヲ捕ヘ之ヲ斬リ、其廳ヲ焚ク。
十八日、水戶藩、書ヲ大總督府ニ上リテ、藩士官軍ノ殺ス所ト爲リシ狀ヲ申ス、督府乃チ諸軍ニ令シテ、其濫殺ヲ戒ム。
○先鋒總督、書ヲ副總督ニ致シテ、東叡山賊徒掃蕩ノ事ヲ報シ、且殘賊甲斐地方ニ逃匿スルノ聞アルヲ以テ、益其守備ヲ嚴ニセシム、副總督乃チ肥後、松代以下八藩兵ニ命シテ、府內ノ警守ヲ申嚴シ、掛川藩兵ヲシテ、八王寺驛ヲ扼守セシム。
○豆相軍監中井正勝、三雲種方、小田原藩兵一小隊ヲ荻野山中ニ發遣シ、大久保教義ヲシテ之ヲ督シ、以テ賊徒ヲ誅夷セシム、又教義ニ命シテ、兵十五人ヲ伊豆大場村君澤郡ニ出サシム。
○是ヨリ先、先鋒副總督佐貫城阿部正恒ノ治所ヲ收メ、佐倉藩ニ命シテ之ヲ保管セシム、是日、東叡山ノ殘賊、佐貫城ヲ襲フ、佐倉藩兵邀ヘ擊テ之ヲ郤ク。
十九日、鎭臺ヲ江戶ニ置キ、社寺、市政、民政ニ裁判所ヲ置キ、大總督熾仁親王ヲシテ之ヲ管セシメ、東海道總督橋本實梁、海軍先鋒大原俊實ヲ以テ鎭臺補ト爲シ、大總督府參謀西四辻公業ニ鎭臺補ヲ兼シム、又東山道總督岩倉具定ヲ白河口總督ト爲シ、副總督岩倉具經仍之ニ副シ、北陸道總督高倉永祜ヲ越後

口總督ト爲シ、東海道副總督柳原前光ヲ大總督府參謀ト爲シ、甲斐ヲ鎭撫セシメ、錦旗奉行穗波經度ヲ參謀ト爲シ、錦旗奉行河鰭實文ニ參謀加勢ヲ兼シメ、江戸府判事河田景與及ヒ東海道總督府監軍渡邊淸、參謀加勢吉村叙輸ヲ下參謀ト爲シ、參謀林通顯ヲ軍監ト爲シ、甲斐鎭撫府參謀ヲ兼シム、是ニ於テ、諸道及ヒ海軍先鋒皆罷ミ、先鋒諸藩兵、直ニ大總督ノ麾下ニ隷ス。

○大總督府、肥後藩兵ノ櫻田、市ケ谷、喰違、赤坂、虎ノ門警守ヲ罷メ、命シテ白河口ニ赴援セシメ、紀伊藩兵ヲシテ櫻田門ヲ守ラシメ、因幡藩兵ノ和田倉警守ヲ罷メ、大久保忠告ノ兵ヲ以テ之ニ代フ。

○是ヨリ先、石川總督、亂ヲ水戸ニ避ク、是ニ至リ、其治所下館ニ歸リ、管内ヲ鎭輯ス、因テ書ヲ大總督府ニ上リテ、其狀ヲ申ス。

○林忠崇等、沼津藩ヲ脫シテ箱根ニ走ル、沼津軍監和田勇、沼津藩兵ヲ發シテ之ヲ討セシメ、急ヲ豆相軍監中井正勝、三雲種方ニ報シテ援ヲ乞フ、正勝等乃チ小田原藩兵ヲ發シテ赴援セシム、既ニシテ忠崇等進テ箱根ヲ侵ス、小田原藩兵叛テ之ニ應ス、賊遂ニ箱根ニ據リ、明日正勝ヲ殺シ、種方ヲ逐フ、是日、賊勇ヲ其寓ニ襲フ、勇僅ニ身ヲ以テ免カレ、走テ沼津城ニ投ス。

二十日、行政官、書ヲ大總督府ニ致シテ、酒井忠祿（若狹小濱藩主）以下十四人謹愼赦宥、及ヒ在京舊旗下士、祿邑復舊等ノ事ヲ報ス。

○越後口總督高倉永祜、新潟裁判所總督兼鎭撫副總督四條隆平、書ヲ大總督府ニ致シ、本月八日ヲ以テ、高田ニ抵リシヲ告ク、是日、督府復書シテ之ヲ慰問シ、速ニ戡定ノ功ヲ奏セシム。

○大總督府、沼津軍監和田勇ニ令シテ、速ニ林忠崇等ヲ處分セシム。

○大總督府、備前藩兵ニ命シテ、赤坂門ヲ警守セシメ、彦根藩兵ノ築地應援ヲ罷ム、又土佐藩兵ノ宇都宮ニ在ル者ニ令シテ、白河口ニ赴援セシム。

○是ヨリ先、結城藩主水野勝知、治所ヲ去リテ彰義隊ニ投シ、密ニ徳川氏ヲ扶持センコトヲ謀ル、既ニシテ上野ヲ脫シ、一本松藩邸ニ潛匿ス、是日、大總督府之ヲ捕ヘ、津藩ニ付シテ之ヲ保管セシム、又肥後藩ノ關宿藩士杉山某（對軒）保管ヲ罷メ、津藩ヲ以テ之ニ代フ、尋テ某疾ニ罹ルヲ以テ、津藩ニ就テ藩地ニ歸療センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○大總督府、宇都宮藩屢戰鬪ヲ經、且城邑兵火ニ罹リシヲ以テ、小銃百口ヲ賜フ。

○諸軍往々官軍ノ標章ヲ帶ヒ、且不良ノ擧動アルヲ以テ、大總督府、令シテ之ヲ戒飭ス、又其私ニ市街ヲ往來シ、及ヒ市中ニ屯宿スルヲ禁ス。

○大總督府、旅費ヲ更定ス。

○大總督府、金五千兩ヲ增上寺ニ借ル。

第二十九 自明治元年五月二十一日 至同二十四日

五月二十一日、是ヨリ先、朝廷甲府城代水野忠敬ノ臣隷、賊ニ通スルノ聞アルヲ以テ、令シテ其老臣ヲ京師ニ召ス、忠敬乃チ書ヲ大總督府ニ上リテ、其狀ヲ稟シ、假ヲ得テ歸藩シ、功ヲ立テ以テ勤王ノ實ヲ表セント請フ、是日、督府、忠敬ノ城代ヲ罷メ、速ニ歸藩シテ傍近諸藩ト倶ニ其守備ヲ修メ、以テ東叡山ノ殘賊ニ備ヘシメ、眞田幸民ヲ以テ甲府城代ト爲ス。

○諸道總督ヲ罷メシヲ以テ、大總督府、諸藩ニ令シテ、嗣後水陸往來、皆本府ノ印鑑ヲ帶ヒシム。

○大總督府、越後口總督府ニ牒シテ、東叡山賊徒掃蕩ノ狀ヲ告ケ、且速ニ越地戡定ノ功ヲ奏セシム。

○大總督府、肥後藩兵ノ鎭臺補橋本實梁、營守及ヒ三番町步兵保管ヲ罷メ、津藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

○賊徒、房總地方ニ出沒スルヲ以テ、大總督府、佐倉藩ニ令シ、前橋藩ト協議シテ、速ニ之ヲ誅夷セシム。

○土佐藩士羽山某、晉、佛國人ト橫濱ニ爭闘ス、神奈川裁判所其罪ヲ判シ、某ニ命シテ歸藩謹愼セシム、因テ書ヲ大總督府ニ致シテ、其狀ヲ報ス。

○甲斐鎭撫府、肥後藩兵ノ甲府屯戍ヲ罷メ、之ヲ江戸ニ還ス。

○林忠崇等、小田原藩兵ト合シ、將ニ進テ沼津ニ逼ラントスルノ聞アルヲ以テ、沼津藩兵ヲ木瀬川ニ出シテ之ニ備ヘ、急ヲ傍近諸藩及ヒ佐土原藩兵ノ、江尻驛ニ次スル者ニ報シテ援ヲ乞フ、尋テ佐土原藩兵、進テ沼津ニ至ル。

二十二日、大總督府、津藩兵ノ和泉橋警守ヲ罷メ、岡田善長ノ兵ヲ以テ之ニ代フ。

○是ヨリ先、朝廷郡上藩（青山幸宜ノ藩府、）ニ命シテ、飛驛ヲ警守セシム、是ニ至リ、藩兵ノ江戸ニ在ル者、書ヲ大總督府ニ上リ、賊徒飛驛ニ侵入スルノ虞アルヲ以テ、歸藩シテ警備ヲ嚴ニセント請フ、獎勵シテ之ヲ遣ル。

○越後口總督高倉永祜、新潟裁判所總督兼鎭撫副總督四條隆平、書ヲ大總督府ニ致シテ、長岡城回復ノ狀ヲ報ス。

○甲斐鎭撫府、甲府町奉行兼代官中山某（誠一郎、）ノ町奉行ヲ罷メ、

名倉信敦（予何人、濱松藩士、）ヲ以テ町差配ト爲ス。
○箱根ノ賊勢猖獗ナルヲ以テ、參河裁判所總督平松時厚、駿府駐在諸藩兵ヲ戒飭シテ之ニ備ヘ、書ヲ甲斐鎭撫府ニ致シテ其狀ヲ報ス、是日、鎭撫府、岡崎、田中二藩兵ノ駿府ニ在ル者ニ令シテ、賊如シ駿府ニ向ハヽ、速ニ之ヲ誅夷セシム、尋テ時厚モ亦沼津藩ニ令シテ、嚴ニ賊兵ノ西侵ヲ防遏セシメ、岡崎藩ヲシテ藩兵ヲ豫備シ、緩急駿府ニ赴援セシム。
○神奈川裁判所副總督鍋島直大、下總、下野鎭撫ノ命ヲ拜セシヲ以テ、江戸ニ抵リ、總野鎭撫府ヲ古河ニ開キ、老臣ヲ遣シテ其事ヲ管セシム、尋テ鎭撫府ヲ宇都宮ニ移ス。
○賊復タ木更津地方ニ嘯聚スルヲ以テ、佐倉藩兵ヲ發シテ之ヲ討ス、賊風ヲ聞テ先逃ル。
二十三日、豆相軍監三雲種方、小田原ヨリ至リ、大久保忠禮賊ニ黨セシ狀ヲ大總督府ニ上申ス、督府乃チ參謀穗波經度ヲ以テ問罪使ト爲シ、下參謀河田景與ヲ其參謀ト爲シ、種方及ヒ長門、因幡、津、備前四藩兵ヲ率ヰテ小田原ニ赴カシム、尋テ忠禮ノ江戸邸ヲ沒シ、新見藩ヲシテ之ヲ保管セシム。
○神奈川裁判所總督東久世通禧、書ヲ大總督府ニ致シテ、横濱警守ノ紀伊藩兵、怯惰其任ニ堪ヘサルヲ以テ、速ニ精兵ヲ發シテ之ニ代ラシメント請フ、督府乃チ大屋某（斧二郎、籍未詳、）及安永弘行（又吉、肥前藩士、）ヲ以テ軍監ト爲シ、往テ紀伊藩兵ヲ監セシム。
○大總督府、稻田邦植ノ兵ノ城中警守ヲ罷メ、吉田、岩村二藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、邦植ノ兵ヲ遣シテ、關口水道町鑄造場ノ銃器ヲ收ム、又兇徒再ヒ八幡近傍ヲ劫掠スルヲ以テ、邦植ノ兵ヲ發シテ之ヲ鎭戢シ、肥前藩軍艦（孟春艦、）ヲ遣シテ、仙臺、盛岡二藩ノ汽船ノ浦賀港ニ在ル者ヲ收ム。
○大總督府、諸軍ニ令シテ、私ニ横濱ニ赴クヲ禁ス。
○甲斐鎭撫府、沼津、高遠二藩兵ヲ箱根ニ發遣シ、沼津軍監和田勇ノ指揮ヲ奉シテ、賊徒ヲ誅夷セシメ、中津、高島二藩兵ヲシテ甲府城及ヒ原村ヲ警守セシム、因テ沼津藩重臣ヲ召シテ之ヲ奬勵ス、明日、更ニ參謀助役伏谷惇ニ命シ、松代、濱松二藩兵ヲ率ヰテ、箱根ニ赴カシメ、沼津藩及ヒ江川英武、久世某（三四郎、）ヲシテ、其糧餉丁馬ヲ辨給セシム、尋テ八王寺驛警守ノ掛川藩兵ヲ戒メテ、其守備ヲ嚴ニセシメ、小島藩ニ令シテ、賊如シ管内ニ入ラハ、傍近舊旗下士ヲ糾合シテ、之ヲ剿除セシム。
二十四日、輔相三條實美ノ監察使ヲ罷メテ、關八州鎭將ヲ兼ネ、三等陸軍將烏丸光徳（宰相、時ニ京師ニ在リ、）ヲ以テ江戸府知事ト爲シ、鎭臺補大原俊實、大總督府參謀西四辻公業ニ關八州監察使ヲ兼

ネシム、公業之ヲ辭ス。

○徳川家達ヲ駿河ニ封シ、遠江、陸奥ノ地ヲ併セテ、七拾萬石ヲ賜フ、尋テ參河ヲ以テ陸奥ニ代フ、又一橋茂榮、田安慶賴ヲ藩屏ニ列シ、徳川氏臣隷ノ官位ヲ停ム。

○大總督府、肥後藩兵ノ白河口發遣ヲ罷メ、命シテ和泉橋、筋違門、昌平橋ヲ警守セシメ、津藩兵ノ和泉橋、筋違門、昌平橋警守ヲ罷メ、之ヲ白河口ニ發遣シ、飯田藩兵ニ銀座ヲ、加納藩兵ニ上野山内ヲ守ラシム、津藩之ヲ辭ス。

○松平賴位、書ヲ大總督府ニ上リテ、勤王貳ナキヲ陳ス。

第二十

自明治元年五月二十五日
至同　二十七日

五月二十五日、大總督府下參謀寺島直方ヲ京師ニ遣シテ、江戸地方平定ノ狀ヲ奏シ、且更ニ薩、長兵ヲ發遣センコトヲ請フ。

○大總督府、木呂子某（善兵衞、館林藩士、）ヲ以テ、徵士軍監補ト爲ス。

○大總督府、舊高家交代寄合以下ノ江戸ニ在リテ歸順セシ者ヲ朝臣ニ列シ、其祿ヲ復ス。

○大總督府、龜山藩兵ノ虎之門警守ヲ罷メ、岡田善長ノ兵ヲ以テ之ニ代ヘ、善長ノ和泉橋警守ヲ罷ム。

○問罪使總督穗波經度、出テ橫濱ニ次シ、其參謀河田景與ヲシテ長門、因幡、津、備前四藩兵ヲ率ヰテ小田原ニ赴カシム、大久保忠禮、城及ヒ兵器ヲ致シ、寺院ニ屏居シテ罪ヲ待ツ、景與乃チ其罪狀ヲ詰問ス、忠禮答辯書ヲ上リ、且賊ヲ討シテ以テ自效セント請フ、之ヲ聽ス、是日、大總督府、重ネテ下參謀渡邊清ヲシテ、津、大村、佐土原三藩兵ヲ率ヰテ、海路小田原ニ赴カシム、既ニシテ忠禮伏罪ノ報到ル、因テ其行ヲ止ム。

○安藝藩兵甲府ニ至ル、甲斐鎭撫府命シテ、牙營及ヒ山中村ヲ警守セシム。

○本堂親久ノ兵、（一小隊、）江戸ニ至ル、（木梨稿、久榮記）

二十六日、大總督府、書ヲ奧羽鎭撫總督府ニ致シテ、東叡山賊徒掃蕩ノ事ヲ報シ、且奧羽ノ形狀ヲ問フ。

○甲斐鎭撫府、兵ヲ箱根ニ發シ、甲府守ニ乏キヲ以テ、尾張藩兵ノ信濃ニ在ル者ニ令シテ、速ニ入衞セシム、尋テ藩兵犬山、加納、高須、岩村、苗木、高富六藩兵ト與ニ甲府ニ至ル。

○大久保忠禮、兵ヲ發シテ、林忠崇等ヲ山崎村（小田原ノ東一里許、）ニ討ス、問罪官軍之ヲ援ク、賊兵敗走ス、明日、藩兵官軍ト追擊シテ箱根驛ニ至ル、忠崇等伊豆ニ逃レ、遂ニ海ニ航シテ陸奧ニ走ル、官軍乃チ師ヲ小田原ニ班ス。

二十七日、鎭將三條實美、手詔ヲ親子內親王ニ傳ヘテ、徳川氏

處分既ニ畢ルヲ告ケ、其去住ヲ問フ、内親王恩命ヲ謝シ、暫ク西上ノ期ヲ緩クセント請フ。

○大總督府、柴岡某、宗伯、備前藩醫、大澤某、宗隆、薩摩藩醫、ヲ以テ、横濱病院醫師頭取ト爲ス。

○大總督府、軍監補木村子某、善兵衛、ヲ越後口ニ遣シ、書ヲ薩摩、長門以下諸藩兵ニ下シテ、長岡城回復ノ功ヲ賞ス。

○大總督府、龜山藩兵ノ幸橋警守ヲ罷メ、本堂親久ノ兵ヲ以テ之ニ代フ。

○大總督府、徳川家達ニ令シテ、長崎、箱館、七島伊豆、及ヒ硝石、川船等、諸會所ノ簿冊ヲ市政裁判所ニ致サシム。

○一橋茂榮、田安慶頼等、書ヲ大總督府ニ上リテ、舊幕府臣隷ヲ朝臣ニ列シ、其祿邑ヲ復センコトヲ請フ、令シテ其姓名、階級ヲ錄上セシム。

第三十一　自明治元年五月廿八日 至同 六月三日

五月二十八日、甲斐鎭撫府、書ヲ大總督府ニ致シテ、急ニ精兵ヲ甲府ニ發遣センコトヲ請フ、時ニ府下見兵甚タ寡シ、督府乃チ復書シテ、他日ヲ俟テ之ヲ發スルヲ告ク、是日、督府、安藝藩兵ヲ甲府ヨリ召還ス。

○大總督府、將ニ諸藩ノ戰死者ヲ弔祭セントス、因テ東海、東山兩道服役ノ諸藩ニ令シテ、其戰死者ヲ錄上セシム。

○諸道先鋒總督ヲ罷メシヲ以テ、大總督府白河口出征諸藩兵ニ令シテ、金穀ヲ本府會計局ニ仰カシム。

○甲斐鎭撫府、書ヲ水野忠敬ニ下シテ、其林忠崇等ヲ逸スルノ罪ヲ責ム、尋テ、忠敬書ヲ上リテ、其亡狀ヲ陳謝ス。

○總、野鎭撫府、下總、下野諸藩ニ令シテ、傍近ノ舊幕府領、及ヒ舊旗下士采邑ノ戸口、租入等ヲ檢覈錄上セシム。

○甲斐鎭撫府參謀助役伏谷惇、沼津軍監和田勇ト倶ニ、松代、濱松、沼津、高遠、佐土原五藩兵及ヒ松下重光ノ兵ノ三島驛ニ戍スル者ヲ部署シ、三道並進シテ、箱根ニ至ル、賊兵既ニ潰散スルニ會フ、乃チ佐土原藩兵ニ令シ、東進シテ江戸ニ赴カシメ、明日、松代、濱松、沼津、高遠四藩兵ヲ率ヰテ、甲府及ヒ沼津ニ凱還シ、重光ノ兵ヲ三島ニ班ス、佐土原藩兵乃チ進テ小田原ニ至ル、豆相軍監三雲種方、令シテ本地ニ屯戍セシム。

二十九日、是ヨリ先、朝廷、三等陸軍將四條隆謌少將、ヲ以テ駿府鎭撫使ト爲シ、親兵七番隊、及ヒ津、郡山、岡、島原、杵築、人吉六藩兵ヲ率ヰテ之ニ赴カシム、是ニ至リ、徳川家達ヲ駿河ニ封セシヲ以テ、大總督府、隆謌ニ牒シテ、速ニ江戸ニ至ラシム、尋テ隆

謂、岡崎藩兵ヲ留メテ駿府ヲ衞セシメ、親兵及ヒ津以下六藩兵ヲ率ヰテ江戸ニ赴ク。

○是ヨリ先、朝廷、戸田忠友ニ謹愼ヲ命ス、是ニ至リ、大總督府、其父忠恕、（宇都宮藩主）勤王ノ實蹟アルヲ以テ、其謹愼ヲ釋ク。

○箱根ノ殘賊、伊豆網代村（君澤郡）傍近ニ屯據スルノ聞アルヲ以テ、大總督府、江川英武ニ令シテ、速ニ之ヲ誅夷セシメ、薩摩藩兵ヲ白河口ニ發遣ス、又箱根驛及ヒ湯本村等ノ兵燹ニ罹ル者ヲ賑恤ス。

○問罪使參謀河田景與、書ヲ大總督府ニ致シテ、大久保忠禮、伏罪ノ狀ヲ報シ、其處分ヲ稟請ス、批シテ軍監三雲種方及ヒ津藩兵ヲ留メテ、小田原及ヒ箱根ヲ鎭シ、速ニ師ヲ江戸ニ班サシム、景與又沼津、岡崎二藩疑フヘキノ形跡アルヲ以テ、往テ之ヲ按問セント請フ、督府令シテ之ヲ止メ、其老臣ヲ江戸ニ召サシム。

○一橋茂榮、田安慶頼及ヒ東叡山ノ僧侶等、書ヲ大總督府ニ上リ、入道公現親王ノ爲ニ恩宥ヲ請フ。

○大總督府參謀正親町公董、舊先鋒總督府參謀木梨恒準等、京師ヨリ至リ反命ス、江戸府知事烏丸光德、三等陸軍將鷲尾隆聚（侍從）モ亦至ル。（東征日記、督府記）

晦日、今市驛傍近、賊勢猖獗ナルヲ以テ、總、野鎭撫鍋島直大、從兵ヲ發シテ今市ノ官軍ニ應援セシム、因テ書ヲ大總督府ニ上リテ、其狀ヲ申ス。

○林忠崇等、海ニ航シテ遁走セシヲ以テ、田中藩兵ヲ清水港ニ出シテ、之ニ備フ、是日、書ヲ大總督府ニ上リ、其狀ヲ申ス。

是月、大總督府、大久保忠禮ニ命シテ、伊豆、相模二州、政令傳達ノ事ヲ管セシム。

○監察使、東山道總督府軍監岩村高俊（精一郎、土佐藩士）ヲ以テ、其軍監ト爲ス。

○德川家達、書ヲ大總督府ニ上リ、曾テ幕府雇フ所ノ佛國陸軍教師ノ措置ヲ稟請ス。

六月朔日、大總督府、金穀ヲ出征諸藩ニ下付シテ、各自藩兵ノ糧餉ヲ措辨セシム。

○是ヨリ先、奥羽鎭撫總督九條道孝、仙臺ニ次シ、副總督澤爲量（三位）ヲ遣シテ莊內ヲ討ス、是ニ至リ、爲量、能代驛（出羽）ニ次シ、書ヲ大總督府ニ致シテ、莊內征討ノ狀ヲ報シ、軍艦ヲ野代港ニ發遣センコトヲ請フ、尋テ越後口總督高倉永祜等モ亦、督府ニ牒シテ奥羽ノ形狀ヲ報シ、軍艦ノ發遣ヲ促ス。

○甲斐鎭撫府、甲府出征諸藩ニ令シテ、其兵員ヲ錄上セシム。

二日、大總督府、諸藩ノ戰死者ヲ江戸城中ニ祭ル。

○大總督府、使番河田景福ヲ以テ、使番取締ト爲ス。

○神奈川裁判所總督東久世通禧、重ネテ書ヲ大總督府ニ致シ、精兵ヲ發シテ横濱ヲ守ラシメント請フ、督府乃チ、肥後藩兵ヲ遣シ、紀伊藩ニ代リテ、本地ヲ警守セシム。

○是ヨリ先、東山道總督府、壬生藩ニ命シテ、板倉勝靜ノ、臣隷ノ日光ニ在リテ降ヲ乞ヒシ者（五十二人、）ヲ、江戸ニ護送セシム、是日、江戸ニ至ル、大總督府乃チ紀伊、因幡二藩ニ命シテ、之ヲ保管セシム、尋テ降人ニ令シ、藩ニ歸リ謹愼シテ朝裁ヲ待タシム。

○新發田藩士ノ江戸ニ在ル者、書ヲ大總督府ニ上リテ、本藩、奧羽賊徒ノ脅迫スル所ト爲リ、兵ヲ出シテ之ニ黨スルノ聞アルヲ申シ、謹愼シテ罪ヲ待ツ、批シテ之ヲ停メ、後報ノ到ルヲ俟タシム。

○甲斐鎭撫柳原前光、牙營ヲ甲府城ニ移シ、安藝、松代以下四藩兵ヲ分テ、本城ヲ警守ス。

三日、是ヨリ先、大總督府、岡崎藩ニ命シテ、駿府ヲ警守セシム、是ニ至リ、刈谷、擧母二藩、參河裁判所ノ命ヲ奉シ、兵ヲ駿府ニ出スヲ以テ、岡崎藩、書ヲ甲斐鎭撫府ニ上リテ、藩兵ノ進止ヲ取ル、批シテ二藩兵ト與ニ之ヲ嚴守セシム。

第三十二　自明治元年六月四日　至同　十二日

六月四日、大總督府、鎭臺府判事小笠原茂敬（唯八、後牧野群馬ト稱ス、土佐藩士、）ヲ以テ軍監ト爲シ、白河口ニ差遣ス。

○大總督府、備前藩兵ノ赤坂門警守、及ヒ歩兵保管ヲ罷メ、阿波藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、半原藩兵ヲシテ、鎭臺補西四辻公業ヲ警守セシム。

○大總督府、佐土原藩兵ノ小田原ニ在ル者ニ令シテ、速ニ江戸ニ至ラシム、是日、藩兵江戸ニ至ル。

○田野口藩、（大給恒ノ治所、）書ヲ大總督府ニ上リ、上野南牧、（甘樂郡、）上信分界ノ要地ナルヲ以テ、關門ヲ設ケ、藩兵ヲ發シテ、之ヲ守ラシメント請フ、之ヲ聽ス。

○官軍ノ彰義隊ヲ討スルヤ、久世廣文、佐倉ニ奔ル、是ニ至リ、其老臣等、之ヲ本藩ニ迎ヘ、書ヲ大總督府及ヒ總野鎭撫府ニ上リテ、其罪ヲ陳謝ス、廣文ノ支族久世某（鉾三郎、）モ亦書ヲ督府ニ上リテ、廣文ノ爲ニ哀ヲ乞フ。

○鎭臺府、眞岡縣（下野、）ヲ置キ、鍋島貞幹（道太郎、肥前藩士、）ヲ以テ知事ト爲ス。

○是ヨリ先、舊幕府、金ヲ江戸ノ商賈ニ課ス、是日、鎮臺府、錄シテ公債ト爲シ、漸ヲ以テ之ヲ償還スルヲ令ス。

○是ヨリ先、戸田忠行、長門守、足利藩主、足利學校ヲ興復センコトヲ東山道總督府ニ請フ、是日、書ヲ總野鎮撫府ニ上リテ、其請ヲ申ス。

五日、江戸府知事烏丸光德ヲ以テ鎮臺補ト爲ス。

○大總督府、鎮臺補橋本實梁ヲ京師ニ遣ス、使番取締河田景福之ニ屬ス。

○田安慶頼、一橋茂榮、新ニ藩屛ニ列セシヲ以テ、前後、書ヲ大總督府ニ上リテ、攝、泉、播、備ノ舊領ヲ復センコトヲ請フ、令シテ太政官ニ稟請セシム。

○英、米二國商船、密ニ新潟港ニ赴キ、賊ト貿易スル者アルヲ以テ、越後口參謀黑田清隆、了介、鹿兒島藩士、書ヲ大總督府ニ致シ、二國公使ニ令シテ、之ヲ禁遏セシメンコトヲ請フ。

○箱根地方鎮定ニ就キ、出征諸藩兵、甲府ニ凱還セシヲ以テ、甲斐鎮撫府、令シテ、尾張、犬山、加納、高須、岩村、苗木、高富、七藩兵ヲ信濃ニ班ス又高遠、高島二藩兵ヲ罷歸シ、藩地ノ兵備ヲ嚴整シテ、不時ノ徵發ニ應セシム。

六日、大總督府、諸軍ニ令シテ、嚴ニ其放火ヲ戒ム。

○賊徒、柏木村武藏、及ヒ佐貫上總、地方ニ嘯聚スルノ聞アルヲ以テ、大總督府、肥後藩及ヒ稻田邦植ノ兵ヲ柏木村ニ、筑前藩兵ヲ佐貫ニ遣シテ、之ヲ討セシム。

○賊徒、上總横田村望陀郡、ニ嘯聚スルヲ以テ、前橋藩兵ヲ發シテ、之ヲ掃蕩ス、是日、書ヲ大總督府ニ上リテ、其狀ヲ申ス。

○甲斐鎮撫府、饋餉ノ費額ヲ更定ス。

○參河、遠江鎮撫使平松時厚、刈谷、擧母二藩兵ノ駿府警守ヲ罷メ、之ヲ吉田ニ移ス。

○是ヨリ先、朝廷、柳河藩ニ命シテ、兵ヲ江戸ニ出サシム、是日、藩兵、二百九十九人、下手渡藩兵十八人、ト與ニ江戸ニ至ル。立花鑑寛家記

七日、大總督府、白河口總督岩倉具定、副總督岩倉具經ヲ罷メ、三等陸軍將鷲尾隆聚ヲ以テ奧羽追討總督ト爲シ、舊先鋒總督府參謀木梨恒準ヲ督府參謀補助ト爲ス。

○鎮臺補橋本實梁、大原俊實、西四辻公業ヲ罷ム。

○大赦ノ令、未タ東國ニ行ハレス、是日、大總督府、之ヲ申令ス。

○水野勝進、書ヲ大總督府ニ上リテ、老病藩内鎮撫ノ任ニ堪ヘサルヲ陳謝シ、子、勝寛、鶴之助、ヲシテ、藩主勝知ノ後ヲ承キ、鎮撫ノ事ニ服セシメンコトヲ請フ。

○是ヨリ先、久松勝慈、大藏少輔、多古藩主、入覲シテ京師ニ在リ、是ニ至リ、

封邑傍近、兇徒出沒スルヲ以テ、假ヲ獲テ歸藩シ、管内ヲ鎭轄ス、因テ、書ヲ大總督府ニ上リテ、其狀ヲ申ス。

○鎭臺府、德川家達ニ令シテ、舊幕府ノ文書記錄ヲ上ラシム。

○上野軍監、戸倉口警守ノ諸藩ニ令シテ、其兵ヲ撤シ、前橋藩兵ヲ留メテ、之ヲ守ラシム。

○大久保教義、書ヲ豆相軍監三雲種方ニ上リテ、宗家大久保忠禮ノ爲ニ哀ヲ乞フ。

○是ヨリ先、朝廷、彦根藩ニ命シテ、甲府ヲ警守セシム、是日、藩兵（四百七十六人、）甲府ニ至ル。（甲斐鎭撫日誌）

八日、議定、旨ヲ大總督ニ傳ヘテ、東叡山戡定ノ功ヲ賞ス。

○是ヨリ先、大總督府、馬匹飼養費ヲ從軍諸藩ニ給ス、是ニ至リ、軍費不貲ヲ以テ之ヲ止ム。

○大總督府、筑後藩兵ヲ上總ニ遣シテ、賊徒ヲ緝捕セシム。

○問罪師參謀河田景與、長門、因幡、備前三藩兵ト與ニ、小田原藩老臣渡邊某（了叟、）等四人ヲ監守シテ、江戸ニ凱還ス、大總督府、乃チ某等ヲ本藩ニ付シデ、江戸藩邸ニ幽ス。

○大關增勤、（泰次郎、黑羽藩主、）書ヲ大總督府ニ上リ、兵ヲ白河口ニ出シ、軍費不貲ヲ以テ、徵兵及ヒ軍資金貢獻ノ期ヲ緩クセンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○甲斐鎭撫府、府中代官中山某（誠一郎、）ノ德川氏隷從ノ請ヲ聽シ、其代官ヲ罷メ、赤松成允（孫太郎、濱松藩士、）ヲ以テ之ニ代フ、又高島藩兵ノ古關警守ヲ罷メ、彦根藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

九日、甲斐鎭撫府、中津、今治二藩兵ノ甲府ニ在ル者ニ令シテ、江戸ニ赴カシム、因テ、今治藩兵ノ鰍澤口警守ヲ罷メ、飫肥藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

○總野鎭撫府、朝旨ノ在ル所ヲ管内人民ニ榜諭シ、各其堵ニ安セシム。

○是ヨリ先、朝廷、長門、岩國二藩兵ヲ發シテ、東山道ノ官軍ニ應援シ、飫肥藩ヲシテ甲府ヲ警守セシム、是日、長門、（兵員未詳、）岩國（百六十二人、）二藩兵ハ江戸ニ至リ、飫肥藩兵（百五十人、）ハ甲府ニ至ル。（甲斐鎭撫日誌、岩國藩記）

十日、大總督府、奧羽追討總督鷲尾隆聚ヲ改メテ、督府參謀ト爲シ、白河口ニ赴カシメ、參謀正親町公董ヲ以テ奧羽追討總督ト爲シ、吉岡某、（傳衞、）市川某（鍾次郎、二人ハ津藩士、）ヲ使番ト爲シ、陸奧ニ差遣シ、長門藩兵ヲ白河口ニ發遣ス、明日、下參謀渡邊清、參謀補助木梨恒準ヲ奧羽追討總督ノ參謀ト爲シ、薩摩、備前、柳河、（下手渡藩兵之ニ屬ス、）大村、佐土原五藩兵ヲ率ヰテ、平潟ニ赴カシメ、泉藩ヲ以テ嚮導ト爲ス、又舊東山道總督府參謀板垣正形、（退助、土佐藩士、）伊地知正治（薩摩藩士○時ニ二人白河ニ在リ、）ヲ督府參謀補助ト爲シ、隆聚ノ節度ヲ奉シテ、白

河口ノ諸軍ヲ督セシム。
○大總督府、大垣、古河、宇都宮、西大路四藩ニ命シテ、白河口出征諸藩兵糧餉ノ事ヲ掌ラシメ、金澤藩ヲシテ江川英武、大久保某兵庫、松村長爲ト與ニ、箱根以東品川ニ至ル諸驛傳馬傳遞ノ事ヲ掌ラシム、大垣藩之ヲ辭ス、乃チ之ヲ罷ム。
○甲斐鎭撫府、安藝藩兵ノ甲府城及ヒ山中警守ヲ罷メ、命シテ江戸ニ赴カシメ、彦根、松代、飫肥三藩兵ニ府城ヲ、彦根藩兵ニ山中ヲ守ラシム、又甲府ノ鰥寡孤獨者ヲ賑恤ス。
十一日、大總督府、佐和某組、稲田郁樺東四、ヲ以テ糺問方頭取ト爲シ、糺問方頭取奥村某連三郎ヲ罷ム。
○大總督府、烏山、黑羽、大田原三藩及ヒ蘆野資愛宗谷合之助、ニ命シテ、役夫ヲ白河口官軍ニ供給セシム。
○戸田光則、書ヲ大總督府ニ上リテ、援兵ヲ越後口ニ發遣セシヲ申ス。
○鎭臺府、舊幕府ノ學問所及ヒ小石川藥園ヲ收ム。
○肥前藩後軍三百四十人、江戸ニ至ル、尋テ下野ニ赴キ、前軍ニ合ス。鍋島直大家記
十二日、大總督府、阿波藩兵ノ水道橋、赤阪門警守ヲ罷メ、津、高須二藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

○郡上藩、書ヲ大總督府ニ上リテ、藩士ノ江戸ニ在ル者、逋逃セシ狀ヲ申ス、乃チ命シテ、速ニ之ヲ緝捕セシム。
○是ヨリ先、先鋒副總督阿部正恒駿河守、佐貫藩主、ノ賊ニ黨セシヲ責メ、謹慎シテ命ヲ待タシム、是ニ至リ、正恒、佐倉藩ニ因リテ、書ヲ大總督府ニ上リ、兵ヲ出シテ佐倉藩兵ノ先鋒ト爲リ、功ヲ立テ以テ罪ヲ贖ハント請フ、聽サス。

第三十三 自明治元年六月十三日 至同 十八日

六月十三日、徳川家達ヲ駿河ニ封セシヲ以テ、大總督府、本多正訥ノ駿府城代ヲ罷メ、本城ヲ家達ニ交付セシメ、本城傍近警守ノ諸藩兵ハ、姑ク其舊ニ仍ラシム。
○大總督府、阿波藩兵ノ西丸下、步兵保管ヲ罷メ、紀伊藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、横須賀藩兵ノ芝口及ヒ築地巡警ヲ罷ム。
○戸田光則、書ヲ大總督府ニ上リ、藩兵ヲ發シテ和田峠中山道ニアリ、若クハ木曾山道ヲ警守セシメント請フ、因テ、命シテ和田峠ヲ守ラシム。
○參河、遠江鎭撫使平松時厚、鎭臺府ノ旨ヲ傳ヘテ、岡崎、田中、刈谷、舉母四藩兵ノ、前日賊徒箱根ヲ侵スニ際シ、駿府城ノ警備周到セシヲ賞ス。

十四日、安藝藩、關東ノ賊勢猖獗ナルヲ聞キ、重ネテ兵（四百十九人）ヲ江戸ニ發シ、書ヲ大總督府ニ上リ、麾下ニ隷シテ、王事ニ服セシメント請フ、是日、督府、之ヲ日光ニ差遣シ、彦根藩兵ニ代リテ、本地ヲ警守セシメ、彦根藩兵ヲシテ白河口ニ赴援セシム。

○大總督府、德川家達ニ令シ、其臣隷ノ府下及ヒ采邑ニ在リテ、屛居若クハ逋逃セシ者ヲ錄上セシム。

○筑前藩兵ノ佐貫ニ至ルヤ、傍近隻賊ヲ見ス、適飯野、勝山二藩兵及ヒ前橋藩、富津守兵ノ林忠崇等ニ黨セシ者アルヲ聞キ、嚴ニ三藩ヲ詰責ス、三藩、其首謀者ヲ刑シテ罪ヲ謝ス、乃チ其與謀者ヲシテ謹愼シテ命ヲ待タシム、是日、藩兵江戸ニ凱歸シ、其狀ヲ大總督府ニ上申ス。

○參謀鷲尾隆聚、江戸ヲ發シ、白河口ニ赴ク、阿波藩及ヒ稻田邦植ノ兵、之ニ屬ス。

十五日、兇徒、常陸地方ヲ劫掠スルノ聞アルヲ以テ、大總督府、土屋擧直、牧野貞利、石川總管ニ命シテ之ヲ緝捕シ、土民ヲ安撫セム。

○大總督府、長門藩兵ヲ分テ、白河口ニ發遣ス。

○甲斐鎭撫府、巨摩郡ノ水災ニ罹リシ者ヲ賑恤ス。

十六日、大田原勝淸（鉎丸、大田原藩主）書ヲ大總督府ニ上リ、城邑兵火ニ罹リ、土民、疲弊ノ情狀ヲ陳シテ、賑恤ヲ乞フ、是日、督府金五千兩ヲ賜フ。

○大總督府ノ彰義隊ヲ討スルヤ、德川家達、淺草米稟ノ守兵（勘定所拘組）ニ令シテ靑梅村ニ退去セシム、是ニ至リ、守兵、前橋藩ニ就テ其情ヲ陳シ、江戸ニ歸住セシコトヲ請フ、前橋藩乃チ其狀ヲ督府ニ稟ス、是日、令シテ各其家ニ歸住セシム。

○甲斐鎭撫府、管内、本年田租ノ三分ヲ減ス、因リテ、令シテ逋租ノ罪ヲ犯スコト勿ラシム。

○駿府鎭撫使四條隆謌、親兵（七番隊）及ヒ津、郡山、岡、島原、杵築、人吉六藩兵ヲ率ヰテ、江戸ニ抵ル。

十七日、大總督府、下參謀河田景與ニ命シ、因幡藩兵ヲ率ヰテ、相馬口ニ赴カシメ、軍監三雲種方ヲ罷ム。

○是ヨリ先、先鋒副總督、古河藩ニ命シテ、近傍驛遞ノ事務ヲ總管セシム、是ニ至リ、古河藩、書ヲ大總督府ニ上リテ、其任ヲ解カンコトヲ請フ、乃チ之ヲ罷ム。

○參謀柳原前光、書ヲ大總督ニ上リテ、軍國ノ事宜ヲ陳シ、速ニ牙營ヲ白河城ニ移シ、一擧シテ、東北戡定ノ功ヲ收メント請フ。

○奧羽鎭撫總督九條道孝、書ヲ大總督府ニ致シテ、仙臺ヲ發

シ、盛岡ニ抵リシヲ告ケ、且、使ヲ遣シテ、秋田、盛岡、弘前等諸藩ノ形狀ヲ報ス。

○鎭臺府、岩鼻縣上野、ヲ置キ、軍監大音厚龍ヲシテ縣事ヲ兼知セシム。

○總野鎭撫府、壬生藩ニ命シテ兵ヲ蘆野驛ニ出サシム。

十八日、大總督府、唯武連九十九、旗本寄合、ヲ以テ使番ト爲シ、使番今井某其之充、ヲ罷ム。

○是ヨリ先、朝廷、戸田忠友ノ罪ヲ譴メテ、退老ヲ命シ、其父忠恕ノ尊王ノ志ヲ賞シ、同宗戸田光則ノ子ヲ撰ミテ、嗣ト爲サシム、是日、大總督府、之ヲ忠友ニ傳フ、尋テ、忠友ノ臣隷、書ヲ鎭臺府ニ上リテ、忠友勤王貳ナキヲ陳シ、再ヒ其家ヲ承カシメント請フ。

○大總督府、水野忠敬ノ林忠崇等ヲ逸スル罪ヲ責メテ、謹愼ヲ命シ、老臣ノ其事ニ與カル者ヲ罰ス。

○是ヨリ先、東山道總督府、館林藩ニ令シテ兵ヲ蘆野驛ニ出サシム、是日、大總督府、本藩ニ令シ、舊ニ仍リテ本驛ヲ嚴守セシム。

○浮浪ノ徒五十餘人、武藏所澤村入間郡、ニ嘯聚スルヲ以テ、甲斐鎭撫府、掛川藩兵ヲ發シテ之ヲ招諭シ、狀ヲ大總督府ニ報シテ、其處分ヲ稟問ス、督府令シテ之ヲ江戸ニ護送セシム、是日、江戸ニ至ル、乃チ報國、赤心二隊ニ付シテ、之ヲ監守セシム。

○松平直克、富津ノ守兵、賊ニ黨スル者アルヲ以テ、書ヲ大總督府ニ上リテ、其亡狀ヲ陳謝シ、罪ヲ待ツ、批シテ其罪ヲ問ハス。

○大久保忠告、書ヲ大總督府ニ上リ、兇徒内藤新宿ヲ劫掠スルヲ以テ、手兵ヲ發シテ之ヲ緝捕シ、且、本地ヲ巡警セシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○川越藩、書ヲ大總督府ニ上リテ、賊徒、其管地平潟ヲ劫掠スルノ狀ヲ申ス。

○甲斐鎭撫府、松代、濱松二藩兵ヲ甲府紺屋町及ヒ鰍澤口、石和驛等ニ配置シテ、嚴ニ行旅ヲ譏察セシム。

第三十四

自明治元年六月十九日
至同　　二十七日

六月十九日、大總督府、軍曹山縣通政小太郎、岡藩士、及ヒ島村某左傳次、土佐藩士、ヲ以テ使番ト爲シ、並ニ白河口ニ差遣シ、水田某謙吾、岡山新田藩士、ヲ横濱病院取締ト爲シ、使番佐藤金義ノ横濱病院駐在ヲ罷ム、又、參謀穗波經度ヲ京師ニ遣ス。

○大總督府、安藝藩兵ノ吳服橋警守ヲ罷メ、紀伊藩兵ヲ以テ之

ニ代ヘ、加納藩兵ノ上野山内警守ヲ罷メテ、藩地ニ遣歸シ、紀伊藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

○大總督府、郡山藩兵ニ命シテ、平潟口官軍供帳ノ事ヲ掌ラシム。

○館林藩、蘆野驛及ヒ戸倉口警守ノ命ヲ拜セシヲ以テ、大總督府ニ就テ、小藩寡兵、兩地ノ徵發ニ應シ難キノ情ヲ陳訴ス、督府乃チ上野駐在軍監柴山典ニ移牒シテ、藩兵ノ戸倉口ニ在ル者ヲ罷歸セシム、尋テ典ニ令シテ其兵ヲ撤ス。

○鎭臺府、山田政則一太夫、忍藩士、ヲ以テ知縣事ト爲シ、武藏、下總ノ郡邑ヲ管セシム。

○鎭臺府、德川家達ニ令シテ濱殿及ヒ淺草、本所ノ倉稟ヲ收ム。

二十日、大總督府、水野忠敬ノ謹愼ヲ釋ス。

○大總督府、津藩及ヒ松下重光ノ三島驛警守ヲ罷メ、沼津藩ニ命シテ三島關門ヲ警守セシム。

○大總督宮家臣若クハ官軍ト稱シ、威ヲ挾ミ、下ヲ虐スルモノアルヲ以テ、大總督府、嚴ニ令シテ部下ヲ戒飭ス。

○鎭臺府、松村長爲忠四郎、舊旗下士、ヲ以テ知縣事ト爲シ、武藏ノ郡邑ヲ管セシム。

○鎭臺府、令シテ書籍ヲ私刊スルヲ禁ス。

二十一日、大總督府、尾張藩兵ノ平河口門警守ヲ罷ム。

二十二日、是ヨリ先、武藏、上野、下野地方、土民蜂起スルヲ以テ、東山道總督府、傍近諸藩ニ令シテ之ヲ鎭撫セシム、是ニ至リ、岩鼻縣ヲ置クヲ以テ、鎭臺府、令シテ諸藩ノ鎭撫ヲ罷メ、緩急兵ヲ發シテ、知縣事ニ應援セシム。

○德川家達、書ヲ鎭臺府ニ上リ、其臣隷ノ存錄シ難キ者ハ、皆士籍ヲ除キ、農商ニ歸シ、若クハ浪人ト稱シ、以テ生計ヲ爲サシメント請フ、是日、其農商ニ歸スルヲ聽ス、家達、又、之ヲ蝦夷ニ移シテ、開拓ノ業ニ服セシメント請フ、聽サス。

○甲斐鎭撫府、成澤公直勘左衛門、松代藩士、ヲ以テ市川代官ト爲シ、石田廣和守人、小島藩士、ヲ石和代官ト爲ス、因テ、公直、廣和及ヒ府中代官赤松成允ニ令シテ、朝旨ヲ體認シ、舊習ヲ洗除セシム、又、舊甲府勤番ノ新ニ歸順セシ者十一人ヲ以テ代官ニ屬シ、公事ニ服セシム。

二十三日、甲斐鎭撫府、武田氏遺臣ノ王事ニ服センコトヲ請フ者、八十六人ヲ以テ府兵ニ編シ、護國隊ト稱ス、又、本府、月給假規則ヲ定ム。

○總野鎭撫府、下總、下野諸藩ニ令シテ、二州ノ公邑及ヒ舊旗

下士采邑ヲ鎭撫セシム。
二十四日、駿府鎭撫使四條隆謌ヲ以テ、大總督府參謀ヲ兼シム、尋テ、其鎭撫使ヲ罷ム。
○大總督府、書ヲ土佐藩兵ノ白河口ニ在ル者ニ下シテ、今市傍近賊徒掃蕩ノ功ヲ賞ス。
○高崎藩、書ヲ大總督府ニ上リテ、藩士ノ逋逃ノ狀ヲ申ス、是日、令シテ之ヲ緝捕セシム。
○參謀鷲尾隆聚、書ヲ大總督府ニ致シ、昨日ヲ以テ白河ニ抵リシヲ告ク。
二十五日、大總督府、使番澤某(四兵衛)及ヒ安藝藩兵ヲ陸奥ニ發遣ス。
○甲府地方、鎭定ニ就クヲ以テ、甲斐鎭撫府、濱松藩ニ令シテ、甲府ノ戍兵其半ヲ減セシム。
○是ヨリ先、舊幕府、逋竄ノ徒、下野大原、藤原二村(二村並ニ鹽谷郡)ニ據リ、四出剽掠ス、宇都宮藩、兵ヲ封疆ニ出シテ之ニ備フ、是日、藩兵、肥前藩兵ノ今市驛ニ在ル者ト共ニ賊兵ヲ大原村ニ破リ、明日、進テ藤原村ニ薄ル、賊兵殊死シテ戰フ、二藩兵克タスシテ退ク。
二十六日、參河裁判所ヲ廢セシヲ以テ、大總督府、今切以東諸關門ノ守兵ニ令シ、嗣後、參、遠、駿諸藩ノ各關門ヲ往來スルハ其重臣ノ印鑑ヲ照シ、其舊旗下士及ヒ社寺等ハ傍近諸藩ノ印鑑ヲ照サシム。
○大河内信古、書ヲ大總督府ニ上リ、支族大河内正質ヲ寛典ニ處シ、其從弟某(駒太郎)ヲシテ其先祀ヲ承カシメンコトヲ請フ。
○鎭臺府、醫學校ヲ江戸ニ置ク。
○是ヨリ先、朝廷、延岡藩ニ命シテ、兵ヲ甲府ニ出サシム、是日、藩兵(百四十二人)甲府ニ至ル。(甲斐東撫日記)
二十七日、大總督府、越後口總督高倉永祜及ヒ軍監柴山典ヲ罷ム。
○笠間藩、書ヲ大總督府ニ上リ、陸奥ノ管地(磐城郡神谷村)、賊兵ノ脅略スル所ト爲リシヲ以テ、藩兵ヲ發シテ、平潟口官軍ニ屬シ、回復ヲ圖ラシムルヲ申ス。
○鎭臺府、蜷川光明(小十郎、三上藩士)ヲ以テ知縣事ト爲シ、下總、常陸ノ數郡ヲ管セシム。
○總野鎭撫府、烏山藩ニ令シテ、兵ヲ下野越堀驛ニ出サシム。

第三十五　自明治元年六月二十八日 至同七月八日

六月二十八日、參謀兼甲斐鎭撫使柳原前光、書ヲ大總督府ニ上

リテ、其任ヲ解カンコトヲ請フ。

二十九日、大總督府、眞田幸民ノ、兵ヲ越後口ニ出シ服役多端ナルヲ以テ、其甲府城代ヲ罷メ、一ニ力ヲ越後口ニ竭サシム。

○是ヨリ先、朝廷徳川慶篤ニ命シ、其奸臣鈴木重棟石見、市川弘美三左衛門、等ヲ罰シ、以テ藩屏ノ職ヲ盡サシム、既ニシテ弘美等藩ヲ脱シ、越後ノ賊ニ投ス、是日、大總督府、松平頼位、中山信徴及ヒ慶篤ノ老臣等ニ令シテ、速ニ忠邪ヲ陟罰シ、且弘美等ヲ剿除セシム、尋テ慶篤兵ヲ越後ニ出シ、弘美等ヲ討ス。

○大總督府、肥前藩兵ニ命シテ、白河口ニ赴援セシム。

○是ヨリ先、徳川氏ノ汽船一隻長崎號品川海ヲ脱シ、仙臺沿海ヲ往來シ、賊ト聲息ヲ通ス、是ニ至リ、大總督府、徳川家達ニ令シテ之ヲ收ム。

○前橋藩、宮津守兵ノ賊ニ黨セシ者ヲ捕ヘ、其處分ヲ大總督府ニ稟ス、令シテ、各其家ニ謹愼セシム。

○關宿藩士ノ江戸ニ在ル者、書ヲ大總督府ニ上リ、奥羽征討ノ先鋒ト爲リ、功ヲ立テ、以テ其主久世廣文ノ罪ヲ贖ハント請フ、聽サス。

○是ヨリ先、先鋒總督府、韮山代官江川英武ニ命シテ、其舊地ヲ管セシム、是ニ至リ、英武、書ヲ大總督府ニ上リテ、之ヲ辭ス、是日、鎭臺府、英武ニ命シ、舊ニ仍リテ韮山縣ヲ管セシム。

○鎭臺府、昌平學校ヲ興復シ、士民ノ入學ヲ許ス。

晦日、是ヨリ先、朝廷、平松時厚ヲ遣シテ、東征ノ諸軍ヲ犒ハシム、是日、時厚江戸ニ在リ、大總督ニ謁ス、尋テ江戸ヲ發シ、平潟ニ赴ク。平松時厚事蹟

是月、大總督府、横濱軍監安永弘行ヲ改メテ小田原軍監ト爲ス。

○大總督府、暗殺者緝捕ノ令ヲ、東國諸藩ニ傳フ。

○是ヨリ先、東山道總督府、館林藩ニ命シテ上野地方館林藩預ト稱スル者、均水修堤等ノ事ヲ管セシム、是ニ至リ、大總督府、本藩ニ令シ、總野鎭撫府ト協議シテ、下野地方梁田、足利二郡ノ内均水ノ事ヲ併管セシム、鎭撫府乃チ其地ヲ擧ケテ、本藩ノ管轄ニ委ス。

○初メ舊幕府、別手組ヲシテ江戸居留外國人ヲ警守セシム、是ニ至リ、田安慶頼、書ヲ大總督府ニ上リテ、其事ヲ稟シ、命ヲ乞フ、乃チ徳川家達ニ令シテ、其舊ニ仍ラシム。

○薩摩、長門、土佐、大垣四藩兵ノ白河ニ在ル者、使ヲ大總督府ニ遣シテ、棚倉進撃ノ策ヲ陳シ、援兵ヲ乞フ、督府、諭スニ平潟口進撃ノ軍略ヲ以テシ、且後軍京攝ヨリ到ルヲ俟テ、速ニ援軍ヲ發スルヲ告ケ、白河城ヲ固守シテ、以テ之ヲ俟タシム。

○鎭臺府、東國府藩縣ニ令シテ、舊幕府管内社寺ニ付與セシ所ノ判物ヲ上ラシム。

七月朔日、大總督府、姉川某(榮藏、筑後藩士、)ヲ以テ軍監補ト爲シ、前橋ニ差遣ス、又筑前、長門、筑後、岩國四藩兵ヲ平潟口ニ發遣ス。

○是ヨリ先、朝廷、大洲、今治二藩ニ命シテ、甲府城ヲ警守セシム、是日、二藩兵(大洲藩兵百十五人、今治藩兵百七人、)甲府ニ至ル。(甲斐鎭撫日誌)

二日、駿河以東十二國ヲ鎭臺府ニ隷ス。

○是ヨリ先、大總督府、小代某(淸八、)古川某(喜平次、二人並ニ肥後藩士、)伊藤某(外記、貫屬不詳、)ヲ以テ軍監ト爲シ、小代某、古川某ヲ古河ニ、伊藤某ヲ下總、下野ニ差遣ス、是日、之ヲ罷ム。

○大總督府、岡田善長ノ請ヲ聽シ、其兵ノ江戸ニ在ル者ヲ罷歸ス、因テ其虎門警守ヲ罷メ、本堂親久ノ兵ヲ以テ之ニ代ヘ、親久ノ幸橋警守ヲ罷メ、勝田某(鋼吉、)ヲ以テ之ニ代ヘ、稻田邦植ノ兵ヲシテ、上野山内ヲ監守セシム、又安藝藩兵ヲ平潟口ニ發遣ス。

○鎭臺府、柴山典ヲ以テ、安房、上總監察兼知事ト爲ス。

○甲斐鎭撫府、徽典館(甲府ニ在リ、)ヲ興復シ、士民ノ入學ヲ許ス。

○甲斐鎭撫府、松代藩兵ノ谷村及ヒ鰍澤口警守ヲ罷メ、延岡、今治二藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、中津藩兵ノ上小田原、川浦二村警守ヲ罷メ、大洲藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

三日、大總督府、筑後藩兵ノ永代橋、新大橋警守ヲ罷メ、阿波、唐津二藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

○是ヨリ先、大總督府、親兵([illegible]東下セシ者、[illegible])ニ令シテ、白河口ニ赴カシム、是日、更令シテ之ヲ止メ、彦根藩邸ニ駐屯セシム。

○是ヨリ先、大總督府、宮原某(彈正大弼、高家、)ノ罪ヲ譴メテ、謹愼ヲ命ス、是日、之ヲ釋ス。

○大總督府、松江藩士ノ逋逃セシ者ヲ捕ヘ、本藩ニ付シテ、藩地ニ謹愼セシム。

○白河口參謀補助板垣正形、伊地知正治、書ヲ大總督府ニ致シテ、白河、棚倉地方ノ兵火ニ罹リシ者ヲ賑恤セント請フ。

○板倉勝尚(甲斐守、福島藩主、)ノ臣隷江戸ニ在ル者、書ヲ大總督府ニ上リテ、勤王ノ情ヲ陳シ、公事ニ服センコトヲ請フ、尋テ其徒八十餘人、潛ニ江戸ヲ脱シテ、平潟口官軍ニ投ス。

四日、輔相三條實美、旨ヲ傳ヘテ、大總督ヲ慰問シ、且其扈從者ヲ減セシム。

○大總督府、諸侯ノ印鑑ヲ帶ヒスシテ諸門ヲ往來スルヲ許ス。

○大久保教義、書ヲ大總督府ニ上リ、支族大久保某(式部、)ノ手兵ヲ併セテ、封疆ノ守備ヲ修メント請フ、之ヲ聽ス。

五日、平潟口參謀渡邊清、河田景與、書ヲ大總督府ニ致シテ、本道ノ戰狀ヲ報シ、奥羽追討總督正親町公董ノ啓行ヲ促ス、是日、督府、公董ノ總督ヲ罷メ、參謀四條隆謌ヲ以テ、仙臺追討總督ト爲シ、參謀故ノ如シ、下參謀寺島直方ヲ其參謀ト爲ス、又薩摩藩兵ヲ平潟口ニ發遣ス。

○大總督府、宇都宮藩ノ下野諸藩政令傳達管理ヲ罷メ、壬生藩ヲ以テ之ニ代フ。

○館林藩、書ヲ大總督府ニ上リテ、奥羽ノ賊徒、出羽管地村山郡漆山ヲ脅略スルノ狀ヲ稟ス。

○甲斐鎭撫府、延岡藩兵ヲ遣シテ、飯能驛武藏ヲ警守セシム。

六日、大總督府、三浦某清太郎、貫籍不詳、ヲ以テ使番ト爲シ、白河口ニ差遣シ、參謀鷲尾隆聚ニ屬セシメ、使番太田廣經、磯部包義ヲ奥羽ニ差遣ス。

○龜山藩、書ヲ大總督府ニ上リテ、藩兵ノ江戸ニ在ル者ヲ罷歸セント請フ、之ヲ聽ス。

○總野鎭撫府、書ヲ下總、下野諸藩ニ下シテ、管內旌賞賑恤ノ舊例ヲ推問ス。

七日、大總督府、龜山藩兵ノ金座及ヒ新橋警守ヲ罷メ、人吉藩兵及ヒ勝田某鋼吉、ヲ以テ之ニ代フ。

○總野鎭撫府、古河藩ニ令シテ兵ヲ鍋掛驛ニ出サシム、尋テ之ヲ蘆野驛ニ移ス。

八日、大總督府、參謀西四辻公業、穗波經度ヲ罷ム。

○大總督府、大久保忠告ノ和田倉門警守ヲ罷メ、更ニ市政裁判所ヲ守ラシメ、坐光寺某盛太郎、ヲシテ、和田倉門ヲ守ラシム。

○安藝藩兵ノ日光ニ在ル者、兵ヲ分テ大笹屋村ニ至リ、賊ノ哨兵ト戰ヒ、之ヲ走ラス。

第三十六　自明治元年七月九日　至同　十日

七月九日、大總督府、參謀鷲尾隆聚ヲ以テ、復タ奥羽追討白河口總督ト爲ス、是日、白河口ノ諸軍ニ令シテ、嚴ニ其鹵掠ヲ戒ム。

○是ヨリ先、足利聰氏左馬頭、喜連川藩主、東山道總督府ニ就テ、軍糧ヲ献セント請フ、是ニ至リ書ヲ總野鎭撫府ニ上リテ、其請ヲ申ス、鎭撫府、之ヲ大總督府ニ稟ス、是日、督府、聰氏ノ志ヲ賞シテ其請ヲ聽ス。

○總野鎭撫府、佐倉藩ニ令シテ、兵ヲ宇都宮ニ出サシム。

○是ヨリ先、朝廷、軍務官副知事長岡護美左京亮、肥後藩主細川韶邦ノ弟、ヲ江戸ニ遣シ、大總督ト謀リテ民心ヲ鎭輯セシム、是日、護美、江戸ニ

至ル。(細川護久家記)

十日、大總督府、錦旗奉行兼參謀加勢河鰭實文ヲ京師ニ遣ス、因テ參與萬里小路通房ヲ以テ、錦旗奉行加勢ト爲ス。

○賊艦、平潟港ヲ侵スノ報アルヲ以テ、大總督府諸藩ニ令シテ、私ニ石炭ヲ購買シ、及ヒ之ヲ運輸スルヲ禁ス。

○大總督府、市政裁判所守兵規則ヲ定ム。

○是ヨリ先、東山道總督府、遠藤胤城(但馬守、三上藩主)ニ命シテ、板橋驛傍近ヲ警守セシム、是日、大總督府、其警守ヲ罷メ、命シテ江戸ニ至ラシム。

○大總督府、書ヲ黑羽藩及ヒ盧野資愛(筆之助、寄合)ニ下シテ、白河口服役ノ功勞ヲ慰賞ス。

○大總督府、水野勝知及ヒ其臣高橋某(刑藏)ノ罪狀ヲ條擧シテ詰問ス、二人答辨書ヲ上ル。

○德川家達、書ヲ大總督府ニ上リ、奧羽騷擾、水戸警虞アルヲ以テ、慶喜ヲ駿河ニ移置セント請フ、之ヲ聽ス。

○是ヨリ先、土屋擧直入覲シテ京師ニ在リ、是ニ至リ、假ヲ獲テ歸藩セントス、因テ書ヲ大總督府ニ上リ、途次江戸ニ至リ、起居ヲ候セント請フ、之ヲ聽ス、是日、擧直江戸ニ至リ、大總督ニ謁ス。

○鎭臺府、桑山效(主馬、下[illegible])ヲ以テ知縣事ト爲シ、武藏四郡、下總一郡ヲ管セシム。

○駿河藩士ノ横暴ナル者、朝臣ニ列セシ者ヲ侮慢脅迫シ、歸順ヲ障防スルモノアルヲ以テ、鎭臺府、德川家達ニ令シテ、之ヲ戒飭セシム。

○是ヨリ先、甲斐鎭撫府、舊幕府千人同心ニ令シテ、德川氏ノ封土既ニ定ルヲ以テ、速ニ其去就ヲ決セシム、是日其歸順者六十二人ヲ以テ、府兵ト爲シ、護境隊ト稱シ、仍八王子驛ニ屯戍セシメ、其德川氏隷從、及ヒ歸農ヲ請フ者ハ、之ヲ聽ス、又盜賊四境ニ出沒スルヲ以テ、濱松藩及ヒ護國隊ニ令シテ、之ヲ鎭セシム。

第三十七 自明治元年七月十二日 至同十八日

七月十二日、大總督府、石神某(良策、薩摩藩士)、福田某(純一、長門藩士)ヲ以テ横濱病院頭取ト爲シ、病院頭取柴岡某(宗伯)、大澤某(宗隆)ヲ罷ム。

○大總督府、奧羽征討ノ戰略及ヒ奧羽諸藩ノ處分ヲ平潟口諸軍ニ布告ス。

○大總督府、哨兵ヲ數寄屋橋、鍛冶橋以下七門外ニ配置シテ、乞丐ノ徒ノ門内ニ入ルヲ禁遏セシム、

○甲斐鎭撫府、舊甲府勤番以下ノ向背定ラサル者ニ諭シテ、速ニ其去就ヲ決セシム、是日、其歸順者百六十四人ニ口俸ヲ給ス。

○是ヨリ先、朝廷、議定蜂須賀茂韶中納言、阿波藩主、ヲ江戸ニ遣シ、大總督ト謀リテ、民心ヲ鎭輯セシム、是日、茂韶、江戸ニ至ル。蜂須賀茂韶家記

○筑前藩後軍百六十人、江戸ニ至ル。黒田長知家記

十三日、徳川家達ヲ駿河ニ封セシヲ以テ、鎭臺府、沼津藩主水野忠敬、小島藩主瀧脇信敏丹後守、ヲ上總ニ、田中藩主本多正訥ヲ安房ニ移封ス、又、小田原藩主大久保忠禮、掛川藩主太田資美備中守、横須賀藩主西尾忠篤隱岐守、若村藩主松平乘命能登守、荻野山中藩主大久保教義ノ管地駿河ニ在ル者ヲ收メ、韮山管理江川英武ヲシテ、駿河ノ管地ヲ家達ニ交付セシム。

○大總督府、軍監兼岩鼻知縣事大音厚龍ノ軍監、安房上總監察兼知縣事柴山典ノ監察ヲ罷ム。

○大總督府、津藩兵ノ小田原屯戍ヲ罷メ、之ヲ江戸ニ召還シ、唐津藩兵ヲ遣シテ之ニ代ラシム、因テ、唐津藩兵ノ新大橋警守ヲ罷メ、三上藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

○大總督府、安藤信勇ニ命シ、急ニ其從兵五十人、ヲ發シテ藩地ニ赴カシム。時ニ信勇、美濃ノ別邑ニアリ。

○大總督府、徳川家達ニ令シテ舊駿府勤番以下ヲ收養セシム、因テ、本多正訥、榊原某越中守、ニ令シテ、其保管スル所ノ勤番以下ヲ、家達ニ交付セシム。

○大總督府、白河口出征薩摩、長門、土佐、忍、大垣五藩兵ノ死傷者ヲ弔慰シ、金ヲ頒ツ、各差アリ。

○瑞西國人、磐城平ニ赴キ、米ヲ購買セントスル者アリ、大總督府、乃チ書ヲ神奈川府ニ致シ、磐城平地方未タ鎭定ニ就カサルヲ以テ、外人ノ其地ニ赴クヲ禁セシム。

○是ヨリ先、牧野貞利ノ臣、賊ニ黨スル者アリ、是ニ至リ、貞利、其首謀者ヲ刑シテ、大總督府ニ具狀ス。

十四日、大總督府、高橋勝政熊太郎、貫籍不詳、ヲ以テ參謀ト爲シ、陸奥ニ差遣シ、仙臺追討總督四條隆謌ニ屬セシム。

○大總督府、岡崎藩ノ江尻關門警守ヲ罷ム。

十五日、大總督府、宮堂上ノ臣屬ニ令シ、東西往來ノ際、王威ヲ籍リ驛傳ヲ凌轢スルコト勿ラシム。

○總野鎭撫府、古河藩ニ令シテ、兵ヲ鍋掛驛下野、ニ出サシム、尋テ、之ヲ蘆野驛ニ移ス。

○喜連川藩士二階堂某主殿輔、等、總野鎭撫府ニ就テ、本藩陰ニ會

賊ニ連結ヘルヲ訴フ、鎮撫府、乃チ其狀ヲ按問シ、其事誣訴ニ出ルヲ以テ、本藩ニ令シテ、某等ヲ處分セシム、本藩乃チ某等ヲ刑ス。

十六日、秋山某、[illegible]大總督府ニ就キテ軍糧ヲ獻センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○甲斐鎮撫府、延岡、大洲二藩兵ノ飯能驛及ヒ谷上、小田原、川浦、三村警守ヲ罷メ、急ニ江戸ニ赴カシム。

十七日、詔シテ江戸ヲ以テ東京ト爲シ、鎮臺及ヒ關八州鎮將ヲ廢シテ、更ニ鎮將府ヲ置キ、駿河以東十三國ヲ管理ス、輔相三條實美ヲ以テ鎮將ヲ兼シメ、大總督ハ專ラ軍務ヲ掌ル、又、江戸府ヲ改メテ東京府ト稱シ、烏丸光徳ヲ知事ト爲ス。

○大總督府、鍋島直大ノ下總、下野鎮撫ヲ罷メ、仍ホ兵ヲ其地ニ留メテ、賊徒ヲ鎮壓セシム。

○大總督府、三田川某昇馬、稲田邦植家臣ヲ以テ軍監ト爲シ、糺問所頭取ノ事ヲ兼知セシム。

○飯田藩、書ヲ大總督府ニ上リ、藩兵ノ江戸ニ在ル者ヲ撤シテ、越後口ニ赴援セシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス、因テ、其銀座警守ヲ罷メ、長尾藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

○川越藩、書ヲ大總督府ニ上リ、奧羽追討總督府ノ命ヲ奉シテ兵ヲ平潟ニ出セシヲ申ス。

○甲斐鎮撫府、飫肥藩兵ノ甲府城門警守ヲ罷メ、更ニ、上小田原、川浦二村ヲ守ラシメ、松代藩兵ヲシテ城門ヲ守ラシメ、掛川藩兵ノ勝沼、上野原二村警守ヲ罷メ、更ニ飯能驛ヲ守ラシメ、護衛隊ヲシテ上野原、鰍澤ヲ守ラシム。

○酒井忠良、紀伊守、出羽松山藩主官軍ニ抗ヘルヲ以テ、岩鼻知縣事大音厚龍、其臣隷ノ上野管地[illegible]ニ在ル者ニ命シテ、本地ニ謹慎セシメ、伊勢崎、館林二藩ニ令シ、兵ヲ發シテ之ヲ監守セシム、尋テ、其臣隷二十二人ヲ伊勢崎藩ニ幽ス。

十八日、大總督府、横濱病院取締水田某[illegible]ヲ罷メ、鳥居某[illegible]ヲ以テ之ニ代フ、尋テ、鳥居某ヲ罷メ、井上某[illegible]ヲ以テ之ニ代フ。

○大總督府、安藝藩兵ノ一橋門警守ヲ罷メ、明日、宇和島藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

○沼津藩、書ヲ大總督府ニ上リ、移封ノ擾アルヲ以テ、三島驛關門ノ警守ヲ罷メンコトヲ請フ、是日、督府、三島關門ヲ廢シ、更ニ、關門ヲ小田原ニ枚橋ニ設ケ、唐津藩兵ヲシテ行旅ヲ譏察セシム、因テ、沼津藩兵ノ三島ニ在ル者ヲ撤還ス。

○本多正訥、書ヲ大總督府ニ上リ、軍糧ヲ獻シ、督府ノ衛兵ヲ

出シ、身、安房ニ赴キ、逋逃ヲ鎭定セント請フ、之ヲ聽シ、其糧ヲ受ケス、以テ移封ノ用ニ充テシム。

○中津藩兵（百三十四人）、東京ニ至ル。（中津藩記）

第三十八　自明治元年七月十九日　至同八月四日

七月十九日、大總督府、筑前藩兵ノ新橋警守ヲ罷メ、高須藩兵ヲ以テ之ニ代フ、又、尾張、紀伊、中津三藩兵ヲ白河口ニ發遣ス。

○大總督府、津、岡崎、田中、小島四藩兵及ヒ石川某（又四郎）、秋山某（虎之助）等ノ駿府傍近警守ヲ罷メ、徳川家達ニ令シテ、藩兵ヲ配置セシメ、明日、津、岡崎二藩兵ヲ江戶ニ召ス。

○水野忠弘（和泉守、山形藩主、時ニ入覲シテ京師ニ在リ）、書ヲ大總督府ニ上リテ、本藩、米澤藩ノ通ル所ト爲リ、兵ヲ越後ニ出スノ聞アルヲ申ス。

二十日、大總督府、紀伊藩兵ノ上野山内警守ヲ罷メ、三上藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、三上藩兵ノ新大橋警守ヲ罷メ、高須藩兵ヲ以テ之ニ代フ、又、肥後、津、大村三藩兵ヲ發シテ、海路陸奥ニ赴カシム。

○大總督府、橫濱病院ヲ東京（下谷、津藩邸）ニ移ス。

○仙臺追討總督四條隆謌、東京ヲ發シ平潟口ニ赴ク、使番太田廣經及ヒ徵兵隊（七番）之ニ屬ス。

二十一日、大總督府、從軍諸藩ニ令シテ、府下駐屯ノ兵員ヲ錄上セシム。

○大總督府、使番三浦某（清太郎）ニ命シテ、親兵、徵兵（親兵ハ鷲尾隆聚、徵兵ハ四條隆聚ニ屬シテ東下セシ者、時ニ竝ニ彦根藩邸ニ在リ）ヲ監セシム。

○是ヨリ先、先鋒副總督、保科正益ニ命シテ、林忠崇ノ舊封ヲ管セシム、是ニ至リ、瀧脇信敏ヲ上總ニ移封セシヲ以テ、鎭臺府、正益ニ令シテ、其地ヲ信敏ニ交付セシム。

二十二日、大總督府、中津藩兵ノ白河口發遣ヲ罷メ、今治、人吉二藩兵ト共ニ今市驛ニ赴カシム、因テ、人吉藩兵ノ金座警守ヲ罷ム。

○府下浮浪ノ徒、徳川氏ノ軍艦ニ搭シテ、逃走セントスルノ聞アルヲ以テ、大總督府、肥後、阿波二藩兵ヲ青松寺及ヒ泉岳寺ニ配置シテ追捕ニ備フ、既ニシテ、事、訛傳ニ出ルヲ以テ、令シテ其兵ヲ撤ス。

○戶田光則、書ヲ大總督府ニ上リテ、支族戶田某（太郎、寄合）、勤王ノ情ヲ陳シ、藩兵ノ越後口、若クハ和田峠ニ在ル者ニ屬シテ、王事ニ服セシメント請フ、之ヲ聽ス。

○前橋藩、書ヲ大總督付ニ上リ、富津ノ守兵ヲ三本松（上總）ニ移シ

テ、其守備ヲ嚴ニセント請フ、尋テ、本藩、富津ノ營ヲ毀ツ。

二十三日、大總督府、井後清之（最中、淺藩士）ヲ以テ使番ト爲ス。

○大總督府、筑前藩兵ノ淺草門ヲ守ル者ニ令シテ、淺草米廩ノ警守ヲ兼シム。

○總督府、佐倉、川越二藩ニ令シテ、兵ヲ東京ニ出サシム、二藩之ヲ辭ス。

○大總督府、東京府下ニ申令シテ、武家ノ宅地ヲ市人ニ貸與スルヲ禁ス。

二十四日、大總督府、水戸藩ニ令シテ、米三千苞ヲ黑羽ニ運輸シ、白河口官軍ニ供億セシム。

○甲斐鎭撫府、護衞隊兵ノ水災ニ罹リシ者ヲ賑恤ス。

二十五日、鍋島直大、書ヲ大總督府ニ上リ、藩兵ノ今市驛ニ在ル者ヲシテ、轉シテ白河口ニ赴カシメント請フ、是日、督府、其兵ヲ分チ、一ヲ白河口ニ差遣シ、一ヲ江戸ニ召還シ、其餘ヲ留メテ、中津、今治、人吉三藩兵ト共ニ今市傍近ヲ嚴守セシム。

二十六日、大總督府、彥根藩兵ノ甲府ニ在ル者ニ令シテ、急ニ白河口ニ轉進セシム。

二十七日、大總督府、足立某（勘四郎、因幡藩士、）ヲ以テ使番ト爲ス。

二十八日、大總督府、多久茂族（兵衞、肥前藩士、時ニ今市驛ニ在リ、）ヲ以テ白河口總督府參謀ト爲シ、肥前藩兵ノ白河口ニ在ル者ヲ督セシム、又、三好某（勘次郎、貫藩不詳、）ヲ以テ軍監ト爲シ、下總、下野ヲ鎭撫セシム。

○是ヨリ先、房總監察兼知縣事柴山典、廳ヲ八幡驛ニ開ク、是ニ至リ、之ヲ大多喜城ニ移サントス、吉田藩、乃チ書ヲ大總督府ニ上リテ、本城交付ノ可否ヲ稟ス、批シテ、之ヲ貸與セシム。

○肥後藩後軍（四百六十一人）、東京ニ至ル。（細川護久家記）

二十九日、大總督府、錦旗奉行加勢萬里小路通房ヲ罷メ、下參謀吉村叙翰ヲ以テ之ニ代フ。

○大總督府、尾張、水戸、津和野三藩兵ノ城中警守ヲ罷メ、蒼龍隊ヲ以テ之ニ代ヘ、筑前、岡山新田二藩兵ノ西丸大手及ヒ坂下門警守ヲ罷メ、津和野藩兵ト共ニ因幡藩邸ヲ守ラシメ、岩村藩兵ニ西丸大手ヲ、吉田藩兵ニ坂下門ヲ守ラシム、又、延岡、大洲二藩兵ヲ陸奧ニ發遣ス。

○是ヨリ先、大總督府、阿夫利神社祠官ノ請ヲ聽シ、麾下ニ隷シテ王事ニ勤メシム、是日、慰勞シテ之ヲ罷歸ス。

○德川家達封ニ就カントスルヲ以テ、書ヲ大總督府ニ上リテ、其禁錮スル所ノ小野某（内膳）、瀧川具知以下ヲ駿府ニ移置セント請フ、之ヲ聽シ、且、命シテ嚴ニ其逋逃者塚原某（但馬）ヲ搜索セシ

ム。

是月、大總督府、小田原軍監安永弘行ヲ以テ豆相監察ト爲ス。

○安藝藩兵ノ日光ニ戍スル者、書ヲ大總督府ニ上リテ、戰地ニ發遣センコトヲ請フ。

○鎭臺府、德川家達ノ江戶郭外ノ第宅ヲ毀撤スルヲ許ス。

○信太某歌之助ナル者、鎭撫ノ命ヲ奉スト稱シ、房、總地方ヲ横行スルヲ以テ、總野鎭撫府、房、總諸藩ニ令シテ之ヲ緝捕セシム。

八月朔日、大總督、牙營ヲ因幡藩邸ニ移ス。

○大總督府、岩村藩兵ノ中仕切門警守ヲ罷ム。

○甲斐鎭撫府、彥根藩ノ請ヲ聽シ、藩兵ノ甲府ニ在ル者ヲ分テ越後ニ赴カシム。

二日、大總督府、參謀正親町公董ヲ罷メ、兵學校御用掛穗波經度ヲ以テ之ニ代フ、又、萬里小路通房ヲ御旗監ト爲シ、錦旗奉行河鰭實文ヲ罷ム。

○大總督府、軍監補木呂子某善兵衞ヲ岩城平口ニ差遣ス。

○大總督府、筑前藩兵ノ大手門及ヒ淺草門警守ヲ罷メ、紀伊、高須二藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、紀伊藩兵ノ鍛冶橋門警守ヲ罷メ、筑前藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、且、鎭將三條實美ヲ警守セシメ、尾張藩兵ノ三番町歩兵保管ヲ罷メ、津藩兵ヲ以テ之ニ代フ、又、阿波藩兵ヲ遣シテ横濱ヲ守ラシメ、肥後藩兵ノ横濱警守ヲ罷ム。

○大總督府、佐倉藩ニ令シテ、藩兵ノ佐貫ニ在ル者ヲ、岩城平ニ發遣セシメ、館林藩ヲシテ兵ヲ岩城平口ニ出サシム、尋テ、佐倉藩兵ニ更令シテ、平潟口ニ赴カシム。

○大總督府、武藏市場村橘樹郡ノ農七郎右衞門ノ、力ヲ官軍供億ノ事ニ竭セシヲ賞シ、二世氏ヲ稱スルヲ許ス。

○議定、書ヲ大總督府ニ致シテ、東北遊擊軍將久我通久大納言、昨日ヲ以テ京師ヲ發セシヲ告ク。

三日、大總督府、肥後藩ニ命シテ下總、常陸ヲ鎭撫セシム。

○大總督府、高須藩兵ノ赤坂門警守ヲ罷メ、長尾藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

四日、越後口總督府、書ヲ大總督府ニ致シ、新發田藩歸順シ、新ニ報効ヲ圖ルヲ以テ、藩兵ノ東京ニ在ル者ヲ罷歸セント請フ、督府、乃チ藩兵ノ小石川、牛込二門及ヒ神田橋警守ヲ罷メ、慰勞シテ之ヲ遣ル、又、延岡藩兵ノ陸奥發遣ヲ罷メ、命シテ小石川、牛込二門及ヒ神田橋ヲ守ラシメ、吉川藩兵ノ城中警守ヲ罷メ、蒼龍隊ヲ以テ之ニ代ヘ、金澤藩ヲシテ金澤及ヒ中里村武藏、ヲ警守セシム。

○徳川家達、書ヲ大總督府ニ上リテ、其臣隷（小普請組）逋逃ノ狀ヲ申ス。

○黑羽藩、書ヲ大總督府ニ上リテ、前月、賊徒、管内ヲ焚掠セシ狀ヲ申ス。

○甲斐鎭撫府、彥根藩兵ヲ分テ、谷村傍近ヲ巡警セシム。

第二十九 自明治元年八月五日 至同 十二日

八月五日、大總督府、津藩兵ノ三番町步兵保管ヲ罷メテ、陸奧ニ赴カシメ、長尾藩兵ノ銀座警守ヲ罷メ、更ニ、三番町步兵ヲ保管セシメ、斥候隊ヲシテ紀間局ヲ守ラシム。

○賊徒、上總地方ニ出沒スルヲ以テ、房總知縣事柴山典、前橋、佐倉、久留里、飯野、鶴牧、一宮、生實七藩兵、及ヒ吉田藩兵ノ大多喜ニ戍スル者ヲ徵シテ之ヲ掃蕩ス。

六日、大總督府、川越藩ニ命シテ、兵ヲ下野鍋掛驛ニ出サシム。

○横濱ノ商喜助ナル者、疑フヘキノ形跡アルヲ以テ、大總督府、神奈川府ニ移牒シテ、其罪ヲ糺サシム。

○白河口總督鷲尾隆聚、書ヲ大總督府ニ致シテ、三春藩主秋田映季降伏ノ狀ヲ報ス。

○津藩、書ヲ大總督府ニ上リ、大久保忠禮、其下ノ詿誤スル所ト爲ルヲ陳シ、其罪ヲ寛宥センコトヲ請フ。

○津藩後軍（兵員不詳）、東京ニ至ル、久居藩兵（兵員不詳）之ニ屬ス。（藤堂高邦家記、藤堂高猷家記）

七日、大總督府、井口某（貫七）、花房某（勝之進、二人並ニ貫屬不詳）ヲ以テ使番ト爲ス。

○大總督府、紀伊、志筑二藩兵ノ數寄屋橋及虎門警守ヲ罷メ、津、下館二藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、津藩兵ニ參謀正親町公董ノ警守ヲ兼ネシム。

○大總督府、前橋藩ニ令シ、富津ノ兵ヲ分チテ、佐貫ヲ警守セシム。

○大總督府、薩摩、備前、柳河、大村、佐土原五藩兵ノ三春ニ在ル者ヲ以テ、白河口總督鷲尾隆聚ニ屬ス。

○仙臺追討總督四條隆謌、書ヲ大總督府ニ致シテ、中村藩主相馬季胤降伏ノ狀ヲ報ス。

○是ヨリ先、肥前、宇都宮二藩兵、下野、西舟生、大渡等諸村ニ分據シ、以テ藤原村傍近ノ賊ニ備フ、是日早旦、賊兵、西舟生村ヲ襲フ、二藩兵邀ヘ擊テ之ヲ郤ク。

○岩鼻知縣事大音厚龍、小幡藩ニ令シテ、兵ヲ上野追貝村ニ出サシメ、前橋藩兵ノ本地ニ在ル者ヲ撤還ス。

八日、本堂親久、新ニ藩屛ニ列セシヲ以テ、入京シテ其恩ヲ謝セントス、封邑警守ノ命ヲ奉スルヲ以テ、書ヲ大總督府ニ上リテ進止ヲ取ル、批シテ之ヲ停ム、親久、又、手兵ヲ出シテ征討ノ軍ニ従ハシメンコトヲ請フ、乃チ命シテ督府ヲ警守セシム。

○神奈川府知事東久世通禧、東京府下ノ警備、及ヒ徳川氏舊臣收養ノ議ヲ大總督府ニ上ル。

九日、大總督府、奥羽追討白河口總督鷲尾隆聚ヲ罷メ、（参謀故ノ如シ、）参謀正親町公董ヲ以テ之ニ代ヘ、御旗監萬里小路通房ニ参謀ヲ兼シム、尋テ、小代某（満八、肥前藩士、）ヲ以テ参謀補助ト爲シ、使番唯武連ト倶ニ公董ニ屬セシム。

○府下浮浪ノ徒、海ニ航シテ岩城平ニ赴キ、仙臺追討官軍ノ糧道ヲ絶タントスルノ聞アルヲ以テ、大總督府、仙臺追討總督四條隆謌及ヒ平潟、小名濱等ノ諸軍ニ移檄シテ、其守備ヲ修メシム。

○大總督府、長尾藩兵ノ赤坂門警守ヲ罷メ、岩村藩兵ヲ以テ之ニ代フ、又、大手、紅葉山二門ヲ鎖シ、二門及ヒ中門ノ守兵ヲ撤ス、

○大總督府、土浦藩ニ令シテ兵ヲ東京ニ出サシム、又、笠間藩兵ヲ岩城平ニ發遣ス。

○賊兵、下野笹尾村ヲ侵ス、安藝藩兵ノ日光ニ在ル者、邀ヘ撃テ之ヲ郤ク。

十日、大總督府、吉田某（満作、筑前藩士、）ヲ以テ飛隼號船船將ト爲シ、筑前藩海軍兵ヲシテ本船ニ搭セシム。

○府下浮浪ノ徒、不軌ヲ圖ルノ聞アルヲ以テ、大總督府、令シテ諸門ノ警守ヲ申嚴ス。

○大總督府、因幡藩兵保管スル所ノ歩兵ヲ改メテ、第二大隊ト稱ス、尋テ之ヲ中村ニ發遣ス。

十一日、處士小栗義宣（篤三郎、）横田修業（大介、）書ヲ大總督府ニ上テ、奉上ノ意ヲ陳シ、王事ニ勤メンコトヲ請フ、之ヲ聽シ、二人ヲ以テ軍曹試補ト爲ス。

十二日、大總督府、西某（直八郎、貫籍不詳、）ヲ以テ軍監ト爲ス。

○大總督府、紀伊藩兵及ヒ赤心隊ニ命シテ、城中ヲ警守セシメ、横須賀藩兵ノ城中警守ヲ罷ム。

○眞岡知縣事鍋島直幹、結城藩ニ命シテ、兵ヲ日光ニ出サシム。

第四十 自明治元年八月十三日 至同 晦日

八月十三日、大總督府、仙臺追討總督四條隆謌ヲ改メテ、奥羽

追討平潟口總督ト爲シ、白河、平潟兩道ノ諸軍ヲシテ並進テ會津ヲ討セシム、又、奥羽ノ士民ニ申諭シ、方嚮ヲ誤ルコト勿ラシム。

○平潟口總督四條隆謌、書ヲ大總督府ニ致シテ、仙臺藩主伊達慶邦、中村藩主相馬季胤ノ待遇ヲ稟問ス、督府、令シテ一ニ庶人ニ準セシム。

○大總督府、座光寺某（學太郎）ノ歸邑ノ請ヲ聽シ、其和田倉門警守ヲ罷メ、紀伊藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

十四日、大總督府、三上藩兵ノ上野山内警守ヲ罷ム。

○大總督府、松岡藩ニ令シテ、管内石炭ノ取締ヲ嚴ニセシム。

十五日、古河藩、書ヲ大總督府ニ上リ、白河口總督府ノ命ヲ奉シテ、藩兵ノ蘆野驛ニ戍スル者ヲ撤歸セシヲ申ス。

○甲斐鎭撫府、富士淺間社祠官四十六人ヲ以テ府兵ニ編シ、隆武隊ト稱ス。

○薩摩藩後軍、（六百十八人）東京ニ至ル。（東征總督記）

十六日、岡崎藩兵、（百三十一人）東京ニ至ル。（志多忠直家記）

十七日、大總督府、肥後藩兵ノ本牧及ヒ根岸警守ヲ罷メ、長尾藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、長尾藩兵ノ三番町歩兵保管ヲ罷メ、肥後藩兵ヲ以テ之ニ代フ、又、新見藩ノ小田原藩邸保管ヲ罷ム。

○大總督府、筑前藩兵ヲ越後ニ差遣ス。

○是ヨリ先、大總督府、令シテ諸藩ノ令切、箱根二關門ヲ往來スル、關西ハ太政官、關東ハ本府ノ印鑑ヲ照サシム、是ニ至リ、更令シテ各藩重臣ノ印鑑ヲ照サシム。

○白河口總督正親町公董、東京ヲ發ス、參謀補助小代某、（下總八）使番唯武連及ヒ三上藩兵、之ニ從フ。

十八日、甲斐鎭撫府、令シテ部下ヲ戒飭ス。

○監察使軍監補姉川某、（榮藏）吉井、七日市二藩ニ令シテ、兵ヲ上野戸倉口ニ出サシム。

十九日、大總督府、鍋島某（孫之助、前藩士）、肥ヲ以テ軍監兼鎭撫方ト爲シ、肥前藩兵ノ今市驛ニ在ル者ヲ率ヰテ、藤原口ニ赴カシム、尋テ某ヲ罷メ、鍋島某（監物、前藩士）、肥ヲ以テ之ニ代フ、又、安藝藩兵ノ日光警守ヲ罷メテ今市ニ赴カシメ、中津、今治、人吉三藩兵ノ今市警守ヲ罷メ、更ニ、日光口ヲ守ラシム。

○大總督府、大河内正質ノ罪ヲ釋シ、其城邑ヲ復ス、尋テ正質、東京ニ至リ、督府ニ候シ宥罪ノ恩ヲ謝ス。

○大總督府、松平重光ニ命シテ中仕切門ヲ警守セシメ、勝田某（鋼吉）ノ幸橋、新橋警守ヲ罷メ、岡崎藩兵ヲ以テ之ニ代フ、又、岡崎藩兵ニ命シテ淺草米廩ヲ守ラシム。

○石岡藩、書ヲ大總督府ニ上リテ、陸奥ノ管地（岩瀬郡長沼）會津兵ノ脅略スル所ト爲ルヲ申ス。

二十日、大總督府、紀問局ヲ岡崎藩邸ニ移ス。

○安藝藩兵ノ日光ニ在ル者、賊ト下野富士見峠ニ戰フ。

二十一日、大總督府、中村利秋（半次郎、後桐野氏ヲ稱ス、薩摩藩士）ヲ以テ軍監ト爲シ、薩摩、宇都宮二藩兵ヲ率キテ、藤原口ニ赴カシム。

○大總督府、長尾藩兵ノ銀座警守ヲ罷メ、岡崎藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、肥後藩兵ノ神奈川及宮之岸警守ヲ罷メ、長尾藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

○是ヨリ先、大總督府、兇徒ノ捕ニ就ク者ヲ舊會津藩邸ニ幽シ、諸藩兵ヲシテ更番之ヲ監守セシム、是ニ至リ、其監守ヲ罷ム。

○是ヨリ先、榎本武揚、德川氏ノ諸艦ヲ督シテ品川海ニ在リ、密ニ蝦夷地ニ據リテ、德川氏ノ業ヲ復センコトヲ圖リ、伊達慶邦、松平容保等ト謀ヲ通ス、是ニ至リ、艦船八隻ヲ奪ヒテ陸奥海ニ走ル、是日、德川家達ノ老臣及ヒ松平齊民、書ヲ大總督府ニ上リテ、其狀ヲ申ス。

二十二日、大總督府、下參謀高橋勝政ヲ中村ニ差遣ス。

○大總督府、諸藩兵ニ申令シテ、無禮ヲ外國人ニ加フルコト勿ラシム。

○大總督府、柳河藩兵ニ命シテ、下谷傍近ヲ警守セシメ、土浦藩兵ニ、上野山内ヲ守ラシム。

○大總督府、榊原某（越中守）、大竹某（東三郎）、田上某（寛藏）ノ江尻、蒲原二驛間、餽餉傳遞指辨ヲ罷メ、德川家達ヲ以テ之ニ代フ。

○兇徒、上總地方ニ出沒スルヲ以テ、大總督府、水野忠敬、瀧脇信敏ニ命シ、兵ヲ發シテ、上總新封ノ地ヲ警守セシム。（時ニ忠敬、信敏並ニ未タ封ニ就カス。）

○甲斐鎭撫府、護衛隊ノ上野原關門警守ヲ罷メ、護國隊ヲ以テ之ニ代フ。

二十三日、大總督府、渡邊某（藤吉）、西村某（保七郎、二人並ニ宇和島藩士）ヲ以テ、神奈川府兵總導ト爲ス。

二十四日、大總督府、鯉淵某（四郎、貫籍不詳）ヲ以テ軍監ト爲シ、上野ニ差遣ス。

○大總督府、土浦藩兵ニ命シテ、大手門ヲ警守セシム。

○浮浪ノ徒、音羽護國寺ニ嘯聚シ、將ニ郭内ニ闖入セントスルノ聞アルヲ以テ、大總督府、諸軍ヲ戒メテ不虞ニ備フ、既ニシテ、賊走テ練馬村ニ據ル、督府、乃チ薩摩、尾張、阿波、志筑四藩兵ヲ遣シテ、之ヲ討セシム、四藩兵至ルニ及ヒテ、賊已ニ遁ル。

○下野軍監三好某、鵜某、足利藩ニ命シテ、兵ヲ今市驛ニ出サシム。
二十五日、大總督府、舊幕府ノ海軍所ヲ收ム。
二十六日、是ヨリ先、大總督府ノ彈藥ヲ陸奥ニ運輸スルヤ、兵士ヲシテ之ヲ護送セシム、是ニ至リ、土浦以東、其護送ヲ止ムルヲ以テ、沿道諸藩ニ令シテ、管内ノ守備ヲ嚴ニセシム。
二十七日、大總督府、赤心、報國二隊ノ銀座警守ヲ罷ム。
二十八日、大總督府、宇和島藩兵ノ一橋、淸水二門警守ヲ罷メ、更ニ鐵砲洲、開市場諸門ヲ守ラシメ、報國隊ニ一橋門ヲ、赤心隊ニ淸水門ヲ守ラシム。
○甲斐鎭撫府、飫肥藩兵ノ甲府警守ヲ罷メ、命シテ越後ニ赴カシム。
二十九日、大總督府、水野忠順ノ謹愼ヲ釋ス。
○大總督府、横川關門ヲ除クノ外、悉ク上野ノ諸關門ヲ廢シ、更ニ、關門ヲ三國嶺ニ設ケ、高崎藩ニ命シテ之ヲ守ラシム。
○大總督府、宇都宮藩ニ命シテ、藤原口出征肥前藩兵、供帳傳遞ノ事ヲ掌ラシム。
○大總督府、松下重光ノ小堀某[illegible]、保管ヲ罷メ、田安慶賴ヲ以テ之ニ代フ。

○大久保忠告、書ヲ大總督府ニ上リ、府下各處ノ警守ニ服シ、手兵給セサルヲ以テ、支族大久保某[illegible]、[illegible]ノ手兵ヲ合シテ、新宿及ヒ淀橋傍近ヲ警守セシコトヲ請フ、之ヲ聽ス。
○甲斐鎭撫府、彦根藩兵ヲ分テ山梨郡諸村ヲ巡警セシム。
晦日、大總督府、横濱病院取締井土某[illegible]ヲ以テ使番ト爲シ、病院取締ノ事ヲ攝行セシメ、監察使軍監補姉川某[illegible]ヲ督府軍監ト爲ス、又、使番井上勝ニ命シテ、鐵砲洲、開市場ノ守兵ヲ監セシム。
○大總督府、一橋茂榮、田安慶賴及ヒ新田俊純ニ命シテ、鐵砲洲、開市場諸門ヲ警守セシメ、肥後藩兵ノ三番町步兵保管ヲ罷ム、又、柳河藩兵ノ下谷傍近警守ヲ罷メ、陸奥ニ遣シテ前隊ニ合セシメ、薩摩藩兵ヲ中村口ニ發遣ス。
是月、大總督府、奥羽追討總督府參謀木梨恒準ヲ以テ、仙臺追討總軍監ヲ兼シム、又、使番足立某[illegible]ヲ罷ム。

第四十一 自明治元年九月朔日 至同 九日

九月朔日、榎本武揚ノ品川海ヲ脫スルヤ、洋中、颶ニ遭ヒ、屬船一隻[illegible]、下總銚子浦ニ漂到ス、是日、高崎藩、其狀ヲ大總督府ニ申ス、督府、乃チ林友幸半七、長門藩士ヲ以テ軍監ト爲シ、往キテ之ヲ

處理セシム、佐倉、志筑二藩兵之ニ屬シ、高崎藩士嚮導タリ、適、逋賊五十餘人、土浦藩ニ就キテ降ヲ乞ヒ、餘黨各處ニ出沒ス、因テ、房總常野諸藩ニ令シテ嚴ニ之ヲ緝捕セシメ、土浦藩ヲシテ降人ヲ東京ニ護送セシム、既ニシテ、逋賊五十餘人、駿河藩ニ就キテ自首ス、乃チ駿府ニ謹愼シテ後命ヲ待タシム。

○大總督府、大多喜藩ニ命シテ、兵ヲ箱館ニ出シ、箱館府知事清水谷公考侍從、ヲ警守セシム、尋テ之ヲ罷メ、藩兵ヲシテ東京ニ駐屯セシム。

二日、大總督府、斥候隊ノ糺問局警守ヲ罷メ、土浦藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

○烏山藩、書ヲ大總督府ニ上リテ、白河口總督府ノ命ヲ奉シ、藩兵ノ越堀驛ニ戍スル者ヲ、白河驛ニ發遣セシヲ申ス。

三日、是ヨリ先、榎本武揚奪フ所ノ軍艦二隻、咸臨、蟠龍、伊豆下田港ニ漂到ス、豆相軍監安永弘行、唐津藩及ヒ松下重光ノ兵ヲ遣シテ之ヲ討セシメ、書ヲ大總督府ニ致シテ、其狀ヲ報ス、是日、督府、軍艦御用掛增田明道虎之助、軍務局判事試補石井靏吉富之助、二人竝ニ肥前藩士、ヲ遣シテ之ヲ處理セシム、肥前藩兵之ニ屬ス、既ニシテ、二艦下田港ヲ去リテ駿河清水港ニ入ル、督府、乃チ明道等及ヒ富士、飛龍、武藏三艦ヲ遣シテ之ヲ追捕セシメ、阿波、柳河二藩兵ヲシテ三艦ニ分搭セシム。

○是ヨリ先、大總督府、内藤某駒次郎、ニ命シテ、駿河岩淵村ヲ警守セシム、是ニ至リ、其警守ヲ罷メ、德川家達ヲ以テ之ニ代フ。

○是ヨリ先、朝廷、高松藩ニ命シテ、兵ヲ東京ニ出サシム、是日、藩兵二百九十四人、東京ニ至ル。東征總督記 松平賴聰家記

四日、鎭將府、甲斐府中代官赤松成允、市川代官成澤公直、石和代官石田廣和ヲ改メテ知縣事ト爲ス。

五日、大總督府、月岡某一郎、貫籍不詳、ヲ以テ軍曹試補ト爲ス。

○大總督府、津藩ノ、德川家達ノ家臣黑川某嘉兵衞、以下三人保管ヲ罷メ、之ヲ家達ニ交付セシム、又、舊甲府勤番支配佐藤某駿河守、ノ謹愼ヲ釋ス。

六日、逋逃嘯聚ノ風、尚未タ已マス、是日、大總督府令シテ、犯ス者ハ士卒ヲ問ハス、嚴科ニ處セシム。

○浮浪ノ徒、尾張藩士ト稱シ、日出藩邸麻布一本松町ニアリ、ニ嘯聚スルヲ以テ、大總督府、尾張藩兵ヲ遣シテ之ヲ捕斬ス。

○是ヨリ先、甲斐鎭撫府、舊甲府勤番以下ノ歸順セシ者ニ口俸ヲ給ス、是日、其歸順者百七十五人ヲ以テ府兵ニ編シ、新衞隊ト稱ス。

○吉田藩後軍四十一人、東京ニ至ル。東征總督記

七日、大總督府、高松藩兵ニ命シテ、九段坂、半藏門ノ間ヲ巡警セシム。

○宇都宮藩、書ヲ大總督府ニ上リ、服役多端、藩力給セサルヲ以テ、白河口糧餉措辦ノ任ヲ解カンコトヲ請フ、乃チ之ヲ罷ム、本藩、又、藤原口官軍供帳ノ費額不貲ノ狀ヲ陳シテ、金ヲ借ンコトヲ請フ。

八日、賊徒、下總松戸、行徳二驛ニ嘯聚スルヲ以テ、大總督府、尾張、志筑二藩兵ヲ遣シテ之ヲ討セシム、又、阿波藩兵ヲ三春ニ、高松藩兵ヲ白河ニ發遣ス。

九日、大總督府、吉田某（隼之助、後藩士）、肥ヲ以テ使番ト爲ス。

○是ヨリ先、朝廷、立花鑑寛（飛驒守、柳河藩主）ヲ東京ニ遣シ、大總督ト謀リテ民心ヲ鎭輯セシム、是日、鑑寛、手兵（六百八十八人）ヲ率ヰテ東京ニ至ル、（立花鑑寛家記）備前藩後軍（九十八人）モ亦至ル。（東征總督記）

第四十二 自明治元年九月十日 至同 二十七日

九月十日、是ヨリ先、大總督府、土浦、笠間、下館三藩ニ命シテ、傍近郡邑ヲ警守セシム、是ニ至リ、知縣事ヲ置クヲ以テ之ヲ罷ム。

○大總督府、津藩ノ水野勝知保管ヲ罷メ、鶴牧藩ヲ以テ之ニ代フ。

○因幡藩後軍（百十七人）、東京ニ至ル、大總督府、命シテ中村ニ赴キ前軍ニ合セシム。

十一日、大總督府、書ヲ軍務官ニ致シテ、會津賊勢猖獗ノ狀ヲ報シ、豫備兵ヲ發遣センコトヲ請フ。

○大總督府、斥候隊及ヒ高松藩兵ヲ二本松ニ發遣ス。

○黒羽藩、書ヲ大總督府ニ上リテ、彈藥ヲ借ンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○横濱軍監大屋某（鈴次郎）、長尾藩兵ノ神奈川宮ノ岸警守ヲ罷メ、神奈川府兵ヲ以テ之ニ代フ。

○下野軍監三好某（助次郎）、茂木藩ニ令シテ、兵ヲ今市驛ニ出サシム。

十二日、白河口總督府、書ヲ大總督府ニ致シテ、二本松藩主丹羽長國、米澤藩主上杉齊憲、降伏ノ狀ヲ報ス。

○藤原口軍監兼鎭撫方鍋島某（監物）、古河某ニ令シテ、兵ヲ今市驛ニ出サシム。

十三日、大總督府、軍監姉川某（榮藏）ヲ以テ白河口總督府參謀補助ト爲シ、參謀鷲尾隆聚ヲ罷ム。

○兇徒、甲斐地方ニ出沒スルヲ以テ、甲斐鎭撫府、彦根、松代二

藩兵ニ令シテ、嚴ニ之ヲ緝捕セシム。

○會津兵、陸奥檜枝股傍近ニ屯據スルヲ以テ、岩鼻知縣事大音厚龍、戸倉口警守ノ諸藩兵ニ令シテ之ヲ進剿セシム、既ニシテ、賊兵遁逃シ、戸倉口、略〻靖ニ就ク、因テ、令シテ諸藩兵ヲ撤還ス。

○眞岡縣知事鍋島貞幹、下館、吹上二藩ニ令シテ、兵ヲ下野鉢石驛ニ出サシム。

十四日、大總督府、會計局ヲ舊南町奉行邸ニ移ス。

十五日、大總督府、大河內輝照、新莊直敬、及ヒ關宿藩ノ、逋賊ヲ追捕セサルヲ譴メ、輝照ニ謹愼ヲ命ス。

○橫濱軍監大屋某、（鉡次郎、）長尾藩兵ノ本牧、根岸警守ヲ罷メ、神奈川府兵ヲ以テ之ニ代フ。

十七日、大總督府、津藩兵ヲ中村ニ遣シテ前隊ニ代ラシム。

○高松藩後軍（四小隊、）東京ニ至ル。（松平賴聰家記）

十八日、大總督府、使番佐藤金義ヲ中村ニ差遣ス。

○富士、飛龍、武藏三艦、賊艦一隻（咸臨、）ヲ淸水港ニ擊テ之ヲ獲、其人ヲ捕斬ス、其上陸セシ者八十餘人ハ、駿河藩ニ付シテ之ヲ禁錮ス、一隻（蟠龍、）ハ先ツ遁ル。

十九日、大總督府、使番ニ命シテ報國隊ヲ管セシム、又、紀伊藩兵ノ龍口步兵保管ヲ罷メ、內藤某（豐之助、實名不詳、）ヲシテ之ヲ管セシム。

○平潟口總督府、書ヲ大總督府ニ致シテ、仙臺藩主伊達慶邦降伏ノ狀ヲ報ス。

○藤原口軍監兼鎭撫方鍋島某、（監物、）中津、今治、人吉三藩兵ノ若松ニ在ル者ニ令シテ、日光ニ撤還セシム。

二十日、吹上藩、書ヲ大總督府ニ上リテ、藩兵ノ鉢石驛ニ戍スル者ヲ罷歸センコトヲ請フ、督府、乃チ眞岡知縣事鍋島貞幹ニ令シテ、其兵ヲ撤セシム。

○賊徒、下總地方ヲ劫掠スルノ聞アルヲ以テ、本多正訥、書ヲ大總督府ニ上リテ、藩兵ノ橫濱警守ヲ罷メ、下總新封ノ地ニ遣シテ、傍近ヲ鎭輯セシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。（時ニ正訥東京ニ在リ。）

二十一日、大總督府、從軍諸藩ニ申令シテ、兵員ヲ錄上セシム。

○是ヨリ先、關宿藩士ノ、賊ニ黨シ逃走セシ者、本藩ニ就キテ自首ス、是日、大總督府、本藩ニ令シテ罪一等ヲ減シ、其家ニ謹愼セシム。

○土井利敎、書ヲ大總督府ニ上リテ、陸奥ノ管地、（伊達郡湯野村、）賊兵ノ占據スル所ト爲ルヲ稟シ、藩兵ヲ出シテ征討ノ軍ニ從ハシメンコトヲ請フ、聽サス。

○豆相監察安永弘行、荻野山中藩兵ノ伊豆大場村ニ戍スル者

ヲ罷歸ス。
二十二日、天長節祝酒ヲ諸軍ニ賜フ。
○甲斐鎭撫府、降武、護國、護衛三隊ヲ分テ、甲府諸城門ヲ警守セシム。
二十三日、大總督府、小田原ニ枚橋ノ關門ヲ廢ス。
○吉井某（四郎、上作藩士、）父讐ヲ復センコトヲ大總督府ニ請フ、許サス、是日、其讐二人（小泉彦藏、山田豊兵衛、並ニ小田原藩士、）ヲ斬ニ處シ、某ヲシテ劊手ニ代ラシム。
○前橋藩、書ヲ大總督府ニ上リテ、富津ノ守兵、賊ニ黨スル者ノ謹愼ヲ釋サンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。
二十四日、是ヨリ先、朝廷、毛布ヲ出征兵士ニ賜フ、是日、大總督府、越後、平潟、白河三道總督府ニ移牒シテ其命ヲ傳フ。
○大總督府、福原資生ニ命シテ、假ニ白河越ノ地六萬石ヲ管セシム。
○大總督府、赤心隊ノ清水門警守ヲ罷メ、島原藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、安藤某（弘三郎、舊幕下士、）ヲシテ中川番所ヲ守ラシム。
二十五日、安藝（三百三十人、）筑後（五百二人、）二藩後軍、東京ニ至ル。（淺野長勲家記、有馬頼咸家記）
二十六日、大總督府、軍艦御用掛增田明道ヲ以テ參謀試補ト爲シ、二本松ニ赴カシメ、安田某（源之丞、肥後藩士、）ヲ軍監ト爲ス、又、軍監林友幸ヲ仙臺ニ差遣ス。
○是ヨリ先、大總督府、長門藩ニ命シテ飛龍艦ヲ保管セシム、是ニ至リ、其保管ヲ罷メ、柳河藩ヲ以テ之ニ代フ。
○下總香取神社ノ祠官、無頼ノ徒ヲ嘯聚シ、不軌ヲ圖ルノ聞アルヲ以テ、大總督府、房總知縣事柴山典ニ令シテ、其實未ヲ申報セシム、尋テ、典、小見川藩兵ヲ發シテ、其黨與ヲ緝捕ス。
○藤原口軍監中村利秋、書ヲ大總督府ニ致シテ、松平容保、降伏ノ狀ヲ報ス。
○下野軍監三好某（駒次郎、）宇都宮藩ニ令シテ、援兵ヲ藤原口ニ出サシム。
二十七日、東駕、東幸ノ期、近キニアルヲ以テ、甲斐鎭撫府、彦根、松代二藩兵ニ命シテ、駿、相境上ヲ警守セシム。
○是ヨリ先、白河口總督府、壬生藩兵ノ白河驛ニ在ル者ヲ分テ、今市驛ニ赴援セシム、是日、藩兵（九十九人、）今市ニ至ル。（壬生藩記）

第四十三 自明治元年九月二十八日 至同十月二日

九月二十八日、大總督府、水田某（謙吉、）ヲ以テ使番ト爲ス。
○大總督府、小田原藩首謀臣渡邊某（了叟、）ヲ本藩ニ付シテ、之ヲ處分セシメ、其從數人ハ藩地ニ謹愼セシム、本藩乃チ某ヲ刑ス。

○大總督府、掛川藩兵ノ甲斐ニ在ル者ヲ罷歸ス。

○松平直克、書ヲ大總督府ニ上リテ、阿部正恒悔謝他ナキノ狀ヲ申シ、其罪ヲ寬宥センコトヲ請フ。

二十九日、大總督府、奥羽諸藩主ノ東京護送、藩地謹愼ノ區處ヲ定メテ、白河、平潟兩道ノ總督ニ令ス。

○大總督府、銃獵ヲ申禁ス。

○大總督府、諸藩ノ役夫、兵員ノ三分一ニ超ユルモノハ、糧餉ヲ給セサルヲ令ス。

○大總督府、安藝藩兵ヲ陸奥亘驛ニ、筑後藩兵ヲ磐城平ニ發遣ス。

○大總督府、橫須賀藩兵ノ矢來門警守ヲ罷ム。

○大總督府、銃器ヲ小田原藩ニ賜フ。

○藤原口、軍監兼鎭撫方鍋島某監物、古河、下館、結城、茂木、佐野、足利、吹上七藩兵ヲ率ヰテ、下野高原村ニ至ル、會々、會津地方平定ニ就ク、因テ軍ヲ今市及ヒ日光ニ班ス、尋テ之ヲ解還ス。

○水戶藩逋賊市川弘美、朝比奈泰尙等、德川氏逋賊及ヒ會津、長岡等ノ殘兵ト共ニ、水戶城ヲ襲フ、藩兵逆ヘ擊ツ、利アラス、是日、賊遂ニ弘道館ニ入ル。

○筑後藩後軍五百人東京ニ至ル。有馬頼咸家記

是月、大總督府、中島佐衛ヲ以テ、武藏艦艦長ト爲ス。

○有馬氏弘、書ヲ大總督府ニ上リテ、支族有馬某鉄三郎、旗下士、ノ勤王ノ情ヲ陳シ、藩兵ニ屬シテ公事ニ服セシメント請フ、之ヲ聽ス。

○德川家達、書ヲ大總督府ニ上リテ、軍馬二十頭ヲ獻セント請フ。

十月朔日、大總督府、淸水、田安、竹橋三門ヲ鎻シ、島原藩兵ヲシテ田安、竹橋、矢來、半藏四門ヲ守ラシメ、尾張藩兵及ヒ報國隊ノ半藏、田安、竹橋三門警守ヲ罷ム。

○松平容保既ニ降ルヲ以テ、大總督府、薩摩、長門、彥根、土佐、大垣五藩兵ノ、若松ニ在ル者ニ令シテ、東京ニ凱還セシム、又阿波藩兵ニ命シテ、容保父子ヲ東京ニ護送セシム。

二日、水戶ノ警報到ル、大總督府、安藝、備前二藩兵ヲ以テ、應援ト爲シ、土浦、笠間二藩兵ヲ罷歸シテ、封疆ヲ嚴守セシメ、更ニ參謀萬里小路通房ヲ遣シテ、賊ヲ討ス、軍監鯉淵某四郎、使番三浦某淸太郎、及ヒ筑後藩兵之ニ屬ス、水戶藩兵ヲ罷歸ス、是日、水戶藩兵、傍近諸藩兵ト共ニ賊ヲ擊チテ、之ヲ走ラス、賊、下總ニ逃レ、高崎藩兵ニ降ル者百十人、既ニシテ藩兵追擊シテ、朝比奈泰尙ヲ殪ス、市川弘美等再ヒ逃ル、督府乃チ安藝、筑後二藩

兵ニ令シテ、陸奥白〔石〕驛及ヒ磐城平ニ轉進セシメ、高崎、尾張二藩兵ヲシテ、降人ヲ東京ニ護送セシム。

○大總督府、肥後藩兵ノ和泉橋、昌平橋警守ヲ罷メ、吉田藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、土浦藩兵ノ大手門警守ヲ罷メ、報國隊ヲ以テ之ニ代フ。

○烏山藩、書ヲ大總督府ニ上リ、白河口服役數月、軍費不貲ヲ以テ、糧餉ヲ出征藩兵ニ給與センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○今市驛傍近平定ニ就クヲ以テ、下野軍監三好某、助次郎、令シテ壬生藩兵ノ本驛ニ戍スル者ヲ罷歸ス。

第四十四　自明治元年十月三日至同十九日

十月三日、大總督府、吉田藩兵ノ坂下、裏二門警守ヲ罷メ、筑前、高松二藩兵ヲ以テ之ニ代フ、又筑前、高松二藩兵ニ命シテ、西城防火ノ事ヲ掌ラシム。

四日、大總督府、大河内輝照ノ謹愼ヲ釋ス。

○是ヨリ先、大久保忠禮ノ罪ヲ數メテ、永蟄居ヲ命シ、支族忠良岩丸、荻野山中藩主教義ノ子、ヲシテ其先祀ヲ承カシム、是日大總督府、豆相監察安永弘行ノ小田原領及ヒ箱根關門監督ヲ罷メ、忠良ニ命シテ箱根關門ヲ警守セシメ、唐津藩兵ノ箱根ニ在ル者ヲ召還ス。

五日、大總督府、鈴木某孫平、前橋藩士、ヲ以テ使番ト爲ス、又參謀試補增田明道等及ヒ長門藩兵ヲ仙臺ニ差遣ス。

○高崎藩士ノ逃走セシ者、本藩ニ就キテ自首ス、本藩、大總督府ニ具狀シテ裁ヲ乞フ、批シテ藩地ニ謹愼セシム。

六日、大總督府、間部詮道下總守、鯖江藩主、ノ祖父詮勝前下總守、松堂ト號ス、時ニ東京ニ在リ、ノ蹤跡疑フヘキ者アルヲ以テ、命シテ本藩ニ謹愼セシメ、吉田藩兵ヲシテ之ヲ護送セシム、既ニシテ會津人山内某熊之助、之ヲ詮勝邸内ニ捕ヘ、詮勝ノ近臣一人ニ謹愼ヲ命ス、詮道書ヲ上リテ罪ヲ待ツ、批シテ問ハス。

○松平親貴、但馬守、杵築藩主、書ヲ大總督府ニ上リテ、支族松平某市之助、旗下士、勤王ノ情ヲ陳シ、公事ニ服セシメンコトヲ請フ。

七日、大總督府、阿部正恒ノ謹愼ヲ釋シ、其城邑ヲ復ス。

○大總督府、岩村藩兵ノ赤坂門警守ヲ罷メ、阿波藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

八日、奥羽平定ニ就クヲ以テ、出征參謀及ヒ諸藩兵、漸次東京ニ凱還ス、大總督府之ヲ慰勞シ、物ヲ賜フ、各差アリ。

○大總督府、津藩兵ノ水道橋警守ヲ罷メ、吹上藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

九日、大總督府、上野、下野諸藩ニ令シ、藩兵ノ若松ニ在ル者ヲ

撤歸シテ、其封疆ヲ警守セシメ、以テ殘賊ニ備フ。

十日、大總督府、長門藩兵ヲ福島ニ遣シテ、陸奥ヲ鎭壓セシム、尋テ更令シテ、二本松ニ駐屯セシム。

十一日、大總督府參謀穗波經度ヲ、川崎驛ニ遣シテ、東幸車駕ヲ奉迎セシム、安藝藩兵之ニ屬ス。

○大總督府、藤原口軍監兼鎭撫方鍋島某(監物)ニ令シ、肥前藩兵ヲ率ヰテ、東京ニ撤還セシム。

○大總督府、稻田邦植ノ西城警守ヲ罷メ、藤堂某(采之丞、舊旗下士)ヲ以テ之ニ代フ。

十三日、車駕東京ニ抵ル、大總督熾仁親王、參謀萬里小路通房等ヲ率ヰテ、品川驛ニ奉迎ス、諸藩兵ハ郭内ニ拜シ、花房、大多喜二藩兵、沿路ヲ警守ス、是日、勅シテ薩摩、安藝二藩兵ノ征討軍勞ヲ慰シ、酒肴ヲ賜フ。

○筑後藩後軍(五百人)、東京ニ至ル。(有馬頼咸家記)

十四日、大總督參朝ス。

十五日、勅使ヲ病院ニ遣シテ、兵士ノ創痍者ヲ慰問シ、菓子ヲ賜フ。

○大總督府、軍務官判事中根貞和(善次郎、高田藩士)等ヲ遣シテ、會津降人ヲ監シ、備前藩兵ヲシテ會津ヲ鎭セシム。

十六日、大總督府、上杉齊憲及ヒ其子茂憲(式部)ヲ東京ニ召ス。

○大總督府、藤堂某(采之丞)ノ西城警守ヲ罷ム。

十七日、東幸ヲ以テ、酒肴ヲ諸軍ニ賜フ。

○大總督府、盛岡藩兵器ノ東京藩邸ニ在ル者ヲ收ム。

十八日、大總督府、參謀伊地知正治ノ戰勞ヲ慰シ、其參謀ヲ罷ム。

○是ヨリ先、入道公現親王仙臺ニ在リ、平潟口總督四條隆謌ニ因リテ書ヲ上リ、罪ヲ謝ス、泉藩主本多忠紀、(能登守)湯長谷藩主内藤政養(長壽麿)、請西藩主林忠崇、及ヒ磐城平藩主安藤信勇ノ祖父信正(鶴翁ト號ス○時ニ忠紀以下四人並ニ仙臺ニ在リ)モ亦前後隆謌ノ軍門ニ降ル、是日、大總督府、書ヲ議定ニ致シテ、親王及ヒ忠紀等ノ處分ヲ禀問ス。

○大總督府、平潟口總督府ニ牒シテ、伊達慶邦父子及ヒ其老臣ノ事ニ與カリシ者ヲ、東京ニ護送セシム。

○大總督府、中津、今治、人吉三藩兵ノ日光ニ在ル者ニ令シテ、東京ニ撤還セシム。

十九日、大總督府、第一大隊ニ命シテ、半藏門及ヒ麴町、小川町傍近ヲ巡警セシム。

○德川家達、書ヲ大總督府ニ上リテ、駿河岩淵村ノ守兵ヲ撤セシコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

第四十五 自明治元年十月二十日至同二十八日

十月二十日、是ヨリ先、平潟口總督府、安藤信正、本多忠紀、内藤政養ニ命シ、東京ニ至リ謹愼シテ朝裁ヲ待タシム、是日、信正等東京ニ至ル、大總督府、乃チ信正ヲ藩邸ニ、忠紀ヲ岡崎藩邸ニ、政養ヲ延岡藩邸ニ幽ス、尋テ安藤信守、書ヲ督府ニ上リテ、信正ノ爲ニ哀ヲ乞フ。

○大總督府、金澤藩及ヒ江川英武、大久保某（兵庫）ノ箱根、平塚二驛間、飩餉傳遞管理ヲ罷メ、小田原藩ヲ以テ之ニ代フ。

○鯖肥藩、北征應援ノ爲メ、其兵ヲ發ス、藩兵信濃ニ至リ、越後平定スト聞キ、轉シテ奥羽ニ向フ、是日、東京ニ至リ、書ヲ大總督府ニ上リテ其狀ヲ申ス、時ニ奥羽既ニ平ク、因テ令シテ其進軍ヲ止ム。

二十一日、大總督府、川越藩兵ノ陸奥ニ在ル者ニ令シテ、藩地ニ撤還セシム。

二十二日、大總督府、陸奥出征諸藩ニ令シテ、東京凱還及ヒ陸奥留戍ノ兵員ヲ錄上セシム。

○初メ山形藩士水野忠弘、入覲シテ京師ニ在リ、留守ノ老臣等、私ニ奥羽ノ會盟ニ與カル、既ニシテ老臣等、白河口總督府ノ軍門ニ詣テ罪ヲ謝ス、是日、大總督府、其首謀者ニ謹愼ヲ命ス。

二十三日、東征大總督熾仁親王、上表シテ賊徒平定ヲ奏シ、其任ヲ解カンコトヲ請フ。

○是ヨリ先、白河口總督府、丹羽長國ニ命シ、東京ニ至リ、謹愼シテ罪ヲ待タシム、是日、大總督府、長國ヲ前橋藩邸ニ幽ス。

○大總督府、近藤某（某之助）、近藤某（某人）ノ舞坂、掛川二驛間飩餉傳遞管理ヲ罷メ、大澤基壽（右京大夫、舊高家）、五井某（某之助）、服部某（中）、近藤某（某之助）、秋元某（一學、某之助以下四人、皆ニ藩士）ヲ以テ之ニ代フ。

二十四日、大總督府、中島佐衛門（[illegible]）等ヲ以テ參謀補助ト爲ス。

○大總督府、筑前藩兵及ヒ報國、赤心二隊ノ幾治橋、大手、一橋、馬場先四門及ヒ金座警守ヲ罷メ、安藝、横須賀二藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

○大總督府、佐倉藩兵ノ磐城平及ヒ平潟ニ在ル者ニ令シテ、本藩ニ撤歸セシム。

○白河、平潟兩道總督府、舊幕府及ヒ諸藩逋逃兵ノ、若松及ヒ仙臺ニ在リテ降ヲ乞ヒシ者四百八十餘人ヲ、東京ニ押送ス、大總督府之ヲ駿河以下各藩ニ交付シテ、謹愼セシム。

二十五日、大總督府ニ令シテ、會計事務ヲ會計官ニ交付セシム。

○大總督府、使番佐藤金義、水田某(謙吾)ヲ以テ病院取締ヲ兼ネシム、又翔鶴號船船將平尾某(伴之丞)ヲ罷ム。

○大總督府、津藩兵ノ數寄屋橋警守ヲ罷メ、志筑藩兵ヲ以テ之ニ代フ、又赤心隊ヲ使番ニ隷ス。

○是ヨリ先、平潟口總督四條隆謌、命ヲ入道公現親王ニ傳ヘテ、東京ニ至ラシム、是日、大總督府、津藩兵ニ命シ、親王ノ至ルヲ俟チテ、京師ニ護送セシム。

○河波藩、書ヲ大總督府ニ上リテ、藩兵ニ貸與スル所ノ菊章旗ヲ下賜センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

二十六日、是ヨリ先、棚倉藩主阿部正靜、白河口總督ノ軍門ニ降ル、總督乃チ正靜及ヒ其高祖父正備(養浩ト號ス、)ニ命シ、東京ニ至リ、謹愼シテ罪ヲ待タシム、是日、大總督府之ヲ福山藩邸ニ幽ス。

○甲斐鎭撫府、松代藩兵ノ甲府城番ヲ罷メ、彥根藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

二十七日、大總督府、蒼龍隊ノ城中警守ヲ罷メ、大多喜藩兵ヲ以テ之ニ代フ、又赤心隊ノ輔相三條實美警守ヲ罷ム。

○大總督府、從軍諸藩ニ令シテ、征戰ノ顚末ヲ錄上セシム。

○平潟口總督府、仙臺老臣瀬上某(主膳)以下五人ヲ東京ニ護送ス、大總督府之ヲ宇和島藩邸ニ幽ス。

二十八日、東征大總督熾仁親王ノ請ヲ聽シテ、其任ヲ解ク、親王乃チ錦旗、節刀ヲ奉還ス、手詔シテ其成功ヲ賞ス、參謀穗波經度、萬里小路通房、西鄕隆盛、軍務官判事大村永敏等、賞賜差アリ、又參謀兼甲斐鎭撫使柳原前光ヲ罷ム。

房總戰記

完 自明治元年四月十三日 至閏四月二十五日

○四月

十三日、兇徒久留里藩ニ游說ス、藩主黑田直養其狀ヲ上申ス。

十五日、是ヨリ先、兇徒木更津ニ據ル、前橋藩主松平直克ノ封地上總天羽郡ニ在リ、本日、松平直克其狀ヲ上申ス。○松平直方家記

十六日、兇徒一宮藩ニ游說ス、時ニ藩主加納久宜京師ニ在リ、閏月廿日ニ至リ、其狀ヲ上申ス、是ニ於テ、天下ニ令シテ、順逆方向ヲ誤ルコト莫カラシム。○太政官日誌

十八日、二督、安場保和ヲ以テ軍監ト爲シ、津、大村二藩ノ兵ヲ督シテ、江戸以東ノ諸州郡ヲ鎭撫セシム。

○久留里、飯野、藩主保科正益、請西、藩主林忠崇、一宮、佐貫、藩主阿部正恒、鶴牧、藩主水野忠順、館山、藩主稻葉正巳、勝山、藩主酒井忠美、ノ八藩ニ令シテ、兇徒ニ備ヘシム。

又武、總、房、常ノ二十九藩及ヒ其代官江川英武太郎左衛門、以下ノ七人ニ布令ス。○以上並東海道先鋒記

十九日、林忠崇昌之助、賊狀ヲ上申ス。○先鋒記

廿二日、下總流山屯集ノ兇徒、將ニ千住ニ逼ラントス、督府、岡山、佐土原ノ二藩ニ令シ、兵ヲ出シテ之ヲ抑遏セシム。○二藩日書

廿三日、岡山ノ兵、兇徒ヲ下總松戸驛ニ鎭壓ス。○本藩日書

○立木兼善須本隊長、故名林徵之丞、流山屯集ノ兇徒ニ說キ、兵器ヲ納レテ歸順セシム。○東征紀略 稻田家出兵記

廿四日、田安以下四藩ノ行人、松戸驛屯集ノ兇徒ニ說キ、兵器ヲ納レテ歸順セシム、又一隊千住ヲ經テ、將ニ府下ニ入ラントス、亦之ニ說テ歸順セシム。○岡山、佐土原二藩日書

○木更津ノ兇徒、船橋ニ移屯シ、勢頗ル猖獗ナリ、岡山ノ兵八幡ヲ戍シ、以テ其暴動ニ備フ。○岡山日書

廿五日、森下景端、立太郎、賊隊長江原周甫鑄郎、等ト八幡ニ相見ル。○岡山藩徵發錄

○督府、監察立木兼善ニ命シテ、賊ノ形狀ヲ巡視セシム、兼善歸リ千住ノ賊歸順ノ狀ヲ奏ス。○東征紀略

廿六日、景端、又舊幕臣五十嵐某清七郎、ト相見ル。○徵發錄

○德川氏麾下ノ士阿部某邦之助、富津ニ至ル、其何ノ故ナルヲ知ラ

ス。○南總督記

廿七日、森下景端、昨日ノ議ヲ以テ督府ニ稟ス、參謀木梨恒準令シテ曰、宜ク從容說諭シテ、以テ兵器ヲ收ムヘシ、快意輕擧シテ、我ヨリ兵端ヲ啓クコト勿レ。○徵發錄

廿八日、岡山、福岡、津、佐土原四藩ノ隊長、八幡ニ會議ス。

○是ヨリ先、督府、立木兼善ニ命シテ、兇徒ヲ鎭撫セシム、本日江原周甫書ヲ呈シテ、其情實ヲ陳疏ス。○幷徵發錄

廿九日、兼善其書ヲ以テ督府ニ呈シ、且其食ニ乏キヲ申ス、即日報ヲ得、工藤某孝太郎、ヲ遣シテ之ヲ傳フ。

○兇徒報ヲ得テ揶揄スル所アリ、某大ニ憤リ、直チニ歸リテ其狀ヲ報ス。○徵發錄

本日、兇徒船橋ノ兵ヲ中山ニ分ツ、午後江原周甫、八幡ノ營ニ來ル、森下景端、立木兼善、其故ヲ詰シ、且朝旨ヲ懇喩ス、周甫感謝分疏シテ他無キヲ矢フ、乃チ兵器ヲ納ル、ノ證書ヲ作ラシム。

○督府、德川慶頼ニ令シテ、速ニ兵器ヲ收メシム、慶頼、乃チ松平某權之助、ヲ遣リ、周甫ヲ說喩ス、周甫復タ書ヲ以テ其情ヲ陳疏ス。○徵發錄 德川慶頼家記

閏月朔、森下景端等復タ賊營ヲ檢シ、遂ニ督府ニ稟シテ曰、彼若シ命ヲ奉セスンハ、兵力ヲ以テ之ニ逼ラント、制可ス、景端等歸リ、各藩ノ隊長ト議シ、三日昧爽、兵ヲ以テ之ニ逼リ、事諧ハスンハ、八幡ノ營ニ於テ、三發ノ號砲ヲ放チ、機ニ乘シテ進擊セント、乃チ其向フ所ヲ部署ス。○徵發錄、福岡、津、佐土原屆書

二日朝、松平某歸リ周甫ノ書ヲ呈ス、慶頼、其聽納ス可カラサルヲ以テ、復タ某及ヒ長田某兵庫、ヲ遣リ、之ヲ懇喩セシム、時ニ兵士ノ氣燄甚タ熾ンナリ、周甫遂ニ命ヲ奉セス。○慶頼家記

○兵器沒收ノ事、今日ニ至ルマテ遷延シテ決セス、是ニ於テ、各藩ノ隊長、斷然明早兵力ヲ以テ之ニ逼ルヲ申定ス。○徵發錄

三日、昧爽、賊兵果シテ八幡ノ營ヲ襲フ、乃チ三發ノ號砲ヲ放ツ、三藩ノ兵期ヲ愆リ、我カ軍利アラス、退テ市川ニ至リ、松戸ノ本隊ト合シテ、眞間山ヲ保ス、既ニシテ津ノ本隊來リ援ク、乃チ返シ戰フテ中山ニ至ル。○岡山屆書

津藩ノ兵市川ヲ發シテ中山ニ向フ、賊兵ニ國府山ニ遇ヒ、擊テ之ヲ却ク、其新宿ニ在ル者、大井川即チ江戸川、ヲ渡リ市川驛ニ抵ル、岡山ノ兵敗レ、却クニ會シ、代ツテ其後ヲ承ク、賊我カ陣ヲ橫擊ス、我カ兵驚潰シ、舟ヲ爭フテ河西ニ走ル、適本隊ノ兵來リ會ス、乃チ返シ戰フテ八幡ニ至リ、退テ市川ニ次ス。○津藩屆書

佐土原ノ兵、鎌ケ谷ヨリ將ニ船橋ニ赴カントス、賊ヲ夏目村ニ

破リ、又金杉村ニ戰フ、賊モ亦能ク軍シ、殺傷相當ル、我カ兵奮戰シテ遂ニ之ニ克チ、轉シテ船橋ニ赴キ、大ニ賊兵ヲ破リ木驛ヲ火ス、適、鹿島、福岡ノ兵來リ援ク、戰方ニ畢ルニ會ス、此夜二藩ノ兵本地ニ留屯ス。○佐土原屆書

○福岡ノ兵囘向院ニ在リ、兇徒昨來ノ情狀ヲ聞キ、兵ヲ分ツテ行徳ニ出テ、遂ニ前ンテ船橋ニ抵リ小戰ス。○福岡屆書

○本日ノ戰報督府ニ至ル、副督柳原前光往テ之ヲ討セント乞フ、乃チ前光ニ命シテ、東南ヲ鎭撫セシメ、馬鞍一副ヲ賜ヒ、安場保和、渡邊清ヲ以テ參謀ト爲ス。○先鋒記、前光日誌 山口藩ニ令シテ、兵ヲ行徳ニ出サシメ、大村藩下野屯在ノ兵ヲ千住ニ召還ス。○先鋒記

○兇徒再ヒ久留里ニ游說ス。○黑田直養家記

四日中辰、先鋒副總督兼鎭撫使柳原前光、出テ千住驛ニ次ス。○轅誌

○辰半刻出馬、千住着、源長寺一泊、物議紛々、情態未詳。○轅誌

○鹿島藩ニ令シ、兵ヲ發シテ、行徳ヲ赴援セシム。○先鋒記

○佐倉藩ニ檄シテ、船橋ノ賊ヲ討セシム。○鎭撫日誌

○二監各藩ノ兵ヲ督シテ前進ス。○各藩屆書

○松平直克及ヒ請西藩野口某、兇徒脅迫ノ情狀ヲ陳ス。○先鋒記

五日、柳原前光、進テ國府臺ニ抵リ、各藩ノ隊長ヲ總寧寺ニ會シテ、賊巢掃蕩ノ事ヲ議ス、是ニ於テ渡邊清ヲ以テ左監軍ト爲シ、山口、岡山、津、大村ノ兵ヲ督シ、相良長發ヲ以テ右監軍ト爲シ、鹿島、津、佐土原ノ兵ヲ督セシメ、伏屋惇ヲ以テ參謀加勢ト爲シ、二道並進シテ木更津ニ向フ。○鎭撫日誌

○督府又鹿島、山口、岡山、津ノ四藩ニ令シテ、木更津ヲ勦セシム。○先鋒記

○前光將ニ佐倉城ヲ以テ牙營ト爲サントス、乃チ令ヲ本藩ニ下タシ、且沿道供億ノ事ヲ準備セシム。○鎭撫日誌

○市川驛ノ人民、兵燹ニ罹ル者ヲ賑給ス。○鎭撫日誌

六日、柳原前光、大和田ニ抵ル。○轅誌

○督府、大多喜處斷ノ事ヲ、前光ニ下タス。○鎭撫日誌

○此夜、賊兵、八幡（上總市原郡ニ在リ、三日ノ戰地ト名ヲ同フシテ、地ヲ異ニス、）ヲ襲ヒ、鹿島ノ番兵ヲ殺ス、鹿島以下五藩ノ兵、直ニ八幡ニ向フ。○二監軍並各藩屆書

○拂曉、二監、六藩ノ兵ヲ督シテ八幡ニ向フ、賊既ニ陣ヲ整ヘテ邀ヘ戰フ、我カ兵二道並ヒ進ム、賊卻キ走リ、養老川ヲ阻シテ防戰ス、時ニ大村ノ兵、下流ヲ亂シテ、左ヨリ之ヲ橫擊ス、賊大ニ潰ヘ、退テ姉ケ崎ノ營ヲ保ス、我カ兵遂ニ之ヲ拔キ、火ヲ縱ツテ追擊ス、賊東ニ走リテ、木更津及ヒ眞利谷ニ據ル、我カ

兵却テ姉ケ碕ニ次ス。○二監並各藩屆書

○柳原前光、佐倉ニ入ル。

前光乃チ四近ノ列藩ニ檄シ、其老臣ヲシテ本地ニ會セシム。○鎮撫日誌、報誌

○督府、久留里、佐貫ノ二藩ニ檄シテ、官軍ヲ應援セシム。

又前橋藩ニ檄シ、富津ノ兵ヲ發シテ、兩藩ト相救應セシム。○先鋒記

○船橋驛及ヒ夏見村ノ、兵燹ニ罹ル者ヲ賑給ス。○鎮撫日誌

○鶴牧藩主水野忠訓、書ヲ相良長發ニ呈シテ、脅迫ノ情狀ヲ陳ス。○鶴牧藩記

八日、柳原前光、將ニ明日ヲ以テ大多喜ニ向ハントス、乃チ二監ニ檄シテ之ヲ報ス。○鎮撫日誌

○二監、兵ヲ進メテ木更津、眞利谷ノ二巣窟ヲ掃蕩セント欲ス、至レハ則兩處共ニ一兵ヲ見ス、蓋昨日ノ大敗ヲ以テ、皆遁逃スルナリ。○二監幷岡山屆書

○令ヲ出シテ木更津ノ人民ヲ安撫ス。○鎮撫日誌

○富津、佐貫ノ二邑ニ牒シテ、其老臣ヲ召ス、使者歸リ、兩處共ニ守者ナキヲ報ス。

○請西治下火ス。○並二監屆書

○勝山藩、賊狀ヲ督府ニ申シテ、援兵ヲ乞フ。○先鋒記

○佐倉藩ノ老臣、上書シテ其罪ヲ陳謝ス。○鎮撫日誌

九日、柳原前光、佐倉ヲ發シ、進テ東金ニ次ス。○陳誌

○佐倉藩ニ令シテ、兵ヲ大多喜ニ出サシム。○鎮撫日誌

○請西藩ニ牒シテ、其老臣ヲ召ス、亦守者ナシ。

○佐倉、飯野ノ二藩、供億ノ事ヲ稟ス。○並二監屆書

○初メ久留里藩主黒田直養、兇徒ノ糧食ヲ給ス、本日、岡山、津二藩ノ隊長、兵ヲ率ヰテ山本村ニ至リ、老臣某ヲ召シテ其無狀ヲ鞫問ス、某恐惶伏謝シテ、貳無キヲ誓フ。某既ニ去ル、乃チ進テ城下ニ次シ、再ヒ之ヲ鞫ス、其遂ニ異辭ナシ。○岡山屆書 黒田直養家記

十日、再ヒ某ヲ召シテ證書ヲ呈セシム、乃チ城中ヲ點檢シテ、其武庫ヲ封ス。○岡山屆書 黒田直養家記

○柳原前光、茂原村ニ次ス。○報誌

○渡邊清、督府ニ抵ル。○二監屆書

○前光將ニ安場保和ヲシテ、大多喜城ニ入ラシメントス、乃チ一宮藩ニ令シテ、之ヲ大多喜ニ傳ヘシム。○鎮撫日誌

○一宮藩ノ重臣小泉某、重兵衛、行營ニ來リ、大多喜城主大河内正質、即チ松平豐前、佛寺ニ屛居シ、恭順シテ命ヲ俟ツノ狀ヲ申ス。○鎮撫日誌

○佐倉藩ニ令シテ、大河内正質及ヒ其從事ノ臣ヲ監護セシム。

鎮撫日誌

十一日、柳原前光、進ンテ長南驛ニ次シ、安場保和ヲ大多喜城ニ差シ、大河内正質ノ罪ヲ數メ、其城地、圖籍、兵器ヲ上ツリ、罪ヲ佐倉ニ俟タシメ、又其從事ノ臣ヲシテ、佛寺ニ屛居セシム。鎮撫日誌

○房總地方略鎮定ニ就クヲ以テ、諸藩ニ令シテ、兵ヲ班サシム、獨熊島ノ一分隊、津ノ一隊、大村ノ一分隊ヲ留メテ、以テ處在ノ殘黨ニ備フ。二監屆書

○請西藩邸吏野口某、謙藏、本藩守ヲ失シ、及ヒ融災ノ狀ヲ督府ニ申ス。先鋒記

十二日、柳原前光、大多喜ニ入リ、城邑ヲ籍シ、府庫ヲ封ス。鎮撫日誌

臘記

令ヲ出シテ、大多喜ノ人民ヲ告諭ス。

○佐貫藩栗飯原某、庄右衛門、館野某、勝右衛門、營門ニ抵ル、本藩ノ形迹疑フ可キ者アルヲ以テ、直チニ之ヲ遣歸ス。

○渡邊清、督府ヨリ歸ル。並二監屆書

○大多喜ノ藩臣、正質ノ罪ヲ寛假シ、故織部正正和ノ遺甥某、弘太郎、ヲ以テ、大河内氏ヲ嗣カシメンコトヲ乞フ。鎮撫日誌

十三日、賊兵、竹ケ岡ニ逼リ、糧食ヲ乞フ。二監屆書

○柳原前光、大多喜ノ處分、及ヒ勝山地方兇黨再熾ノ狀ヲ上申ス。先鋒記

○西海神村ノ兵燹ニ罹レル者ヲ賑給ス。鎮撫日誌

○參謀、茂木藩ノ老臣ヲ大多喜ニ召シテ、藩情ヲ問フ。

十四日、柳原前光、兵士ノ暴行ヲ嚴禁シ、遂ニ令ヲ治下ニ下タス。鎮撫日誌

○大多喜ノ藩臣、賊ヲ討シテ、正質ノ罪ヲ贖ハンコトヲ乞フ。前光、正質ノ處分未タ決セサルヲ以テヤ、其志ヲ嘉ミシテ、而其請ヲ許サス、安場保和ヲシテ之ヲ勸奬慰安セシム。

○古河藩士土井利與、驛遞困苦ノ狀ヲ陳ス。乃チ利與ニ令シテ、近傍驛遞ノ事務ヲ總管セシム。又令ヲ一橋以下ノ三藩ニ下タシテ、其事ヲ告諭ス。

○大多喜ノ倉粟ヲ出シテ、藩士ノ貧者ニ賑シ、民間備凶ノ義粟ハ、各其本主ニ返シ與フ。以上並鎮撫日誌

○二監、勝山地方賊黨再熾ノ狀、及ヒ佐貫藩疑フ可キノ形迹アリト聞キ、本日、兵ヲ率キテ佐貫城ニ入ル、一ノ守兵ナシ、乃チ栗飯原某ヲ召シ、藩士阿部正恒及ヒ其臣僕ノ無狀ヲ譴責シ、寺刹ニ屛居シテ罪ヲ俟タシメ、城邑ヲ籍シ、府庫ヲ封ス、而其人民ヲ告諭ス。鎮撫日誌津屆書

○黒田直養ニ令シテ、糧食丁馬ヲ給セシム。○久留米藩記

十五日、栗飯原某、書ヲ以テ情實ヲ陳疏シ、且其罪ヲ申謝ス。○鎮撫日誌

○總督、柳原前光ニ復書シ、且速カニ其師ヲ班サシム。○先鋒記

○三藩ノ兵、却テ木更津ニ至ル、二監、令シテ悉ク江戶ニ凱歸セシム。○津藩屆書ニ奏スルニ、兆口ヨリ分隊留戍ノ文ナシ、然ルニ十五日ノ館山藩屆書、及ヒ廿五日本藩班師ノ令ニ據レハ、隊ヲ分ツテ留屯セシナルヘシ。

○下妻藩主井上正巳、藩情ヲ上申ス。

乃チ令シテ、其封地近傍ノ兇徒ヲ鎮撫セシム。○鎮撫日誌

○安場保和ヲ江戶ニ遣ス。○藩誌

○德川氏ノ軍艦開陽艦脫徒、鎮撫ト稱シテ館山港安房國安房郡ニ在リ、ニ入ル、津ノ隊長、令シテ其上陸ヲ禁ス。○館山藩屆書

十六日、是ヨリ前、督府柳原前光ニ令シ、大多喜ノ處分略緒ニ就クヲ俟チ、其宗家大河内信古ヲシテ之ヲ保管セシメ、而前光ハ則速ニ四近ノ地方ヲ巡撫セシム。

本日、前光令ヲ信古ニ下タス、正質ハ則佐倉藩ヲシテ之ヲ監護セシムルコト故ノ如シ。○鎮撫日誌

○參謀、松岡藩ノ老臣ヲ佐倉ニ召シテ、藩情ヲ問フ。

十七日、房、總ノ地方既ニ鎮定ニ就ク、是ニ於テ渡邊淸、相良長發、大多喜ニ至リ、其狀ヲ以テ副督ニ申ス。○鎮撫日誌

○前光、書ヲ總督ニ致シテ、房、總ノ形勢ヲ陳シ、暫ク留ツテ、之ヲ鎮撫センコトヲ乞フ。○先鋒記

○佐倉藩ニ令シテ、佐貫ノ城邑ヲ保管セシム。

○大多喜ノ封民、上書シテ、大河内正質ノ罪ヲ赦サンコトヲ乞フ。

○初メ兇徒ノ富津ニ逼ルヤ、邑宰白井某、宣左衛門、其守ヲ捨テ、而竄匿ス、二監、其無狀ヲ譴責ス、某、書ヲ以テ其情實ヲ陳ス。○以上並鎮撫日誌

十八日、久留里藩ノ武庫ヲ復ス。○本藩記

○船橋驛川奈部某、佐左右衛門、同某、佐兵衛、木驛中窮民ノ兵燹ニ罹レル者ヲ賑給ス、乃チ其田租ヲ復シ、且稱姓帶刀ヲ許ス。○鎮撫日誌

十九日、是ヨリ先、督府、數前光ヲ促カシテ、其師ヲ班サシム、前光乃チ令ヲ發シテ、四近ノ列藩ニ告諭ス。○鎮撫日誌

○鶴牧藩主水野忠順ノ罪ヲ數メテ、館中ニ屏居セシム。○鎮撫日誌

○飯野藩ニ令シテ、林忠崇ノ封地ヲ保管セシム。○鎮撫日誌

○督府、堀田正倫佐倉藩主、ノ罪ヲ赦ス。○本人家記

廿日、柳原前光、大多喜ヲ發シテ、長南驛ニ至ル。○鎮撫日誌

○前光、小見川藩ニ令シテ、封邑傍近ヲ鎮撫セシム、是日、參謀、宍戶藩ノ老臣ヲ大多喜ニ召シテ、藩情ヲ問フ、老臣書ヲ上

テ、藩主以下勤王貳ナキヲ陳ス。

廿一日、柳原前光、潤井戸ニ至ル。〇[illegible]記

廿二日、柳原前光、江戸ニ凱歸シ、大總督ニ謁シテ、鎮撫ノ情狀ヲ上申ス。〇[illegible]記

廿三日、稻葉正善ノ臣伊藤某、内藏介、本藩脅迫ノ情實ヲ申シ、幷セテ其無狀ノ罪ヲ陳謝ス。〇先鋒記

廿四日、督府、飯野藩主保科正益ノ罪ヲ赦ス。〇本人家記

廿五日、津兵ノ勝山ニ戍スル者ヲ召還ス。〇先鋒記

〇房、總服役ノ將士ヲ慰勞シ、且金ヲ其死傷者ニ頒ツ。〇先鋒記

東叡山戰記

第一　自明治元年五月十三日　至同　十四日

○五月

十三日、大總督府、東叡山ノ屯賊暴行日ニ甚シキヲ以テ、將ニ之ヲ討セントス、乃チ諸藩兵ニ令シテ、內外ヲ戒嚴シ出師ノ命ヲ待シム。

十四日、大總督府、議ヲ決シテ、東叡山ノ賊ヲ討ス、乃チ德川家達ニ命シ、山內祖廟ノ靈位、重器ヲ徙サシメ、諸兵隊ノ闌出ヲ禁シ、市街ニ揭示シテ、討賊安民ノ旨ヲ諭ス、又令シテ、津驛ヲ停メ、老幼ヲシテ兵ヲ避シム。

○大總督府、諸軍ヲ部署シ、其焚掠ヲ禁シ、詰朝城下ニ會シテ、賊ヲ討セシメ、諸郭門ノ兵隊ニ令シテ、內外ヲ嚴警セシム、又安藝、筑前、肥前ノ三藩兵ヲ忍、古河、川越ニ遣シ、逃賊ニ備フ、因テ德川家達及ヒ旁近諸藩ニ討賊ノ事ヲ布告ス。

○大總督、書ヲ入道公現親王ニ移シ、賊徒討伐ノ旨ヲ告ケ、出テ矢石ヲ避シム。

○是夜、德川家達ノ老臣服部常純等、東叡山ノ靈位、重器遽ニ撤シ難キヲ以テ、大總督府ニ稟シ、其期ヲ緩フセント請フ、田安慶頼モ亦靜寬院宮ニ就テ、大總督府ノ進討ヲ停メント請フ、常純、又東叡山ニ抵リ、執當覺王院義觀ニ說キ、速ニ賊徒ヲ解散セシム、義觀從ハス。

第二　明治元年五月十五日

十五日、昧爽、諸軍西城ノ下ニ會シ、分道進討、一ハ東叡山ノ前門ニ向ヒ、一ハ其後門ニ赴ク、賊兵各處出拒キ、殺傷相當ル、午後、前門戰方ニ酣ナリ、官軍乃チ兵ヲ遶ラシテ、其東麓ニ出テ、賊陣ヲ橫射シ、本道銃礮並驅リ、吶喊薄擊ス、賊勢漸沮ム、遂ニ前門ヲ拔キ、火ヲ梵宇ニ縱テ之ニ乘ス、時ニ後門ノ軍亦至ル、賊風ヲ望テ潰散シ、器仗遺棄、僵屍路ニ塡ス、申牌、全軍凱ヲ奏ス。

○午前、東海道先鋒總督橋本實梁、及ヒ錦旗奉行穗波經度、大監察使附屬萬里小路通房、出テ諸軍ヲ督ス、實梁、又尾張藩兵

ヲシテ牙營ヲ警守セシム、是日、大總督亦城櫓ニ登リテ、遙ニ戰狀ヲ觀ル。

○輪王寺執當覺王院等、公現親王ヲ勸メ、服ヲ變シテ潛ミ出シム、東郊ニ抵ル、敗兵多ク之ニ尾從ス、夜半、親王從僧三人ト脫シ去ル。

第三 自明治元年五月十六日 至同 十七日

十六日、大總督府、諸藩兵ニ令シテ、東叡山ノ殘賊ヲ勦定セシム。

○大總督府、諸藩ニ令シテ、昨日ノ戰狀及ヒ死傷捕獲ノ數ヲ錄上セシム、又使ヲ遣シ、薩、長二藩ノ傷者ヲ問ハシム、是日、東海道總督、薩、長、肥、備等ノ諸藩兵ヲ犒勞ス。

○大總督府、諸藩ニ令シテ、公現親王ノ所在ヲ搜索セシム。

○大總督府、德川家達ニ令シテ、麾下ノ諸兵隊ヲ解歸ラシム。

○大總督府、筑前藩兵ニ命シテ、淺草ノ米廩ヲ封セシム、是日、德川家達亦、其守廩兵ノ青梅村武藏多摩郡、ニ退居スルヲ稟ス。

○德川家達、書ヲ大總督府ニ上リ、東照宮ノ木主ヲ小石川ニ移セシヲ以テ、家兵ヲ遣リテ警衞スルヲ稟ス、尋テ祖先ノ木主ヲ併セテ、皆之ヲ田安慶賴ノ邸ニ移ス。

十七日、大總督府、東叡山賊徒平定スルヲ以テ、令シテ、諸門ノ警ヲ緩フ、又下參謀補助河田景與ヲシテ因幡藩兵ヲ率ヒ、山內ヲ警守セシメ、安藝藩兵ヲ甲府ニ遣シ、東海道副總督ニ屬シテ、殘賊ヲ誅夷セシム、是日、東海道總督モ亦副總督ニ移文シテ、戰捷及ヒ殘徒ノ狀ヲ報ス。

○大總督府、安藝、津二藩兵ヲシテ公現親王ヲ上尾久村ニ追索セシム、肥後藩兵亦小塚原ニ赴ク、皆蹤跡ヲ得スシテ還ル、是日、親王逃レテ自證院市ケ谷ニ在リ、ニ入ル。

○東海道總督、東叡山ヲ巡視シ、諸兵隊ヲ配剳シテ、其戰狀ヲ問ヒ、且之ヲ犒フ。

○筑前藩兵、書ヲ大總督府ニ上リ、兩國淺草米廩ノ措置ヲ稟請ス。

○德川家達家臣、書ヲ大總督府ニ上リ、隊兵ノ家ナキ者、舊ニ仍リテ、各處ニ寄寓セシメント請フ、又筑前藩籍收ノ家士、兵器ヲ還付センコトヲ請フ。

第四 自明治元年五月十八日 至同 二十三日

十八日、大總督府、諸軍ニ令シテ、私ニ殘黨ヲ驅除シ、及ヒ東叡山ニ闌入スルヲ禁ス、又軍人ノ諸門ヲ往來スルハ、其印標ヲ照

サシム。

○大總督、薩、長二藩兵ニ感狀ヲ賜ヒ、其戰功ヲ賞ス、尋テ又因幡、津、尾張、肥後、筑前、備前、大村七藩兵ヲ賞ス。

十九日、大總督府、諸藩ニ令シテ、大川沿岸ノ守兵ヲ撤ス。

○大總督府、因幡藩兵ヲシテ忍ニ赴キ、殘黨ヲ勦除セシム。

二十日、大總督府、安藝、長門等ノ藩兵ニ令シテ、市街ヲ巡警シ、殘賊ヲ撿按セシメ、其擅ニ捕斬スルヲ禁ス、又諸藩兵ノ私ニ他行シ、及ヒ市廛ニ留宿スルヲ禁ス、是日、西城下ノ警備ヲ解ク。

○大總督府、松平忠誠ニ申令シテ、封内及ヒ旁近ヲ嚴警シ、以テ殘賊ヲ防カシム。

○是ヨリ先キ、大總督、戰鬬諸藩ノ軍容ヲ觀ントス、雨ヲ以テ果サス、是日、之ヲ行ヒ、其軍ヲ犒勞ス、又督府參謀、書ヲ軍防局ニ致シ、府下ノ形狀ヲ陳ス。

二十一日、大總督府、各處殘賊ノ警報アルヲ以テ、甲府城代水野忠敬ノ職ヲ解キ、藩ニ歸リテ、隣藩ト協議シ、之カ備ヲ嚴ニセシム。

二十二日、大總督府、衆庶ノ諸門ヲ往來スルヲ許ス、因テ守兵ニ令シテ、器仗ヲ持スル者及ヒ異狀ノ者ヲ推糺セシム。

二十三日、大總督府、大河内信古、（刑部大輔、吉田藩主、）三浦顯次（安藝頭、勝山藩主、）等ノ家臣、東叡山ノ賊徒ニ應シ、官軍ニ抗セシヲ以テ、信古等ニ命シ、捕獲シテ裁ヲ請ハシム。

第五　自明治元年五月二十三日　至同　六月　八日

二十三日、是ヨリ先、殘賊青梅村ニ屯聚ス、大總督府、筑前、久留米條諸藩兵ニ命シテ、之ヲ討セシメ、江川英武ニ糧食ヲ掌ラシム、既ニシテ、賊遁レテ飯能、（高麗郡、）中山（秩父郡、）ノ二村ニ據ル、是日、昧爽官軍分道竝進ム、賊各處ニ逆ヘ戰フ、官軍擊チテ之ヲ走ラシ、一齊賊窟ニ逼リ、火ヲ縱チ、勢ニ乘シテ合擊ス、賊潰亂シテ、遠ク遁ル、午牌、軍ヲ班ス。

二十四日、大總督府、青梅ノ賊潰散スルヲ以テ、諸藩兵ヲ還シ、筑後藩兵ヲ留メテ、潛賊ヲ捜窮セシム、又旁近ノ人民ヲ諭シテ、賊徒ノ劫掠ヲ防カシム。

二十五日、公現親王ノ自證院ニ匿ルヤ、院主亮榮、其遂ニ發覺センコトヲ懼レ、僧邦仙等ヲシテ奉シテ陸奥ニ赴カシム、是日、汽船ニ搭シテ、品海ヲ發ス。

○是ヨリ先、久世廣文、（隱岐守、關宿藩主、）東叡山ノ賊ニ投ス、是日、家臣大總督府ニ上書シテ、廣文幼弱、奸黨ノ要制スル所ト爲ルヲ陳

シ、哀ヲ乞フ。

二十八日、大總督府、安藝藩兵ヲ甲府ヨリ、軍監藤田某ヲ忍ヨリ召還ス。

○六月

朔日、是ヨリ先、板倉勝弘（攝津守、庭瀨藩主、）ノ家臣、書ヲ大總督府ニ上リ、藩邸銃砲、賊徒ノ掠奪スル所ト爲リ、及ヒ藩士十數人逃亡セシ狀ヲ陳シテ、罪ヲ乞フ、是日、令シテ屏居セシメ、其逃亡者ヲ處分セシム。

二日、大總督府、兩總及ヒ東叡山戰死者ヲ江戸城中ニ祭ル。

三日、大總督府、因幡藩兵ヲ忍ヨリ召還ス。

八日、議定、書ヲ大總督府ニ致シ、諸軍東叡山戰捷ノ功ヲ褒ス。

東山道戰記

巻一　自明治元年正月九日 至同二月三日

○正月

明治元年戊辰、正月九日、岩倉具定（大夫○具視ノ第二子、具綱ノ嗣ト爲ル、）ヲ以テ、東山道鎮撫總督ト爲シ、岩倉具經（八千麿○具視ノ第三子、）之ニ副シ、宇田淵（栗園、山前城人、）前野某（久米之助、土佐藩士、）之カ參謀タリ、又竹澤邦光（寛三郎、淡路郷士、）ヲ美濃、飛驒地方ニ遣シテ、士民ノ向背ヲ按檢シ、以テ具定等ヲ迎ヘシム。

十三日、是ヨリ先、大垣藩兵、徳川慶喜ニ屬シ、伏見ノ役ニ從フヲ以テ、藩主戸田氏共（采女正、）ノ入京ヲ禁ス、是日、氏共ヲ以テ、東山道先鋒ト爲シ、功ヲ立テ自ラ贖ハシム。

十八日、郡山藩（青山幸宜ノ治所、時ニ幸宜江戸ニ在リ、）ノ老臣京師ニ在ル者、書ヲ督府ニ上テ、闔藩奉上他ナキヲ陳シ、本藩鎮撫及ヒ、飛驒警守ノ事ニ服センコトヲ請フ。

二十日、郡山藩ニ令シ、竹澤邦光ト謀リテ、傍近ノ舊幕府領地、及ヒ士民ノ向背ヲ按檢シ、以テ鎮撫使ヲ迎ヘシム。

二十一日、未牌、東山道鎮撫總督岩倉具定、副總督岩倉具經、京師ヲ發ス、大垣藩兵（兵員詳ナラス、）先鋒タリ、尾張、（十五人、）土佐（四小隊、）二藩兵、及ヒ山科多田郷兵（各三十許人、）之ニ屬シ、力士隊（二十餘人、）菊章旗ヲ護ス、戌牌大津驛ニ抵ル、是日、督府、北島秀朝（千太郎、下野人、）ヲ以テ、大監察ト爲ス。

○是ヨリ先、滋野井公壽、（侍從、）綾小路俊實（前侍從○有長ノ養子、尋テ大原氏ニ復歸ス、）私ニ京師ヲ去リ、兵ヲ江濃ノ間ニ募リ、上表シテ賊ヲ討センコトヲ請フ、乃チ二人ノ京ヲ去ルノ罪ヲ宥シ、命シテ義兵ヲ召集シ、東海道鎮撫總督ニ屬セシム、（時ニ二人近江松尾山ニ在リ、尋テ之ヲ召還ス、）是日、俊實、永井尚服（肥前守加納藩主○時ニ江戸ニ在リ、）ノ舊幕府要路ニ居リ、匡救道ヲ失フヲ譴メテ、城邑ヲ上ラシム、尚服ノ老臣連署シ、尚服ヲ諭シテ反正セシメ、功ヲ立テ罪ヲ贖ハント請フ、公壽モ亦、堀田正養（出羽守、宮川藩主○時ニ江戸ニ在リ、）ノ京師ニ朝セサル罪ヲ譴メ、兵器及ヒ金穀ヲ徴ス、正養ノ家臣、米五百苞ヲ獻シ、且王事ニ勤メンコトヲ請フ、既ニシテ俊實、加納藩ノ形跡疑フヘキヲ以テ、再ヒ其老臣ヲ詰責ス、老臣兵器ヲ獻シテ勤王ノ意ヲ表シ、且尚服ヲシテ退老セシメ、其父尚典（松濤ト號ス、）ニ先祀ヲ承カシメンコトヲ請フ。

二十二日、二督、東下ノ意旨ヲ本道ニ諭告シテ、民情ヲ安撫ス。

○是ヨリ先、滋野井公壽、綾小路俊實ニ令シテ、舊幕府領地今年租稅ノ半ヲ免セシム、（本月十二日ニ在リ）是日、公壽等、之ヲ美濃地方ニ行ヒ、且諭令シテ士民ヲ安撫ス、又本道ニ令シテ、金穀ヲ德川慶喜ニ供給スルコト勿ラシム。

○是ヨリ先、竹中重固（丹後守、時ニ江戶ニ在リ）ノ父重明、（圖書助）重固、德川慶喜ニ屬スルヲ以テ、其邑（美濃岩手）ニ屛居シテ罪ヲ待ツ、是日、綾小路俊實、重明ニ令シ、守院ニ謹愼シテ督府ノ命ヲ待タシメ、其臣隸ハ、各其家ニ謹愼セシム。

二十三日、督府、大津驛中ニ令シテ、諸軍中橫暴ノ擧動アラハ、直ニ牙營ニ來愬セシム。

二十四日、二督、大津驛ヲ發シ、守山驛ニ抵ル、是日、令シテ、本道諸藩主以下ヲ召ス。

二十五日、二督、守山驛ヲ發シ、愛知川驛ニ抵ル、是日、再ヒ本道諸藩主ニ令シ、自カラ牙營ニ詣テ、藩情ヲ具陳セシム。

○分部光貞、（若狹守、大溝藩主）市橋長義、（下總守、西大路藩主）稻垣太清、（若狹守、山上藩主）遠藤胤城、（但馬守、三上藩主）ノ老臣、其主ニ代リテ督府ノ召ニ應ス。

二十七日、朝廷、總督岩倉具定ニ命シ、舊幕府領地ノ東山道ニ在ル者ヲ檢シテ、其人民ヲ安撫シ、圖籍ヲ上ラシム。

○督府、松井康英、（周防守、川越藩主）遠藤胤城ノ德川慶喜ニ黨スル罪ヲ譴メ、胤城ノ封地、及ヒ康英ノ管地近江ニ在ル者ヲ收メ、加藤明實、（能登守、水口藩主）市橋長義ヲシテ之ヲ管セシメ、土佐藩ヲシテ舊會津領地及ヒ、舊旗下士采邑ノ近江ニ在ル者ヲ檢セシム、又本道ニ令シテ、耆老孤窮及ヒ忠孝節義ヲ錄上シ、無賴ノ徒、滋野井公壽、綾小路俊實ノ實臣ト詐稱スル者ヲ緝捕セシム。

○松平乘命（能登守、岩村藩主、時ニ江戶ニ在リ）ノ家臣、督府ニ詣テ書ヲ上リ、乘命奸臣ノ詿誤スル所ト爲リ、德川慶喜ニ黨スルノ無狀ヲ陳謝シ、其罪ヲ寬免センコトヲ請フ、督府乃チ乘命ノ罪ヲ貸シ、之ヲ江戶ヨリ迎ヘテ、以テ勤王ノ實效ヲ立テシム。

○是ヨリ先、加藤某（平內、舊幕下士、時ニ江戶ニ在リ）ノ家臣、金五百兩ヲ綾小路俊實ニ獻シ、以テ勤王ノ意ヲ表ス、是日家臣、書ヲ督府ニ上リテ其狀ヲ申ス。

二十八日、二督、愛知川驛ヲ發シ、醒井驛ニ抵ル。

○堀田正養ノ老臣、其主ニ代リテ召ニ應シ、且書ヲ上リテ正養入觀遲緩スルヲ陳謝シ、速ニ之ヲ江戶ヨリ迎ヘテ、以テ王事ニ勤メシメンコトヲ請フ、永井尙服ノ家臣モ亦、綾小路俊實ニ上ル所ノ哀訴狀ヲ上リ、尙服ヲシテ退老罪ヲ待タシメ、其父尙典ニ先祀ヲ承カシメントスルノ請ヲ申ネ、且闔藩勤王貳ナキヲ陳シテ、公事ニ服センコトヲ請フ。

二十九日、朝廷、二督ニ命シテ、横濱居留ノ外國人ト釁端ヲ開クコト勿ラシム。

○二督、醒井驛ヲ發シ、垂井驛ニ抵ル。

是月、竹中重明、書ヲ督府ニ上リテ、其子重固、徳川慶喜ニ黨スルノ無狀ヲ陳謝シ、王事ニ勤メンコトヲ請フ。

○副總裁岩倉具視（右兵衛督）、信濃人松尾某（佐次右衛門）、大山某（直路）、美濃人市岡某（正藏）ノ勤王ノ志ヲ賞シ、命シテ二督ノ嚮導タラシム、某等乃チ具視ノ書ヲ齎シテ督府ニ至ル。

二月朔日、二督、垂井驛ヲ發シ、大垣（戸田氏共ノ治所）ニ抵ル、戸田氏共來候ス。

○督府、尾張藩ニ命シテ、福島（信濃）關門及ヒ飛驒、信濃地方ヲ管理セシム。

二日、是ヨリ先、郡上藩、兵ヲ發シテ竹澤邦光ト共ニ、飛驒ヲ鎭撫ス、是ニ至リ書ヲ督府ニ上リテ、本州鎭定ノ狀ヲ稟ス、督府乃チ本藩ニ命シテ、飛驒ヲ管理セシメ、尾張藩ノ本州管理ヲ罷ム。

○是ヨリ先、督府、尾張藩ニ命シテ、笠松（美濃）ヲ管理セシム、是日、其管理ヲ罷メ、大垣藩ヲ以テ之ニ代フ、尋テ大垣藩ヲシテ、舊幕府吏（堤方役）ノ笠松ニ在ル者ヲ管セシム。

○西尾某（錦三郎、舊旗下士）ノ家臣、書ヲ督府ニ上リテ、某及ヒ其支族西尾某（健次郎、舊旗下士○時ニ二人江戸ニ在リ）、勤王貳ナキノ意ヲ陳ス。

三日、督府、使ヲ東海道總督府ニ遣シテ、桑名ノ處分、及ヒ東進ノ期日等ヲ問フ。

第二　自明治元年二月四日　至同　九日

二月四日、督府、脇田某（頼藏、多田郷士）ヲ以テ、小監察ト爲ス。

○督府、安藤信勇（理三郎、岩城平藩主）、及ヒ竹中重固ノ、徳川慶喜ニ黨スル罪ヲ譴メテ、其邑美濃ニ在ル者（信勇ハ切通、重固ハ岩手）ヲ收メ、尾張、大垣二藩ヲシテ之ヲ管理セシメ、信勇ノ臣隸（切通ニ在ル者）ニ舊俸、重固ノ父重明ニ祿五百石、其臣隸ニ口俸ヲ給ス、又尾張藩ヲシテ、舊旗下士采邑ノ美濃ニ在ル者（岩手領ヲ除ク）ヲ管セシム。

○徳山某（出羽守、舊旗下士）ノ家臣、書ヲ督府ニ上リテ、某逃亡ノ狀ヲ稟シ、其子某（誠吉）ヲ江戸ヨリ迎ヘテ、以テ王事ニ勤メシメンコトヲ請フ、又岡田某（豐後守、舊旗下士○時ニ江戸ニ在リ）ノ家臣、勤王證書ヲ上ル。

五日、督府、永井尙服、本莊道美（宮内少輔、高富藩主○時ニ二人並ニ江戸ニ在リ）ノ徳川慶喜ニ黨スル罪ヲ譴メ、家臣ニ令シ、速ニ之ヲ江戸ヨリ迎ヘ、功ヲ立テ以テ罪ヲ贖ハシム、因テ書ヲ三職ニ致シテ、二藩區處ノ狀ヲ稟ス。

○督府、岐阜人彌三郎ナル者、無頼ノ徒ヲ嘯聚シ、良民ヲ妨害スルヲ以テ、其罪ヲ數メ、大垣藩ニ付シテ之ヲ保管セシム、彌三郎尋テ死ス、因テ其罪狀ヲ大垣驛ニ掲示ス、又彌三郎ノ弟加太郎ヲ捕ヘテ之ヲ罰ス。

六日、車駕親征ヲ以テ、東山道鎭撫總督岩倉具定ヲ改メテ、先鋒總督兼鎭撫使ト爲シ、副總督岩倉具經ヲ先鋒副總督兼鎭撫使ト爲シ、薩摩、長門以下九藩兵ヲ以テ之ニ屬ス。

○督府、軍中ニ令シテ、兵士ノ游蕩ヲ戒ム。

○岩村藩、兵ヲ發シテ、東征ノ軍ニ從ハシメンコトヲ督府ニ請フ、之ヲ聽ス。

七日、高須、西大路二藩ニ令シテ、東山道官軍ノ餽餉輜重ヲ管セシム、又、江、濃、信諸藩ヲシテ、供帳傳遞ノ事ヲ掌ラシム。

○永井尙服ノ家臣綾小路俊實、滋野井公壽ニ獻スル所ノ兵器ノ措置ヲ、督府ニ稟問ス、令シテ俊實等ニ咨稟セシム。

○岡田時豐（將監、舊寄合、時ニ江戶ニ在リ）ノ家臣、書ヲ督府ニ上リテ、時豐奉上他ナキヲ陳シ、兵ヲ出シテ王事ニ服セシメンコトヲ請フ、之ヲ聽シ、其兵（一隊）ヲ中軍ニ屬ス。

八日、大垣藩ニ命シテ、高須、西大路二藩ト共ニ、東山道ノ糧餉ヲ掌ラシム。

○督府、德川慶喜征討ノ令（所謂高札）、及ヒ、舊幕府領地ヲ直管ト爲スノ布告書（所謂農商布告）等ヲ本道ニ頒ツ。

○是ヨリ先朝廷、大垣藩兵ノ伏見ノ役ニ從ヒシ者ヲ本藩ニ幽ス、是日、督府、其罪ヲ宥シ、命シテ報效ヲ圖ラシム。

○戶田氏良（淡路守、大垣新田藩主）及ヒ戶田某（寬十郎）、戶田某（三郎四郎、二人幷ニ舊御下士）、督府ニ就テ奉上ノ意ヲ陳シ、宗家戶田氏共ニ屬シテ王事ニ勤メンコトヲ請フ、之ヲ聽ス、尋テ氏共ニ命シテ其支族（舊御下士）ヲ管セシム。

○是ヨリ先、相良武振（紀三、舊領下上酒井雅之丞ノ臣）其黨百五十許人（草莽隊ト稱ス）ト滋野井公壽、綾小路俊實ニ屬シテ、江、濃ノ間ニ在リ、是日、督府、武振等ヲ召ス、尋テ至ル、之ヲ薩摩藩兵ニ屬ス。

○遠山友祿（信濃守、苗木藩主、時ニ江戶ニ在リ）ノ老臣、其主ニ代リテ召ニ應シ、且書ヲ上リテ、友祿疾ニ罹リ、入覲遲緩スルヲ陳謝シ、飛驒警守ノ事ニ服センコトヲ請ヒ、又往年幕府收スル所ノ封地ヲ還付センコトヲ請フ。

九日、土佐藩兵ヲ以テ、東山道先鋒ト爲シ、乾正形（退助、土佐藩士、尋テ乾ヲ改メテ板垣ト稱ス）ヲ督府參謀ト爲ス。

○二督、書ヲ三職ニ致シテ、命令二途ニ出ツルノ不可ヲ論シ、本道ノ處分事大小トナク、一ニ二人ニ委任センコトヲ請フ。

○督府、本道諸藩ニ令シ、金穀ヲ儲峙シテ不時ノ需ニ供セシム。

○津田某（鎭之助、舊旗下士○時ニ江戸ニ在リ、）ノ家臣、書ヲ督府ニ上リテ、勤王貳ナキノ意ヲ陳ス。

第三　明治元年二月十日 至同二十日

二月十日、是ヨリ先高松實村（左衛門權佐○保實ノ子、）私ニ京師ヲ去リ、兵ヲ甲、信ノ間ニ募リ、諸藩ノ向背ヲ問フ、是日、督府、信濃諸藩ニ令シ、實村ノ擧動朝命ニ出ルニアラサルヲ以テ、其黨與、及ヒ綾小路俊實ノ餘黨ヲ緝捕セシム。

○督府、掘井某（儀兵衛、貫籍不詳、）等三人ノ、軍令ニ背キシ罪ヲ數メテ之ヲ誅ス。

○松井康英ノ老臣、江戸ヨリ督府ニ至リ、康英勤王貳ナキヲ陳シテ哀ヲ乞フ、其實効ナキヲ以テ之ヲ却ク。

○戸田光則（丹波守、松本藩主、）老臣ヲ督府ニ遣シテ、奉上ノ意ヲ陳シ、二督ヲ本藩ニ迎ヘテ以テ王事ニ勤メンコトヲ請フ。

十一日、是ヨリ先、尾張藩使ヲ參、遠、駿、甲、濃、信、野、七國ニ遣シテ、諸藩以下ノ向背ヲ問ヒ、其老臣ヲシテ名古屋（徳川徳成ノ治所、）ニ來會セシム、是ニ至リ郡上藩ノ老臣、勤王ノ誓書ヲ尾張藩ニ致シ、其狀ヲ督府ニ稟ス、督府、事本道ニ關スルヲ以テ、議定ニ具狀シテ命ヲ乞フ。

○是ヨリ先、督府、數、竹澤邦光（時ニ笠松ニ在リ、）ヲ召ス、邦光至ラス、是日、其笠松地方ノ措置宜ヲ失フヲ責メ、速ニ本地ヲ大垣藩ニ交付シ、牙營ニ詣テ、以テ命ヲ待タシム。

十二日、是ヨリ先總裁熾仁親王（有栖川宮、）ヲ拜シテ東征大總督ト爲ス、是日、親王、軍令及ヒ廟算書ヲ二督ニ頒ツ。

○是ヨリ先朝廷、大政變更ノ際、不逞ノ徒名ヲ勤王ニ託シテ良民ヲ害虐シ、下情或ハ上達セサランコトヲ慮リ、諸藩ニ令シテ之ヲ檢察シ、且衆庶ノ直ニ之ヲ太政官ニ赴愬スルヲ許ス、又諸道ノ傳遞ハ、必ス印票ヲ照シテ後供給セシム、是日、督府、之ヲ本道諸藩ニ布告ス。

十三日、督府、坪内某（嘉兵衛、舊旗下士、）ノ砲技ニ精通スルヲ聞キ、某及ヒ其子某（捨太郎、）ヲ召シテ、中軍ノ從衞ニ充ツ。

○高須藩兵（五十許人、）大垣ニ至ル。（總督府日記）

十四日、督府、大垣藩ニ命シテ、前川某（新八郎、）植村某（梅之助、並ニ舊旗下士、）ノ采邑（美濃方縣郡則松村、）ニ在ル者ヲ管理セシム。

十五日、二督、大垣藩兵ノ操練ヲ大垣ニ觀ル。

○彥根藩兵（八百九十人、）大垣ニ至ル。（總督府日記　井伊直憲家記）

十六日、是ヨリ先、督府、龍岡某三河守、舊若年寄、實名不明、ヲ以テ大監察助役ト爲ス、是日、之ヲ罷ム。
○督府、堀田正養ノ徳川慶喜ニ黨スル罪ヲ譴メテ、其封地ヲ收メ、井伊直憲近江彦根藩主、藩ヲシテ之ヲ管理セシム、尋テ之ヲ復ス。
○督府、郡上藩ノ飛驒管理ヲ罷メ、更ニ藩兵ヲ徴ス。
○督府、諸軍ニ命シテ冗費ヲ節省シ、務メテ持久ノ計ヲ爲サシム。
○是ヨリ先、朝廷、東本願寺光勝ニ令シテ、大津驛ニ至リ、官軍ノ糧食ヲ措辦セシム、是日、督府、書ヲ光勝ニ致シテ、金三萬兩ヲ供億セシム。
○座光寺某右京、舊交代寄合、書ヲ督府ニ上リテ、奉上ノ意ヲ陳シ、官軍嚮導ノ事ニ服センコトヲ請フ、乃チ命シテ本道ノ嚮導タラシム、坪内某伊豆守、舊旗下士、時ニ江戸ニ在リ、ノ定臣モ亦某ヲ江戸ヨリ迎ヘテ、以テ王事ニ勤メシメンコトヲ請フ。
十七日、督府、尾張藩ニ命シテ、舊幕府領地ノ信濃ニ在ル者筑摩、伊那二郡ノ内、ヲ管セシメ、松本藩ノ本地管理ヲ罷ム、又竹澤邦光及ヒ、小監察脇田某頼三、ヲ遣シテ飛驒ヲ管理セシム、是日、邦光、高山陣屋、ニ儲蓄ヘル所ノ金千兩ヲ收メテ之ヲ督府ニ致ス。
○督府、尾張藩兵ヲ罷歸ス。
○薩摩、四百七十二人、因幡六百四十八人、或四百四十八人ニ作ル、二藩兵大垣ニ至ル。東山道日記、池田家記
十八日、軍防局、菊章旗及ヒ官軍ノ標章、本局及ヒ大總督府ノ印鑑ヲ督府ニ交付ス。
○參謀板垣正形、土佐藩兵六百餘人、ヲ率ヰテ大垣ニ至ル、長門三百七人、西大路百八人、二藩兵モ亦至ル、督府、乃チ參謀前野某米之助、ヲ罷メ、土佐藩前軍ヲ罷歸ス、是夜、二督、參謀及ヒ各藩隊長ヲ召シテ軍事ヲ議ス。
○是ヨリ先、朝廷、大溝、山上二藩ヲシテ垂井、美江寺二驛間、供帳傳遞ノ事ヲ掌ラシム、是日、督府、大垣新田藩ヲ以テ山上藩ニ代フ、又土佐藩ニ命シテ、舊會津領地及ヒ、舊旗下士采邑ノ近江ニ在ル者ヲ管セシム。
○督府、從軍諸藩ニ令シテ、兵員ヲ錄上セシム。
○是ヨリ先、彦根藩兵ヲ發シテ、高松實村ニ屬セシム、是ニ至リ東山道先鋒ノ命ヲ拜スルヲ以テ、督府ニ就テ其兵ヲ罷歸センコトヲ請フ、令シテ速ニ其請ノ如クセシム。
十九日、督府、岩村高俊精一郎、佐藩士、ヲ以テ監察兼應接掛ト爲ス。
○督府、岩村藩ニ命シテ、官軍嚮導ノ事ヲ掌ラシメ、高須藩ヲシテ驛道ヲ巡察セシム、又大垣西大路二藩ヲシテ、信濃諸藩儲

フル所ノ金穀彈藥ヲ按檢セシム。

二十日、諸藩兵既ニ來會スルヲ以テ、二督、將ニ明日ヲ以テ大垣ヲ發セントス、乃チ諸藩兵ヲ部署シ、薩摩、大垣二藩兵ヲ以テ先鋒ト爲シ、因幡、土佐二藩兵ヲ二軍ト爲シ、長門、土佐二藩兵ヲ中軍ト爲シ、彥根、西大路、高須三藩兵ヲ後軍ト爲シ、先鋒本日ヲ以テ大垣ヲ發シ、二軍以下次ヲ以テ啓行セシム、因テ書ヲ三職ニ致シテ東進ノ事ヲ告ケ、且戶田氏共、幼齡先鋒ノ任ニ勝エサルヲ以テ、獨其兵ヲ徵發シ、氏共ヲ京師ニ召サント請フ、又大總督及ヒ東海道先鋒總督ニ移牒シテ、東進ノ事ヲ告ク。

○督府、申令シテ信濃諸藩主ヲ召ス、又松代、松本、小諸、安中、小幡、吉井六藩ニ命シテ、下諏訪、高崎二驛間、供帳傳遞ノ事ヲ掌ラシメ、松代、松本、上田三藩ニ軍須ヲ供億セシム。

○督府、將ニ兵ヲ甲府ニ出サントス、因ニ眞田幸民信濃守、松代藩主、ニ令シ、藩兵ヲ率テ下諏訪驛ニ來會セシム。

○大垣ノ農、安太郎、尉左衞門、各米三百苞ヲ督府ニ献センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

第四　自明治元年二月十一日　至同　晦日

二月二十一日、午牌、二督大垣ヲ發ス、長門、土佐二藩兵前後ヲ警護ス、申牌、美江寺驛ニ抵ル、是日督府、官軍ノ標章ヲ諸軍ニ頒ツ。

○遠山友祿、江戶ヨリ藩ニ歸リ、督府ニ詣テ、奉上ノ意ヲ陳ス。

二十二日、二督、美江寺驛ヲ發シ、加納驛ニ抵ル、是日、薩摩、長門、因幡、彥根、土佐、五藩ニ令シ、每藩二人ヲ牙營ニ出シ、諸藩ニ應接シ、軍議ニ參與セシム、又薩摩、長門、因幡、土佐、大垣五藩兵ヲ分テ、斥候兵ト爲シ、前騎ニ赴カシメ、相良武振ヲシテ、關東ノ情實ヲ情察セシム。

○二督、書ヲ大總督府ニ致シテ、東進ノ機宜ヲ稟問ス、尋テ大督府答書シテ、速ニ軍ヲ高崎驛ニ進メシメ、且入道公現親王、輪王寺宮、岡崎以下十四藩兵ヲ率テ西上シ、德川慶喜ノ爲ニ哀ヲ乞ハントスルヲ以テ、二督ヲシテ親王ヲ諭シ、其兵ヲ撤セシム、

○永井尙服、江戶ヲ去テ封邑ニ歸リ、督府ニ請テ、奉上ノ意ヲ陳ス、督府、乃チ藩兵ヲ徵シ、尙服ヲシテ藩地ニ謹愼シテ、以テ後命ヲ待タシム。

○是ヨリ先、督府、高松實村ヲ召ス、時ニ實村、甲府ニ在リ、是日、實村、福島驛ニ至リ、使ヲ遣シテ、信濃地方鎭撫ノ狀ヲ稟ス。

二十三日、二督、加納驛ヲ發シ、太田驛ニ抵ル。

○伊地知正治（薩摩藩士、時ニ藩兵ヲ率シテ督府麾下ニ在リ）ヲ以テ、督府參謀ト爲ス。
二十四日、二督、太田驛ヲ發シ、御嶽驛ニ抵ル、千村某（平右衞門、舊旗下士）、使ヲ遣シテ起居ヲ候ス。
○督府、梅村準（速水、水戸藩士）ヲ遣シテ、飛驒ヲ管理セシメ、小監察脇田某（一郎）、及ヒ竹澤邦光ヲ召還ス。
○堀親廣（左衞門尉、飯田藩主）、藩兵ヲ出シテ、東征ノ軍ニ從ハシメンコトヲ督府ニ請フ、之ヲ聽ス。
○眞田幸民、書ヲ督府ニ上リテ、舊幕府領地ノ信濃ニ在ル者（中野陣屋等）ヲ管理センコトヲ請フ。
二十五日、二督、御嶽驛ヲ發シ、大湫驛ニ抵ル、是日、土佐藩兵ノ中軍ヲ改メテ、二軍ト爲シ、西大路藩兵ヲ以テ中軍ト爲ス。
○督府、美濃、信濃諸藩ニ申令シテ、供帳傳遞滯礙ノ患アルコト勿ラシム。
○是ヨリ先、議定細川護久（右京大夫〇肥後藩主慶順ノ子）、長谷信篤（從三位）、書ヲ二督ニ致シテ、高松實村ヲ京師ニ護送セシム、是日、二督、命ヲ實村ニ傳ヘテ、京ニ歸ラシメ、郡上藩兵ヲシテ之ヲ護送セシム、實村、二督ニ就キテ先鋒ヲ乞フ、聽サス。
二十六日、二督、大湫驛ヲ發シ、中津川驛ニ抵ル。
○督府、諸軍ヲ戒メテ、驛傳ヲ苦使スルコト勿ラシム。

二十七日、二督、中津川驛ヲ發シ、三富野驛ニ抵ル。
○因幡藩、其兵士ノ軍令ニ背キシ者ヲ刑シ、其狀ヲ督府ニ稟ス、督府、乃チ之ヲ諸軍ニ布告ス。
○近藤某（利三郎、舊旗下士）、書ヲ督府ニ上リテ、勤王ノ意ヲ陳シ、且請内路關警守、及ヒ官軍供億等ノ事ニ服センコトヲ請フ。
二十八日、二督、三富野驛ヲ發シ、上松驛ニ抵ル。
○内藤頼直（若狹守、高遠藩主）、江戸ヲ去テ、封邑ニ歸リ、書ヲ督府ニ上テ、勤王ノ意ヲ陳ス、督府、乃チ藩兵ヲ徴シ、頼直ヲシテ藩地ニ謹愼シテ、後命ヲ待タシム。
○松平忠禮（伊賀守、上田藩主）、江戸ヲ去テ藩地ニ歸ル、是日、書ヲ督府ニ上リテ疾ヲ謝シ、重臣ヲシテ代リテ召ニ赴カシムルヲ申ス。
二十九日、二督、上松驛ヲ發シ、藪原驛ニ抵ル。
○督府、須坂藩ニ命シテ、藩兵ヲ出サシム。
晦日、二督、藪原驛ヲ發シ、本山驛ニ抵ル、戸田光則來候ス、其心事、疑フヘキモノアルヲ以テ、命シテ藩地ニ謹愼セシム、岡田善長（啓之助、舊旗下士、岡田時雍ノ子）モ亦、江戸ヨリ至テ、從軍ヲ請フ、之ヲ聽ス。
○是ヨリ先、薩摩、因幡、土佐、大垣四藩ノ斥候兵、進テ和田驛、及ヒ碓氷嶺ニ至ル、是日、督府、薩摩、大垣二藩兵ニ令シテ、和田驛ニ駐屯セシメ、因幡、土佐二藩兵ヲ下諏訪驛ニ召還シテ、

更ニ甲州口ニ赴カシム、參謀板垣正形之ヲ督シ、西尾爲忠（遠江介、官人）、新井某（主殿、貫籍不詳）之カ監察タリ、又松代、高遠、高島三藩ヲシテ、甲州口官軍嚮導、及ヒ供帳ノ事ヲ掌ラシメ、松代藩ニ甲府城ノ守兵ヲ出サシム、因テ高遠藩ノ出兵ヲ罷メ、銃器ヲ出シテ、甲州口官軍ニ供セシム。

是月、内藤正誠（志摩守、岩村田藩主）、老臣ヲ督府ニ遣シテ、奉上ノ意ヲ陳シ、公事ニ服センコトヲ請ヒ、又上野地方亂民蜂起シ、將ニ信濃ニ闖入セントスルノ聞ヘアルヲ以テ、藩兵ヲ發シテ、香坂峠ヲ扼守セント請フ。

○是ヨリ先、磐城平藩、米五百苞ヲ滋野井公壽、綾小路俊實ニ獻セント請フ、公壽等、之ヲ聽シ、本藩ニ付シテ之ヲ保管セシム、是ニ至リ本藩、其處分ヲ督府ニ稟問ス。

○本莊道美ノ家臣、書ヲ督府ニ上リテ、道美以下勤王無貳ノ意ヲ陳ス、坪内某（嘉兵衛）、以下十四人（坪内金三郎、知久左衛門五郎、神長左衛門、大島金三郎、横田權之助、奥山主税、日根野左京、別所孫四郎、長谷川甚兵衛、林庫之丞、平岡石見守、三淵健之助、加藤平内並ニ舊旗下士○時ニ神長左衛門以下十一人、江戸ニ在リ。）モ亦勤王證書ヲ上ル。

○棚橋某（公平、岡田善長家臣）、書ヲ督府ニ上リテ、美濃、飛驒ノ地勢、民情ヲ陳シ、鎮臺ヲ笠松ニ置キテ、以テ二州ヲ統治センコトヲ建言ス。

第五　自明治元年三月朔日　至同　四日

○三月

朔日、二督、本山驛ヲ發シ、下諏訪驛ニ抵ル。

○日根野某（左京、舊旗下士）、書ヲ督府ニ上テ、勤王無貳ノ意ヲ陳ス。

二日、堀田正養江戸ヲ去リ、督府ニ詣テ罪ヲ待ツ、督府、其久シク賊地ニ居住シ、入覲遲延スルヲ譴メテ、藩地ニ謹愼セシム、明日、正養、書ヲ上テ哀ヲ乞フ。

○是ヨリ先、永井尚服、譴ヲ督府ニ獲テ、藩地ニ屏居ス、是ニ至リ書ヲ督府ニ上リ、河内ノ管地親征ノ沿路ニ當ルヲ以テ、往キテ供帳ノ事ニ服セント請フ、之ヲ聽ス。

○岩村（九十四人）、飯田（一小隊）二藩兵、下諏訪驛ニ至ル、督府、之ヲ中軍ニ加フ。

三日、二督、下諏訪驛ヲ發シ、和田驛ニ抵ル。

○青山幸宜、江戸ヲ去テ藤枝驛（遠江）ニ至リ、書ヲ督府ニ上テ、奉上ノ意ヲ陳ス、督府、其久シク賊地ニ居住シ、入覲遲延スルヲ譴メテ、藩地ニ謹愼シ、藩兵ヲ出シテ立功自贖セシム、牧野康濟（遠江守、小諸藩主）モ亦督府ニ詣テ、勤王無二ノ意ヲ陳シ、入覲ヲ請フ、尋テ之ヲ聽ス。

○是ヨリ先、相良武振ノ徒、先鋒嚮導隊ト稱シ、沿道諸藩ヲ脅

迫シ、良民ヲ劫掠ス、小諸、上田、岩村田、安中四藩、兵ヲ發シテ、其黨數人ヲ捕斬ス、是日、督府武振等ヲ捕ヘテ之ヲ誅シ、其餘黨ヲ罰ス。

○仙石某（播磨守、舊旗下士○時ニ江戸ニ在リ、）ノ家臣、書ヲ督府ニ上テ、某歸邑遲延ノ情狀ヲ陳疏ス。

四日、二督、和田驛ヲ發シ、八幡驛ニ抵ル。

○督府河田景與（佐久馬、因幡藩士、）ヲ以テ、内參謀ト爲ス。

○參謀板垣正形、因幡、土佐二藩兵ヲ率テ、蔦木驛ニ至ル、舊甲府代官中山某（誠一郎、）使ヲ遣シテ、進軍ヲ緩クセンコトヲ請フ、聽サス、是日、前軍進テ甲府ニ入リ、府城及ヒ兵器ヲ收ム、明日正形後軍ヲ率テ至ル、乃チ舊奉行所ノ粟ヲ發シテ、庶民ニ賑給シ、中山某ヲ以テ假ニ甲府町奉行ト爲シ、民情ヲ鎭輯セシム、又武田氏ノ遺臣ニ諭シテ、王事ニ勤メシメ、其從軍ヲ請フ者ヲ以テ隊伍ニ編シ、斷金隊及護國隊ト稱ス。

第六　自明治元年三月五日　至同　九日

三月五日、二督、八幡驛ヲ發シ、追分驛ニ抵ル。

○本多助成（豐後守、飯山藩主、）內藤正誠、前後江戸ヲ去テ其封邑ニ歸リ、督府ニ詣テ起居ヲ候ス、督府、其久シク賊地ニ居住セシ罪ヲ譴メテ、藩地ニ謹愼セシメ、正誠ヲシテ藩兵ヲ出シ、立功自贖セシム、助成、乃チ金穀ヲ獻シ、勤王ノ意ヲ表ヘ、吉井信謹（鐵丸、吉井藩主、）モ亦、老臣ヲ遣シテ起居ヲ候シ、且奉上無他ノ意ヲ陳ス。

○眞田幸民、銃器ヲ督府へ獻ス。

六日、大總督府、二督ニ令シ、本月十五日ヲ期シテ江戸城ヲ追討セシム。

○二督、追分驛ヲ發シ、坂本驛ニ抵ル、先鋒薩摩、長門二藩兵ニ令シ、新町驛ニ駐屯シテ、以テ中軍ノ高崎驛ニ至ルヲ俟タシメ、大音厚龍（龍太郎、彦根藩士、）ヲ遣シテ、奧羽諸藩ノ形狀ヲ調察セシム。

○是ヨリ先、舊幕府、板倉勝殷（主計頭、安中藩主、）ニ命シテ、碓氷關ヲ警守セシム、是ニ至リ勝殷、書ヲ督府ニ上テ、其進止ヲ取ル、令シテ其舊ニ仍ラシム、又小笠原某（兵庫介、）知久某（左衛門五郎、並ニ舊旗下士、）ニ命シテ、碓氷嶺ヲ警守セシム。

○近藤昌宜（勇、舊幕府新選組長、時ニ大久保大和、又剛ト稱ス、）其黨二百餘人ヲ率ヰ、將ニ甲府ニ據ラントス、參謀板垣正形、松代藩兵ヲシテ甲府城ヲ守ラシメ、因幡、土佐、高島三藩兵ヲ發シ、昌宜等ヲ勝沼驛（甲斐、）ニ要擊シテ、大ニ之ヲ破ル、昌宜等下總ニ走ル、督府、乃チ岩村田藩ニ令シテ、昌宜ノ餘黨ヲ緝捕セシム、又舊甲府勤番ノ、昌宜等ニ通謀セシ者九人ヲ捕ヘ、松代藩兵ニ付シテ之ヲ保管セシム、尋

テ、勝沼驛傍近ノ兵禍ニ罹ル者ヲ賑恤ス。

七日、二督、坂本驛ヲ發シ、安中驛ニ抵ル、會々梁田驛ノ警報到ル、乃チ監察兼應接掛岩村高俊ヲ遣シテ、前途ノ形狀ヲ詗察シ、薩摩、長門二藩兵ヲ分テ、牙營ヲ警守セシム。

○督府、前橋、忍、岡部三藩ニ命シテ、倉賀野江戸間、供帳傳遞ノ事ヲ掌ラシム、又吉井、足利二藩ニ令シ、軍糧ヲ儲峙シテ不時ノ需ニ供シ、且管内ノ兇徒ヲ誅夷セシム。

○是ヨリ先、徳川慶喜、江戸城ヲ出テ、東叡山ニ屛居シテ罪ヲ待ツ、是ニ至リ其臣梅澤亮（孫太郎、舊幕府大目付、）ヲ遣シ、督府ニ就キテ哀請書ヲ上ル、督府之ヲ納レ、後命ヲ俟タシム、入道公現親王モ亦使ヲ遣シテ、慶喜ノ哀請書ヲ上ル。

○松平某、（榮之助、舊旗下士、）江戸ヲ去テ其采邑ニ歸ル、是日、其家臣、書ヲ督府ニ上テ、某歸邑遲延ノ情狀ヲ陳疏シ、公事ニ服セシメンコトヲ請フ。

八日、二督、安中驛ヲ發シ、高崎驛ニ抵ル、大河内輝照、（右京亮、高崎藩主、）松平忠恕（攝津守、小幡藩主、）來候ス。

○督府、上野、下野諸藩ニ令シ、金穀、彈藥ヲ儲峙シテ不時ノ需ニ供シ、且嚴ニ徳川氏逋竄ノ徒ヲ緝捕セシム、又上野地方ノ民、徳川氏ノ苛政ニ苦ミ、各所ニ嘯聚スルヲ以テ、諭令シテ其事由ヲ本府ニ來愬セシメ、高崎藩ヲシテ藤岡驛ノ亂民ヲ緝捕セシム。

○堀之美、（右京亮、椎谷藩主、）江戸ヨリ入京セントス、是日、板鼻驛ニ至テ二督ニ謁ス、乃チ令シテ其入京ヲ止メ、進止ヲ北陸道總督ニ取ラシメ、又金穀ヲ豫備シテ不時ノ需ニ供セシム。

○督府、松平忠禮ニ命シ、板倉勝殷ト協議シテ、碓氷嶺ヲ警守シ、行旅ヲ譏察セシム。

○新田俊純、（萬次郎、上野人、）曩祖義貞ノ遺志ヲ繼キ、義徒ヲ糾合シ、書ヲ督府ニ上テ、王事ニ勤メンコトヲ請フ、乃チ命シテ麾下ニ屬セシム。

○須坂藩兵、（一小隊、）高崎驛ニ至ル、督府、之ヲ中軍ニ加フ。

九日、二督、高崎驛ヲ發シ、熊谷驛ニ抵ル。

○東海道先鋒總督、書ヲ二督ニ致シテ、水野忠敬（出羽守、沼津藩主、）ヲ甲府城代ト爲スヲ報シ、松代藩兵ノ甲府城警守ヲ改メテ、應援ト爲サンコトヲ請フ、督府、乃チ藩兵ノ府城警守ヲ改メテ、忠敬ノ應援ト爲ス、尋テ藩兵ニ令シ、其保管スル所ノ舊甲府勤番士九人ヲ、沼津藩ニ交付セシム。

○秋元禮朝、（但馬守、館林藩主、）江戸ヨリ入京セントス、是日、倉賀野驛ニ至リテ、總督ニ謁センコトヲ請フ、聽サス、其入覲遲緩ヲ譏メ

テ、藩地ニ謹愼セシム。

○古屋某（作左衛門、舊幕府歩兵頭）、歩兵千八百許人ヲ率ヰテ、將サニ信濃ニ據ラントス、是日、薩摩、長門、大垣三藩兵、曉ニ乘シテ、之ヲ梁田驛（下野）ニ破ル、某等、遂ニ會津ニ走ル、明日、督府、武藏、上野、下野諸藩ニ命シテ、其餘黨ヲ剿夷セシム。

○參謀板垣正形、內參謀河田景與、因幡、土佐二藩兵ヲ率ヰテ甲府ヲ發シ、進テ江戸ニ向フ。

第七 自明治元年三月十日至同十四日

三月十日、督府、牧野康濟ニ命シ、關門ヲ碓氷嶺ニ設ケ、板倉勝殷、松平忠禮ト協議シテ、之ヲ警守セシム。

○配井忠強（下野守、伊勢崎藩主）、江戸ヲ去テ其封邑ニ歸ル、其臣、書ヲ督府ニ上テ、忠強以下勤王無貳ノ意ヲ陳ス、是日、督府、忠強ノ久シク賊地ニ居住シ、歸邑遲延スルヲ譴メテ、謹愼ヲ命シ、且、兵器及ヒ金穀ヲ献セシム、忠強、乃チ金穀ヲ献シ、勤王ノ意ヲ表ス。

○督府、書ヲ薩摩、長門、大垣三藩兵ニ下シテ、梁田驛ノ戰捷ヲ賞シ、且金ヲ其死傷者ニ頒ツ、又薩摩、長門、彥根、大垣四藩兵ニ命シ、藪驛ニ駐屯シテ、以テ後命ヲ俟タシム。

○初メ德川慶喜ノ大坂ヨリ江戸ニ歸ルヤ、其臣屬ヲ會シテ、再擧ヲ謀ル、堀直虎（內藏頭、須坂藩主、舊幕府若年寄）諫メテ之ヲ止ム、聽カレス、遂ニ自殺ス、是ニ至リ、須坂藩老臣、書ヲ督府ニ上テ、直虎死亡ノ情狀ヲ具陳シ、之ヲ朝廷ニ奏上センコトヲ請フ。

○本莊道美、老臣ヲ督府ニ遣シテ、起居ヲ候ス。（時ニ道美、京師ニ在リ。）

○是ヨリ先、忍藩、兵ヲ發シテ、羽生驛ヲ鎭ス、是日、長門藩兵、羽生驛ニ至リ、忍藩ノ形跡疑フヘキヲ以テ、其兵器ヲ收メ、將サニ進テ忍城ヲ攻メントス、明日、藩主松平忠誠（下總守）老臣ヲ遣シテ迎ヘ謝シ、勤王ノ誓書ヲ上ル、藩兵乃チ其進擊ヲ止ム。

十一日、二督、熊谷驛ヲ發シ、桶川驛ニ抵ル。

○兇徒、武藏、上野、下野地方ヲ橫行シ、良民ヲ劫掠スルヲ以テ、督府、前橋、忍以下八藩ニ令シテ、嚴ニ之ヲ緝捕セシム、尋テ武藏、上野、下野諸藩ニ令シテ、舊幕府領地、及ヒ舊旗下士采邑ノ本州ニ在ル者ヲ鎭撫セシム。

○督府、川越藩ニ命シテ前橋、忍二藩ト共ニ供帳傳遞ノ事ヲ掌ラシム、尋テ前橋、忍、川越三藩ニ令シ、大垣、西大路二藩ト協議シテ、供帳ノ事ニ服セシム。

○督府、藤堂某（釆之丞、舊旗下士）、ノ勤王ノ請ヲ聽シ、命シテ實効ヲ奏セシム。

○參謀板垣正形等、進テ八王子驛ニ至ル、舊幕府千人同心ノ長

山木忠孝（彌左衞門）、等、書ヲ上テ、徳川氏ノ爲メニ哀ヲ乞フ、正形、諭スニ順逆ヲ以テシ、速ニ順ニ歸シ、王事ニ勤メシム、某等、乃チ勤王ノ誓書ヲ上ル。

○岡田時豐、書ヲ督府ニ上リ、疾ヲ以テ退老シ、子善長ヲシテ其家ヲ承キ、王事ニ勤メシメンコトヲ請フ。

十二日、二督、桶川驛ヲ發シ、蕨驛ニ抵ル。

○督府、書ヲ參謀板垣正形、内參謀河田景與、及ヒ因幡、土佐二藩兵ニ下シテ、勝沼驛ノ戰捷ヲ賞ス。

○兇徒、桶川、鴻巣二驛傍近ヲ劫掠スルヲ以テ、督府、大監察北島秀朝ヲ遣シテ之ヲ鎭撫シ、忍藩ニ兵ヲ發シテ、秀朝ニ應援シ、且鴻巣、羽生二驛ヲ警守セシム、秀朝、卽チ須坂藩兵ヲ率ヰテ之ニ赴キ、兇徒ヲ捕斬シ、土民ヲ安撫ス。

○安藤信勇、藩兵ヲ發シテ、官軍ニ從ハシメンコトヲ督府ニ請フ、之ヲ聽シ、其兵（一小隊）ヲ以テ中軍ニ加フ。

○大河内輝照（右京亮、高崎藩主）、軍費金及ヒ銃器ヲ督府ニ献ス、氷川神社ノ祠官モ亦神符ヲ献ス。

十三日、二督、蕨驛ヲ發シ、板橋驛ニ抵ル、諸藩兵皆來會ス、乃チ之ヲ犒ヒ、分テ四近ヲ巡警セシム。

○親子内親王（靜寬院宮）、手書ヲ總督ニ致シテ、江戸物情洶々ノ狀ヲ報シ、姑ク進軍ヲ緩クセンコトヲ請フ、總督復書シテ、軍國ノ事、一ニ大總督ノ指揮ヲ仰クヲ以テ、私ニ其命ニ應スルコト能ハサルヲ答フ。

○督府、川越藩ニ命シテ、役夫及ヒ薪ヲ供給セシム。

○新田俊純、手兵（五十六人）ヲ率テ、板橋驛ニ至ル、會々其采邑土民蜂起シ、徳川氏逋竄ノ徒ト共ニ、傍近ヲ劫掠スルヲ以テ、督府、俊純ニ命シ、往キテ之ヲ鎭緝セシム。

○上野ノ亂民、信濃地方ニ闖入シ、良民ヲ劫掠スルヲ以テ、小諸藩兵ヲ封疆ニ出シテ之ニ備フ、是日、書ヲ督府ニ上テ、其狀ヲ申ス。

○松平忠誠、銃器ヲ督府ニ献ス。

○參謀板垣正形等、進テ府中驛ニ至ル、東叡山ノ僧徒、入道公現親王ノ使ト稱シ、軍門ニ來リテ進軍ヲ止メンコトヲ請フ、正形、之ヲ却ク。

十四日、督府、薩摩、長門、彦根、大垣四藩兵ニ令シ、明日ヲ以テ江戸ヲ進擊セシム、會々徳川慶喜ノ臣勝義邦（安房）、大總督府參謀西郷隆盛（吉之助、薩摩藩士）ニ就キテ、慶喜謝罪ノ條款ヲ陳シ、且申請スル所アリ、隆盛乃チ二督ニ牒シテ、假ニ明日ノ進軍ヲ止ム、尋テ大總督、二督ニ令シテ、江戸進擊ノ期ヲ延フ。

○二督、薩摩、長門、大垣三藩兵ノ梁田驛ノ役ニ從ヒシ者ヲ召見シテ、之ヲ犒フ。

○督府、岩槻藩ニ令シテ、管内ノ兇徒ヲ緝捕セシム。

○堀之美、金穀ヲ督府ニ獻ス。

○參謀板垣正形等、進テ新宿驛ニ至リ、千駄ケ谷、泉二村ノ火藥庫ヲ封ス。

第八　自明治元年三月十五日　至同　二十五日

三月十五日、督府、松平忠誠ノ請ヲ聽シテ、藩兵ヲ（二小隊、砲四門、）徵シ、之ヲ長門藩兵ニ屬ス。

○松平直克（大和守、前橋藩主、）秋元禮朝、安藤信勇、吉井信謹、銃器及ヒ金穀ヲ督府ニ獻ス。

十六日、督府、大垣、西大路二藩ノ、力ヲ信濃諸藩、金穀按檢ノ事ニ竭セシヲ賞ス。

○楠川、鴻巣傍近平定ニ就クヲ以テ、大監察北島秀朝、須坂藩兵ト共ニ督府ニ詣テ、復命ス、督府乃チ藩兵ノ功勞ヲ褒慰ス。

○督府、勘合印鑑ヲ碓氷、板橋間各驛ニ下付シ、傳遞ヲ請フ者ハ、之ヲ照シテ後供給セシム。

○德川氏ノ臣大森某（達太郎、精鋭隊士、）以下三人、粗暴ノ徒ヲ鎭制スルト

稱シ、來テ庚申塚ニ屯ス、督府、敵情測ルヘカラサルヲ以テ、諸軍ヲ戒メテ不虞ニ備フ。

○本多助成、軍費金ヲ督府ニ獻ス。

十七日、督府、薩摩、長門、彥根、大垣四藩兵ヲ分チテ、飛鳥山及ヒ王子、巢鴨二村ニ駐屯セシメ、岩村、飯田、岩村田三藩兵ヲ遣シテ、庚申塚ニ屯據セシム、又、軍中警報ノ制ヲ定ム。

十八日、戶田光則、內藤賴直ノ家臣、並ニ書ヲ督府ニ上テ、其主ノ爲メニ哀ヲ乞フ、是日、督府、光則、賴直及ヒ本多助成、內藤正誠ノ謹愼ヲ釋シ、仍ホ賴直ノ入京ヲ止ム。

○兇徒、信濃地方ヲ橫行シ、良民ヲ劫掠スルヲ以テ、督府、信濃諸藩ニ令シテ、之ヲ鎭撫セシム。

○是ヨリ先、督府、大垣藩命シテ、笠松領地ノ高須藩管內ニ在ル者ヲ管セシム、是ニ至リ高須藩ノ請ヲ以テ、假ニ其地ヲ管セシメ、大垣藩ノ管理ヲ罷ム。

○督府、高崎、岩槻、岡部三藩ニ令シテ、役夫ヲ供給セシム、又高須藩兵ニ命シテ、進軍ノ際糧餉ヲ護送セシム。

○督府、高遠、高島二藩ノ、力ヲ甲州口、官軍供帳ノ事ニ竭セシヲ褒ス。

○參謀板垣正形等、進テ江戶ニ入リ、尾張藩邸（市ヶ谷、）ニ次ス。

十九日、東海道先鋒副總督柳原前光、（侍従、）書ヲ督府ニ致シ、本日ヲ以テ甲府ニ赴クヲ告ク。

○板倉勝殷、彈藥ヲ督府ニ獻ス。

二十日、是ヨリ先、大總督府、東海道官軍饋餉ノ費額ヲ增加シテ、之ヲ督府ニ報ス、是日、督府モ亦、本道饋餉ノ費額ヲ增加ス。

○川口村（武藏、）ノ農民蜂起スルヲ以テ、督府、監察兼應接掛岩村高俊ヲ遣シテ、之ヲ鎭撫セシム、加納藩兵之ニ屬ス。

○戸田忠友、（土佐守、宇都宮藩主〇時ニ西上シテ、大津驛ニ在リ、）老臣ヲ遣シテ、二督ノ起居ヲ候ス、乃チ命シテ金穀及ヒ銃器ヲ供給セシム。

二十一日、遠藤胤城、江戸ヲ去テ蕨驛ニ至リ、屏居シテ罪ヲ待チ、書ヲ督府ニ上テ、王事ニ勤メンコトヲ請フ、乃チ命シテ戸田川渡口ヲ警守セシム。

○督府、諸藩兵ヲ慰勞ス。

○二十二日、軍防局、書ヲ二督ニ致シ、車駕親征、昨日ヲ以テ京師ヲ發セシヲ告ク。

○督府、信濃諸藩以下ニ令シテ、其貯フル所ノ金穀ヲ本府ニ送致セシム。

二十四日、督府、祖式某（金八郎、長門藩士、）ヲ以テ、內參謀ト爲ス。

二十五日、二督、書ヲ大總督府ニ致シテ、勝沼、梁田二驛ノ戰捷ヲ報シ、且速ニ江戸城ヲ進討センコトヲ請フ。

○督府、諸藩兵ニ令シ、協心戮力以テ成功ヲ奏セシム、又諸軍ヲ戒メテ、私ニ先鋒軍營外ヲ遊步スルヲ禁ス。

○松平忠恕、銃器ヲ督府ニ獻ス。

第九　自明治元年三月二十六日　至同　四月七日

三月二十六日、是ヨリ先、青山幸宜、讃ヲ督府ニ獲ルヲ以テ、京師ニ至リ、屏居シテ命ヲ待ツ、是ニ至リ幸宜ノ家臣、書ヲ督府ニ上テ、其主ノ爲メニ哀ヲ乞フ、督府乃チ幸宜ノ謹愼ヲ釋ス。

○是ヨリ先、山内豊福、（攝津守、土佐藩支封主〇時ニ江戸ニ在リ、）督府ニ就キテ、東征ノ軍ニ從ハンコトヲ請フ、之ヲ聽ス、是日、豊福ノ養子豊誠、豊福ニ代リ、藩兵ヲ率ヰテ尾張藩邸ニ至リ、土佐藩兵ニ屬ス。

○西尾某、（錦三郎、）西尾某、（健次郎、）大島某（攝津守並ニ旗下士、）督府ニ詣テ、勤王ノ意ヲ陳シ、東征ノ軍ニ從ハンコトヲ請フ、德川慶喜、既ニ降ヲ乞フヲ以テ、令シテ其采邑ニ歸リ、後命ヲ俟タシム。

二十七日、酒井忠强ノ家臣、書ヲ督府ニ上リ、兇徒、伊勢崎地方ヲ劫掠スルヲ以テ、忠强ノ謹愼ヲ釋シテ、封疆鎭撫ノ事ニ服セシメンコトヲ請フ、督府、乃チ忠强ノ謹愼ヲ釋ス。

○督府、軍中ニ令シ、意見ヲ開陳シテ、忌憚スルコト勿ラシム。

○督府、梁田驛傍近ノ兵燹ニ罹リシヲ者ヲ賑恤ス。

二十八日、松平乘命、江戸ヲ去テ其封邑ニ歸リ、入覲遲延ノ罪ヲ引キ、屏居シテ命ヲ待ツ、是日、督府、藩兵東征ノ軍ニ從フヲ以テ、其罪ヲ寛宥シ、命シテ勤王ノ實效ヲ奏セシム。

○海軍先鋒總督大原俊實、使ヲ督府ニ遣シ、本月二十三日ヲ以テ、品川驛ニ抵ルヲ告ク。

二十九日、是ヨリ先、勅シテ薩摩、長門、因幡、土佐、大垣五藩兵、勝沼、梁田二驛ノ戰捷ヲ賞ス、是日、督府、之ヲ五藩兵ニ傳フ。

○大總督府、書ヲ二督ニ致シテ、松井康英、松平忠誠、反正歸順ノ實ヲ推覈セシム、是日、二督、復書シテ、二人歸順ノ狀ヲ報ス。

○督府、秋元禮朝ノ謹愼ヲ釋ス、又禮朝ノ父志朝（刑部大輔）ニ命シテ、藩政ヲ與聞セシム。

○是ヨリ先、督府、内藤頼直ノ謹愼ヲ釋シ、仍ホ其入京ヲ止ム、是ニ至リ頼直、上書シテ入京ヲ請フ、之ヲ止メ、命シテ本府ニ屬シ、王事ニ勤メシム。

晦日、是ヨリ先、板倉勝靜（伊賀、備中松山藩主）、江戸ヲ去テ日光山ニ匿ル、會津、桑名ノ兵、及ヒ舊幕府逋竄ノ徒等之ヲ奉シ、將サニ進ンテ宇都宮ニ逼ラントス、宇都宮藩老臣、督府ニ詣テ急ヲ報シ、援ヲ乞フ、時ニ藩主戸田忠友、西上シテ大津驛ニ在リ、督府、乃チ忠友ノ父忠恕（越前守、時ニ江戸ニ在リ）ニ命シテ、藩政ニ參シ、賊徒ヲ勦蕩セシム、又書ヲ軍防局ニ致シテ、宇都宮及ヒ結城地方騷擾ノ聞アルヲ報シ、更ニ長門藩兵ヲ發遣センコトヲ請フ。

○是ヨリ先、督府、竹澤邦光ヲ捕ヘテ、加納藩ニ幽ス、是ニ至リ岡田善長ノ兵ニ命シテ、之ヲ牙營ニ押送セシム。

○松平忠誠、大岡忠貫（主膳正、岩槻藩主）、疾ヲ力メテ江戸ヨリ其封邑ニ歸リ、老臣ヲ督府ニ遣シテ起居ヲ候ス。

○松平某（隼人）、太田某（采之丞、並ニ前橋藩士）、書ヲ督府ニ上テ、勤王ノ意ヲ陳シ、公事ニ服センコトヲ請フ、松井某（信濃守、舊幕旗下士）モ亦書ヲ上リ、疾ヲ以テ入覲遲延スルノ狀ヲ陳謝ス。

四月朔日、大總督、手書ヲ二督及ヒ薩摩、長門、因幡、彦根、土佐五藩兵ニ下シテ、勝沼、梁田二驛ノ戰捷ヲ賞ス、又高島藩兵、勝沼服役ノ勞ヲ犒フ。

○督府、香川廣安（敬三、水戸藩士）、平川某（和太郎、土佐藩士）ヲ以テ軍監ト爲シ、内參謀祖式某（金八郎）ト共ニ彦根、岩村田、須坂三藩、及ヒ岡田善長ノ兵ヲ率ヰテ、宇都宮ニ赴援セシム。

二日、是ヨリ先、内國局、督府ニ移牒シテ、戸田忠友ニ謹愼ヲ命シ、且其父忠恕ヲ召スヲ告ク、是日、督府、書ヲ三職ニ致シ、宇都宮地方騷擾スルヲ以テ、姑ク忠恕赴召ノ期ヲ緩クセンコトヲ請フ、又北陸道先鋒總督ニ移牒シテ、宇都宮ノ警ヲ報ス。

○内參謀祖式某（金八郎）等進テ粕壁驛ニ次シ、賊勢鴟張ノ狀ヲ督府ニ報シテ、後援ヲ乞フ、督府乃チ彦根藩兵ニ命シテ赴援セシム。

三日、督府、館林藩ニ令シテ、兵ヲ結城傍近ニ出サシム。

○内參謀祖式某（金八郎）等粕壁驛ニ次ス、賊兵、流山驛（下總）ニ嘯聚スト聞キ、兵ヲ分テ之ニ向フ、賊將近藤昌宜等、兵器ヲ致シテ降ヲ乞フ、乃チ昌宜ヲ捕ヘテ督府ニ押送ス、尋テ之ヲ斬リ、首ヲ京師ニ傳フ。

四日、東海道先鋒總督、江戸城ニ入リ、勅旨ヲ田安慶頼（中納言、徳川氏三卿ノ一）ニ傳ヘ、徳川慶喜ノ死一等ヲ減シ、命スルニ五事ヲ以テシ、七日ヲ期シテ奉答セシム、慶頼、謹テ命ヲ奉ス、督府乃チ之ヲ諸軍ニ布告シ、且不虞ニ備ヘシム。

○堀田正頌、銃器ヲ督府ニ獻ス。

五日、是ヨリ先、結城藩主水野勝知（日向守）江戸ニ在リテ、徳川氏ノ臣隷（彰義隊）ト通シ、窃ニ徳川氏ヲ扶持センコトヲ謀ル、老臣之ヲ諫メテ歸藩ヲ勸ム、聽カス、是ニ於テ老臣等相謀リ、將ニ勝知ヲ廢シテ、義叔父勝寛（鏗之助）ヲ立テントス、勝知乃チ徳川氏ノ臣隷ト共ニ、藩城ヲ襲ヒテ之ヲ取ル、是日、内參謀祖式某（金八郎）、館林、須坂二藩及ヒ岡田善長ノ兵ヲ督シ、結城ヲ攻メテ之ヲ陷ル、勝知等江戸ニ走ル、某乃チ關宿藩ニ令シ、兵ヲ堺驛ニ發シテ、其餘黨ヲ緝捕セシメ、又藩兵ヲ結城ニ徵シ、且軍費金ヲ課シ、古河藩ヲシテ管内ヲ鎭撫セシム、軍監香川廣安モ亦古河藩ニ命シテ、軍費金ヲ供給セシム。

六日、大總督府、書ヲ二督ニ致シ、松平忠誠勤王ノ實蹟アルヲ以テ、其入京ヲ許セシヲ報ス。

○是ヨリ先、堀田正養、譴ヲ督府ニ獲テ、其封邑ニ屏居ス、是ニ至リ、書ヲ督府ニ上リテ、入京ヲ請フ、是日、其謹愼ヲ釋ス。

○海軍先鋒總督大原俊實、督府ニ來リテ軍事ヲ議ス。

○秋元志朝、督府ニ候シ、前日ノ恩命ヲ謝シ、且銃器ヲ獻ス。

七日、督府、前橋、忍、川越三藩士、供帳措辦ノ勞ヲ慰ス。

○是ヨリ先、督府、金穀出納所三井某（三郎助）等二人（島田八郎左衞門、並ニ京師ノ商）ニ諭シ、金穀ヲ江戸ニ豫備シテ、不時ノ需ニ供セシム、是日、某等金二萬五千兩ヲ獻ス。

○軍監香川廣安、平川某（和太郎）、彦根、岩村田二藩及ヒ岡田善長ノ

兵ヲ率ヰテ、宇都宮ニ至リ、岩村田藩兵ヲ分テ壬生ニ赴カシム。

第十 自明治元年四月八日 至同 十六日

四月八日、海軍先鋒總督、書ヲ督府ニ致シ、德川氏ノ心情測ルヘカラサルヲ以テ、嚴ニ警戒ヲ加ヘシメ、又軍費金ヲ借ンコトヲ請フ、督府、乃チ金二千兩ヲ貸與ス。

○賊徒、武藏、上野、下野ノ舊幕府領地、及ヒ舊旗下士采邑ニ潛匿スルノ聞アルヲ以テ、督府、三州諸藩ニ令シテ、嚴ニ之ヲ緝捕セシム、又江戸市中訛言百出、物情騷擾スルヲ以テ、諭令シテ各其堵ニ安セシム。

○大久保忠告（駿河守、舊幕下士）、督府ニ就キテ、手兵ヲ出シ官軍ニ從ハシメンコトヲ請フ、之ヲ聽シ、其兵（一小隊）ヲ以テ因幡、土佐二藩兵ニ屬シ、江戸ノ形狀、及ヒ諸藩ノ向背ヲ詗察セシム。

○内參謀祖式某（金八郎）、結城ニ次シ、笠間藩ニ令シテ、封邑傍近ヲ鎭撫セシム。

○軍監香川廣安、宇都宮ニ次シ、笠間、壬生二藩ニ令シテ、兵ヲ宇都宮、及ヒ今市驛ニ出サシム。

○九日安部正靜（美作守、棚倉藩主）、軍費金ヲ督府ニ獻ス。

○軍監香川廣安、平川某（和太郎）、彥根藩、及ヒ岡田善長ノ兵ヲ率ヰテ、宇都宮ヲ發シ、進テ日光山ニ向フ、是日、今市驛ニ至ル、板倉勝靜、其子勝全（萬之進）ト日光山ヲ出テ、軍門ニ詣テ降ヲ乞フ、乃チ二人ヲ宇都宮藩ニ、其臣隷五十餘人ヲ壬生藩ニ幽ス、日光ノ賊、亦風ヲ望テ遁逃ス、尋テ廣安、軍ヲ宇都宮ニ收ム。

十日、是ヨリ先、水野勝知ノ義叔父勝寛、亂ヲ避ケテ江戸ニ在リ、是日、板橋驛ニ至リ、二督ニ謁ス、乃チ命シテ結城ニ復歸シ、士民ヲ鎭輯セシム、勝知ノ養祖父勝進（攝津守）モ亦、亂ヲ上總ニ避ク、尋テ督府ノ命ヲ以テ結城ニ歸ル。

十一日、二督、書ヲ大總督ニ上リ、江戸城ヲ收ムルノ後、直ニ牙ヲ本城ニ建テ、諸道總督ヲ會シテ軍議ヲ開キ、速ニ會津ヲ討センコトヲ建議ス。

○東海道先鋒總督、書ヲ二督ニ致シテ、江戸城ヲ收ムルノ狀ヲ報ス。

十二日、德川氏步兵ノ田安門傍近ニ屯スル者、歸順ヲ肯セサルヲ以テ、東海道先鋒總督、將ニ明日ヲ以テ之ヲ招諭シ、如シ命ニ從ハサレハ、則チ之ヲ討セントス、因テ督府ニ移牒シテ、兵ヲ要地ニ配置シ、不虞ニ備ヘシム、督府乃チ薩摩、長門、因幡、彥根、土佐、大垣、忍七藩兵ニ命シテ、赤坂、喰違、四谷、市ケ谷、

牛込、小石川、水道橋諸門ヲ警守セシム、既ニシテ步兵順ニ歸スルヲ以テ、令シテ其兵ヲ撤ス。

○松下重光、（加兵衞、舊高家、）老臣ヲ督府ニ遣シ、手兵ヲ出シテ官軍ニ從ハシメンコトヲ請フ、之ヲ聽シ、命シテ賊情ヲ詗察セシム。

十三日、笠間藩兵、（五百七十六人、）宇都宮ニ至ル。（牧野貞寧家記）

十四日、秋元禮朝、督府ニ候シ、宥罪ノ恩ヲ謝ス。

十五日、徳川氏逋竄ノ徒、古河城ニ逼ル、古河藩、急ヲ宇都宮ノ官軍ニ報シ、援ヲ乞フ、軍監平川某、（和太郎、）乃チ彥根、笠間、壬生三藩兵ヲ率ヰテ之ニ赴ク、因テ古河藩ニ令シ、兵ヲ發シテ賊徒ヲ勦討セシム。

十六日、大總督、江戶ニ入リ、增上寺ニ次シ、諸道總督、及ヒ參謀ヲ行宮ニ會シテ、軍事ヲ議ス、二督、之ニ涖ム。

○大總督、將ニ明日ヲ以テ牙ヲ江戶城ニ移サントス、東海道先鋒總督、乃チ江戶城諸門警守ノ部署ヲ定メテ、督府ニ牒知ス、是日、督府、薩摩、長門、彥根、大垣四藩兵ヲ遣シテ、田安、清水、赤坂、喰違、四谷、市ヶ谷、牛込、小石川、水道橋諸門ヲ警守セシム、既ニシテ大總督、故アリテ移營ノ期ヲ延フ。

○督府、吹上藩兵ノ江戶藩邸ニ在ル者ヲ徵シ、之ヲ因幡藩兵ニ屬ス。

○戶田忠行、（長門守、足利藩主、）彈藥ヲ督府ニ獻ス。

○大鳥純彰、（圭介、舊幕府步兵奉行、）其黨千六百許人ト下總ニ走リ、進テ結城ニ逼ル、內參謀祖式某、（金八郎、）館林、結城、須坂三藩兵ヲ武井驛（下總、）ニ出シテ、之ヲ邀フ、克タス、適軍監平川某、（和太郎、）彥根、笠間、壬生三藩兵ヲ率ヰテ古河ニ赴カントシ、結城ノ急ヲ聞キ、轉シテ之ニ赴キ、賊ト小山驛（下野、）ニ戰フ、利アラス、明日、結城ノ軍ト合シ、再ヒ小山ニ戰フ、軍監香川廣安、彥根、宇都宮、岩村田三藩、及ヒ岡田善長ノ兵ヲ率ヰテ、宇都宮ヨリ來リ援フ、賊鋭ヲ盡シテ抗拒ス、官軍復タ利アラス、廣安等乃チ軍ヲ宇都宮ニ收メ、祖式某ハ古河ニ退守ス、結城城援絕エ、水野勝進、其子勝寬皆遁ル、賊進テ壬生ニ逼リ、又轉シテ宇都宮ニ向フ。

十七日、是ヨリ先、軍防局、軍行條規ヲ定メテ之ヲ頒ツ、是日、大總督府、之ヲ二督ニ傳フ。

○東海道先鋒總督、書ヲ督府ニ致シテ、江戶城外郭諸門ノ譏察ヲ弛ムルヲ報ス。

○督府、松本藩兵ノ江戶藩邸ニ在ル者ヲ徵シ、之ヲ因幡藩兵ニ屬ス。

○督府、川越藩ノ餽餉傳遞措辦ヲ罷ム。

○小山驛ノ警報到ル、督府、乃チ內參謀河田景與ニ命シ、因幡、

土佐、松木、吹上四藩、及ヒ大久保忠告ノ兵ヲ率ヰテ、宇都宮ニ赴援セシム。
○松平忠誠、軍糧ヲ督府ニ献ス。
○軍監香川廣安、黒羽藩ニ令シテ、兵ヲ宇都宮ニ出サシム。

第十一 自明治元年四月十八日 至同 二十二日

四月十八日、督府、永井尚服ノ謹愼ヲ釋ス。
○督府、菊章旗ヲ諸藩兵ニ賜フ。
○總野ノ賊勢、鴟張スルヲ以テ、督府、參謀伊地知正治ニ命シ、薩摩、長門、大垣、忍四藩兵ヲ率ヰテ宇都宮ニ赴援セシム、因テ薩摩藩兵ノ水道橋、小石川二門警守ヲ罷メ、大垣藩兵ヲ以テ之ニ代ヘ、大垣藩兵ノ田安、清水二門警守ヲ罷メ、之ヲ東海道官軍ニ交付セシム。
○賊兵、大平山下野都賀郡ニ屯據スルヲ以テ、館林藩、使ヲ督府ニ遣シ、藩兵ヲ發シテ之ヲ討センコトヲ請フ、乃チ賜フニ菊章旗ヲ以テシ、薩摩、長門等諸藩兵ト協議シテ、之ヲ剿夷セシム、既ニシテ賊、大平山ヲ去リ、進ンテ宇都宮ニ向フ。
○久松勝行、大藏少輔、多古藩主、使ヲ督府ニ遣シテ、勤王ノ意ヲ陳シ、公事ニ服センコトヲ請フ。

○軍監香川廣安、古河藩ニ令シテ兵ヲ宇都宮ニ出サシム。
○烏山藩兵百六十人、宇都宮ニ至ル。烏山藩記
十九日、督府、重ネテ薩摩、大垣二藩兵ヲ宇都宮ニ發遣シテ、前軍ニ應援セシム。
○板倉勝殷、彈藥ヲ督府ニ献ス。
○大鳥純彰ノ徒、宇都宮ニ逼ル、軍監香川廣安、平川某、和太郎、彦根、宇都宮、烏山、岩村田四藩、及ヒ岡田善長ノ兵ト雀宮驛ニ出シテ之ヲ邀フ、克タス、賊直ニ進テ宇都宮城ヲ攻ム、官軍防戰利アラス、廣安等乃チ軍ヲ收メテ古河ニ退守シ、戸田忠恕館林ニ走ル、板倉勝養父子再ヒ賊ニ陥ル。
○內參謀祖式某金八郎、古河藩ニ命シテ、軍費金及ヒ銃器ヲ供給セシム。
二十日、督府、大垣藩兵ノ小石川、水道橋二門警守ヲ罷メ、之ヲ板橋驛ニ召還シ、郡上藩兵ヲシテ二門、及ヒ牛込門ヲ守ラシム、又彦根藩兵ヲ宇都宮ニ發遣ス。
○參謀伊地知正治、薩摩、長門、大垣三藩兵ヲ率ヰテ、關宿久世廣文ノ治所、ニ至リ、傍近ノ賊ヲ討シ、大ニ之ヲ若井驛下總ニ破ル。
○內參謀河田景與等、進テ小山驛ニ至ル、宇都宮城已ニ陥ルト聞キ、轉シテ壬生城ニ入ル、是日、景與、吹上藩ニ令シ、藩兵ヲ

壬生ニ發シテ前隊ニ合セシム。

○内參謀祖式某、金八郎、古河藩ニ命シテ、官軍ノ糧餉ヲ措辨セシム。

○黑羽藩兵、進テ白澤驛下野、ニ至ル、宇都宮城已ニ陷ルト聞キ、封疆ニ退守ス。

二十一日、大總督、牙ヲ江戸城ニ移シ、諸道總督ヲ會シテ軍事ヲ議ス、二督之ニ蒞ム。

○督府、高島藩兵ノ官軍嚮導ヲ罷ム。

○内參謀祖式某、金八郎、古河藩ニ命シテ中田、栗橋二關門、及ヒ房川渡口ヲ警守シ、船舶ノ出入ヲ譏察セシム、軍監香川廣安モ亦本藩ニ命シテ、銃器ヲ供給セシム。

二十二日、二督、復タ大總督府ニ詣リ、軍議ニ參ス。

○徳川氏ノ臣隷、相踵テ下野地方ニ逃走スルヲ以テ、東海道先鋒總督松平正親太郎、舊幕府陸軍奉行、ノ請ヲ聽シ、往キテ之ヲ招諭セシム、因テ書ヲ督府ニ致シテ其狀ヲ報ス。

○古屋某作左衛門、等、越後ヨリ進テ信濃ニ入リ、飯山本多肋成ノ治所、城下ニ逗ル、飯山、松代二藩、其狀ヲ督府ニ報ス、督府乃チ信濃諸藩ニ令シテ、之ヲ掃蕩セシム、因テ松代藩兵ノ甲府ニ至ル者ヲ罷歸ス、又尾張藩ニ令シテ、中野關門ヲ嚴守シ、賊徒ヲ緝捕セシム。

○賊徒、信濃、下野地方ニ出沒スルヲ以テ、督府、上田、小諸二藩ニ申令シテ、碓氷關ノ警守ヲ嚴ニセシム。

○督府、彦根藩兵ヲ古河ニ發遣シテ、前隊ニ代ラシム。

○宇都宮藩老臣、督府ニ詣テ、征討先鋒ト爲リ、以テ前敗ノ耻ヲ雪カンコトヲ請フ、慰勞シテ之ヲ遣ル。

○土岐頼知隼人正、沼田藩士、彈藥ヲ督府ニ獻ス。

○大鳥純彰ノ徒、進テ壬生ニ逼ル、昧爽內參謀河田景與、因幡、土佐、松本、壬生、吹上五藩、及ヒ大久保忠告ノ兵ヲ安塚驛ニ出シテ、之ヲ邀フ、賊勢頗ル猖獗、官軍殆ト利アラス、適、景與、因幡藩後軍ヲ率キテ來リ援ケ、奮擊シテ之ヲ破ル、賊壬生ノ虛ヲ偵ヒ、兵ヲ分テ來リ襲フ、守兵擊テ之ヲ卻ク、是日、參謀伊地知正治、進テ結城ニ至リ、壬生ノ急ヲ聞キ薩摩、大垣二藩兵ヲ分テ赴援セシム、二藩兵至レハ則チ賊已ニ去ル。

第十二　自明治元年四月二十三日 至同 二十五日

四月二十三日、壬生城勢急ナルヲ以テ、督府、參謀板垣正形、軍監西尾爲忠ニ命シ、因幡、土佐二藩兵ヲ率キテ赴援セシム、山內豐誠之ニ屬ス。

○督府遠藤胤城ノ戸田川渡口警守ヲ罷メ、之ヲ板橋驛ニ召ス。

○督府、高遠、高島二藩ノ餽餉傳遞措辨ヲ罷ム。

○東海道ノ官軍、千住驛傍近ノ賊ト戰端ヲ開クノ聞ヘアルヲ以テ、督府、各藩隊長ヲ戒メテ、不虞ニ備ヘシム。

○早旦、薩摩、大垣二藩兵、壬生ヨリ進テ宇都宮城ヲ攻ム、大鳥純彰、衆ヲ督シテ防戰シ、兵ヲ遣ラシテ官軍ノ背後ヲ衝ク、官軍勢甚急ナリ、既ニシテ參謀伊地知正治、薩摩、長門、大垣、忍四藩兵ヲ率ヰテ結城ヨリ、內參謀河田景與、因幡、松本、吹上三藩、及ヒ大久保忠告ノ兵ヲ率ヰテ壬生ヨリ至リ、合擊シテ之ヲ破ル、純彰等板倉勝靜父子ヲ擁シテ、日光山ニ走ル、官軍遂ニ宇都宮城ヲ復ス、戸田忠恕館林ヨリ復歸ス。

二十四日、二督、將ニ牙ヲ忍城ニ移サントス、適賊兵館林、及ヒ忍ニ逼ルノ聞アリ、館林藩モ亦急ヲ報シテ援ヲ乞フ、因テ其進軍ヲ止ム、是日板橋驛ヲ發シ、江戸ニ入リ、因幡藩邸ニ次ス、遠藤胤城ヲ留メテ板橋傍近ヲ警守セシメ、薩摩、忍、岩村、飯田四藩兵、及ヒ因幡、土佐二藩兵ノ壬生ニ赴ク者ニ令シテ、忍及ヒ館林ニ赴援セシム。

二十五日、二督、大總督府ヲ候ス、大總督、命シテ部兵ヲ發シ、深川、本所傍近ヲ警守シ、船舶ノ出入ヲ譏察セシム。

○督府、監察兼應接掛岩村高俊ヲ以テ軍監ト爲シ、信濃ニ差遣シ、本州諸藩兵ヲ督シテ賊徒ヲ討セシム、初メ古屋某（作左衛門）等ノ飯山城下ニ入ルヤ、城主本多助成、急ヲ傍近諸藩ニ報シテ援ヲ乞フ、是日、松代、松本、上田、高遠、高島、田野口、小諸、岩村田、飯田、須坂十藩兵、尾張藩兵ノ中野關門ヲ守ル者ト共ニ赴キ擊ツ、城兵之ニ應ス、賊兵潰エ走ル、明日、諸藩兵追躡シテ荒井驛遠後ニ至ル。

○督府、古河藩ニ令シテ、軍糧ヲ壬生、宇都宮地方出征ノ官軍ニ供給セシム。

○督府、郡上藩兵ニ令シ、牛込、小石川、水道橋三門ヲ東海道官軍ニ交付シテ、因幡藩邸ニ移屯セシム。

○大關增勤（彝次郎、黒羽藩主）、書ヲ督府ニ上リ、野奧地方騷擾スルヲ以テ、姑ク入覲ノ期ヲ緩クセンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

第十三　自明治元年四月二十六日　至同　閏同十日

四月二十六日、大總督府、德川氏處分ノ議ヲ諸道總督ニ下ス、二督、意見書ヲ上ル。

○結城、宇都宮等ノ殘賊、總、野ノ間ニ逃匿スルヲ以テ、督府、古河、館林、關宿、壬生、結城五藩ニ令シテ之ヲ誅夷セシム、又宇都宮傍近ノ士民ニ諭シテ、疑懼ヲ懷クコトナク、各其業ニ安

セシム。

○是ヨリ先、笠間藩、小山驛ノ戰利アラサルヲ以テ、兵ヲ封疆ニ收ム、是ニ至リ、將ニ再ヒ其兵ヲ發セントス、適、藩士不軌ヲ圖ル者アリ、藩内多故ナルヲ以テ、書ヲ軍監香川廣安ニ上リテ、姑ク出兵ノ期ヲ緩クセンコトヲ請フ。

○薩摩、忍、岩村、飯田四藩兵、進テ忍ニ至ル。（松平乘命家記）

二十七日、松平忠恕、有馬氏弘、並ニ督府ニ就キテ入京ヲ請フ、之ヲ止メ、命シテ管内鎭撫ノ事ニ服セシム。

○參謀板垣正形等、進テ壬生ニ至ル。（池田輝知家記、山内豐範家記）

二十八日、二督、將サニ軍ヲ忍ニ進メントス、是日、江戸ヲ發シ、蕨驛ニ抵ル。

○内參謀祖式某、（金八郎）進テ足利（戸田忠行ノ治所）ニ至ル、戸田忠行、藩兵ヲ發シテ先鋒ニ加ヘンコトヲ請フ、因テ其兵（一小隊）ヲ徵ス。

二十九日、二督、蕨驛ヲ發シ、桶川驛ニ抵ル。

○二督、書ヲ眞田幸民ニ下シテ、藩兵飯山ノ戰功ヲ賞ス。

○參謀板垣正形、軍監西尾爲忠、土佐藩兵ヲ率ヰテ、壬生ヲ發シ、因幡、土佐、吹上三藩兵ノ宇都宮ニ在ル者ト共ニ、進テ日光山ニ向フ、軍監香川廣安モ亦、彦根藩兵ヲ率ヰテ古河ヲ出テ、進テ鹿沼驛ニ次ス、是日、正形等今市驛ニ至リ、賊兵ヲ瀨川村ニ撃テ之ヲ破ル、大鳥純彰等、板倉勝靜父子ト日光山ヲ去リ、東照宮ノ神主ヲ奉シテ會津ニ走ル。

是月、督府、大監察北島秀朝ヲ京師ニ遣シ、更ニ大軍ヲ發シテ、速ニ東北ヲ戡定センコトヲ奏請ス。

○横瀨某、（侍從、舊高家）督府ニ就キテ、王事ニ勤メンコトヲ請フ、之ヲ聽シ、命シテ其實効ヲ奏セシム。

閏四月朔日、二督、桶川驛ヲ發シ、鴻巢驛ニ抵ル。

○參謀板垣正形、土佐藩兵ヲ率ヰテ日光山ニ至ル、賊兵已ニ遁逃ス、因テ藩兵ヲ分テ本地ニ留戍セシメ、軍ヲ今市驛ニ班ス、是日、因幡藩兵、進テ今市、大澤二驛ニ至ル、尋テ雀宮驛ニ移屯ス。

○監軍岩村高俊、松代ニ至ル、尋テ尾張、松代、松本、上田、高遠、高島、飯山、田野口、岩村田、飯田、須坂、椎谷十二藩兵ヲ督シ、進テ新井驛ニ次ス。

二日、二督、鴻巢驛ヲ發シ、忍城ニ入ル、松平忠國（織部正、忍藩主忠誠ノ養父、）迎謁ス。

三日、新田俊純、金穀ヲ督府ニ獻センコトヲ請フ、聽サス、其費ヲ移シテ臣隷ヲ收養シ、以テ勤王ノ實効ヲ奏セシム。

四日、秋元禮朝、忍城ニ至テ、二督ニ謁ス、二督、其勤王ノ實蹟

アルヲ以テ、菊章旗ヲ賜ヒ、奬勵シテ之ヲ遣ル。

○督府、彥根藩兵ノ鹿沼驛ニ在ル者ニ命シテ、日光山ヲ警守セシム。

○內參謀祖式某、（金八郎、）足利ニ次シ、堀田正頌（攝津守、佐野藩主、）ノ入覲遲緩ヲ譴メテ、謹愼ヲ命シ、其兵器ヲ收メ、且軍費金ヲ課ス、正頌、乃チ藩兵ヲ發シテ官軍ニ屬セシメ、以テ勤王ノ實ヲ表センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

五日、二督、北陸道先鋒總督ニ移牒シ、信濃諸藩兵、越後進討ノ狀ヲ報シ、且高田藩ノ蹤跡疑フヘキ者アルヲ以テ、速ニ軍監ヲ派遣シ、本道軍監ト協議シテ、之カ區處ヲ爲サシメンコトヲ請フ。

○是ヨリ先、德川氏ノ臣、小栗忠順（上野介、舊幕府勘定奉行、）其采邑權田村（上野、）ニ據リ、不軌ヲ圖ルノ聞アルヲ以テ、督府、高崎、安中、吉井三藩ニ命シテ、之ヲ緝捕セシメ、原某、（保太郞、長門藩士、）豐永某（貫一郞、土佐藩士、）ヲ遣シテ、三藩兵ヲ監督セシム、是日、某等權田村ニ至リ、忠順及ヒ其臣屬數人ヲ捕ヘテ之ヲ斬リ、其首ヲ梟ス。

六日、宇都宮地方戡定ニ就クヲ以テ、大總督府、令シテ二督ヲ召還シ、途次館林、關宿地方ヲ巡撫シ、且部兵ヲ分テ白河口、及ヒ日光山ヲ姑守セシム、是日、二督、書ヲ督府ニ致シテ、姑ク忍城ニ留リ、以テ傍近ヲ鎭撫センコトヲ請フ。

○石川總管、（若狹守、下館藩主、）軍費金ヲ督府ニ獻ス。

八日、本多助成、眞田幸民ニ因テ、賊兵ヲ城下ニ納ル、ノ亡狀ヲ陳謝シ、屛居シテ罪ヲ待ツ、幸民、乃チ書ヲ督府ニ上テ其狀ヲ申シ、爲メニ哀ヲ乞フ、督府、其事已ムヲ得サルニ出ツルヲ以テ、其罪ヲ問ハス。

○督府、忍藩ノ請ヲ聽シ、忍領修堤、均水等ノ事ヲ管セシム。

○督府、松平忠誠ニ菊章旗ヲ賜フ。

○督府、新田俊純ヲ以テ中軍ニ加ヘ、銃器ヲ貸與ス。

○督府、梁田驛ノ窮民ヲ賑恤ス。

○內參謀祖式某、（金八郎、）前橋、佐野、足利、須坂四藩兵ヲ率ヰテ沼田ニ至リ、沼田藩ニ令シテ藩兵ヲ出サシメ、且軍費金ヲ課ス、尋テ某、三藩兵ヲ留メテ沼田ヲ守ラシメ、須坂藩兵ヲ率ヰテ前橋ニ赴ク。

九日、二督、忍城ヲ發シ、館林城ニ入ル、秋元禮朝、其父志朝迎謁ス。

○是ヨリ先、朝廷、小諸藩ニ命シテ、尾張、松代等諸藩ト共ニ越後ノ賊ヲ討セシム、是ニ至リ、本藩、書ヲ督府ニ上テ其狀ヲ稟シ、碓氷關門警守ノ進止ヲ取ル、督府、乃チ軍防局ニ移牒シテ、

本藩ノ越後出兵ヲ罷メ、一ニ碓氷關門警守ニ任セシメンコトヲ請フ。

○督府、福原資生内匠、采邑下野佐久山〇交代寄合、ノ勤王ノ志ヲ褒シ、且之ヲ奬勵ス。

○督府、宇都宮ノ士民ヲ賑恤ス。

十日、督府、吉井信謹勤王ノ實蹟アルヲ以テ、書ヲ下シテ之ヲ褒ス。

○督府、忍藩ニ命シテ、河俣村關門ヲ警守セシム。

第十四　自明治元年閏四月十一日 至同 二十日

閏四月十一日、督府、小監察脇田某頼三、ヲ宇都宮ニ遣シテ、下野地方服役諸藩兵ノ戰功ヲ賞シ、金ヲ其死傷者ニ頒ツ。

○土岐頼知、軍資金ヲ督府ニ獻ス。

○十二日、督府、軍監西尾爲忠ヲ以テ、大監察助役トス。

○軍監香川廣安、平川某和太郎、等、宇都宮敗衄ノ罪ヲ引キ、督府ニ詣テ命ヲ待ツ、督府、乃チ其職ヲ免シ、謹愼シテ後命ヲ俟タシム。

○督府、館林藩ニ命シテ、館林領修堤均水等ノ事ヲ管シ、又藩地傍近ノ賊徒ヲ掃蕩セシム。

○松本藩、書ヲ督府ニ上リ、兵ヲ越後ニ出シ管内守ニ乏キヲ以テ、藩兵ノ麾下ニ在ル者ヲ罷歸センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

十三日、督府大音厚龍、原某保太郎、豐永某貫一郎、ヲ以テ上野巡察使ト爲ス、又賊徒、上野戸倉村傍近ニ嘯聚スルヲ以テ、前橋、沼田二藩ニ令シ、巡察使ノ節度ヲ奉シテ之ヲ掃蕩セシム。

○上總地方ノ殘賊、下野ニ逃走スルヲ以テ、督府、喜連川、烏山、黑羽、大田原四藩及ヒ福原資生、蘆野資愛雄之助、采邑下野蘆野〇交代寄合、ニ命シテ之ヲ誅夷セシム。

十四日、督府、因幡藩兵ノ雀宮驛ニ在ル者ヲ館林ニ召還シテ、中軍ノ警守ニ充ツ。

○總野ノ殘賊、常陸ニ逃走スルヲ以テ、參謀伊地知正治、薩摩、大垣、宇都宮三藩兵ヲ發シテ之ヲ討セシム、是日、三藩兵、賊兵ヲ野口村常陸、ニ擊テ大ニ之ヲ破ル。

十五日、是ヨリ先、大總督府、再ヒ二督ニ令シ、部兵ヲ分テ、宇都宮、日光地方ヲ扼守シ、其餘ヲ率キテ江戸ニ凱歸セシム、是日、二督、使ヲ大總督府ニ遣シテ、白河口進討ヲ請フ、聽サス。

○督府、喜連川、宇都宮、烏山、壬生、黑羽、大原六藩、及ヒ福原資生、蘆野資愛ノ封地、會津ニ接近スルヲ以テ、命シテ賊情ヲ詗察シ、且嚴ニ賊徒ノ來襲ニ備ヘシム。

○督府、徳川氏歩兵ノ歸順セシ者ヲ以テ官軍ニ加ヘ、彦根藩兵ヲシテ之ヲ監督セシム。

○諸軍中、往々軍令ヲ犯ス者アルヲ以テ、督府、嚴ニ令シテ之ヲ戒飭ス。

○上野巡察使原某（保太郎）等吉井ニ至リ、吉井藩ニ令シテ兵ヲ戸倉口ニ出サシム。

十六日、初メ内參謀祖式某（金八郎）ノ堀田正頌ニ謹愼ヲ命スルヤ、某ノ專斷ニ出テ、督府曾テ之ヲ知ラス、是ニ至リ正頌ノ臣隷、書ヲ督府ニ上テ、其主、譴ヲ獲ルノ顛末ヲ具陳シ、爲メニ哀ヲ乞フ、督府乃チ某專斷ノ罪ヲ譴メテ其職ヲ免シ、正頌ノ謹愼ヲ釋シ、某收ムル所ノ兵器及ヒ軍費金ヲ還付ス。

○薩摩、長門、大垣、忍四藩兵宇都宮ヨリ進テ、大田原（大田原藩ノ治所）ニ至リ、傍近ノ賊ヲ大網村ニ撃テ之ヲ破ル。

十七日、堀田正頌、督府ニ詣テ、宥罪ノ恩ヲ謝ス。

十八日、結城藩主水野勝知、封邑ヲ脫シ所在ヲ失スルヲ以テ、督府、勝知ノ養祖父勝進、及ヒ義叔父勝寛ニ命シテ、封内ヲ鎭撫シ、兵備ヲ嚴整セシム、因テ藩兵ノ麾下ニ在ル者ヲ罷歸ス。

○奥羽鎭撫總督府、參謀世良祇徳（修藏、長門藩士）參謀伊地知正治ニ移牒シテ、白河城ノ急ヲ報シ援ヲ乞フ、正治乃チ薩摩、長門、大垣、忍四藩兵ヲシテ赴援セシム。

○上野巡察使原某（保太郎）、豐永某（貫一郎）沼田ニ至リ、軍令ヲ前橋、沼田、佐野、足利、吉井五藩兵ニ頒ツ。

○大鳥純彰等會津ニ入リ、會津兵ト相議シテ、再ヒ兵ヲ三斗小屋、白河、日光三道ニ出ス、純彰躬カラ日光口ノ軍ヲ督シ、進テ藤原村ニ據リ、兵ヲ分テ傍近ヲ占略ス、是日、土佐藩兵之ヲ大桑村ニ破ル。

十九日、二督、將サニ軍ヲ江戸ニ班サントス、是日、館林城ヲ發シ、鴻巣驛ニ抵ル、館林藩ノ請ヲ聽シ、藩兵ヲシテ軍後ニ扈從セシム。

○是ヨリ先、大總督府、岩田通徳（織部正、舊幕府士）ヲ以テ日光奉行ト爲シ、日光傍近ヲ鎭撫セシム、是ニ至リ通徳、將サニ兵ヲ率ヰテ日光山ニ入ラントスルヲ以テ、二督、大總督府ニ移牒シ、通徳ヲシテ單身赴任シ、且每事官軍ト協議シテ後、施行セシメンコトヲ請フ、尋テ大總督府、令シテ其兵ヲ討セシム。

○彦根、土佐二藩兵、大鳥純彰ノ徒ヲ栗原村ニ破リ、北クルヲ追テ柄倉村ニ逼ル、賊嶮ニ據テ抗拒シ、別軍大桑村ニ出テ、官軍ノ歸路ヲ絕タントス、官軍乃チ兵ヲ返シテ之ヲ擊破シ、軍ヲ日光山及ヒ今市驛ニ收ム。

○上野巡察使大音原龍、前橋、高崎、安中、伊勢崎、七日市五藩ニ令シ、兵ヲ發シテ沼田藩ニ應援セシム。

○監軍岩村高俊、小諸藩ニ令シテ、兵ヲ越後ニ出サシム。

二十日、二督、鴻巣驛ヲ發シ、大宮驛ニ抵ル。

○大總督府、病院ヲ横濱ニ設ケ、官軍ノ創者ヲ療ス、是日督府、之ヲ諸藩兵ニ布告ス。

○監軍岩村高俊、尾張、松代等十二藩兵ヲ督シテ新井驛ニ次ス、會々北陸道參謀黒田清隆（了介、薩摩藩士）、山縣有朋（狂介、長門藩士）、薩摩、長門二藩兵ヲ率ヰテ高田（榊原政敬ノ治所）ニ至リ、加賀藩兵モ亦來會ス、高俊乃チ清隆等ト相議シ、兩道ノ軍ヲ合シテ越後ノ賊ヲ進剿セントス、是日、十二藩兵ヲ率ヰテ新井驛ヲ發シ、高田ニ赴ク、因テ書ヲ督府ニ致シテ其狀ヲ報ス。

○上野巡察使原某（保太郎）等、沼田、佐野、足利三藩兵ニ命シテ、戸倉村傍近ヲ警守セシム、是日早旦、賊兵戸倉村ヲ襲フ、前橋、高崎二藩兵邀ヘ擊テ之ヲ郤ク。

第十五　自明治元年閏四月二十一日 至同五月朔日

閏四月二十一日、二督、大宮驛ヲ發シ、板橋驛ニ抵ル。

○督府、大總督府ノ命ヲ諸藩兵ニ傳ヘテ、銃器ノ數目ヲ錄上セシム。

○賊兵、三斗小屋口ヨリ出テ、板室村ニ據リ、將ニ黒羽、及ヒ大田原ニ逼ラントス、是日、薩摩、長門、大垣、忍四藩兵之ヲ鹽崎村ニ破リ、明日又擊テ之ヲ油井、板室二村ニ破ル、賊遂ニ三斗小屋村ニ走ル。

○賊兵、路ヲ分テ今市驛ヲ襲フ、土佐藩兵邀ヘ擊テ之ヲ郤ク。

二十二日、二督、板橋驛ヲ發シ、江戸ニ入リ、因幡藩邸ニ次ス、是日、遠藤胤城ヲ板橋驛ニ召見シテ、本驛傍近警守ノ勞ヲ慰ス。

○土佐藩後軍（一小隊）、江戸ニ至リ、直ニ下野ニ赴キ、前軍ニ合ス。（總督府日記）

二十三日、二督、大總督府ヲ候ス。

○督府、祖式某（金八郎）、沼田藩ニ課スル所ノ軍費金ヲ本藩ニ還付ス。

○參謀伊治知正治、黒羽藩ニ令シテ兵ヲ大田原ニ出サシム。

○薩摩、長門、大垣、忍四藩兵、再ヒ大田原傍近ノ賊ヲ關谷村ニ擊テ、之ヲ破ル。

○彦根藩後軍（一中隊）、江戸ニ至リ、直ニ下野ニ赴キ、前軍ニ合ス。（總督府日記）

二十四日、督府、舘林藩兵ヲ罷歸シテ、藩境ヲ嚴守シ、賊徒ノ來襲ニ備ヘシム。

○是ヨリ先、朝廷、列藩ニ令シ、太政更張ノ朝旨ヲ奉シテ、舊習ヲ釐革シ、人才ヲ撰擇セシム、是日、上野巡察使大音厚龍、高崎ニ至リ、上野諸藩ノ老臣ヲ召集シテ、其令ヲ傳フ。

○上野巡察使原某、（保太郎）豐永某、（貫一郎）前橋、高崎、沼田、安中、佐野、伊勢崎、吉井、七日市、八藩兵ヲ督シ、賊兵ヲ三國嶺ニ擊テ之ヲ破リ、北クルヲ追テ越後六日町驛ニ至ル。

二十五日、是ヨリ先、會津兵白河城ヲ陷ル、是日、參謀伊地知正治、薩摩、長門、大垣、忍四藩兵ヲ督シ、進テ白河城ニ逼ル、賊險ニ據テ抗拒ス、官軍克タス、蘆野驛ニ退守ス。

○上野巡察使大音厚龍、小幡藩ニ令シ、兵ヲ發シテ三國嶺傍近ヲ警守セシム。

二十六日、關八州監察使三條實美（右大臣）督府ニ牒シテ、部下諸藩兵ノ戰狀、及ヒ有功者、死傷者ヲ錄報セシム。

○上野巡察使大音厚龍等、三國嶺服役諸藩兵ノ戰功ヲ賞シ、其死傷者ヲ弔慰ス。

二十七日、督府、香川廣安、平川某（和太郎）ノ謹愼ヲ釋ス。

○督府、松本藩兵ニ命シテ、牙營ヲ警守セシム。

○參謀伊地知正治、薩摩、長門、大垣、忍四藩兵ヲ督シテ蘆野驛ニ次シ、將サニ薩摩、長門、大垣三藩兵ノ宇都宮ニ在ル者ヲ合シ、大擧シテ白河城ヲ攻メントス、因テ土佐、彥根二藩兵ノ今市驛、及ヒ日光山ニ在ル者ヲ分テ、宇都宮ヲ守ラシム。

二十八日、遠藤胤城、書ヲ督府ニ上テ、金千兩ヲ借ンコトヲ請フ、是日、五百兩ヲ貸與ス。

○上野巡察使原某（保太郎）等、前橋、高崎以下八藩兵ヲ督シテ六日町驛ニ次スルコト數日、是ニ至リ傍近略戡定ニ就クヲ以テ、軍ヲ沼田ニ班ス。

二十九日、督府、內參謀河田景與ヲ罷ム。（大總督府下參謀ニ轉ス。〇河田景與事蹟）

○上野巡察使大音厚龍、督府ニ詣テ、三國嶺ノ戰狀ヲ報シ、菊章旗ヲ下付センコトヲ請フ、之ヲ聽シ、新田俊純ヲシテ之ヲ護衞セシム、是日厚龍等、菊章旗ヲ奉シテ三國嶺ニ赴ク。

○因幡藩後軍（二百四十人）江戶ニ至ル。（總督府日記）

五月朔日、參謀伊地知正治、薩摩、長門、大垣、忍四藩兵ヲ督シテ、再ヒ白河城ヲ攻ム、賊兵殊死シテ戰フ、官軍奮擊シテ之ヲ破リ、遂ニ白河城ヲ復ス。

○賊兵、鉢石驛傍近ヲ襲フ、彥根藩兵邀ヘ擊テ之ヲ卻ク。

第十六 自明治元年五月二日 至同十九日

五月二日、勅使、穂波經度、三位、督府ニ詣リ、旨ヲ傳ヘテ下總、上野、下野地方服役諸藩兵ノ戰功ヲ賞ス。

○秋元志朝、書ヲ督府ニ上テ、入覲ヲ請フ、之ヲ聽ス。

○戸田忠行、書ヲ督府ニ上テ、足利學校ヲ復興センコトヲ請フ。

○賊兵、大田原城ヲ襲フ、藩兵防戰利アラス、退テ城後ノ險要ニ據ル、賊、敢テ逼ラス、兵ヲ收メテ日光口ニ退ク。

三日、大總督府、舊旗下士ノ歸順セシ者ヲ朝臣ニ列スルヲ以テ、二督ニ令シテ、其歸順者ヲ錄上セシム。

○督府、松井康英、遠藤胤城、勤王ノ實蹟アルヲ以テ、其ノ收ムル所ノ封地ヲ復センコトヲ朝廷ニ奏請ス。

○是ヨリ先、朝廷、戸田忠友ニ命シ、歸藩シテ兵備ヲ嚴整シ、賊徒ヲ剿蕩セシム、是ニ至リ、忠友江戸ニ至リ、其狀ヲ督府ニ申ス、督府、令シテ速ニ歸藩シ、朝諭ノ如クセシム。

○上野巡察使大音厚龍等、前橋、高崎、沼田、安中、小幡、伊勢崎、吉井、七日市八藩ニ令シテ、上野地方舘林領ヲ除ク、修堤、均水等ノ事ヲ管セシム。

○是ヨリ先、朝廷、忍藩ニ命シテ、山中近江、關門ヲ警守セシム、是ニ至リ、本藩書ヲ督府ニ上リ、賊徒管内ニ出沒スルヲ以テ、藩兵ノ山中ニ在ル者ヲ罷歸シテ、守備ヲ修メンコトヲ請フ、督府、乃チ之ヲ朝廷ニ奏請シ、又本藩ヲシテ太政官ニ申請セシム。

四日、督府、安藤信勇勤王ノ實蹟アルヲ以テ、其收ムル所ノ美濃ノ管地ヲ復センコトヲ朝廷ニ奏請ス。

○江戸ノ形狀、測ル可カラサル者アルヲ以テ、督府、諸藩兵ヲ戒飭シテ、不虞ニ備ヘシム。

○督府、古河藩ニ申令シテ、軍糧ヲ白河口官軍ニ供給シ、缺乏ノ患アルコト勿ラシム。

五日、督府、飯田藩兵ニ命シテ、馬場先門ヲ警守セシム。

○是ヨリ先、朝廷、須坂藩ニ命シテ、尾張、松代等諸藩ト共ニ、越後ノ賊徒ヲ討セシム、是ニ至リ、本藩、書ヲ督府ニ上リ、藩兵ノ麾下ニ在ル者ヲ罷歸シテ、越後ニ赴カシメンコトヲ請フ、督府、乃チ藩兵ヲ罷歸シ、且金ヲ其死傷者ニ賜フ。

六日、督府、大總督府ノ命ヲ因幡藩兵ニ傳ヘテ、和田倉、山下、銀座、及ヒ龍口歩兵屯所ヲ警守セシム。

○督府、舊日光奉行、新庄直温右近將監、罪アルヲ以テ之ヲ捕ヘ、彥

根藩兵ヲシテ、江戸ニ護送セシム、是日、江戸ニ至ル、乃チ因幡藩兵ニ付シテ、之ヲ保管セシム、尋テ之ヲ大總督府ニ交付ス。

○賊、復タ今市驛ヲ襲フ、土佐藩兵拒戰甚タ力ム、既ニシテ彦根藩兵、日光山ヨリ來リ援ケ、土佐藩後軍亦、宇都宮ヨリ來テ、賊ノ背後ヲ衝ク、賊兵潰エ走ル。

七日、大總督、神奈川裁判所副總督鍋島直大（侍從）ニ命シテ、下總、下野二國ヲ鎭撫セシム、督府、乃チ土佐藩兵ノ今市驛ニ在ル者ニ令シ、肥後藩兵ノ至ルヲ俟チテ、大田原ニ轉進セシム。

○關八州監察使三條實美、使ヲ白河城、今市驛、日光山等ニ遣シテ、薩摩、長門、彦根、土佐、大垣、忍六藩兵ノ戰勞ヲ慰賞シ、且之ヲ奬勵ス。

九日、上野巡察使原某（保太郎）、豐永某（貫一郎）、前橋、高崎、沼田、安中、佐野、伊勢崎、足利、吉井八藩兵ヲ率ヰテ沼田ヲ發シ、戸倉口ヨリ進テ會津ニ向フ、是日、土出村ニ至ル。

十日、督府、上野巡察使大音厚龍、原某（保太郎）、豐永某（貫一郎）ヲ罷ム。
（監察使府軍監ニ轉ス（總督府日記））

十一日、内藤正誠、書ヲ督府ニ上リ、藩兵ノ麾下ニ在ル者ヲ罷歸シテ、封疆ノ守備ヲ修メント請フ。

○土佐藩兵、賊兵ヲ小佐越村傍近ニ擊ツ、賊走リテ大原村ニ據ル。

十二日、督府、小栗忠順ノ采邑ヲ收メ、彦根藩ヲシテ之ヲ管セシム。

十三日、是ヨリ先、大總督府、二督ニ令シテ、牙ヲ江戸城ニ移サシム、是日、二督、移テ城中ニ陣ス。

○上野地方ノ奸商、軍糧運輸頻繁ノ機ニ乘シ、穀價ヲ騰貴セシムルノ虞アルヲ以テ、舊上野巡察使大音厚龍等、上野諸藩ニ令シテ、其徒ヲ緝捕シ、嚴科ニ處セシム。

十五日、是ヨリ先、德川氏臣隷ノ歸順ヲ背セサル者、諸藩逋竄ノ徒ト東叡山ニ據リ、將サニ爲ス所アラントス、是日、大總督府、諸軍ニ令シテ之ヲ討ス、時ニ本道ノ軍、皆出テ外ニ在リ、獨リ因幡藩兵、之ニ赴ク、賊徒大ニ敗ル。

○是ヨリ先、朝廷、大垣藩及ヒ其支藩ニ命シテ、尾張藩等ト共ニ、越後ノ賊徒ヲ討セシム、是ニ至リ、二藩兵、進テ信濃ニ至リ、甲府地方騷擾スルヲ聞キ、轉シテ之ニ赴ク、此日、監軍岩村高俊、二藩兵ニ令シ、甲府地方略鎭定ニ就クヲ以テ、速ニ進テ越後ニ至ラシム。

十六日、早旦、賊兵、白河城ヲ襲フ、官軍、邀ヘ擊テ之ヲ破ル、明曉、賊復タ至ル、亦之ヲ擊卻ク。

十七日、大總督、手書ヲ薩摩、長門、大垣、忍四藩兵ニ下シテ、白河城ノ戰捷ヲ賞ス。

○督府、戸田忠友ニ命シテ、下野諸藩、政令傳達ノ事ヲ掌ラシム。

十九日、東山道總督岩倉具定、副總督岩倉具經ヲ罷ム、是ニ於テ、參謀伊地知正治、板垣正形、宇田淵等皆罷ミ、諸藩兵直ニ東征大總督ニ隷ス。

北陸道戰記

第一　自明治元年正月九日　至同二月八日

明治元年（戊辰）正月九日、高倉永祜（三位）ヲ以テ、北陸道鎭撫總督ト爲シ、四條隆平（大夫）ヲ副總督ト爲ス、又本願寺光澤ニ命シ、門徒ヲ發シテ、北陸道ノ士民ヲ撫諭セシム。

十三日、是ヨリ先、小濱藩兵、德川慶喜ニ屬シ、伏見ノ役ニ與カルヲ以テ、藩主酒井忠氏（若狹守）ノ入京ヲ禁ス、是ニ至リ本藩ヲ以テ、北陸道先鋒ト爲シ、功ヲ立テ自ラ贖ハシム。

十五日、二督、勅旨ヲ本道諸藩以下ニ諭告シテ、其向背ヲ問フ、尋テ諸藩以下、書ヲ上リテ勤王無貳ノ意ヲ陳ス。

十七日、調子某（三太夫）前田某（央）保田某（太仲、並ニ安藝藩士）ヲ以テ、督府假參謀ト爲ス。

二十日、北陸道鎭撫總督高倉永祜、副總督四條隆平、京師ヲ發シ、大津驛ニ次ス、安藝藩兵（二百五十人）之ニ屬ス。

二十一日、二督、大津驛ヲ發シ、堅田驛ニ抵ル、堅田ノ鄉士木村某（宮次郎）近江地圖ヲ獻ス、因テ命シテ本道ノ嚮導タラシム。

二十二日、二督、堅田驛ヲ發シ、大溝驛ニ抵ル。

二十三日、二督、大溝驛ヲ發シ、今津驛ニ抵ル。

二十四日、二督、今津驛ヲ發シ、熊川驛ニ抵ル。

二十五日、二督、熊川驛ヲ發シ、小濱（酒井忠氏ノ治所）ニ抵ル、是日、德川慶喜征討ノ令、（所謂大號令及ヒ制札）及ヒ舊幕府領地ヲ以テ、直管ト爲スノ布告書（所謂農商布告）ヲ本道ニ頒ツ。

二十七日、督府、若狹、越前諸藩（鯖江藩ヲ除ク）以下ニ令シ、藩士等ノ王事ニ勤メント欲スル者ハ、躬カラ行營ニ詣テ、其情ヲ陳シ、嗣子或ハ重臣ヲ京師ニ出シ、且管內ノ圖籍ヲ上リ、窮民ヲ撫シ、罪囚ヲ按シ、舊幕府領地去年ノ租額ヲ檢シ、本年ノ半ヲ蠲カシム。

二十八日、二督、小濱城ヲ撿ス。

二十九日、朝廷、二督ニ令シ、舊幕府領地ノ北陸道ニ在ル者ヲ撿シテ、其人民ヲ安撫シ、圖籍ヲ上ラシメ、又橫濱居留外國人ト釁端ヲ開クコト勿ラシム。

二月朔日、二督、小濱藩兵ヲ閱ス。

五日、二督、小濱ヲ發シ、倉見驛ニ抵ル。

○議定正親町三條實愛大納言、等、書ヲ二督ニ致シ、越前藩、京師ノ守兵ヲ出シ、且藩主ノ父亦京ニ在ルヲ以テ、藩兵ヲ徵發スルコト勿ラシム。

六日、車駕、將サニ親征セントスルヲ以テ、北陸道鎭撫總督高倉永祜ヲ、改メテ先鋒總督兼鎭撫使ト爲シ、副總督四條隆平ヲ先鋒副總督兼鎭撫使ト爲シ、越前、小濱二藩兵ヲ以テ之ニ屬ス、尋テ越前藩兵ヲ罷メ、肥前藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

○二督、倉見驛ヲ發シ、佐柿驛ニ抵ル。

七日、二督、佐柿驛ヲ發シ、敦賀酒井忠經ノ治所、ニ抵ル。

○是ヨリ先、朝廷、參與酒井忠溫十之丞、越前藩士ヲ罷メテ、二督ニ從ハシム、是日、忠溫、督府ニ至ル。北征記事

八日、督府有馬道純遠江守、丸岡藩主、間部詮道下總守、鯖江藩主○時ニ道純、詮道並ニ江戶ニ在リ、ヲ召シ、且假ニ其質ヲ徵シ、越前藩ニ付シテ之ヲ保管セシム、又酒井忠經右京亮、敦賀藩主○時ニ江戶ニ在リ、ニ命シテ、速ニ京師ニ至ラシム。

第二　自明治元年二月九日　至同　三月七日

二月九日、二督、敦賀沿海ノ砲臺ヲ巡檢シ、又氣比社敦賀ニ至リ、ニ詣ス。

○督府、小濱藩ニ命シテ、假リニ其支封酒井忠美鉎次郎、安房勝山藩主、ノ管地、越前ニ在ル者ヲ管セシム。

○酒井忠經、督府ニ就キテ藩兵ヲ發シ、小濱藩兵ニ合シテ、征討先鋒タラシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

十日、是ヨリ先、朝廷酒井忠氏ヲ其父忠義右京大夫、ニ付シテ、藩地ニ幽ス、是ニ至リ、若狹、一向宗ノ僧徒等、東本願寺ニ因テ、忠氏ヲ寛宥センコトヲ督府ニ請フ。

十一日、北陸道諸藩ニ令シテ、官軍供億ノ備ヲ爲サシム。

○是ヨリ先、舊幕府、故水戶藩士武田正生耕雲齋、ノ餘黨、武田盞金次郎、舊水戶藩士、以下百三十七人ヲ、小濱藩ニ付シテ、敦賀ニ禁錮ス、是ニ至リ、盞、書ヲ督府ニ上リテ、報國ノ情ヲ陳ス、督府、乃チ其禁錮ヲ解キ、小濱藩ヲシテ、盞等數人ヲ京師ニ護送セシム、敦賀一向宗ノ僧徒等、正生ノ墓ヲ營センコトヲ請フ、之ヲ聽シ、特ニ香華料ヲ賜フ。

○敦賀一向宗ノ僧徒等、軍費金ヲ督府ニ獻ス。

十二日、是ヨリ先、總裁熾仁親王有栖川宮、ヲ拜シテ、東征大總督ト爲ス、是日、親王、軍令及ヒ廟算書ヲ二督ニ交付ス。

十三日、二督、敦賀ヲ發シ、今莊驛ニ抵ル。

○船越衛洋之助、小林隆麟柔吉、並ニ安藝藩士、ヲ以テ督府參謀ト爲ス、尋テ衞

ヲ罷メ、津田信弘（山三郎、肥後藩士、）ヲ以テ之ニ代フ。
十四日、二督、今莊驛ヲ發シ、府中驛ニ抵ル。
十五日、二督、府中驛ヲ發シ、福井（松平茂昭ノ治所、）ニ抵ル。
十六日、松平茂昭（少將、前藩主、）督府ニ詣テ、起居ヲ候ス。○北征紀事
十七日、二督、福井城ヲ檢シ、又越前藩兵ノ操練ヲ觀ル。
○督府、幸若直孝（八郎九郎、）以下四人（幸若直良、幸若直堯、幸若安雄、直孝以下、並ニ越前人、舊幕府ノ樂師タリ、）ニ命シテ、京師ニ至ラシム。
○土井利恒（能登守、大野藩主、）小笠原長守（左衛門佐、勝山藩主、）金森近明（左京、舊交代寄合、）督府ニ詣テ、起居ヲ候ス。○北征紀事
二十日、督府、松平茂昭ニ命シテ、假ニ松平乘秩（和泉守、西尾藩主、）青山幸宜（峯之助、郡上藩主、）ノ管地、本多某（邦之助、）荻原某（清左衛門、）小林某（仙之助、並ニ舊質下士、時ニ三人、江戸ニ在リ、）ノ采邑、越前ニ在ル者ヲ管セシム。
○督府、小笠原長守、金森近明ニ命シテ、速ニ京師ニ至ラシム。
○參謀小林隆麟、福井ニ至ル、肥前藩兵（八百五十人、）モ亦至ル。○北征紀事
二十一日、督府、假參謀調子某（三太夫、）前田某（央、）保田某（太仲、）ヲ罷ム。
○會計裁判所、二督ニ移牒シ、總督以下ノ俸給等、北陸道舊代官管地ノ金穀ヲ以テ、之ニ充テシム。
二十二日、督府、土井利恒ニ命シテ、速ニ京師ニ至ラシム。

二十三日、參謀津田信弘、福井ニ至ル。○北征紀事
二十四日、督府、小笠原某（彌右衛門、）島田某（新三郎、右門藩士、）並ニ宮部某（六右衛門、）柳澤某（勝次郎、並ニ貫籍不詳、）ヲ以テ、監察ト爲シ、又道中規約ヲ定ム。
二十五日、内國事務局、二督ニ移書シテ、其職掌ヲ垂示ス。
二十六日、督府、饋餉ノ費額ヲ更定シ、之ヲ沿道各驛ニ布告シ、又本府ノ印鑑ヲ各驛ニ頒示シ、官軍ノ供帳、必ス之ヲ照シテ後措辦セシム。
二十八日、二督、福井ヲ發シ、金津驛ニ抵ル。
二十九日、二督、金津驛ヲ發シ、大聖寺（前田利鬯治所、）ニ抵ル。
晦日、二督、大聖寺ヲ發シ、小松驛ニ抵ル。
是月、督府、井伊直安（右京亮、與板藩主、時ニ江戸ニ在リ、）ヲ召シ、且假ニ其貢ヲ徴ス。
○督府、敦賀舊箱館會所ノ物品ヲ發シテ、敦賀郡（越前、）ノ窮民ヲ賑恤ス。
三月朔日、二督、小松驛ヲ發シ、松任驛ニ抵ル。
二日、二督、松任驛ヲ發シ、金澤（前田慶寧ノ治所、）ニ抵ル。
○舊幕府、逋寇ノ徒及ヒ會津、桑名人等、越後地方ニ潜匿スルノ聞アルヲ以テ、督府、加賀、越後諸藩ニ令シテ、嚴ニ之ヲ緝捕セシム。
四日、督府、參謀以下及ヒ安藝、肥前、小濱三藩兵ヲ慰勞ス。

五日、軍防局、書ヲ二督ニ致シ、速ニ廟算ヲ遵奉シテ、以テ關東戡定ノ功ヲ奏セシム。

○督府、加賀、越中、越後諸藩及ヒ鯖江藩ニ令シ、藩主ノ王事ニ勤メント欲スル者ハ、躬カラ京師及ヒ行營ニ詣テ、其情ヲ陳シ、且管內ノ簿籍ヲ上リ、窮民及ヒ忠孝義烈者ヲ錄上シ、舊幕府領地ノ租額等ヲ按檢シテ、之ヲ具申セシム。

六日、東征大總督、駿府ニ次シ、東海、東山、北陸三道先鋒總督ニ令シ、十五日ヲ期シテ江戶城ヲ進討セシム。

○二督、金澤城ヲ檢ス。

○是ヨリ先、舊幕府、加賀藩ヲシテ能登、羽咋、鹿島、鳳至、珠州四郡ノ地ヲ管セシム、是ニ至リ督府、更ニ本藩ニ命シテ、假ニ本地及ヒ土方某（雄三郎、舊旗下士、時ニ江戶ニ在リ、）ノ采邑、能登ニ在ル者ヲ管セシメ、越前藩ニ、舊代官管地ノ越前ニ在ル者ヲ管セシム、又土方某ニ命シテ、速ニ京師ニ至ラシム。

七日、二督、將サニ軍ヲ高田（榊原政敬ノ治所、）ニ進メントス、因テ越後諸藩ニ令シ、重臣ヲ高田ニ出シテ、以テ之ヲ迎ヘシム、又沿道諸藩ニ令シテ、行營及ヒ驛邑ヲ警守セシム。

○間部詮道、召ニ應シテ行營ニ詣ル、督府、命シテ速ニ京師ニ至ラシメ、其質ヲ還付ス。

第三　自明治元年三月八日 至同 晦日

三月八日、二督、金澤ヲ發シ、今石動驛ニ抵ル。

○是ヨリ先、前田利鬯（飛驒守、大聖寺藩主、）疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京師ニ赴カシム、是日、督府、利鬯ニ命シ、疾癒ルヲ俟チテ、速ニ京師ニ至ラシム。

九日、二督、今石動驛ヲ發シ、高岡驛ニ抵ル。

○督府、酒井某（織部、）ニ命シテ、速ニ京師ニ至ラシム、又有馬道純京師ニ至リ、勤王ノ實蹟アルヲ以テ、其質ヲ還付ス。

十日、二督、高岡驛ヲ發シ、富山（前田利同ノ治所、）ニ抵ル。

前田利同（稠松、富山藩主、）來候ス、是ヨリ先、利同疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ京師ニ赴カシム、是日、督府、利同ニ命シ、疾癒ルヲ俟チテ、速ニ京師ニ至ラシム。

○是ヨリ先、親征ノ議決スルヲ以テ、列藩ニ詔シテ、軍備ヲ爲サシム、是日、督府、富山、高田以下十一藩ニ申令シ、兵備ヲ嚴整シテ、以テ不時ノ徵發ニ供セシム。

十一日、二督、富山ヲ發シ、魚津驛ニ抵ル。

十二日、二督、魚津驛ヲ發シ、泊驛ニ抵ル、書ヲ京師ニ致シ、會津兵、越後地方ニ嘯聚スルヲ以テ、將サニ之ヲ勦蕩セントスル

ヲ告ク。

十三日、二督、泊驛ヲ發シ、絲魚川松平直春ノ治所、ニ抵ル、松平直春日向守、淸崎藩主、來候ス、乃チ命シテ速ニ京師ニ至ラシム。

○是ヨリ先、督府、星野某養齋、越後郷士、ノ請ヲ聽シ、命シテ越後諸藩ノ形狀ヲ調察セシム、是日、某絲魚川ノ行營ニ至ル、尋テ其徒星野某藤兵衛、越後郷士、等ト共ニ軍後ニ扈從セシム。

十四日、二督、絲魚川ヲ發シ、名立驛ニ抵ル。

○督府、本願寺門徒ノ力ヲ王事ニ致セシヲ賞シテ、之ヲ罷歸ス。

十五日、二督、名立驛ヲ發シ、高田榊原政敬ノ治所、ニ抵ル。

○是ヨリ先、督府、監察小笠原某彌右衛門、ヲ東山道總督府ニ遣シテ、軍事ヲ議セシム、是ニ至リ山道總督、書ヲ二督ニ致シテ、速ニ軍ヲ江戸ニ進メンコトヲ促ス。

十六日、督府、榊原政敬式部大輔、高田藩主、溝口直正誠之進、新發田藩主、ニ命シテ、速ニ京師ニ至ラシム、井伊直安召ニ應シテ行營ニ詣ル、亦命シテ京師ニ至ラシム。

十七日、大總督府、東海、東山、北陸三道先鋒總督ニ移牒シテ、江戸進擊ノ期ヲ延フ。

○是ヨリ先、會津人、越後諸藩ニ移書シ、國情洶擾、藩士越後地方ニ逋逃スルヲ以テ、兵ヲ發シテ之ヲ鎭撫スルヲ告ク、加賀、新發田二藩其狀ヲ督府ニ稟ス、是日、督府越後諸藩ニ令シ、會津兵管內ニ入テハ、諭シテ本藩ニ歸ラシメ、其命ニ抗スル者ハ之ヲ誅夷セシム、因テ榊原政敬、溝口直正ノ入覲ヲ止メ、互ニ相救應シテ其事ニ服セシメ、又諸藩老臣ヲ延見シテ、協シムルニ會津兵鎭壓ノ事ヲ以テス。

○堀之美右京亮、椎谷藩主、行營ニ詣テ二督ニ謁ス、乃チ命シテ速ニ京師ニ至ラシム。

○督府、越後諸藩ニ令シ、重臣一人ヲ出シテ、軍後ニ扈從セシム、又長岡藩ニ命シテ兵ヲ行營ニ發セシム。

○是ヨリ先、舊幕府、高田、新發田二藩ヲシテ越後頸城、蒲原二郡ノ地ヲ管セシム、是ニ至リ二藩書ヲ督府ニ上リテ、其進止ヲ取ル、令シテ舊ニ仍リ假ニ之ヲ管セシム。

○稻葉某左衛門、舊旗下士ノ時ニ江戸ニ在リ、家臣ヲ督府ニ遣シテ、奉上ノ意ヲ陳シ、公事ニ服センコトヲ請フ、安西某安太郎、舊旗下士ノ時ニ江戸ニ在リ、モ亦家臣ヲ遣シテ、奉上ノ意ヲ陳ス。

十八日、浮浪ノ徒、越後地方ヲ劫掠スルノ聞アルヲ以テ、督府越後諸藩ニ令シテ、之ヲ緝捕セシム。

○是ヨリ先、督府、肥前、小濱二藩兵ヲ以テ先鋒ト爲シ、安藝藩

兵ヲシテ牙營ヲ警守セシム、是ニ至リ安藝藩兵ヲ改メテ先鋒ト爲シ、肥前藩兵ヲシテ牙營ヲ警守セシム、因テ銃器ヲ高田藩ニ借リ、之ヲ安藝藩兵ニ貸與ス。

○舊桑名藩士ノ其舊管地柏崎ニ在ル者、屏居恭順ノ聞アルヲ以テ、督府令シテ舊ニ仍リ、假ニ其地ヲ管シ、且本地ノ簿書等ヲ太政官ニ上ラシム。

○督府、酒井忠溫ヲ罷歸ス。(北征紀事)

十九日、二督、將サニ軍ヲ江戸ニ進メントス、是日、高田ヲ發シ、關山驛ニ抵ル、越後諸藩ノ重臣之ニ從フ。

○是ヨリ先、榊原政敬書ヲ朝ニ上リテ、德川慶喜ノ爲メニ哀ヲ乞フ、是ニ至リ督府ニ就キテ其請ヲ申ヌ。

○是ヨリ先、督府、高橋某(竹之助、越後郷士、)ノ請ヲ聽シ、義徒ヲ糾合シテ以テ官軍ヲ迎ヘシム、是日、某其徒ト共ニ高田ノ行營ニ至ル。

二十日、二督、關山驛ヲ發シ、牟禮驛ニ抵ル。

二十一日、二督、牟禮驛ヲ發シ、善光寺驛ニ抵ル。

○軍防局、督府ニ牒シテ部下ノ兵員ヲ問フ、督府復書シテ見兵ノ數ヲ報ス。

二十二日、二督、善光寺驛ヲ發シ、坂木驛ニ抵ル。

○軍防局、書ヲ二督ニ致シ、車駕親征、昨日ヲ以テ京師ヲ發セシヲ報ス。

○是ヨリ先、督府、舊新潟奉行白石千別(下總守)ヲ高田ノ行營ニ召ス、時ニ千別疾アリ、此日、僚吏田中光儀(廉太郎、)代リテ、坂木驛ノ行營ニ至ル、乃チ命シテ其舊管地ノ簿書ヲ齎シ、入京シテ之ヲ上ラシム、光儀、德川慶喜ニ告テ、命ヲ奉セント請フ、之ヲ聽ス、又之光儀ニ令スル者ヲ越後舊代官、及ヒ舊旗下士ニ令シ、光儀ヲシテ之ヲ傳達セシム。

○二十四日、二督、坂木驛ヲ發シ、上田(松平忠禮ノ治所、)ニ抵ル。

二十五日、安藝藩兵軍令ヲ犯ス者アルヲ以テ、督府、本藩ニ令シテ、其罪狀ヲ按檢セシム、本藩乃チ犯者ヲ罰ス。

○二十六日、二督、上田ヲ發シ、小諸(牧野康濟ノ治所、)ニ抵ル。

○土御門氏ノ臣田中某(內藏介、)等、小諸傍近ヲ横行シ、良民ノ妨害スルヲ以テ、督府、小諸藩ニ令シテ之ヲ緝捕シ、京師ニ護送セシム。

二十七日、二督、小諸ヲ發シ、輕井澤驛ニ抵ル。

二十八日、二督、輕井澤驛ヲ發シ、松井田驛ニ抵ル。

二十九日、二督、松井田驛ヲ發シ、安中(板倉勝殷ノ治所、)ニ抵ル。

晦日、二督、安中ヲ發シ、高崎(大河內輝照ノ治所、)ニ抵ル。

第四　自明治元年四月朔日至同十八日

○四月朔日、二督、高崎ヲ發シ、熊谷驛ニ抵ル。

○督府、青山幸宜、勤王ノ實蹟アルヲ以テ、其越前ノ管地ヲ復ス。

二日、二督、熊谷驛ヲ發シ、大宮驛ニ抵ル。

三日、二督、大宮驛ヲ發シ、千住驛ニ抵ル。

四日、二督、千住驛ヲ發シ、江戸ニ入リ、淺草東本願寺ニ次ス、諸藩兵ヲ部署シ、緩急互ニ相救應セシム、又北陸道諸藩ニ令シテ、軍糧ヲ購買シ、之ヲ行營ニ運輸セシメ、且藩兵及ヒ、銃器ノ江戸藩邸ニ在ル者ヲ徵ス。

○肥前藩兵（六百人）江戸ニ至ル。（○北陸道先鋒記鍋島直大家記）

八日、軍防局、軍行規約及ヒ饋餉ノ費額ヲ定メテ、督府ニ牒報ス。

○是ヨリ先、東海道先鋒總督、勅旨ヲ傳ヘテ、徳川慶喜ヲ水戸ニ幽ス、是ニ至リ慶喜、江戸ヲ去リテ、水戸ニ赴カントス、途千住驛ヲ經ルヲ以テ、督府、諸軍ヲ戒飭シテ、粗暴ノ擧動アルコト勿ラシム。

九日、二督、移テ本莊藩邸（淺草ニ在リ）ニ陣ス、明日、傍近庶民ニ諭令シテ各其堵ニ安セシム。

十一日、督府、土井利與（大炊頭、古河藩主）、秋元禮朝（但馬守、館林藩主）ニ命シテ、警急ノ際、官軍ノ糧餉ヲ措辦セシム。

○督府、柳澤光昭（伊勢守、黒川藩主）ニ命シテ、速ニ京師ニ至ラシム、時ニ光昭疾アリ、因リテ子光邦（伊織）ヲシテ代リ赴カシム。

十二日夜、副總督、諸藩兵營ヲ巡視シ、兵士ヲ犒フ。

十三日、徳川氏、歩兵ノ歸順ヲ背セサル者、田安門傍近ニ屯集スルヲ以テ、東海道先鋒總督、將サニ之ヲ招諭シ、如シ命ニ從ハサレハ、則チ之ヲ勦討セントス、因テ督府ニ移牒シ、兵ヲ要地ニ配置シテ、不虞ニ備ヘシム、督府、乃チ諸藩兵ヲ分チテ、昌平、兩國二橋間ヲ扼守セシム、既ニシテ歩兵、順ニ歸スルヲ以テ、其兵ヲ撤ス。

○兇徒、東橋傍近ニ潜匿スルノ聞アルヲ以テ、督府、高田藩ヲ遣シテ、東橋ヲ扼守セシム。

○是ヨリ先、古屋某（作左衛門、舊幕府歩兵奉行）、其黨千八百許人ト江戸ヲ去テ、會津ニ走ル、既ニシテ越後ニ入リ、與板ヲ劫掠ス、是日、與板藩、書ヲ督府ニ上テ、其狀ヲ申ス。

十四日、松平容保（肥後守、會津藩主）官軍ニ抗シ、其勢益猖獗ナルノ報アリ、是ニ於テ、薩摩、長門、加賀、富山、府中（長門）、五藩ニ令シ、兵ヲ

越後ニ出シテ、討會官軍ニ應援セシメ、加賀、越前、郡山、小濱四藩ニ、薩摩、長門二藩兵ノ供億ヲ措辨セシム、尋テ新發田、村上、村松、與板、三根山、淸崎、黑川、三日市八藩ニ令シ、薩摩藩兵等ト共ニ容保ヲ討セシム。

十六日、大總督、昨日ヲ以テ江戸ニ入リ、增上寺ニ次ス、是日、諸道總督、及ヒ參謀ヲ行營ニ會シテ、軍事ヲ議ス、二督之ニ蒞ム。

十七日、東海道先鋒總督、督府ニ移牒シテ、江戸城外郭諸門ノ譏察ヲ弛ムルヲ報ス。

○大總督、將サニ明日ヲ以テ、牙營ヲ江戸城ニ移サントス、東海道先鋒總督、乃チ江戸城諸門警守ノ部署ヲ定メテ、督府ニ牒報ス、督府、乃チ諸藩兵ヲ分チテ、昌平、筋違等諸門ヲ警守セシム、既ニシテ大總督、故アリテ移營ノ期ヲ延フ。

十八日、大總督府、二督ニ令シテ、牙營ヲ東叡山ニ移サシム、故アリ、遂ニ果サス。

○督府、高田藩兵ニ命シテ、千住小塚原ニ移屯セシム。

第五　自明治元年四月十九日　至同　閏同　十八日

四月十九日、北陸道先鋒總督兼鎭撫使高倉永祜ヲ以テ、北陸道鎭撫總督兼會津征討總督ト爲シ、黑田清隆了介、薩摩藩士、山縣有朋狂介、長門藩士、ヲ參謀ト爲シ、參謀津田信弘、小林隆麟ヲ更テ、佐渡鎭撫使參謀ト爲シ、監察小笠原貞淸ヲ罷ム、又新潟裁判所ヲ置キ、北陸道先鋒副總督兼鎭撫使四條隆平ヲ、新潟裁判所總督兼北陸道鎭撫副總督ト爲ス。

二十日、大總督府、德川氏處分ノ議ヲ諸道總督ニ下ス、督府、參謀意見書ヲ上ル。

二十一日、大總督、牙營ヲ江戸城ニ移シ、諸道總督及ヒ、參謀ヲ會シテ軍事ヲ議ス、二督、之ニ蒞ム。

二十二日、館林藩、書ヲ督府ニ上テ、境封有虞ノ狀ヲ陳シ、糧餉措辨ノ任ヲ解カンコトヲ請フ。

二十三日、德川氏、臣隸ノ歸順ヲ肯セサル者、千住驛ニ嘯聚スルヲ以テ、督府、小濱藩兵ヲ遣シテ、之ヲ招諭セシム、藩兵至レハ、則チ其徒、既ニ東海道官軍ノ軍門ニ降ル、明日、又藩兵ヲ小梅村ニ發シテ、其餘黨ヲ招諭セシム、餘黨、路ヲ轉シテ他ニ赴ク。

二十五日、入道公現親王、輪王寺宮、使ヲ督府ニ遣シテ諸軍ヲ勞フ。

二十八日、軍防局、書ヲ督府ニ致シ、越後人吉田某省之進、等、北越ノ賊警ヲ報スルノ功アルヲ以テ、北陸道官軍ノ嚮導ヲ命スル

ヲ報ス。
○海軍先鋒總督、督府ニ移牒シ、關宿（下總）、栗橋（武藏）、地方物情騷擾スルヲ以テ、速ニ兵ヲ發シテ海軍ニ應援シ、之ヲ鎭輯センコトヲ請フ、督府、乃チ部兵ヲ發シテ之ニ赴カシム、東山道先鋒總督モ亦、書ヲ致シテ、再ヒ山道ニ赴クヲ報シ、且江戸水路ノ守ヲ嚴ニセンコトヲ請フ。
二十九日、是ヨリ先、督府、肥後藩兵ニ命シテ、東橋ヲ警守セシム、是日、之ヲ罷メ、小濱藩兵ヲ以テ之ニ代フ、又小濱藩兵ヲ小梅村ニ遣シテ、柳島傍近通行ノ船舶ヲ譏察セシム。
是月、是ヨリ先、東山道先鋒總督、横瀨某（侍從、高家、舊）ノ勤王ノ請ヲ聽シ、命シテ其實効ヲ奏セシム、是ニ至リ、某、督府ニ就キテ京師ニ至リ、王事ニ勤メンコトヲ請フ。
閏四月朔日、督府、榊原政敬ノ形跡疑フヘキヲ以テ、藩兵ノ麾下ニ在ル者ヲ罷歸ス。
二日、督府、諸門警守ノ諸藩ニ令シテ、其守兵ヲ減セシム。
三日、二督、移テ越前藩邸（常盤橋門内）ニ陣ス。
○東海道官軍、下總ノ賊ト戰端ヲ開クヲ以テ、督府、小濱藩ニ令シテ、小梅村ノ守兵ヲ增加セシメ、又安藝、肥前、小濱三藩兵ヲ發シテ、新宿驛ヲ扼守セシム。
○是ヨリ先、督府、堀直賀（佐京亮、村松藩主）ニ命シ、期ヲ刻シテ京師ニ至ラシム、是ニ至リ直賀、書ヲ上リ、浮浪ノ徒、越後地方ヲ劫掠シ、邑民騷擾スルヲ以テ、姑ク入覲ノ期ヲ緩クシ、管內ヲ鎭撫センコトヲ請フ、之ヲ聽ス。
四日、是ヨリ先、督府、牧野忠泰（伊勢守、三根山藩主）ニ命シテ京師ニ至ラシム、是ニ至リ忠泰、書ヲ上リ、浮浪ノ徒、封疆ニ出沒シ、邑民騷擾スルヲ以テ、藩兵ニ在リテ鎭撫ノ事ニ服シ、老臣ヲシテ代リテ入覲セシメンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。
五日、江戸物情騷擾スルヲ以テ、大總督府、二督ヲ戒メテ不虞ニ備ヘシム。
○是ヨリ先、古屋某（作左衞門）等、越後ヨリ信濃ニ入リ、飯山（本多助成ノ治所）城下ニ逈ル、尾張、松代等、諸藩兵ヲ發シテ之ヲ討シ、北クルヲ追テ越後ニ入ル、東山道總督、乃チ監軍岩村高俊（精一郎、土佐藩士）ヲ遣シテ、諸藩兵ヲ督セシム、是日、書ヲ二督ニ致シテ、其狀ヲ報シ、且高田藩ノ形跡疑フヘキヲ以テ、速ニ軍監ヲ派遣シ、本道軍監ト協議シテ、之カ區處ヲ爲サシメンコトヲ請フ。
○是ヨリ先、古屋某（作左衞門）等高田ニ至ル、榊原政敬、之ヲ其封內ニ居ク、既ニシテ某等、飯山ニ入リ、尾張、松代等諸藩兵ト戰ヒ、敗レ還ル、是ニ於テ政敬、藩兵ヲ發シ、某等ヲ川浦村ニ要擊

シテ之ヲ敗ル、是日、書ヲ督府ニ上テ、其狀ヲ申ス、督府、詰ルニ賊徒ヲ封内ニ納ル、ノ亡狀ヲ以テス、政敬、答辨書ヲ上ル。

七日、督府、榊原政敬、討賊ノ功アルヲ以テ、其嫌疑ヲ解キ、命シテ益勤王ノ實効ヲ奏セシム。

八日、是ヨリ先、督府、内藤信民紀伊守、村上藩主、ニ命シテ、京師ニ至ラシム、信民、封疆會津ニ接近シ、邑民騷擾スルノ虞アルヲ以テ、藩地ニ在リテ鎭撫ノ事ニ服シ、重臣ヲシテ代リテ代覲セシメント請フ、之ヲ聽ス、是ニ至リ信民ノ家臣書ヲ上リ、信民、松平容保追討ノ朝命ヲ拜セシヲ以テ、姑ク重臣代覲ノ期ヲ緩クセント請フ。

九日、大總督府、肥前藩兵ノ二督ニ隷スル者ヲ以テ、莊内征討應援ト爲ス。

○督府、本道諸藩ニ令シテ、嚮キニ購辨スル所ノ軍糧ノ價額ヲ上申セシム、尋テ越後諸藩、連署上書シテ、其糧ヲ献セント請フ、之ヲ聽ス。

十二日、督府、小濱藩兵ヲ千住驛ニ遣シテ、行旅及ヒ船舶ノ出入ヲ譏察セシム。

十三日、二督及ヒ参謀、書ヲ大總督府ニ致シテ、軍國事宜ヲ陳ス。

十五日、兇徒、江戸市中ヲ劫掠スルヲ以テ、大總督府、二督ニ令シ、部下、諸藩兵ヲ分チテ、市中ヲ巡邏セシム。

十八日、二督、再ヒ越後ニ赴カントス、因テ古河藩ノ糧餉措辨ヲ罷ム、又越後諸藩兵、及ヒ重臣ノ扈從ヲ罷メテ、江戸ニ駐在セシム、尋テ重臣ヲ召見シテ、其勞ヲ慰ス。

第六　自明治元年閏四月十九日　至同　五月二日

閏四月十九日、是ヨリ先、督府、舊佐渡奉行鈴木重嶺兵庫頭、ヲ召ス、僚吏竹川富義龍之助、代リ至ル、乃チ命シテ其舊管地ノ簿書ヲ齎シ、入京シテ之ヲ上ラシム、是日、重嶺江戸ノ行營ニ詣リテ之ヲ上ル。

○参謀黒田清隆、山縣有朋、薩摩、長門、府中長門、三藩兵ヲ率キテ高田ニ至ル、加賀、富山二藩兵モ亦來リ會ス、清隆等、乃チ高田藩ニ令シ、兵ヲ發シテ、其封疆ヲ扼守セシム、時ニ東山道監軍岩村高俊、尾張、松代、松本、上田、高遠、高島、飯山、田野口、岩村田、飯田、須坂、椎谷十二藩兵ヲ督シテ、荒井驛ニ次ス、會津、桑名ノ兵、及ヒ舊幕府水戸藩逋逃ノ徒等、亦傍近各處ニ屯據シテ、以テ官軍ニ抗ス、清隆等、乃チ高俊ト議シ、兩道ノ軍ヲ合シテ、越後ノ賊徒ヲ剿蕩セントス、因テ諸藩兵ヲ部署シ、薩摩、尾

張以下十六藩兵ハ、山道ヨリ魚沼郡ニ向ヒ、薩摩、長門以下六藩兵ハ、海道ヨリ刈羽郡ニ進ム。

二十四日、關八州監察史三條實美、（大納言）江戸城ニ至リ、大總督ト共ニ諸道總督ヲ會シテ軍事ヲ議ス、二督、之ニ蒞ム。

二十五日、二督、江戸ヲ發シ、海路越後ニ赴ク、佐渡鎭撫使參謀津田信弘、小林隆麟及ヒ小濱藩兵之ニ屬ス。

○是ヨリ先、督府、柳澤德忠（彰太郎、三日市藩主）ニ命シテ京師ニ至ラシム、是ニ至リ德忠書ヲ上リ、封疆騷擾スルヲ以テ、藩地ニ在リテ鎭撫ノ事ニ服シ、弟信恒（彌次郎）ヲシテ代覲セシメンコトヲ請フ、總督、再ヒ越後ニ赴カントスルヲ以テ、令シテ後命ヲ俟タシム。

二十六日、山道官軍兵ヲ分チ、一ハ小出島驛ニ向ヒ、一ハ賊兵ヲ芋坂、及ヒ雪嶺ニ破リ、明日、進テ小千谷驛ヲ取ル。

二十七日、山道官軍、曉雨ニ乘シテ魚沼川ヲ渡リ、賊兵ヲ小出島驛、及ヒ四日市村ニ擊テ、之ヲ破ル、海道官軍モ、亦賊兵ヲ鯨波驛ニ擊ツ、賊退テ驛外ノ險ニ據テ抗拒ス、官軍克タスシテ退ク、明日、賊兵守ヲ棄テ遁逃ス、官軍、乃チ進テ柏崎驛ニ入リ、賊ノ斥候兵ヲ惡田村ニ擊テ之ヲ走ラス。

○松平容保、重ネテ兵ヲ長岡、及ヒ與板ニ發シテ官軍ニ抗ス。

是月、是ヨリ先、督府、安藝藩兵ニ命シテ、綾瀨橋ヲ警守セシム、是ニ至リ之ヲ罷ム。

五月二日、督府、諸藩會議所ヲ小千谷驛ニ設ケ、軍事ヲ議ス。

○督府ノ長岡藩兵ヲ徵スルヤ、牧野忠訓依違シテ兵ヲ發セス、既ニシテ其老臣金穀ヲ獻シテ、出兵後期ノ罪ヲ贖ハンコトヲ請フ、亦果サス、是ニ至リ忠訓老臣ヲ軍門ニ遣シ、書ヲ上リテ國情ヲ陳訴ス、督府之ヲ卻ケ、軍ヲ進メテ忠訓ヲ討ス、忠訓、乃チ兵ヲ封疆ニ配置シテ官軍ニ抗ス。

第七　自明治元年五月三日　至同　十三日

五月三日、山道官軍兵ヲ分チ、一ハ賊兵ヲ片貝村、及ビ藥師嶺ニ破リ、一ハ榎嶺ノ險ヲ奪フ。

六日、東山道第二軍總督西園寺公望（中納言）ヲ以テ、二等陸軍將ト爲シ、越後ニ赴カシム、尋テ公望徵兵（一小隊）ヲ率ヰテ、京師ヲ發ス。

○賊兵、椎谷藩ヲ脅迫ス、時ニ藩主堀之美（右京亮）京師ニ在リ、留守ノ老臣急ヲ海道官軍ニ報シ、援ヲ乞フ、是日、官軍兵ヲ分チ、一ハ賊兵ヲ椎谷ニ擊ツ、藩兵之ニ應ス、賊兵潰エ走ル、一ハ賊兵ヲ與三、吉井、曾地、赤田等諸村ニ擊テ之ヲ破ル。

七日、二督、今町驛ニ抵ル。

八日、佐渡鎭撫使參謀津田信弘ヲ以テ、復タ北陸道參謀ト爲ス。

○二督、高田ニ抵リ、小濱藩兵ノ從衞ヲ罷メテ本藩ニ遣歸ス、是ヨリ先、督府、時山某直八、長門藩士ヲ以テ假參謀ト爲ス、是日、某、行營ニ詣テ、賊兵猖獗官軍苦戰ノ狀ヲ報ス、新潟裁判所判事安井顯比和介、加賀藩士等モ亦來候ス。

九日、督府、椎谷藩ニ命シテ、宮川驛ヲ警守セシム。

十日、山道官軍小千谷驛ニ次シ、兵ヲ分テ榎嶺ヲ扼守ス、是日、賊兵大擧シテ榎嶺ヲ襲フ、官軍防戰殆ト利アラス、是ニ於テ、小千谷ノ官軍、再ヒ兵ヲ分チ、一ハ榎嶺ニ赴援シ、一ハ三佛生村ニ據リ、信濃川ヲ隔テ之ニ應援ス、賊兵益猖獗、官軍勢甚タ急ナリ、明日、遂ニ退テ横渡村山上ニ保ス、賊進テ榎嶺ニ據ル、是ヨリ官軍横渡、稗生等諸村ノ險要ヲ占據シ、寨ヲ列ネ之ヲ守ル、賊亦榎嶺、野邊山等ニ分據シ、官軍ト對壘シ、日夜戰爭止マス、三佛生ノ官軍、亦分テ浦村ニ據リ、妙見、前島等諸村ノ賊ト、河ヲ挾テ相戰フ。

十三日、山道官軍、賊ト榎嶺等ニ相持スルコト數日、是日、進テ賊兵ヲ旭山ニ攻メ、其數壘ヲ拔ク、賊兵屈セス、險ニ據テ抗拒ス、假參謀時山某直八之ニ死ス、官軍遂ニ克タスシテ退ク。

第八　自明治元年五月十四日 至同 二十日

五月十四日、督府、井伊直安ニ命シテ兵ヲ出雲崎口ニ出サシム。

○海道官軍、椎谷藩兵ヲ以テ先鋒ト爲シ、路ヲ分テ、賊兵ヲ藥師峠、一坪村、石地驛等ニ破リ、明日進テ出雲崎驛ヲ取ル。

○堀直賀、兵ヲ長岡ニ發シテ、官軍ニ抗ス。

十五日、稗生、中山等諸村ノ民軍、役ニ疲ルヽヲ以テ、東山道監軍岩村高俊、尾張、松代以下十二藩兵ニ令シテ、爾後之ヲ使役スルコト勿ラシム。

○是ヨリ先、奥羽諸藩ノ老臣、白石陸奥ニ會シテ、合從ノ事ヲ謀リ、書ヲ朝ニ上リ、松平容保、酒井忠篤左衞門、莊内藩主ノ罪ヲ釋サンコトヲ請フ、是ニ至リ上杉齊憲彈正大弼、米澤藩主、兵ヲ越後ニ發シ、仙臺人、會津人等ト諸藩ヲ要シテ、連衡ノ事ヲ謀ル、新發田、村上以下五藩ノ老臣、連署シテ督府ニ上書シ、容保ノ罪ヲ釋サンコトヲ請フ、齊憲ノ老臣モ亦罪ヲ參謀ニ致シテ、討會ノ軍ヲ止メント請フ、報セス、齊憲乃チ意ヲ決シテ、官軍ニ抗ス、尋テ督府、五藩ノ老臣ヲ召ス、至ラス。

十六日、督府、書ヲ參謀黑田清隆、山縣有朋ニ下シテ、其戰功ヲ

賞シ、且之ヲ獎勵ス、又佐渡鎭撫使參謀小林隆鱗ヲ柏崎驛ニ遣シ、清隆等、共ニ諸軍ヲ犒ハシム。

○山道官軍、賊ト榎嶺傍近ニ相持シ、海道官軍ヲ促シテ、速ニ長岡城ヲ進撃セシム、海道ノ軍乃チ大島、槇下等諸村ニ分據シ、長岡傍近ノ賊ト信濃川ヲ挾テ相戰フ、是ヨリ交戰數日ニ亘ル。

十七日、榊原政敬行營ニ詣テ、二督ノ起居ヲ候シ、且徳川存錄ノ恩ヲ謝ス。

十八日、督府、絲魚川藩ノ討會出兵ヲ止メ、命シテ管内ノ守備ヲ嚴ニセシム、本藩乃チ軍須ヲ獻ス、督府又書ヲ星野某（藤兵衞）ニ下シテ、軍糧ヲ官軍ニ供給スルノ功ヲ賞ス。

○東山道監軍岩村高俊、尾張、高田等諸藩ニ令シテ、兵士以下ノ死傷者ヲ錄申セシム。

○酒井忠篤、兵ヲ越後ニ發シテ、官軍ニ抗ス。

十九日、北陸道鎭撫總督兼會津征討總督高倉永祜ヲ以テ、奥羽征討越後口總督ト爲ス。

○海道官軍、大島、槇下等諸村ニ據リ、長岡傍近ノ賊ト相持スルコト數日、是日、曉霧ニ乘シテ信濃川ヲ渡リ、進テ長岡ニ薄ル、賊兵殊死シテ戰フ、官軍奮撃シテ之ヲ破リ、遂ニ長岡城ヲ陷ル、牧野忠訓會津ニ走ル、榎嶺傍近ノ賊、會川口ニ突出ス、山道官軍撃テ之ヲ除ク、賊長岡城陷ルト聞キ、夜ニ乘シテ遠ク遁ル、明日、官軍進テ長岡ニ至ル、是ニ於テ山、海兩道ノ官軍相合ス、是ヨリ官軍、長岡傍近ノ要衝ニ分據シ、以テ賊軍ト相持ス。

二十日、大總督府、書ヲ二督ニ致シテ、東叡山賊徒掃蕩ノ狀ヲ報シ、速ニ越後戡定ノ功ヲ奏セシム。

第九 自明治元年五月二十一日 至同 二十七日

五月二十一日、是ヨリ先、朝廷、薩摩、長門二藩ニ令シ、軍艦ヲ越後海ニ發シテ、陸地ノ官軍ニ應援シ、筑前藩ニ石炭ヲ運輸セシメ、是日、乾行（薩摩藩艦）、丁卯（長門藩艦）、二艦、筑前藩ノ汽船ト共ニ今町港ニ至リ、賊徒寺泊驛傍近ニ屯集スト聞キ、直チニ之ニ赴ク。

二十二日、三等陸軍將西園寺公望、今町港ニ抵ル、二督使ヲ遣シテ之ヲ勞ス。

二十三日、三等陸軍將西園寺公望、高田ニ抵リ、徴兵ヲ發シテ、與板ニ赴援セシム。

二十四日、長岡ノ戰、長門藩兵先登、功諸軍ニ冠タリ、是日、督府、特ニ書ヲ其隊長三好某（軍太郎）ニ下シテ、其戰功ヲ賞ス、又假參謀時山某（直八）ノ戰死ヲ弔シ、金ヲ諸藩兵ノ死傷者ニ頒ツ。

○官軍、賊兵ヲ杉澤村ニ撃テ之ヲ破ル。

○官艦、賊船ヲ寺泊驛近海ニ撃ツ、賊船ヲ火キ、陸ニ上テ走ル、官艦、進テ沿海ノ賊營ヲ砲撃ス、賊兵應セス、明日、官軍書ヲ發シテ、驛民ノ賊徒ニ通スルヲ譴メ、速ニ賊ヲ逐ヒ罪ヲ贖ハシム。

○賊軍加茂驛ニ會シ、大ニ進取ヲ議ス、乃チ兵ヲ分チテ三ト爲シ、會津、米澤、長岡、村松ノ兵、及ヒ舊幕府逋逃ノ徒ハ、長岡口ニ向ヒ、會津、桑名、村上、上山ノ兵ハ與板口ニ赴キ、會津、莊内、山形、三根山ノ兵、及ヒ水戸藩逋逃ノ徒ハ、出雲崎口ニ進ム。

二十五日、督府、丸岡、大野、鯖江三藩ニ命シテ彈藥ヲ供給セシム。

○官軍、賊兵ヲ赤坂村ニ撃テ之ヲ破ル。

二十六日、官軍、賊ト杉澤、文納、人面、赤坂、大面、指出等諸村及ヒ小栗山ニ戰フ、迭ニ勝敗アリ、是ヨリ交戰數日ニ亘ル。

○内藤信民、兵一小隊ヲ地藏堂驛ニ發シテ、官軍ニ抗ス。（若松記）

二十七日、參謀津田信弘、佐渡鎭撫使參謀小林隆麟ヲ罷ム。

○大總督府、軍監木呂子元孝（善兵衛、館林藩士、）ヲ越後ニ遣シ、耆ヲ薩摩、長門以下諸藩兵ニ下シテ、其戰捷ヲ賞ス。

○督府、越前藩ニ命シテ、彈藥ヲ供給セシム。

○賊兵、金ヶ崎村ヲ襲フ、與板藩兵邀ヘ應フ、官軍之ヲ援ク、利アラス、元與板村ニ退守ス、明日官軍藩兵ト金ヶ崎、鹽井二道ヨリ進討シ、別軍出雲崎驛ヨリ進テ島崎口ノ賊ヲ撃ツ、亦利アラス、退テ與板及ヒ出雲崎ニ保ス、賊進テ與板ニ薄ル、官軍勢甚タ急ナリ、既ニシテ後軍來リ援ケ、翌曉撃テ之ヲ卻ク、是ヨリ官軍與板傍近ニ分據シ、信濃川東岸ノ賊ト對壘シ、日夜戰爭止マス。

○水野忠弘、（直次郎、後和泉守、山形藩主、）兵ヲ越後ニ發シテ、官軍ニ抗ス。

第十　自明治元年五月二十八日　至同　六月　二　日

五月二十八日、督府、諸藩兵ニ令シテ、其鹵掠ヲ戒ム。

○牧野忠泰、討會ノ朝命ヲ拜スルヲ以テ、使ヲ軍門ニ遣シ、藩兵ヲ發シテ官軍ニ屬セシメンコトヲ請フ、時ニ忠泰、賊徒ノ要スル所ト爲リ、密ニ兵ヲ寺泊口ニ出シテ、官軍ニ抗ス、督府乃チ其使ヲ高田藩ニ拘シ、後命ヲ俟タシム。

是ヨリ先、朝廷、大垣藩及ヒ其支藩ニ命シテ、兵ヲ越後ニ出サシム、是日、二藩兵高田ニ至ル。

○松平信庸、（伊豆守、上山藩主、）兵ヲ越後ニ發シテ、官軍ニ抗ス。

二十九日、新潟裁判所ヲ改テ越後府ト爲ス。宮中日記

○三等陸軍將西園寺公望、高田ニ至リシヲ以テ、副總督、軍務ヲ總督及ヒ公望ニ委ネテ、專ラ民政ヲ掌ル、是日、公望、勅旨ヲ諸藩兵ニ傳ヘテ、其戰勞ヲ慰シ、且詔ヲ奉シ、來リテ諸軍ヲ統督スルヲ告ク。

○乾行、丁卯二艦、佐渡小木港ニ至リ、舊佐渡奉行所ノ屬吏中山信安修助ヲ召シテ、賊徒征討ノ朝旨ヲ宣諭シ、又舊桑名藩運輸船ノ港内ニ在ル者ヲ收ム。

是月、關八州監察使、東山道監軍岩村高俊ヲ以テ、其軍監ト爲ス。

○大河内輝照、右京亮、高崎藩主、兵ヲ發シテ、其管地ノ越後ニ在ル者ヲ鎭セシム、藩兵進テ小千谷驛ニ至ル、督府、命シテ本驛ヲ警守セシム。

○富山藩隊長堀某丈之助、誤テ無禮ヲ官軍嚮導吉田某省之進、ニ加フルヲ以テ、刎腹シテ罪ヲ謝ス、本藩乃チ督府ニ具狀シテ裁ヲ乞フ、令シテ其罪ヲ問ハス。

○督府、軍隊所屬ノ役夫ノ人員ヲ定ム。

六月朔日、副總督、將サニ諸藩兵營ヲ巡視セントス、是日、高田ヲ發シ、柏崎驛ニ抵ル。

○舊幕府及ヒ會津、桑名等ノ逋逃者、交來リテ新潟ヲ脅迫ス、ト舊新潟奉行田中光儀、力之ヲ制スル能ハス、因テ本廳ノ事務ヲ米澤人ニ交付ス、是日、乾行、丁卯二艦新潟港ニ至リ、光儀ヲ召ス、光儀至ラス、書ヲ致シテ廳務ヲ米澤人ニ交付セシ狀ヲ報シ、又書ヲ督府ニ上リテ、新潟開港事宜ヲ陳ス、尋テ仙臺、會津、莊内、二本松人等新潟ニ來會シ、米澤人ト共ニ廳務ヲ管ス。

○賊兵、赤坂嶺及堀溝、片桐、梅田等諸村ヲ襲フ、官軍邀ヘ擊テ之ヲ破ル、賊又脇町驛ニ逼ル、亦擊テ之ヲ卻ク。

二日、督府、驛傳規則ヲ定メ、之ヲ本道各驛、及ヒ出征諸藩兵ニ布告ス。

○官軍、進テ島崎村ニ至リ、賊兵ヲ北野村ニ擊ツ、賊險ニ據テ抗拒シ、別ニ兵ヲ遶ラシテ、官軍ノ背ヲ衝ク、官軍利アラス、軍ヲ出雲崎驛ニ收ム、是日、賊兵、路ヲ分テ今町、中島二驛及ヒ坂井、片桐、梅田等諸村ヲ襲フ、官軍利アラス、見附驛ニ退守ス、尋テ見附モ亦孤立守リ難キヲ以テ、軍ヲ長岡傍近ニ收ム、是ヨリ官軍、出雲崎以東六十里越口ニ至ルノ各處ニ分據シ、以テ賊兵ノ衝路ヲ扼ス、賊亦米澤老臣千坂高雅太郎左衛門、ヲ推シテ總督ト爲シ、甘粕繼成備後、ヲ參謀ト爲シ、山田驛以東六十里越口ニ至ルノ要衝ヲ占略シ、以テ官軍ト對壘ス、是ニ於テ兩軍ノ砲墩

櫛比二十許里ニ亘リ、日夜戰爭、迭ニ勝敗アリ。
○賊兵、熊袋村ヲ侵ス、官軍撃テ、之ヲ卻ク。

第十一　自明治元年六月三日 至同十七日

六月三日、上杉齊憲、越後ニ至リ、下關驛ニ次シ、賊軍ヲ督勵ス。
四日、是ヨリ先、朝廷、松平茂昭ニ命シ、兵ヲ率ヰテ越後ニ赴カシム、適、茂昭疾ニ罹リ、遷延シテ未タ發セス、是日、督府、書ヲ茂昭ニ致シテ、其啓行ヲ促ス、茂昭、復書シテ疾ヲ謝シ、姑ク行期ヲ緩クセンコトヲ請フ、尋テ茂昭再ヒ書ヲ致シテ、先鋒兵ヲ發スルヲ申ス。
五日、副總督、柏崎驛ヲ發シ、高田ニ歸ル。
七日、是ヨリ先、朝廷、大垣藩ニ令シ、藩兵ノ越後ニ在ル者ヲ以テ、東山道先鋒ニ應援セシム、是ニ至リ、督府、見兵寡少ナルヲ以テ、朝ニ請ヒテ暫ク之ヲ止ム。
○副總督、舊幕府及ヒ舊會津、桑名領地ノ越後ニ在ル者ノ、本年田租ノ半ヲ免シ、書ヲ內國事務局ニ致シテ、其狀ヲ申シ、且紙幣ヲ部民ノ兵禍ニ罹リシ者ニ貸付センコトヲ請フ。
○賊兵、十二潟、筒場二村ニ逼ル、官軍、池島、大口二村ニ邀撃シテ之ヲ破ル、是ヨリ賊兵數來リ襲フ、官軍撃テ之ヲ卻ク。
八日、官軍、賊兵ヲ赤坂山中ニ撃テ、之ヲ破ル。
○賊兵、路ヲ分テ森立嶺及ヒ比禮嶺ヲ襲フ、官軍、邀ヘ撃テ之ヲ破ル、賊又上鳰嶺ニ逼ル、亦撃テ之ヲ卻ク。
十日、伊達慶邦、（陸奥守、仙臺藩主、）兵（四小隊、）ヲ越後ニ發シテ、官軍ニ抗ス。（仙臺藩記、奥越戰爭日記）
十二日、奥羽鎮撫副總督澤爲量、（三位、）使ヲ督府ニ遣シテ急ヲ報シ、援ヲ乞フ、督府、乃チ書ヲ太政官及ヒ大總督府ニ致シテ、其狀ヲ報シ、且軍艦ヲ秋田（出羽、）近海ニ發遣センコトヲ請フ。
○賊兵、久田村及ヒ方丈山ヲ襲フ、官軍、邀ヘ撃テ之ヲ卻ク。
十三日、督府、高田、松代二藩ノ老臣ヲ召シテ、藩兵ノ戰功ヲ賞ス。
十四日、軍務官、知事、嘉彰親王（仁和寺宮、）ヲ拜シテ、會津征討越後口總督ト爲シ、（知事故ノ如シ、）三等陸軍將西園寺公望、壬生基修（左衞門權佐）ヲ參謀ト爲ス。（二人軍將故ノ如シ○宮中日記、太政官日誌）
○總督、越後口參謀西園寺公望ト共ニ戰地ヲ巡視セントス、是日、高田ヲ發シ、柏崎驛ニ抵ル。
○督府、加賀藩ニ令シテ、軍須ヲ供給セシム。
○賊兵、曉ニ乘シテ、赤坂山及ヒ龜崎村ヲ襲フ、官軍、防戰一晝

夜、遂ニ撃テ之ヲ破ル、賊又上鳩嶺及ヒ十二潟、筒場、大黒、川邊等諸村ヲ侵ス、亦撃テ之ヲ御ク。

○溝口直正、賊徒ノ脅迫スル所ト爲リ、兵ヲ見附驛ニ發シテ、官軍ニ抗ス。

十七日、總督、越後口參謀西園寺公望ト共ニ、關原驛ニ抵リ、加賀、薩摩以下諸藩兵ノ戰功ヲ賞シ、且之ヲ犒フ。

○賊軍、將サニ長岡城ヲ回復セントスルノ聞アリ、督府、乃チ長岡傍近ノ諸軍ヲ戒メテ、其守備ヲ嚴ニセシム。

○是ヨリ先、乾行、丁卯二艦、出雲崎驛近海ニ碇泊ス、既ニシテ佐渡小木港ニ至ル、是ニ至リ陸地ノ官軍急ヲ二艦ニ報シ、應援ヲ乞フ、丁卯艦乃チ柏崎港ニ赴ク、乾行艦ハ機關壞損スルヲ以テ、留リテ修理ヲ加フ。

第十二 自明治元年六月十八日 至同二十七日

六月十八日、總督、長岡ニ抵リ城中ヲ檢ス、既ニシテ關原驛ニ歸ル。

○督府、從軍諸藩ニ令シテ、兵員及ヒ其屯所ヲ錄上セシム。

○督府、高田藩司令士前田某稱之ノ、十四日ノ役守ヲ棄テ遁逃スルノ罪ヲ譴メテ、禁錮ニ處ス、尋テ、之ヲ卒伍ニ貶シ、立功自贖セシム。

十九日、總督、柏崎驛ニ抵ル。

○官軍、海陸並進テ、賊兵ヲ山田村傍近ニ撃ツ、賊兵潰エ走ル、是日、賊復タ十二潟、筒場二村ヲ侵ス、官軍撃テ之ヲ御ク。

二十一日、賊兵夜ニ乘シテ、十二潟、大黒、福島、川邊、鵜崎等諸村ヲ襲フ、官軍防戰、翌日ニ至リ、遂ニ撃テ之ヲ御ク。

二十二日、總督及ヒ越後口參謀西園寺公望、柏崎驛ヲ發シ、高田ニ歸ル。

○賊兵、曉ニ乘シテ半藏金、福山二村ヲ襲フ、官軍邀ヘ撃テ之ヲ御ク、明日、賊復タ福山村ニ逼ル、亦撃テ之ヲ走ラス。

○賊軍、連戰不利ヲ以テ、其進撃ヲ止メ、壘壁ヲ固守シテ以テ、持久ノ計ヲ爲ス、又軍令ヲ定メテ、之ヲ各隊ニ頒チ、討薩ノ檄文ヲ草シ、之ヲ官軍ニ贈ル。

二十三日、副總督、總督及ヒ越後口參謀西園寺公望ト共ニ、高田藩老臣ヲ召シテ、朝旨ヲ宣諭シ、速ニ藩政釐革ノ功ヲ奏セシム。

二十四日、賊兵、久田、茂等諸村ヲ襲フ、官軍海陸合撃シテ、之ヲ御ケ、又賊兵ヲ日浦村ニ破ル。

二十五日、督府、諸藩兵ノ戰死者ニ、衣物ヲ給ス。

二十六日、官軍、賊兵ヲ日浦村ニ擊ツ、克タスシテ退ク。

二十七日、奥羽征討越後口總督高倉永祜ヲ罷ム。尋テ、高田ノ營ニ薨ス。

是月、織田信敏、兵部大輔、天童藩主、兵ヲ越後ニ發シテ、官軍ニ抗ス。

奥羽戰記

第一　自明治元年二月九日　至同　三月二十八日

明治元年（戊辰）二月九日、澤爲量ヲ以テ奥羽鎭撫總督ト爲シ、醍醐忠敬（少將）ヲ副總督ト爲シ、品川日孜（彌次郎〇長門藩士）ヲ參謀ト爲シ、本月十五日ヲ以テ啓行セシム。

十六日、二總督、書ヲ大總督府ニ致シテ、松平容保（肥後〇舊會津藩主）、酒井忠篤（左衞門尉〇莊內藩主）ノ處分ヲ稟問ス、明日大總督府、答書シテ、容保ハ罪死ニ當ル、忠篤ハ宜シク久松定昭（伊豫〇舊伊豫松山藩主）、松平頼聰（讃岐〇舊高松藩主）等二人封地ヲ致シ屏居シテ朝裁ヲ待ツ、ニ準擬スヘキヲ報ス。

二十六日、九條道孝（左大臣）ヲ以テ奥羽鎭撫總督ト爲シ、總督澤爲量ヲ副總督ト爲シ、副總督醍醐忠敬及ヒ黑田清隆（了介〇薩摩藩士）ヲ參謀ト爲シ、期ヲ刻シテ進征セシム、軍防總督嘉彰親王、乃チ軍令及ヒ陸軍諸條規ヲ道孝ニ授ク、尋テ清隆及ヒ參謀品川日孜ヲ罷メ、大山綱良（格之助〇薩摩藩士）、世良砥德（修藏〇長門藩士）ヲ以テ之ニ代フ。

三月二日、總督九條道孝、副總督澤爲量等京師ヲ發ス、薩摩、（百三人）、仙臺、（百人）、筑前、（百五十六人）、長門、（一中隊）四藩兵之ニ屬シ、天童藩老臣吉田守隆（八大夫）之カ前導タリ、是日、督府、總督以下糧餉ノ制規ヲ定メ、且部下ヲ戒飭シテ私威ヲ挾ムコト勿ラシム。

十八日、二總督、陸奥東名濱（又寒風沢ト稱ス、宮戸島ニ在リ）ニ抵ル、伊達慶邦（陸奥守〇仙臺藩主、食封六十二萬五千六百石餘）、老臣ヲ遣シテ起居ヲ候ス。

十九日、二總督、松島ニ抵ル、是日、舊幕府帆船一隻、東名濱ニ到ル、官軍之ヲ收ム。

〇督府、命ヲ仙臺藩ニ傳ヘテ、上杉齊憲（彈正大弼〇米澤藩主、食封十八萬七千二百四十八石餘）、松平頼升（大學頭〇守山藩主、食封二萬石）、織田信學（左近將監〇天童藩主、食封二萬石）ノ老臣ヲ仙臺ニ召ス。

二十日、伊達慶邦、松島ニ至リ、二總督ニ謁ス、是ヨリ先、朝廷、慶邦ニ命シテ、松平容保ヲ討セシム、（正月十七日ニ在リ）、是日、督府、慶邦ニ令シテ、速ニ會津ヲ進撃セシメ、且會津ノ國情ヲ申報セシム。

二十二日、二總督、鹽釜驛ニ抵ル。

二十三日、二總督、仙臺ニ抵ル、仙臺藩老臣奉迎ス。

二十四日、督府、丹羽長國（左京大夫〇二本松藩主、食封十萬七百石）、板倉勝尙（甲斐守〇福島藩主、食封三萬石）、安藤信勇（理三郎、後對馬守〇磐城平藩主、食封三萬石）ニ命シテ、會津征討應援兵ヲ備ヘ、不時ノ徵發ニ應セシム、相馬季胤（因幡守〇中村藩主、食封六萬石）、書ヲ上リテ、藩兵

ヲ出シ、本營ヲ警守センコトヲ請フ、督府、之ヲ止メ、命シテ討會應援兵ヲ備ヘシム。

二十五日、二總督、薩摩、仙臺、筑前、長門四藩兵ノ操練ヲ杉山臺仙臺城北ニ在リ、ニ觀ル、伊達慶邦之ニ陪ス。

二十六日、督府、伊達慶邦ヲ促シ、期ヲ刻シテ會津ヲ進擊セシム、又慶邦ニ命シテ、舊幕府領地及ヒ其臣隸ノ采地等、陸奥、出羽ニ在ル者ヲ檢覈セシム。

二十七日、伊達慶邦、既ニ討會ノ命ヲ拜ス、是ニ於テ漸次兵一萬四千三百二十一人、ヲ御靈櫃、土湯、中山、石筵、湯原等諸口ニ出シ、進テ會津ニ逼ル。

○田村邦榮、右京大夫○一關藩主、食封三萬石、仙臺藩ニ至リ、二總督ニ謁ス。○醍醐忠敬手記

二十八日、板倉勝尚、書ヲ上リテ入覲セントスルヲ申ス、督府、批シテ之ヲ止メ、討會應援ノ事ニ服セシム。

○是ヨリ先、伊達慶邦、上杉齊憲、丹羽長國等、松平容保ノ爲ニ救解ヲ謀ル、是ニ至リ慶邦、齊憲使ヲ會津ニ遣シ、容保ニ勸ルニ降兵ノ事ヲ以テス、尋テ仙臺、米澤、二本松三藩ノ使者、會津ニ會シ前議ヲ申ヌ。

第二　自明治元年三月二十九日　至同四月十三日

三月二十九日、上杉齊憲、老臣ヲシテ召命ニ應シ、且起居ヲ候セシム、是ヨリ先、朝廷、齊憲ニ命シ、伊達慶邦ニ應援シテ會津ヲ討セシム、正月二十五日ニ在リ、是日、督府、齊憲ヲ以テ討會先鋒ト爲シ、仙臺藩兵ヲ嚮導シ、明月十日ヲ期シテ進討セシメ、藤井信庸伊豆守、後松平氏ヲ稱ス、○上山藩主、食封三萬石、ヲシテ討會應援兵ヲ備ヘ、以テ後命ヲ待タシム。

晦日、督府、書ヲ軍防局ニ致シテ、會津賊勢鴟張、仙臺藩兵不振ノ狀ヲ報シ、更ニ精兵ヲ派遣センコトヲ請ヒ、且速ニ兵ヲ越後口ニ出シ、會津ヲ擣ンコトヲ促カス、尋テ軍防局、答書シテ應援兵ヲ發スルヲ告ケ、且別ニ兵ヲ越後ニ出スヲ以テ、速ニ賊巢ヲ進剿シ、戡定ノ功ヲ奏セシム。

○莊內兵、出羽寒河江、柴橋二村二村並ニ舊幕府領、ヲ剽掠スルノ報到ル、督府乃チ仙臺、天童二藩ニ命シテ之ヲ討セシメ、薩摩、筑前、長門三藩兵ヲシテ之ニ應援セシム。

四月朔日、松平賴升、老臣ヲシテ召命ニ應シ、且起居ヲ候セシム、是ヨリ先、軍防局、書ヲ致シテ賴升ヲ討會先鋒ニ加ヘシヲ報ス、是日、督府モ亦賴升ニ命シテ討會ノ先鋒タラシム、又命ヲ仙臺藩ニ傳ヘテ、佐竹義堯右京大夫○秋田藩主、食封二十萬五千八百石餘、後久保田藩ト改ム、ノ老臣ヲ召ス。

○參謀、驛村ニ榜示シテ、朝旨ヲ宣布ス。
○上杉齊憲、既ニ討會先鋒ノ命ヲ拜ス、是日、兵（兵員詳ナラズ、）ヲ綱木驛ニ出ス。
二日、督府、將サニ莊內ヲ討セントス、因リテ生駒親敬（大內藏、交代寄合、矢島出羽矢島八千石、後萬石ニ列シ、矢島藩ト稱ス、）ニ命シテ、討莊官軍ノ嚮導タラシム、尋テ親敬ノ支族生駒俊德、（旗本、寄合、六千石、出羽伊勢國地ニ千七百十七石餘、）兵一小隊ヲ出シテ親敬ニ來リ屬ス。
○督府、伊達慶邦ニ命シ、其臣大越某（文五郎、）ヲ以テ本藩軍事參謀役ト爲シ、伊藤祐將（十郎兵衛、）ヲ使役ト爲シ、並ニ督府ニ屬セシム。
○水戸藩兵、白河ニ至ル、督府、命ヲ仙臺、守山二藩ニ傳ヘテ、其隊長ヲ召ス。
○田村邦榮、宗家伊達慶邦討會ノ軍ニ應援セントシ、藩兵（六百三十八人、）大砲二門、ヲ率ヰテ白石ニ至ル。（田村崇顯家記、仙臺藩記）
三日、督府、本多忠紀、（能登守、泉藩主、食封二萬石、）內藤政養（長壽麿、湯長谷藩主、食封一萬五千石、）ニ命シ、會津征討應援兵ヲ備ヘ、以テ後命ヲ俟タシメ、山形藩（水野忠弘ノ治所、時ニ忠弘京師ニ在リ、）ヲシテ莊內征討應援兵ヲ備ヘシム。
○督府、松前德廣（志摩守、松前藩主、食封三萬石、）管スル所ノ舊幕府領出羽尾花澤村ニ收メ、德廣ヲシテ仍假ニ其民政ヲ管セシム。
○官軍、進テ寒河江、柴橋二村ニ至ル、莊內兵既ニ遁ル、乃チ仙臺藩兵ヲ留メテ之ヲ守ラシメ、尋テ諸軍仙臺ニ還ル。
四日、督府、秋田映季（萬之助、後信濃守、三春藩主、食封五萬石、）ニ命シテ、會津征討應援兵ヲ備ヘ、以テ後命ヲ待タシム、是日、又之ヲ板倉（內膳正、福島藩主、食封三萬石、）ニ命ス。
五日、軍防局、書ヲ致シテ車駕親征、前月二十一日ヲ以テ京師ヲ發シ、大坂ニ幸セシヲ報シ、且前月十四日ノ晉次宸翰、及ヒ朝令數條ヲ傳達ス、督府、乃チ伊達慶邦ヲ促シ、本月七日ヲ期シテ啓行セシメ、督府モ亦相繼テ其軍ヲ進メントス、又慶邦ニ令シテ、軍防局致セシ所朝令ヲ奧羽諸藩ニ傳ヘシム、既ニシテ慶邦啓行ノ期ヲ延テ、十一日ト爲サンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。
○舊桑折代官黑田某、（[illegible]兵衛、）舊小名濱代官森某、（[illegible]郎、）仙臺藩ニ因リテ歸順ヲ乞フ、督府、之ヲ聽ス、舊塙代官多田某、（[illegible]郎、）モ亦管地及ヒ簿書等ヲ致シテ、其任ヲ解カンコトヲ請フ、之ヲ聽シ、仙臺ヲシテ之ヲ管理セシム。
○相馬季胤、仙臺ニ至リ、二總督ニ謁ス。（相馬季胤家記）
六日、佐竹義堯、老臣ヲシテ召命ニ應シ、且起居ヲ候セシム、是ヨリ先、朝廷、義堯ニ命シ、伊達慶邦ニ應援シテ會津ヲ討セシム、（正月二十五日ニ在リ、）是日、督府、義堯ニ命シテ更ニ莊內ヲ討セシメ、津輕承昭（越中守、弘前藩主、食封十萬石、）ヲシテ之ニ應援セシム、明日、義堯ニ令シテ

莊内若シ降ヲ乞ハヽ、其城地ヲ收メ、以テ總督ノ巡檢ヲ待タシム、尋テ菊章旗ヲ義堯及ヒ承昭ニ下付ス。

○是ヨリ先、朝廷、南部利剛（美濃守○盛岡藩主、食封二十萬石、）ニ命シ、伊達慶邦ニ應援シテ、會津ヲ討セシム、（正月二十五日ニ在リ、）是ニ至リ先鋒兵（一大隊、）進テ仙臺傍近ニ至ル、督府命ヲ仙臺藩ニ傳ヘテ、其隊長ヲ召ス。

○是ヨリ先、伊達慶邦、其參政三好清房（監物、）ヲシテ督府ニ屬セシム、是ニ至リ慶邦其職ヲ奪ヒ、命シテ其家ニ屛居セシム、是日、督府、參謀醍醐忠敬ヲ遣シテ慶邦ヲ諭シ、清房ノ職ヲ復セシム、慶邦命ヲ奉セス、初メ清房、慶邦ニ勸メテ朝命ヲ奉シ、速ニ討會ノ功ヲ奏セシム、慶邦逡巡シテ決セス、老臣等亦陰ニ之ヲ沮ム、清房乃チ大義名分ヲ說キ、大ニ之ヲ爭フ、慶邦遂ニ之ヲ斥ケ、是ニ於テ藩論一變シ、兵勢益振ハス。

七日、是ヨリ先、大總督府、大關增勤（泰次郎○黑羽藩主、食封一萬八千石、）ニ命シ、兵ヲ出シテ督府ニ屬セシム、（三月十一日ニ在リ、）是ニ至リ、增勤老臣ヲ遣シテ命ヲ乞フ、督府命シテ其封疆ヲ嚴守シ、會津兵ノ侵襲ニ備ヘシム。

八日、是ヨリ先、督府、仙臺藩士ヲ遣シテ、莊内ノ擧動ヲ探ラシム、是ニ至リ酒井忠篤兇徒ヲ嘯聚シ、王師ニ抗拒スルノ報ヲ得タリ、乃チ參謀醍醐忠敬ヲ遣ハシ、重ネテ伊達慶邦ノ啓行ヲ促シ、且書ヲ大總督府ニ致シテ、忠篤犯順ノ狀ヲ報シ、急ニ軍艦ヲ酒田港ニ派遣センコトヲ請フ、尋テ大總督府答書シテ、舊幕府ノ軍艦ヲ收ムルヲ俟チテ、速ニ之ヲ發遣スルヲ告ク。

○督府、藤井信甫ノ會津征討應援ヲ更メテ、莊内征討先鋒ト爲シ、兵ヲ備ヘテ以テ後命ヲ待タシム、又戸澤正實（中務大輔○新莊藩主、食封六萬八千二百石、）ヲ召ス。

九日、車駕親征、既ニ京師ヲ發セシヲ以テ、督府、奥羽諸藩ニ令シ、本月十二日ヲ以テ、軍ヲ白河口ニ進ムルヲ告ク。

○督府、相馬季胤ニ命シテ、速ニ討會應援兵ヲ二本松ニ出サシメ、長瀞藩（米津政敏ノ治所、時ニ政敏武藏ノ別邑ニ在リ、）ヲシテ討莊官軍ノ驛遞人馬ヲ措辦セシム。

○督府、公邑ニ郡司代ヲ置キ、舊代官黑川某（節兵衛、）ヲ以テ、伊達、信夫二郡司代ト爲シ、（郡廳ノ桑折ニ置ク、）舊代官森某（孫三郎、）ヲ磐城郡司代ト爲シ、（郡廳ヲ小名濱ニ置ク、）舊代官河野某（俊八、）ヲ長岡郡司代格ト爲ス。

十日、莊内征討ノ議決ス、是ニ於テ總督、副總督ヲシテ出羽ニ赴キ、其軍ヲ督セシム。

○松平容保、使ヲ莊内ニ遣シ、酒井忠篤ト深ク相結托シ、其存亡ヲ共ニセンコトヲ約ス、尋テ忠篤モ亦使ヲ會津ニ遣シテ其約ヲ申ス、是ニ於テ、會、莊ノ同盟始メテ成ル、乃チ先米澤、仙

臺ニ藩ヲ說キテ、其盟ニ與カラシメ、嗣後奥羽諸藩ヲ聯合セン
コトヲ謀ル。

十一日、戸澤正實、老臣ヲシテ代リテ召命ニ應シ、且起居ヲ候セシム、督府命シテ速ニ兵ヲ出シ、莊內ヲ討セシム。

○伊達慶邦、手兵ヲ率ヰテ仙臺ヲ發シ、進テ白河ニ陣ス。

十二日、總督、白河口ニ赴キ、副總督出羽ニ向フ、是日、仙臺ヲ發シ、增田驛ニ抵ル、薩摩、筑前以下四藩兵之ニ從フ。

○是ヨリ先、朝廷丹羽長國ノ請ヲ聽シ、其支族一柳國敬（四郎）、ヲシテ、長國ニ代リテ入覲セシム、是ニ至リ長國討會應援ノ命ヲ拜セシヲ以テ、書ヲ督府ニ上リテ入覲ノ進止ヲ取ル、批シテ之ヲ止ム。

十三日、二總督、岩沼驛ニ抵ル、是日、軍中ニ令シテ、妄リニ發銃スルヲ禁ス。

○督府、參謀世良砥德ヲ會津口ニ遣シテ、討會ノ軍ヲ監セシメ、筑前藩兵ヲシテ之ニ屬セシム、因テ仙臺藩兵ニ令シテ、參謀ノ節度ヲ受ケシム。（砥德、明日ヲ以テ岩沼ヲ發ス。）

第三 自明治元年四月十四日 至同 二十九日

四月十四日、副總督岩沼驛ヲ發シ、出羽ニ赴ク、參謀大山綱良、

及ヒ薩摩、長門二藩兵之ニ屬シ、天童藩老臣吉田守隆之カ前導タリ、是日、村田驛ニ抵ル。

十五日、副總督笹谷驛ニ抵ル、是日、長尾某、（[illegible]）山木某（[illegible]）、（長門藩士、）ヲ秋田ニ遣シテ、佐竹義堯ヲ促シ、期ヲ刻シテ莊內ヲ討セシメ、且二人ヲシテ秋田藩兵ヲ監セシム、義堯先使ヲ莊內ニ遣シ、其罪ヲ詰問シテ之ヲ討セント請フ、聽サス。

○弘前藩兵（二中隊、）久保田ニ至ル。（津輕家照家記）

十六日、副總督新山村ニ抵ル、山形藩老臣兵ヲ率ヰテ來リ迎フ、是日、副總督、藤井信庸ニ令シ、明日ヲ以テ上山城ニ入リ、軍事ヲ指揮スルヲ告ク。

○中村藩兵（五小隊、二百八十二人、）二本松ニ至ル、尋テ玉之井村ニ進ム。（相馬誠胤家記）

十七日、副總督、山形城ヲ經テ上山城ニ入ル、藤井信庸迎謁ス。

○仙臺藩兵會津諸口ニ次シ、逗撓シテ進マス、是ニ於テ參謀醍醐忠敬出テ福島ニ陣シ、參謀世良砥德ト俱ニ、藩兵ヲ促シテ土湯口ヲ進擊セシメ、中村某（小次郎）、高津某（[illegible]）ヲシテ之ヲ監セシム、又丹羽長國ニ令シテ、速ニ討會應援ノ兵ヲ嶽湯、土湯二口ニ出サシム、是日、伊達慶邦（桑折驛）ニ至リテ藩兵ヲ獎勵ス、既ニシテ白石ニ還ル。

十八日、副總督、藤井信庸ノ莊內征討先鋒ヲ更メテ、其應援ト

爲シ、本月二十三日ヲ期シテ、兵ヲ新莊ニ出サシム。

○參謀醍醐忠敬、世良砥德、仙臺、筑前二藩兵ヲ督シテ、土湯口ニ向フ、地險ニ雪深ク進ムヲ得ス、乃チ退テ土湯村ニ次シ、筑前藩兵ヲシテ嶽湯口ニ赴カシメ、忠敬等遂ニ福島ニ退ク。

十九日、副總督、薩摩、長門、山形、上山四藩兵ノ操練ヲ采女ケ原（上山ニ在リ、）ニ觀ル、藤井信庸之ニ陪ス。

○官軍兵ヲ分チ、一ハ土湯口ヲ攻ム、賊險ニ據リテ抗拒シ、官軍利アラスシテ退ク、一ハ嶽湯口ニ向フ、賊又險要ヲ扼守シ、官軍進ムヲ得ス、既ニシテ參謀醍醐忠敬、世良砥德嶽湯口ニ至リテ諸軍ヲ犒ヒ、仙臺、二本松二藩兵ヲシテ嶽湯村ヲ守ラシメ、軍ヲ收メテ二本松ニ退ク、尋テ忠敬等移テ本宮驛ニ陣ス。

二十日、副總督、天童ニ抵ル、是日、山形藩ニ令シ、本月二十四日ヲ期シテ、討莊應援兵ヲ新莊ニ出サシメ、酒井忠良（紀伊守○出羽松山藩主、食封二萬五千石、後松嶺藩ト改ム、）ヲ天童ニ召ス、尋テ忠良上書シテ病ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ召命ニ應セシムルヲ申ス。（○老臣遂ニ至ラス。）

○督府、藤川忠猷（能登○高松藩士、）ヲ以テ軍事役ト爲ス。

二十一日、總督白石驛ニ赴カントス、是日、岩沼驛ヲ發シ、大河原驛ニ抵ル。

二十二日、總督、白石驛ニ抵ル、伊達慶邦迎謁ス。

○副總督、尾花澤驛ニ抵ル。

○盛岡藩先鋒兵、長町驛ニ至ル、督府、命シテ福島ニ赴キ、米澤口官軍ニ應援セシム、明日、更令シテ白河口ニ轉進セシム。

○米澤藩先鋒兵、進テ綱木驛ニ至ル、松平容保使ヲ遣シテ、罪ヲ督府ニ謝セントスルヲ告ケ、姑ク其進軍ヲ止メンコトヲ請フ、藩兵乃チ綱木驛ニ次ス。

○上山藩兵（二小隊、）新庄ニ至ル。（○松平信安家記）

二十三日、總督、白石驛ヲ發シ大河原驛ニ抵ル、是日、宇都宮官軍ノ敗報到ル、（賊兵、本月十九日ヲ以テ宇都宮城ヲ陷ル、）是ヨリ先、仙臺藩討會ヲ屑トセス、宇都宮ノ警報ヲ得ルニ及テ藩論益動ク。

○副總督、新莊ニ抵ル、是ヨリ先、酒井忠篤、征討ノ師封境ニ向フト聞キ兵ヲ其東北淸川、大網、吹浦等諸口ニ出シテ之ニ備フ、是日、副總督、薩摩、長門二藩兵ニ令シテ莊內ヲ討セシム、又六鄉政鑑（兵庫頭○本莊藩主、食封二萬二千一石餘、）ニ命シ、兵ヲ發シテ秋田藩ニ應援シ、速ニ莊內ヲ進擊セシム。

○督府、中村藩兵ノ玉之井村ニ在ル者ヲ分チ、高玉村ニ差遣シ、中山口官軍ニ應援セシム。

○盛岡藩第二軍（四百五人、）三本木驛ニ至ル。（○南部利恭家記）

二十四日、總督岩沼驛ニ還ル。

○薩摩、長門二藩兵進テ清川驛莊内ヲ距ルコト六里許、ヲ攻ム、莊内兵、險ニ據リテ力拒ス、官軍奮發シテ其數壘ヲ拔ク、既ニシテ賊兵大擧返擊シ、松山兵モ亦來リ加ル、官軍遂ニ利アラス、退テ古口驛ニ次シ、明日新莊ニ還ル。

○仙臺藩兵、諸道並進テ會津ヲ攻メントス、適會津ノ使者土湯村ニ至リ、降ヲ乞ントスルヲ告テ、姑ク其兵ヲ弛シコトヲ請フ、藩兵乃チ假ニ其進擊ヲ止ム。

二十五日、軍防局、書ヲ致シテ行軍條規ヲ傳フ。

○督府、松平容保ノ罪一等ヲ宥メ、命シテ罪ヲ謝シ、降テ乞ハシム、蓋テ容保上書シテ、德川氏ノ處分未タ定ラサルヲ以テ、其命ニ應スルコト能ハサルヲ申ス。

○參謀醍醐忠敬、世良砥德、進テ苗代田村ニ至リ、仙臺藩兵ヲ督シテ中山口ヲ攻メントス、本藩兒兵寡少ナ以テ、後援ノ至ルヲ俟ント請フ、忠敬等乃チ本宮驛ニ還ル。

二十六日、松平容保、使ヲ仙臺、米澤二藩ニ遣シテ、罪ヲ謝シ、降ヲ乞フ、是日、二藩書ヲ督府ニ上リテ、容保ノ使者ヲ軍門ニ引見スルヲ申ス、蓋テ二藩ノ老臣使者ニ關驛ニ會シ、容保謝罪ノ條件ヲ議ス。

○山形藩第二軍兵員詳ナラス、天童ニ至ル。水野忠弘家記

二十七日、督府令シテ、凡傳驛人馬ヲ使用スルハ、必督府ノ信票ヲ用ヒシメ、其之ヲ齎サヽル者ハ、賃錢ヲ給與セシム。

○清川口、既ニ戰端ヲ開キシヲ以テ、副總督重ネテ佐竹義堯ヲ促シ、速ニ討莊ノ兵ヲ進メシム、又岩城隆邦右京大夫、龜田藩主、食邑二萬石、ニ命シ、明月四日ヲ期シテ、討莊應援兵ヲ新莊ニ出サシメ、山形、上山二藩ノ新莊ニ在ル者ヲ、古口驛ニ差遣ス。

二十八日、副總督、山形藩兵ノ天童ニ在ル者ヲ、長崎、寺津二村ニ差遣ス。

○賊兵、夜ニ乘シテ中山村ヲ襲ヒ、民舍ヲ火ク、官軍退テ横川村ニ次ス。

○盛岡藩第二軍四百廿三人、金成驛ニ至ル。南部利恭家記

二十九日、大總督府、書ヲ致シテ、舊幕府艦船交收ノ事未タ畢ラサルヲ以テ、軍艦ヲ酒田港ニ派遣スルコト能ハサルヲ報シ、且大兵新ニ越後ニ向フヲ以テ、奧羽ノ諸軍ヲシテ機ニ乘シ、大擧シテ賊巢ヲ進擊セシム。

○莊內兵、寒河江、柴橋、白岩等諸村ニ據リ、將サニ進テ天童ニ逼ラントス、天童藩援ヲ仙臺、米澤諸藩ニ乞フ、諸藩應セス、因リテ急ヲ副總督ニ報ス、是日、副總督、山形、天童二藩、及ヒ柏倉、漆山館林藩ノ別邑、東根松前藩ノ別邑、等ノ兵ニ命シテ、之ヲ討セシム、既ニ

シテ賊兵進テ最上川西岸ニ至リ、戰ヲ挑ム、諸藩兵河ヲ挾テ之ヲ拒ク。

是月、酒井忠良、仙臺藩ニ因リテ、書ヲ督府ニ上リ、王事ニ服センコトヲ請フ、報セス。

○長瀞藩老臣、書ヲ督府ニ上リテ、藩主米津政敏（伊勢守○食封一萬千石、時ニ政敏仍武藏ノ別邑ニ在リ、）ノ父政明（前伊勢守、保壽ト號ス、）莊内兵ノ要スル所ト爲リテ、莊内ニ逃走セシ狀ヲ申シ、爲メニ哀ヲ乞フ。

第四　自明治元年閏四月朔日 至同　十一日

閏四月朔日、莊内征討ノ諸軍援ナキヲ以テ、督府、伊達慶邦、田村邦榮ニ命シテ、速ニ兵ヲ天童口、及ヒ新莊ニ出サシメ、南部信順（遠江守○八戸藩主、食封二萬石、）ヲシテ兵ヲ率ヰテ新莊ニ赴キ、討莊ノ軍ニ應援セシメ、秋田映季ノ討會應援ヲ更メテ、討莊應援ト爲シ、兵ヲ新莊ニ出サシメ、阿部正靜ヲシテ、兵ヲ發シテ討莊ノ軍ニ應援セシム、既ニシテ慶邦ハ兵ヲ會津ニ出シ、邦榮ハ小藩寡兵ヲ以テ竝ニ之ヲ辭シ、信順ハ書ヲ上リテ疾ヲ謝シ、老臣ヲシテ代リテ之ニ赴カシムルヲ申ス。

二日、莊内兵、寒河江村ヲ侵スノ報到ル、督府乃チ筑前藩兵ヲ遣シテ之ヲ討セシム。

○參謀醍醐忠敬、世良砥徳木宮驛ニ次シ、仙臺藩兵ヲ促シテ會津ヲ進擊セシム、是日、藩兵、賊兵ヲ中山、石筵二口ニ擊テ之ヲ破ル。

○龜田藩兵（二小隊、）新莊ニ至ル。（岩城隆邦家記）

三日、是ヨリ先、督府、東山道官軍ノ宇都宮ニ在ル者ニ移檄シテ、速ニ白河口ニ來援セシム、（官軍、前月二十三日ヲ以テ宇都宮城ヲ克復ス、）是日、更ニ書ヲ大總督府ニ致シテ、會津、莊内賊勢鴟張ノ狀ヲ報シ、宇都宮ノ官軍ヲシテ、速ニ白河口ニ來援セシメンコトヲ請フ。

○秋田映季、既ニ討莊應援ノ命ヲ拜ス、是日、書ヲ上リテ、小藩寡兵遠征ニ堪ヘサルノ情狀ヲ陳シ、舊ニ仍リテ討會應援ノ事ニ服センコトヲ請フ、督府乃チ本月六日ヲ期シテ、兵ヲ白河口ニ出サシム、又阿部正靜ノ討莊應援ヲ更メテ、討會應援ト爲シ、溝口直景（隼人助○交代寄合、采邑陸奥横田五千石、）ヲシテ討會應援兵ヲ備ヘ、以テ不時ノ徵發ニ應セシム、既ニシテ直景采邑會津ニ接近スルヲ以テ、軍糧ヲ獻シ、出兵ニ代ンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○仙臺、米澤二藩ノ、松平容保ノ使者ヲ關驛ニ引見スルヤ、督府未タ之ヲ知ラス、是日、督府二藩ニ令スルニ、容保降ヲ乞ント欲セハ、宜シク白河口軍門ニ就テ之ヲ請フヘキヲ以テシ、且二藩ヲシテ、容保及ヒ其臣隷ノ情狀ヲ按撿シ、之ヲ具申セシ

ム。

○督府、奥羽ノ士民ニ諭スニ、王師ノ意、逆ヲ討シ、降ヲ撫スルニ在ルヲ以テシ、各其業ニ安セシメ、不逞ノ徒、良民ヲ煽動スル者ハ嚴科ニ處ス。

○副總督、弘前藩兵ノ久保田ニ在ル者ニ令シテ、速ニ新莊ニ來援セシム、尋テ更令シテ其兵ヲ分チ、矢島、及ヒ本莊ニ轉進セシム。

○仙臺藩兵、曉ニ乘シテ賊兵ヲ御靈櫃口ニ破ル。

四日、副總督秋田藩兵ニ令シ、本月六日ヲ期シテ莊内ヲ進擊セシム。

○山形、天童等諸藩兵、莊内兵ト最上川ヲ挾テ相持ス、是日黎明、賊兵來リ襲フ、官軍防戰利アラス、賊直ニ進テ天童ニ逼ル、織田信學仙臺ニ遁ル、副總督乃チ薩摩、長門、山形三藩兵ノ新莊ニ在ル者ヲ遣シテ之ヲ討セシム。

○仙臺、米澤二藩書ヲ督府ニ上リ、松平容保降ヲ乞フヲ以テ、假ニ其進擊ヲ止ムルヲ申ス、尋テ討會應援諸藩モ亦其進擊ヲ止ム。

五日、酒井忠篤ノ官位ヲ褫キ、家臣ノ入京ヲ禁ス。

○内藤政養將サニ入覲セントス、適會津征討應援ノ命ヲ拜ス、因リテ書ヲ上リテ進止ヲ取ル、督府批シテ之ヲ止メ、討會應援ノ事ニ服セシム。

六日、副總督、山形藩兵ノ新莊ニ在ル者ニ命シテ、本營ヲ警守セシム。

○初メ、二本松藩舊幕府ノ命ヲ受ケ、白河城ヲ管守ス、既ニシテ朝廷令シテ、之ヲ仙臺藩ニ交付セシム、（二月十六日ニ在リ）是日、參謀世良砥德白河城ニ入リ、仙臺、（三小隊）二本松（兵員詳ナラス）二藩兵ヲ督シテ、會津進擊ヲ圖ル、三春藩兵（二小隊）モ亦來會ス。

○薩摩、長門二藩兵進テ蘆澤村ニ至ル、時ニ莊内兵路ヲ分テ尾花澤、大石田二驛ニ來リ襲フ、官軍地形便ナラサルヲ以テ、退テ名木澤驛ニ次ス、新莊、山形二藩兵モ亦來會ス。

七日、督府、磐城、平泉二藩ニ命シ、本月十日ヲ期シテ、討會應援兵ヲ白河ニ出サシム。

○莊内兵將サニ進テ新莊ニ逼ラントス、官軍兵寡ク勢急ナリ、衆退テ久保田ヲ保タンコトヲ請フ、副總督肯セス、其軍ヲ督進ス、是日、官軍進テ大石田、尾花澤二驛ニ至ル、賊兵戰ハスシテ潰ユ。

○副總督、秋田、本庄二藩、及ヒ矢島ノ兵ヲ部署シ、大須卿、小瀧、祓川、百宅等諸口ヨリ進テ莊内ニ向ハシム、是日、秋田藩

兵、書ヲ莊内兵ニ贈リ、督府ノ命ヲ奉シテ、征討兵ヲ進ムルヲ告ク、莊内兵、答書シテ其冤ヲ訴ヘ、救解ヲ乞フ。

八日、總督、上杉齊憲ニ命シ、會津征討先鋒兵ヲ分チテ、天童藩ニ應援シ、速ニ庄内兵ヲ討タシム、尋テ齊憲書ヲ上リテ、莊内ノ罪狀未タ明カナラサルヲ以テ、速ニ命ニ奉スルコト能ハサルヲ申シ、且其罪狀ヲ擧示センコトヲ請フ。

○督府、白河城守ニ乏シキヲ以テ、仙臺藩兵ノ白河口ニ在ル者ヲシテ、速ニ進テ之ニ赴カシム。

○副總督、山形、天童等諸藩ニ令シ、本月四日、最上川ノ役、兵士ノ戰沒、若クハ創傷ヲ蒙リシ者、及ヒ庶民ノ王事ニ勤メシ者ヲ錄申セシメ、其賊徒ニ黨セシ者ハ速ニ捕拿鞫問セシム。

○副總督、莊内征討ノ事ヲ出羽郡村ニ諭告シ、庶民ヲシテ各其堵ニ安セシメ、其賊ニ黨セシ者ハ之ヲ告訴、若クハ捕拿セシメ、賊ノ脅カス所ト爲リテ之ニ黨セシ者ハ速ニ自首セシム、又諸軍中、若シ人馬ヲ苦使スル者アラハ、直ニ參謀局ニ申告セシム。

○官軍路ヲ分テ長瀞ヲ居リ、一ハ進テ谷地村ニ次シ、一ハ天童ニ至ル、筑前、天童二藩兵來リ加リ、山形藩後軍モ、亦至ル、明日進テ寒河江、白岩等諸村ニ至ル。

○參謀醍醐忠敬岩沼ニ歸ル。(醍醐忠敬手記)

九日、總督、將サニ白河城ニ赴キ、會津本道ニ當ラントス、因リテ伊達慶邦ニ令シ、白石城ニ在リテ之カ策應ヲ爲サシム。

是ヨリ先、副總督、屢佐竹義堯ヲ促シテ速ニ討莊ノ功ヲ奏セシム、義堯依違シテ決セス、是日、副總督、重ネテ書ヲ義堯ニ贈リテ其因循ヲ責メ、命シテ速ニ藩兵ヲ督進セシメ、若シ命ニ應スル能ハサレハ、三月ヲ期シテ其理由ヲ開申セシム、既ニシテ義堯上書シテ、速ニ命ヲ奉シ、兵ヲ進ムルヲ申ス。

○薩摩、長門以下四藩兵、書ヲ飛シテ莊内賊勢猖獗ノ狀ヲ報シ、後援ヲ乞フ、副總督、乃チ上山藩兵ノ古口驛ニ在ル者ヲシテ、寒河江、柴橋二村ニ赴キ、之ニ應援セシメ、龜田藩兵ノ新莊ニ在ル者ヲ古口驛ニ差遣ス。

十日、總督、明日ヲ以テ白河ニ赴カントス、因リテ參謀醍醐忠敬ヲシテ、先發シテ之ニ赴カシム、適參謀大山綱良書ヲ致シテ、莊内賊勢鴟張、天童藩危急ノ狀ヲ報シ、援ヲ乞フ、總督乃チ其進軍ヲ止メ、仙臺藩ニ命シテ、速ニ兵ヲ發シテ之ヲ討セシメ、盛岡藩兵ノ白河口ニ在ル者ヲシテ、轉シテ莊内ニ赴カシメ、鮫島某(金兵衛○薩摩藩士)ヲシテ之ヲ監セシム、既ニシテ仙臺藩書ヲ上リテ、莊内ノ罪狀未タ明カナラサルヲ以テ、命ヲ奉スルコト能ハサ

ルヲ申シ、且其罪狀ヲ擧示センコトヲ請フ。

○副總督、書ヲ酒井忠良ニ下シ、本月十五日ヲ以テ、松山ヲ巡撫セントスルヲ告ク、忠良乃チ書ヲ上リテ、宗家酒井忠篤ノ罪狀ヲ稟問シ、忠篤若シ討スヘキノ罪アラハ、之ヲ說キテ其罪ニ伏セシメ、而後副總督ヲ迎ンコトヲ請フ、尋テ副總督其老臣ヲ召シ、忠篤ノ罪狀ヲ擧示セントス、忠良道路梗塞、使臣達シ難キヲ以テ、書ヲ下シテ之ヲ諭示センコトヲ請フ、報セス、是ニ於テ松山巡撫ノ事遂ニ寢ム。

○酒井忠篤、使ヲ米澤、仙臺二藩ニ遣シテ、其寃ヲ訴ヘ、救解ヲ乞フ、其老臣モ亦書ヲ仙臺藩老臣ニ贈リテ、其意ヲ申ス。

○磐城平藩兵二小隊、白河ニ至ル。安藤信守家記

十一日、天童藩、賊兵ノ使略スル所ト爲リシヲ以テ、副總督、織田信學ニ金二千兩ヲ賜ヒ、命シテ其士民ヲ賑恤セシム、尋テ本藩書ヲ上リテ、戰後疲弊ノ狀ヲ陳シ、莊內征討前導ヲ罷メンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

○官軍進テ左澤村ニ至ル、賊本道寺驛ニ據リ、入間、水澤等諸村ニ出拒ク、官軍擊テ之ヲ破リ、北ルヲ追テ橫臺村ニ至ル。

第五　自明治元年閏四月十二日　至同　十八日

閏四月十二日、松平容保ノ仙臺、米澤二藩ニ因リテ降ヲ乞フヤ、二藩乃チ秋田、盛岡以下二十四藩ノ老臣ヲ白石ニ會シテ、容保降伏ノ事ヲ議ス、是日、伊達慶邦、上杉齊憲岩沼ニ抵リ、總督ニ謁シ、容保伏罪ノ狀ヲ陳シテ、寬宥ヲ乞フ、其老臣モ亦、諸藩老臣ト連署申請ス、總督令シテ後命ヲ待タシム。

○是ヨリ先、朝廷、箱館裁判所ヲ置キ、秋田以下四藩ニ命シテ、箱館ヲ警守セシメ四月十四日ニ在リ、又秋田藩ヲシテ會津ヲ討セシム、四月二十七日ニ在リ、是ニ至リ佐竹義堯書ヲ督府ニ上リテ、既ニ莊內征討ノ命ヲ奉シ、兵ヲ各所ニ出セシヲ以テ、更ニ箱館警守、及ヒ會津征討ノ事ニ服スルコト能ハサルヲ陳謝ス。

○仙臺藩、書ヲ督府ニ上リテ、福島傍近土民蜂起ノ事ヲ申ス、是日、參謀醍醐忠敬、桑折驛ニ抵リ、將サニ福島ニ赴カントス、土民蜂起ノ故ヲ以テ遂ニ果サス。

○官軍、進テ本道寺驛ニ至ル、賊風ヲ望テ莊內ニ走ル、官軍乃チ賊營ヲ火キ、退テ海味村ニ次ス、既ニシテ參謀大山綱良海味村ニ至リ、諸軍ヲ督ス、乃チ新莊、山形、上山三藩兵ヲシテ八聖山及ヒ白岩村ヲ守ラシメ、明日、軍ヲ新莊ニ班ス。

十三日、督府、湯長谷藩ニ命シテ、小名濱ヲ警守セシム。

十四日、仙臺藩兵會津口ニ陣シ、曠日持久、桑折以下各公邑貯

フル所ノ糧米殆ト竭ク、督府乃チ仙臺藩ニ令シテ、糧米ヲ運輸セシム。

○薩摩、筑前、長門三藩兵、新莊ニ還ル、副總督烏越驛ニ出迎ヘテ、之ヲ犒フ。

十六日、仙臺藩、既ニ會津進擊ヲ止ム、是ニ於テ先鋒兵ヲ留メテ、會津口ヲ守ラシメ、應援兵ヲ白石ニ收ム、督府乃チ福島藩ニ令シテ、其封疆ヲ嚴守セシム。

○仙臺藩士數人、將ニ大總督府ニ就キテ松平容保ノ爲ニ寬宥ヲ乞ハントス、督府乃チ書ヲ大總督ニ致シテ、藩士等若シ就テ請フ所アラハ、本藩ノ罪狀三事一日、天童藩援ヲ乞フ應セス、二日、私ニ奥羽諸藩ノ老臣ヲ白石ニ會ス、三日私ニ會津征討兵ヲ解クヲ詰問シテ、速ニ本藩ニ逐還セシム。

○是ヨリ先、寒河江、柴橋二村、數賊ノ侵掠スル所ト爲ル、是日、副總督永田某、直次郎〇薩摩藩士、中尾某榮吉郎〇長門藩士、等五人ヲ遣シテ、土民ヲ鎭輯セシム。

十七日、督府、伊達慶邦、上杉齊憲等ノ請ヲ卻ケ、命シテ速ニ會津ヲ進勦セシム、尋テ慶邦、齊憲書ヲ督府ニ上リテ、降ヲ討シ、服ヲ伐ツノ非ヲ陳ヘ、且農時ニ際スルヲ以テ、諸藩兵ヲ解キ、更ニ朝裁ヲ請ントスルヲ申ス、督府、其制ス可カラサルヲ知リ、乃チ其解兵ヲ聽ス、既ニシテ莊內征討ノ諸藩モ亦其兵ヲ解

ク、是ニ於テ諸藩老臣仙臺ニ會盟シ、會議所ヲ置キテ聯合ノ事ヲ謀ル、會津、莊內及ヒ越後諸藩新發田、長岡、村上、村松、三根山、黑川六藩、モ亦前後其同盟ニ列ス。

○是ヨリ先、賊徒尾花澤驛傍近ニ潜匿ス、松前德廣ノ臣隸、其別邑尾花澤驛ニ在ル者、兵ヲ出シテ之ニ備フ、是日、副總督書ヲ下シテ之ヲ賞シ、命シテ益其守備ヲ嚴ニセシム。

○泉藩兵、二小隊、白河ニ至ル、督府、命シテ諸倉、御藏入、甲子等諸口ヲ警守セシム。

第六　自明治元年閏四月十九日　至同　二十九日

閏四月十九日、大總督府、書ヲ致シテ前山長定淸一郎〇肥前藩士、ヲ以テ、莊內征討應援參謀ト爲シ、肥前、七百五十三人、小倉百四十二人、二藩兵ヲ率ヰテ赴援セシムルヲ報ス。

○督府ノ仙、米諸藩ノ請ヲ卻クルヤ、諸藩皆參謀ノ意ニ出ルヲ疑フ、是日、參謀世良砥德、白河ヲ去リ、將ニ督府ニ赴カントス、仙臺藩士等之ヲ福島ニ殺ス。

○山本某、登雲介秋田藩兵ヲ監シ、進テ莊內ニ迫ル、是日、某、書ヲ莊內兵ノ小砂川驛ニ在ル者ニ贈リテ、將ニ大擧進擊セントスルヲ告ケ、速ニ軍門ニ投降セシム、莊內兵抗疏シテ其寃ヲ訴

フ、是夜、官軍小砂川驛ヲ攻メテ之ヲ取ル、賊退テ三崎嶺ニ據ル、明日、官軍兵ヲ分テ升田村ヲ攻ム、克タスシテ退ク。

二十日、會津兵及ヒ舊幕府逋竄ノ徒等、白河城ヲ襲フ、官軍利アラス、根田驛ニ退守ス、是日、參謀醍醐忠敬、郡山驛ニ抵リ、將ニ白河ニ赴カントス、城既ニ陷ルト聞キ、退テ二本松ニ次ス。

二十一日、總督、將ニ白河ニ赴カントス、仙臺、米澤以下諸藩ノ老臣、連署シテ書ヲ上リ、仙臺ニ移リテ奧羽ヲ鎭撫センコトヲ請フ、總督、之ヲ聽ス是日、岩沼驛ヲ發シ仙臺ニ抵ル、伊達慶邦モ亦、白石ヲ去リテ仙臺ニ歸ル。

○副總督府、諸軍ヲ戒飭シテ、妄リニ各地ニ往來シ、民間ヲ疾苦スルコト勿ラシム。

○參謀醍醐忠敬、督府ニ赴カントス、是日、福島ニ抵ル、仙臺藩兵、關ヲ閉テ納レス、忠敬、之ヲ詰ル、藩兵乃チ忠敬ヲ納レ、參謀屬吏野村某（十郎○長門藩士）等ヲ殺ス、尋テ忠敬仙臺ニ抵ル。伊達慶邦總督ト相見ルヲ許サス。

○鮫島某（金兵衛）、盛岡藩兵ヲ監シテ、七北田驛ニ至ル、仙臺藩兵、進軍ヲ拒ミ、某ヲ途ニ要殺ス。

二十三日、大總督府、書ヲ致シテ江戸地方略平定ニ就キシヲ報シ、且、松平容保、若シ眞ニ罪ニ伏セハ、宜シク其城地及ヒ兵器ヲ收メ、容保父子ヲシテ城外ニ謹愼シ、朝裁ヲ待タシムヘキヲ告ク。

○賊兵、路ヲ分テ大須郷、川袋二村ヲ襲フ、官軍迎ヘ撃テ之ヲ卻ク。

二十五日、酒井忠篤、使ヲ仙臺藩ニ遣シテ、援ヲ乞フ、是ニ於テ仙臺、米澤、二本松、棚倉、中村等諸藩、前後兵ヲ白河、山形等ニ出シ、會津、莊内ニ應援シ、以テ官軍ヲ拒ム。

二十九日、莊内征討應援參謀前山長定、肥前、小倉二藩兵ヲ率ヰテ、東名濱ニ抵ル。（前山清一郎事蹟　小笠原忠忱家記）

第七　自明治元年五月朔日　至同　十八日

五月朔日、仙臺、米澤二藩兵、莊内兵ト謀ヲ合セ、進テ新莊ニ逼ル、新莊藩モ亦密ニ款ヲ賊ニ通ス、副總督、乃チ久保田ニ赴カントス、因リテ使ヲ遣シ、之ヲ佐竹義堯ニ告ク、義堯背カス、副總督、遂ニ意ヲ決シテ久保田ニ赴ク、是日新莊ヲ發シ及位驛ニ抵ル、參謀大山綱良及ヒ薩摩、筑前、長門、弘前、龜田五藩兵之ニ屬ス、莊内兵遂ニ進テ新莊ニ入ル、既ニシテ仙臺、米澤、山形上山等諸藩兵モ亦進テ新莊ニ至ル。

○八戶藩兵（兵員詳ナラス）、新莊ニ至ル、副總督、命シテ新莊ニ駐屯セシム。

○東山道ノ官軍、白河城ヲ復ス。（伊地知正治日記 慶應出軍戰狀）

二日、副總督、院内驛ニ抵ル。

三日、總督ノ仙臺ニ在ルヤ、仙臺藩其護衛ヲ嚴ニシ、外人ト相見ルヲ許サス、是日、莊内征討應援參謀前山長定仙臺ニ抵リ、總督ニ謁ス、參謀醍醐忠敬及ヒ仙臺藩老臣但木成行（土佐）等モ亦來會ス、長定乃チ成行等ニ說キ、總督ヲ奉シテ、奥羽ヲ巡撫セントス、事未タ決セス。

○副總督、湯澤驛ニ抵ル、是ヨリ先、總督、米澤藩ニ命シ、兵ヲ發シテ副總督ヲ警守シム、是ニ至リ米澤藩、山形、上山二藩ト俱ニ兵ヲ新莊ニ出シ、將ニ薩、長兵ヲ逐ヒ、副總督ヲ米澤ニ要奪セントス、副總督之ヲ却ク、時ニ秋田藩モ亦兵ヲ封疆ニ出シ、以テ薩、長兵ヲ拒ム、副總督乃チ弘前ニ赴カントシ、書ヲ津輕承昭ニ贈リテ其意ヲ告ケ、弘前藩兵ヲシテ先發シテ之ニ赴カシム、又龜田藩兵ヲ罷歸ス。

五日、副總督、横手驛ニ抵ル。

六日、副總督、大曲驛ニ抵ル。

七日、副總督、苅和野驛ニ抵ル。

八日、副總督、豐島驛ニ抵ル。

九日、副總督、久保田ニ抵リ、佐竹義堯ヲ見テ之ヲ奬勵ス、義堯依違シテ決セス、且薩、長兵ノ隨從スルヲ拒ム、副總督乃チ久保田ヲ去リテ弘前ニ赴ク、是日、土崎港ニ抵ル。

十日、副總督、一日市驛ニ抵リ、將サニ野代港ニ赴カントス、秋田藩背カス、乃チ轉シテ大館驛ニ赴ク。

○參謀前山長定、東名濱ニ赴キ、肥前、小倉二藩兵ヲ率ヰテ仙臺ニ入ラントス、仙臺藩、督府ノ命ヲ矯メテ、松島ニ駐屯セシム、長定、肯カスシテ進ム、是日、仙臺ニ抵ル。

十一日、副總督、森岡驛ニ抵ル、是日、軍事役藤川忠猷ヲ京師及ヒ江戶ニ遣シテ、急ヲ報シ援ヲ乞ハシム。

十四日、總督、兵營ニ蒞ミ軍事ヲ議ス、參謀前山長定、總督ニ勸メテ、速ニ奥羽巡撫ノ議ヲ決セシム、仙臺藩老臣但木成行等之ヲ沮ム、長定乃テ成行等ヲ詭說スルニ、二總督ヲ奉シテ京ニ歸ルヲ以テス、成行等之ヲ諾ス、是ニ於テ總督、本月十八日ヲ以テ仙臺ヲ發シ、久保田ニ赴ク。

○副總督、飛根驛ニ驛ル、是日、令シテ八戶藩兵ノ新莊ニ在ル者ヲ罷遣ス。

十五日、副總督、綴子驛ニ抵ル。

十六日、副總督大館驛ニ抵ル、弘前藩モ亦拒テ納レス、因リテ大館ニ次ス、是日、薩摩以下三藩兵ヲ戒飭シテ、軍令ヲ嚴守セシム。

十八日、總督、仙臺ヲ發シ、久保田ニ赴ク、參謀醍醐忠敬、前山長定及ヒ仙臺、肥前、小倉二藩兵之ニ屬ス、是日、仙臺、米澤二藩ニ令シテ、久保田ニ赴クノ意ヲ奧羽諸藩ニ傳告シ、其士民ヲ鎭輯セシム。

第八 自明治元年五月十九日 至同六月二十九日

五月十九日、朝廷、仙臺藩ニ令シテ、藩士三好清房ヲ京師ニ召ス、老臣等、藩情ノ暴露センコトヲ恐レテ命ヲ傳ヘス、尋テ其罪ヲ羅織シテ之ヲ逮セントス、清房遂ニ自殺ス。

二十三日、南部利剛、使ヲ副總督府ニ遣シテ、總督、本月十八日ヲ以テ仙臺ヲ發シ、久保田ニ赴クヲ告ク、副總督乃チ使ヲ遣シテ、總督ヲ迎ヘシム。

二十四日、總督、水澤驛ニ抵ル。

二十七日、總督、花卷驛ニ抵ル、盛岡藩老臣、兵ヲ率ヰテ來リ迎フ、總督乃チ仙臺藩兵ヲ罷遣ス。

○仙、米諸藩、秋田藩ニ迫リテ副總督及ヒ薩、長兵ヲ逐ハシム、

會、弘前藩使ヲ遣シテ副總督ヲ迎ヘンコトヲ請フ、副總督乃チ弘前ニ赴ク、是日、大館驛ヲ發シ、能代驛ニ抵ル。

二十八日、伊達慶邦、上杉齊憲ノ京邸ヲ沒シ、其臣隸ノ入京ヲ禁ス。

○總督、郡山驛ニ抵ル。

二十九日、副總督、能代驛ニ次シ、將ニ弘前ニ赴カントス、會、總督ノ使者到リ、仙臺ヲ發シテ久保田ニ赴カントスルヲ報ス、因テ仍能代ニ次シ、薩摩以下三藩兵ヲ戒メテ紀律ヲ嚴ニセシム、是日、書ヲ佐竹義堯ニ下シ、將ニ相會シテ再擧ノ策ヲ議セントスルヲ告ク。

六月朔日、副總督、藤村某（紫平、門藩士）長ヲ遣シテ、援ヲ越後口官軍及ヒ大總督府ニ乞ヒ、且急ヲ京師ニ報セシム、因テ書ヲ大總督府ニ致シテ、莊内征討ノ顚末ヲ報シ、汽船ヲ能代港ニ派遣センコトヲ請フ。

○莊內征討ノ諸藩、既ニ其兵ヲ解ク、是ニ於テ佐竹義堯使ヲ督府ニ遣シテ、菊章旗ヲ奉還ス、督府乃チ討莊諸藩ニ令シテ、皆之ヲ奉還セシム。

三日、總督、森岡ニ抵ル、南部利剛迎謁ス、總督乃チ利剛ニ命シテ副總督ヲ迎ヘシム、利剛之ヲ諾ス、既ニシテ薩、長兵ノ隨從

スルヲ拒ム。

四日、是ヨリ先、秋田藩兵ヲ能代驛ニ出シ、副總督ヲ警守セシム、是日、副總督之ヲ罷歸シ、且命シテ異日警急アラハ、本地ノ戍兵ヲシテ警守ノ事ニ服セシム。

七日、督府、南部利剛ヲ諭シテ、王事ニ勤メシム、利剛、書ヲ上リテ勤王貳ナキノ意ヲ陳ス、督府又盛岡、八戸二藩ニ命シテ、軍資金壹萬兩ヲ供億セシム。

十二日、是ヨリ先、副總督、使ヲ箱館ニ遣シテ、急ヲ箱館府知事清水谷公考(侍從)ニ報ス、是ニ至リ公考、艦船ヲ具ヘテ來リ迎フ、適、總督、使ヲ遣シテ速ニ軍ヲ久保田ニ進メンコトヲ促ス、副總督乃チ假ニ能代驛ニ次シ、薩摩以下三藩兵ニ令シテ、將ニ久保田ニ赴カントスルヲ告ク。

十三日、佐竹義堯、書ヲ督府ニ上リテ、方今干戈相尋キ、内ハ生靈塗炭ニ苦ミ、外ハ各國窺窬ヲ懐キ、内憂未タ消セス、外患繼テ至ラントスルノ虞アルヲ以テ、松平容保、酒井忠篤ノ罪ヲ寛宥シ、速ニ鎭撫ノ規摸ヲ確立センコトヲ請フ。

十七日、是ヨリ先、大總督府移牒シテ、東叡山賊徒戡定ノ事ヲ報シ、且奥羽ノ形勢ヲ問フ、是日、總督、其臣鹽小路光孚(刑部權少輔)ヲ大總府ニ遣シテ、奥羽ノ事情ヲ報セシメ、且書ヲ致シテ仙臺ヲ發シ、盛岡ニ至リシヲ告ク。

十八日、初メ天童藩老臣吉田守隆、官軍ヲ嚮導シカヲ王事ニ効ス、既ニシテ奥羽同盟ノ約成ルニ及テ、首トシテ歸順ヲ圖ル、故ヲ以テ深ク奥羽諸藩ノ憎ム所ト爲ル、是ニ至リ諸藩天童藩ニ迫リテ、守隆ヲ處分セシム、守隆遂ニ自殺ス、尋テ天童藩兵ヲ秋田口ニ出シ、以テ官軍ニ抗ス。

十九日、朝廷、佐竹義堯、津輕承昭、南部利剛賊中ニ孤立スルノ聞アルヲ以テ、書ヲ下シテ之ヲ奬勵シ、官軍ノ至ルヲ待チテ、共ニ進勦セシム。(時ニ義堯等、奥羽同盟ニ列スルノ報、未タ到ラス、)

二十四日、初メ總督ノ盛岡ニ抵ルヤ、將ニ久保田ニ赴カントス、因リテ之ヲ佐竹義堯ニ告ク、義堯肯カス、乃チ參謀前山長定ヲ弘前ニ遣シテ、津輕承昭ノ向背ヲ問ヒ、且諭シテ二總督ヲ納レシム、承昭答フルニ勤王貳ナキヲ以テシ、之ヲ諾ス、既ニシテ秋田藩ノ義徒、義堯ヲ匡諫シテ王事ニ勤メシム、義堯乃チ使ヲ盛岡及ヒ能代ニ遣シテ、二總督ヲ迎フ、是ニ於テ總督意ヲ決シテ、久保田ニ赴ク、是日、盛岡ヲ發ス、參謀醍醐忠敬先發シ、間道ヨリ之ニ赴ク。

二十七日、總督、角館驛ニ抵ル、參謀醍醐忠敬來會ス。

二十八日、總督、角館驛ヲ發ス、秋田藩兵前導タリ、是日、苅和

野驛ニ抵ル。

二十九日、總督、豊島驛ニ抵ル。

○副總督、能代驛ヲ發シ、久保田ニ赴ク、是日、一日市驛ニ抵ル。

○督府、軍事役藤川忠猷ヲ以テ軍監ト爲ス。

第九 自明治元年七月朔日 至同 十一日

七月朔日、總督、久保田ニ抵ル、副總督モ亦來會ス、佐竹義堯迎謁ス。

二日、督府、各藩會議所ヲ本營ニ置キ、軍事ヲ議ス、又佐竹義堯ヲ召見シ、諭シテ之ヲ勗メシム、義堯依違シテ決セス。

○是ヨリ先、入道公現親王（輪王寺宮）、江戸ヲ去リテ會津ニ奔ル、是ニ至リ仙臺ニ赴キ、伊達慶邦、上杉齊憲ニ令シ、奧、羽、越諸藩ヲ督シテ、薩摩藩兵ヲ撃タシム、諸藩乃チ相謀リ、親王ヲ推シテ軍事總督ト爲シ、公議府ヲ白石ニ設ク、板倉勝靜（伊賀〇舊備中松山藩主、舊幕府老中、時ニ姓名ヲ變シテ德山四郎ノ衞門、又三井八郎ト稱ス）、小笠原長行（壹岐〇唐津藩主長國ノ子、舊幕府老中、時ニ山中靜翁、又三好寛介、津毛傳輔ト稱ス）、阿部正備（[illegible]ト稱ス〇棚倉藩主正靜ノ高祖父）、等モ亦來會ス、諸藩又書ヲ横濱駐劄各國公使領事ニ贈リテ、聯合ノ事ヲ告ク。

三日、大學進剿ノ議決ス、是ニ於テ薩摩、筑前、長門、肥前、小倉五藩兵、請テ先鋒ヲ乞フ、督府之ヲ聽ス。

四日、秋田藩ノ義徒、佐竹義堯ニ勸メテ征討先鋒タラシム、適、伊達慶邦ノ使者久保田ニ至リ、義堯ニ迫リテ二督及ヒ薩、長兵ヲ逐ハシメ、仙、米諸藩兵モ亦進テ院内口ニ薄ル、義堯乃チ其使ヲ斬リ、先鋒ヲ乞フ、督府之ヲ聽ス、尋テ更ニ菊章旗ヲ義堯ニ下付ス。

五日、督府、南部利剛、南部信順ニ命シテ、莊内征討應援兵ヲ豫備シ、以テ不時ノ徵發ニ應セシム。

六日、督府、諸軍ヲ部署シ、薩摩、長門、肥前、小倉四藩兵ハ院内口（又新莊口、清川口ト稱ス）ヨリ、筑前、肥前、秋田三藩兵ハ小砂川口（又新屋口、本莊口、大師堂口ト稱ス）ヨリ南道並進テ莊内ヲ討セシム、又山本某（登雲介）、上田某（[illegible]）ヲ以テ監軍ト爲シ、秋田藩兵ヲ監セシム、是日、諸軍久保田ヲ發ス、二總督出テ其軍容ヲ觀ル。

七日、小砂川口官軍進テ龜田ニ薄リ、書ヲ岩城隆邦ニ贈リテ、將ニ進撃セントスルヲ告ク、隆邦書ヲ上リテ勤王貳ナキヲ陳謝シ、且征討ノ先鋒ヲ乞フ、因リテ之ヲ聽シ、本月十日ヲ期シテ兵ヲ本莊ニ出サシム、是日、官軍本莊ニ至ル。

八日、督府、生駒親敬ヲ以テ、更ニ莊内征討先導ト爲シ、兵ヲ觀音森、百宅二口ニ出サシム、親敬ノ支族生駒俊德モ亦、更ニ兵

一小隊ヲ出シテ親敬ニ屬ス。

九日、六郷政鑑、岩城隆邦、督府ニ詣リ起居ヲ候ス、督府更ニ庄内征討應援ヲ命シ、速ニ兵ヲ出シテ實効ヲ奏セシム。

○肥前藩海軍兵員詳ナラス、八戸海ニ至リ、兵ヲ分テ久保田ニ入ル、督府命シテ本莊ニ赴援セシメ、明日、其八戸海ニ在ル者ヲシテ、秋田藩軍艦ニ駕シ、莊内ヲ進撃セシム。

十日、督府、南部利剛ニ命シテ、速ニ討莊應援兵ヲ出サシム、利剛乃チ兵ヲ封内雫石驛ニ出ス。

十一日、院内口官軍、進テ横堀驛ニ至ル、新莊藩兵來リ應ス、時ニ仙臺、米澤、山形、上山、天童等諸藩兵、金山、及位等、諸處ニ分據ス、官軍乃チ兵ヲ分チ、一ハ本道ヨリ、進テ及位驛ヲ攻ム、賊退テ驛後ノ險要ヲ扼シ拒キ戰フ、官軍利アラス、院内驛ニ退守ス、一ハ役内、銀山兩間道ニ向ヒ、賊兵ヲ稻澤、大瀧、中田等諸村ニ破リ、進テ金山驛ヲ取ル、是夜、及位、中田ノ賊來テ金山ヲ襲フ、官軍撃テ之ヲ破ル、賊船形驛ヲ望テ走ル。

○小砂川口官軍、兵ヲ分テ矢島ニ至リ、及位、升田、秡川等諸口ヲ扼守ス。

第十 自明治元年七月十二日 至同 十八日

七月十二日、二總督、書ヲ軍防局ニ致シテ、本月朔日、久保田ニ入リ、更ニ莊内征討ノ軍ヲ發セシヲ報シ、速ニ援軍ヲ派遣センコトヲ請フ。

○小砂川口官軍、進テ本莊ニ至ル、六郷政鑑、書ヲ監軍ニ上リテ、討莊先鋒ヲ乞フ、仁賀保誠成、孫九郎○采邑出羽仁賀保、二千石、仁賀保誠中兵庫○采邑同上千石、時ニ誠成、誠中並ニ久保田ニ在リ、ノ家臣モ亦秋田藩兵ニ因テ、討莊先鋒ニ加ンコトヲ請フ、並ニ之ヲ聽ス。

○院内口官軍進テ新莊ニ至ル。

十三日、津輕承昭、既ニ前月十九日ノ朝命ヲ拜ス、是ニ於テ奥羽同盟諸藩ト絶チ、使ヲ秋田、盛岡二藩ニ遣シ、力ヲ戮セテ王事ニ勤メンコトヲ謀ル、是日、督府、承昭ニ命シテ、更ニ兵ヲ新莊ニ出シ、莊内征討ノ官軍ニ應援セシム、尋テ承昭ヲシテ軍資金壹萬兩ヲ供億セシム。

○莊内兵、松山兵ト倶ニ白河口ニ赴援セントス、途ニ官軍進テ封疆ニ向フト聞キ、轉シテ船形驛ニ至リ、仙、米諸藩兵ニ合ス、是日、院内口官軍、路ヲ分テ船形、長澤二驛ヲ攻ム、賊兵拒キ戰フ、官軍利アラス、鳥越驛ニ退守ス。

○小砂川口官軍、進テ鹽越驛ニ至ル、本莊、百六十人、龜田二小隊、二藩及ヒ矢島一小隊、ノ兵來リ加リ、仁賀保誠成、仁賀保誠中モ亦兵一小隊、ヲ

發シテ來リ屬ス、時ニ莊内兵三崎口ニ據守ス、官軍乃チ兵ヲ分チ、一ハ賊兵ヲ小砂川驛ニ破リ、進テ三崎嶺ヲ攻ム、賊嶮ニ據テ力メ拒ク、官軍利アラス、退テ小砂川ニ次シ、賊ト相持ス、一ハ小瀧、大須郷二口ヨリ進テ、觀音森及ヒ猿穴峠ヲ奪ヒ、明日、轉シテ小砂川ニ來會ス。

十四日、賊兵、鳥越驛ヲ攻ム、官軍、邀ヘ擊テ之ヲ破ル、時ニ新莊藩分レテ二黨ト爲リ、一ハ官軍ニ屬シ、一ハ賊兵ヲ誘シテ、間道ヨリ新莊城ヲ襲フ、官軍防戰利アラス、城遂ニ陷ル、戶澤正實久保田ニ走ル、官軍乃チ院内驛ニ退キ、兵ヲ分テ大瀧村及ヒ鹽根坂ヲ扼ス、秋田藩モ亦兵ヲ鹽根坂ニ出シ、以テ賊ニ備フ。

十五日、仁賀保誠成、仁賀保誠中、既ニ兵ヲ小砂川口ニ出ス、是ニ至リ更ニ米千苞ヲ獻シテ、軍糧ニ充ンコトヲ請フ、督府、其忠ヲ賞シテ之ヲ聽シ、且命シテ其兵ヲ收メ、采邑ヲ警守セシム。

十六日、朝廷、總督九條道孝、副總督澤爲量、參謀醍醐忠敬、大山綱良、前山長定及ヒ薩摩、筑前以下五藩兵、深ク賊中ニ入リ、艱苦日久ヲ以テ、書ヲ下シテ之ヲ獎勵シ、援軍ヲ發スルヲ告ケ、且金幣ヲ賜フ、又佐竹義堯、南部利剛、津輕承昭ヲ督促シテ、諸軍ト力ヲ戮セ、莊内ヲ屠リ、亟ニ戡定ノ功ヲ奏セシム、尋テ督府、利剛、承昭ヲ久保田ニ召シテ其命ヲ傳フ、利剛遂ニ至ラス。

〇小砂川口官軍、三崎口ノ賊ト相持スルコト數日、是日、昧爽、官軍兵ヲ分チ、一ハ本道ヨリ進テ、三崎嶺ノ賊ヲ攻メ、一ハ間道ヨリ女鹿村ヲ奪ヒ、遶リテ其背ヲ衝ク、賊兵殊死シテ戰フ、官軍利アラス、退テ鹽越驛ニ次シ、關中、澤、小瀧等諸村ヲ扼守ス、觀音森ノ官軍モ亦、小瀧鹽越ニ退ク。

十七日、朝廷、肥前藩老臣鍋島茂昌（上總）ニ命シ、手兵ヲ率ヰテ出羽ニ赴キ、鎭撫總督ヲ輔ケシム、因リテ參謀大山綱良ニ命シテ、茂昌ト力ヲ戮セ、速ニ戡定ノ功ヲ奏セシム。

十八日、仙臺兵、盛岡藩ヲ經テ、弘前藩内ニ侵入スルノ聞アリ、督府乃チ弘前、盛岡二藩ニ令シテ、速ニ之ヲ討セシム。

第十一　自明治元年七月二十三日　至同　八月　二日

七月二十三日、軍務官副知事久我通久（大納言）ヲ以テ東北遊擊軍將ト爲シ、議定ノ事ヲ兼知シ、總督九條道孝等ト倶ニ賊徒ヲ戡定セシメ、軍務官權判事船越衛（洋之助）、池田種德（德太郎）（並ニ安藝藩士）二人ヲ參謀ト爲ス、尋テ通久等京ヲ發ス、安藝、因幡、小倉、佐土原四藩兵之

ニ屬ス。

二十四日、是ヨリ先、長崎府知事澤宣嘉（右衛門權佐）密旨ヲ奉シ、府兵及ヒ筑前、肥前、島原、平戸、大村五藩兵ヲ發シテ、奥羽ノ官軍ニ應援セシム、是ニ至リ府兵（振遠隊、四百人、）○土崎港ニ至ル、總督乃チ諸軍ニ令シテ、援軍ノ至ルヲ告ク。

二十五日、賊兵、路ヲ分テ大瀧村及ヒ鹽根坂ヲ襲フ、官軍利アラス、雄勝峠（又院內峠ト稱ス、）ニ退守ス。

二十六日、是ヨリ先、督府、莊內帆船一隻ヲ深浦港ニ捕獲シ、其搭載スル所ノ小銃若干ヲ沒收ス、是ニ至リ之ヲ秋田、本莊、新莊、龜田四藩及ヒ矢島ニ分付ス。

二十八日、長崎府兵、弘前藩兵（五小隊、）久保田ニ至ル、督府乃チ府兵ヲ院內口ニ、藩兵ヲ鹽越驛ニ差遣シ、秋田藩兵ノ院內口ニ在ル者ヲシテ、轉シテ矢島口ニ赴カシム、又秋田藩ニ令シテ冗兵ヲ淘汰セシム。

○院內口官軍、兵ヲ分テ雄勝峠銀山口、中村口等諸處ヲ扼守ス、是日、賊兵、雄勝峠及ヒ銀山口ヲ襲フ、官軍逆ヘ擊テ之ヲ卻ク、賊又中村口ヲ攻ム、官軍利アラス、横堀驛ニ退守ス、是ニ於テ雄勝峠及ヒ銀山口ノ官軍モ亦、横堀ニ退ク。

○賊兵、路ヲ分テ矢島及ヒ百宅村ヲ襲フ、官軍防戰利アラス、生駒親敬、生駒俊德（時ニ俊德矢島ニ在リ、）ト倶ニ營ヲ火キテ、久保田ニ走ル、官軍退テ大澤、沼館等諸村ニ次シ、院內口官軍ト相合ス。

○肥前藩老臣鍋島茂昌、手兵（八百三十九人、）ヲ率キテ久保田ニ至ル。（○鍋島茂昌陣中日記）

二十九日、督府、軍律ヲ諸軍ニ頒ツ。

○院內口官軍、賊兵ヲ中村口ニ攻ム、賊兵拒キ戰フ、官軍利アラス、明日、退テ横手驛ヲ保ツ、是時ニ當リ、越後口官軍、進テ米澤ニ逼ル、米澤兵ノ院內口ニ在ル者、乃チ兵ヲ收メテ封疆ニ退守ス、天童兵モ亦撤還ス。

八月朔日、監軍山本某（登之介、）書ヲ飛シテ、莊內賊勢猖獗、小砂川口危急ノ狀ヲ報シ、速ニ援軍ヲ發センコトヲ請フ、督府乃チ佐竹義諶（播磨守○秋田新田藩主、食封二萬石、後岩崎藩ト改ム、）ヲシテ兵ヲ發シ、秋田藩兵ト倶ニ赴援セシメ、鍋島茂昌ヲ本莊ニ差遣ス。

○小砂川口官軍、鹽越驛ニ次シ、兵ヲ分テ洗釜、中澤關、小瀧等諸村ヲ扼守ス、是日、莊內兵、松山兵ト路ヲ分テ來リ襲フ、官軍利アラス、本莊ニ退守ス。

二日、弘前藩兵、平澤驛ニ至ル、是日、賊兵平澤ヲ攻ム、官軍利アラス、本莊ニ退ク、賊又伊勢居地驛ニ逼ル、生駒俊德（時ニ俊德久保田ニ在リ）ノ家臣久保田ニ走ル。

第十二　明治元年八月三日至同十一日

八月三日、伊達慶邦、上杉齊憲ノ官位ヲ褫キ、之ヲ討ス。

○小砂川口官軍、兵ヲ分テ吉澤口ヲ扼シ、以テ矢島口ノ賊ヲ拒ク、是日、賊兵新上條、本行免等諸村ヲ襲フ、官軍利アラス、前郷村ニ退守ス。

四日、仁賀保誠成、仁賀保誠中、（時ニ二人仍久保田ニ在リ）書ヲ督府ニ上リテ、采邑平澤驛、庄内兵ノ焚略スル所ト爲リシ狀ヲ申シ、征討ノ軍ヲ發センコトヲ請フ。

五日、小砂川口官軍、兵ヲ分チ、一ハ賊兵ヲ平澤驛ニ破リ、進テ芹田村ヲ攻ム、賊兵潰エ走ル、既ニシテ賊大擧返撃ス、官軍利アラス、本庄ニ退ク、一ハ矢島口ニ向ヒ、賊兵ト新上條、吉澤等諸村ニ戰フ、迭ニ勝敗アリ、適、小砂川口ノ賊、本庄ニ逼ルノ報到ル、因テ本庄ニ退守ス。

六日、院内口官軍、書ヲ飛シテ、賊勢鴟張ノ狀ヲ報シ、二督若クハ參謀醍醐忠敬、出テ諸軍ヲ督センコトヲ請フ、是ニ於テ、副總督院内口ニ赴ク、是日、久保田ヲ發シ、堺驛ニ抵ル、佐竹義堯モ亦堺驛ニ出テ、藩兵ヲ督勵ス、明日、義堯移テ新屋口ニ陣ス。

○督府、岸良直養、（彥七○薩摩藩士）高津某、（愼一）中尾某、（榮吉郎○二人並ニ長門藩士）牟田口元學（德太郎○肥前藩士）ヲ以テ監軍ト爲ス、尋テ高津某、中尾某ヲ罷ム。

○賊兵、本庄ヲ攻ム、六郷政鑑城ヲ火テ、久保田ニ走ル、賊又龜田ニ逼ル、岩城隆邦賊ニ降リ、庄内ニ奔ル、是ニ於テ、小砂川口官軍、退テ長濱、新屋、小山、左手子、向野、小種、福部羅等、諸所ヲ扼守シ、賊ト御物川ヲ挾テ相持ス。

七日、副總督、横手驛ニ抵ル。

○督府、桂某、（太郎○長門藩士）和田正秀、（左左衛門○薩摩藩士）石田忠鄉、（英吉○土佐藩士）大山重、（莊太郎○越前藩士）平井正淳、（小左衛門○小倉藩士）田村昌宗、（乾太左衛門○肥前藩士）ヲ以テ參謀添役ト爲ス。

○院内口官軍、兵ヲ分テ賊兵ヲ岩崎村ニ攻ム、利アラスシテ退ク。

八日、督府、安村某、（櫻太郎○長門藩士）樺山某（仲左衛門○薩摩藩士）ヲ以テ使役ト爲ス。

○賊兵進テ湯澤、稻庭二驛ニ至ル、仙臺後軍及ヒ一關兵モ亦來リ加ル、院内口官軍、乃チ之ヲ進勦セントス、是日、兵ヲ分チ、一ハ本道ヨリ再ヒ岩崎村ヲ攻メ、一ハ淺舞口ヨリ角間村ニ逼ル、賊兵拒キ戰フ、官軍利アラスシテ退ク、一ハ增田口ニ向ヒ、賊兵ト大門、八面等諸村ニ戰フ、時ニ本道ノ官軍、既ニ退ク、因テ軍ヲ收メテ退ク、賊尾撃甚急ナリ、官軍撃テ之ヲ卻ク。

九日、總督府、監軍上田某、（華一）山本某（登雲介）ヲ以テ參謀添役ト爲

シ、監軍ヲ兼シム。

○是ヨリ先、南部利剛督府ノ命ヲ奉シ、討庄應援兵ヲ雫石驛ニ出ス、適、伊達慶邦使ヲ盛岡ニ遣シ、利剛ニ迫リテ秋田藩ヲ撃タシム、利剛依違シテ決セス、故ヲ以テ藩兵雫石ニ次シ、逗撓シテ進マス、既ニシテ老臣楢山隆吉（佐渡）京ヨリ歸リ、利剛ニ勸メテ秋田藩ヲ撃タシム、利剛遂ニ意ヲ決シ、隆吉等ヲシテ兵ヲ率ヰテ之ニ向ハシム、隆吉等乃チ書ヲ秋田藩ニ贈リテ、仙臺ノ盟ニ背キシヲ詰リ、直ニ進テ澤尻、猿間等諸村ヲ攻ム、秋田藩兵防戰利アラス、賊遂ニ十二所驛ヲ取ル、賊又雪澤口（又新澤口ト稱ス、）ヨリ進テ、大館驛ニ向フ、藩兵、鬼城山下ニ出拒ク、賊敢テ逼ラス。

○賊兵、進テ馬鞍村ヲ攻ム、官軍、奮撃シテ之ヲ破リ、追躡シテ明澤村ニ至ル、既ニシテ横手驛ニ退守ス。

十一日、督府、參謀醍醐忠敬、前山長定ヲ弘前ニ遣シ、津輕承昭ヲ督シテ、盛岡ヲ討セシム、是日、忠敬等久保田ヲ發ス。

○督府、館山某（善左衛門○弘前藩士、）福島某（禮助○肥前藩士、）杉山友善（新五右衛門○筑前藩士、）ヲ以テ參謀添役ト爲ス。

○副總督横手驛ニ次ス、適、小砂川口官軍、連戰利アラス、秋田封疆ニ退守スルノ報到ル、是ニ於テ、秋田藩兵ヲ留メテ横手ヲ守ラシメ、院内口ノ諸軍ヲ率ヰテ、神宮寺驛ニ移陣ス、是日、賊兵路ヲ分テ横手ヲ襲フ、官軍利アラス、金澤驛ニ退ク、賊又角間川村ニ逼ル、官軍、田村ニ逆ヘ撃テ之ヲ破ル。

○盛岡兵、雪澤口鬼城山ニ據リ、將ニ大館驛ニ逼ラントス、秋田藩兵路ヲ分テ之ヲ掩撃ス、賊兵潰エ走ル、是日、十二所口ノ賊、秋田藩兵ヲ大瀧村ニ破リ、進テ扇田村ニ至ル。

○六郷政鑑、久保田ニ來奔ス、是日、書ヲ督府ニ上リテ之ヲ申ス。

第十三　自明治元年八月十二日 至同二十一日

八月十二日、督府、監軍牟田口元學及ヒ鎌田政英（英三郎○小倉藩士、）朝倉某（孫右衛門、）永山某（巳一郎、）馬渡某（作二郎○以上三人並に肥前藩士、）內田某（謙三郎○長門藩士、）松浦某（多門○大村藩士、）ヲ以テ使役ト爲ス、尋テ元學ヲ罷ム。

○秋田藩兵、盛岡兵ヲ扇田村ニ攻ム、賊兵潰エ走ル、既ニシテ賊山館村ヲ侵ス、藩兵撃テ之ヲ走ラス。

十三日、總督、佐竹義堯ト倶ニ矢橋病院（久保田ニアリ、）ニ莅ミ、創者ヲ慰問ス。

○副總督、院內口ノ諸軍ヲ犒ヒ、且之ヲ奬勵ス。

○督府、監軍岸良直養及ヒ高津某（愼一、）ヲ越後口總督府ニ遣シテ、賊勢猖獗ノ狀ヲ報シ、援ヲ乞フ、尋テ越後督府、復書シテ應援

兵ヲ發スルヲ告ク。

○本莊藩兵及ヒ仁賀保誠成ノ家臣、前後久保田ニ來奔ス、督府、之ヲ左手子村ニ差遣シ、秋田藩兵ニ屬セシム。

○賊兵、進テ角間川村ニ逼ル、官軍邀ヘ擊テ之ヲ破リ、追躡シテ木内村ニ至ル、既ニシテ賊大擧返擊ス、官軍利アラス、大曲、神宮寺二驛ニ退守ス。

十四日、是ヨリ先、島原（二百五十七人）、大村（三百二十四人）、二藩兵、船川港ニ至ル、督府、命シテ速ニ久保田ニ至ラシム、尋テ至ル、是日、命シテ院内口ニ赴援セシム。

○院内口官軍、兵ヲ分チ、一ハ賊兵ヲ、大保、藤木等諸村ニ破リ、進テ角間川村ヲ攻メ、一ハ六鄕驛ニ逼ル、賊兵拒キ戰フ、官軍利アラス、退テ神宮寺驛ニ據リ、兵ヲ分テ角館、北楢岡、神宮寺嶽等諸處ヲ扼シ、賊ト玉川及ヒ御物川ヲ挾テ相持ス。

○是ヨリ先、朝廷、南部利剛ニ命シ兵ヲ發シテ箱館ヲ警守セシム、（四月十四日ニ在リ）是ニ至リ藩兵ノ箱館ニ在ル者、本藩ノ急ヲ聞キ、其營ヲ火キテ、盛岡ニ撤歸ス、是日、報督府ニ到ル。

十五日、督府、秋田藩ニ令シ、監軍三人ヲ置キテ、藩兵ヲ監督セシム、尋テ藩士添田某（清左衛門）、ヲ以テ監軍ト爲シ、使役ヲ兼シメ、中安某（泰治）、ヲ監軍ト爲シ、藩兵ヲ監セシム。

○島原、大村二藩兵、院内口ニ至ル、副總督、島原藩兵ヲシテ北楢岡驛ヲ守ラシメ、大村藩兵ヲ角館驛ニ差遣ス、又長門藩及ヒ矢島ノ兵、數戰鬪ヲ經、見兵寡少ナルヲ以テ、相合シテ一隊ヲ編シ、北楢岡驛ニ據守セシム、尋テ島原藩兵ヲ苅和野驛ニ移ス。

十七日、參謀醍醐忠敬、前山長定弘前ニ至リ、津輕承昭ニ命シテ、盛岡ヲ討セシム、承昭乃チ兵（三大隊）ヲ發シ、碇ケ關、早瀨野、野邊地三道ヨリ進テ盛岡ニ向フ。

○平戸藩兵（四百人）、久保田ニ至ル、督府、命シテ新屋口ニ赴援セシム。

十八日、越後口總督府、薩摩藩兵（七百三十七人）、ヲシテ來援セシム、督府、命シテ院内口ニ赴援シセム。

○南部利剛、使ヲ弘前藩ニ遣シテ、奥羽ノ同盟ニ背クヲ詰ル、弘前藩之ヲ却ク、適、秋田藩十二所口ノ急ヲ報シ、援ヲ乞フ、弘前藩乃チ兵（一小隊）ヲ發シテ赴キ援フ、是日、二藩兵、賊兵ヲ大瀧、輕井澤等諸村ニ破リ、追擊シテ十二所驛ニ至ル、既ニシテ扇田村ニ退守ス、時ニ雫澤口ノ賊、大館驛ニ逼ルノ報到ル、弘前藩兵乃チ轉シテ大館ニ赴ク。

○賊兵、羽根川村ヲ襲フ、官軍利アラス、長濱驛ニ退ク、賊、直

ニ進テ長濱ニ逼ル、官軍、奮撃シテ之ヲ破リ、追躡シテ羽根川ニ至ル、賊又大正寺、左手子、白川、中小種等諸村ヲ侵ス、官軍撃テ之ヲ卻ク、是夜、官軍兵ヲ分チ、海路進テ道川、松崎二驛ヲ衛ク。

十九日、賊兵、大平山(神宮寺嶽ノ内)ヲ攻ム、官軍力戰シテ之ヲ卻ク。

二十日、督府、諸軍ヲ戒飭シテ、濫ニ火攻ヲ用ヒ、庶民ヲ疾苦スルコト勿ラシム。

○盛岡兵、進テ胴貫、扇田二村ヲ攻ム、秋田藩兵利アラス、根下戸村ニ退守ス、賊又雪澤口及ヒ金山驛、大葛村等諸處ヲ侵ス、藩兵撃テ之ヲ卻ク。

二十一日、督府、橋口某(次郎〇族籍未詳)ヲ以テ加賀守鑑船將ト爲シ、海路莊内ヲ進撃セシム、又長崎府兵ヲ以テ、督府衛兵ト爲シ、仍院内口ヲ守ラシメ、平戸藩兵ノ新屋口ニ在ル者ヲシテ、轉シテ神宮寺驛ニ赴カシム。

○盛岡兵、十二所、雪澤二道ヨリ進テ大館驛ニ向フ、秋田、弘前二藩兵、山館、金谷、餌釣等諸村ニ出拒ク、利アラス、賊遂ニ大館ニ薄ル、曉ニ至リ二藩兵營ヲ火キテ、綴子驛ニ退守ス。

第十四 自明治元年八月二十二日 至同 九月四日

八月二十二日、督府、井石某(忠兵衛)、松田某(次郎兵衛〇並ニ大村藩士)、二人ヲ以テ監軍ト爲シ、使役ヲ兼シメ、中村某(謙太郎〇族籍未詳)ヲ使役ト爲ス。

○賊兵、蛭川口ヲ侵ス、官軍撃テ之ヲ卻ク。

二十三日、平戸藩兵刈和野驛ニ到ル、副總督其兵ヲ分テ、刈和野、神宮寺二驛ヲ守ラシメ、肥前藩兵ノ刈和野ニ在ル者ヲシテ、轉シテ新屋口ニ赴カシム、尋テ平戸藩兵ノ神宮寺ニ在ル者ヲ、角館驛ニ移ス。

○督府、王師征討ノ意ヲ、奥羽ノ士民ニ申諭シテ、順逆ヲ誤ルコト勿ラシム。

○院内口官軍、神宮寺、角館等諸所ニ分據シ、賊ト玉川、御物川ヲ挾テ相持ス、是日、神宮寺ノ官軍路ヲ分チ、一ハ賊兵ヲ花館驛ニ破リ、進テ大曲驛ニ逼リ、一ハ南楢岡驛ヲ攻ム、賊兵力メ拒ク、戰哺ヨリ曉ニ至ル、官軍遂ニ利アラスシテ退ク、一ハ賊兵ヲ蛭川村ニ撃テ之ヲ破ル、明日、賊來リ侵ス、亦撃テ之ヲ卻ク、角館ノ官軍モ亦兵ヲ分チ、一ハ賊兵ヲ黑土、鎗見内、四谷等諸村ニ破リ、明日、進テ花館、大曲二驛ニ向フ、時ニ神宮寺ノ官軍既ニ退ク、因テ軍ヲ收メテ退ク、一ハ横澤村ニ向フ、賊兵國見村ニ出拒ク、官軍利アラス、明日、撃テ之ヲ破ル。

○賊兵上子阪ヲ襲フ、官軍利アラス、川口村ニ退守ス、賊又行

坂ニ逼ル、官軍撃テ之ヲ卻ク。

二十四日、賊兵、小種、川口二村ヲ襲フ、官軍利アラス、土淵村ニ退守ス、明日、官軍進テ小種、川口二村ニ至ル、賊兵既ニ退キ去ル。

二十七日、十二所口賊勢猖獗ヲ以テ、督府參謀添役田村昌宗ヲシテ、肥前、小城二藩兵ノ新屋口及ヒ久保田ニ在ル者ヲ率ヰテ赴援セシム、是日、賊兵進テ小繋、今泉二村ニ逼ル、官軍邀ヘ撃テ之ヲ破ル、賊又大澤村ヲ侵ス、官軍利アラス、明日、撃テ之ヲ卻ク。

二十八日、盛岡、賊勢鴟張スルヲ以テ、督府軍艦藤川忠猷ヲ弘前ニ遣シ、津輕承昭ヲ促シテ、速ニ賊背ヲ衝カシム。

○賊兵、進テ角館驛ニ逼ル、官軍、玉川ヲ隔テ拒キ戰ヒ、別軍河ヲ渡テ之ヲ横撃ス、賊兵潰エ走ル、明日、賊又至ル、亦撃テ之ヲ卻ク。

○初メ賊兵ノ角館驛ヲ進撃セントスルヤ、盛岡藩ヲシテ生保内口ヨリ進テ、其背ヲ衝カシム、是日、盛岡兵、進テ生保内驛ヲ襲フ、秋田藩兵逆ヘ撃テ之ヲ破ル、賊走テ雨ケ嶽ニ據ル、明日、藩兵進テ之ヲ攻ム、賊兵潰エ走ル。

二十九日、十二所口官軍、路ヲ分チ、賊兵ヲ前山、坊澤、綴子、脇神、鷹巣等諸村ニ撃テ、之ヲ破ル。

○是ヨリ先、越後口總督府、薩摩藩兵ヲシテ、春日艦（[illegible]）ニ駕シ來援セシム、是日、小砂川口官軍兵ヲ分チ、一ハ春日艦ト海陸並進テ勝手村ヲ攻メ、一ハ賊兵ヲ君ケ野、蚶肝煎等諸村ニ破リ、又觀音山ヲ攻ム、賊兵善ク拒ク、官軍克タス、シテ退ク。

九月二日、十二所口官軍、兵ヲ分チ、一ハ賊兵ヲ岩瀬川口、餅田等諸村ニ破リ、進テ大館驛ニ逼ル、賊伏ヲ設ケ要撃ス、官軍利アラス、餅田、川口二村ニ退守ス、一ハ板澤村ノ賊ヲ撃チ、進テ扇田村ニ至ル。

三日、是ヨリ先、澤宣種（主水正、爲量ノ子）、久保田ニ至ル、是ニ至リ督府、宣種及ヒ參謀添役桂某（太郎）ヲ越後ニ遣シテ、援軍ヲ促サシム、是日、宣種等船川港ヲ發ス。

○筑前藩第二軍、（三百三十七人）、久保田ニ至ル、督府、之ヲ院内口ニ差遣ス。

四日、督府、出征諸藩ニ令シテ、兵士ノ殊功アル者ヲ錄申セシム。

○賊復、蛭川口ヲ侵ス、官軍撃テ之ヲ卻ク。

第十五 自明治元年九月五日 至同 十一日

九月五日、總督、新屋驛ニ抵リ、諸軍ヲ犒勞ス、既ニシテ久保田ニ還ル。

○十二所口官軍、路ヲ分テ大館驛ヲ連攻ス、賊兵拒キ戰フ、勝敗未タ決セス、是ヨリ先、弘前藩兵碇關口ヲ扼シ、以テ大館ノ賊ニ備フ、是日、追取越ヨリ進テ片山村ニ至リ、官軍ニ合ス、曉ニ至リ、賊潜ニ軍ヲ拔テ去ル、官軍進テ大館ニ入リ、兵ヲ分テ雪澤口ヲ扼ス。

七日、督府、軍監藤川忠猷ヲ京師ニ遣シテ、出羽ノ形勢ヲ奏セシム。

○督府、奥羽ノ士民ニ諭シ、賊徒鎭定ノ期近ニ在ルヲ以テ、皆順逆ヲ辨シ、各其堵ニ安セシム。

○十二所口官軍、路ヲ分テ、賊兵ヲ大瀧村靄山、神樂山等ニ破リ、進テ十二所驛ヲ衝ク、賊走テ三哲山ニ據ル、官軍隨テ之ヲ攻ム、克スシテ退ク。

○賊兵、蛭川口ヲ侵ス、官軍邀ヘ撃テ之ヲ卻ク、明日、賊又至ル、亦撃テ之ヲ破ル。

八日、遊撃軍將新潟ニ抵リ、秋田ノ急ヲ聞キ、參謀船越衞ヲシテ、因幡一大隊、佐土原一小隊、二藩兵ヲ率キテ赴援セシム、是日、衞等久保田ニ至ル、尋テ督府、因藩幡兵ヲ豐島驛ニ、佐土原藩兵ヲ堺驛ニ差遣ス。

○院内、小砂川兩道ノ官軍、角館驛以西、新屋驛ニ至ル、諸處ニ分據シ、賊ト玉川、御物川ヲ挾テ相持ス、是日、賊兵御物川ヲ濟リ、進テ上野、福部羅、貝澤、川口下、淀川等諸村ヲ襲フ、官軍利アラス、上淀川、堺、豐島口等ニ退守ス、是夜、警報神宮寺驛ニ到ル、副總督乃チ神宮寺北楢岡等ノ諸軍ヲ分テ、之ニ應援セシム。

九日、督府、木藤某彌太郎、族籍未詳○ヲ以テ監軍ト爲ス。

○新莊藩第二軍兵員詳ナラス、久保田ニ至ル、督府、之ヲ豐島驛ニ差遣ス。

○賊兵、進テ北目村ニ至リ、將ニ刈和野驛ニ逼ラントス、官軍、御物川ヲ挾テ之ヲ防ク、賊遂ニ退キ去ル、明日、賊又至ル、亦之ヲ撃卻ク。

十日、督府、肥前藩海軍ヲシテ野邊地驛ヲ攻メシム、是日、海軍進テ野邊地ヲ襲フ、賊兵潰エ走ル、因テ轉シテ脇野澤驛ヲ衝ク、賊又守ヲ棄テ遁ル。

○賊兵路ヲ分チ、一ハ上淀川、堺、峰吉川、大平山等諸所ヲ襲フ、官軍利アラス、刈和野、神宮寺、神内村等ニ退守ス、一ハ椿臺佐竹義誠ノ治所、及ヒ豐島驛ニ逼ル、官軍拒キ戰フ、賊退テ糠塚森ニ據

ル、明日、官軍路ヲ分テ之ヲ掩撃ス、賊兵潰エ走ル、是夜、副總督、神宮寺驛ヲ去リテ、角館驛ニ移陣ス。

十一日、賊兵、刈和野驛ヲ襲フ、官軍利アラス、神宮寺驛ニ退ク、賊又蛙川口ヲ侵ス、官軍撃テ之ヲ卻ク、時ニ神宮寺腹背敵ヲ受ケ、勢甚急ナリ、官軍乃チ角館驛ニ移陣ス、賊遂ニ進テ神宮寺ニ據ル。

○官軍、進テ堺驛ニ至ル、賊既ニ退テ上淀川村ニ據ル、是夜、賊來リ襲フ、官軍撃テ之ヲ卻ク。

第十六 自明治元年九月十二日 至同 二十日

九月十二日、大館ノ官軍、進テ雪澤口ニ向ヒ、賊兵ヲ大葉臺、石淵、長根等ニ迎攻ス、是日、之ヲ破リ、直ニ水澤村ニ逼ル、賊守ヲ棄テ遁逃ス、官軍乃チ水澤村ニ次シ、兵ヲ分テ要衝ヲ扼シ、以テ賊ト相持ス。

○賊兵、路ヲ分テ長濱、小山、豐卷、追分等諸所ヲ襲フ、官軍力戰シテ之ヲ卻ク。

十三日、神宮寺、刈和野、上淀川等皆賊ニ陷リ、角館、久保田應援途絶ス、是ニ於テ角館ノ官軍相誓ヒ、死ヲ決シテ、賊巢ヲ進剿セントス、副總督乃チ軍令ヲ申嚴シ、諸軍ヲシテ神宮寺、刈和野、上淀川等ノ賊ヲ討セシム、是日、副總督角館ヲ發シ、別路ヨリ久保田ニ赴ク。

十五日、角館ノ官軍、賊兵ヲ刈和野驛ニ攻ム、賊走テ驛後ノ要衝ヲ扼シ、拒キ戰フ、勝敗未タ決セス、既ニシテ神宮寺ノ賊、來テ官軍ノ背ヲ衝ク、官軍撃テ之ヲ卻ク、明日、賊又至ル、亦撃テ之ヲ破ル、時ニ刈和野ノ賊益猖獗、官軍勢甚急ナリ、因テ軍ヲ收メテ、小杉山ニ退守ス。

○堺驛ノ官軍、將ニ明日ヲ以テ、上淀川村ノ賊ヲ進剿セントス、是日、賊先來リ襲フ、官軍拒キ戰ヒ、勢甚急ナリ、既ニシテ豐島ノ官軍來リ援ヒ、角館ノ官軍モ亦船岡村ニ至リ、兵ヲ分テ賊背ヲ衝ク、賊兵敗走ス、豐島口ノ官軍モ亦、賊兵ヲ戸ケ澤村ニ撃テ之ヲ破ル。

○賊兵、十二所口ヲ襲フ、官軍利アラス、賊進テ高山ヲ奪フ、官軍、力戰シテ之ヲ復ス、賊退テ澤尻村ニ據ル、賊又石淵長根ヲ攻ム、官軍利アラスシテ退ク。

十六日、督府、酒肴ヲ堺驛ノ諸軍ニ賜テ、連日奮戰ノ勞ヲ慰ス、尋テ又院内、小砂川兩道ノ諸軍ヲ犒フ。

○是ヨリ先、佐竹義堯新屋口ニ次シ、藩兵ヲ督勵ス、是ニ至リ疾ニ罹ルヲ以テ、久保田ニ歸リ、其子義脩次郎ヲシテ、代リテ新

崖口ニ赴カシム、是日、書ヲ督府ニ上リテ之ヲ申ス。

○堺及ヒ船岡ノ官軍、賊兵ヲ上淀川、中淀川二村ニ攻ム、賊兵拒キ戰フ、勝敗未タ決セス、是時ニ當リ、仙臺、米澤等既ニ歸順シ、越後口官軍、進テ庄内、山形、上山等ニ向フ、是ニ於テ賊勢大ニ沮ミ、皆兵ヲ封疆ニ收メントス、是夜、潜ニ軍ヲ拔テ去ル、峯吉川、刈和野、神宮寺等ノ賊モ亦潰ユ、明日、官軍進テ峯吉川ニ至ル。

○雪澤口官軍、賊兵ヲ藥師山ニ破リ、又月山、小玉、長根、石淵、長根等諸所ヲ攻ム、賊兵拒キ戰フ、官軍克タスシテ退ク、十二所口官軍モ亦、賊ト葛原口ニ戰フ、日暮交綏ス。

十七日、角館ノ官軍、夜ニ乘シテ賊兵ヲ横澤村ニ攻ム。賊兵潰エ走ル。

十八日、督府、薩摩、筑前、長門、肥前、小倉五藩兵、春來從征ノ功ヲ賞シテ、戎衣ヲ賜フ。

十九日、督府、佐竹義誠及ヒ參謀添役以下、諸藩隊長ノ戰勞ヲ賞シテ物ヲ賜フ、各差アリ。

○十二所口官軍、夜ニ乘シテ賊兵ヲ澤尻、葛原二村ニ破リ、明日、進テ三哲山及ヒ長澤口ヲ攻ム、賊兵潰エ走ル、雪澤口官軍モ亦、夜ニ乘シテ小玉、長根ノ賊ヲ進剿セントス、賊、先藥師山ニ來リ襲フ、官軍利アラスシテ退ク。

二十日、副總督、久保田ニ抵ル、是日、參謀大山綱良、久保田ヲ發シ、院内口ニ赴ク。

○賊兵、既ニ秋田封疆ヲ退去セシヲ以テ、督府佐竹義堯ニ命シ、亟ニ封内ニ巡視シ、士民ヲ安撫セシム、又賊ノ死屍各處ニ委棄スルヲ以テ、義堯ヲシテ之ヲ收瘞セシム。

○小砂川口官軍、進テ賊境ニ逼ラントス、因テ角館ノ官軍ニ移檄シテ、其進軍ヲ促ス、是日、小砂川口官軍、龜田城ヲ火キ、進テ矢島、鹽越二道ニ向フ、角館ノ官軍モ亦、進テ院内口ニ向ヒ、賊兵ヲ田子内、小安二村ニ擊テ之ヲ破ル、是ニ於テ秋田封疆復隻賊ナシ。

第十七　自明治元年九月二十二日　至同　十月九日

九月二十二日、督府、山形、上山、天童征討ノ軍ヲ發シ、參謀添役大山重及ヒ白江某（竜吉）族籍未詳、ヲ以テ軍監ト爲シ、之ニ赴カシメ、委スルニ臨機ノ處分ヲ以テス、又諸軍ノ向フ所ヲ部署シ、薩摩、長門、小倉、佐土原四藩兵ヲ淸川口ニ、筑前、新庄、平戸、大村四藩兵ヲ松山口ニ、長崎府兵及ヒ島原、新庄二藩兵ヲ最上口ニ、肥前、因幡、秋田、本庄四藩兵及ヒ矢島兵ヲ小砂川、矢島兩

道ニ差遣シ、肥前藩海軍ヲシテ、酒田港ヲ進撃セシメ、粟屋某、（市太郎）松原某、（三郎）河村某、（梅之助、以上三人皆ニ長門藩士、）ヲ以テ軍艦掛ト爲シ、之ヲ監セシム、因テ軍令ヲ申嚴ス、尋テ粟屋某ヲ以テ監軍ト爲ス。

二十三日、盛岡賊勢益鴟張スルヲ以テ、督府更ニ問罪ノ師ヲ發シ、監軍岸良直養及ヒ中尾某（榮吉郎、）ヲ以テ軍監ト爲シ、菅野某（覺兵衛）（[illegible]藩士、）ヲ監軍ト爲シ、使役ヲ兼シメ、參謀添役石川忠恕等ト俱ニ之ニ赴カシメ、軍監大山重、白江某（[illegible]）ノ山形、上山、天童發遣、長崎府兵及ヒ島原藩兵ノ最上口發遣ヲ更メテ、玆ニ盛岡ニ赴カシム、又木津某、（藤太郎、）久保田某（作八郎ノ二人共ニ[illegible]藩士、）ヲ以テ監軍ト爲シ、上野某（包吉郎ノ長門藩士、）ヲ使役ト爲シ、參謀添役平井正淳、使役内田某（譲二郎、）等ト俱ニ淸川口ニ赴カシメ、參謀添役兼監軍上田某、（某一、）監軍兼使役井石某（忠兵衛、）等ヲ矢島口ニ、參謀添役杉山友善等ヲ松山口ニ差遣ス。

○督府、樋口某（千蔵ノ[illegible]藩士、）ヲ以テ、假ニ龜田領民部掛ト爲シ、中川某、（健蔵、）青柳某（忠蔵ノ二人共ニ秋田藩士、）ヲシテ、新屋口ヲ鎭撫セシム。

○是ヨリ先、戸澤正實、六郷政鑑、生駒親敬、生駒俊德、仁賀保誠成、仁賀保誠中、前後亂ヲ久保田ニ避ク、其邑民賊兵ノ爲ニ焚燒セラル、督府乃チ之ヲ賑恤ス、是ニ至リ賊既ニ退クヲ以テ、正實等ニ命シ、歸邑シテ人民ヲ安撫セシム。

○是ヨリ先、督府、監軍ヲシテ諸軍ノ戰狀及ヒ其功罪等ヲ檢覈シ、之ヲ申報セシム、是ニ至リ監軍未タ之ヲ申報セサルヲ以テ、更ニ令シテ嗣後戰爭ノ後、三日ヲ限リ、必ス之ヲ申報セシム。

○督府、諸軍ニ令シテ、嚴ニ其放火及ヒ鹵掠ヲ戒ム。

○本月十五日、刈和野堺ノ戰、大村、長門二藩兵ノ功多ニ居ル、是日、督府、特ニ書ヲ下シテ之ヲ襃賞ス。

○松江藩兵（四百六十人、）久保田ニ至ル、督府、之ヲ新屋口及ヒ十二所口ニ分遣ス。

○弘前藩兵、進テ野邊地口ニ向フ、黑石藩モ亦兵ヲ發シテ來リ屬ス、是日昧爽、二藩兵路ヲ分チ、一ハ本道ヨリ賊兵ヲ馬門村ニ破リ、進テ野邊地驛ニ逼リ、一ハ間道ヨリ遶テ其背ヲ衝ク、賊兵拒キ戰フ、二藩兵利アラス、刈場澤村ニ退守ス。

○矢島口官軍、進テ矢島ニ至ル、賊兵既ニ遁ル。

二十四日、是ヨリ先、盛岡老臣三戸與忠（式部、）六月二十三日ノ朝命ヲ帶ヒテ盛岡ニ歸リ、之ヲ南部利剛ニ傳フ、利剛命ヲ拜シ大ニ悟ル、是日、與忠ヲ遣シ、謝罪書ヲ督府ニ上リテ、降ヲ乞フ、督府、其反正ノ實ナキヲ責メテ之ヲ却ク、明日、與忠、利剛ノ子利恭（彦太郎、）ヲシテ罪ヲ軍門ニ待タシメ、首謀臣楢山隆吉ヲ監送セン

ト請フ、督府乃チ其書ヲ納メ、諸軍ニ令シテ其進撃ヲ止ム、尋テ利剛ニ命シテ、隆吉及江渚通高〈左五郎〉ヲ本營ニ護送セシム。

二十五日、弘前藩兵賊兵ヲ濁川村ニ攻ム、賊兵潰エ走ル。

二十六日、副總督久保田ヲ發シ、再ヒ院内口ニ赴ク。

二十七日、總督、久保田ヲ發シ、横手驛ニ赴ク。

○是ヨリ先、酒井忠篤、酒井忠良、越後口總督ノ軍門ニ就テ降ヲ乞フ、〈忠篤ハ二十三日、忠良ハ二十六日ニ在リ、〉越後督府、乃チ忠篤ヲ城外善龍寺ニ幽ス、是日、參謀大山綱良、淸川口ノ諸軍ヲ率ヰテ鶴岡ニ入ル、越後口參謀黑田淸隆モ亦、兵ヲ率ヰテ來會ス、綱良乃チ淸隆ト與ニ城中ヲ檢シ、城及ヒ兵器ヲ收ム、松山口官軍モ亦、進テ松山ニ至ル、忠良城ヲ致シ、屛居シテ罪ヲ待ツ、處分一ニ庄内ノ例ノ如シ、明日、官軍酒田ニ至リ、龜崎城ヲ收ム。

○酒井忠篤、既ニ降ル、而シテ三崎口ノ守兵、猶官軍ニ抗ス、是日、小砂川口官軍、兵ヲ分チ進テ三崎嶺及ヒ觀音森ヲ攻ム、賊兵力メ拒ク、官軍克タスシテ退ク、是夜、忠篤使ヲ軍門ニ遣シテ、降ヲ乞ヒ、且ツ其守兵ヲ撤ス、明日、官軍進テ吹浦驛ニ至ル、尋テ酒田ニ入ル。

二十八日、南部利剛、既ニ降ヲ乞フ、而シテ生保内口ノ守兵、猶官軍ニ抗ス、是日、參謀添役石田忠郷、軍監岸良直養等、長崎府兵及ヒ島原藩兵ヲ率ヰテ、生保内口ニ至リ、賊兵ヲ國見峠及ヒ橋場村ニ攻ム、賊兵潰エ走ル、官軍乃チ書ヲ盛岡ニ贈リテ、問罪ノ師ヲ發スルヲ告ケ、且其王師ヲ拒ムヲ詰ル、明日、利剛老臣ヲ遣シテ、其罪ヲ謝シ、且進軍ヲ止メンコトヲ請フ、因テ命シテ、速ニ城地及ヒ兵器ヲ致サシム。

二十九日、是ヨリ先、參謀前山長定、弘前ニ在リ、是日、移テ十二所驛ニ陣ス。〈醍醐忠敬手記〉

十月二日、津輕承昭、出テ碇關口ニ次シ、藩兵ヲ督勵ス、因テ書ヲ督府ニ上テ之ヲ申ス。

三日、督府、新庄藩ニ命シテ、假ニ寒河江、柴橋二村ヲ管セシム。

○盛岡兵、野邊地驛ニ次シ、猶官軍ニ抗ス、是日、野邊地口官軍、盛岡老臣ヲ刈場澤村ニ召シテ之ヲ詰責ス、老臣罪ヲ謝シ、隊長ノ首級ヲ致サント請フ、之ヲ聽ス。〈尋テ之ヲ止ム。〉

○矢嶋口官軍、部署ヲ定メ、將ニ升田口ヲ進撃セントス、適、酒井忠篤降伏ノ報到ル、因テ其進撃ヲ止メ、轉シテ三崎口ニ向フ、是日、進テ鹽越驛ニ至ル。

○遊撃軍將鶴岡ニ抵ル、尋テ米澤ニ赴ク。〈遊撃軍將府日誌〉

五日、總督、横手驛ニ抵ル、副總督來會ス。

七日、朝廷、大ニ兵ヲ箱館ニ出スヲ以テ、總督九條道孝、遊撃軍將久我通久ニ命シテ、箱館總督及ヒ參謀軍監ヲ選任セシム。

九日、南部利剛ノ子利恭、及ヒ其支族南部信民、軍門ニ詣テ謝罪書ヲ上リ、首謀臣楢山隆吉ヲ致シ、仙臺征討先鋒ヲ請フ、督府、利剛ノ反覆ヲ責メテ、復タ之ヲ却ケ、且箱館戍兵ノ暴擧ヲ詰ル、明日、利恭再ヒ書ヲ上リ、隆吉ヲ禁錮シ、軍資若干ヲ納レテ、先鋒ニ代ヘ、父子城外ニ謹愼シテ、朝裁ヲ待ント請フ、督府乃チ之ヲ納レ、金七萬兩ヲ上リ、以テ後命ヲ待タシム、尋テ其獻金ヲ止ム。

第十八 自明治元年十月十日 至同十一月十九日

十月十日、參謀前山長定、參謀添役石田忠郷等、十二所、生保内兩道ノ諸軍ヲ率ヰテ盛岡ニ入リ、城中ヲ檢シ兵器ヲ收ム、乃チ令ヲ傳ヘテ秋田、弘前二藩兵ヲ撤ス、遊撃軍將府參謀船越衛モ亦盛岡ニ至リ、軍將ノ命ヲ傳ヘ、舊盛岡藩士目時政明（隆之進）等四人ヲ南部利剛ニ付シテ厚ク任用セシム。

十一日、奥羽平定ニ就クヲ以テ、督府令シテ征討諸軍ヲ班ス、是日、二總督横手驛ヲ發ス、薩摩、筑前、長門三藩兵之ニ屬ス、參謀醍醐忠敬、大山綱良、前山長定モ亦相繼テ發ス、尋テ參謀

添役以下ヲ罷メ、出雲、蓮池二藩兵ヲ留メテ、酒田ヲ警守セシム。

○督府、銃器ヲ六郷政鑑、生駒親敬、生駒俊德、仁賀保誠成ニ賜フ。

十二日、是ヨリ先、朝廷、長門、（兵員千ナラス）、福山、（六百九十八人）、大野、（百七十一人）、德山（二中隊）、蓮池（三百人）五藩兵ヲ秋田、及ヒ弘前ニ發遣ス、是ニ至リ五藩兵前後土崎港ニ至ル、時ニ、舊幕府逋賊箱館ヲ侵スノ聞アリ、督府乃チ福山、德山、大野三藩兵ヲシテ箱館ニ赴援セシメ、蓮池藩兵ヲ莊内ニ差遣ス。

○是ヨリ先、松平信庸、織田信敏、及ヒ山形藩（藩主水野忠弘、東京ニアリ）留守ノ老臣、白河口督府ノ軍門ニ就テ降ヲ乞フ、（信庸ハ九月十五日、信敏ハ十八日、山形藩ハ十七日ニアリ）、是ニ至リ更ニ謝罪書ヲ督府ニ上ル、督府之ヲ納ル。

十七日、二總督湊山驛ニ抵ル。

○督府、將ニ南部利剛父子、及ヒ其首謀臣ヲ東京ニ押送セントス、因テ秋田、弘前、新莊藩ニ令シ、兵ヲ發シテ之ヲ護送セシム。

十八日、盛岡新ニ降リ、殘賊猶蜂起ノ虞アルヲ以テ、督府、秋田、弘前二藩ニ令シ、盛岡警急アレハ速ニ應援シ、私怨ヲ挾ムコト勿ラシム。

十九日、澤宣種盛岡ニ至リ、督府ノ命ヲ傳ヘ、盛岡老臣ヲシテ假ニ其城ヲ管セシム、尋テ宣種盛岡ヲ發シ、東京ニ還ル。

二十一日、是ヨリ先、督府、軍監藤川忠猷ヲ大總督府ニ遣シテ、南部利剛降伏ノ狀ヲ報シ、其處分ヲ稟問ス、大總督府、其處分ヲ定メテ之ヲ令ス、忠猷反命ス、是日、督府忠猷ヲ以テ監察使ト爲シ、盛岡ニ赴キ命ヲ傳ヘシム。

○督府、秋田、弘前二藩ニ令シテ、嚴ニ封内海岸ヲ警守シ、舊幕府脫艦ニ備ヘシム、又南部利剛ニ命シ、賊ヲ討チテ、謝罪ノ實效ヲ奏セシム。

二十六日、監察使藤川忠猷、久保田ニ至リ、命ヲ秋田藩ニ傳ヘテ、盛岡ノ兵器ヲ管シ、其士民ヲ鎭セシム、時ニ舊幕府逋賊箱館ヲ侵シ、箱館府知事清水谷公考急ヲ報シ、援ヲ乞フ、忠猷乃チ長門藩兵ノ土崎港ニ在ル者ヲシテ赴援セシム、又新莊藩及ヒ矢島ニ令シ、兵ヲ封疆ニ置キテ、盛岡ノ殘賊ニ備ヘシム。二十七日、二總督、漆山驛ヲ發ス。

○是ヨリ先、朝廷、毛布ヲ出征兵士ニ賜フ、是日、督府之ヲ諸藩兵ニ頒ツ。

是月、督府、天童藩士吉田守隆ノ死節ヲ賞シテ、祭粢金百兩ヲ賜フ。

十一月十一日、監察使藤川忠猷、秋田、新莊二藩兵ヲ率キテ盛岡ニ入リ、命ヲ傳ヘテ南部利剛父子、及ヒ首謀臣楢山隆吉、江楯通高、佐々木政純直吉、ヲ東京ニ押送シ、秋田、新莊二藩兵ヲシテ之ヲ監セシメ、臣隷ヲ其家ニ禁錮ス、明日、老臣ノ城地管理ヲ罷メ、秋田藩ヲシテ之ヲ管セシム、是ヨリ先、舊幕府逋逃兵ノ盛岡ニ在ル者、書ヲ上リテ罪ヲ謝シ、降ヲ乞フ、是ニ至リ、忠猷之ヲ松前ニ遣シ、賊徒ヲ招降シ、以テ謝罪ノ實効ヲ奏セシム、尋テ忠猷、利剛等ヲ監シテ盛岡ヲ發ス。

十四日、弘前藩既ニ南部利剛父子護送ノ命ヲ拜ス、是ニ至リ將ニ兵ヲ盛岡ニ出サントス、適箱館ノ官軍連戰利アラス、青森ニ走リ、松前藩モ亦急ヲ報シ援ヲ乞フ、因テ書ヲ監察使ニ上テ其狀ヲ陳シ、進止ヲ取ル、監察使乃チ其護送ヲ罷メ、命シテ亟ニ松前ニ應援セシム。

十八日、總督九條道孝、副總督澤爲量等、凱ヲ東京城ニ奏ス、勅シテ之ヲ慰勞ス、參謀大山綱良、前山長定等賞賜差アリ、諸藩兵モ亦前後東京ニ凱至ス、皆犒勞シテ之ヲ罷遣ス。

白河口戰記

第一 自明治元年五月十九日 至同六月十二日

明治元年（戊辰）五月十九日、大總督府、東山道總督岩倉具定（八千丸）具視ノ第二子、ヲ以テ、奥羽征討白河口總督ト爲シ、副總督岩倉具經（大夫）具視ノ第三子、仍之ニ副ス。

二十一日、官軍、賊兵ヲ泉田驛ニ破ル。

二十二日、督府、黒羽藩ニ命シテ、兵ヲ旗驛ニ出サシム、翌日、藩兵（三小隊）旗驛ニ至ル、尋テ之ヲ白坂驛ニ移シ、大垣藩兵ト倶ニ之ヲ守ラシム。

二十四日、賊兵旗驛ヲ侵ス、官軍撃テ之ヲ卻ク。

二十五日、賊兵白河城ニ逼ル、官軍小田川、本沼二驛ニ邀ヘ、撃テ之ヲ破ル。

二十六日、賊兵、路ヲ分テ白河城、及ヒ白坂驛ヲ襲フ、官軍力戰シテ之ヲ卻ク。

二十七日、賊兵、再ヒ白河城ヲ襲フ、官軍邀ヘ撃テ之ヲ破ル、翌日、賊兵復至ル、之ヲ撃卻ク。

○是ヨリ先、大總督府、土佐藩兵ノ宇都宮ニ在ル者ヲシテ、白河ニ赴援セシム、是日、前軍（兵員詳ナラス）白河ニ至ル、黒羽藩後軍（一小隊）モ亦白坂驛ニ至ル。（山内豐範家記、黒羽藩記）

二十九日、是ヨリ先、東山道總督府參謀板垣正形（退助）土佐藩士、宇都宮城ニ在リ、是日、進テ白河ニ至ル。（山内豐範家記）

晦日、總督、書ヲ諸軍ニ下シテ、總督ノ任ヲ受クルヲ告ケ、且之ヲ奬勵ス。

六月朔日、官軍、賊兵ト泉田驛ニ戰フ、日暮交綏ス。

二日、薩、長、土三藩ノ旗號ヲ以テ、本道官軍ノ旗號ト定ム。（十日毎ニ三旗ヲ輪換ス。）

○土佐藩後軍（兵員詳ナラス）白河ニ至ル。（山内豐範家記）

四日、大總督府、牧野茂敬（群馬、初小笠原唯八ト稱ス）土佐藩士、ヲ以テ軍監ト爲シ、白河口ニ赴カシム。

七日、大總督府、白河口總督岩倉具定、副總督岩倉具經ノ請ヲ聽シ、並ニ之ヲ罷ム。

○薩摩藩後軍（百三十七人）白河ニ至ル。（慶應出軍戰狀）

九日、大總督府、大垣、古河、宇都宮、西大路、烏山、黒羽、大田原七藩及ヒ蘆野某（雄之助つ交代寄合、采邑下野蘆野三千五百石、）ニ命シテ、白河口官軍ノ輜重ヲ掌ラシメ、佐野藩ヲシテ之ヲ助ケシム、大垣藩之ヲ辭ス、乃チ之ヲ罷ム。

十日、大總督府、奥羽追討總督鷲尾隆聚（侍從、）ヲ以テ參謀ト爲シ、白河口ニ赴カシメ、翌日、東山道總督府參謀板垣正形、伊地知正治（薩摩藩士、）參謀補助ト爲シ、隆聚ニ屬セシム。

十二日、賊兵、路ヲ分チ白河城、及ヒ白坂驛ヲ襲フ、官軍邀ヘ擊テ之ヲ卻ク。

第二　自明治元年六月十三日　至同　七月　四日

六月十三日、參謀鷲尾隆聚東京ヲ發ス、阿波藩兵（五百人、）之ニ屬ス。

二十二日、是ヨリ先、大總督府、長門藩兵（一中隊、）ヲ白河ニ差遣ス。是日、白河ニ至ル。（戊辰征戰紀略）

二十三日、參謀鷲尾隆聚、白河ニ抵ル。

○是ヨリ先、大總督府、館林藩兵（二小隊、）ヲシテ蘆野驛ヲ守ラシム、是日、參謀之ヲ白坂驛ニ移シ、大垣藩兵ト倶ニ之ヲ警守セシム。

二十四日、是ヨリ先、官軍援ヲ大總督府ニ乞フ、時ニ大總督府、海路兵ヲ平潟口ニ出シ、白河ノ官軍、棚倉ヲ取ルヲ俟チ、謀ヲ合セテ仙臺、三春、二本松、福島等ヲ擊タシム、因リテ本道ノ官軍ニ令シテ、海路ノ軍ノ到ルヲ俟タシム、既ニシテ海路ノ軍平潟ニ到ル、是日、參謀補助板垣正形、薩摩、長門、土佐、忍、大垣五藩兵ヲ率ヰテ白河ヲ發シ、棚倉ニ向フ、黒羽藩兵ノ白坂驛ニ在ル者モ亦之ニ赴ク、賊兵、關山、鄉戸、金山等諸處ニ分拒ス、官軍之ヲ破リ、進テ棚倉城ニ薄ル、阿部正靜（美作守、食封十萬石、）會津ニ在リ、其父正外（前豐後守、稱眞卜號ス、）城ヲ火キテ須賀川驛ニ逃ル、餘賊悉ク潰ユ、翌日、官軍使ヲ遣シテ、之ヲ平潟口官軍ニ報ス。

二十五日、參謀、館林藩兵ノ白坂驛ニ在ル者ヲシテ、金山驛ヲ守ラシム。

○棚倉ノ官軍、兵ヲ分テ釜之子驛ニ至ル、賊兵風ヲ望テ先遁ル。

○賊兵、路ヲ分テ白河城ヲ襲フ、官軍擊テ之ヲ卻ク。

二十六日、福原資生（内記つ交代寄合、采邑下野佐久山三千五百石、）書ヲ上リテ兵ヲ出シ、王事ニ勤メンコトヲ請フ、參謀之ヲ聽シ、其兵（十五人、）ヲ本營ニ屬ス。

二十九日、朝廷、酒肴ヲ諸軍ニ賜フ、是日、參謀之ヲ頒ツ。

○棚倉、及ヒ金山驛ノ官軍、兵ヲ分チ、賊兵ヲ河原田、二子塚二村ニ破リ、轉シテ深仁田、關和久、本沼等諸村ヲ攻ム、賊兵支ヘ

ス、潰エ走ル、官軍進テ白河ニ至リ、兵ヲ收メテ還ル、小田川、大田川、矢吹等諸驛ノ賊皆風ヲ望テ遠ク遁ル。
七月朔日、參謀、黑羽藩ニ命シテ、假ニ棚倉及ヒ淺川、塙、釜之子等ノ地ヲ管セシム。
○賊兵、曉ニ乘シテ白河城ヲ襲フ、官軍擊テ之ヲ卻ク。
四日、是ヨリ先、大總督府、彦根藩兵（兵員詳ナラス）ヲ白河ニ差遣ス、尋テ至ル、是日、參謀命シテ大垣藩兵ニ代リ、白坂驛ヲ警守セシム。

第三　自明治元年七月九日　至同　二十七日

七月九日、大總督府、參謀鷲尾隆聚ヲ以テ、奧羽追討白河口總督ト爲ス。
○諸軍中、鹵掠ヲ行フ者アルヲ以テ、大總督府、令シテ之ヲ戒飭ス。
十五日、賊兵、白河城ヲ襲フ、官軍邀ヘ擊テ之ヲ卻ク。
十六日、是ヨリ先、棚倉ノ官軍、兵ヲ分テ淺川村ヲ守ル、是日、賊兵來リ襲フ、官軍之ヲ邀ヘ擊ツ、既ニシテ釜之子驛ノ官軍、來テ其背ヲ衝ク、賊兵潰エ走ル。
十七日、是ヨリ先、大總督府、書ヲ下シテ蘆野某（名闕之）ノ力ヲ王事ニ效セシヲ賞ス、是日、督府之ヲ某ニ傳ヘ、且之ヲ奬勵ス。
十八日、大垣藩後軍（一小隊）、白河ニ至ル（大垣藩記）
二十二日、是ヨリ先、總野鎭撫府、壬生藩兵（一小隊）ヲシテ、蘆野驛ヲ守ラシム、是日、督府之ヲ白坂驛ニ移シ、之ヲ警守セシメ、彦根藩兵ノ白坂驛ニ在ル者ヲ釜之子驛ニ、館林藩兵ノ金山驛ニ在ル者ヲ棚倉ニ移シ、蘆野某（名闕之）ヲシテ蘆野驛ヲ守ラシム。
○賊兵、釜之子驛ヲ襲フ、官軍擊テ之ヲ卻ク。
二十四日、督府、白河ノ諸軍ヲ警戒シテ、其守備ヲ嚴ニセシム。
○是ヨリ先、平潟口官軍（時ニ磐城平ニ在リ）、ニ約シ、俱ニ三春城（秋田映季ノ居城）ヲ攻メントス、是日、參謀補助板垣正形、薩摩、長門、彦根、土佐、忍、大垣、館林、黑羽八藩兵ヲ率ヰテ棚倉ヲ發シ、之ニ向フ、聲言ス、須賀川驛ニ赴クト、白河ノ官軍モ亦兵ヲ小田川、大田川二驛ニ出シテ、之レカ聲援ヲ爲ス。
○賊兵、再ヒ釜之子驛ニ逼ル、官軍阿武隈川ニ邀ヘ擊テ之ヲ卻ク。
二十五日、大總督府、肥前藩兵（四百人）ヲ白河ニ差遣ス。（鍋島直大家記）
二十六日、督府、忍藩兵ノ白河ニ在ル者ヲシテ、白坂驛ヲ警守

セシメ、壬生藩兵ノ白坂驛ニ在ル者ヲ蘆野驛ニ移ス。

○官軍、進テ三春城ニ薄ル、秋田映季（萬之助、食封五萬石、）城ヲ致シテ軍門ニ出降ル、翌日、命シテ假ニ城邑ヲ管シ、後命ヲ待タシメ、且兵ヲ出シテ自效セシム、平潟口參謀渡邊清（清左衛門○大村藩士、）モ亦薩摩、（八百七十六人、）備前、（六百六十九人、）柳河、（三百二十八人、）大村、（百四十三人、）佐土原（三小隊、）五藩兵ヲ率ヰテ、賊兵ヲ仁井町ニ破リ、三春ニ來會ス。

二十七日、兩道ノ官軍、既ニ三春ニ會ス、是日、兵ヲ分チ、一ハ賊兵ヲ小濱驛ニ破リ、一ハ糠澤村、及ヒ本宮驛ヲ取ル、須賀川驛ノ賊、風ヲ望テ潰エ走ル、松平頼升（大學頭○守山藩主、食封二萬石、）モ亦罪ヲ謝シ降ヲ乞フ、官軍乃チ守山ニ入ル。

○是ヨリ先、總野鎭撫府、古河藩兵ヲシテ蘆野驛ヲ警守セシム、是日、藩兵（一小隊、）蘆野驛ニ至ル、因リテ書ヲ督府ニ上リテ之ヲ申ス。

○土佐藩後軍（五小隊、）白河ニ至ル。（山内豐範家記）

第四　自明治元年七月二十八日　至同　八月　八日

七月二十八日、大總督府、多久茂族（與兵衛○肥前藩士、時ニ藩兵ヲ督シテ今市驛ニ在リ、）ヲ以テ、白河口總督府參謀ト爲シ、肥前藩兵ヲ率ヰテ之ニ赴カシム。

○是ヨリ先、賊兵、三斗小屋村傍近ヲ焚掠ス、黒羽、（一小隊、）烏山（二小隊、）二藩兵ヲ出シテ之ニ備フ、是日、督府、古河藩兵ノ蘆野驛ニ在ル者ニ令シテ、緩急之ニ應援セシム。

○是ヨリ先、大總督府、紀伊藩兵（二百三十餘人、）ヲ白河ニ差遣ス、尋テ至ル、是日、督府、命シテ白坂驛ヲ警守セシメ、忍藩兵ノ白坂驛ニ在ル者ヲ、白河ニ移ス、又忍藩ニ令シテ、更ニ兵ヲ白河ニ出シ、前軍ト合シテ、之ヲ警守セシム。

○白河ノ官軍、曉ニ乘シテ賊兵ヲ上羽太、虫笠等諸村ニ破リ、北クルヲ追テ高助村ニ至ル、賊兵遂ク遁ル。

○賊兵、路ヲ分テ本宮驛ヲ襲フ、官軍邀ヘ擊テ之ヲ破リ、追躡シテ仁井田村ニ至ル、賊高倉村ニ據テ止リ戰フ、官軍又擊テ之ヲ走ラス。

二十九日、是ヨリ先、大總督府、尾張藩兵（四百三十三人、）ヲ白河ニ差遣ス、尋テ至ル、是日、督府、命シテ蘆野驛ヲ警守セシム。

○三春及ヒ本宮驛ノ官軍、路ヲ分テ二本松ニ向フ、三春藩兵嚮導タリ、賊兵正法寺村、大檀町、及ヒ阿武隈川等ニ分拒ス、官軍之ヲ破リ、直ニ二本松城ニ薄ル、丹羽長國（左京大夫○食封十萬七百石、）米澤ニ走ル、老臣丹羽富穀（一學、）城ヲ火キテ自盡ス、板倉勝尙（甲斐守○食封三萬石、）モ亦福島城ヲ棄テ、米澤ニ逃ル。

八月朔日、督府、尾張藩兵ノ蘆野驛ニ在ル者ヲシテ、釜之子驛

ヲ警守セシメ、彦根藩兵ノ釜之子驛ニ在ル者ヲ石川驛ニ移ス。

○大村藩後軍一小隊、三春ニ至ル。〇大村純熈家記

三日、伊達慶邦、陸奥守、仙臺藩主、食封六十二萬五千六百石餘、上杉齊憲、彈正大弼、米澤藩主、食封十八萬七千二百四十八石餘、ノ官位ヲ褫キ、之ヲ討ス。

○督府、古河藩兵ノ蘆野驛ニ在ル者ヲ罷歸ス。

五日、賊兵、郡山驛傍近ヲ剽掠ス、督府、大村藩兵ノ三春ニ在ル者ヲシテ赴キ撃タシム、賊兵潰エ走ル、翌曉、復至ル、亦撃テ之ヲ走ラス。

○督府、備前藩兵ノ二本松ニ在ル者ヲシテ、三春ヲ警守セシム、尋テ之ヲ守山ニ移ス。

六日、督府、尾張、彦根、土佐三藩兵ノ釜之子、石川、白河等ニ在ル者ヲシテ、須賀川驛ヲ警守シ、二本松ノ諸軍ニ應援セシメ、薩摩藩兵ノ白河ニ在ル者ヲシテ、三藩兵ニ應援セシム。

七日、大總督府、薩摩、備前、柳河、大村、佐土原五藩兵ノ平潟口ヨリ三春ニ至リシ者ヲシテ、白河口ノ官軍ニ屬セシム、尋テ兩道ノ諸軍ニ令シテ、速ニ進テ會津ヲ討セシム。

○督府、令シテ兵燹ニ罹ル者ハ、本年ノ田租ヲ免シ、官軍ノ使役ニ供スル者ハ、其半ヲ蠲ク。

○二本松ノ官軍、兵ヲ分テ須賀川驛ヲ徇ヘ、將サニ白河ニ至ラントス、督府、令シテ軍ヲ二本松ニ返サシム、令未タ到ラス、諸軍進テ白河ニ至ル、是日、督府、更令シテ速ニ二本松ニ還ラシム。

八日、督府、守山藩ニ命シテ、假ニ谷田川、笹川等七十二村田村、安積二郡ノ内、ヲ管セシメ、備前藩兵ノ守山ニ在ル者ヲ、磐城平ニ移ス。

第五　自明治元年八月九日 至同二十日

八月九日、大總督府、白河口總督鷲尾隆聚ヲ罷メ、參謀正親町公董中將、ヲ以テ之ニ代フ、尋テ小代某清八、肥前藩士、ヲ以テ參謀補助ト爲シ、公董ニ屬セシム。

○督府、彦根、忍、館林、黒羽四藩兵ノ須賀川驛、及ヒ二本松ニ在ル者ヲ白河ニ移シ、嚴ニ之ヲ警守セシム。

十日、賊兵曉ニ乘シテ今泉村ヲ襲フ、官軍撃テ之ヲ卻ク。

十三日、督府、參謀伊地知正治ニ命シテ、二本松ニ赴カシメ、薩摩、長門、土佐三藩兵ノ白河ニ在ル者ヲ二本松ニ差遣ス。

十四日、賊兵、本宮驛ヲ焚掠ス、督府、土佐藩兵ノ二本松ニ在ル者ヲ遣シテ、之ヲ守ラシメ、三春藩ニ命シテ、兵一小隊、ヲ本驛ニ出サシム。

十五日、參謀多久茂族、肥前藩兵四百七十人、ヲ率ヰテ白河ニ至ル、喜

連川藩兵（十八人）之ニ屬ス。（鍋島直大家記）

十六日、督府、肥前藩兵ニ命シテ、白河ヲ警守セシメ、彦根、忍、大垣三藩兵ノ白河ニ在ル者ヲ、福島及ヒ本宮驛ニ差遣ス、尋テ忍藩兵ニ更令シテ、白河ヲ警守セシム。

○賊兵、下手渡（立花種恭ノ治所、時ニ種恭東京ニ在リ）ヲ陥ル、督府、柳河藩兵ノ本宮驛ニ在ル者ヲシテ赴キ撃タシム、翌日、藩兵下手渡ニ至ル、賊既ニ退テ、月立村ニ據ル、乃チ下手渡藩兵ト倶ニ撃テ之ヲ走ラス。

十七日、總督、正親町公董東京ヲ發ス、岡（十九人）、三上（六十六人）二藩兵之ニ屬ス。

○是ヨリ先、賊兵、福島城ニ據ル、是日、大擧シテ二本松ニ來リ逼ル、官軍油井、鹽澤二村ニ邀ヘ撃テ之ヲ破リ、追躡シテ八町目驛ニ至ル。

○蘆野某（筆之助）、書ヲ督府ニ上リテ、官軍ノ傳遞、及ヒ供億等ノ事ニ服シ、管内疲弊セシ情狀ヲ陳シ、米三百苞ヲ借ンコトヲ請フ。

○肥前藩後軍（一小隊）、白河ニ至ル。（奥羽追討日記）

十八日、勅使平松時厚（甲斐權介）、白河ニ抵リ、勅旨ヲ傳ヘテ諸軍ヲ犒ヒ、且庶民ヲ虐使スルコト勿ラシム。

十九日、總督、未タ至ラサルヲ以テ、鷲尾隆聚仍假ニ總督ノ事ヲ攝知ス、是日、隆聚白河ヲ發シ、守山ニ抵ル、阿波藩兵之ニ從フ。

二十日、鷲尾隆聚三春ニ抵ル、秋田映季迎謁ス。

○督府、大擧シテ若松城ヲ攻メントス、乃テ諸軍ヲ部署シ、參謀伊地知正治、板垣正形ヲシテ、薩摩、長門、土佐、大垣、大村、佐土原六藩兵ノ二本松ニ在ル者ヲ率キテ、石筵口ヨリ館林、黒羽二藩兵ノ棚倉、及ヒ白河ニ在ル者ヲシテ、三斗小屋口ヨリ並進テ之ニ赴カシメ、尾張、紀伊、肥前、守山四藩兵ノ須賀川、白河、白坂ニ在ル者ヲ長沼、及ヒ牧之内ニ差遣シ、機ヲ相テ勢至堂口ヨリ之ニ向ハシメ、備前藩兵ヲ磐城平ニ在ル者ヲ、若松及ヒ二本松ニ差遣ス、又參謀多久茂族ヲシテ、勢至堂口ニ赴キ、肥前藩兵ヲ督セシメ、山田恒長（求馬○忍藩士）ヲシテ、白河ニ在リテ、假ニ參謀ノ事ヲ執ラシム、尋テ守山藩兵ニ更令シテ、封内及ヒ假管ノ地ヲ警守セシム、是日、二本松ノ官軍、兵ヲ分チ、一ハ石筵口ニ進ム、賊兵、山入村ニ據リテ力拒ス、官軍撃テ之ヲ走ラス、二ハ中山口ニ向ヒ、賊兵ヲ横川、熱海二村ニ破ル。

第六　自明治元年八月二十一日 至同二十三日

八月二十一日、是ヨリ先、大總督府、安藝（四百十九人）、肥前（三百人）、中津（百四十九人）、今治（百三十八人）、人吉（六十六人）、五藩兵ヲシテ、今市驛、及ヒ日光山ヲ警守セシム、是日、督府、五藩兵ニ令シテ、藤原口ヨリ進テ若松ニ赴カシメ、阿波藩兵ノ三春ニ在ル者ヲ川股驛ニ、壬生藩兵ノ蘆野驛ニ在ル者ヲ白河ニ移シ、河越（五十人）、烏山（二小隊）二藩ヲシテ、兵ヲ白河ニ出サシム、大總督府モ亦薩摩（百二十四人）、宇都宮（二小隊）二藩兵ヲシテ、藤原口ヨリ若松ニ向ハシメ、中村利秋（半次郎○薩摩藩士）ヲ以テ軍監ト爲シ、之ヲ督セシム。

○石筵口ノ官軍、兵ヲ分チ、一ハ本道ヨリ賊兵ヲ石筵村ニ破リ、進テ保奈利峠（又母成山ト稱ス）ヲ攻メ、一ハ間道ヨリ猿岩ノ險ヲ奪ヒ、遶リテ其背ニ出ツ、賊兵支ヘス潰エ走ル、中山口ノ官軍モ亦進攻ノ狀ヲ爲シ、聲勢ヲ助ク、既ニシテ轉シテ石筵口ノ軍ニ合ス、

二十二日、石筵口ノ官軍、進テ猪苗代ニ至ル、賊兵龜城ヲ火キテ先遁ル、官軍乃チ兵ヲ分チ、一ハ猪苗代ニ陣シ、一ハ戸ロ村ニ進ム、賊將サニ十六橋ヲ撤シ、戸ロ川（又日橋川ト稱ス）ヲ隔テ之ヲ拒ントス、官軍急ニ撃テ之ヲ走ラス。

○忍藩後軍（七十七人）、白河ニ至ル。（松平忠敬家記）

二十三日、石筵口既ニ破ルヽヲ以テ、松平容保（肥後○舊會津藩主）、出テ瀧澤驛ニ陣シ、其軍ヲ督勵ス、是日、石筵口ノ官軍、賊兵ヲ脊掛、金堀等諸村ニ破リ、進テ瀧澤驛ヲ突ク、容保等走テ若松城ヲ保ツ、官軍隨テ之ヲ攻メ、其東北ノ外郭ヲ奪フ、賊退テ内城ニ嬰リ、殊死シテ戰フ、大總督府軍監牧野茂敬之ニ死ス、既ニシテ城外ノ賊、瀧澤、越後、米澤諸路ヨリ返撃ス、官軍力戰シテ之ヲ卻ク、是ヨリ先、松平定敬（越中○舊桑名藩主）、若松ニ在リ、是ニ至リ米澤ニ逃ル。

○三斗小屋口ノ官軍、兵ヲ分チ、一ハ賊兵ヲ那須村ニ破リ、月山ヲ攀チ進テ、三斗小屋ヲ攻メ、一ハ大丸越ヲ踰ヘ、遶リテ其背ヲ衝ク、賊兵潰エ走ル、一ハ賊兵ヲ小谷、板室二村ニ破リ、翌日進テ三斗小屋ニ至ル。

○賊兵、小島村ヲ焚掠ス、川股驛ノ官軍、撃テ之ヲ走ラス。

第七 自明治元年八月二十四日 至同晦日

八月二十四日、總督、白河ニ抵ル。

○官軍、若松城ヲ攻ム、城堅シテ拔ケス、乃チ火ヲ外郭ニ放チ、退テ其東北天寧寺、三日町、六日町、甲賀町、馬場町、大町、桂林寺、越後、米澤等諸口ヲ扼シ、長圍ヲ築キ、以テ諸路ノ官軍ノ到ルヲ俟ツ、是日、勢至堂口ノ賊、退テ天寧寺口ニ至リ、城中ニ入

ラントス、官軍之ヲ邀ヘ撃ツ、賊轉シテ天神口(城ノ東南隅ニ在リ)ニ赴キ、遂ニ城中ニ入ル。

○三斗小屋口ノ官軍、進テ大峠ヲ取ル。

二十五日、總督、三春ニ赴カントス、是日、白河ヲ發ス、參謀補助小代渠(請八、)ヲ留メテ、白河城ヲ守ラシム。

○藤原口ノ官軍、路ヲ分テ、賊兵ヲ横川村ニ撃ツ、克タスシテ退ク。

○若松城外ノ賊、湯本、越後、米澤諸口ヨリ進テ城中ニ入ラントス、城中兵ヲ出シテ之ヲ迎フ、官軍之ヲ要撃ス、越後、米澤諸口ノ賊、皆潰エ走ル、湯本口ノ賊、奮進シテ遂ニ城中ニ入ル、是日、勢至堂口ノ官軍、進テ若松ニ至ル、備前藩兵モ亦至ル。

二十六日、總督、三春城ニ抵ル、鷲尾隆聚乃チ其攝知ヲ解ク、尋テ隆聚東京ニ還ル、督府乃チ三上藩兵ノ從衛ヲ罷メテ、隆聚ニ屬セシメ、阿波藩兵ヲ以テ之ニ代フ。

○若松ノ賊、役夫ニ混シ、官軍ノ營中ニ出入スル者アリ、是日、督府、諸軍ヲ戒飭シテ、嚴ニ諸口ノ出入ヲ譏察セシム。

○官軍、若松城ノ東南、大窪山、小田山等要衝ノ地ヲ奪ヒ、高ニ憑テ城中ヲ砲射ス、既ニシテ賊兵城ヲ出テ來リ襲フ、邀ヘ擊テ之ヲ破ル。

○三斗小屋口ノ官軍、賊兵ヲ中峠、及ヒ野際村ニ撃テ之ヲ破ル。

○是ヨリ先、賊兵掛田村ヲ剽掠ス、阿波藩兵ノ川股驛ニ在ル者、援ヲ中村藩兵(中村藩、七月六日ヲ以テ歸順ス、)ニ乞フ、督府モ亦、下手渡藩兵ヲシテ阿波藩兵ニ合セシム、是日、三藩兵、賊兵ヲ掛田村ニ擊テ之ヲ破ル。

二十八日、藤原口ノ官軍、再ヒ賊兵ヲ横川村ニ攻ム、賊兵潰エ走ル、官軍追躡シテ絲澤村ニ至ル、是ヨリ先、賊兵大田原(大田原藩ノ治所、)傍近ヲ焚掠ス、本藩兵ヲ發シテ之ヲ掃攘ス、是日藩兵(九十人、)進テ横川村ニ至リ、安藝藩兵ニ屬ス。

二十九日、督府、肥前、忍、川越、烏山、壬生五藩兵ノ白河ニ在ル者ヲ分テ、原、赤井、勢至堂、上小屋、福良諸驛ニ差遣シ、土民ヲ招撫シ、官軍ノ通行滯礙ノ患ナカラシム。

○藤原口ノ官軍、賊兵ヲ高野村ニ破リ、進テ田島村ニ至ル、大總督府軍監中村利秋來會ス。

○是ヨリ先、若松城内ノ賊、數出テ圍ヲ衝ク、是日、大擧シテ融通寺町、桂林寺町、越後等諸口ニ突出ス、城外ノ賊モ亦、飯寺村(城ノ西南ニ在リ、)ヨリ來リ侵ス、官軍力戰シテ之ヲ卻ク。

晦日、藤原口ノ官軍、賊兵ヲ松山ニ破リ、北クルヲ追テ大内村

ニ至ル。

是月、督府、三春藩ニ命シテ、假ニ糠澤、小濱等二十九村（並ニ伊達郡）ヲ管セシム。

第八

自明治元年九月朔日
至同　六日

九月朔日、督府、彦根、柳河二藩兵ノ二本松ニ在ル者ヲ分テ、若松ニ赴カシム。

○藤原口ノ官軍、賊兵ヲ火玉嶺（又大内峠ト稱ス）ニ破ル。

○是ヨリ先、溝口直景（隼人助、交代寄合、采邑陸奥横田五千石）、賊兵ノ迫ル所ト爲リ、兵ヲ出シテ之ニ應ス、尋テ、横田ヲ棄テ會津ニ走ル、是ニ至リ、松平頼升ニ因リテ罪ヲ謝シ、降ヲ乞フ、翌日、督府、直景ニ謹愼ヲ命シ、且横田傍近ノ殘賊ヲ追捕シ、功ヲ立テ罪ヲ贖ハシム。

二日、督府、守山藩ニ命シテ、兵（一小隊）ヲ二本松ニ出サシム。

○藤原口ノ官軍、賊兵ヲ椽澤村ニ破リ、進テ關山村ヲ攻ム、賊、險ニ據テ力拒ス、官軍、利アラスシテ退ク、是ヨリ先、若松駐在ノ參謀、三斗小屋口ノ官軍ニ移檄シテ、藤原口ノ官軍ト合シ、速ニ若松ニ來會セシム、是日、三斗小屋口ノ官軍、進テ大内村ニ至リ、藤原口ノ軍ニ合ス。

三日、藤原口ノ官軍、再ヒ賊兵ヲ關山村ニ攻ム、翌日ニ至リテ之ヲ破リ、北ルヲ追テ本郷村ニ至ル。

五日、藤原口ノ官軍、進テ若松城ニ薄リ、賊兵ト大ニ飯寺村、河原町、材木町（並ニ河沼ニ在リ）等ニ戰フ、利アラス、明日、撃テ之ヲ走ラス。

○是ヨリ先、越後口官軍、進テ天屋、片門等諸村ニ至リ、船渡村ノ賊ト只見川ヲ挾テ相持ス、是日、若松ノ官軍、兵ヲ分チ、賊兵ヲ高久、坂下、塔寺諸驛ニ破リ、直ニ進テ船渡村ノ背ヲ衝ク、賊兵、支ヘス潰エ走ル、是ニ於テ、兩道ノ官軍、始メテ聲息ヲ通スルヲ得タリ、翌日、官軍若松ニ還ル。

六日、藤原口官軍ノ若松ニ至ルヤ、賊、其背ニ出テ、輜重ヲ遮ル、是日、官軍、兵ヲ返シテ、賊兵ヲ柳町、本郷、大八郷等諸村ニ撃チ、輜重ヲ迎フ。

○是ヨリ先、土佐藩兵、書ヲ米澤ニ贈リテ、其歸順ヲ勸ム、上杉齊憲、大ニ悟ル、乃チ、使ヲ仙臺ニ遣シ、伊達慶邦ト連署シテ、書ヲ上リ、罪ヲ謝センコトヲ約ス、是日、其臣大國頼隣（筑後）、市川忠恕（内蔵）等ヲ軍門ニ遣シテ、其狀ヲ陳シ降ヲ乞フ、督府、命シテ速ニ歸順ノ實効ヲ立テシム、因リア、使番吉岡某（米澤藩士）ヲ米澤ニ遣シテ、其擧動ヲ監セシム、是時ニ當リ、越後口官軍、連戰賊ヲ破リ、進テ米澤ニ薄ル、齊憲、乃チ城ヲ致シテ軍門ニ出降ル、

既ニシテ、慶邦連署ノ事、遷延日ヲ亘ル、齊憲、乃チ偏名ノ書ヲ督府ニ上リテ、罪ヲ謝ス。

第九 自明治元年九月七日 至同 十五日

九月七日、督府、若松ノ諸軍ヲ戒飭シテ、濫ニ役夫ヲ使用シ、貨物ヲ各地ニ運搬スルヲ禁ス。

○是ヨリ先、府中藩、（常陸）其別邑長沼驛、賊中ニ陥ルヲ以テ、兵（十六人）ヲ白河ニ出シテ進止ヲ取ル、督府、命シテ、長沼驛ヲ警守セシム、是日、之ヲ福良、原、赤井三驛ニ差遣シ、肥前、忍、壬生三藩兵ト倶ニ、之ヲ守ラシム、尋テ、更令シテ、福良、原二驛ノ兵ヲ勢至堂驛ニ移ス。

八日、督府、尾張藩兵ノ若松ニ在ル者ヲ、白河、原、三代三驛ニ差遣ス。

○若松城外ノ賊、路ヲ分テ飯寺村ヲ襲フ、官軍、邀ヘ撃テ之ヲ破ル。

九日、總督、明日ヲ以テ二本松ニ赴カントス、因リテ、秋田映季ニ命シテ、其封疆ヲ嚴守セシム。

十日、總督、三春ヲ發シ、二本松ニ抵ル。

○是ヨリ先、若松城外ノ賊、北方、（城北ニ在リ）高田（城西ニ在リ）等ニ分據シ、城内ト犄角シテ、以テ官軍ヲ拒ム、是ニ於テ、越後口官軍、兵ヲ分チ、一ハ北方ニ赴キ、一ハ高田ニ向フ、是日、越後口軍監藤村紫朗、（四郎○肥後藩士）二宮義胤、（俳菴○近江人）薩摩、長門、越前、高田、小倉、松代、府中、（長門）佐土原八藩兵ヲ率キテ、若松ニ至ル、督府、乃チ、本道ノ諸軍ニ令シテ、其守地ヲ分タシム、尋テ、大垣、大垣新田二藩兵モ亦至ル。

○丹波長國、其臣日野和美（源太左衛門）ヲ軍門ニ遣シ、備前藩兵ニ因リテ、罪ヲ謝シ降ヲ乞フ、（時ニ長國、仍米澤ニ在リ、）翌日、督府、長國ニ命シテ、本藩ニ謹愼セシメ、藩兵ヲシテ、歸順ノ實効ヲ立テシム、長國、乃チ兵（兵員詳カナラス、）ヲ福島ニ出シテ、王事ニ勤ム、尋テ、督府命シテ、兵（一小隊、）ヲ佐原村ニ出サシメ、守山藩兵ヲシテ、長國ヲ監守セシメ、其臣隷ニ口俸ヲ給ス。

十一日、大總督府、斥候隊（兵員詳カナラス、）及ヒ高松藩兵（二百九十五人、）ヲ、二本松ニ差遣ス。（東征總督記 松平頼聰家記）

十二日、諸路ノ官軍、既ニ若松ニ會ス、是ニ於テ、督府、諸軍ヲ部署シ、明日ヲ以テ、若松城ヲ攻メシム、期ニ至リ、雨ヲ以テ果サス、爲ニ一日ヲ延フ。

十三日、大總督府、姉川某（榮藏○缺字）藩士、ヲ以テ、白河口總督府參謀補助ト爲ス。

○督府、賊兵、三斗小屋村ニ突出スルノ虞アルヲ以テ、尾張藩兵ノ白河ニ在ル者ヲ分テ、越堀驛ニ差遣シ、黑羽藩ニ應援セシメ、三春藩ヲシテ、兵（五十人）ヲ中山口ニ出サシム、尋テ、三春藩兵、進テ若松ニ至ル。

十四日、諸路ノ官軍、相合シテ若松城ヲ攻ム、藤原口ノ官軍ハ、其西方河原町口ニ赴キ、石筵口、勢至堂口ノ軍ハ、其東北諸口ニ向ヒ、越後口ノ軍ハ、其西南飯寺村ニ陣シ、以テ高田ノ賊ヲ防キ、銃礮並驅リ、三面齊シク城ニ傅ク、賊兵、各處出拒キ、殊死シテ戰フ、既ニシテ、河原町、融通寺、桂林寺、大町諸口ノ官軍、合擊シテ諏訪山（郭内西北隅ニ在リ）ノ賊ヲ破リ、其砲墩ヲ奪フ、賊、走テ内城ニ竄ス、西南諸口ノ賊、顧ミテ之ヲ視、皆守ヲ棄テ潰走ス、官軍、遂ニ西南ノ外郭ヲ奪フ、是ヨリ、攻戰殆ト虛日ナシ。

十五日、督府、若松城危急、日ニ迫ルヲ以テ、白河ノ諸軍ヲ警戒シテ、賊兵ノ突出ニ備ヘシム、又、鹽川ノ賊、猪苗代ニ出ルノ虞アルヲ以テ、大村藩兵ノ若松ニ在ル者ヲ遣シテ、之ヲ守ラシム。

○若松城ノ南方、圍未タ合セス、賊、日光口ニ出テ、高田ノ賊ト互ニ聲息ヲ通ス、是日、官軍、兵ヲ分チ、賊兵ヲ青木、新屋等諸村（並ニ城南ニ在リ）ニ擊ツ、飯寺村ノ官軍モ亦、一堰村ヲ攻メテ、之ニ應援ス、賊兵、殊死シテ戰フ、官軍、利アラスシテ退ク、時ニ城内ノ賊、出テ其歸路ヲ斷チ、高田ノ賊、亦來テ飯寺ヲ横衝ス、官軍、三面敵ヲ受ケ、勢甚急ナリ、既ニシテ、援軍來會シ、合擊シテ之ヲ走ラス。

○上杉齊憲、既ニ降ル、乃チ使ヲ同盟諸藩ニ馳セテ、其歸順ヲ勸ム、是ヨリ先、小笠原長行（壹岐○唐津藩主長國ノ養子、舊幕府老中、時ニ三好寛介、又、山中靜翁、津毛雲輔ト稱ス）、竹中重固（丹後○春山ト號ス）、大島純彰（圭介○重固、純彰並ニ舊幕府歩兵奉行）等、福島城ニ在リ、松平定敬モ亦、米澤ヲ去テ之ニ赴ク、長行等、乃チ定敬ヲ推シテ總督ト爲シ、大擧シテ二本松ヲ擊チ、若松城ノ圍ヲ解カンコトヲ謀ル、是ニ至リ、齊憲、重臣坂蘭溪等ヲ遣シ、說テ之ヲ降サシム、定敬等肯セス、齊憲、乃チ兵（一大隊）ヲ發シテ、之ヲ脅カス、定敬等、遂ニ仙臺ニ逃ル、餘賊、悉ク潰ユ、是ニ於テ、福島初メテ定マル、是日、板倉勝尙、罪ヲ謝シ降ヲ乞フ（時ニ勝尙、福島ニ在リ）、翌日、參謀渡邊清、備前、阿波、彦根三藩ヲ率キテ、福島城ニ入ル、尋テ、督府、勝尙ニ命シテ、兵（一小隊）ヲ桑折驛ニ出サシム、既ニシテ、清等、二本松ニ還ル。

第十（自明治元年九月十六日 至同 二十一日）

○九月十六日、若松及ヒ越後口ノ賊徒、田島村傍近ニ逃走シ、

又三斗小屋村ヲ焚掠ス、督府、乃チ館林藩兵ノ若松ニ在ル者ヲ分テ、白河ニ赴カシメ、黑羽、大田原二藩兵ヲ罷歸シテ、其封疆ヲ警守セシム、尋テ中津、今治、人吉三藩兵ヲ日光ニ班シ、之ニ備ヘシム。

○是ヨリ先、參謀、越後口官軍ノ米澤ニ在ル者ニ移檄シテ、速ニ若松ニ來援セシム、是ニ至リ薩摩、安藝、土佐、小倉、新發田五藩兵、米澤藩兵ト倶ニ進テ若松ニ至ル。

十七日、是ヨリ先、舊幕府逋賊、下總銚子浦ニ漂到シ、陸奥ニ逃ル、大總督府、總、常、野諸藩ニ令シテ之ヲ緝捕セシム、因リテ本道督府ニ移檄シテ之ヲ報ス、是日、督府、之ヲ白河ノ諸軍ニ布告シ、命シテ諸口ノ譏察ヲ嚴ニセシム。

○大總督府參謀移牒シテ、若松城陷ルノ後、會津ノ民政及ヒ鎮撫等ノ事ヲ、越後口總督府ニ委スルヲ告ク。

○官軍、再ヒ賊兵ヲ青木、一堰等諸村ニ擊ツ、賊兵潰エ走ル、是ニ於テ、若松城南方ノ圍始メテ合ス。

○松平信庸、伊豆守○上山藩士、食封三萬石、書ヲ軍門ニ上リテ、罪ヲ謝シ、降ヲ乞フ、山形藩留守ノ老臣水野某三郎右衛門、等モ亦降ル、時ニ藩主水野忠弘東京ニ在リ、尋テ督府、信庸及ヒ山形藩首謀者ニ謹愼ヲ命シ、藩兵ヲシテ歸順ノ功績ヲ奏セシム。

十八日、阿部正靜、時ニ封内保原村ニ在リ、織田信敏、兵部大輔○天童藩主、食封二萬石、書ヲ軍門ニ上リテ、罪ヲ謝シ降ヲ乞フ、尋テ正靜ノ高祖父正備彦造ト號ス、モ亦降ル、督府並ニ謹愼ヲ命シ、藩兵ヲシテ、功ヲ立テ、罪ヲ贖ハシム。

十九日、督府、尾張藩兵ノ白河ニ在ル者ヲシテ、再ヒ若松ニ赴カシム。

二十日、總督、板倉勝尙ヲ召見シ、命シテ本藩ニ謹愼セシメ、且假ニ城邑ヲ管シ、藩兵ヲシテ歸順ノ實効ヲ立テシム。

○諸路ノ官軍、若松城ヲ圍ムコト殆ト三旬、城中力竭ク、是ニ於テ松平容保、其臣手代木勝任、直右衛門、秋月胤永悌次郎、等ヲ遣シ、米澤藩兵ニ因リテ降ヲ乞フ、是日、督府、容保及ヒ其子喜德若狹、ニ命シテ、二十二日ヲ以テ城ヲ致シ、親カラ軍門ニ詣リテ降禮ヲ執ラシム、因リテ勝任等ヲ放還シ、米澤藩兵ヲシテ之ヲ監送セシム。

二十一日、松平容保、降ヲ乞フヲ以テ、督府諸軍ニ令シテ、賊兵來襲ヲ除クノ外、其攻擊止ム。

○督府、壬生藩兵ノ白河ニ在ル者ヲ分テ、今市驛ニ赴援セシム。

第十一 自明治元年九月二十二日 至同 十月 七日

九月二十二日、督府、會議所ヲ若松ニ設ケ、各藩ヲシテ一人ヲ出シ、之ニ會セシム。

○督府、尾張藩兵ノ越堀驛ニ在ル者ヲシテ、蘆野驛ヲ警守セシム。

○松平容保、其子喜德、城ヲ致シテ軍門ニ詣リ、罪ヲ謝シ降ヲ乞フ、其臣萱野長修（權兵衞）、梶原景武（平馬）等モ、亦書ヲ上リテ罪ヲ待ツ、督府、乃チ容保父子ヲ城外妙國寺ニ幽シ、其兵器ヲ收メ、佐土原藩兵ヲシテ容保父子ヲ監守セシメ、翌日、其臣隸（四千四百八十餘人）、及ヒ舊幕府諸藩逋逃兵（四百六十餘人）、ヲ猪苗代鹽川ニ禁錮シ、薩摩、尾張彥根、大村四藩兵ヲシテ之ヲ監セシム。

二十三日、松平容保既ニ降ル、而シテ餘賊、猶大內、田島等諸村ニ分據ス、是日、督府、若松ノ諸軍ヲ警戒シテ、其守備ヲ嚴ニセシム、又賊徒、橫川村傍近ニ出沒スルヲ以テ、宇都宮藩兵ノ若松ニ在ル者ヲ分テ、之ヲ罷歸シ、其封疆ヲ警守セシム。

二十四日、督府、若松城ヲ收ム。

○松平容保、既ニ降リシヲ以テ、督府、薩摩藩兵ヲ分テ、之ヲ罷歸ス。

○若松傍近亡賴ノ徒、官軍若クハ會津藩士ト詐稱シ、民家ヲ剽掠スル者アリ、是日、督府、令シテ之ヲ捕拿、若クハ刎首セシム。

二十六日、總督、若松ニ赴カントス、是日、二本松ヲ發シ、本宮驛ニ抵ル。

○若松ノ官軍、兵ヲ分テ大內、田島二村ニ向フ、是日、二村ノ賊降ル、因リテ其兵器ヲ收メ、之ヲ鹽川ニ禁錮ス。

二十七日、總督、三城潟村ニ抵ル。

○田島村ノ賊、既ニ降ル、而シテ餘黨大田原傍近ニ逃走ス、本藩、兵ヲ發シテ之ヲ逆擊セントス、適、阿波、彥根二藩ノ後軍、東京ヨリ至ル、因リテ、援ヲ二藩兵ニ乞フ、黑羽藩モ亦、兵ヲ發シテ來リ援ク、是ニ於テ、賊兵ヲ片腐田、佐良土二村ニ擊テ、大ニ之ヲ破ル、賊、水戶ニ向テ逃ル。

二十八日、總督、若松ニ抵ル、越後口參謀西園寺公望（中納言）モ亦至ル、是日、總督、公望等ト倶ニ城中ヲ檢ス。

○是ヨリ先、大總督府、移牒シテ、毛布ヲ征討兵士ニ賜フノ朝命ヲ傳フ、是日、督府、之ヲ諸軍ニ布告ス。

○督府、安藝、宇都宮二藩兵ノ若松ニ在ル者ヲ藤原口ニ差遣シ、黑羽、大田原二藩兵ト倶ニ、三斗小屋村及ヒ五十里口ノ殘

賊ヲ捜索シ、且、横川村傍近ヲ扼守セシム。

二十九日、大總督府、奥羽諸藩士ノ東京護送、藩地謹愼ノ區處ヲ定メテ、之ヲ白河、平潟兩道ノ總督ニ令ス。

○督府、薩摩、尾張、彦根、大村、佐土原五藩兵ノ松平容保父子、及ヒ會津降人監守ヲ罷メ、佐土原藩兵ヲ上山、山形ニ、薩藩、尾張、紀伊、長門、土佐、大垣六藩兵ヲ二本松ニ差遣シ、機ヲ相テ仙臺及ヒ莊内征討ノ官軍ニ應援セシメ、參謀板垣正形ヲシテ二本松ニ赴キ、之ヲ督セシメ、備前、彦根、柳河、大村四藩兵ヲ二本松ニ差遣ス、又斥候隊及ヒ備前、彦根、高松、柳河、忍、守山六藩兵ノ二本松ニ在ル者ヲシテ、福島ニ赴カシメ、米澤藩兵ノ福島ニ在ル者ヲ猪苗代ニ移シ、會津降人ヲ監守セシム、尋テ薩摩以下六藩兵ノ仙臺進軍ヲ止メ、命シテ二本松ニ駐屯セシム。

是月、督府、三春藩ニ命シテ、粃田、大倉等七村竝ニ田村郡、ヲ管セシム。

十月朔日、總督、福島ニ赴カントス、是日、若松ヲ發シ、三城潟村ニ抵ル。

○督府、三春藩兵ニ命シテ、松平容保父子ヲ監守セシム、尋テ、之ヲ罷ム。

二日、總督、横川村ニ抵ル。

三日、總督、二本松ニ抵ル。

○督府、備前、彦根二藩兵ノ福島ニ在ル者ヲ、瀬上驛ニ差遣シ、福島藩兵ノ桑折驛ニ在ル者ヲ、庭坂村ニ移ス、尋テ、備前、彦根二藩兵ヲシテ、進テ白石ニ赴カシム。

四日、總督、福島ニ抵ル、參謀伊地知正治、渡邊清、多久茂族等、前後來候ス。

○初メ、仙臺藩士ノ奥羽鎭撫總督府參謀世良砥德（修藏）長門藩士、ヲ福島ニ戕スヤ、福島藩士杉澤某覺右衛門、モ亦、其事ニ與カル、是日、督府、福島藩ニ命シテ某ヲ保監セシメ、翌日、某ニ命シテ、供状ヲ上ラシム。

六日、督府、薩摩、尾張、紀伊、阿波、土佐、大垣六藩兵ノ二本松ニ在ル者ヲシテ、盛岡征討ノ官軍ニ應援セシメ、長門藩兵ヲ桑折驛ニ、備前、彦根、柳河、大村四藩兵ヲ白石驛ニ差遣ス、因リテ、軍令ヲ諸軍ニ頒ツ、翌日、紀伊藩兵ニ更令シテ、二本松ニ駐屯セシム、既ニシテ、盛岡平定ニ就クヲ以テ、薩摩以下五藩兵ノ進軍ヲ止ム。

○丹羽長國、書ヲ上リ、藩兵ヲシテ白石進撃ノ官軍ニ屬セシメ、歸順ノ効績ヲ奏センコトヲ請フ、督府、聽サス、命シテ、藩兵ノ福島及ヒ佐原村ニ在ル者ヲ撤歸シ、本藩ニ謹愼セシメ、其

兵器ヲ收ム。
七日、督府、三春藩兵ヲ川俣驛ニ差遣シ、阿波藩兵ニ代リテ之ヲ警守セシメ、下手渡藩兵ヲシテ之ニ應援セシム。
○是ヨリ先、板倉勝尙ノ家臣七十六人、東京ニ在ル者、潜ニ平潟口總督ノ軍門ニ來乞シ、筑前藩兵ニ加ハリ、功ヲ立テ、以テ勝尙ノ罪ヲ贖ハンコトヲ謀ル、是ニ至リ、平潟口總督府、之ヲ督府ニ交付ス、是日、督府、其狀ヲ詰問シ、命シテ本藩ニ謹愼セシム、尋テ之ヲ釋ス。

第十二 自明治元年十月八日 至同 二十九日

十月八日、是ヨリ先、大總督府、薩摩、長門、彦根、土佐、大垣、五藩兵ニ令シテ、東京ニ凱還セシム、是日、督府、諸藩兵ノ戰功ヲ賞シテ酒肴ヲ賜ヒ、且大總督府ノ令ヲ傳ヘテ、五藩兵ヲ班ス、因リテ、沿路各驛ニ令シテ、遞傳ヲ措辨セシム。
○督府、長沼、三代、原二驛ヲ除クノ外、各處ノ警備兵ヲ撤シ、府中藩兵ヲシテ、長沼驛ヲ守ラシメ、尾張、肥前、忍、川越、館林、烏山六藩兵ノ白河ニ在ル者ヲシテ、交番、三代、原二驛ヲ警守セシム。
○督府、長門、大垣二藩兵ニ命シテ、舊幕府及ヒ諸藩逋逃兵ノ猪苗代ニ在ル者ヲ、東京ニ監送セシム。
○是ヨリ先、賊兵水戸城ヲ襲フ、守山藩兵ヲ返シテ、其別邑松川陣屋ヲ警守センコトヲ請フ、是日、督府、藩兵ノ福島及ヒ二本松ニ在ル者ヲ罷歸シテ、之ニ備ヘシム。
九日、備前、彦根以下四藩兵、進テ白石ニ至ル、是ヨリ先、伊達慶邦城ヲ致シテ、平潟口總督ノ軍門ニ降ル、是日、四藩兵白石城ヲ收ム。
十日、督府、紀伊藩兵ノ二本松ニ在ル者ヲ福島ニ移シ、本營ヲ警守セシム。
十一日、督府、令シテ征討諸軍ヲ班ス、（十四日ヨリ漸次途ニ上リ二十一日ニ至テ終ル、）白河及ヒ三代、原二驛ノ諸軍ハ、仍之ヲ留ム、尋テ沿路闐咽スルヲ以テ、凱旋諸軍ヲシテ、輜重ヲ各地ニ留メシム。
○督府、尾張藩兵ノ蘆野驛ニ在ル者ヲシテ、白河ヲ警守セシム。
十三日、督府、丹羽長國、阿部正靜及ヒ正靜ノ高祖父正備ニ命シテ、東京ニ至リ謹愼シテ命ヲ待タシメ、大村、佐土原二藩兵ヲシテ之ヲ監送セシム、又正靜ノ兵器ヲ收メ、長國ノ兵器ト倶ニ尾張、紀伊二藩兵ニ付シテ、東京ニ護送セシム、尋テ其護送ヲ止メ、三春、福島、守山三藩ヲシテ之ヲ監守セシム。

十四日、督府、諸軍ヲ撤還スルヲ以テ、三春、福島、守山三藩ニ令シテ、嚴ニ其封疆及ヒ假管ノ地ヲ警守セシム。

○督府、福島藩ニ令シテ、藩士杉澤某(覺右衛門)ヲ東京ニ檻送セシメ、備前藩兵ヲシテ之ヲ監セシム。

十六日、守山藩兵松川ニ赴カントス、伊香驛ニ至リテ、水戸平定スト聞キ、兵ヲ二本松ニ返シ、書ヲ上リテ進止ヲ取ル、督府、命シテ福島ニ至ラシム。

十七日、督府、高松藩兵ニ命シテ、福島藩重臣澁川勝達(教之助)、小笠原某(藤吾)ヲ東京ニ監送セシム。

十八日、總督、福島ヲ發シ、東京ニ凱旋ス、參謀多久茂族及ヒ阿波、忍、岡、守山四藩兵、福原資生家臣等之ニ從フ、是日、二本松ニ抵ル、參謀伊地知正治、板垣正形、渡邊清等先發ス。

○參謀伊地知正治東京ニ至ル、大總督府、其戰勞ヲ慰賞シテ之ヲ罷ム。

十九日、總督、本宮驛ニ抵ル。

○督府、令シテ、三代、原二驛ノ警備兵ヲ撤シ、之ヲ白河ニ移ス。

○督府、肥前藩兵ニ命シテ、松平容保父子、及ヒ其重臣内藤信節(介右衛門)、等五人ヲ東京ニ監送セシム。

○守山藩、既ニ封疆護守ノ命ヲ奉ス、而シテ銃器給セス、因リテ書ヲ督府ニ上リテ、其監スル所ノ二本松藩ノ銃器ヲ借ンコトヲ請フ、之ヲ聽ス。

二十日、總督、須賀川驛ニ抵ル。

二十一日、總督、白河ニ抵ル。

二十二日、總督、白河ヲ發ス。

二十三日、總督、佐久山驛ニ抵ル、是日、福原資生ノ家臣ヲ慰勞シ、其從衞ヲ罷ム。

○督府、板倉勝尙ニ命シテ東京ニ至リ、謹愼シテ命ヲ待タシム。

二十四日、督府、令シテ白河ノ諸軍ヲ班ス。

二十九日、總督正親町公董凱ヲ東京城ニ奏ス、詔シテ其功ヲ賞シ、物ヲ賜フ、參謀板垣正形、渡邊清以下賞賜差アリ、薩摩、尾張以下諸藩兵、前後東京ニ凱至ス、慰勞シテ之ヲ解還ス、大總督府モ亦諸藩兵ヲ慰勞シ、隊長等ニ物ヲ賜フ。

平潟口戰記

第一　自明治元年六月十日　至同七月二十六日

六月十日、大總督府、參謀正親町公董（中將）ヲ以テ、奥羽追討總督ト爲シ、木梨恒準（精一郎、長門藩士）、渡邊清（清左衛門、大村藩士）ヲ參謀ト爲シ、海路ヨリ兵ヲ平潟ニ出ス。〇公董陣中日誌、渡邊清從軍事蹟

十一日、官軍、江戸ヲ發ス。

十六日、官軍、平潟ニ至リ、兵ヲ部署シテ、諸口ヲ阨ス。

〇參謀、相馬季胤（因幡守〇中村藩主、食封六萬石）、安藤信勇（對馬守〇磐城平藩主、食封三萬石）、内藤政養（長門守〇湯長谷藩主、食封一萬五千石）、本多忠紀（能登守〇泉藩主、食封二萬石）ノ老臣ヲ平潟ニ召ス。

是時、仙臺兵磐城平ニ在リ、故ヲ以テ、四家老臣皆至ラス。〇本多忠伸家記

〇參謀、三邦、飛隼二艦ヲ銚子港ニ遣シ、備前、柳河二藩ノ兵ヲ迎フ。〇立花鑑寛家記

十七日、官軍、賊ヲ關田ニ破ル。

十八日、官軍、賊ト植田ニ戰フ。

十九日、賊兵、笠間藩管地（磐城郡神谷村）ノ守兵ヲ逐フ。

二十日、備前、柳河二藩兵、銚子港ヲ發シ、是日、平潟ニ至ル。〇岡山藩記

二十一日、備前兵、關田ニ陣シ、大島ヲ巡邏シ、賊ノ哨騎一名（遊撃隊今村貞次郎）ヲ擒ニス、〇岡山藩記、德川脫兵大代某（藤三郎）、薩軍ニ降ル。〇仙臺藩記

二十二日、官軍、賊ト添野ニ戰フ。

二十四日、官軍、賊ヲ八幡山ニ破ル。

二十八日、官軍、泉（本多忠紀ノ治所）ヲ取リ、新田阪砲臺ヲ拔ク、是日、賊艦來テ平潟ヲ襲フ、少時引還ル。

二十九日、官軍路ヲ分チ、一ハ湯長谷城（内藤政養ノ治所）ヲ拔キ、進テ磐城平ヲ攻メ、一ハ中ノ作ノ賊ヲ破テ、其運糧船ヲ奪フ、是日、賊艦、復平潟ヲ襲フ。

〇笠間藩兵（二百廿八人）平潟ニ至ル。

七月朔日、官軍、磐城平ヲ攻ム、克タスシテ退ク。

三日、大總督府、參謀四條隆謌（少將）ヲ以テ、仙臺追討總督ト爲ス。〇諸道記、[illegible]略

〇賊兵、再ヒ、笠間藩ノ守兵ヲ藥王寺ニ襲フ、守兵退テ、八莖村ヲ保ツ。

○參謀河田景與、（佐久馬○因幡藩士、）及因幡、（池田德定兵之ニ屬ス、共ニ三小隊、）備前、（八十人、）郡山、（七十人、）三藩兵、平潟ニ至ル。（池田輝知、柳澤保申家記、岡山藩記）

四日、大總督府、奥羽追討總督正親町公董ヲ罷ム。（參謀故ノ如シ、○公董陣中日誌）

六日、賊兵、曉ニ乘シ、湯本ノ邏所ヲ襲フ、擊テ之ヲ卻ク、賊一人ヲ擒ス。

七日、相馬季胤、磐城平ノ急ヲ聞キ、兵（銃兵五小隊、戰士二十名、）ヲ出シテ、之ヲ援ク。

○內藤政養家臣、備前藩ノ營ニ詣テ、政養、賊ノ脅迫スル所トナルヲ陳疏ス。

九日、薩摩藩兵、（本府、九番、十一番、二銃隊、三番砲隊、外城一番銃隊共ニ四百六十九人、）平潟ニ至ル。（慶應出軍戰狀）

十日、官軍、七本松ノ砲臺ヲ拔ク。

十二日、官軍、賊ヲ沼ノ內ニ破ル。

○因幡藩後軍、（池田德澄兵之ニ屬ス、共ニ十四小隊、二砲隊、砲五門、）小名濱ニ抵ル。（池田輝知家記）

○伊達宗敦、（左京大夫○仙臺藩主、慶邦ノ子、）出テ駒峯ニ陣シ、（仙臺藩記、十五日ト爲ス、然レトモ、相馬誠胤家記、是ニ似タリ、故ニ、本日ニ從フ、）相馬季胤、原町ニ進ム。

十三日、官軍、平城（安藤信勇ノ治所、）ヲ拔ク。

○官軍（笠間藩、）賊ノ援兵（米澤、）ヲ四倉ニ擊テ、之ヲ走ラス。

十四日、諸隊ヲ部署シ、磐城平ヲ分守ス。

○參謀、諸軍ニ令シテ、嚴ニ其鹵掠ヲ戒飭ス、又賊ノ器械錢穀ヲ獲ル者ハ、直ニ之ヲ器械會計ノ二局ニ申告セシム。

十七日、郡山藩兵、（百二十人、）平潟ニ至リ、本道ノ輜重ヲ掌ル。（柳澤保申家記）

十九日、參謀、進軍ノ條令ヲ諸隊長ニ頒ツ。

○參謀、令シテ、兵士ノ鹵掠ヲ申禁ス。

二十二日、總督四條隆謌、小名濱ニ至ル。（諸道記槪畧）

筑前、（總計、四百四十二人、）安藝、（兵員、詳ナラス、）長門、（鋭武一中隊、第一大隊二中隊、良城一中隊、）久留米、（兵員、詳ナラス、）岩國、（精義一中隊、）五藩兵亦前後來リ屬ス。（黑田長知、淺野長勳家記、岩國藩記）

○官軍、兵ヲ分テ、海道ヨリ中村城ニ向フ、前隊（安藝、因幡二藩兵、）進テ、久ノ濱ニ陣ス、夜、賊兵、其哨兵ヲ末續村ニ襲フ。

二十三日、海道ノ官軍、賊ヲ廣野驛ニ擊ツ、曉ニ至テ之ヲ破ル。

二十四日、是ヨリ先、白河口ノ官軍ニ約シ、俱ニ三春城ヲ攻ントス、是日、參謀渡邊淸、薩、備及柳河、佐土原、大村五藩兵ヲ率ヰ、山道ヨリ之ニ赴ク。

○筑前（四百四十二人、）及津（九十五人、）二藩兵、小名濱ニ至ル。（黑田長知家記、藤堂高潔家記）

二十五日、賊兵、廣野驛ヲ侵ス、擊テ之ヲ卻ク。

○是ヨリ先、官軍、泉ヲ拔クヤ、林忠崇、人見審等中村ニ走リ、是日、遂ニ會津ニ入ル。（林忠崇私記）

第二　自明治元年七月二十六日　至同　八月十一日

七月二十六日、山道ノ官軍、賊ヲ新町ニ破ル。
○賊兵、再ヒ廣野ヲ侵ス、逆擊テ大ニ之ヲ破リ、追躡シテ、其砲臺數處ヲ拔ク。
○是ヨリ先、伊達慶邦、使ヲ遣シ、本多忠紀、內藤政養ヲ招ク、是日、忠紀、政養仙臺ニ抵ル。（政養ハ其日詳ナラス。）
二十七日、山道ノ官軍、三春城ニ入ル。
二十八日、海道官軍、賊ヲ手岡原ニ擊テ、大ニ之ヲ破ル。
二十九日、海道官軍、路ヲ分テ、賊ヲ新山、浪江ニ擊ツ。
是月、肥後藩兵、（四百八十九人、）平潟ニ至ル。（細川護久家記）
八月朔、海道官軍、遂ニ浪江ヲ拔ク、伊達宗敦、岩沼（仙臺境內）ニ奔リ、相馬季胤、中村ニ歸ル。
二日、仙臺兵、相馬季胤ニ說キ、之ヲ仙臺ニ移サントス、季胤、從ハス。
三日、伊達慶邦、（陸奥守、仙臺藩主、食封六十二萬五千六百石、）上杉齊憲、（彈正大弼○米澤藩主、食封十八萬石、）ノ官位ヲ褫キ、之ヲ討ス。
○督府、令シテ、沿道人民ノ兵火ニ罹ル者ハ、本年ノ田租ヲ免シ、賊ノ掠劫ニ遇フ者ハ、其半ヲ蠲ク。
四日、總督、進テ浪江ニ陣ス、是日、相馬季胤、書ヲ轅門ニ上リ、降ヲ乞フ、仙、米諸兵、皆風ヲ聞テ先遁ル。
六日、督府、相馬季胤ノ降ヲ受ク、乃チ諸軍ヲ部署シ、明日ヲ以テ、中村城ニ入ル。
七日、總督、諸軍ヲ率テ中村城ニ入リ、相馬季胤ニ令シテ、姦諜ノ指揮ヲ奉セシメ、且、藩兵ヲ以テ仙臺追討ノ嚮導ト爲ス。
○中村藩兵、賊ヲ黑木ニ破ル。
九日、督府、相馬季胤ノ父充胤（大膳大夫、）ニ命シテ、寺院ニ謹愼セシム。
○賊兵、椎木口ニ來侵ス、官軍擊テ之ヲ卻ク。
十日、勅使平松時厚、中村ニ至リ、勅旨ヲ傳ヘテ、諸軍ヲ犒ヒ、且人民ヲ虐使スルコト勿ラシム。
○督府、諸軍ヲ部署シ、明日ヲ以テ駒峯ヲ攻ム。
○賊、復來侵ス、之ヲ大坪ニ破ル。
十一日、海道官軍、路ヲ分テ、駒嶺ヲ攻テ、之ヲ拔ク。
○相馬季胤、藩兵ヲ以テ官軍ニ嚮導シ、其力ヲ效サンコトヲ、督府ニ請フ、又書ヲ伊達慶邦ニ遺リ、順逆ヲ陳シテ、其自新ヲ勸ム。

第三 （自明治元年八月十二日 至同 九月十二日）

八月十二日、督府、令シテ兵ヲ駒ケ峯ノ四近ニ配布シ、一日全

軍ヲ休息ス。

○督府、相馬藩、脩慈降ノ力ヲ藩事ニ盡スヲ賞シ、命シテ、治下ノ人民ヲ誘導セシム。

十三日、大總督府、仙臺追討總督四條隆謌ヲ改テ、奥羽追討平潟口總督ト爲ス、又山道分遣ノ諸藩兵ヲシテ、白川口ノ軍ニ屬セシム。

○官軍、遠阪ノ賊壘ヲ焚ク。

○賊兵、夜、玉野村ヲ襲テ、之ヲ焚ク。

○笠間藩兵、（百四人、）磐城平ニ抵ル。○（牧野貞寧家記）

十六日、賊兵、路ヲ分テ駒ケ峰ヲ侵ス、官軍、撃テ之ヲ却ク。

○津藩第二軍、（百七十六人、）中村ニ至ル。○（藤堂高潔家記）

十九日、大洲藩兵、（二小隊、）中村ニ至ル。○（加藤泰秋家記）

二十日、賊兵、大擧シテ、再ヒ駒ケ峯、曹善堂等諸所ニ來リ戰フ、官軍、兵ヲ縱テ之ヲ掩撃ス、賊兵、悉潰ユ。

○二十一日、督府、相馬季胤ノ謹愼ヲ釋ク。

○督府、令シテ砲墩ヲ各口ニ設ク、乃諸藩各一人ヲ出シテ、其役ヲ董セシム、又行軍戰兵百人ニ、役夫二十人ヲ給スルヲ令ス。

二十二日、督府、戰地ニ揭示シテ、人民ヲ招撫ス。

○館林藩兵、（二百二十人、砲二門、）中村ニ至ル。○（總督府日誌）

二十三日、督府、各口ノ將軍ニ令シテ、其進退、使番ノ傳令ヲ待シム。

○仙臺ノ人鷲尾某、（右源太、）密ニ肥後藩ノ營ニ詣リテ、歸順ノ方ヲ請求ス。

二十五日、督府、安藝藩軍監伊藤某（源助、）ヲ以テ、諸藩兵ノ軍監ト爲ス。

○賊兵、掛田村ヲ剽掠ス、白川口官軍ノ川俣驛ヲ守ル者、（阿波藩兵、）援ヲ乞フ、中村藩兵之ニ赴ク。

二十六日、是ヨリ先、督府、相馬藩士藤田某（又右衛門、）ヲシテ秋田、南部ノ二藩ニ使セシム、時ニ南部、兵ヲ發シテ秋田ヲ攻ム、路梗シテ通セス、某、竟ニ還ル、是日、其狀ヲ上ル。○（藤田某ヲ遣ルノ事、原記ヲ佚ス。）

○官軍、賊ヲ掛田村ニ破ル。

○是ヨリ先、伊達慶邦、書ヲ致シテ榎本武揚ヲ招ク、武揚、諸軍艦ヲ率ヒ、是日、悉ク仙臺海ニ至ル。

二十七日、相馬季胤、書ヲ督府ニ上リ、寛典ニ處センコトヲ請フ。

二十八日、賊兵、連日笹町、玉野等ヲ侵ス、是日、撃テ之ヲ卻ク。

廿九日、伊達慶邦、使ヲ肥後藩ノ營ニ遣シ、情ヲ陳シ、歸順ノ事

ヲ請フ。

九月朔日、大總督府參謀、書ヲ致シ、宇和島藩ノ請ヲ聽シ、使臣玉田貢一郎、富田鐵之助、ヲ仙臺ニ遣ヲ報ス。

○是ヨリ先、伊達慶邦、使ヲ會津ニ遣ハシ、林忠崇、人見寧ヲ招ク、中興紀聞是ニ於テ、皆仙臺ニ至ル。

二日、參謀、書ヲ大總督府ニ致シ、彈藥及軍資ヲ支給センコトヲ請フ。

三日、親兵第三大隊、二百五十人、中村ニ、佐倉藩兵、二百八十五人、平潟ニ至ル。總督府日誌、増田正倫家記

四日、白川口參謀、書ヲ本道參謀ニ致シテ、長門、館林二藩兵ヲ得テ、若松口ノ援ト爲ント請フ、之ヲ辭ス。之ヲ辭スルノ事、原記ヲ失ス、但、渡邊清第二書ニ據テ、之ヲ補入ス。

五日、川俣驛ノ官軍、阿波、中村、下手渡三藩兵、藩八前日赴援、此地ニアリ、中村援ヲ督府ニ乞フ、乃中村藩兵一小隊、ヲシテ之ニ赴カシム。總督府日誌

六日、筑前藩第二軍、百四十八人、中村ニ至ル。黒田長知家記

七日、督府、館林藩兵ヲシテ菅谷口川俣ノ南ニ在リ、長門藩兵、之ヲ守ル、ニ赴援セシム。

九日、伊達慶邦、歸順ノ實未タ擧ラサルヲ以テ、督府、令シテ諸軍ヲ部署シ、明日ヲ以テ、旗卷ヲ攻ム、又徵兵隊ヲ以テ、駒ケ峯ノ館林藩守兵ニ代ヘ、館林藩兵ニ黒木ヲ、筑前藩兵ニ原口ヲ守ラシム。

十日、官軍、旗卷ヲ攻テ、之ヲ拔ク。

十一日、官軍、賊ヲ進剿シテ、筆甫ニ至ル。

十二日、督府、令シテ賊屍ヲ合瘞セシメ、慘虐ノ行ヲ爲スヲ禁ス。

○伊達慶邦、各口ノ兵ヲ斂メ、將ニ哀請スル所アラントス、督府、乃チ諸軍ニ令シテ、其進討ヲ止ム。

○肥後藩後軍、四百六十一人、平潟ニ至ル。總督府日誌、細川護久家記

第四 自明治元年九月十五日 至同 十月五日

九月十五日、伊達慶邦、書ヲ督府ニ上リ、罪ヲ謝シ降ヲ乞フ。

十六日、督府參謀、伊達慶邦ノ使臣ヲ延見シ、其降ヲ受ケ、慶邦、宗敦ニ命シテ、親ラ亘館ニ詣テ、降禮ヲ執シム、又令シテ砲銃彈藥ヲ收聚シ、且諸客兵ヲ處分セシム。

十七日、督府、仙臺降伏ヲ布告シ、諸軍ヲ警戒シテ、不虞ニ備フ、又諸軍ノ進守ヲ部署シ、前鋒二十日ヲ以テ亘館ニ入ラシム。

○是ヨリ先、督府、令シテ仙臺境内戰地ノ收穫ヲ禁ス、是日、之

ヲ解ク。
○薩摩藩後軍、五百三十七人、中村ニ至ル。總督府日誌
十八日、督府、令シテ再ヒ前鋒兵ヲ部署シ、薩兵ヲ分テ、駒ケ峯ニ赴カシメ、官軍ノ青葉、筆甫ニ在ル者ヲ撤シテ、中村及其封疆ヲ守ラシム。
十九日、督府、因幡藩兵ニ命シテ、中村城ヲ管守セシム。
○仙臺兵、榎本武揚ノ軍ニ投スルモノアルヲ以テ、督府參謀、平潟、磐城平海口ノ使番ニ牒シテ、其守ヲ嚴ニセシム。
○筑前藩後軍、兵隊百十四人、續卒七十三人、中村ニ至ル。黒田長知家記
二十日、前鋒兵、中村ヲ發ス。
二十一日、前鋒兵、亘館ニ入ル。
○大總督府參謀、移檄シテ、徳川氏脱艦漂到ノ狀ヲ報シ、逋逃ヲ逮捕セシム。
○二十二日、督府、伊達宗敦ヲ中村城ニ召シテ、暴徒ノ擧動ヲ責問シ、亟ニ仙臺ニ歸リ、父慶邦ト力ヲ戮セテ、之ヲ鎭輯セシム。
○前鋒兵亘館ニ次ス、參謀、諸隊ニ令シ、各二人ヲ擇ヒテ、仙臺ノ銃砲彈藥領收ノ事ヲ掌ラシム。
○是ヨリ先、入道公現親王、東叡山ヲ遁レ、會、米、仙ノ間ニ流寓ス、是日、謝表ヲ督府ニ上リ、罪ヲ待ツ。
二十四日、伊達慶邦、亘館ニ詣リテ、罪ヲ軍門ニ謝ス、總督府日誌參謀書束、參謀命ヲ傳ヘテ、其封ヲ收メ、兵器ヲ籍シ、權ニ老臣ヲシテ民事ヲ管セシム。
○伊達慶邦家臣、書ヲ督府ニ上リ、官軍供張及ヒ降禮ノ日ヲ稟請ス。
○本多忠紀、内藤政養、安藤信正、書ヲ督府ニ上リ、罪ヲ謝シ降ヲ乞フ。
○白河口參謀、移文シテ、板倉勝達、織田信敏等降伏ノ狀ヲ報ス。
二十五日、伊達慶邦家臣、書ヲ督府ニ上リ、支封田村邦榮、將ニ來謁セントスルヲ以テ、秋田口官軍ノ進伐ヲ止メ、及ヒ越河、白石守兵、其舊ニ仍ランコトヲ請フ。
○牧野忠訓家臣、書ヲ督府ニ上リ、忠訓米澤ニ詣リテ罪ヲ待チ、家眷及臣隷仙臺ニ在テ、屏居スルヲ稟ス。
○白河口參謀、移文シテ、會津降伏ノ狀ヲ報ス。
二十六日、前鋒兵、岩沼ニ至ル。
○因幡藩後軍、百八十六人、中村ニ至ル。總督府日誌池田輝知家記
二十七日、前鋒岩沼ニ次シ、仙臺ノ銃器ヲ收ム、是日、參謀、本

多忠紀、内藤政養、安藤鶴翁ノ降ヲ受ケ、命シテ仙臺城下ニ屛居シ、罪ヲ待タシム。

○督府、令シテ椎木、大場、原釜ノ哨兵ヲ撤ス。

○是ヨリ先、阿部正靜、白河口官軍ニ降ル、是日、又書ヲ督府ニ上リ、其家脊以下仙、米ノ間ニ寄寓スルヲ稟ス。

二十八日、前鋒兵仙臺ニ入ル、乃城ヲ收メ、老臣ヲシテ權ニ之ヲ管守セシム、又令ヲ傳ヘテ、客兵ノ死一等ヲ宥ス。

○督府、令シテ相馬藩ノ青葉守兵ヲ撤ス。

二十九日、大總督府參謀、諸路總督ニ移牒シテ、松平容保以下罪犯處分ノ日ヲ令ス。

○督府、津藩兵ニ命シテ、公現親王ヲ守衞セシム。

○參謀、牒ヲ大總督府ニ上リ、仙臺城ヲ收メシ狀ヲ報シ、又之ヲ白川口參謀ニ牒知シ、兼テ南部ノ向背ヲ問フ。

○第二軍、岩沼ニ抵ル。

十月朔日、總督四條隆謌、中村城ヲ發シテ、亘館ニ向フ。

○津藩後軍、四百三十六人、中村ニ至ル。藤堂高潔家記

二日、總督、亘館ニ抵ル、是日、因幡、津二藩兵、親兵第三大隊、ヲ遣シテ、先仙臺ニ入ラシム。

○督府、令シテ仙臺城通行門ヲ除クノ外、悉ク諸門ヲ鎖シ、官兵ノ城中ヲ遊觀スルヲ禁ス。

三日、督府、軍ヲ岩沼ニ進メントス、前鋒參謀請フ所アリ、遂ニ亘館ニ次ス。

○前鋒參謀、筑前藩兵ニ命シ、仙臺城中ニ直シテ、督府ヲ衞セシム。

○林忠崇、仙臺ニ依テ、謝狀ヲ前鋒ノ營ニ上リ、罪ヲ請フ、令シテ謹愼命ヲ待シム。

○南部利剛老臣、書ヲ督府ニ上リ、四境官軍ノ進伐ヲ止メ、利剛歸順ノ地ヲ爲ント請フ、是日、督府、使ヲ遣シ、之ヲ盛岡口參謀ニ報道ス。

○是ヨリ先、板倉勝巳家臣ノ東京ニ在ル者、潛ニ本路筑前藩ノ軍ニ來奔シ、功ヲ立テ、以テ勝巳ノ罪ヲ贖ハンコトヲ計ル、近日、勝巳白河口官軍ニ降ル。是ニ於テ、督府、白河口ニ移文シテ、其徒七十六人ヲ送致ス。

○四日、前鋒參謀、書ヲ督府ニ致シ、七日ヲ以テ仙臺ニ入ランコトヲ請フ、督府、令シテ六日仙臺ニ入ル。

○督府、水戸城警報アルヲ以テ、笠間藩兵ヲ遣シテ、之ヲ討セ

シム。
○伊達慶邦父子、總督ヲ岩沼ニ迎ヘントス、慶邦疾アルヲ以テ、本日宗敦ヲシテ岩沼ニ詣ラシムルヲ稟謝シ、又其支族田村邦榮ノ爲ニ進止ヲ取ル。
五日、總督亘館ヲ發シ、岩沼ニ至ル、伊達宗敦迎ヘ謁ス。
○前鋒參謀、林忠崇ヲ召見シ、命シテ仙臺城下ニ屏居セシメ、仙臺老臣ヲシテ之ヲ監セシム。

第五　自明治元年十月六日 至同十一月十四日

十月六日、總督仙臺城ニ入ル。（總督府日誌 仙臺藩記）
○督府、命シテ官兵ノ創痍者ヲ横濱ニ護送ス。
七日、大總督府、移牒シテ、征討兵士ニ毛布ヲ賜フノ朝命ヲ傳フ。
○總府、仙臺老臣ノ本城管守ヲ罷ム。
八日、督府、館林藩兵ニ命シテ、岩沼館ヲ守ラシム。
十日、督府、本多忠紀、內藤政養、安藤鶴翁ニ命シ、東京ニ詣テ罪ヲ待シム。
○是ヨリ先、督府、仙臺ニ令シテ、榎木武揚等ヲ招撫セシム、服セス、諸客兵等亦之ニ投スルモノアリ、是日、薩摩及津藩兵ヲシテ之ヲ石卷港ニ伐タシム、至レハ則既ニ遁ル、之ヲ折ノ濱ニ追フ、亦及ハス、武揚去ニ臨テ、書ヲ督府ニ上リ、蝦夷ニ赴クノ由ヲ陳ス。
十一日、大總督府、移牒シテ、仙臺及流寓諸藩主客兵等ノ處分ヲ督促ス。
十二日、總督府、相馬季胤ヲ仙臺ニ召シ、朝旨ヲ傳ヘ、其封ヲ復ス。
○督府、入道公現親王、及仙臺首謀臣但木成行（土佐）以下五人ヲ東京ニ護送ス。
○仙臺家臣、督府ニ上書シ、今神、今泉ノ鹽田、舊ニ仍テ、其業ニ就カンコトヲ請フ。
十四日、督府、林忠崇、及ヒ東叡山執當覺王院義觀、龍王院堯忍ノ死一等ヲ宥シ、東京ニ詣テ罪ヲ待シム、又仙臺諸客兵ノ降ヲ容シ、是日、諸藩兵ニ令シテ、之ヲ東京ニ護送セシム。
○督府、仙臺ニ令シテ、軍艦ノ數ヲ錄進セシム。
十七日、安藝藩後軍、（三百五十八人、）亘館ニ至ル。（總督府日誌）
○白川口參謀、督府ニ移文シテ、本軍ノ凱旋ヲ報ス。
十八日、久留米藩後軍、（五百六十九人、）磐城平ニ至ル。（總督府日誌）
廿日、本多忠紀、內藤政養、安藤信正千住驛（武藏、）ニ抵ル、大總督

府、令シテ忠紀ヲ岡崎藩ニ、政養ヲ延岡藩ニ、信正ヲ安藤信勇ニ付シテ之ヲ幽ス。

○相馬季胤、書ヲ督府ニ上リ、軍資金（一萬兩）ヲ獻シ、及ヒ抗敵死者ノ罪ヲ宥シ、弔祭ヲ行ヲ得ンコトヲ請フ、並ニ皆之ヲ聽ス。

廿二日、大總督府、移牒シテ、伊達慶邦及宗敦ヲ東京ニ護送シ、且本路ノ軍ヲ班セシム。

廿三日、督府伊達慶邦及宗敦ニ命シ、東京ニ詣リテ罪ヲ待タシム。

廿四日、大總督府、令シテ佐倉藩兵ヲ撤歸セシム。

廿七日、大總督府、仙臺罪臣但木成行等ヲ宇和島藩ニ幽ス。（伊達宗德家記）

晦日、總督四條隆謌、仙臺ヲ發シテ凱旋ス。

十一月三日、公現親王千住驛ニ抵ル、大總督府、朝命ヲ傳ヘテ、之ヲ京師ニ護送シ、伏見宮ノ邸ニ幽ス。

七日、林忠崇東京ニ抵ル、大總督府、令シテ之ヲ唐津藩邸ニ幽ス。（東京城日誌）

十日、伊達慶邦及宗敦東京ニ至リ、良源院（芝山内）ニ屛居ス。（仙臺藩記）

十四日、總督四條隆謌凱ヲ東京城ニ奏ス、詔シテ、其功ヲ賞シ、物ヲ賜フ、參謀及諸藩兵、前後凱至ス、賞賜各差アリ。

越後口戰記

第一　自明治元年六月十四日　至同　七月朔日

明治元年（戊辰、）六月十四日、軍務官知事嘉彰親王（仁和寺宮、）ヲ拜シテ、會津征討越後口總督ト爲シ、（知事故ノ如シ、）三等陸軍將西園寺公望、（權中納言、○時ニ越後高田ニ在リ、）壬生基修、（左衛門權佐、）ヲ參謀ト爲シ、（二人、軍將故ノ如シ、）楠田英世、（十左衛門、肥前藩士、）ヲ副參謀ト爲シ、土倉正彥、（修理介、）荒尾成章、（駿河、二人並ニ因幡藩士、）松平正直、（源太郎、越前藩士、）ヲ軍監ト爲ス、軍務官判事吉井督春、（幸輔、薩摩藩士、）小軍監三宮義胤、（耕雲、近江人、）宮川長春、（助五郎、）小監察片岡利和、（源馬、二人並ニ舊土佐藩士、）芳野親義、（昇太郎、舊水戸藩士、）及ヒ明石、福知山、高鍋、足守、三日月、小野、小松七藩兵之ニ屬シ、小濱藩兵之カ先鋒タリ。

二十一日、督府、軍令ヲ諸軍ニ頒ツ。

二十二日、總督嘉彰親王、親兵、徵兵及ヒ明石、福知山以下七藩兵ヲ率ヰテ陛辭ス、天皇、親王ヲ小御所ニ延見シテ、錦旗、節刀ヲ賜ヒ、且出テ其軍容ヲ觀ル、參謀壬生基修以下、恩賜差アリ、既ニシテ親王宣秋門ヨリ出ツ、諸隊次ヲ按シテ啓行シ、大津驛（近江、）ニ抵ル。

二十七日、總督、敦賀（酒井忠經ノ治所、）ニ抵ル、小濱藩兵來會ス。

二十八日、總督、軍ヲ敦賀ニ駐ム、敦賀藩ニ令シテ、供待厚ヲ加フルコト勿ラシメ、且從兵法ヲ犯ス者アラハ、之ヲ申告セシム。

二十九日、總督、氣比神社（敦賀ニ在リ、）ニ詣シ、且諸軍ノ操練ヲ今濱村ニ觀ル。又武田正生（伊賀耕雲齋ト號ス、舊水戸藩士、）ノ墓（敦賀永巖寺ニ在リ、）ヲ弔シ、香華料ヲ賜フ。

七月朔日、是ヨリ先、參謀西園寺公望高田（榊原政敬ノ治所、）ニ次シ、奥羽征討越後口總督府參謀黑田淸隆、（了介、薩摩藩士、）山縣有朋、（狂介、長門藩士、）監察使府軍監岩村高俊（精一郎、土佐藩士、）ト共ニ、加賀、薩摩、尾張、長門、高田、大垣、松代、富山、高崎、松本、府中、（長門、）上田、高遠、高島、飯山、與板、田野口、岩村田、飯田、須坂、大垣、新田、椎谷二十二藩兵ヲ分テ、出雲崎驛以東六十里越口ニ至ルノ各處ニ據守セシメ、以テ賊兵ノ衝路ヲ扼ス、仙臺、會津、米澤、莊内、桑名、新發田、長岡、山形、村上、上山、村松、天童、三根山ノ兵、及ヒ舊幕府水戸藩逋逃ノ徒等、亦米澤老臣千坂高雅（太郎左衛門、）ヲ推シテ、總督ト爲

シ、甘粕繼成（備後）ヲ參謀ト爲シ、寺泊驛以東椽尾驛ニ至ルノ要衝ニ分據シ、以テ官軍ト對壘ス、是ニ於テ、兩軍ノ砲墩、櫛比二十許里ニ亘リ、日夜戰爭、迭ニ勝敗アリ、是日、官軍曉ニ乘シテ、賊兵ヲ一之貝、西中股、荷頃、土ケ谷等諸村ニ破リ、進テ椽尾驛ニ逼ル、賊險ニ據テ力拒ス、官軍克スシテ退ク。

第二　自明治元年七月二日 至同二十三日

七月二日、參謀西園寺公望、移テ柏崎驛ニ次ス。

○賊兵、曉ニ乘シテ大黑、筒場等諸村ヲ襲フ、官軍、邀ヘ擊テ之ヲ卻ク。

三日、賊兵、阿彌陀瀨村ヲ侵ス、官軍、擊テ之ヲ卻ク。

四日、是ヨリ先、北陸道鎭撫副總督四條隆平、（大夫、）高田ニ在リテ、專ラ民政ヲ掌ル、是日、移テ柏崎驛ニ次ス。

五日、總督、將ニ明日ヲ以テ汽船ニ駕シ、敦賀ヲ發セントス、乃チ諸軍ヲ分テ二ト爲シ、親兵、徵兵、（五番隊、及ヒ十二番隊半隊、）ハ海路ヨリシ、總督之ヲ率ヰ、徵兵、（十二番隊半隊、）及ヒ小濱、明石以下八藩兵ハ陸路ヨリシ、軍監上倉正彥等之ヲ督ス、因リテ陸路諸軍ヲ戒飭シテ、法令ヲ嚴守セシム、又沿路各驛（敦賀ヨリ高田ニ至ル、）ニ令シテ、傳遞ヲ措辦セシム。

○官軍、賊兵ヲ藥師山ニ擊ツ。

六日、參謀山縣有朋ノ請ヲ聽シ、其參謀ヲ罷メ、前原一誠（佐世八拾郎ト稱ス、長門藩士、）ヲ以テ之ヲ代フ。

○總督、將サニ敦賀ヲ發セントス、大風雨ヲ以テ果サス、陸路、諸軍ヲシテ先發セシム。

○官軍、賊ヲ栃木、藤卷、田口等諸村、及ヒ陣ケ峰ニ擊テ之ヲ破ル。

○賊軍、軍令ヲ定メテ、之ヲ各隊ニ頒ツ。

七日、總督、親兵、徵兵ヲ率ヰテ汽船ニ駕シ、敦賀ヲ發ス。

○官軍、曉ニ乘シテ、賊兵ヲ日浦村ニ破ル。

八日、參謀西園寺公望、移テ長岡ニ次ス。

九日、總督、今町驛ニ抵ル、榊原政敬（式部大輔、高田藩主、）奉迎シ、藩兵ヲ出シテ行營ヲ警守ス。

十日、總督、今町驛ヲ發シ、高田ニ抵ル。

○賊兵、夜ニ乘シテ諏訪山ヲ襲フ、官軍、邀ヘ擊テ之ヲ破ル。

十一日、總督、副參謀楠田英世等ヲ戰地ニ差遣ス、又酒肴ヲ從兵ニ賜テ、航海ノ勞ヲ慰ス。

○是ヨリ先、諸藩會議所ヲ關原驛ニ設ケ、軍事ヲ議ス、是日、之ヲ長岡ニ移ス。

十二日、官軍、賊兵ヲ和歌浦村ニ撃ツ、克スシテ退ク、是日、賊兵、方丈山、及ヒ陣ケ峰ヲ襲フ、官軍、邀ヘ撃テ之ヲ破ル。

十三日、督府、參謀壬生基修等ヲ各病院ニ遣シテ、創痍者ヲ慰問シ、砂糖ヲ賜フ、又北征ノ旨趣ヲ榜諭シ、土民ヲ安撫ス。

○軍監土倉正彦等、陸路、諸軍ヲ督シテ、岩瀬驛(越中)ニ至ル、總督、已ニ越後ニ至ルト聞キ、徴兵及ヒ明石、高鍋二藩兵ヲ率ヰテ、海路ヨリ高田ニ赴ク。

十四日、安藝藩兵、(銃砲二隊)今町驛ニ至ル。(浅野長勲家記)

十五日、總督、柏崎驛ニ抵ル、北陸道鎭撫副總督四條隆平、參謀西園寺公望等來謁ス。

○總督、手書ヲ諸藩兵ニ下シテ、北征ノ旨趣ヲ諭告シ、勗シムルニ成功ヲ以テス。

○督府、出征諸藩ニ令シテ、兵員及ヒ其屯所ヲ錄上セシム。

○越前藩兵、長岡ニ至ル、督府、之ヲ與板口、及ヒ出雲崎口ニ差遣ス。

○賊兵、栃木、荷頃二村ヲ襲フ、官軍、撃テ之ヲ卻ク。

十六日、參謀壬生基修、長岡ニ至リ、勅旨ヲ傳ヘテ、諸藩兵ヲ犒ヒ、且其創痍者ヲ慰問ス。

○督府、朝旨ヲ諸軍ニ傳ヘテ、庶民ヲ虐使スルコト勿ラシム。

○督府、鯨波村民ノ兵燹ニ罹リシ者ヲ賑恤ス。

○賊兵、久田村ヲ攻ム、官軍、撃テ之ヲ卻ク。

十七日、總督、參謀黑田淸隆、及ヒ山縣有朋ノ戰勞ヲ慰賞シ、勗シムルニ成功ヲ以テス。

○督府、親兵及ヒ出征諸藩ニ令シテ、創痍者ノ病院ニ在ル者ヲ錄上セシム。

○督府、令シテ從兵ヲ戒飭ス。

○賊兵、久田村ヲ侵ス、官軍、邀ヘ撃テ之ヲ破ル。

○小濱藩兵、柏崎驛ニ至ル。(酒井忠祿家記)

十八日、督府、匣匭ヲ軍門ニ置キ、庶民ノ訴狀ヲ受ク。

○督府、小濱藩兵ヲ出雲崎驛ニ差遣ス。

十九日、督府、一見正則(一鷗齋、伊勢人)ヲ以テ小監察ト爲シ、出雲崎驛ニ差遣ス。

二十日、福知山、足守、三日月、小野、小松五藩兵柏崎驛ニ至ル、明日、徴兵(十二番隊半隊)及ヒ明石、高鍋二藩兵モ亦至ル。(足守、三日月藩記 秋月種殷家記)

二十一日、是ヨリ先、溝口直正、(誠之進、新發田藩主)賊兵ノ脅迫スル所ト爲リ、兵ヲ出シテ之ニ應ス、既ニシテ、使ヲ督府ノ軍門ニ遣シ、官軍ヲ迎ヘテ、以テ賊徒ヲ討セント請フ、是日、督府、山田顯義、(市之允、長門藩士)本田親雄、(彌右衛門、薩摩藩士)ヲ以テ海軍參謀ト爲シ、陸軍參謀ヲ兼

ネシメ、監察使府軍監岩村高俊ヲ督府軍監ト爲シ、徵兵（五番、十二番二隊、）及ヒ薩摩、安藝、長門、明石、福知山、高鍋六藩兵ヲ率ヰテ、海路ヨリ新發田ニ赴カシム、又小軍監三宮義胤、宮川長春、小監察片岡利和、芳野親義ヲ軍監ト爲シ、親兵（一番隊、）ヲ出雲崎驛ニ、足守三日月、小野、小松四藩兵ヲ關原驛ニ差遣ス。

○督府、飯山藩ニ命シテ、千曲川旁近（信越ノ界、）ヲ警守シ、行旅ヲ譏察セシム、尋テ關門ヲ桑名川村（信濃、）ニ設ク。

○是ヨリ先、攝津、丁卯二艦、能登七尾港ニ在リ、是日、柏崎港ニ至ル、汽船三隻（鶴保、大鵬、千別、三船、）モ亦至ル。

二十二日、督府、加賀、大聖寺、富山三藩ニ命シテ、軍需ヲ運輸セシム。

二十三日、軍務官副知事心得久我通久（大納言、）ヲ以テ、東北遊擊軍將ト爲シ、議定ノ事ヲ兼知シ、奥羽鎭撫總督九條道孝（左大臣、）等ト倶ニ、賊徒ヲ戡定セシメ、權判事船越衞、（洋之助、）池田種德、（德太郎〇二人竝ニ安藝藩士、）ヲ副參謀ト爲ス、尋テ衞、種德ヲ改テ、竝ニ參謀ト爲ス。

○總督、薩摩、安藝以下六藩ノ隊長等ヲ召シテ、軍令ヲ須ツ、是夜、參謀黑田淸隆、海軍參謀兼陸軍參謀山田顯義等、攝津、丁卯二艦、及ヒ汽船四隻ニ搭シテ、柏崎港ヲ發シ、新發田ニ赴ク。

○官軍、賊兵ヲ赤谷村ニ破ル。

第三　明治元年七月二十四日

七月二十四日、是ヨリ先、朝廷、松平茂昭（左近衞權少將、越前藩主、）ニ命シ、兵ヲ率ヰテ越後ニ赴カシム、（五月二十二日ニアリ、）適、茂昭、疾アリ、因リテ重臣本多某（興之輔、）ヲシテ、代リテ之ニ赴カシム、是日、某藩兵（百五十六人、）ヲ率ヰテ柏崎ニ至ル、督府、之ヲ出雲崎口ニ差遣ス。

○官軍、賊ト出雲崎驛以東、六十里越口ニ至ルノ諸處ニ相持スルコト、殆ト六旬、是ニ至リ、相議シ、將サニ明日ヲ以テ、海軍ト犄角シテ、賊巢ヲ進剿セントス、部署既ニ定ル、是夜、賊兵、路ヲ分テ宮下、福島、富島、川邊、石内等諸村ヲ襲ヒ、勝ニ乘シテ長岡城ニ薄ル、官軍、防戰利アラス、天明、城、遂ニ陷ル、參謀西園寺公望、軍ヲ收メテ關原驛、及ヒ妙見、大島、槇下、浦瀨等諸村ニ退守ス、賊又、與板口、出雲崎口、椽尾口等諸處ヲ侵ス、官軍、邀ヘ擊テ之ヲ卻ク。

第四　自明治元年七月二十五日至同二十八日

七月二十五日、督府、饋餉ノ費額ヲ定メテ、之ヲ各驛ニ布告ス。

○長岡ノ警報、柏崎本營ニ到ル、參謀壬生基修、副參謀楠田英世、兵ヲ獨ヰテ、直チニ關原驛ニ赴ク、時ニ諸軍四出シ、柏崎、

守ニ乏シク、人心叱々タリ、衆、本營ヲ高田ニ移サンコトヲ請フ、總督、肯セス、衆ヲ叱シテ死守セシム、衆、畏服シ、人心始メテ定マル。

○參謀黑田清隆等、松ケ崎驛ニ至ル、溝口直正、老臣ヲ遣シテ、之ヲ迎ヘ、功ヲ立テ以テ、犯順ノ罪ヲ贖ハントヲ請フ、因テ命シテ、嚮導ト爲ス、是ニ於テ、兵ヲ分チ、一ハ新發田ニ赴キ、一ハ新潟ニ向ヒ、一ハ神谷内村ニ進ム、直正モ亦兵ヲ發シテ、其封疆ヲ扼守ス。

○官軍、夜ニ乘シテ、賊兵ヲ赤谷村ニ擊ツ。

○攝津、丁卯二艦、新潟港ニ至ル、英國商舶二隻、港中ニ碇泊ス、因テ諭シテ、速ニ退去セシム、英人肯セス、辯論數回、始メテ命ヲ奉ス。

二十六日、諸軍中訛言百出、人々疑懼ヲ懷ク、督府、乃チ令ヲ下シテ、嚴ニ之ヲ戒飭ス。

○松ケ崎ノ官軍、賊兵ヲ本所村ニ改ム、賊兵支ヘス、新潟ニ走ル、官軍、追擊シテ沼垂驛ニ至リ、賊ト信濃川ヲ挾テ相持ス。

○新發田ノ官軍、書ヲ村上老臣ニ贈リテ、向背ヲ問ヒ、二十八日ヲ期シテ、之ニ答ヘシム、翌日、老臣廣瀬某隼太等、書ヲ上リ、城主内藤信民紀伊守、病篤ク、考臣皆出テ外ニ在ルヲ以テ、姑ク其期ヲ緩クセンコトヲ請フ。

○關原地方ノ官軍、妙見、大島、槇下、六日市等諸村ニ分據シ、長岡傍近ノ賊ト戰フ、是ヨリ交戰數日ニ亘ル。

○是夜、攝津艦、新潟港ニ至リ、新潟ノ賊ト戰フ、曉ニ至リテ交綏ス。

○賊兵、路ヲ分テ、土ケ谷、浦瀨、橡窪、龜崎、赤坂等諸村ヲ襲フ、官軍、防戰利アラス、明日、半藏金村ニ退守ス、森立峠、及ヒ荷頃、田之口等、諸村ノ官軍モ亦、退テ半藏金ヲ保ス。

○賊兵、村田村ヲ襲フ、官軍、擊テ之ヲ卻ク。

二十七日、北陸道鎭撫副總督四條隆平ヲ罷ム。柏崎縣知事ニ轉ス。

○諸軍、往々庶民ヲ虐使スルヲ以テ、督府、令シテ之ヲ戒飭ス。

○長岡ノ役、官軍多ク兵器ヲ喪フ、是日、督府、書ヲ加賀藩ニ致シテ、銃器彈藥ヲ供給セシム。

○新發田ノ官軍、新發田藩兵ヲ以テ、先鋒ト爲シ、賊兵ヲ水原、笹岡二驛ニ擊テ、之ヲ破ル。

○妙見ノ官軍、賊兵ヲ十日町村ニ擊ツ、半藏金ノ官軍、兵ヲ分テ妙見口ニ進ム。

○攝津艦、復タ新潟ノ賊ト戰フ、賊ノ砲彈其左舷ニ中リ、右舷ヲ洞ス、既ニシテ、丁卯艦來リ援ケ、砲戰夜半ニ至ル。

○賊兵、栗山澤村ヲ襲フ、官軍、撃テ之ヲ卻ク。

二十八日、新發田ノ官軍、兵ヲ分チ、新發田藩兵ヲ以テ先鋒ト爲シ、進テ米澤口ニ向フ、是日、加治驛ニ至ル、柳澤徳忠、彰太郎、三日市藩主、新發田藩兵ニ因リテ、罪ヲ謝シ降ヲ乞フ、乃チ命シテ、藩兵ヲ出シ、實效ヲ奏セシム。

○參謀壬生基修、關原驛ヲ發シ、柏崎驛ニ歸ル。北征日誌

○賊兵、村田村ヲ襲フ、官軍、邀ヘ撃テ之ヲ卻ク。

第五　明治元年七月二十九日

七月二十九日、參謀前原一誠ヲ罷ム、越後府判事ニ轉ス、尋テ督府、一誠ニ命シテ、本營ニ駐在セシム。

○妙見ノ官軍、曉ニ乘シテ、賊兵ヲ十日町、六日町等諸村ニ破リ、長驅シテ長岡城ニ薄ル、大島、槇下、川袋、半藏金等ノ官軍、亦齊シク進テ長岡ヲ衝キ、三面掩撃ス、賊兵、支ヘス、潰エ走ル、官軍、乃チ長岡城ヲ復シ、北クルヲ追テ、今町、橡尾二驛ニ至ル。

○沼垂ノ官軍、新潟ノ賊ト、信濃川ヲ挾テ相持スルコト數日、是日、昧爽、海軍ト犄角シテ、新潟ヲ衝撃ス、賊兵、潰エ走ル、官軍、遂ニ新潟ヲ定ム、是ヨリ先、荷蘭人スネル、新潟ニ在リテ、奥越ノ賊ニ通シ、兵器彈藥ヲ資給ス、是ニ至リ、窮困シテ哀ヲ乞フ、之ヲ放ツ。

○松ケ崎ノ官軍、夜ニ乘シテ、賊兵ヲ荻島村ニ破ル。

○是ヨリ先、朝廷、岩國藩ニ命シテ、兵ヲ越後ニ出サシム、是日、藩兵、柏崎驛ニ至ル、督府、之ヲ出雲崎及ヒ新潟ニ差遣ス。

○是ヨリ先、松平定敬越中、舊桑名藩主、津川驛ニ在リ、是ニ至リ、松平容保肥後、舊會津藩主、使ヲ遣シテ之ヲ招ク、定敬、乃チ若松ニ赴ク。泣血錄

是月、是ヨリ先、舊幕府及ヒ會津、桑名等ノ逋逃者、交來リテ新潟ヲ脅迫ス、舊新潟奉行田中光儀、廉太郎、力之ヲ制スル能ハス、因テ、本廳ノ事務ヲ米澤人ニ交付シテ去ル、既ニシテ、仙臺、會津、莊內、二本松人等、新潟ニ來會シ、米澤人ト共ニ廳務ヲ管ス、是ニ至リ、仙臺會津等ノ老臣、連署シテ書ヲ横濱駐在各國領事ニ贈リ、奥、羽、越諸藩聯合シテ、奸兇ヲ掃蕩スルヲ告ケ、又使ヲ江戸ニ遣シテ、舊幕府海軍ヲ招ク。海軍、遂ニ至ラス。

○是ヨリ先、舊幕府、米國ヨリ購買スル所ノ軍艦、横濱港ニ到ル、神奈川裁判所、將サニ之ヲ交收セントス、米國公使、固ク局外中立ヲ執テ、肯セス、是ニ至リ、仙臺、會津、米澤、莊內人等、新潟ニ會シテ、本艦ヲ交收センコトヲ謀リ、又新潟港ヲ開キテ、互市場ト爲シ、板倉勝靜伊賀、舊備中松山藩主、時ニ陸奥ニ在リ、姓名ヲ變シテ徳山四郎右衞門ト稱ス、陸奥ヨ

り迎ヘテ、以テ其事ヲ管セシメントス、新潟、敗ル、ニ及テ、其事遂ニ寢ム。

第六 自明治元年八月朔日至同二日

八月朔日、東北遊擊軍將久我通久京師ヲ發ス、安藝、因幡、小倉、佐土原四藩兵之ニ屬ス。

○溝口直正、參謀ニ就キテ本營ニ詣リ、罪ヲ謝センコトヲ請フ、之ヲ聽ス、是日、直正、本營ニ候シ、總督ニ謁ス、時ニ直正尚幼シ、老臣溝口某（半兵衞）代リテ藩情ヲ陳シ、王事ニ勤メンコトヲ請フ、總督之ヲ聽シ、且其速ニ歸順セシヲ賞ス、直正又請ヒテ營中ニ直ス。

○出雲崎口、與板口ノ賊、長岡及ヒ新潟ノ敗ヲ聞キ、皆守ヲ棄テ遁逃ス、官軍北クルヲ追テ彌彥、地藏等諸驛ニ至ル。

○長岡ノ官軍、進テ大面驛ニ至ル、新發田藩兵ノ賊中ニ在ル者、軍門ニ就テ降ヲ乞フ、乃チ其隊長溝口某（半兵衞）ニ合ス、見附驛ニ謹愼シテ、後命ヲ俟タシメ、明日、藩兵ヲ以テ先鋒ト爲シ、功ヲ立テ罪ヲ贖ハシム、是日、橡尾ノ官軍、進テ荏谷、文納、長澤等諸村ヲ取ル。

○早旦、保田ノ官軍、路ヲ分テ、賊兵ヲ赤坂山、及ヒ草水村ニ破ル。

○新潟ノ官軍、兵ヲ分テ大野、彌彥二驛ニ進ム、賊兵旣ニ遁逃ス。

二日、溝口直正旣ニ歸順シ、新ニ報効ヲ圖ル、乃チ督府ニ就キテ、藩兵ノ東京ニ在ル者ヲ罷歸センコトヲ請フ、是日、督府、書ヲ大總督府ニ致シテ、直正歸順ノ狀ヲ報シ、藩兵ヲ罷歸センコトヲ請フ。

○彌彥ノ官軍、進テ三根山ニ逼ル、牧野忠泰（伊勢守、三根山藩主、）寺院ニ屛居シ、書ヲ軍門ニ上リテ、犯順ノ罪ヲ謝ス。

○大面ノ官軍、進テ月岡村ニ至リ、賊兵ヲ大崎驛及ヒ田島村等ニ擊ツ、翌曉遂ニ之ヲ破ル、三條驛傍近ノ賊、風ヲ望テ皆遁ル、今町ノ官軍、進テ三條驛ニ入ル。

第七 自明治元年八月三日至同八日

八月三日、伊達慶邦（陸奧守、仙臺藩主、）上杉齊憲（彈正大弼、米澤藩主、）ノ官位ヲ褫キ、之ヲ討ス。

○督府、河田某（弘三、因幡藩士）ヲ以テ軍曹ト爲ス。

○督府、越前藩ニ命シテ、軍資金ヲ供給セシム。

○督府、牧野忠泰ヲ新潟ニ召シ、又其兵ヲ徵ス。

○椽尾ノ官軍、賊兵ヲ森町驛ニ破リ、進テ笹岡ニ至ル。
○柳澤光昭、（黑川藩主、光邦ノ父、伊勢守ト號ス、時ニ光邦京師ニアリ、）書ヲ督府ニ上リテ、犯順ノ罪ヲ謝ス。
四日、參謀壬生基修、柏崎驛ヲ發シ、新潟ニ赴ク、岩國藩兵之ニ從フ。（北征日誌 岩國藩記）
○水原及ヒ保田ノ官軍、進テ五泉驛ニ至リ、沼津藩兵ノ本驛ニ在ル者ヲ以テ先鋒ト爲シ、路ヲ分テ村松城ヲ攻ム、城主堀直賀（左京亮、）先遁ル、殘賊城ヲ火キテ津川驛ニ走ル、翌日、直賀ノ義叔父直弘、（直次郎、）臣隷ヲ率ヰテ軍門ニ詣リ、罪ヲ侍ツ、乃チ命シテ五泉驛ニ謹愼セシメ、其臣隷ヲ以テ沼越口先鋒ト爲ス、直賀、遂ニ米澤ニ走ル。
○大崎ノ官軍、路ヲ分テ賊兵ヲ柳澤、保內、福島、下條等諸村ニ破リ、進テ加茂ニ薄ル、賊要衝ヲ占據シ、鋭ヲ盡シテ抗拒ス、官軍力戰、翌曉ニ至リ、遂ニ擊テ之ヲ走ラス。
○米澤口官軍、兵ヲ分チ、一ハ本道ヨリ中條驛ニ進ミ、一ハ間道ヨリ坂井村ニ至ル、是日、賊兵坂井村ヲ侵ス、官軍、邀ヘ擊テ之ヲ破リ、追躡シテ鼓岡村ニ至ル。
○新潟ノ官軍、進テ新津驛ニ至ル、賊兵先遁ル。
五日、督府、長岡老臣稻垣某（平助、）ノ勤王ノ實蹟アルヲ以テ、命シテ長岡地方ノ民政ヲ掌ラシム。
○督府、足守、三日月二藩兵ニ命シテ、地藏堂驛ヲ鎭撫シ、補傳ヲ監守セシム。
○參謀西園寺公望、再ヒ長岡ニ至リ、參謀壬生基修新潟ニ至ル。（西園寺公望家記 溝口直正家記）
○森町ノ官軍、賊兵ヲ黑水村ニ破リ、進テ村松ニ至ル。
○是ヨリ先、保田ノ官軍、兵ヲ分テ五頭山ヲ守ル、是日、賊兵來リ襲フ、邀ヘ擊テ之ヲ卻ク。
六日、督府、牧野忠泰ノ降ヲ聽シ、新潟ニ謹愼シテ後命ヲ待タシメ、藩兵ニ新潟ヲ警守シム、尋テ藩兵ヲ莊內口ニ差遣ス。
○參謀壬生基修、進テ新發田ニ至ル。（溝口直正家記）
○諸路ノ官軍、村松、五泉、新發田等ニ會ス、是ニ於テ諸軍ヲ分チ、津川、米澤、村上、莊內等諸路ニ向フ。
○椽尾ノ官軍、兵ヲ分テ八十里越、六十里越二路ニ進ミ、殘賊ヲ追擊シテ、御側、吉ケ平、穴澤、大白川等諸村ニ至ル。
七日、村上口官軍、夜ニ乘シテ賊兵ヲ桃崎濱ニ擊ツ、賊兵潰エ走ル。
○賊兵、曉ニ乘シテ中條驛ヲ襲フ、官軍利アラス、三日市ニ退守ス。

八日、參謀西園寺公望、進テ見附驛ニ至ル。（西園寺公望家記）

第八　自明治元年八月九日　至同　十一日

八月九日、總督、將サニ新潟ニ赴カントス、因リテ溝口直正ヲ以テ嚮導ト爲シ、安藝藩兵ヲ從衛トス

○米澤口官軍、再ヒ兵ヲ分チ、本道間道ヨリ並進ム、是日、本道ノ軍中條驛ニ至ル、賊兵先遁ル、乃チ兵ヲ分テ黑川（柳澤光邦ノ治所、）ニ進ム、間道ノ軍ハ菅谷、鼓岡二村ニ至ル。

○參謀西園寺公望、進テ三條驛ニ至ル。（西園寺公望家記）

十日、是ヨリ先、大總督府、水戸藩ニ命シテ、其奸徒ノ越後ニ在ル者ヲ勦除セシム、是ニ至リ重臣山口正定（徳之進、）藩兵（七百人、）ヲ督シテ信濃ニ至リ、將サニ高田ニ赴カントス、督府、未タ其故ヲ知ラス、是日、植田某（宗平、高田藩士、）等ヲ遣シテ、之ヲ詰問セシメ、專ラ軍監三宮義胤ヲ遣シテ、之ヲ處分セシム、會マ土佐藩兵（六百三十三人、）朝命ヲ奉シテ赤塚驛ニ至ル、乃チ命シテ、高田ニ赴キ之ニ備ヘシム、既ニシテ松代藩重臣、大總督府ノ命ヲ奉シ、督府ニ詣テ、水戸藩出兵ノ故ヲ告ク、是ニ於テ、督府始メテ其事朝命ニ出ツルヲ知ル、因テ土佐藩兵ヲ更令シテ、速ニ新潟ニ赴カシム。

○督府、令シテ新發田ノ諸軍ヲ戒飭ス、又新發田藩ニ令シテ、供億ヲ節減セシム。

○赤坂、保田、五泉ノ官軍、路ヲ分チ間道ヨリ津川口ニ向フ、是日、赤坂、保田ノ官軍、曉ニ乘シテ、賊兵ヲ寶珠山、石間越ニ破リ、進テ小松、石間二村ニ薄ル、賊險ニ據テ力拒ス、官軍克スシテ退ク、五泉ノ官軍亦、賊兵ヲ陣ケ峰及ヒ佐取村ニ擊テ之ヲ破ル。

○米澤口本道ノ官軍、路ヲ分テ賊兵ヲ花立村、及ヒ荒川渡口ニ破ル、間道ノ軍亦、賊兵ヲ夏井、坪穴二村、及ヒ梨木峠ニ擊テ之ヲ破ル。

十一日、總督、柏崎驛ヲ發シ、新潟ニ赴ク、溝口直正嚮導タリ。

○村上口官軍、賊兵ヲ岩船驛ニ破リ、進テ村上城ヲ攻ム、中條ノ官軍モ亦來會ス、是ヨリ先、城主内藤信民病歿シ、（七月十六日ニ在リ、）其父信思（藤翁ト號ス、）岩村田（内藤正誠ノ治所、）ニ在リ、臣隷分レテ二黨ト爲ル、是ニ至リ、一黨ハ城ヲ火キテ莊内ニ走リ、一黨ハ出テ降ル、乃チ降者ヲ以テ、莊内口先鋒ト爲ス。

○津川口間道ノ官軍、再ヒ賊兵ヲ小松村ニ擊テ之ヲ破ル、賊兵走テ石間村ヲ保ツ。

○米澤口本道ノ官軍、賊兵ヲ貝附村ニ破リ、北クルヲ追テ上關驛ニ至ル、間道ノ軍亦來會ス、乃チ兵ヲ分テ鷹巢嶺ニ進ミ、榎

本嶺傍近ノ賊ト相持ス。

第九 自明治元年八月十二日 至同十五日

八月十二日、總督、三條驛ニ至ル。

○是ヨリ先、督府、親兵（一番隊）ニ命シテ出湯村ヲ守ラシム、兵士相和セス、守ヲ棄テ退ク、是日、督府、隊長林某（靜）、取締巣内某（四鬼武）以下ヲ譴メテ謹愼ヲ命ス、尋テ巣内某ノ取締ヲ罷メ、山本某（二郎）、飯田信弘（種彦）ヲ以テ之ニ代ヘ、首罪清水某（孫一郎）、生山某（鐵藏）ヲ斬ニ處シ、林某以下ノ謹愼ヲ釋シ、功ヲ立テ罪ヲ贖ハシム。

○督府、尾張藩兵ニ命シ、足守、三日月二藩兵ニ代リテ捕虜ヲ監守セシム、尋テ之ヲ會議所ニ交付セシム。

○參謀壬生基修、新發田病院ニ至リ、創痍者ヲ慰問シ、砂糖ヲ賜フ。

○昧爽、村松ノ官軍、路ヲ分テ賊兵ヲ田河内、小面谷、高石等諸村ニ破ル。

○早旦、米澤口官軍、路ヲ分テ、賊兵ヲ榎本嶺ニ破リ、北クルヲ追テ、沼、片貝二村ニ至ル。

○津川口間道ノ官軍、再ヒ賊兵ヲ石間村ニ攻ム、克タスシテ退ク。

十三日、督府、溝口直正ニ假ヲ賜ヒ、命シテ藩地ニ歸ラシメ、重臣ヲ留メテ嚮導ト爲ス。

○督府、柳澤德忠ヲ新潟ニ召ス。

十四日、督府、民政局ヲ雲浦村ニ置キ、稻葉某（左衞門、旗下士）、備ヲ以テ、假ニ民政掛ト爲ス。

○省府、賊徒信濃ニ出沒スルノ聞アルヲ以テ、軍曹河田某ニ命シ、加賀、彦根二藩兵ヲ率ヰテ之ニ赴カシム、又河原某（理助、松代藩士）ヲシテ橡尾驛ノ兵備ヲ督セシメ、與板藩兵ノ新潟ニ在ル者ヲ罷歸シテ、與板旁近ヲ警守セシム。

○松代藩、書ヲ上リテ、藩兵總括高野某（驥馬）ヲ罷歸センコトヲ請フ、是日、督府其請ヲ聽シ、某ヲ召見シテ、其軍勞ヲ慰賞ス。

○參謀西園寺公望、進テ新津驛ニ至ル。（西園寺公望家記）

○昧爽、津川口本道ノ官軍、路ヲ分テ賊兵ヲ榎平、及ヒ角石原、赤谷二村ニ破ル。

○賊兵、寶珠山石間越ヲ襲フ、官軍邀ヘ撃テ之ヲ卻ク。

十五日、督府、堀直弘、勤王ノ實蹟アルヲ以テ、其謹愼ヲ釋シ、村松ニ復歸シテ後命ヲ俟タシム。

○參謀西園寺公望、進テ村松ニ至ル。（西園寺公望家記）

○早旦、津川口本道ノ官軍、賊兵ヲ綱木、新谷二村ニ破ル、間道

ノ軍、亦進テ菅谷嶽ヲ奪フ。

第十 自明治元年八月十六日 至同二十五日

八月十六日、諸軍中往々鹵掠ヲ行フ者アリ、是日、督府、令シテ嚴ニ之ヲ禁シ、犯ス者ハ軍法ニ處ス。

○督府、秋田(佐竹義堯ノ治所)ノ官軍、勢甚タ急ナルヲ以テ、薩摩藩兵ヲ分テ、海路赴援セシム。

○參謀西園寺公望、再ヒ三條驛ニ至ル。(西園寺公望家記)

○津川口本道ノ官軍、曉ニ乘シテ、賊兵ヲ諏訪嶺ニ破リ、北クルヲ追テ角島村ニ至ル、賊、津川驛ニ據リ、阿賀川ヲ隔テ、官軍ヲ拒ム、官軍乃チ諏訪嶺及ヒ柳新田、大牧、京瀨等諸村ニ分據シ、之ト相持ス、石間村ノ賊、風ヲ望テ谷澤、三月澤等諸村ニ走ル、間道ノ官軍、進テ石間村ニ至ル。

十七日、水戸藩重臣山口正定、書ヲ督府ニ上リ、大總督府ノ命ヲ奉シテ、藩兵ヲ發セシ狀ヲ陳シ、官軍ニ加ヘンコトヲ請フ、之ヲ聽シ、命シテ速ニ奸徒ヲ勦除セシム。

○督府、高遠、田野口二藩兵ニ命シテ、小出島驛ヲ守ラシム。

○村上ノ官軍、兵ヲ分チ海道、山道ヨリ並進テ、庄内ニ向フ。

十八日、督府、本病院ヲ高田ニ設ケ、赤川玄櫟(長門藩醫)ヲ以テ頭取ト爲シ、外國醫師ヲ雇ヒテ、官軍ノ創痍者ヲ療ス、尋テ之ヲ柏崎驛ニ移ス。

○秋田藩、使ヲ督府ニ遣シテ、藩兵苦戰ノ狀ヲ報シ、應援ヲ乞フ、之ヲ聽シ、獎勵シテ遣歸ス。

○督府、五泉ノ農吉田某(延之助)ノ王事ニ勤メシヲ賞シテ、郷士ニ編ス。

○督府、長岡、三條間諸邑ノ兵燹ニ罹リシ者ヲ賑恤ス。

○津川口間道ノ官軍、賊兵ヲ五十島村ニ破リ、進テ川口、白崎等諸村ニ至リ、谷澤、赤岩等諸村ノ賊ト阿賀川ヲ挾テ相持ス。

十九日、總督、將サニ明日ヲ以テ、新發田ニ赴カントス、因リテ沿路各驛ニ令シテ、傳遞ヲ措辨セシム。

○奥羽鎭撫總督、書ヲ督府ニ致シテ、秋田地方賊勢猖獗ノ狀ヲ報シ、應援ヲ乞フ、是日、督府復書シテ、既ニ援兵ヲ發遣セシヲ告ク。

軍務官權判事松尾相永(但馬非藏人)、書ヲ督府ニ上リテ、其職ヲ解カンコトヲ請フ。

○米澤口官軍、曉ニ乘シテ、賊兵ヲ柳生戸越ニ攻メ、其數壘ヲ拔ク。

二十日、朝廷、外國醫師ヲ諸道ニ派遣シテ、官軍ノ創痍者ヲ療ス○總督、三條驛ヲ發シ、新發田ニ赴ク。

○是ヨリ先、官軍、舊桑名藩臣隷ノ家累ヲ加茂驛ニ禁錮ス、是日、督府之ヲ放免ス。

○津川口間道ノ官軍、賊兵ヲ板淵村ニ撃テ之ヲ殲ス。

二十一日、總督、新潟ニ至ル、柳澤光昭、柳澤徳忠奉迎ス。
○土坂藩兵、新發田ニ至ル、督府、之ヲ米澤口、及ヒ村上口ニ差遣ス。
○橡尾ノ官軍、兵ヲ分テ橡堀村ニ進ム、賊兵先遁ル。
○莊內口ノ賊、荒川村ヲ襲フ、官軍、撃テ之ヲ卻ク。
○津川口間道ノ官軍、賊兵ヲ沼越口、松嶺等ニ撃ツ、賊險ニ據テ抗拒ス、官軍乃チ退テ五十島村ニ據リ、之ト相持ス。
二十二日、總督、招魂所新潟ニ在リ、ニ蒞ミ、戰死者ヲ弔ス、是日、新潟ヲ發シ、新發田ニ至ル。
○是ヨリ先、軍務官判事吉井徳春、新發田ニ在リテ、父喪ニ服ス、是日、督府軍務煩劇ヲ以テ、起テ事ヲ視セシム。
二十三日、津川口間道ノ官軍、賊兵ヲ三月澤村ニ攻ム、克タスシテ退ク。
○莊內口山道ノ官軍、進テ中繼村ニ至ル、賊兵先遁ル、海道ノ軍モ亦碁石、大川等諸村ニ至ル、是夜、賊兵大川村ヲ襲ヒ之ヲ焚ク。
二十四日、督府、民政局ヲ新潟ニ置キ、海軍兼陸軍參謀本田親雄、及ヒ高須某梅三郎長門藩士、富樫某萬吉、新發田藩士、ヲ以テ、假ニ民政掛ト爲ス。
○督府、令シテ兵燹、若クハ水患ニ罹リシ者ハ、今年ノ田租蠲ク。

二十五日、津川口本道ノ官軍、津川驛ノ賊ト、阿賀川ヲ挾テ相持スルコト數日、是日、川ヲ渡テ賊壘ヲ衝撃ス、賊兵潰エ走ル、間道ノ軍亦賊兵ヲ三月澤、谷澤、赤岩等諸村ニ破リ、津川ニ來會ス。
○莊內口山道ノ官軍、兵ヲ分テ雷村口ニ進ミ、賊兵ヲ大鳥村ニ攻ム、翌曉ニ至テ、之ヲ破ル。

第十一 自明治元年八月二十六日 至同 晦日

八月二十六日、總督、參謀壬生基修等ヲ率ヰテ、山內村ヲ巡視ス。
○督府、新發田藩隊長溝口某半左衛門、ノ部下、先鋒ノ功アリシヲ以テ、特ニ其謹愼ヲ釋シ、命シテ益王事ニ勤メシム。
○遊撃軍將、柏崎驛ニ至ル。
○莊內口官軍、山道海道ヨリ並進テ、賊兵ヲ小俣、中濱、岩石等諸村ニ破リ、進テ鼠關驛、小名部村、高畑越等ニ薄ル、賊險ニ據テ力拒ス、官軍克タスシテ退ク、賊尾撃シテ、小俣、中濱二村ヲ火ク。
二十七日、督府、牧野忠泰ノ謹愼ヲ釋シ、之ヲ新發田本營ニ召ス。

○督府、王師征討ノ意ヲ庶民ニ諭告シ、諸軍中、若シ鹵掠ヲ行フ者アラハ、直ニ之ヲ緝捕セシム。

○津川口官軍、賊兵ヲ車嶺、及ヒ下野尻驛等ニ撃テ之ヲ破ル。

二十八日、副參謀楠田英世ヲ罷ム。

○督府、柳澤德忠ニ命シ、速ニ藩地ニ歸リテ、役夫ヲ下關口ニ出サシム。

○米澤口官軍、賊ト沼、片貝等諸村ニ相持スルコト十餘日、是日、上杉齊憲、其臣黑井某、小原太、齋藤篤信主計、等ヲ軍門ニ遣シテ、降ヲ乞フ、督府、乃チ命スルニ實効二事ヲ以テス、曰、齊憲若クハ子茂憲式部、親カラ本營ニ詣リ罪ヲ謝ス、限ルニ明月四日ヲ以テス、曰、亟ニ守境ノ士ヲ撤シ、城下ニ禁錮ス、某等謹テ命ヲ奉シテ去ル。

○津川口官軍、進テ片門驛及ヒ天屋、椿等諸村ニ至ル、賊舟渡氣多宮、柳津等諸村ニ分據シ、只見川ヲ隔テ官軍ヲ拒ム、官軍乃チ兵ヲ分テ西羽賀、夏井、川合、柴尻等諸村ニ據リ、之ト相持ス、是日、參謀西園寺公望、進テ天屋村ニ至ル。

○莊內口ノ賊、曉ニ乘シテ雷村口ヲ襲フ、官軍利アラス、既ニシテ撃テ之ヲ走ラス。

○是ヨリ先、朝廷、小倉藩兵二百八十人、ヲ越後ニ發遣ス、是日、三條驛ニ至ル。小笠原忠忱家記

二十九日、督府、藤村紫朗四郎、肥後藩士、時ニ越後ニ在リ、ヲ以テ軍監ト爲シ、津川口ニ差遣ス。

○遊撃軍將、柏崎驛ヲ發シ、新潟ニ至ル。

○津川口官軍、兵ヲ分テ芝崎村ニ進ミ、間道ヨリ若松ニ向フ、是日、賊兵ヲ石坂峠滑澤村ニ撃テ之ヲ破ル。

○是ヨリ先、朝廷、佐土原藩兵三隊、ヲ越後ニ發遣ス、是日、新潟ニ至ル。島津忠義家記

晦日、牧野忠恭本營ニ候シ、總督ニ謁シ、宥罪ノ恩ヲ謝ス。

是月、朝廷、彦根藩兵二小隊、ヲ越後ニ發遣ス。井伊直安家記

第十二　自明治元年九月朔日　至同　七日

九月朔日、督府、軍監岩村高俊ノ戰勞ヲ褒ス。

○遊撃軍將、新潟ヲ發シ、新發田ニ至リ、總督ニ謁ス。

○督府、小倉、佐土原二藩兵ニ令シテ、下關口ニ赴カシム、尋テ更令シテ、小倉藩兵ヲ津川、下關二路ニ、佐土原藩兵ヲ津川口ニ差遣ス。

○莊內口海道ノ官軍、再ヒ賊兵ヲ鼠關驛、及ヒ高畠越等ニ撃ツ、克タスシテ退ク。

○津川口官軍、兵ヲ分テ賊兵ヲ西方村ニ攻ム、賊兵潰エ走ル、官軍乃チ西方村ニ據リ、賊ト只見川ヲ挾テ相持ス。

○若松間道ノ官軍、賊兵ヲ江谷村ニ破ル、是日、賊兵滑澤村ニ遁ル。官軍撃テ之ヲ卻ク。

二日、督府、本營ヲ新發田ニ定ム。

○督府、深尾某（三九郎、土佐藩士）ヲ以テ參謀ト爲シ、小監察一見正則ヲ軍監ト爲シ、軍曹兼輜重器械方米山某（判兵衛）ヲ器械方總括ト爲ス、又薩摩藩隊長村田某（勇右衛門）ニ命シテ、軍務ニ參與セシム。

○若松間道ノ官軍、兵ヲ分チ、一ハ賊兵ヲ彌太郎石峠、陣ケ峯及ヒ平明、赤岩、萩野等諸村ニ撃ツ、津川口官軍、阿賀川ヲ隔テ之ヲ援ク、賊兵潰エ走ル、一ハ賊兵ヲ新町道、目中町、眞筒澤等諸村ニ破リ、北クルヲ追テ小綱木村ニ至ル。

○米澤口官軍、賊兵ヲ柳生戸越ニ破リ、北クルヲ追テ大峠ニ至ル。

○八十里越口官軍、進テ叶津村ニ至ル、六十里越口官軍モ亦來會ス。

三日、遊撃軍將新發田ヲ發シ、新潟ニ赴ク。

○上杉齊憲、城外ニ屏居シ、再ヒ其臣毛利業廣（上總）、小川某（源太郎）等ヲ軍門ニ遣シテ、謝罪ノ期ヲ緩クセンコトヲ請フ、督府乃チ其期ヲ更メテ本月七日ト爲ス、是日、業廣等本營ニ詣テ、齊憲ノ謝罪書ヲ上ル。

○四日、總督、上杉齊憲ノ家臣毛利業廣等ヲ延見シテ、征討ノ令ヲ傳ヘ、且齊憲ノ降ヲ聽シ、命シテ功ヲ立テ、罪ヲ贖ハシム。

○遊撃軍將、新潟ニ至ル。

○若松間道ノ官軍、路ヲ分テ賊兵ヲ館ノ原、廣野、木曾等諸村ニ撃ツ、津川口官軍、兵ヲ分テ來リ援ク、賊兵潰エ走ル、中反村ノ賊、亦風ヲ望テ遁逃ス。

五日、督府、軍監若村高俊ヲ以テ監察使ト爲シ、米澤ニ差遣ス。

○津川口官軍、舟渡、柳津等、諸村ノ賊ト只見川ヲ挾テ相持スルコト數日、是日、白川口官軍ノ若松ニ在ル者、兵ヲ分テ賊兵ヲ高久、塔寺等、諸驛ニ破リ、進テ舟渡村ノ賊背ヲ衝ク、賊兵支ヘス潰エ走ル、柳津村ノ賊亦風ヲ望テ遁逃ス、官軍乃チ進テ舟渡、久保二村ニ至リ、翌日、坂下驛及ヒ南字内、柳津、瀧谷等諸村ニ進ム、參謀西園寺公望モ亦塔寺驛ニ至ル。

七日、遊撃軍將、參謀船越衛ニ命シ、因幡、佐土原二藩兵ヲ率ヰテ、海路秋田ニ赴シム。

第十三　自明治元年九月八日　至同　十一日

九月八日、督府、諸軍中往々鹵掠ヲ行フ者アルヲ以テ、各藩隊長ニ令シテ、嚴ニ其部下ヲ戒飭セシメ、犯ス者ハ、隊長ヲ併セテ軍法ニ處ス。

九日、浮浪ノ徒、上信ノ間ニ出沒シ、越後ニ闖入セントスルノ聞アリ、是日、督府、松代、松本以下十一藩ニ令シ、兵ヲ發シテ之ヲ鎭セシメ、軍監藤村紫朗ヲ遣シテ、諸藩兵ヲ督セシム、尋テ紫朗松代ニ至ル、傍近隻賊ヲ見ス、因テ令シテ諸藩兵ヲ罷遣シ、藩地ノ兵備ヲ嚴整シテ、不時ノ徵發ニ供セシム。

十日、津川口官軍、進テ若松ニ至ル、是ヨリ先、白川、平潟兩道ノ官軍、若松城ヲ圍ミ、其東北ノ外郭ヲ奪フ、既ニシテ藤原口官軍モ亦來會ス、城外ノ賊、高田、北方二驛ニ分據シ、城內ト犄角シテ、以テ官軍ヲ拒ム、是ニ至リ津川口官軍、城ノ東北ニ陣シ、三道ノ軍ト合シ、以テ城內ノ賊ニ當ル。

○早旦、若松間道ノ官軍、路ヲ分テ賊兵ヲ荒町、舟岡、小布瀨原、慶德等諸村ニ擊ツ、津川口官軍、兵ヲ分チ、賊ヲ山崎村ニ破リテ來リ援ク、賊兵潰エ走ル、官軍、北クルヲ追テ、小荒井驛ニ至ル。

十一日、督府、大村某（吉右衞門、貫籍不詳、）ヲ以テ參謀ト爲シ、西郷從道（愼吾、薩摩藩士、）ヲ軍監ト爲シ、竝ニ秋田口ニ差遣シ、白井某（良三郎、貫籍不詳、）ヲ軍監ト爲ス。

○上杉齊憲疾アリ、其子茂憲ヲシテ、代リテ督府ニ詣リ、罪ヲ謝セシム、茂憲乃チ新發田ニ至リ、書ヲ督府ニ上テ、罪ヲ謝シ、征討先鋒タランコトヲ請フ、是日、總督、茂憲ヲ召見シテ、其請ヲ聽シ、命シテ速ニ賊徒ヲ追討セシム、尋テ藩兵ヲ以テ、會津征討先鋒ト爲ス。

○是ヨリ先、督府、松代藩兵ニ命シテ、長岡降人ノ小千谷驛ニ在ル者ヲ監守セシム、是日、令シテ之ヲ長岡民政局ニ交付セシム。

○澤宣種、（主水正、）時ニ奥羽追討副總督澤爲量ノ營中ニ來寓ス、出羽ヨリ新潟ニ至リ、遊擊軍將ニ會シ、軍事ヲ議ス、既ニシテ出羽ニ歸ル。

○莊內口山道ノ官軍、兵ヲ分チ、一ハ山ヲ遶リテ關川、雷二村ノ賊背ニ出テ、吶喊シテ薄擊ス、賊兵潰エ走ル、一ハ小名部口ニ進ム、賊嶮ニ據テ固守ス、官軍戰ハスシテ退ク。

○若松間道ノ官軍、賊兵ヲ熊倉村ニ攻ム、利アラスシテ退ク、賊兵、尾擊甚タ急ナリ、官軍、力戰シテ之ヲ走ラス。

○八十里越口官軍、進テ喰丸峠ニ至ル、賊兵來リ侵ス、邀ヘ擊テ之ヲ破リ、翌日、進テ下谷ケ池村ニ至ル。

第十四 自明治元年九月十二日 至同 十五日

九月十二日、諸路ノ官軍、既ニ若松ニ會ス、是ニ於テ參謀諸軍ヲ部署シ、明日ヲ以テ若松城ヲ攻メントス、期ニ至リ、雨ヲ以テ果サス、爲ニ一日ヲ延フ。

○莊内口山道ノ官軍、曉ニ乘シテ、賊兵ヲ小俣村ニ撃ツ、克タスシテ退ク。

○米澤口官軍、進テ米澤ニ至ル。

○莊内口ノ賊、曉ニ乘シテ關川村ヲ襲フ、官軍邀ヘ撃テ之ヲ卻ク。

十三日、總督、輕裝シテ新發田ヲ發シ、津川驛ニ至リ、諸軍ヲ犒フ、參謀壬生基修等之ニ從フ。

○初メ官軍ノ米澤ニ至ルヤ、將サニ轉シテ莊内ニ赴カントス、是ニ至リ、白川口參謀書ヲ致シテ、若松賊勢猖獗ノ狀ヲ報シ、速ニ來リ援ケンコトヲ乞フ、是ニ於テ、兵ヲ分チ、一ハ米澤ニ留戍シ、一ハ若松ニ赴ク、米澤藩兵之レカ先鋒タリ。

○村上藩重臣鳥居某、杢左衞門、森田某謙藏、等、書ヲ督府ニ上リテ、本藩犯順ノ情狀ヲ陳シ、内藤信思ヲシテ、再ヒ承カシメンコトヲ請フ。

十四日、朝廷、毛布ヲ出征兵士ニ賜フ。

○總督、津川驛ヲ發シ、下野尻村ニ抵ル。

○諸路ノ官軍、大擧シテ若松城ヲ攻ム、津川口官軍ハ、飯寺村ニ陣シ、以テ高田ノ賊ニ當リ、白川、平潟、藤原三道ノ軍ハ、城ノ東北西ニ向ヒ、三面齊シク薄撃ス、賊兵、各處出拒ク、官軍力戰シテ、諏訪社ノ賊ヲ破リ、其砲臺ヲ奪フ、西南諸門ノ賊、風ヲ望テ潰走ス、官軍、終ニ西南ノ外郭ヲ奪フ、是ヨリ戰爭殆ト虛日ナシ。

○八十里越口官軍、兵ヲ分チ、一ハ賊兵ヲ觀音寺村ニ破リ、追撃シテ沼ノ平村ニ至ル、一ハ賊ト針生峠ニ戰フ、利アラス、入小屋村ニ退守ス。

十五日、總督、下野尻村ヲ發シ、氣多宮村ニ抵ル、尋テ塔寺驛ニ進ム、諸軍大ニ振フ。

○督府、民政局ヲ各公邑ニ置ク、因テ越後府知事四條隆平ニ牒シテ、各公邑ノ石高、戸口等ヲ、各民政局及ヒ本營ニ報告セシム。

○若松城内ノ賊、日光口ヲ往來シ、高田ノ賊ト互ニ聲息ヲ通

ス、是日、若松ノ官軍、兵ヲ分テ賊兵ヲ青木村ニ攻ム、飯寺村ノ官軍、一ノ堰村等ノ賊ヲ撃チ、之ヲ援ク、賊兵殊死シテ戰フ、官軍利アラスシテ退ク、時ニ城内ノ賊出テ、其歸路ヲ遮リ、高田ノ賊、亦來テ飯寺ノ軍ヲ横撃ス、官軍三面敵ヲ受ケ、戰甚タ苦ム、既ニシテ後軍來リ援ケ、合撃シテ之ヲ走ラス。

○米澤ノ官軍、進テ熊倉、鹽川二驛ニ至ル、賊風ヲ望テ先遁ル。

○八十里越口官軍、賊兵ヲ人倉村ニ撃テ之ヲ破ル。

第十五　自明治元年九月十六日 至同　十九日

九月十六日、督府、上杉茂憲ヲ以テ、莊内征討先鋒ト爲ス。

○八十里越口官軍、路ヲ分テ、賊兵ヲ赤館山、永井野村等ニ撃ツ、利アラス、藤江、沼ノ平二村ニ退守ス、賊勝ニ乘シテ來リ侵ス、邀ヘ撃テ之ヲ走ラス。

○米澤ノ官軍、進テ若松ニ至ル。

○若松間道ノ官軍、轉シテ塔寺、坂下二驛及ヒ新屋敷村等ニ進ミ、津川口官軍ト相合ス。

○莊内口ノ賊、關口、尾越戸二村ヲ襲フ、官軍邀ヘ撃テ之ヲ破リ、北クルヲ追テ白斑山ニ至ル。

十七日、若松ノ官軍、再ヒ賊兵ヲ青木、一ノ堰、小山等諸村ニ撃ツ、賊兵敗走ス、是ニ於テ、若松城ノ圍四合シ、城内高田ノ通路全ク絶ユ。

十八日、米澤ノ官軍、進テ莊内、淸川口ニ向フ、米澤藩兵嚮導タリ、上杉茂憲モ亦、兵ヲ率ヰテ莊内六十里越口ニ向フ、是ヨリ先、松平信庸、(伊豆守上山藩主、)白川口總督ノ軍門ニ降ル、是日、更ニ書ヲ淸川口官軍ニ上リテ、犯順ノ罪ヲ謝ス。

○堀直賀、米澤藩ニ因リテ、書ヲ督府ニ上リ、罪ヲ謝シ降ヲ乞フ、(時ニ直賀米澤ニ在リ、)督府、之ニ謹愼ヲ命ス、直賀ノ義叔父直弘、及ヒ其臣隷モ亦書ヲ上リテ、直賀、奸臣ノ詿誤スル所ト爲リ、王師ニ抗セシ情狀ヲ申シ、哀ヲ乞フ。

○津川、八十里越二路ノ官軍、賊兵ヲ雀林寺崎、堺野、赤留、八木澤等諸村、及ヒ高田驛ニ撃テ之ヲ破ル。

十九日、淸川口官軍、進テ上山城ニ入リ、藩兵ヲ以テ莊内征討先鋒ト爲シ、功ヲ立テ罪ヲ贖ハシム、是ヨリ先、山形藩留守ノ老臣水野某(三郎右衛門)等、白川口總督ノ軍門ニ降ル、是日、更ニ書ヲ淸川口官軍ニ上リテ、犯順ノ罪ヲ謝ス。(時ニ藩主水野忠弘、東京ニ在リ。)

○八十里越口官軍、賊兵ヲ濱野村ニ撃テ之ヲ破ル。

第十六 自明治元年九月二十日 至同二十二日

九月二十日、諸路ノ官軍、若松城ヲ圍ムコト三旬、城中力竭ク、是ニ於テ、松平容保、其臣手代木勝任、直右衛門、秋月胤永、悌次郎、等ヲ遣シ、米澤藩兵ニ因テ降ヲ乞フ、乃チ容保父子ニ命シ、二十二日ヲ期シ、親カラ軍門ニ詣テ、降禮ヲ執ラシム。

○清川口官軍、賊兵ヲ寒河江、白岩等諸村ニ撃ツ、上杉茂憲モ亦來會ス、賊兵敗レ走ル、官軍、追躡シテ宮内村ニ至ル。

○莊内口山道ノ官軍、賊兵ヲ越澤村ニ破ル、是日、賊兵、關川村ヲ侵ス、官軍、邀ヘ撃テ之ヲ卻ク。

二十一日、總督、塔寺驛ヲ發シ、新發田ニ歸ル。

○督府申ネテ出征諸藩ニ令シテ、戰死傷者及ヒ兵員屯所等ヲ録申セシム。

○督府、山形藩兵ヲ以テ、莊内征討先鋒ト爲シ、功ヲ立テ罪ヲ贖ハシム。

○松平容保、降ヲ乞フヲ以テ、參謀、若松ノ諸軍ニ令シテ、其攻撃ヲ止ム。

○八十里越口官軍、賊兵ト吉風村ニ戰フ、是夜、賊兵山口村ヲ侵ス、官軍、邀ヘ撃テ之ヲ破ル。

二十二日、官軍、會議所ヲ若松ニ設ク。

○松平容保及ヒ其子喜德、城ヲ致シテ軍門ニ降ル、其臣萱野長修、權兵衛、梶原景武、平馬、等モ亦、書ヲ上リテ罪ヲ待ツ、官軍、乃チ其降ヲ受ケ、容保父子ヲ城外妙國寺ニ幽シ、其兵器ヲ收メ、翌日其臣隷、四千四百餘人、及ヒ舊幕府諸藩逋逃兵、四百六十餘人、ヲ猪苗代、鹽川二驛ニ禁錮シ、病者ヲ青木村ニ移ス、遂テ其城地ヲ收ム。

○是ヨリ先、織田信敬、兵部大輔、天童藩主、白川口總督ノ軍門ニ降ル、是ニ至リ、更ニ書ヲ清川口官軍ニ上リテ、犯順ノ罪ヲ謝ス、是日、督府、藩兵ヲ以テ、莊内征討先鋒ト爲ス。

第十七 自明治元年九月二十三日 至同二十六日

九月二十三日、松平容保既ニ降ル、而シテ殘賊、猶若松傍近ニ屯據ス、是日、參謀若松ノ諸軍ヲ督促シテ、其守備ヲ嚴ニセシム。

○清川口官軍、進テ清水驛ニ至ル、酒井忠篤、左衞門尉、莊內藩主、其臣武藤某、善藏、吉野某、遠江、等ヲ軍門ニ遣シ、米澤藩兵ニ因テ書ヲ上リ、降ヲ乞フ、乃チ命シテ、二十六日ヲ限リ、守境ノ兵ヲ撤シ、其翌日ヲ以テ城ヲ致シ、親カラ軍門ニ詣テ罪ヲ謝セシム、是日、上杉茂憲、進テ志津驛ニ至ル、督府、令シテ假ニ其進軍ヲ止ム。

○若松地方ノ殘賊、曉ニ乘シテ入小屋、大橋、山口等諸村ヲ襲

フ、官軍利アラス、翌日、瀧原、川口二村ニ退守ス。
二十四日、總督、新發田ニ歸ル。
○遊擊軍將、再ヒ新發田ニ至リ、總督ニ會シ、軍事ヲ議ス。
○督府、松代、松本以下八藩兵ニ令シテ、八十里越口ヲ警守シ、田島驛傍近ノ殘賊ニ備ヘシム。
○若松地方ノ殘賊、曉ニ乘シテ大蘆村ヲ襲フ、官軍利アラス、既ニシテ擊テ之ヲ走ラス。
二十五日、督府、松平容保既ニ降ルヲ以テ、越前、新發田二藩兵ヲ留メテ、若松城及ヒ塔寺、野澤、津川三驛ヲ警守セシメ、漸次、津川、八十里越、六十里越三路ノ軍ヲ、新發田及ヒ保田驛ニ班ス。
○遊擊軍將、新發田ヲ發シ、村上口ニ赴ク。
○參謀西園寺公望、若松ニ至リ、城中ヲ檢ス、尋テ新發田ニ歸ル。
○若松地方ノ殘賊、鳥居峠ヲ侵ス、官軍、邀ヘ擊テ之ヲ破ル。
二十六日、遊擊軍將村上ニ至ル、是日、伊藤某（傳之助、長門藩士）、右松某（十郎、薩摩藩士）ヲ以テ參謀ト爲シ、監察兼使番藤村某（綠平、長門藩士）ヲ參謀補助ト爲ス。（監察兼使番故ノ如シ。）
○淸川口官軍、進テ古口驛ニ至ル、酒井忠良（紀伊守、松山藩主）城外ニ屛居シ、其臣栂野某（八右衛門）等ヲ軍門ニ遣シテ、書ヲ上リ、降ヲ乞フ、明日、秋田口官軍、進テ松山ニ入リ、城地及ヒ兵器ヲ收ム、尋テ忠良ニ命シテ、兵器ヲ新發田本營ニ運輸セシム。
○若松地方ノ殘賊、大内村及ヒ田島驛ニ屯集ス、若松ノ官軍、乃チ兵ヲ分テ之ニ向フ、是日、大内村ノ賊降ヲ乞フ、因テ其兵器ヲ收メ、之ヲ鹽川驛ニ禁錮ス。

第十八　自明治元年九月二十七日　至同　二十九日

九月二十七日、是ヨリ先、鎭將府、督府ニ牒シテ、假ニ會津ノ民政、及ヒ鎭撫等ノ事ヲ管理セシム、是日、督府、復書シテ、其區處ノ梗概ヲ報シ、且警備兵ヲ發遣センコトヲ請フ。
○淸川口官軍、進テ鶴岡ニ至ル、秋田口官軍モ亦來會ス、酒井忠篤、城ヲ致シテ軍門ニ出降ル、因テ其城邑ヲ收メ、忠篤ヲ城外善龍寺ニ幽シ、臣隸ヲ其家ニ禁錮ス、舊幕府、及ヒ諸藩逋逃兵ノ鶴岡、酒田ニ在ル者モ亦降ル、明日、忠篤ノ兵器ヲ收メ、命シテ新發田本營ニ運輸セシム、是ヨリ先、岩城隆邦（左京大夫、龜田藩主）遁レテ莊内ニ在リ、是日、書ヲ軍門ニ上テ、罪ヲ謝シ、降ヲ乞フ。
○牧野忠泰、書ヲ督府ニ上リテ、宗家牧野忠訓、奸臣ノ詿誤スル所ト爲リ、王師ニ抗セシ情狀ヲ申シ、哀ヲ乞フ。

二十八日、督府、各民政局ニ令シ、儲金ヲ出シテ軍費ニ供セシム。

○督府、水戸、越前二藩兵ニ令シテ、松平容保父子ヲ監守シ、且若松ヲ警守セシム、尋テ水戸藩兵ノ容保父子監守ヲ罷ム。

○莊内口山道ノ官軍、進テ鶴岡ニ至ル、明日海道ノ軍、及ヒ上杉茂憲モ亦至ル。

二十九日、督府、村田某（巳三郎、越前藩士）ニ命シテ、假リニ會津ノ土民ヲ安撫セシム。

○督府、松平容保既ニ降ルヲ以テ、出役ノ前後ヲ照シ、順次、諸藩兵ヲ班サントス、因テ諸藩ニ令シテ、兵員、屯所及ヒ出役月日等ヲ錄申セシム。

○督府、酒井忠篤既ニ降ルヲ以テ、漸次鶴岡ノ諸軍ヲ新發田、及ヒ村上ニ班シ、山形、上山、天童三藩兵ヲ藩地ニ罷遣ス、又上杉茂憲ヲ罷歸シテ、四隣ノ殘賊ヲ鎭撫セシム。

○八十里越口官軍、進テ田島驛ニ向フ、是日、田島ノ賊、降ヲ乞フ、因テ其兵器ヲ收ム。

第十九 自明治元年十月朔日 至同 十四日

十月朔日、奥羽越平定ニ就クヲ以テ、督府、諸軍ヲ慰勞シ、令シテ之ヲ班シ、（九日ヨリ漸次途ニ上リ、十四日ニ至テ悉ク終ル）、加賀、薩摩、長門（以上、各六小隊）、越前（六小隊）、高田（四小隊）、小倉（三百五十餘人）、大聖寺、富山、新發田（以上、各四小隊）、九藩兵ヲ留メテ、村上、長岡、水原、三條、加茂及ヒ若松、坂下、野尻等ヲ警守セシム、尋テ凱旋諸藩ニ令シテ、毎藩一人ヲ本營會議所ニ留メシメ、蒲生某（忠藏、貫籍不詳）ヲ以テ參謀ト爲シ、越後ニ駐在セシム。

三日、遊擊軍將、鶴岡城ニ入ル。

四日、督府、加賀、松代二藩ニ令シテ、會津民政方ヲ撰擧セシム、尋テ加賀藩士宇野某、（大助）石黑某、（新之丞）松代藩士馬場某、（貫人）高野某（右金吾）ヲ以テ民政方ト爲ス。

五日、東北既ニ平クヲ以テ、遊擊軍將府、令シテ其兵ヲ班ス、是日、軍將鶴岡城ヲ發シ、東京ニ凱旋ス。

○遊擊軍將府、岩城隆邦ニ命シテ、藩地ニ謹愼シ、朝裁ヲ俟タシム。（時ニ隆邦、仍ホ莊内ニ在リ。）

六日、督府、上杉齊憲ニ命シテ、假ニ舊封ノ地ヲ管シ、土民ヲ安撫セシメ、酒井忠篤ヲ新發田ニ召ス。

○牧野忠訓、米澤藩ニ因テ、書ヲ督府ニ上リ、罪ヲ謝シ降ヲ乞フ、（時ニ忠訓、米澤ニ在リ）督府、之ニ謹愼ヲ命シ、米澤藩ヲシテ其臣隸ヲ保管セシム。

九日、督府、上杉齊憲ニ命シテ、東京ニ至ラシム、（十一月ヲ限ル）尋テ大

總督府モ亦、齊憲及ヒ其子茂憲ヲ召ス。

十日、督府、溝口直正、堀直弘、井伊直安、牧野忠泰、柳澤德忠、堀之美ニ命シテ、東京ニ至ラシム。（直弘ニ十一月ヲ限ル。）

十三日、督府、牧野忠訓ニ命シテ、東京ニ至リ、謹愼シテ朝裁ヲ俟タシメ、其父忠恭（前備前守、雪堂ト號ス、時ニ米澤ニ在リ）、及ヒ其臣隸ハ、藩地ニ謹愼セシム。

○督府、戰死者ヲ新發田城ニ祭ル。

十四日、酒井忠篤、新發田ニ至リ、書ヲ督府ニ上リテ、謝罪ノ効績ヲ奏センコトヲ請フ、是日、督府、忠篤ニ命シテ、東京ニ至リ、謹愼シテ朝裁ヲ待タシム、尋テ其支族酒井忠良モ亦、之ノ如シ。

第二十　（自明治元年十月十五日　至同十一月四日）

十月十五日、總督、參謀壬生基修等ヲ率ヰテ新發田ヲ發シ、東京ニ凱旋ス、參謀西園寺公望ヲ留メテ、各所ノ戍兵ヲ督セシメ、越後府ヲシテ假ニ會津ノ民政ヲ管セシム。

十六日、遊擊軍將八島田驛（陸奥）ニ抵ル、是日、織田信敏ニ命シテ、東京ニ至リ、謹愼シテ朝裁ヲ待タシム。

十八日、督府、村田某（三郎）ニ命シテ、會津ノ民政ヲ總管シ、戍兵參謀ヲ兼シム、尋テ之ヲ罷ム。

十九日、督府、堀直賀ヲ、其義叔父直弘ニ付シテ、本藩ニ謹愼セシメ、其臣隸ハ、直弘ヲシテ之ヲ處分セシム。

○遊擊軍將、福島（板倉勝尚ノ治所）ニ抵ル、是日、松平信庸ニ命シテ、東京ニ至リ、謹愼シテ朝裁ヲ待タシム。

二十日、内藤信思、書ヲ督府ニ上テ、本藩犯順ノ罪ヲ謝シ、功ヲ立テ自ラ贖ハンコトヲ請フ、（時ニ信思仍ホ岩村田ニ在リ）是日、督府、信思ニ命シテ、東京ニ至リ、謹愼シテ朝裁ヲ俟タシム、尋テ其臣脇田某（藏人）以下十六人ヲ、藩地ニ禁錮ス。

二十七日、總督、追分驛（信濃）ニ抵ル、是日、親兵（二番隊）、徵兵（一番、五番隊）ノ從衛ヲ罷メ、軍監岩村高俊、藤村紫朗ヲシテ之ヲ督シ、京師ニ赴カシム。

二十八日、參謀西園寺公望ヲ罷ム。（新潟府知事ニ轉ス。）

○督府、岩城隆邦ニ命シテ、東京ニ至リ、謹愼シテ朝裁ヲ待タシム。

十一月二日、東北遊擊軍將久我通久、東京ニ凱旋ス、天皇、延見シテ物ヲ賜ヒ、之ヲ慰賞ス、參謀池田種德以下、賞賜差アリ、尋テ部下諸藩兵、京師ニ凱至ス、勅シテ之ヲ慰勞ス。

四日、總督嘉彰親王、凱ヲ東京城ニ奏シ、錦旗ヲ奉還ス、天皇手

詔シテ、其成功ヲ賞シ、物ヲ賜フ、參謀壬生基修、軍務官判事吉井德春、以下賞賜差アリ、親兵、徵兵及ヒ諸藩兵モ亦、前後東京及ヒ京師ニ凱至ス、勅シテ之ヲ慰勞ス。

蝦夷戰記

第一

自明治元年十月十九日
至同　晦日

明治元年十月十九日、是ヨリ先、榎本武揚、和泉○舊幕府海軍副總裁、徳川氏ノ諸艦ヲ督シテ品川海ニ在リ、密ニ蝦夷地ニ據リテ、徳川氏ノ業ヲ復センコトヲ圖リ、松平正親太郎○舊幕府陸軍奉行、等ト、船艦八隻ヲ奪フテ、仙臺海ニ走ル、伊達慶邦陸奥○仙臺藩主、ノ歸順スルニ及テ、平潟口總督府、慶邦ニ命シテ武揚等ヲ招降セシム、從ハス、松平定敬、越中○舊桑名藩主、板倉勝靜、伊賀○舊備中松山藩主、其子勝全、萬之助、小笠原長行、壹岐○唐津藩主長國ノ子、及ヒ竹中重固、丹後○舊幕府陸軍奉行、大鳥純彰圭介○舊幕府歩兵奉行、以下ノ諸敗兵、會津ヨリ來リ、仙臺、會津逋竄ノ徒ト、武揚等ノ艦ニ投ス、是ニ至リ、武揚等二千五百許人、開陽、回天、蟠龍、神速、長鯨、大江、鳳凰七艦ニ駕シテ蝦夷ニ向フ、報箱館府時ニ五稜郭ヲ以テ府廳ト爲ス、ニ達ス、時ニ箱館ノ守備府兵、及ヒ松前藩戍兵數百人ニ過キス、知事清水谷公考侍從、乃チ使ヲ弘前藩ニ遣シテ、援兵ヲ召ス、是日、弘前藩兵四小隊、至ル、公考命シテ谷地頭、及ヒ尻澤邊ヲ警守セシム。

二十日、榎本武揚等、南蝦夷鷲木箱館ヲ距ル十二里三町、ニ入リ、兵ヲ分テ五稜郭、及ヒ箱館ニ向フ、知事清水谷公考、府兵及ヒ弘前、松前二藩兵ヲ出シテ之ヲ拒ク、適、奥羽鎭撫總督府、福山、六百九十六人、大野百七十一人、二藩兵ヲ發シテ來リ援フ、公考乃チ其兵ヲ分テ、辨天崎、尻澤邊、谷地頭等、諸處ヲ警守セシム。

二十一日、松前藩、箱館ノ警ヲ聞キ、兵五十人、ヲ發シテ來リ援フ、知事清水谷公考命シテ、有川村ヲ守ラシム。

二十二日、賊兵、進テ峠下村ニ至ル、是夜、府兵及ヒ弘前、松前二藩兵、路ヲ分テ賊營ヲ撃ツ、賊兵拒キ戰フ、官軍利アラス、城山郷及ヒ七重村ニ退守ス。

二十三日、賊兵、城山郷ヲ襲フ、官軍利アラス、大川村ニ退守ス、七重村ノ軍モ亦、退テ大川ノ軍ニ合ス、知事清水谷公考、乃チ福山、大野二藩兵ヲ大野村ニ遣シテ、之ニ應援セシメ、權判事堀義彥眞五郎○長門藩士、ヲシテ、七重口ノ軍ヲ監シ、福山藩隊長岡田某伊右衛門、ヲシテ、大野口ノ軍ヲ監シ、兩道並進テ賊ヲ討セシム。

二十四日、知事清水谷公考、書ヲ津輕承昭越中守○弘前藩主、ニ贈リテ、官軍寡單、賊ヲ支ヘ難キヲ報シ、更ニ援兵ヲ召ス。

○官軍、更ニ七重、大野兩路ヨリ進剿セントス、乃チ部署ヲ定メ、府兵及福山、弘前二藩兵ハ、七重口ニ向ヒ、福山、弘前、大野、松前四藩兵ハ、大野口ニ向フ、早川、大野口ノ軍將ニ發セントス、賊兵來リ使スニ會ス、大ニ村中ニ戰フ、官軍利アラス、五稜郭及ヒ箱館ニ退守ス、七重口ノ軍、分道進討、賊ト七重村ニ戰フ、賊卻キ走ル、官軍之ニ乘ス、既ニシテ賊兵返鬪シ、其鋒甚鋭シ、官軍爲ニ破レ、退テ五稜郭ヲ保ス。

二十五日、官軍、連戰利アラス、賊、進テ五稜廓ニ逼ル、知事清水谷公考、海ニ航シテ青森（陸奥津軽郡）ニ走ル、府兵及ヒ福山、弘前以下四藩兵、之ニ從フ、賊、遂ニ五稜郭、及ヒ箱館ヲ取ル。

二十六日、知事清水谷公考、權判事堀義彦ヲ東京ニ遣シテ、箱館恢復ノ策ヲ陳シ、軍艦、及ヒ精兵ヲ發遣センコトヲ請フ。

二十七日、松前藩第二軍、（二小隊、）一渡村ニ至ル、箱館ノ官軍、青森ニ走ルト聞キ、退テ福島村ニ次ス。

○秋田藩ノ汽船、（高尾號、）將ニ兵庫港ニ航セントシ、箱館港ニ入ル、賊之ヲ奪ヒ船客二人ヲ幽ス。（後二人ヲ放還ス。）

二十八日、賊既ニ五稜郭、及ヒ箱館ヲ畧取シ、又兵ヲ分テ松前ニ向フ、松前德廣、（志摩守○松前藩主食封三萬石、）福山城ヲ去テ、館村ノ新砦（福山城ヲ距ル三十餘里、）ニ居リ、書ヲ津輕承昭ニ贈リテ、救援ヲ乞フ。

三十日、箱館ノ警報、東京ニ達ス、乃チ津、（二百四十七人、）備前、（五百六十六人、）筑後（二百二十八人、）三藩兵ヲ箱館ニ發遣シ、八戸藩ヲシテ、糧餉ヲ辨給セシム。

是月、野田啓通（大道○肥後藩士、時ニ箱館府ニ出仕シ、青森ニ在リ、）ヲ以テ、軍事參謀試補ト爲ス。

第二　自明治元年十一月朔日　至同　二十五日

十一月朔日、知事清水谷公考、移テ浪岡驛（陸奥津軽郡、）ニ居リ、諸藩兵ヲ分テ、青森、及高田、油川、新城等諸村ヲ守ラシム、弘前藩モ亦兵ヲ封内海岸ニ置キテ、賊兵ニ備フ、尋テ公考、黒石（津輕承叙ノ治所、）ニ移ル。

○賊艦一隻（蟠龍艦、）福山港ニ入リ、福山城ヲ砲撃ス、松前藩兵、砲墩ニ據テ拒戰ス、賊艦、少ク毀損ス、遂ニ白神洋ニ走リ、轉シテ福島村ヲ侵ス、藩兵又擊テ之ヲ卻ク、陸地ノ賊、亦進テ知内村ニ至ル、是夜、藩兵ノ福島ニ在ル者、間道ヨリ進テ、知内ノ賊營ヲ斫ル、賊兵潰エ走ル。

二日、松前藩兵、砲墩ヲ一渡村ニ築キ、兵ヲ分テ之ヲ守ル、是日、賊兵來リ襲フ、藩兵利アラス、退テ賊ヲ山崎、福島二村ニ拒ミ、苦戰時ヲ移ス、遂ニ支フル能ハス、福島嶺ニ退守ス。

三日、知事清水谷公考、松前ノ急ヲ聞キ、松前藩兵ノ青森ニ在ル者ヲ罷歸シテ、賊ヲ拒カシム。

四日、秋田藩兵（三小隊）ヲ發シテ、知事清水谷公考ヲ警守セシム、公考命シテ、封内沿海ノ地ニ備ヘシム。

五日、德川家達（龜之助）ニ命シテ、箱館ノ賊ヲ討セシム、尋テ家達、及ヒ松平齊民（越後守、前美作守ト稱ス、津山藩主、慶倫ノ父、時ニ家達ノ後見タリ）、一橋茂榮（大納言）、田安慶頼（中納言）、連署シテ、家達幼弱ナルヲ以テ、箱館征討ヲ他藩ニ命シ、家達ヲシテ其軍ニ附從セシメンコトヲ請フ、批シテ後命ヲ待タシム。

○賊兵、路ヲ分テ福山城ニ逼ル、松前藩兵、出テ松ケ崎、及ヒ野越坂ニ邀フ、利アラス、退テ城内ニ嬰守ス、賊、直ニ進テ城ニ傅ク、藩兵、遂ニ支フル能ハス、老臣蠣崎廣備（民部）、城ヲ火キテ、衆ト倶ニ江刺ニ走ル、賊遂ニ松前ヲ取ル。

七日、海陸軍參謀山田顯義（市之允、長門藩士、時ニ出羽秋田ニ在リ）ニ命シテ、箱館ノ賊ヲ討セシム、是日、顯義、長門（七百八十一人）、德山（一百人）二藩兵ヲ率ヰテ、青森ニ至ル、時ニ北地沍寒、攻戰ニ便ナラス、因テ軍ヲ青森ニ駐メ、明春ヲ俟テ進剿ス。

○賊艦二隻（回天、蟠龍）、青森港ニ入リ、弘前藩ニ就テ、書ヲ奥羽越列藩ニ贈リ、逃亡ノ情由ヲ陳訴シ、救援ヲ乞フ、既ニシテ箱館ニ走ル。

九日、海陸軍參謀山田顯義ヲ以テ、青森口陸軍參謀ト爲ス、因テ青森口出征諸藩兵ニ令シテ、其節度ヲ受ケシム。

十日、長門（五百人）及ヒ津藩兵（八百二十八人）ノ仙臺ニ在ル者ヲ秋田ニ遣シテ、箱館ノ賊ニ備ヘ、藤堂廣立（監物、津藩士）ヲ以テ軍監ト爲シ、津藩兵ヲ督セシメ、秋田藩兵ヲシテ、長門藩兵ノ糧餉ヲ辨給セシム。

十一日、賊既ニ松前ヲ取リ、兵ヲ分テ江刺ニ向フ、五稜郭ノ賊亦、兵ヲ分テ二股口ニ進ム。

十二日、會計官權判事林友幸（半七、長門藩士）ヲ以テ、軍監ヲ兼シメ、南部及ヒ青森ニ差遣ス。

○是ヨリ先、榎本武揚ノ仙臺海ニ在ルヤ、軍艦二隻（千代田形、長崎二番）ヲ酒田港ニ遣リテ、莊内ヲ援フ、既ニシテ一隻（長崎）、風濤ノ爲ニ毀壞ス、是日、一隻（千代田形）、箱館港ニ至ル。

十三日、松前德廣、館村ノ新砦ヲ去テ、江刺ニ移リ、兵ヲ分テ新砦、及ヒ稻倉石ノ關門ヲ守ル、是日、二股口ノ賊、來テ關門ヲ攻ム、藩兵利アラス、退テ新砦ノ軍ニ合ス。

十四日、軍事參謀試補野田谿通ヲ以テ、軍監ヲ兼シム、尋テ其請ヲ聽シ、參謀試補ヲ罷ム。

○二股口ノ賊、進テ鶉村ニ據ル、松前藩兵、路ヲ分テ之ヲ掩擊

ヘ、賊兵潰エ走ル、既ニシテ賊ノ別隊、遶リテ後路ヲ斷ントス、乃チ兵ヲ收メテ館村ノ新井ニ進ム、賊又新井ニ逼ル、藩兵撃テ之ヲ卻ク、是ヨリ先、藩兵分テ大瀧ノ嶮ヲ守ル、是日、松前口ノ賊來リ攻ム、藩兵利アラス、石崎村ニ退守ス。

十五日、松前德廣ノ[illegible]隆廣、京師ニ在リ、賊兵、松前地方ヲ陷ルト聞キ、書ヲ朝ニ上リ、藩兵ノ東京ニ在ル者ト俱ニ歸邑シテ、賊徒ヲ討セントスルヲ請フ、之ヲ聽シ、命シテ速ニ勦賊ノ功ヲ奏セシム、隆廣乃チ京ヲ發シ、青森ニ赴ク。

〇是日、賊、再ヒ館村ノ新井ヲ攻ム、松前藩兵拒戰利アラス、遂ニ棄テ[illegible]山ニ走ル、松前口ノ賊亦、進ミ江刺ニ逼ル、松前德廣、熊石ニ遁ル、是日、賊艦一隻、江刺港ニ入リ、暗礁ニ觸レテ擱坐ス、是ヨリ先、德廣、使ヲ青森ニ遣シ、急ヲ報シ援ヲ乞フ、陸軍參謀山田顯義、將ニ兵ヲ發シテ之ヲ援ントス、是ニ至リ、江刺陷ルヲ以テ遂ニ果サス。

十九日、令シテ箱館ノ賊ヲ討ス。

〇賊兵、進ミ熊石ニ逼ル、松前德廣海ニ航シテ、平館[illegible]ニ走ル、其臣隷五百許人ハ、賊ニ降ル、是ニ於テ、箱館地方悉ク賊ニ陷ル。

二十二日、賊艦一隻、又江刺港ニ壞ル。

二十四日、松平齊民、書ヲ上リ、德川慶喜ヲシテ、家達ニ代リ、箱館ノ賊ヲ討セシメンコトヲ請フ、聽サス、德川昭武[illegible]兵、[illegible]ニ命シテ、之ニ代ラシム。

二十五日、松前德廣、平館ヨリ弘前ニ陸リ、寺院ニ謹慎シ、書ヲ朝ニ上リテ罪ヲ待ツ、批シテ聞ハ、[illegible]

〇備前藩兵、野邊地驛[illegible]ニ至ル、陸軍參謀山田顯義、命シテ本地ヲ警守セシム。

第三　自明治元年十一月二十七日　至同二年二月二十三日

十一月二十七日、箱館府知事清水谷公考ヲ以テ、青森口總督ヲ兼シム、因テ德川昭武ニ命シテ、公考ノ節度ニ從ハシム。

〇津、筑後二藩兵、青森ニ至ル、[illegible]

二十八日、賊兵來襲ノ虞アルヲ以テ、陸軍參謀山田顯義、青森口ノ諸軍ヲ戒飭シテ、其守備ヲ嚴ニセシム、又出征諸藩ニ令シテ、兵隊及ヒ銃器ノ員數ヲ錄申セシム。

十二月十日、總督、黑石ヨリ守營ヲ青森ニ移シ、明日、諸軍ニ令シテ、總督ノ任ヲ受タルヲ告ク、尋テ諸藩會議所ヲ營中ニ設ク。

十一日、督府、軍務官判事兼[illegible]輔大田黑惟信[illegible]、ヲ

以テ、參謀ト爲シ、岸良直養、（彦七○薩摩藩士、）駒井忠仲、（政五郎○長門藩士、）松本鼎、（鼎造、）若淵某、（彦吉、）山岡某、（源左衛門○以上三人、並ニ藩未詳、）和田某（槇之介○因幡藩士、）ヲ監軍ト爲ス、又軍中役夫、及ヒ彈藥ノ制限ヲ定ム。

十四日、松前德廣、拒戰ノ功ヲ賞シテ、直垂一領、金三千兩ヲ賜ヒ、官軍ノ進擊ヲ待チテ、倶ニ勤蕩ノ功ヲ奏セシム。（時ニ、德廣病歿ノ報未タ到ラス。）

○是ヨリ先、榎本武揚等、英、佛兩公使ニ因リテ書ヲ上リ、德川氏ノ胤子一人ヲ奉シテ、蝦夷地ヲ開拓センコトヲ請フ、是日、議定兼輔相岩倉具視、（右兵衛督、）兩公使ニ移書シテ、之ヲ卻ク。

十五日、賊、既ニ蝦夷地ヲ略取ス、是日、祝砲ヲ發シ、全島平定ヲ賀ス、又總裁以下諸司ヲ置キ、榎本武揚ヲ總裁ニ、松平正親ヲ副總裁ニ、荒井某（郁之助、）ヲ海軍奉行ニ、大鳥純彰ヲ陸軍奉行ニ、永井尙志、（玄蕃、）中島某（三郎介、）ヲ箱館奉行ニ、人見寧、（勝太郎、）ヲ松前奉行ニ、松岡某、（四郎次郎、）小杉某（政之進、）ヲ江刺奉行ニ、澤貞說（太郎左衛門、）ヲ開拓奉行ニ撰任シ、二百餘人ヲ室蘭ニ移シテ、拓地ノ業ニ就カシメ、五稜郭ヲ以テ牙營ト爲シ、戍兵ヲ各地ニ置キテ、不虞ニ備フ、佛人十人、亦賊中ニ在リテ軍事ニ參ス。

二十日、金三千兩ヲ頒賜シテ、青森口ノ諸軍ヲ犒フ。

二十八日、賊徒、未タ戡定ニ就カサルヲ以テ、督府、諸軍ニ令シテ、假ニ歲尾年首ノ禮ヲ停ム。

明治二年、正月六日、賊兵、大ニ戰備ヲ修メ、將ニ青森ヲ進擊セントスルノ報到ル、督府、乃チ諸軍ヲ戒メテ、不虞ニ備フ。

十日、德川昭武ノ箱館出征ヲ停ム、尋テ其請ヲ聽シ、兵（二百人、）ヲ箱館ニ出サシム。

二十五日、箱館府兵ヲ解ク。

○松前兼廣、（勝千代、後修廣ト改ム○松前藩主、時ニ弘前ニ在リ、）書ヲ朝ニ上リテ、城邑、賊兵ノ侵略スル所ト爲リ、闔藩疲弊ノ狀ヲ陳シ、金五萬兩ヲ借ンコトヲ請フ、是日、金三萬兩ヲ貸與ス。

○總督、大ニ兵ヲ青森（石神原、）ニ閱ス。

是月、榎本武揚、官軍ノ傷者、及ヒ松前藩ノ降人ヲ內地ニ送致ス。

二月十五日、松前兼廣、再ヒ書ヲ朝ニ上リテ、邑民賊兵ノ劫掠スル所ト爲リ、飢餓ニ瀕スルノ狀ヲ陳シ、速ニ大師ヲ發シテ、松前地方ヲ戡定センコトヲ請フ。

二十三日、薩摩藩ニ命シテ、兵（二百九十三人、）ヲ青森ニ出サシム。

第四　自明治二年二月二十五日　至同　三月二十五日

二月二十五日、廷議、將ニ海軍ヲ發シテ、陸軍ニ應援シ、蝦夷地

ノ賊ヲ討セントス、乃チ軍務官判事増田明道（虎之助、佐賀藩士）ヲ以テ海軍参謀ト爲シ、判事試補石井富吉（富之助、因幡藩士）ヲ参謀補助ト爲シ、甲鐵（艦長中島四郎）、陽春（艦長石井貞之進）、春日（艦長赤塚源六）、丁卯（艦長[illegible]）、飛龍（艦長[illegible]）、豐安（艦長[illegible]）、戊辰（艦長[illegible]）、晨風（艦長[illegible]）八艦ヲ率ヰテ、青森ニ赴カシム。

○將ニ蝦夷地ヲ回復セントスルヲ以テ、松前兼廣ニ小銃二百口ヲ賜フ。

二十七日、板倉勝全、箱館ヨリ東京ニ至リ、戸田忠友（土佐守）（宇都宮藩主）ニ就キ、自首シテ罪ヲ乞フ、命シテ忠友ノ邸ニ幽ス。

晦日、黒田清隆（了介）（薩摩藩士）ヲ以テ、青森口總督府參謀ト爲ス。

三月九日、海軍參謀增田明道、諸艦ヲ率ヰテ品川海ヲ發ス。

十一日、薩摩、水戸二藩兵、青森ニ至ル。（變革出軍戰状、津輕藩記）

十三日、親兵三番大隊ヲ發シテ、箱館第二應援兵ト爲ス。

十八日、諸艦宮古港（陸中閉伊郡）ニ抵ル。

二十五日、是ヨリ先、榎本武揚等、官艦宮古港ニ至ルト聞キ、軍艦數隻ヲ發シテ、之ヲ逆擊セシム、是ニ至リ、賊艦八戸近海ニ出沒ス、八戸藩、書ヲ督府ニ上リテ、其狀ヲ申ス、督府乃チ使ヲ宮古港ニ遣シテ、諸艦ヲ戒メ、不虞ニ備ヘシム、使者未タ達セス、是日早旦、賊艦一隻（回天艦）、宮古港ニ來リ襲フ、官艦邀ヘ擊テ之ヲ破リ、追躡シテ洋中ニ至ル、及ハス、賊ノ他艦（高雄艦）ニ軍浦（宮古港ヲ距ル十九里許）ニ逢フ、賊、艦ヲ火キ、陸ニ上テ走ル、戊辰艦モ亦、砲ニ中テ毀損ス、因テ品川海ニ返ル、海軍參謀增田明道、乃チ盛岡藩ニ令シテ、逋賊ヲ緝捕セシム、既ニシテ逋賊九十餘人、盛岡藩ニ因テ降ヲ乞フ、乃チ其兵器ヲ收メ、盛岡藩ヲシテ東京ニ護送セシム。

第五　自明治二年三月廿六日　至同　四月十四日

三月二十六日、海軍參謀增田明道、諸艦ヲ率ヰテ青森ニ抵ル。

二十七日、是ヨリ先、外國商船三隻（普國船ヤンクダ一隻、英國船[illegible]一隻、米國船ヤンシー一隻）ヲ雇テ、運輸船ト爲シ、青森ニ差遣ス、是日、青森港ニ至ル。

二十九日、松前兼廣、再ヒ書ヲ朝ニ上リ、米五萬苞ヲ借リテ、邑民ヲ撫恤センコトヲ請フ、是日米三萬苞ヲ貸與ス。

○總督、甲鐵艦ニ駕シ海軍ヲ閱ス、又各艦長ヲ召見シテ、宮古港ノ戰功ヲ賞ス、是日、諸藩兵ニ令シテ軍略ヲ具陳セシメ、又斥候船ノ暗號ヲ定ム。

晦日、箱館ノ賊、内地ニ來佞ノ虞アリ、且ニ陸ノ地、猶殘賊潛匿ノ聞アルヲ以テ、三等陸軍將久我通久（大納言）ヲ以テ鎭撫總督ト爲シ、兵一大隊ヲ率ヰテ仙臺ニ赴カシム、又朝陽艦（艦長中牟田倉之助）ヲ青森ニ

差遣ス。

四月二十日、是ヨリ先、肥後藩、弘前藩ノ急ヲ聞キ、朝ニ奏シ、兵ヲ發シテ之ヲ援フ、是日、藩兵（百五十四人）、弘前ニ至ル、尋テ青森ニ轉ス、黑石藩モ亦、兵（二小隊）ヲ青森ニ出シ、弘前藩兵ニ屬ス。

四日、督府、海軍既ニ至ルヲ以テ、大擧シテ賊巢ヲ進剿セントス、乃チ陸軍參謀山田顯義ヲ以テ海軍參謀ヲ兼シメ、森政知（清藏、〇長門藩士）ヲ陸軍副參謀ト爲シ、前田某（雅樂）、今井弘（亮介、〇二人並ニ族籍未詳）ヲ軍監ト爲シ、有地某（志津摩、〇長門藩士）ヲ監軍ト爲シ、先鋒長門、福山、弘前、德山、大野、松前六藩兵、及ヒ甲鐵、春日、陽春、丁卯、飛龍、豐安、晨風七艦ヲ率ヰテ、音部村（江刺ヲ距ル三里十八町）ニ赴カシム、因テ海陸諸軍ヲ戒メテ、勝ヲ一戰ニ制セシム。

六日、陸海軍參謀山田顯義、海陸諸軍ヲ率キテ青森ヲ發シ、音部村ニ向フ。

九日、官艦、音部村近海ニ至リ、陸軍ヲ發シテ村中ニ入ル、賊、山上ヨリ拒撃ス、官軍直ニ進テ之ヲ走ラス、既ニシテ分テ三道ニ進ム、長門、福山、弘前、德山、大野、松前六藩兵ハ海道江刺ニ向ヒ、長門、福山、弘前、松前四藩兵ハ山道鶉村ニ赴キ、松前藩兵ハ熊石村ニ進ム、江刺ノ賊、厚澤部川渡口ニ據守ス、官軍路ヲ分テ進ミ攻ム、官艦、亦橫撃シテ陸軍ヲ援ク、賊兵大ニ潰ユ、官軍遂ニ江刺ヲ定ム、既ニシテ官艦二、厩港（東津輕郡）ニ赴ク、途松前近海ヲ過ク、賊、巨礮ヲ發シテ、戰ヲ挑ム、官艦之ニ應ス、少時交綏ス。

十日、曾我祐準（準造、〇柳河藩士）ヲ以テ海軍參謀ト爲シ、青森ニ差遣ス。

〇江刺ノ官軍、兵ヲ分チ、長門、弘前、德山、松前、四藩兵ハ松前口ニ向ヒ、長門、福山、弘前、大野、松前五藩兵ハ木古内口ニ進ム、是日、松前口ノ軍、賊兵ヲ江良町ニ撃テ之ヲ走ラス。

十一日、伏見親兵（第一第二大隊）ヲ箱館ニ發遣ス。

〇督府、第二軍長門、津、備前、筑後四藩兵ヲ發シテ、江刺ニ赴カシム。

〇松前口官軍、進テ根部田村ニ至ル、黃昏、賊兵來リ襲フ、官軍利アラス、退テ賊ヲ赤神、雨垂石、茂草等諸村ニ拒ミ、苦戰曉ニ達ス、遂ニ敗レテ小砂子村ニ退守ス、賊、進テ江良町ニ入ル、既ニシテ之ヲ棄テ、松前ニ退ク。

十二日、督府、箱館府權判事堀義彦ヲ以テ參謀ト爲シ、村橋某（直衞、〇薩摩藩士）ヲ軍監ト爲ス。

〇昧爽、木古内口官軍、進テ賊兵ヲ木古内ニ攻ム、克タス、退テ笹小屋ニ次ス、午牌、賊兵來リ襲フ、官軍邀ヘ撃テ之ヲ破リ、追躡シテ木古内ニ逼ル。

○飛龍艦、福山近海ヲ過ク、賊、巨砲ヲ發シテ戰ヲ挑ム、官艦之ニ應ス、少時戰ヲ收メテ退ク、是夜、晨風艦、龍鼻崎（茂津多[illegible]郡）ノ暗礁ニ觸レテ摧破ス。
○第二軍、江刺ニ至ル、乃チ兵ヲ分チ、長門藩兵ハ稻倉石ニ進ミ、津、筑後二藩兵ハ松前口ニ向ヒ、備前藩兵ハ木古内口及ヒ鶴村ニ赴ク。
十三日、昧爽、木古内口官軍、再ヒ賊兵ヲ木古内ニ攻ム、賊、壘ニ據テ拒キ戰フ、官軍利アラス、笹小屋及ヒ湯借ニ退守ス。
○鶴村ノ官軍、進テ二股口ニ向フ、是日、賊兵ヲ中二股ニ破リ、追撃シテ下二股ニ逼ル、賊、山上ノ壘ニ據テ力拒ス、終夜戰爭止マス、曉ニ至リ官軍利アラス、稻倉石ニ退ク、既ニシテ再ヒ中二股ニ進ミ、賊ト相持ス。
○仙臺、長岡逋竄ノ徒二百五十餘人、海ニ航シテ箱館ニ至リ、榎本武揚等ノ軍ニ投ス。
十四日、督府、備前藩兵八十人ヲ分テ、陽春艦ニ搭セシム。

第六 自明治二年四月十五日 至同 二十四日

四月十五日、陸海軍參謀山田顯義、書ヲ青森本營ニ飛シテ後軍ヲ促ス、督府、乃チ參謀黑田清隆、大田黑惟信ヲシテ、第二軍薩摩、長門、水戸、備前、筑後、福山、弘前、德山、松前九藩兵ヲ率ヰテ江刺ニ赴カシム、是日、朝陽艦青森港ニ至ル、乃チ舊箱館府兵八十人ヲ分テ之ニ搭セシメ、三廐港ニ遣シテ諸艦ト合セシム。
十六日、總督、書ヲ軍務官ニ致シテ、海陸軍需匱乏ノ狀ヲ告ケ、速ニ之ヲ運輸センコトヲ促シ、且運輸者及ヒ判事ノ海軍ニ長セシ者ヲ派遣センコトヲ請フ、明日、參謀モ亦、賊勢猖獗ノ狀ヲ報シ、精兵千人ヲ發遣センコトヲ請フ。
○官艦、進テ箱館港口ニ至リ、賊狀ヲ偵察ス、賊、海陸備ヲ嚴ニシテ、以テ待ツ、官艦、乃チ室蘭ニ向フノ狀ヲ示シ、轉シテ三廐港ニ返ル。
○松前口官軍ノ斥候兵、賊兵ト江良町ニ戰フ。
○第三軍、江刺ニ至ル、乃チ兵ヲ分チ、薩摩、長門、備前三藩兵ハ木古内口ニ向ヒ、薩摩、長門、水戸、備前、德山五藩兵ハ二股口ニ進ミ、長門、備前、福山、弘前、松前五藩兵ハ安野呂口ニ赴キ、水戸、筑後、松前三藩兵ハ松前口ニ向フ。
十七日、官軍海陸並進テ、賊兵ヲ江良町及ヒ折戸、立石野等諸處ニ破リ、直ニ福山城ニ逼ル、賊兵支ヘス、城ヲ棄テ走ル、官軍、乃チ福山城ヲ復シ、明日、進テ吉岡、福島二村ヲ定ム。
十八日、督府、海軍參謀增田明道ヲシテ、舊箱館府兵及ヒ弘前

藩兵ヲ率キテ、松前ニ赴カシム。

○督府、弘前藩兵ニ命シテ、牙營ヲ警守セシム。

十九日、賊艦、木古内近海ニ至ル、官艦、進テ之ニ逼ル、賊、戰ハスシテ走ル、官艦、追躡シテ箱館港口ニ至ル、及ハスシテ退ク。

二十日、木古内口官軍、曉霧ニ乘シテ木古内ノ賊壘ヲ攻ム、賊兵、支ヘス、泉澤村ニ走ル、官軍、追撃シテ札苅村ニ至リ、軍ヲ收メテ木古内ニ退ク、賊、海陸兵ヲ返シテ來リ戰フ、松前ノ敗賊、亦知内村ヨリ來テ官軍ヲ夾撃ス、官軍利アラス、笹小屋及ヒ稻尾峠ニ退守ス、賊、再ヒ木古内ニ入ル、既ニシテ之ヲ棄テ、矢不來ニ走ル。

○賊艦、再ヒ木古内近海ニ至ル、官艦、進テ之ヲ撃ツ、賊、遁レテ箱館港ニ入ル、官艦、乃チ戰ヲ收メテ退ク。

二十二日、督府、海軍參謀曾我祐準ヲ松前ニ差遣ス。

○木古内口官軍、進テ木古内ニ至ル、松前口官軍、來會ス、乃チ軍ヲ進メテ三石村ニ次ス。

二十三日、黄昏、二股口官軍、賊兵ヲ下二股ニ攻ム、賊兵力メ拒ク、終夜戰爭止マス、天既ニ明ク、賊、進テ官軍ニ突入ス、官軍少ク退ク、監軍駒井忠仲、衆ヲ勵シテ返シ戰フ、遂ニ之ニ死ス、賊、退テ下二股ノ壘ニ據ル、官軍、奮撃夜半ニ至ル、賊勢屈セス、乃チ兵ヲ中二股ニ收ム。

二十四日、官艦、進テ箱館港ニ入リ、賊艦、及ヒ辨天崎ノ砲臺ヲ攻ム、賊、水雷火ヲ設クルノ虞アリ、且港内水淺キヲ以テ、深入ヲ得スシテ退ク、是日、陸地ノ官軍、當別村ニ至リ、將ニ海軍ヲ援ケテ進ミ戰ントス、賊、茂邊地村ニ據リ、嚴備シテ以テ待ツ、官軍、乃チ釜石村ニ退守ス。

○賊兵、三石村ヲ襲フ、官軍、撃テ之ヲ郤ク。

第七　自明治二年四月二十七日　至同五月七日

四月二十七日、總督、牙營ヲ江刺ニ移サントス、是日、青森ヲ發ス、弘前藩兵三百八十人之ニ屬ス。

二十八日、總督、江刺ニ抵ル、松前藩兵一小隊ヲ出シテ牙營ヲ警守ス。

○官軍、進テ當別村ニ至ル、黄昏、賊兵來リ襲フ、官軍、撃テ之ヲ郤ク。

二十九日、官軍、海陸竝進テ、賊兵ヲ茂邊地及ヒ矢不來ニ攻ム、賊、壘ニ據テ力メ拒ク、官軍、激鬪之ヲ破リ、追撃シテ富川村ニ至ル、賊、走テ有川村ニ據ル、時ニ賊艦、箱館港ヨリ來リ戰フ、官艦撃テ之ヲ走ラス、既ニシテ陸地ノ官軍、長驅シテ有川村ニ

遁ル、賊、遂ニ七重村及ヒ五稜郭ニ走ル、二股口ノ賊、亦退テ五稜郭及ヒ箱館ヲ保ス、是時ニ當リ、賊艦、毎戰利アラス、將ニ箱館港ヲ脫去セントスルノ聞アリ、官艦乃チ港口ヲ鎖シ、嚴ニ之ヲ守ル。

五月朔日、督府、諸藩兵矢不來ノ戰功ヲ賞シテ、酒肴ヲ賜フ。

○戰艦一隻、(千代田形艦)辨天崎ノ暗礁ニ觸ル、賊、之ヲ棄テ遁ル、官軍之ヲ收ム、是夜、賊艦(蟠龍艦)ノ逃兵七人、陽春艦ニ就テ降ヲ乞フ。

○二股口官軍、賊ト中二股ニ相持スルコト數日、是日、賊已ニ退クヲ以テ、進テ一渡、大野二村ニ至ル、有川口官軍、亦兵ヲ分テ七重濱ニ進ム。

二日、延年艦(肥前藩艦、長澤野虎六)ヲ箱館ニ差遣ス。

○賊兵、曉ニ乘シテ七重濱ヲ襲フ、官軍、利アラス、有川村ニ退守ス、賊、七重村ヲ燒テ去ル、天明、官軍兵ヲ分テ、七重、大川二村ニ進ム、二股口官軍來會ス、乃チ海軍ニ報シテ、其應援ヲ促ス、官艦、乃チ箱館港ニ入リ、賊艦及ヒ辨天崎ノ砲臺ヲ攻ム、陸軍進マサルヲ以テ、戰ヲ收メテ退ク、是日、二股口ノ軍兵ヲ分テ石川村ニ至リ、賊ノ斥候兵ト戰ヒ之ヲ走ラス。

四日、賊兵、曉ニ乘シテ大川村及ヒ七重濱ヲ襲フ、官軍、邀ヘ擊テ之ヲ走ラス。

○箱館府民連藏等、潛ニ辨天崎ノ砲臺ニ入リ、其砲ニ釘シ、其狀ヲ官艦ニ報ス、官艦、乃チ箱館港ニ入リ、賊ト戰フ、賊、縄ヲ海中ニ張リ、其進入ヲ碍ユ、官艦、遂ニ深ク入ルヲ得スシテ退ク。

○安野呂口官軍、進テ落部村ニ至ル。

五日、親兵(第二大隊一番中隊右小隊)ヲ箱館ニ差遣ス。

○總督使ヲ病院ニ遣シテ、傷者ヲ慰問ス。

六日、海軍參謀、書ヲ軍務官ニ致シテ、運輸船ヲ派遣センコトヲ請フ。

七日、海軍陰ニ商船(虎房丸、住吉丸、千日丸等三艘)ノ水夫ヲ募テ、箱館港ノ沈艦ナ藏ル、是ニ於テ、大擧深入ノ策ヲ決ス、昧爽、官艦進テ港內ニ入リ、賊艦及ヒ辨天崎ノ砲臺ヲ攻ム、賊兵、殊死シテ戰フ、既ニシテ賊艦一隻、(回天艦)砲ニ中テ毀損シ、沙汀ニ膠ス、官艦、直ニ進テ之ニ薄ル、賊、遁レテ陸ニ上ル、官艦、乃チ戰ヲ收メテ退ク。

第八

自明治二年五月八日
至同 十一日

五月八日、賊兵、曉ニ乘シテ大川村ヲ襲フ、官軍、邀ヘ擊テ之ヲ破リ、追躡シテ赤川、石川二村ニ至ル。

○安野呂口官軍、進テ七重、大野二村ニ至ル、是ニ於テ、諸路ノ

官軍、悉ク合シテ一ト爲ル。

九日、海軍參謀、朝陽、丁卯二艦ヲシテ、箱館港出入ノ船舶ヲ譏察セシメ、陽春艦ヲ七重村近海ニ置キテ、陸軍ノ應援ニ充ツ。

○松前兼廣、青森ヨリ福山城ニ復歸ス。

十日、督府、軍中役夫及ヒ馬匹ノ制限ヲ更定ス。

○延年艦、青森港ニ至ル。

十一日、薩摩藩兵（兵員詳ナラス）ヲ箱館ニ發遣ス。

○總督、江刺ヲ發シ、湯臺ニ次ス。

○海陸官軍、大擧シテ箱館及ヒ五稜郭ヲ進撃ス、陸軍分テ七重、大川兩道ヨリ進ミ、別ニ兵ヲ繞ラシテ、山背泊、寒風川ヨリ箱館ノ背ヲ衝カシム、黎明、箱館口ノ軍、海ニ航シテ山背泊、寒風川ニ至リ、分道進討、一ハ海軍ト特角シテ、辨天崎ノ砲臺ヲ攻ム、堅シテ拔ケス、一ハ賊兵ヲ箱館山及ヒ箱館ニ撃チ、北クルヲ追テ一本木ニ至ル、賊、千代岡ヨリ返戰ス、官軍撃テ之ヲ卻ク、七重、大川兩道ノ軍、亦海軍ト相應シテ、賊兵ヲ桔梗野、權現山、龜田、赤川、神山等諸處ニ破リ、箱館口ノ軍ト竝進テ、五稜郭及ヒ千代岡ニ逼ル、時ニ官艦、賊艦ト大ニ箱館港ニ戰フ、朝陽艦、砲ニ中テ燒沒ス、既ニシテ延年艦、青森ヨリ來リ、諸艦ヲ援ケテ賊艦ヲ撃チ、其二艦（回天、蟠龍ノ二艦）ヲ燒ク、是ニ於テ、賊、悉ク戰艦ヲ喪ヒ、僅ニ五稜郭、千代岡、辨天崎ノ三所ヲ保ツ、官軍、攻撃甚烈シ、賊、亦殊死シテ戰フ、一晝夜間砲聲止マス。

第九　自明治二年五月十二日 至同　十八日

五月十二日、總督、湯臺ヲ發シ、泉澤村ニ次ス。

○海陸官軍、五稜郭、千代岡、辨天崎ヲ連攻ス、賊兵拒キ戰フ、數日、戰爭止マス。

十三日、總督、泉澤村ヲ發シ、有川村ニ次ス。

十四日、總督、七重、赤川、神山等諸村ヲ巡視シ、諸軍ヲ犒フ、既ニシテ有川村ニ歸ル。

○官軍、賊ノ病院ノ箱館ニ在ル者ヲ收メ、其醫師ナシテ、朝旨ノ在ル所ヲ榎本武揚等ニ傳ヘシメ、又使ヲ遣シテ之ヲ招降ス。武揚從ハス、且官軍ニ贈ルニ、其嘗テ蘭國ニ遊ヒ學フ所ノ海律二冊ヲ以テス。

十五日、總督、使ヲ箱館ニ遣シテ、諸軍ヲ犒フ。

○督府、肥後藩兵ノ青森ニ在ル者ニ命シテ、速ニ來テ官軍ニ應援セシム、藩兵乃チ富川村ニ至ル。

○海陸官軍、五稜郭、千代岡、辨天崎ヲ連攻シ、又使ヲ遣シテ、辨天崎ノ賊ヲ招降ス、是日、辨天崎ノ賊、永井尙志以下二百四

十人降ヲ乞フ、上湯川村ノ敗賊、三百四十餘人モ亦降ル。
十六日、海軍參謀、酒五樽ヲ榎本武揚ニ贈リテ、其海律ヲ贈リシニ酬フ。
○黎明、官軍、海陸相應シテ、千代岡ヲ攻メ、一鼓シテ之ヲ拔ク、賊五稜郭ニ走ル、官軍、隨テ五稜郭ヲ圍ム、是日、總督、箱館及ヒ千代岡ヲ巡視シ、諸軍ヲ犒フ、旣ニシテ有川村ニ歸ル。
十七日、官軍、五稜郭ヲ連攻ス、賊、兵力竭ク、是日、榎本武揚、松平正親等降ヲ乞フ、陸軍參謀黑田淸隆、海軍參謀增田明道等、乃チ龜田ニ至リ、武揚等ヲ召見シテ、謝罪ノ實效ヲ責ム、武揚等、明日五稜郭、及ヒ兵器ヲ致シテ、罪ヲ軍門ニ待ンコトヲ請フ、是ニ於テ諸軍ニ令シテ、其攻擊ヲ止ム。
十八日、榎本武揚、松平正親以下一千餘人、五稜郭ヲ致シ、軍門ニ詣テ罪ヲ待ツ、監軍有地某（志津摩）、軍監前田某（雅樂）等、諸藩兵ヲ龜田ノ營ニ整列シテ、其降ヲ受ク、乃チ五稜郭及ヒ兵器ヲ收メ、武揚等ヲ箱館ニ護送シ、寺院ニ謹愼シテ、朝裁ヲ待タシム、武揚等兵ヲ起シテヨリ八閱月、是ニ至テ始テ平定ス。

第十

自明治二年五月十九日
至同　六月十二日

五月十九日、總督、牙營ヲ箱館ニ移シ、海軍ニ令シテ祝砲ヲ發シ、箱館地方平定ヲ賀ス、英、米二國軍艦ノ港內ニ在ル者、亦應發ス。（英艦又祝砲ヲ發シ、其國皇ノ即位節ヲ賀ス、明春艦爲ニ應發ス。）
○督府、軍監前田某（雅樂）ニ命シテ、降人ヲ監セシメ、諸藩兵ヲ分テ箱館、五稜郭、辨天崎等、諸處ヲ警戍ス、又諸藩ニ令シテ、昔部進擊以降ノ戰狀、死傷者及ヒ兵士、役夫ノ人員等ヲ錄申セシム。
○朝陽艦ノ箱館港ニ燒沒スルヤ、英國軍艦（ペール號）、港內ニ在リテ、其溺兵ヲ救フ、是日、督府、物ヲ艦長以下ニ贈リテ、其勞ヲ謝ス。
○松平定敬、箱館ヨリ橫濱ニ至リ、自首シテ罪ヲ乞フ、乃チ德川德成（三位中將、尾張藩主）ニ付シテ、之ヲ監守セシム。
二十日、箱館居留ノ佛國人、其公使ニ就テ、其家宅、官軍ノ占有スル所ト爲リシヲ訴フ、軍務官乃チ督府ニ移牒シテ、嚴ニ諸軍ヲ戒メ、暴行ヲ外國人ニ加フルコト勿ラシム。
○督府、海軍參謀增田明道、陸軍副參謀森某（淸藏）等ヲ東京ニ遣シテ、箱館地方戡定ノ狀ヲ報ス。
○辨天崎ノ賊、永井尙志以下二百四十人、軍門ニ出降ル、軍監前田某（雅樂）等、其降ヲ受ク、乃チ砲臺及兵器ヲ收メ、尙志等ヲシテ箱館ノ寺院ニ謹愼シテ、朝裁ヲ待タシム。

二十一日、箱館地方平定ニ就クヲ以テ、督府、諸藩兵ノ戰功ヲ慰賞シ、令シテ之ヲ班シ、伏見親兵、（二中隊）舊箱館府兵、（一中隊）及ヒ弘前、（二中隊砲四門）松前（一中隊）二藩兵ヲ留メテ、箱館地方ヲ警守セシメ、監軍和田某、（模之助）有地某（志津摩）ヲシテ之ヲ監セシム、又榎本武揚、松平正親以下七人ヲ東京ニ押送シ、肥後藩兵ヲシテ之ヲ監セシメ、降兵六百十二人ヲ青森ニ移置シ、弘前藩ヲシテ之ヲ監守セシム。

○督府、祭壇ヲ大森濱ニ築キ、戰死者（二百十八人）ヲ弔祭シ、海陸軍ニ令シテ、弔砲ヲ發ス、又將ニ招魂所ヲ箱館ニ造營セントスルヲ以テ、諸藩ニ申令シテ、戰死者ノ姓名ヲ錄申セシム。

二十三日、督府、留戍兵ヲ分テ、箱館及ヒ五稜郭、千代岡、辨天崎、湯川等、各所ヲ警戍ス。

二十四日、總督、各艦長ヲ召見シテ、其戰功ヲ慰賞シ、延年艦ヲ箱館港ニ留メ、餘ハ皆之ヲ班ス。

二十五日、軍務官、使ヲ遣シテ、海陸諸軍ヲ犒ヒ、酒百樽ヲ賜フ。

○箱館地方、既ニ平ク、而シテ室蘭ノ賊、未タ降ラス、是日、室蘭ノ賊澤貞說等、使ヲ箱館ニ遣シテ降ヲ乞フ。

二十六日、板倉勝靜、箱館ヨリ東京ニ至リ、戸田忠友ニ就キ、自首シテ罪ヲ乞フ、乃チ板倉勝殷（主計頭○安中藩主）ニ付シテ、之ヲ監守セシム。

二十七日、督府、舊箱館府兵ノ朝陽艦ニ駕シ、戰歿セシ者（九人）ノ遺族ニ香花料ヲ賜フ。

二十八日、箱館府民、連藏等ノ辨天崎砲臺ノ砲ニ釘スルヤ、順三郎ナル者、賊ノ捕殺スル所ト爲ル、是日、督府、連藏等ノ功ヲ賞シテ、金ヲ賜ヒ、順三郎ノ遺族ニ香花料ヲ賜フ、又商船（虎房號、住吉號）（子日號、三船）水夫ノ、箱館港ノ沈細ヲ截リシ功ヲ賞シテ、金ヲ賜フ。

二十九日、東京訛傳ス、室蘭ノ賊、對馬ヲ侵スト、軍務官、乃チ河內艦ヲ發シテ之ヲ討セシメ、箱館海陸軍參謀ニ令シテ、軍艦二隻ヲ東京ニ班サシム。

六月朔日、諸藩兵、前後東京ニ凱還ス、勅シテ之ヲ慰勞シ、本藩ニ罷歸ス。

五日、各艦品川海ニ凱還ス、勅シテ之ヲ慰勞ス、尋テ令シテ諸藩艦ヲ解還ス。

十日、海陸軍參謀以下、前後箱館ヲ發シテ、東京ニ凱還ス、是日、天皇、參謀以下各艦長等ヲ召見シテ、親カラ之ヲ慰勞シ、酒肴ヲ賜フ。

十二日、蝦夷地戡定ニ就クヲ以テ、箱館府知事淸水谷公考ノ青

森口總督ヲ罷ム、是ニ於テ、海陸軍參謀以下皆罷ム。

○軍務官ニ令シテ、箱館降人ヲ處分セシム、既ニシテ榎本武揚、松平正親等、東京ニ至ル、之ヲ軍務官ニ拘ス。

○室蘭ノ賊、澤貞說以下三百餘人、軍艦二隻陽春、長鯨二艦ニ駕シテ、箱館港ニ至リ、謹愼シテ罪ヲ待ツ、督府乃チ其役夫ヲ宥シテ、招魂所造營ノ工夫ニ充ツ、尋テ貞說以下百八十四人ヲ東京ニ押送シ、備前藩兵ノ猶箱館ニ在ル者ヲシテ、之ヲ監セシム、既ニシテ貞說等東京ニ至ル、之ヲ軍務官ニ拘ス。

復古記總索引

復古記總索引

ア

イ

エ

オ

ク

ケ

コ

サ

セ

ソ

タ

二

ヒ

フ

へ

ホ

ミ

小笠原長行ヲ見ヨ

ム

毛

ヤ

リ

ワ

昭和六年十月廿五日印刷
昭和六年十月三十日發行

（復古記　全拾五冊　非賣品）

東京帝國大學藏版

發行者　東京市小石川區竹早町三十二番地　川俣馨一

印刷者　東京市本所區厩橋一丁目廿七ノ二　井上源之丞

發行所　東京市小石川區竹早町三十二番地
内外書籍株式會社
振替口座東京八九六番
電話小石川(85)一一五四番・三二六九番

凸版印刷株式會社本所分工場印刷